DocuWide 9098α

ユーザーズガイド

Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista、およびInternet Explorerは、
米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Adobe、Acrobat、PostScript、PostScript 3、およびPostScriptロゴは、
Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
HP、HP-GL、HP-GL/2、およびHP-RTLは、米国ヒューレット・パッカード社の登録商標です。
Monta Vista Linux は、MontaVista Software, Inc. の登録商標です。
RSAおよびBSAFEは、EMCコーポレーションの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
その他の製品名、会社名は各社の登録商標または商標です。
Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。
ライセンスについては、メディア（ソフトウェア/製品マニュアル）の「ライセンスについて」を参照してください。

この取扱説明書のなかで⚠と表記されている事項は、安全にご利用いただくための注意事項です。必ず操作を行う前にお読みいただき、指示をお守りください。

万一本体の記憶媒体（ハードディスク等）に不具合が発生した場合、受信したデータ、蓄積されたデータ、設定登録されたデータ等が消失することがあります。データの消失による損害については、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

コンピューターウィルスや不正侵入などによって発生した障害については、弊社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

データセキュリティキットを輸出 (又は非居住者との間で役務取引) する場合は我が国の外国為替及び外国貿易法及びこれに付随する法令等ならびに米国輸出管理規則を遵守してください。

平成明朝体™W3、平成角ゴシック™W5 は、財団法人日本規格協会を中心に制作グループが共同開発したものです。
なお、フォントの一部には、弊社でデザインした外字を含みます。許可なく複製することはできません。

ご注意

① 本書の内容の一部または全部を無断で複製・転載・改編することはおやめください。
② 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
③ 本書に、ご不明な点、誤り、記載もれ、乱丁、落丁などがありましたら弊社までご連絡ください。
④ 本書に記載されていない方法で機械を操作しないでください。思わぬ故障や事故の原因となることがあります。
万一故障などが発生した場合は、責任を負いかねることがありますので、ご了承ください。
⑤ 本製品は、日本国内において使用することを目的に製造されています。諸外国では電源仕様などが異なるため使用できません。
また、安全法規制（電波規制や材料規制など）は国によってそれぞれ異なります。本製品および、関連消耗品をこれらの規制に違反して諸外国へ持ち込むと、罰則が科せられることがあります。

Xerox、Xeroxロゴ、Fuji Xeroxロゴ、およびCentreWareは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。
DocuWorks、およびDocuWideは、富士ゼロックス株式会社の登録商標または商標です。

DocuWide 9098α
ユーザーズガイド

はじめに

このたびはDocuWide 9098αをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
このユーザーズガイドは、日常の管理方法、コピー / スキャン / プリント機能の操作方法、紙づまりの処置方法、各種設定項目などについて記載しています。

なお、本書の内容は、お使いのパーソナルコンピューターの環境や、ネットワーク環境の基本的な知識や操作方法を習得されていることを前提に説明しています。
お使いのパーソナルコンピューターの環境や、ネットワーク環境の基本的な知識や操作方法については、パーソナルコンピューター、オペレーティングシステム、ネットワークシステムに付属の説明書をお読みください。

本書は、読み終わったあとも必ず保管してください。本機をご使用中に、操作でわからないことや不具合が出たときに読み直してご活用いただけます。

富士ゼロックス株式会社

もくじ
お使いになる前に 1
コピー 2
スキャン機能と［スキャナー］画面について説明します。 3
スキャナー & コピー 4
ジョブメモリー 5
コンピューターからの操作 6
登録 / 設定 7
認証 8
紙折り（フォルダー） 9
トラブル対処 / こんなときには 10
仕様設定 11
付録 12
さくいん

もくじ

はじめに 3
もくじ 4
マニュアル体系 14
本書の使い方 15

第1章　お使いになる前に 19

1.1　各部の名称と働き 20
1.2　電源について 25
1.2.1　電源を入れる 25
1.2.2　電源を切る 26
1.3　節電機能について 27
1.3.1　節電状態にする 27
1.3.2　節電状態を解除する 28
1.4　操作パネル 29
1.4.1　画面やボタンの表示について 31
1.5　メニュー画面について 32
1.5.1　画面の明るさ（輝度）を調整する 35
1.6　文字の入力方法について 36
1.7　用紙を補給/交換する 37
1.7.1　ロール紙を交換/カットする 37
1.7.2　カット紙を補給/交換する 40
1.7.3　手差しで給紙する 41
1.8　メーターを確認する 44
1.9　消耗品を交換する 46
1.9.1　黒トナーを補給する 48
1.9.2　赤トナーを補給する 50
1.10　本機を清掃する 53
1.11　機械確認 56
1.11.1　機械確認の概要 56
1.11.2　機械状態/レポート出力 57
1.11.3　消耗品の確認 59
1.12　ジョブ確認 60
1.12.1　ジョブ確認の概要 60
1.12.2　実行中/ 実行待ちのジョブを確認する 60
1.12.3　完了したジョブを確認する 61

1.13 ユーザー認証の操作 62
1.13.1 操作パネルでUser ID認証/解除する 62
1.13.2 ICカードで認証/解除する 64
1.14 トナー増量ボタンについて 65
1.15 原稿について 66
1.15.1 使用できる原稿 66
1.15.2 ドキュメントキャリア（オプション）を使用する原稿 66
1.15.3 原稿取り扱い上の注意事項 66
1.16 用紙について 67
1.16.1 用紙の種類 67
1.16.2 紙折りできる用紙 68
1.16.3 使用できない用紙 68
1.16.4 用紙の取り扱いと保管 69
1.17 ペーパーヒーターと用紙加湿器について 70
1.17.1 ペーパーヒーター /用紙加湿器の電源を入れる 70
1.17.2 用紙加湿器に給水する 71

第2章 コピー 73

2.1 コピー操作の流れ 74
2.1.1 Step1 機能を選択する 74
2.1.2 Step2 部数を入力する 75
2.1.3 Step3 コピーを開始する 76
2.2 コピーを中止する 78
2.2.1 原稿の搬送を中止する 78
2.2.2 コピーを中止する 79
2.3 用紙サイズを指定してコピーする（オートモード） 80
2.4 原稿上の指定した色を赤色でコピーする（赤黒コピー） 82
2.5 原稿上の色を編集する 84
2.5.1 原稿上の指定した色の濃度を変える（色別濃度調整） 84
2.5.2 原稿上の指定した色を削除する（色カット） 85
2.6 原稿を最大幅で読み取ってコピーする 86
2.7 手差しで給紙する（手差しコピー） 88
2.8 長尺原稿をコピーする 91
2.9 紙折りしてコピーする 92
2.10 複数枚の原稿をコピーする（1部ごとにソート） 94
2.11 スタンプを付けてコピーする 96
2.12 サンプルコピーをする 98
2.13 追加コピーをする 100

2.14 割り込んでコピーする 102
2.15 [コピー（オートモード）] 画面 103
2.15.1 原稿の向き（原稿を挿入する向きを指定する） 104
2.15.2 原稿サイズに対する用紙サイズの対応表（マトリックス） 104
2.15.3 用紙の向き（出力する用紙の向きを指定する） 105
2.15.4 カラーモード（コピーの色を選択する） 106
2.16 [コピー（マニュアルモード）] 画面 107
2.16.1 カラーモード（コピーの色を選択する） 108
2.16.2 倍率選択（拡大/縮小してコピーする） 108
2.16.3 用紙選択（コピーする用紙を選択する） 110
2.16.4 用紙カット方法（コピーする用紙のカット方法を選択する） 112
2.16.5 コピー濃度（コピー濃度を調整する） 113
2.17 コピー - [画質調整] 画面 114
2.17.1 原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する） 115
2.17.2 コピー濃度（コピー濃度を調整する） 116
2.17.3 シャープネス/コントラスト（画像のシャープさ/コントラストを調整する） 117
2.17.4 地色除去（原稿の背景にある色を除去する） 118
2.17.5 中間調の振り分け（原稿の中間調を振り分ける） 119
2.17.6 色別濃度調整（色別に濃度を調整する） 120
2.17.7 画質設定メモリー（登録した画質設定を呼び出してコピーする） 121
2.18 コピー - [読み取り方法] 画面 122
2.18.1 原稿幅（原稿を最大幅で読み取ってコピーする） 123
2.18.2 コピー位置（画像の位置を移動してコピーする） 124
2.18.3 読み取り開始位置（原稿の読み取りはじめる位置を設定する） 126
2.18.4 わく消し（原稿の枠やとじしろの影を消してコピーする） 127
2.18.5 鏡像/ネガポジ（画像を反転してコピーする） 128
2.18.6 原稿読み取り速度（読み取る速度を指定してコピーする） 129
2.19 コピー - [出力形式] 画面 130
2.19.1 紙折り（用紙を折って排出する） 131
2.19.2 排出先（用紙の排出先を指定する） 133
2.19.3 仕分け（仕分けを指定して排出する） 133
2.19.4 スタンプ（スタンプ/日付を付けてコピーする） 135
2.19.5 先端後端余白（原稿の前後に余白を付けてコピーする） 138
2.19.6 マルチジョブ（マルチジョブメモリーを適用して仕分け排出する） 139
2.19.7 サンプルコピー（できあがり状態を確認してコピーする） 140

第3章 スキャン 143

3.1 スキャン操作の流れ 144
3.1.1 Step1 機能を選択する 144
3.1.2 Step2 スキャンを開始する 147
3.1.3 Step3 スキャンデータを取り込む 148

3.2 スキャンを中止する 149
3.2.1 原稿の搬送を中止する 149
3.2.2 スキャンを中止する 150
3.3 フルカラーでスキャンする 151
3.4 原稿上の指定した色を赤色でスキャンする（赤黒スキャン） 152
3.5 プレビューを表示する 153
3.6 スキャンデータを暗号化する 155
3.7 複数枚の原稿を1つのファイルとしてスキャンする 157
3.8 割り込んでスキャンする 159
3.9 [スキャナー（ボックス保存）] 画面 160
3.9.1 親展ボックスの文書を確認/削除する 161
3.9.2 カラーモード（スキャンの色を選択する） 162
3.9.3 読み取り解像度（読み取る解像度を指定してスキャンする） 163
3.9.4 プレビュー（プレビュー表示を選択する） 163
3.9.5 原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する） 164
3.9.6 出力ファイル形式（スキャンしたデータの種類を選択する） 166
3.10 [スキャナー（PC保存）] 画面 171
3.11 [スキャナー（マルチ送信）] 画面 174
3.12 スキャナー - [画質調整] 画面 177
3.12.1 読み込み濃度（スキャン濃度を調整する） 178
3.12.2 シャープネス/コントラスト（画像のシャープさ/コントラストを調整する） 179
3.12.3 地色除去（原稿の背景にある色を除去する） 180
3.12.4 中間調の振り分け（原稿の中間調を振り分ける） 181
3.12.5 色別濃度調整（色別に濃度を調整する） 182
3.12.6 画質設定メモリー（登録した画質設定を呼び出してスキャンする） 183
3.13 スキャナー - [読み取り方法] 画面 184
3.13.1 読み取り倍率（原稿を読み取る倍率を指定してスキャンする） 185
3.13.2 読み取りサイズ（原稿の読み取りサイズを指定してスキャンする） 186
3.13.3 わく消し（原稿の枠やとじしろの影を消してスキャンする） 188
3.13.4 読み取り開始位置（原稿の読み取りはじめる位置を設定する） 189
3.13.5 原稿読み取り速度（読み取る速度を指定してスキャンする） 190
3.14 スキャナー - [出力形式] 画面 191
3.14.1 画質/ファイルサイズ（画像の圧縮率を設定してスキャンする） 192

第4章 スキャナー＆コピー 193
4.1 スキャナー＆コピー操作の流れ 194

第5章 ジョブメモリー 197
5.1 ジョブメモリーの概要 198

5.2 ジョブメモリーの登録/削除/変更 200
5.2.1 ジョブメモリーを登録する 200
5.2.2 ジョブメモリーを削除する 202
5.2.3 ジョブメモリーの名称を登録/変更する 203
5.3 ジョブメモリーの呼び出し 204

第6章 コンピューターからの操作 205

6.1 機能の紹介 206
6.1.1 最新ソフトウェアの入手方法について 206
6.2 CentreWare Internet Services 207
6.2.1 CentreWare Internet Servicesについて 207
6.2.2 CentreWare Internet Servicesを使うための設定 208
6.2.3 CentreWare Internet Servicesを起動する 209
6.2.4 CentreWare Internet Servicesの画面構成 210
6.3 プリント 212
6.3.1 主なプリント機能について 212
6.3.2 プリントできるデータフォーマット 213
6.3.3 プリントするための準備をする 213
6.3.4 プリンタードライバーを使用してプリントする 214
6.3.5 プリントを中止する 215
6.4 親展プリントについて 216
6.4.1 セキュリティープリント 217
6.4.2 プライベートプリント 220
6.5 スキャンデータの取り込み 226
6.5.1 TWAIN対応アプリケーションから取り込む 226
6.5.2 親展ボックスビューワー3から取り込む 229
6.5.3 CentreWare Internet Servicesを利用して取り込む 233
6.6 ダイレクトスキャン 235

第7章 登録/設定 237

7.1 登録/変更 238
7.1.1 配布パターン 239
7.1.2 親展ボックス（ボックス保存宛先） 240
7.1.3 サーバー（PC保存宛先） 242
7.1.4 プリンター（マルチ送信宛先用） 244
7.1.5 マルチ送信宛先（グループ宛先） 245
7.2 IPアドレスの設定 248
7.3 スキャン機能の設定 249
7.3.1 スキャナー（ボックス保存）の設定 249
7.3.2 スキャナー（PC保存）の設定 250

7.4 セカンダリーイーサネットの設定 253

第8章 認証 255

8.1 認証機能の概要 256
8.2 認証機能 257
8.2.1 認証で管理するユーザーについて 257
8.2.2 認証の種類について 258
8.3 認証機能を使ったサービスの利用制限 259
8.4 親展ボックスの認証について 260
8.4.1 概要 260
8.4.2 認証機能を利用していない場合 261
8.4.3 認証機能を利用している場合 262
8.5 本体認証で運用する 263
8.5.1 認証方式を「本体認証」に設定する 263
8.5.2 アクセス制限を設定する 265
8.5.3 ユーザーを登録する 265
8.5.4 ユーザーを一括登録する 266
8.6 外部認証で運用する 273
8.6.1 認証方式を「外部認証」に設定する 273
8.6.2 アクセス制限を設定する 275
8.6.3 外部認証情報の本体保存機能を設定する 275
8.6.4 認証サーバーを設定する 276

第9章 紙折り（フォルダー） 285

9.1 紙折りでできること 286
9.1.1 ファン折りとは 286
9.1.2 クロス折りとは 288
9.2 紙折りの調整 289
9.2.1 フォルダー操作パネルの名称と働き 289
9.2.2 紙折りの調整とは 290
9.3 第一折り/第二折りの調整 294
9.3.1 Step1 折り幅を設定する 294
9.3.2 Step2 第一折りの調整値を設定する 294
9.3.3 Step3 第二折りの調整値を設定する 295
9.4 後端ずれ調整 296
9.4.1 Step1 後端ずれを確認する 296
9.4.2 Step2 調整値を設定する 296
9.5 全体折り調整 297
9.5.1 Step1 折り幅を確認する 297
9.5.2 Step2 調整値を設定する 297

9.6 片側全体折り調整 298
9.6.1 Step1 折り幅を確認する 298
9.6.2 Step2 調整値を設定する 298

第10章 トラブル対処/こんなときには 301

10.1 トラブルと思ったら 302
10.2 機械本体のトラブル 303
10.3 画質のトラブル 304
10.4 紙づまりのトラブル 309
10.5 コピーのトラブル 311
10.6 スキャンのトラブル 312
10.6.1 本機でスキャンできない 312
10.6.2 スキャンデータをコンピューターに取り込めない 313
10.6.3 スキャンデータをネットワーク転送（SMB/LPR）できない 314
10.7 プリントのトラブル 315
10.8 CentreWare Internet Servicesのトラブル 316
10.9 エラーメッセージ 317
10.10 用紙が詰まった場合 321
10.10.1 ロール紙トレイでの紙づまり（[1] ～ [4] が点灯したとき） 323
10.10.2 用紙トレイでの紙づまり（[5] が点灯したとき） 325
10.10.3 用紙トレイでの紙づまり（[6]、[7] が点灯したとき） 326
10.10.4 手差しテーブルでの紙づまり（[8] が点灯したとき） 327
10.10.5 上部ユニットでの紙づまり（[9] が点灯したとき） 327
10.10.6 定着部での紙づまり（[10] が点灯したとき） 330
10.10.7 プリンター排出口での紙づまり（[11] が点灯したとき） 332
10.10.8 プリンターとフォルダーの接続部での紙づまり（[11]、[12] が点灯したとき） 333
10.10.9 フォルダートレイでの紙づまり（[13] が点灯したとき） 335
10.10.10 ファン折り部、または第一折り部での紙づまり（[14] ～ [16] が点灯したとき） 336
10.10.11 搬送部での紙づまり（[17] が点灯したとき） 341
10.10.12 第二折り部での紙づまり（[18] が点灯したとき） 343
10.10.13 調整部での紙づまり（[19] ～ [22] が点灯したとき） 345
10.10.14 フォルダーの排出部での紙づまり（[23] が点灯したとき） 347
10.10.15 プリンター接続部とファン折り部以降にまたがった紙づまり（[J11]、[J13] および [J14] 以降が同時に点灯したとき）349
10.11 原稿が詰まった場合 353

10.12 こんなときには 355
10.12.1 自動リセットの時間を長くしたい 355
10.12.2 節電に入るまでの時間を長くしたい（節電モード移行時間を変更する） 357
10.12.3 初期表示画面を変更したい 358
10.12.4 1ボタンで所望の画面に行きたい（〈登録ボタン〉へ登録する） 359
10.12.5 マニュアルモードを初期画面にしたい 360
10.12.6 スキャンデータの出力ファイル形式の初期設定を変えたい 361
10.12.7 グレースタンプの濃度を変えたい 362
10.12.8 赤黒コピー時に黒線を細くしたい 363
10.12.9 自動的に用紙を切り替えたくない 364
10.12.10 本機を使用しないときの消費電力を節約したい 365

第11章 仕様設定 367

11.1 仕様設定の流れ 368
11.1.1 Step1 機械管理者モードに入る 368
11.1.2 Step2 機械管理者のUser ID、パスワードを入力する 368
11.1.3 Step3 ［仕様設定/登録］を選択する 369
11.1.4 Step4 ［仕様設定/登録］画面から項目を選択する 370
11.1.5 Step5 機能を設定する 371
11.1.6 Step6 機械管理者モードを終了する 372
11.2 仕様設定メニュー一覧 373
11.3 共通設定 377
11.3.1 システム時計/タイマー設定 378
11.3.2 音の設定 379
11.3.3 画面/ボタンの設定 380
11.3.4 読み取り色範囲指定 381
11.3.5 アテンションライトの設定 382
11.3.6 保守 383
11.3.7 その他の設定 384
11.3.8 詳細設定 386
11.4 コピー設定 390
11.4.1 プリセットボタンの設定 391
11.4.2 コピー機能設定初期値 391
11.4.3 任意長の設定 393
11.4.4 オートモードの用紙種類設定 394
11.4.5 オートモードの回転方向設定 395
11.4.6 紙折りの設定 395
11.4.7 スタンプ日付書式の設定 396
11.4.8 スタンプ位置自動時の設定 397
11.4.9 詳細設定 398

11.5 ネットワーク設定 399
11.5.1 ポート設定 400
11.5.2 プロトコル設定 401
11.5.3 EPプロキシサーバー設定 403
11.5.4 外部認証サーバー /ディレクトリサービス設定 404
11.5.5 SSL/TLS設定 406
11.5.6 詳細設定 407
11.6 スキャナー設定 408
11.6.1 プリセットボタンの設定 408
11.6.2 スキャナー機能設定初期値 409
11.6.3 その他の設定 411
11.6.4 詳細設定 411
11.7 スキャナー &コピー設定 412
11.7.1 スキャナー &コピー機能設定初期値 412
11.8 保存文書設定 413
11.8.1 保存文書設定 413
11.9 プリンター設定 415
11.9.1 ジョブリカバリー方法 415
11.9.2 その他の設定 416
11.9.3 詳細設定 418
11.10 認証/セキュリティ設定 419
11.10.1 機械管理者情報の設定 419
11.10.2 スタンプデータ管理者情報の設定 421
11.10.3 認証の設定 422
11.10.4 ジョブの操作の設定 429
11.10.5 ハードディスクの上書き消去設定 431
11.11 点検/修理依頼 433
11.11.1 点検/修理依頼 433
11.11.2 EPシステムについて 435

第12章 付録 437

12.1 主な仕様 438
12.2 オプション製品一覧 445
12.3 保守サービスについて 447
12.3.1 トータルサービス契約 447
12.3.2 スポット保守サービス 447
12.3.3 補修用性能部品の保有期間について 447

12.4 注意/制限事項について 448
12.4.1 本機使用上の注意/制限 448
12.4.2 コピー機能での注意/制限 449
12.4.3 スキャン機能での注意/制限 450
12.4.4 スキャナー &コピー機能での注意/制限 454
12.4.5 プリント機能での注意/制限 457
12.4.6 IPv6 接続の注意/ 制限 458
12.4.7 その他の注意/制限 459
さくいん 461

マニュアル体系

次のマニュアルを用意しています。

本機マニュアル

- かんたんガイド（冊子/DVD-ROM）

本機で使用できる主な機能の紹介と、基本的な操作方法、使用上の注意事項などについて説明しています。

- ユーザーズガイド＜本書＞（DVD-ROM）

日常の管理方法、コピー/スキャン/プリント機能の操作方法、紙づまりの処置方法、各種設定項目、および注意/制限事項などについて説明しています。

オプション製品マニュアル

オプション製品マニュアルでは、オプション製品の操作方法、ソフトウェアのインストール手順などについて説明しています。

本書の使い方

本書は、コピー /スキャン/プリント機能の操作などについて記載しています。

本書の構成

本書は、次のような構成になっています。

- 第1章 お使いになる前に

各部の名称、電源の入/切、タッチパネルディスプレイの使い方、節電機能の解除方法など、本機の基本的な操作について説明しています。

- 第2章 コピー

コピーの基本的な操作方法と、機能について説明しています。

- 第3章 スキャン

スキャンの基本的な操作方法と、機能について説明しています。

- 第4章 スキャナー &コピー

スキャナー &コピー（オプション）の基本的な操作方法と、機能について説明しています。

- 第5章 ジョブメモリー

設定項目を登録させる、ジョブメモリーについて説明しています。

- 第6章 コンピューターからの操作

CentreWare Internet Services の操作、プリント、スキャンデータの取り込み、ダイレクトスキャン（オプション）など、コンピューターから行う操作について説明しています。

- 第7章 登録/設定

登録/設定の方法について説明しています。

- 第8章 認証

認証機能について説明しています。

- 第9章 紙折り（フォルダー）

フォルダー（オプション）の操作方法について説明しています。

- 第10章 トラブル対処/こんなときには

本機に何らかのトラブルが発生した場合の対処方法について説明しています。

- 第11章 仕様設定

仕様設定の方法について説明しています。

- 第12章 付録

本機の主な仕様、オプション製品一覧、保守サービス、注意/制限事項などについて説明しています。

本書の表記

本文中では、説明する内容によって、次のマークを使用しています。

注記　必ず知っておいていただきたい情報、操作するときに必ず確認していただきたい情報を記載しています。

補足　操作の参考になる情報を記載しています。

参照　参照先を記述しています。

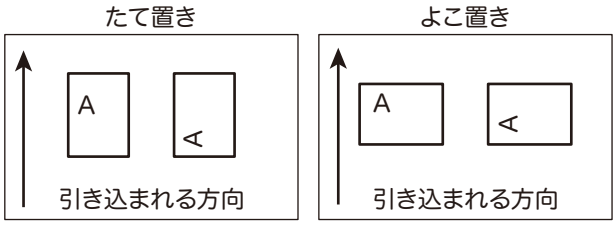
本文中では、次の記号を使用しています。

「　」	• 本書内にある参照先を表しています。 • DVD-ROM、機能、タッチパネルディスプレイのメッセージなどの名称や入力文字などを表しています。
『　』	• 本書以外の参照するマニュアルを表しています。
[　]	• 本機のタッチパネルディスプレイに表示されるボタンやメニューなどの名称を表しています。 • コンピューターの画面に表示されるメニュー、ウィンドウ、ダイアログボックスなどの名称と、それらに表示されるボタンやメニューなどの名称を表しています。
〈　〉ボタン	• 操作パネル上のハードウェアボタンを表しています。
〈　〉キー	• コンピューターのキーボード上のキーを表しています。
＞	• 操作パネルで順に項目を選択する手順を、省略して表しています。 例：「[仕様設定] ＞ [共通設定] ＞ [詳細設定] を選択します。」は、「[仕様設定] を押して、[共通設定] を押したあと、[詳細設定] を選択します。」という手順を省略して記載したものです。 • コンピューターで順に項目をクリックする手順を、省略して表しています。 例：「[スタート] ＞ [検索] ＞ [他のコンピュータ] で検索します。」は、「[スタート] ボタンをクリックして、[検索]、[他のコンピュータ] を順にクリックして検索します。」という手順を省略して記載したものです。

本文中では、原稿または用紙の向きを、次のように表しています。

、、たて置き本機の正面から見て、原稿や用紙をたて長にセットした状態を表しています。

、、よこ置き本機の正面から見て、原稿や用紙をよこ長にセットした状態を表しています。



- 本書に記載している画面や本機のイラストは、各種オプション製品が装着された状態のものです。使用している機械の構成によっては、表示されない項目や使用できない機能があります。
- 各種ドライバーやユーティリティソフトウェアのバージョンアップによって、本書に記載している内容が、お客様がお使いのものと異なる場合があります。
- 本文中の「コンピューター」は、パーソナルコンピューターやワークステーションの総称です。
- 商品名を、次のように表記しています。
  - ApeosWare Authentication Managementを「Authentication Management」

- 本書では、主にWindows® 7で使用した場合の操作例を記述しています。Windows 7以外のOSをお使いの場合は、操作方法や画面が異なることがあります。

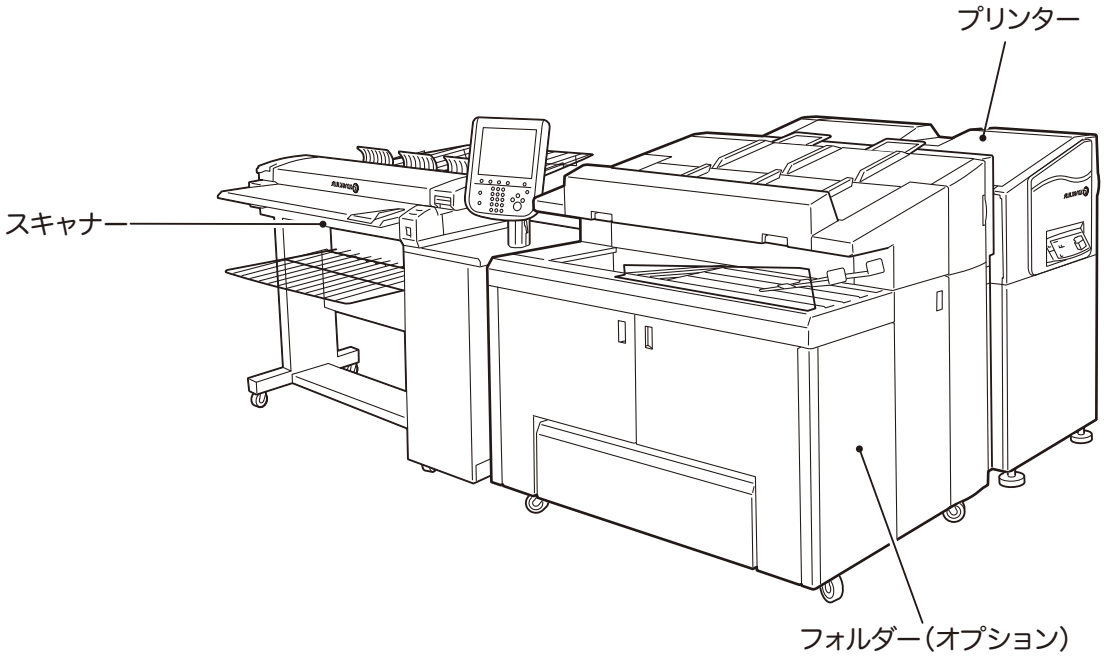
第1章　お使いになる前に

各部の名称、電源の入/切、操作パネルの使い方、節電機能の設定方法など、本機の基本的な操作について説明しています。

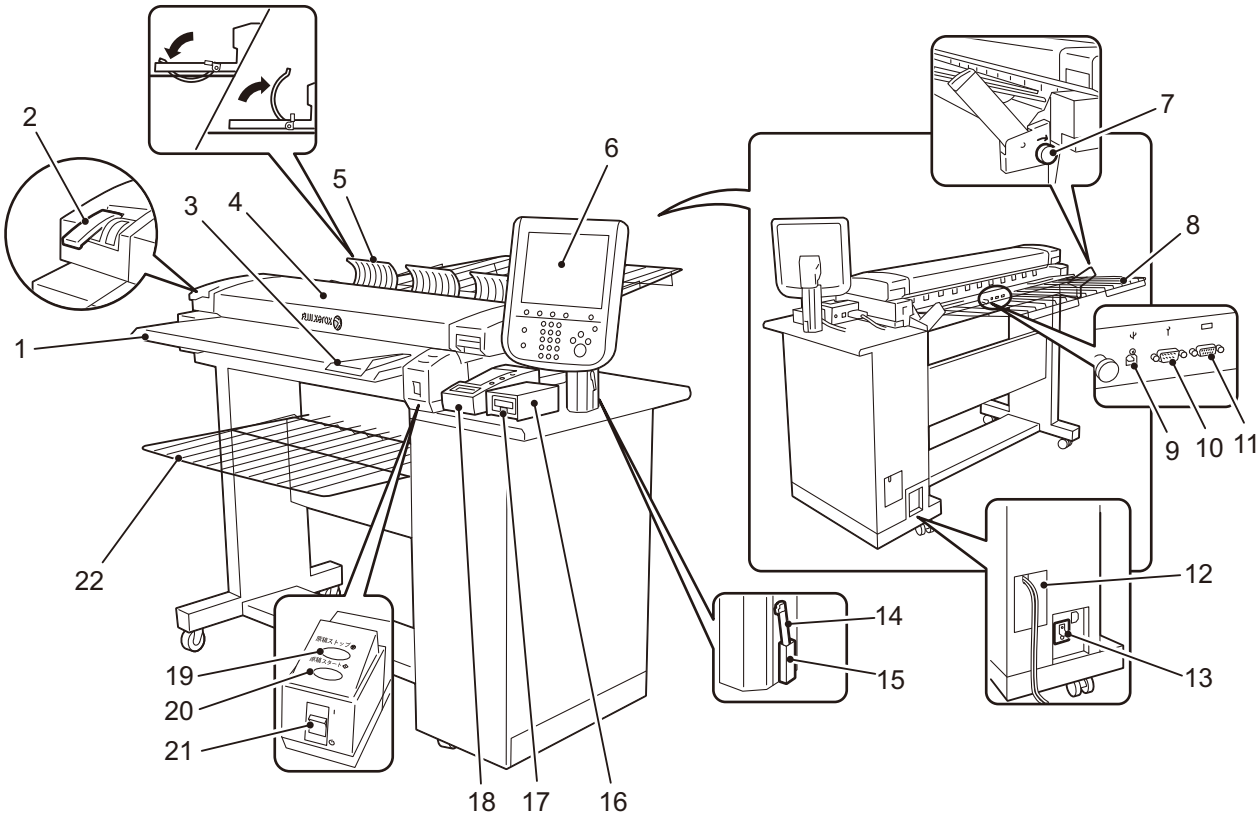
1.1　各部の名称と働き 20
1.2　電源について 25
1.3　節電機能について 27
1.4　操作パネル 29
1.5　メニュー画面について 32
1.6　文字の入力方法について 36
1.7　用紙を補給/交換する 37
1.8　メーターを確認する 44
1.9　消耗品を交換する 46
1.10　本機を清掃する 53
1.11　機械確認 56
1.12　ジョブ確認 60
1.13　ユーザー認証の操作 62
1.14　トナー増量ボタンについて 65
1.15　原稿について 66
1.16　用紙について 67
1.17　ペーパーヒーターと用紙加湿器について 70

1.1　各部の名称と働き

本機の、各部の名称と働きについて説明します。



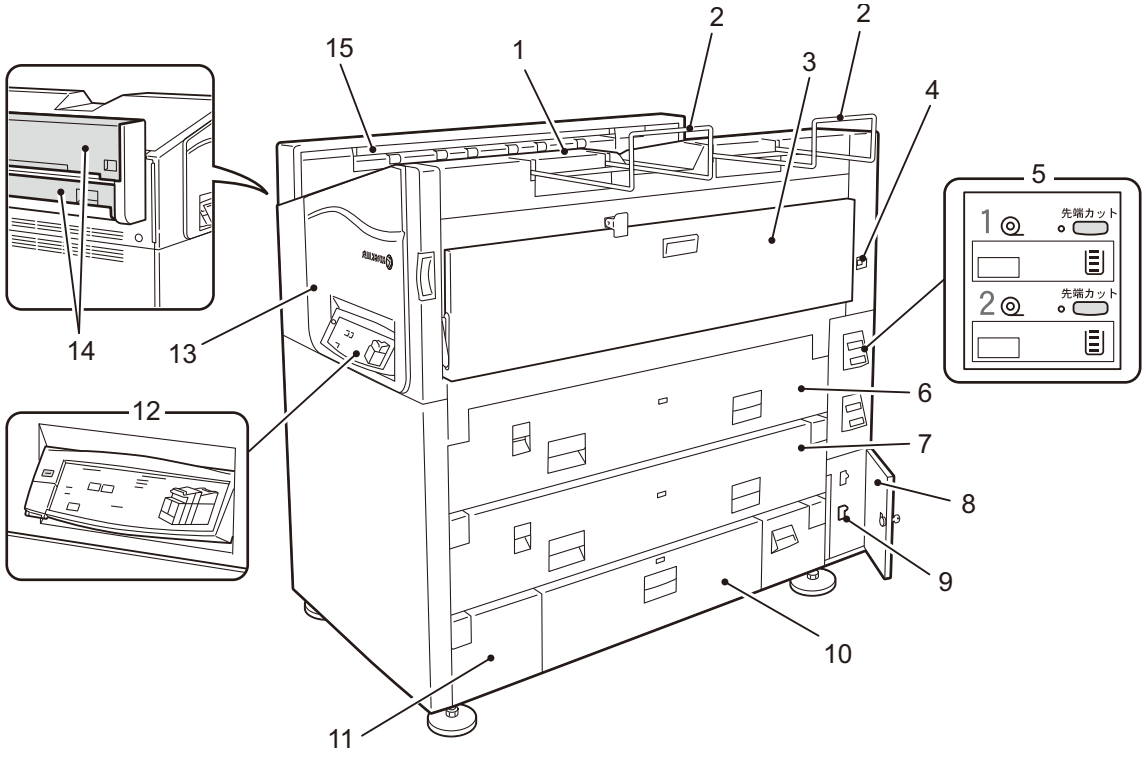
スキャナー



番号	名　　称	働　　き
1	原稿テーブル	原稿をセットします。
2	原稿厚調整レバー	原稿の厚さに応じて原稿カバーを7段階に調整します。
3	原稿ガイド	原稿をセットするときに原稿の右端を合わせます。
4	原稿カバー	原稿カバーの裏の反射板や原稿読み取り部のガラス面を清掃するとき、原稿づまりを処置するときなどに、右端のレバーを上げて開けます。
5	Uターンガイド	原稿を後方に排出しないで、手前に戻します。使用しないときは、押し倒してください。 補足 • 設置スペースの問題で原稿後方収容トレイを装着できない場合に、オプションのUターンガイドを取り付けて原稿を手前に戻すことができます。
6	操作パネル	タッチパネルディスプレイに表示されるボタンやタブに、直接触れて操作します。また、視認性を高めるため、左45度、右45度、上35度、下10度の範囲で角度を調整することができます。 参照 • 詳細については、「1.4　操作パネル」（P.29）を参照してください。
7	ダイヤル	弊社カストマーエンジニアが保守作業を行う際に、原稿後方収容トレイの角度を一時的に上げるために使用します。
8	原稿後方収容トレイ	本機後方に排出された原稿を平らな状態で収容するトレイです。 普通紙36"サイズ以下の同一サイズ原稿を、約50枚まで収容できます。
9	USBコネクター	コンピューターを接続します。
10	メンテナンス用コネクター	弊社カストマーエンジニアが使用します。何も接続しないでください。
11	オプションインターフェイスコネクター	オプションのScan Counter KIT（原稿枚数カウンター）を接続します。
12	インターフェイスカバー	LANケーブルが接続されます。 注記 • カバーの開閉はカストマーエンジニアが行いますので、開けないでください。 • LANコネクターは上側のみ使用しています。
13	電源ブレーカー	スキャナーの電源ブレーカーです。
14	スタイラスペン	操作パネルのタッチパネルディスプレイに触れて、画面の指示や機能の設定をするときに使います。 補足 • スタイラスペンを使わないで、タッチパネルディスプレイに指で直接触れて操作することもできます。
15	スタイラスペンホルダー	スタイラスペンを収納します。
16	原稿枚数カウンター	リセットができる原稿枚数カウンターです（オプション）。
17	リセットボタン	原稿枚数カウンターをリセットします。
18	ICカードリーダー D	ICカードを読み取ってICカード認証します（オプション）。
19	〈原稿ストップ〉ボタン	原稿の搬送を中止します。

番号	名　　称	働　　き
20	〈原稿スタート〉ボタン	仕様設定で原稿の読み込み開始方法を［マニュアルスタート］に設定している場合、原稿の読み込みを開始するときに押します。 参照 • マニュアルスタートの設定方法については、「原稿読み込み開始方法」（P.384）を参照してください。
21	主電源スイッチ	本機の電源を入/切します。 参照 • 詳細については、「1.2　電源について」（P.25）を参照してください。
22	原稿ストックトレイ	原稿を一時的に置くトレイです（オプション）。

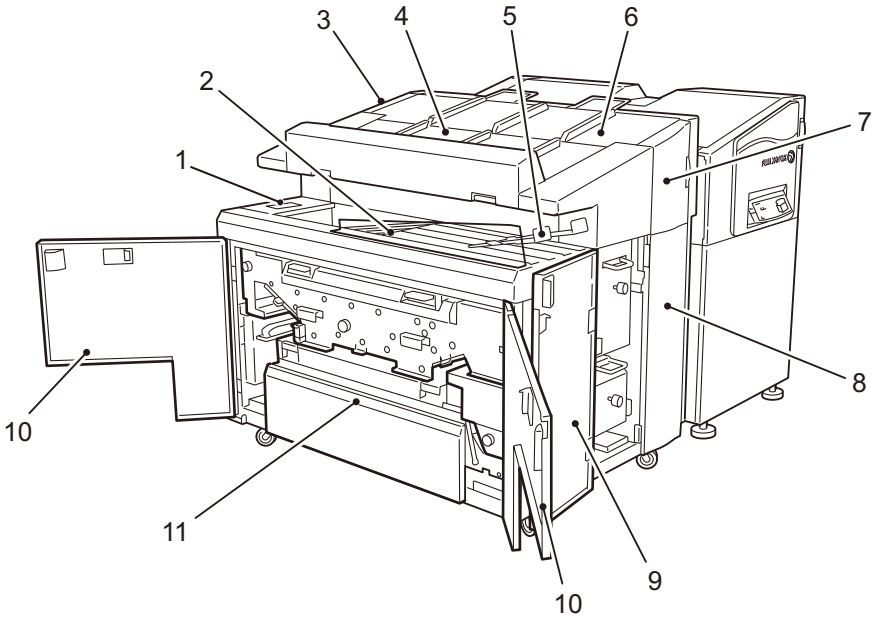
プリンター



番号	名　　称	働　　き
1	プリントートレイ	排出された用紙が収容されます。
2	用紙収容エクステンション	出力用紙の大きさに応じて使用する延長トレイです。（オプション）
3	手差しテーブル	手差しコピー/プリントのときに使用します。手差しテーブルを開けると、右側に手差しパネルがあります。
4	電源スイッチ	プリンターの電源を入/切するスイッチです。 補足 • 通常はスキャナーの主電源スイッチに連動させますので、「入」の状態にしてください。

番号	名　　称	働　　き
5	トレイ操作パネル	ロール紙トレイ、または用紙トレイにセットされている用紙の種類や残量を表示します。また、ロール紙の先端をカットするときに使用します。 用紙残量は次の4段階で表示されます。
6	ロール紙トレイ（上段）	ロール紙をセットします。
7	ロール紙トレイ（下段）	ロール紙をセットします。
8	ロアードア	電源ブレーカー、ペーパーヒーター、用紙加湿器（オプション）を操作するときに開けます。
9	電源ブレーカー	プリンターの電源ブレーカーです。
10	用紙トレイ	カット紙をセットします。
11	用紙加湿器ドア	用紙加湿器（オプション）を操作するときに開けます。 補足 • 用紙加湿器が装着されていない場合、このドアはありません。
12	プリンター操作パネル	紙づまりが発生したときに、処置が必要な箇所の番号が点灯します。また、用紙の先端をカットするときや、プリンター内部のトナー量を増やすときには、〈オフライン〉ボタンを押します。 参照 • 紙づまりの処置箇所の詳細については、「10.10 用紙が詰まった場合」（P.321）を参照してください。
13	フロントドア	紙づまりやトナーを交換するときに使用します。
14	レフトドア（上下）	紙づまりを処置するときに開けます。
15	排出口	コピーやプリントされたものが印字面を下にして、ここに排出されます。

フォルダー（オプション）



番号	名　　称	働　　き
1	フォルダー操作パネル	紙折りの調整をするときに使用します。
2	スタッカー	折られた用紙が排出されます。
3	上部ドア1	紙づまりを処置するときに開けます。
4	フォルダートレイ	紙折りしない用紙が排出されます。
5	ストッパー	折られた用紙が落下するのを防止します。
6	上部カバー	紙づまりを処置するときに開けます。
7	上部ドア	紙づまりを処置するときに開けます。
8	下部ドア	紙づまりを処置するときに開けます。
9	センタードア	ファン折り部と第一折り部での紙づまりを処置するときに開けます。
10	フロントドア	第二折り部と搬送部、調整部での紙づまりを処置するときに開けます。
11	排出口（単方向折り）	単方向折りのときに、用紙が排出されます。

1.2 電源について

1.2.1 電源を入れる

電源の入れかたについて説明します。
主電源スイッチを入れてから、5分以内でコピーまたはプリントできる状態になります。
また、節電機能を利用すると、本機の消費電力量を下げて電力を節約できます。

注記

- 主電源スイッチを入れてから画面が表示されるまで、電源を切らないでください。電源を切ると、処理中のデータが消去されることがあります。
- プリンターの電源ブレーカーを切った状態のまま主電源スイッチを入れると、タッチパネルディスプレイに「機械内部に異常が発生しました」と表示されます。
  その場合は、プリンターの電源ブレーカーを入れてから、再度主電源スイッチを入れてください。

補足

- 本機は主電源スイッチを切った状態でも、スキャナー（100 V 電源）は 4.5 W 以下、プリンター（200 V 電源）は 19 W 以下の電力を消費しています。この消費電力を回避（または節約）するには、スキャナーとプリンターの電源ブレーカーを「切」にしてください。操作方法については、「10.12.10 本機を使用しないときの消費電力を節約したい」（P.365）を参照してください。

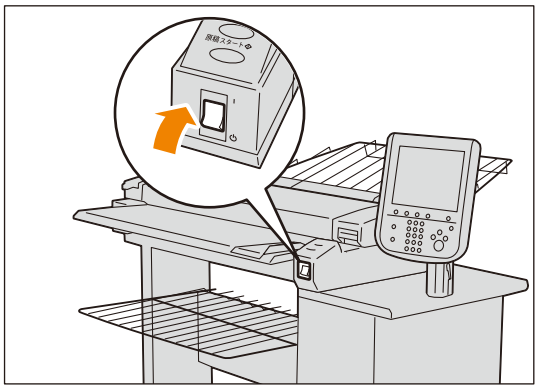
参照

- 節電機能については、「1.3 節電機能について」（P.27）を参照してください。

1. スキャナーの主電源スイッチの [|] 側を押して、電源を入れます。

補足

- タッチパネルディスプレイに「お待ちください ...」が表示されているときは、本機のウォームアップ中です。この間は、使用できません。



1.2.2　電源を切る

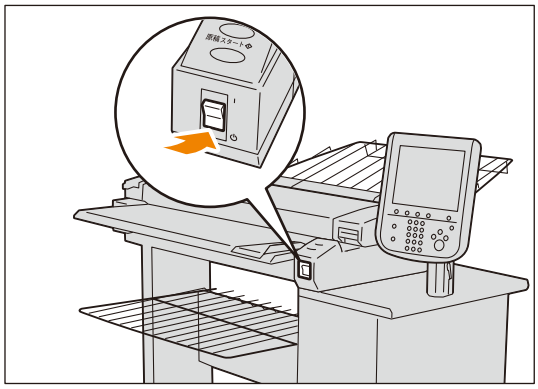
電源の切りかたについて説明します。
長時間使用しない場合や、1日の終わりには電源を切ってください。

注記

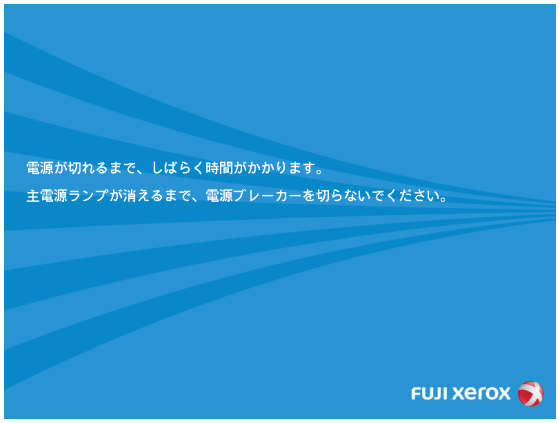
- 次の状態の場合は、電源を切らないでください。電源を切ると、処理中のデータが消去されることがあります。
  - データの受信が行われている（操作パネルの［データ］ランプが点滅している）
  - プリント処理が行われている
  - コピーが行われている
  - スキャンが行われている
- 用紙排出終了後、5 秒たってから、電源を切ってください。
- 電源を切ったあとに、再度、電源を入れるときは、操作パネルの［主電源］ランプが消灯していることを確認してから、電源を入れてください。

1. スキャナーの主電源スイッチの［⏻］側を押します。

〈節電〉ボタンが点滅します。



タッチパネルディスプレイにメッセージが表示されたあと、電源が切れます。



1.3 節電機能について

本機には、一定時間コピーやプリントデータを受け付けないときに、消費電力量を下げて電力を節約する、「節電機能」があります。
節電機能には、「低電力モード」と「スリープモード」があります。
本機を一定時間使用しないと、設定した時間の経過後に「低電力モード」に入ります。
さらに、設定時間が経過すると、「スリープモード」に移行します。
節電状態にするときは、操作パネルの〈節電〉ボタンを押します。

低電力モード

操作パネル、プリンター、スキャナーの電力を下げます。
タッチパネルディスプレイは消灯し、操作パネルの〈節電〉ボタンが点灯します。本機を使用するときは、〈節電〉ボタンを押します。〈節電〉ボタンが消灯し、低電力モードが解除されます。

スリープモード

低電力モードより、さらに電力を下げます。
タッチパネルディスプレイは消灯し、操作パネルの〈節電〉ボタンが点灯します。本機を使用するときは、〈節電〉ボタンを押します。〈節電〉ボタンが消灯し、スリープモードが解除されます。

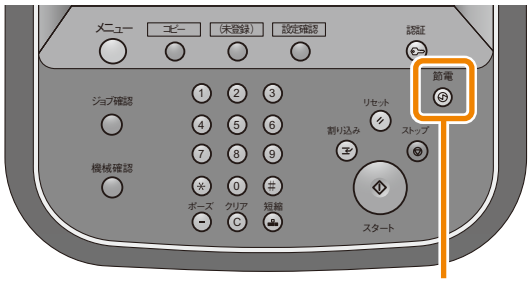
1.3.1 節電状態にする

節電状態にする方法について説明します。

補足
- ［節電モード移行時間］の［最終操作からスリープモードまで］の時間は、［最終操作から低電力モードまで］の時間より大きくなるように設定してください。［節電モード移行時間］の設定については、「節電モード移行時間」（P.378）を参照してください。

1. 〈節電〉ボタンを押します。

補足
- 本機の状態によっては、〈節電〉ボタンを押しても、節電状態になりません。しばらく待ってから、〈節電〉ボタンを押してください。



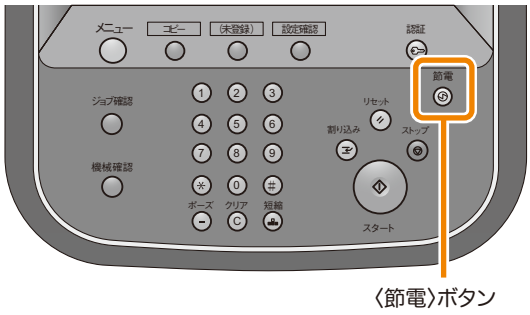
〈節電〉ボタン

1.3.2　節電状態を解除する

節電状態を解除する方法について説明します。
節電状態は、次の場合に解除されます。

- 〈節電〉ボタンを押す
- ジョブを受信する

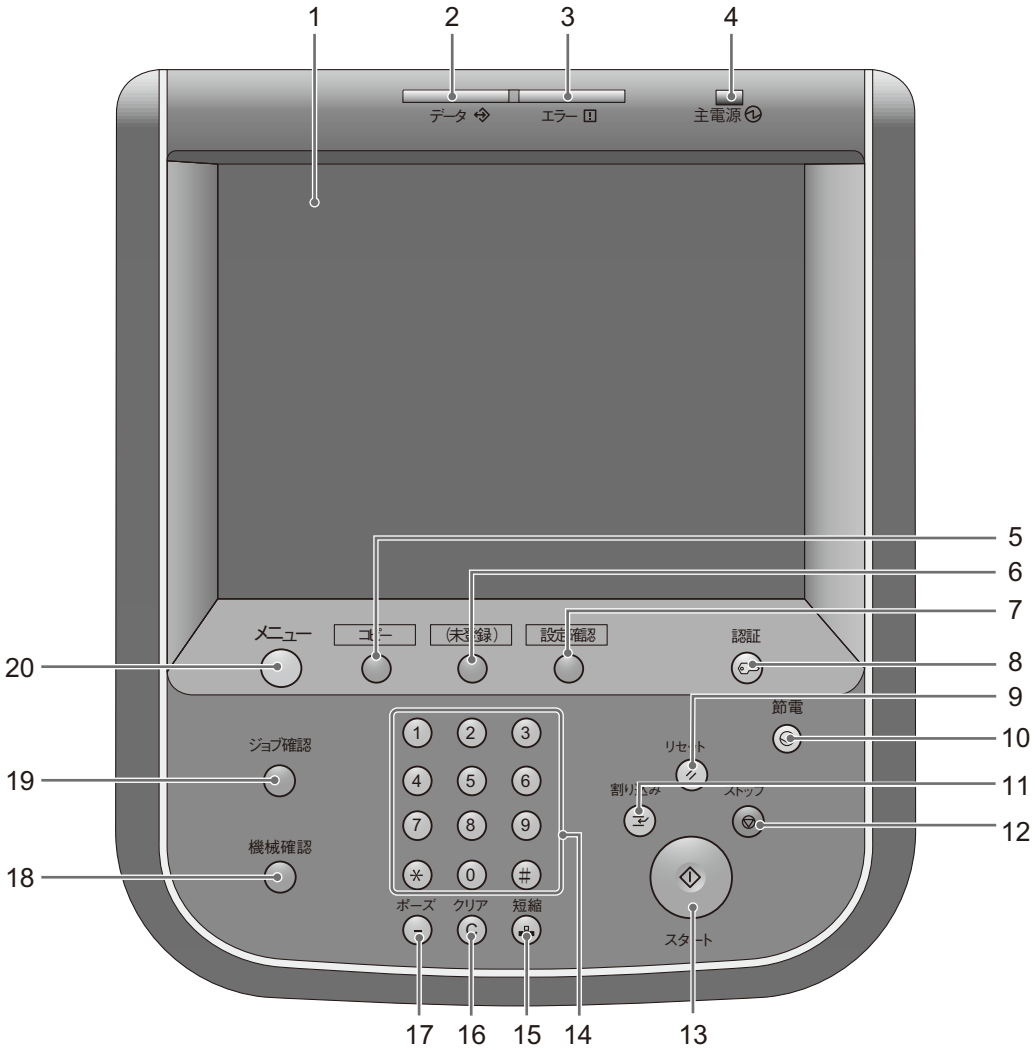
1. 〈節電〉ボタンを押します。



〈節電〉ボタン

1.4　操作パネル

操作パネルの各部の名称と働きについて説明します。



番号	名　　称	働　　き
1	タッチパネルディスプレイ	操作に必要なメッセージや各機能のボタンが表示されます。タッチパネルディスプレイに直接触れて、画面の指示や機能の設定をします。
2	データランプ	本機からデータを送信中や、クライアントからのデータを受信中に、点滅します。また、機械内部に文書を蓄積しているときは点灯します。
3	エラーランプ	システムエラーが起きたときに点滅します。 紙づまり、用紙切れなど、システムエラー以外で機械に異常が発生したときには点灯します。 補足　• 〈エラー〉ランプが点滅したときは、タッチパネルディスプレイに表示されたメッセージに従って、対処してください。 参照　• 紙づまり、用紙切れなどの対処方法は、「第 10 章 トラブル対処/こんなときには」（P.301）を参照してください。
4	主電源ランプ	電源が入っているときに点灯します。

番号	名　　称	働　　き
5	登録1（コピー）ボタン*	工場出荷時は、「コピー」が登録されています。 ボタンを押すと、コピー機能の初期画面が表示されます。 参照 • ボタンへの登録内容を変更する場合は、「登録 1 ～ 3 ボタン」（P.380）を参照してください。
6	登録2（未登録）ボタン*	登録されている機能を呼び出すときに押します。 工場出荷時は登録されていません。 参照 • ボタンへ機能を登録する方法については、「登録1～3ボタン」（P.380）を参照してください。
7	登録3（設定確認）ボタン*	「設定確認」と印刷されていますが、本機ではこの機能は実装されていません。必要に応じて、機能を登録してラベルを貼ってください。 参照 • ボタンへ機能を登録する方法については、「登録1～3ボタン」（P.380）を参照してください。
8	認証ボタン	機械管理者モード、またはユーザー認証されているときに点灯します。このボタンを押すと、機械管理者モード、または登録ユーザーを認証するための、User IDの入力画面が表示されます。認証状態でこのボタンを押すと、認証状態を解除できます。 参照 • 機械管理者モードについては、「11.1.1　Step1　機械管理者モードに入る」（P.368）を参照してください。 • ユーザー認証する方法については、「1.13　ユーザー認証の操作」（P.62）を参照してください。
9	リセットボタン	表示されている各サービスの状態を初期状態に戻すときに押します。電源を入れたときと同じ状態になります。
10	節電ボタン	しばらく使用しないときに、本機は消費電力量を下げて節電モードに入り、点灯します。節電モードを解除するとき、または節電状態にするときは、〈節電〉ボタンを押します。
11	割り込みボタン	連続コピー中やプリント中に、実行中の作業を一時中断して、ほかの作業を優先させたいときに押します。割り込み中は、〈割り込み〉ボタンが点灯します。再度、〈割り込み〉ボタンを押すと、割り込みが解除され、元の作業を再開できます。
12	ストップボタン	コピーやスキャン、プリントを中止するときに押します。
13	スタートボタン	追加コピーするときや、ジョブメモリーを登録するときに押します。
14	数字ボタン	コピー枚数や設定値などの数値を入力するときに押します。
15	短縮ボタン	機能しません。
16	クリア（C）ボタン	〈数字〉ボタンで入力した数値をキャンセルするときに押します。
17	ポーズ（-）ボタン	機能しません。
18	機械確認ボタン	このボタンを押すと、機械状態、メーター、消耗品の確認、およびレポートのプリントができます。
19	ジョブ確認ボタン	このボタンを押すと、実行中のジョブの状態を確認したり、完了したジョブを確認したりできます。
20	メニューボタン	メニュー画面を表示させるときに押します。

* 登録内容を変更したときは、本体同梱の「操作パネル　機能名称貼り替えラベル」を貼ってください。ラベルにない機能を登録した場合は、未記入のラベルに油性ペンで機能を記入してご利用ください。
なお、ラベルには、本機に搭載されていない機能やオプションで提供される機能も含まれています。

1.4.1　画面やボタンの表示について

本機では、以下のとおり、電源を入れたときにタッチパネルディスプレイに表示する機能やボタン機能を変更、または登録できます。

初期表示画面の変更

電源を入れたときや節電状態を解除したとき、自動リセット機能が働いたときに、表示する画面を設定できます。

参照
- 設定方法については、「初期表示画面」（P.380）を参照してください。

自動リセット後の画面の変更

自動リセット後の画面を、操作中の画面にするか初期表示画面にするかを設定できます。

参照
- 設定方法については、「自動リセット後の画面」（P.380）を参照してください。

〈登録〉ボタンへの登録

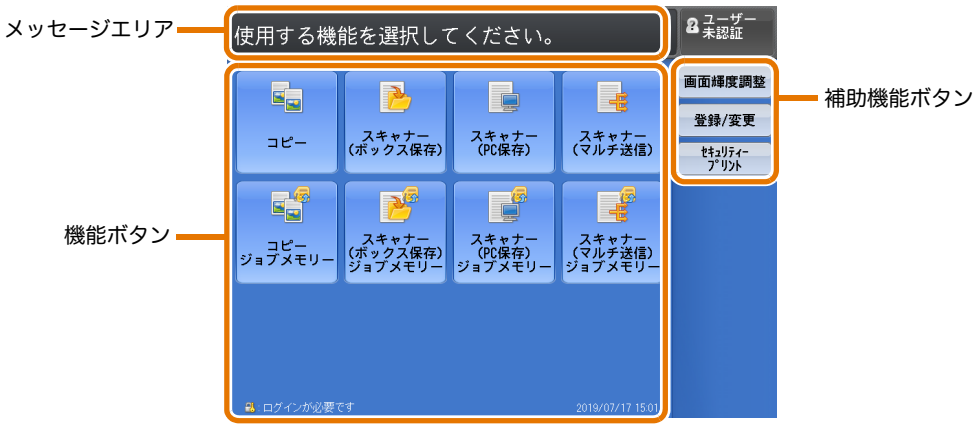
操作パネルの〈登録〉ボタン「登録1」～「登録3」に、機能を割り当てることができます。
〈登録〉ボタンによく使う機能を登録しておくと、機能を切り替えるときに、メニュー画面に戻らなくても、直接機能の画面が表示できます。

補足
- 工場出荷時は、登録1ボタンには「コピー」が登録され、登録2ボタン、登録3ボタンは未登録になっています。

参照
- 設定方法については、「登録1～3ボタン」（P.380）を参照してください。

1.5　メニュー画面について

操作パネルの〈メニュー〉ボタンを押して表示される画面について、説明します。



メッセージエリア

メッセージが表示されます。

機能ボタン

機能を設定します。

補足

- 機能へのアクセスが制限されている場合は、機能ボタンの左上に マークが表示されます。ユーザー認証すると利用できるようになります。ただし、認証したユーザーが機能制限されている場合は、ユーザー認証しても利用できません。

参照

- 機能へのアクセス制限については、「アクセス制御サービスへのアクセス」(P.423) を参照してください。
- ユーザー認証については、「1.13 ユーザー認証の操作」(P.62) を参照してください。
- ユーザーの機能制限については、「ユーザー登録」(P.424) を参照してください。

● コピー

コピー機能を設定します。

参照

- 詳細については、「第2章 コピー」(P.73) を参照してください。

● スキャナー（ボックス保存）

スキャンしたデータを、本機の親展ボックスに保存します。

参照

- 詳細については、「 スキャナー（ボックス保存)」(P.144) を参照してください。

● スキャナー（PC保存）

スキャンしたデータを、ネットワーク上のコンピューター（サーバー）に転送します。

参照 • 詳細については、「 スキャナー（PC保存）」（P.144）を参照してください。

● スキャナー（マルチ送信）

スキャンしたデータを、登録した宛先グループのコンピューター（サーバー）やプリンターに転送します。

参照 • 詳細については、「 スキャナー（マルチ送信）」（P.145）を参照してください。

● スキャナー＆コピー

DW-Scan V Service（オプション）がインストールされているコンピュータと本機をUSBケーブルで接続し、コピーと同時にスキャンデータとして保存します。

注記 • 工場出荷時の設定では、［スキャナー＆コピー］は表示されていません。表示させるには、仕様設定機能で設定します。設定方法については、「メニュー画面の機能配列」（P.380）を参照してください。
ただし表示させる設定を行っていても、次の場合は［スキャナー＆コピー］を使用できません。

- ［仕様設定/登録］＞［仕様設定］＞［認証/セキュリティ設定］＞［認証の設定］＞［認証方式の設定］で［本体認証］、または［外部認証］が設定されている
- 本機にICカードリーダーが接続されている

参照 • 詳細については、「第4章 スキャナー＆コピー」（P.193）を参照してください。

● コピージョブメモリー

登録されたコピージョブメモリーを呼び出します。
ジョブメモリーとは、よく使う機能の設定を記憶させておき、ボタンで呼び出せる機能です。

参照 • 詳細については、「第5章 ジョブメモリー」（P.197）を参照してください。

● スキャナー（ボックス保存）ジョブメモリー

登録されたスキャナージョブメモリー（ボックス保存）を呼び出します。
ジョブメモリーとは、よく使う機能の設定を記憶させておき、ボタンで呼び出せる機能です。

参照 • 詳細については、「第5章 ジョブメモリー」（P.197）を参照してください。

● スキャナー（PC保存）ジョブメモリー

登録されたスキャナージョブメモリー（PC保存）を呼び出します。
ジョブメモリーとは、よく使う機能の設定を記憶させておき、ボタンで呼び出す機能です。

参照 • 詳細については、「第5章 ジョブメモリー」（P.197）を参照してください。

● スキャナー（マルチ送信）ジョブメモリー

登録されたスキャナージョブメモリー（マルチ送信）を呼び出します。
ジョブメモリーとは、よく使う機能の設定を記憶させておき、ボタンで呼び出す機能です。

参照 • ・詳細については、「第5章 ジョブメモリー」（P.197）を参照してください。

● スキャナー＆コピージョブメモリー

登録されたスキャナー＆コピージョブメモリーを呼び出します。
ジョブメモリーとは、よく使う機能の設定を記憶させておき、ボタンで呼び出せる機能です。

注記 • 工場出荷時の設定では、[スキャナー＆コピージョブメモリー]は表示されていません。表示させるには、仕様設定機能で設定します。設定方法については、「メニュー画面の機能配列」（P.380）を参照してください。
ただし表示させる設定を行っていても、次の場合は［スキャナー＆コピージョブメモリー］を使用できません。

- ［仕様設定/登録］＞［仕様設定］＞［認証/セキュリティ設定］＞［認証の設定］＞［認証方式の設定］で［本体認証］、または［外部認証］が設定されている
- 本機にICカードリーダーが接続されている

参照 • 詳細については、「第5章 ジョブメモリー」（P.197）を参照してください。

補助機能ボタン

ジョブ以外の補助的な機能を設定します。

● 画面輝度調整

画面の明るさ（輝度）を調整します。

参照 • 詳細については、「1.5.1 画面の明るさ（輝度）を調整する」（P.35）を参照してください。

● 登録/変更

ジョブメモリー、親展ボックス、宛先などの登録や変更をします。

参照 • 詳細については、「第7章 登録/設定」（P.237）を参照してください。

● セキュリティープリント/プライベートプリント

セキュリティープリントやプライベートプリントの機能によって保存された文書を、プリントしたり、削除したりします。
セキュリティープリント/プライベートプリントとは、プリントを指示したデータを一時的に本機内に保存させ、プリントしたいときに本機側の指示でプリントする機能です。

補足 • ［セキュリティープリント］と［プライベートプリント］は、同時には表示されません。詳細については、「 プライベートプリントの設定」（P.428）を参照してください。

参照 • セキュリティープリントとプライベートプリントの詳細については、「6.4 親展プリントについて」（P.216）を参照してください。

1.5.1　画面の明るさ（輝度）を調整する

タッチパネルディスプレイの明るさ（輝度）を調整できます。

1. メニュー画面で［画面輝度調整］を押します。
2. ［+］、［−］を押して、明るさ（輝度）を調整します。
3. ［決定］を押します。

1.6　文字の入力方法について

操作中に、文字を入力する画面が表示されることがあります。ここでは、文字を入力する方法について説明します。

入力できる文字は、ひらがな、カタカナ、漢字、数字、英字、記号です。

項目	説明
ひらがなの入力	［ひらがな］を押します。 小さいひらがな（っ、ゃ、ゅ、ょなど）を入力するときは、［シフト］を押します。元に戻すときは、もう一度［シフト］を押します。
カタカナの入力	［カタカナ］を押します。 小さいカタカナ（ッ、ャ、ュ、ョなど）を入力するときは、［シフト］を押します。元に戻すときは、もう一度［シフト］を押します。
漢字の入力	ひらがなを入力したあと、［単語変換］を押します。［漢字変換］画面に該当する漢字が表示されるので、目的の漢字を選択します。 ［▼］で次の候補の漢字に進み、［▲］で前に表示した漢字に戻ります。 変換しない場合は、［無変換］を押します。
アルファベットや数字の入力	［英/数］を押します。 アルファベットの大文字を入力するときは、［シフト］を押します。元に戻すときは、もう一度［シフト］を押します。 アルファベットや数字の半角文字を入力するときは、［半角］を押します。元に戻すときは、もう一度［半角］を押します。
記号の入力	［記号］を押します。
スペースの入力	［空白］を押します。
濁点、半濁点の入力	[゛]、[゜] を押します。
文字の消去	［後退］を押します。1文字ずつ消去できます。

1.7　用紙を補給/交換する

1.7.1　ロール紙を交換/カットする

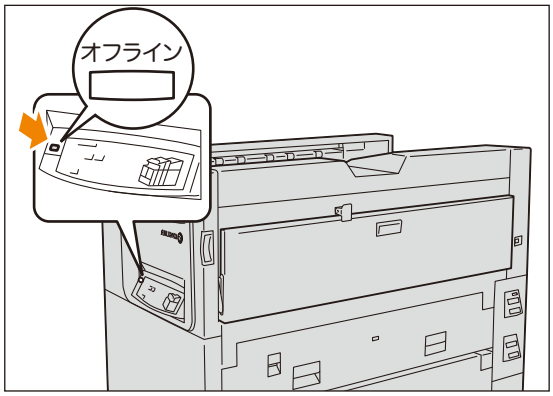
ロール紙トレイにロール紙をセットします。
用紙をセットしたときは、用紙の先端をカットしてください。

> **⚠注意**
>
> ロール紙は重いので、持ち上げるときには腰を痛めないように十分にひざを折り、必ず両手で持ち上げてください。
> 落としたり倒したりすると、ケガの原因となるおそれがあります。取り扱いには十分注意してください。

注記
- ロール紙をセットするときは、指などをはさまないように注意してください。
- ロール紙の巻き止めテープをはがすときに、ロール紙にテープののりが残らないように注意してください。のりが機械内部に入ると、印字品質が低下することがあります。

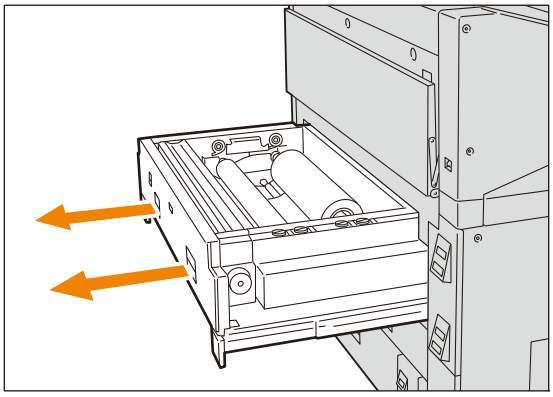
1. プリンター操作パネルの左側にある〈オフライン〉ボタンを押します。

補足
- プリンターモードがオフライン状態になります。

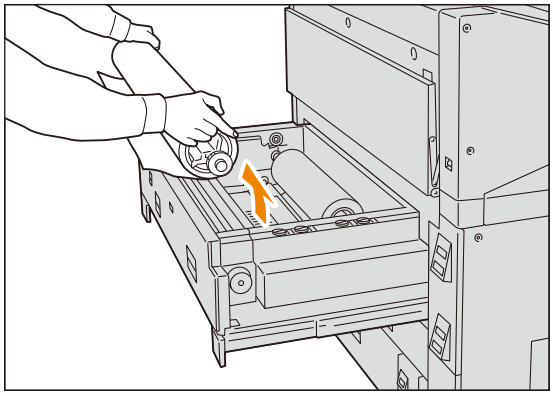


2. 両手でロール紙トレイを引き出します。

補足
- ロール紙を交換しないで用紙の先端をカットする場合は、手順10.に進んでください。

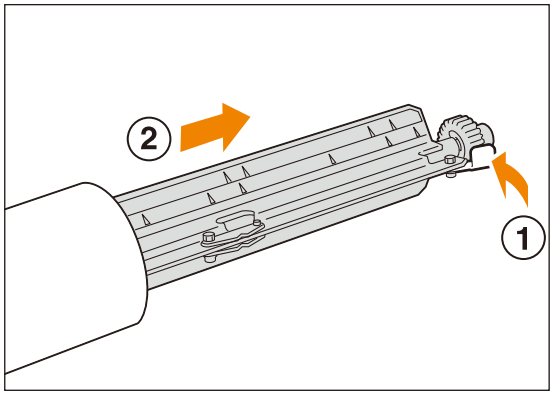


3. ロール紙のシャフトを取り外します。



4. シャフトの端にあるロック解除レバーをつまみながら（①）、ロール紙の芯からシャフトを引き抜きます（②）。

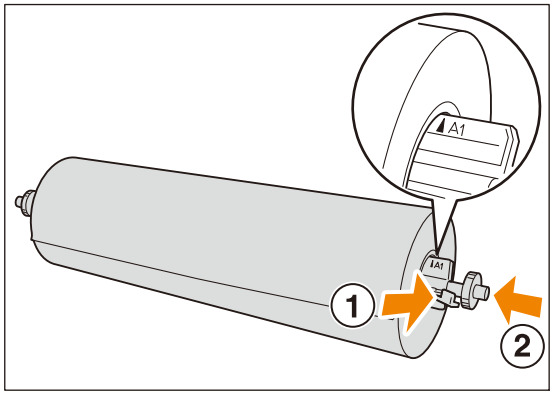
ロック解除レバーをつまむと、ロール紙のロックが外れてシャフトを抜くことができます。



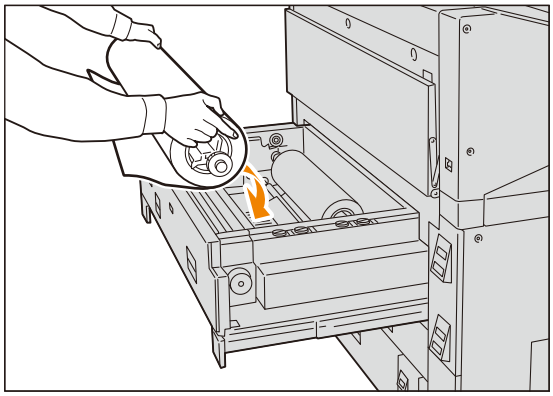
5. シャフトの端にあるロック解除レバーをつまみながら（①）、シャフトの用紙サイズ表示に合わせて新しいロール紙をセットします（②）。

注記

- ロール紙をシャフトにセットするときは、ロール紙が落下、転倒しないように、床などの安定した場所に寝かせてセットしてください。

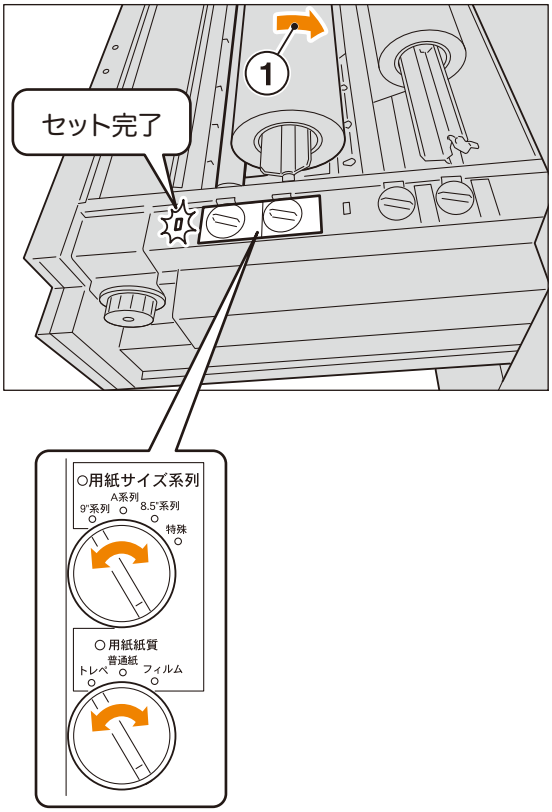


6. ロール紙の巻き方向に注意して、シャフトをトレイに載せます。



7. ロール紙を回して（①）、ロール紙の先端をローラーの下に挿入します。

正しくセットされると、「ピッ」という音がして、右側の［セット完了］ランプが緑色に点灯します。「ピーピー」と鳴ったら、用紙を少し巻き戻してください。

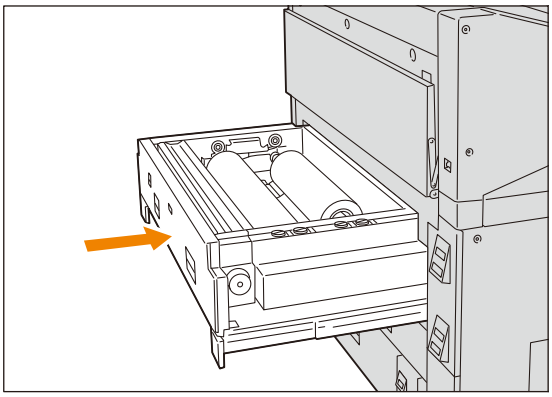


注記

- 用紙の先端などが傷んでいて、ロール紙がうまく引き込まれない場合は、用紙の先端をカットしてから、セットしてください。

8. 該当する用紙サイズ系列と、用紙紙質の位置につまみを合わせます。

9. ロール紙トレイを静かに押し込みます。

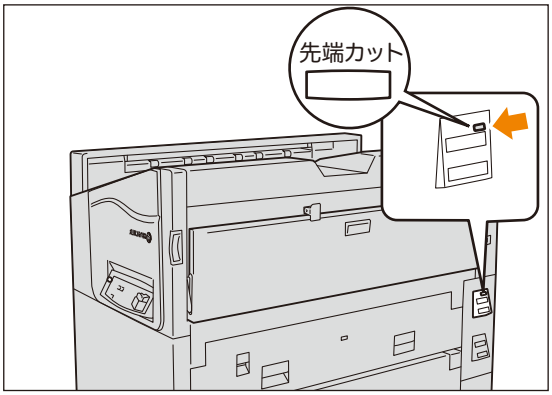


補足

- いちばん奥まで確実に押し込んでください。
- セットした用紙サイズ系列と用紙紙質が表示されることを確認してください。

10. 交換したロールに該当する〈先端カット〉ボタンを押します。

用紙の先端がカットされます。

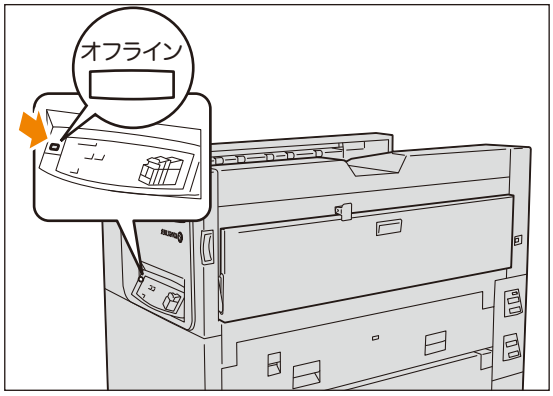


補足

- 〈先端カット〉ボタンを押すと、用紙が210mmの長さでカットされます。
- 〈先端カット〉ボタンは、3回まで続けて押すことができます。3回続けて押すと、用紙の先端が3回カットされます。

11. カットされた用紙を取り除きます。

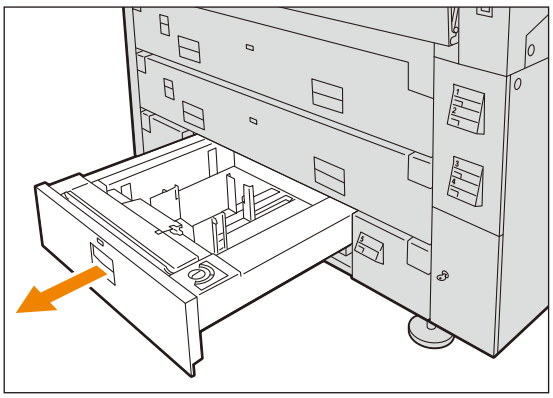
12. 再度、〈オフライン〉ボタンを押します。



1.7.2 カット紙を補給/交換する

用紙トレイにカット紙をセットできます。A4、A3サイズの用紙をセットできます。
フィルム、OHP用フィルムは使用できません。

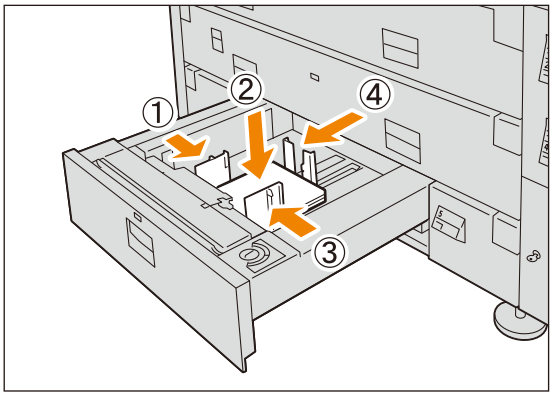
1. 用紙トレイを引き出します。



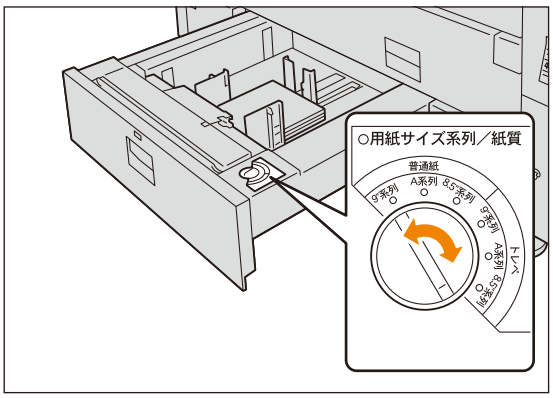
2. 用紙をセットします。

① 左側ガイドを用紙サイズに合わせます。
② 用紙を手前の壁と左側ガイドに沿って、セットします。
③ 右側ガイドを用紙に合わせます。
④ 奥側ガイドを用紙に合わせます。

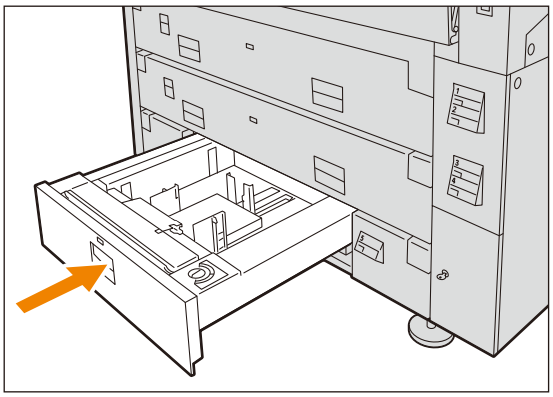
補足
- ガイドがきついと紙送り不良の原因になります。



3. 該当する紙質とサイズ系列の位置に、つまみを合わせます。



4. トレイを静かに押し込みます。



補足
- セットした用紙サイズ系列と用紙紙質が表示されることを確認してください。

1.7.3 手差しで給紙する

非定形サイズの用紙や、あまり使わないサイズの用紙を使用してコピー / プリントするときは、手差しテーブルに用紙をセットします。
ここでは、プリンタードライバーを使用した手差しプリントを例に説明します。

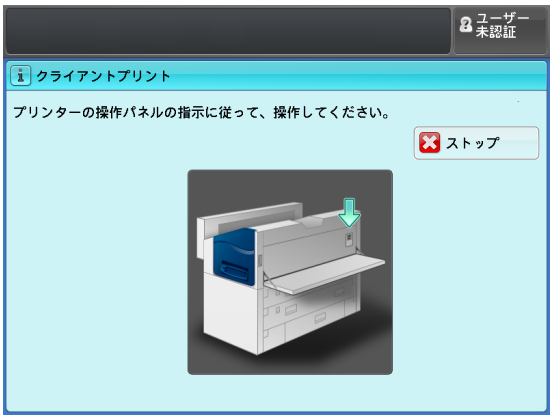
注記
- スキャン中に手差しプリントの操作を行うと、スキャンが中断されます。中断されたスキャンは、手差しプリントが終わると再開します。

1. アプリケーションソフトウェアの［ファイル］メニューから、［印刷］を選択します。

補足
- プリントの手順はお使いのアプリケーションソフトウェアによって異なります。詳細は各アプリケーションソフトウェアのマニュアルを参照してください。

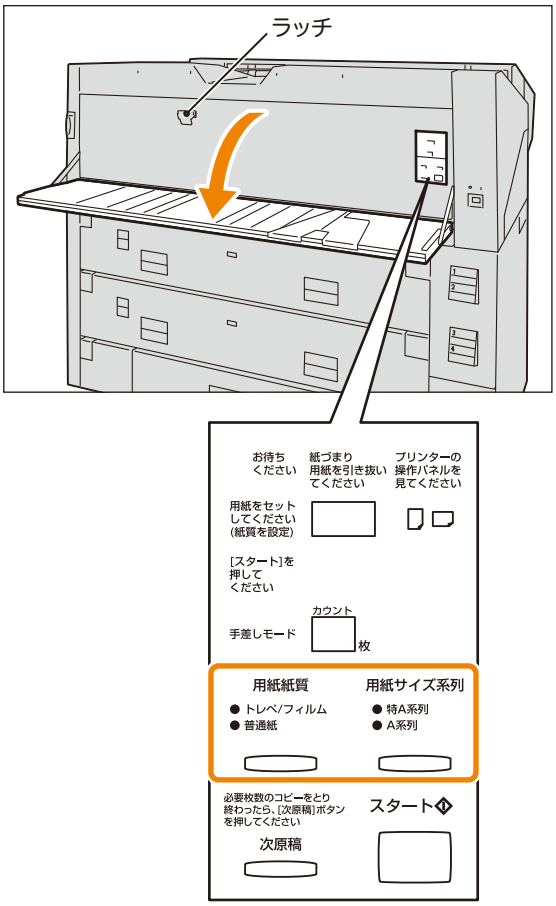
2. プロパティを開き、［トレイ/排出］タブの［用紙トレイ選択］で［手差し］を選択します。
3. ［印刷］ダイアログボックスで、［OK］をクリックします。

4. 右の画面が表示されたら、プリンターにある操作パネルの指示に従って操作します。

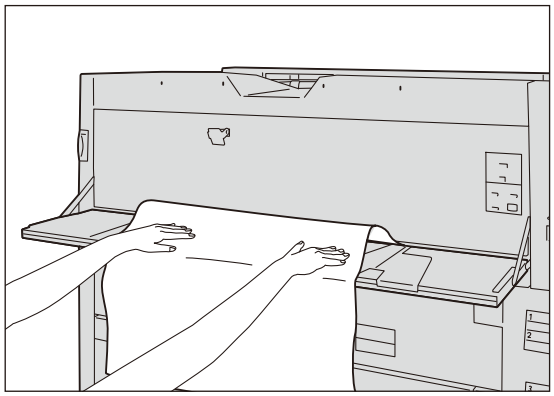


5. ラッチを押しながら手差しテーブルを手前に倒して開けます。

6. 手差しパネルの用紙紙質、用紙サイズ系列のボタンで、セットする用紙の種類を指定します。



7. 用紙の右端をガイドに合わせて、挿入します。
用紙が突き当たって止まったら、さらに用紙を押して3 ㎝以上のループを作ります。
用紙が自動的に引き込まれ、停止します。



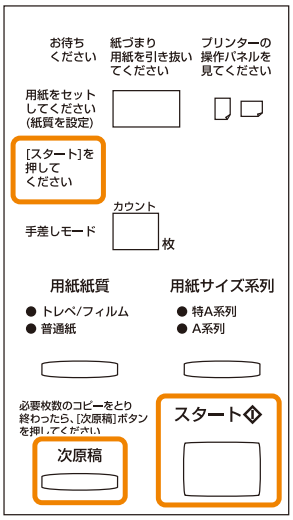
注記

- 用紙は1枚ずつセットしてください。
- 用紙端部がカールしているときは、両手で用紙のカールを押さえながら挿入してください。
- 用紙が搬送されるまで、手を離さないでください。止まったところで手を離すと、用紙がつまることがあります。

8. 手差しパネルの［スタートを押してください］が点灯したら、〈スタート〉ボタンを押します。
プリントが始まります。

9. 手差しプリントを終了するときには、〈次原稿〉ボタンを押します。

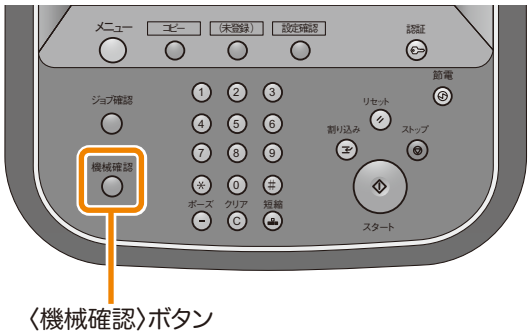
10. プリントが終了したら、手差しテーブルを元に戻します。



1.8　メーターを確認する

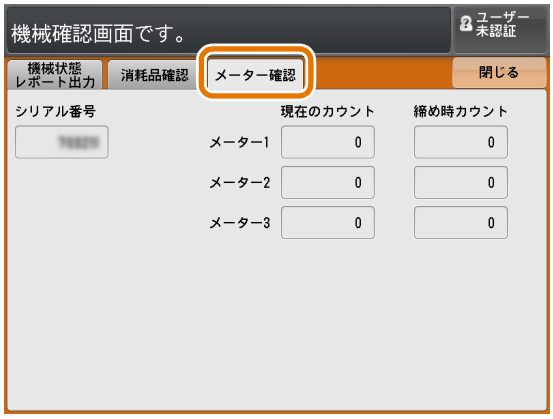
［メーター確認］画面では、メーター別にプリントのカウント数を確認できます。

1. 〈機械確認〉ボタンを押します。



〈機械確認〉ボタン

2. ［メーター確認］タブを押します。
3. 表示された画面で、各メーターを確認します。



補足
- ［締め時カウント］は、EPシステムが接続されている機械にだけ表示されます。

シリアル番号

本機のシリアル番号が表示されます。

メーター 1

黒単色コピー/プリントの総カウント数が表示されます。

補足
- カウント数は、用紙サイズによって異なります。各用紙サイズは、次のカウント数で加算されます。

用紙サイズ	カウント
A0、特A0、36x48"、34x44"、30x42"	5
A1、特A1、24x36"、22x34"	3
A2、特A2、18x24"、17x22"	2
A3、A4、12x18"、11x17"、9x12"、8.5x11"	1

- 黒単色コピー /プリントに赤色のスタンプを押した場合は、メーター 1とメーター 3がカウントされます。

メーター 2

赤単色と赤黒コピー /プリントの総カウント数が表示されます。

補足
- 赤単色または赤黒コピー /プリントに赤色のスタンプを押した場合は、メーター 2とメーター 3がカウントされます。

メーター 3

スタンプとバナーシートの総カウント数が表示されます。

補足

- スタンプは、色、大きさ、数に関係なく、スタンプが押された枚数をカウントします。1 枚に複数のスタンプが押されても、スタンプが押された枚数をカウントします。
- バナーシートは、サイズに関係なく、枚数をカウントします。
- スタンプ機能がない場合は、バナーシートの総カウント数が表示されます。

1.9 消耗品を交換する

本機には、次のような消耗品が用意されています。本機に適した規格で作られていますので、次の消耗品の使用をお勧めします。

消耗品の種類	商品コード	形態
トナーカートリッジ（黒）	M200	1個/1箱
トナーカートリッジ（赤）	M201	1個/1箱

注記
- 弊社が推奨していないトナーカートリッジを使用された場合、装置本来の品質や性能を発揮できないおそれがあります。本製品には、弊社が推奨するトナーカートリッジをお使いください。

補足
- 消耗品は、予備を用意することをお勧めします。

消耗品の取り扱いについて

- 消耗品の箱は、必ず横置きにして、箱に記載された状態で保管してください。
- 消耗品は、使用するまでは開封しないで、次のような場所を避けて保管してください。
  - 高温多湿の場所
  - 火気がある場所
  - 直射日光が当たる場所
  - ほこりが多い場所
- 消耗品を使用するときは、消耗品の箱や容器に記載された取り扱い上の注意をよく読んでから、使用してください。
- 消耗品を発注するときは、商品コードを確認のうえ、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご注文ください。
- 使用済みのトナーカートリッジは、適切な処置が必要です。必ず弊社または販売店にお渡しください。

⚠警告

- こぼれたトナーを電気掃除機で吸い取らないでください。
  本製品内およびトナーカートリッジ、トナー回収ボトル等に付着したトナーを電気掃除機で吸引することもおやめください。
  掃除機を用いると、掃除機内部のトナーが、電気接点の火花などにより、発火または爆発するおそれがあります。
  床などにこぼしたトナーは、ほうきで掃き取るか、または石けん水を湿らした布などで拭き取ってください。
  大量にこぼれた場合、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
- トナーカートリッジは、絶対に火中に投じないでください。トナーカートリッジに残っているトナーが発火または爆発する可能性があり、火傷のおそれがあります。使い終わった不要なトナーカートリッジは弊社にて回収いたしますので、必ず弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
- トナー回収ボトルは、絶対に火中に投じないでください。トナーが発火または爆発する可能性があり、火傷のおそれがあります。使い終わった不要なトナー回収ボトルは、弊社にて回収いたしますので、必ず弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

⚠注意

- ドラムやトナーカートリッジは幼児の手が届かないところに保管してください。幼児がトナーを飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談し指示を受けてください。
- ドラムやトナーカートリッジを交換する際は、トナーが飛散しないように注意してください。また、トナーが飛散した場合は、トナーが皮膚や衣服に付いたり、トナーを吸引したり、または目や口に入らないように注意してください。
- 次の事項に従って、応急処置をしてください。
  - トナーが皮膚や衣服に付着した場合は、石けんを使って水でよく洗い流してください。
  - トナーが目に入った場合は、目に痛みがなくなるまで 15 分以上多量の水でよく洗い、必要に応じて医師の診断を受けてください。
  - トナーを吸引した場合は、新鮮な空気のところへ移動し、多量の水でよくうがいをしてください。
  - トナーを飲み込んだ場合は、飲み込んだトナーを吐き出し、水でよく口の中をすすぎ、多量の水を飲んでください。すみやかに医師に相談し指示を受けてください。

注記

- トナーを補給するとき、トナーがこぼれて床面などを汚すことがあります。あらかじめ床に紙などを敷いて作業することをお勧めします。

使用済み消耗品の回収

回収したトナーカートリッジ、トナー回収ボトル、ドラムは、環境保護・資源有効活用のため、部品の再使用、材料としてのリサイクル、熱回収などの再資源化を行っています。
不要となったトナーカートリッジは適切な処理が必要です。トナーカートリッジは、無理に開けたりせず、必ず弊社または販売店にお渡しください。

1.9.1 黒トナーを補給する

トナーが少なくなると、次のようなメッセージがタッチパネルディスプレイに表示されます。メッセージに従って、処置してください。

- トナーカートリッジ（黒）交換時期です。

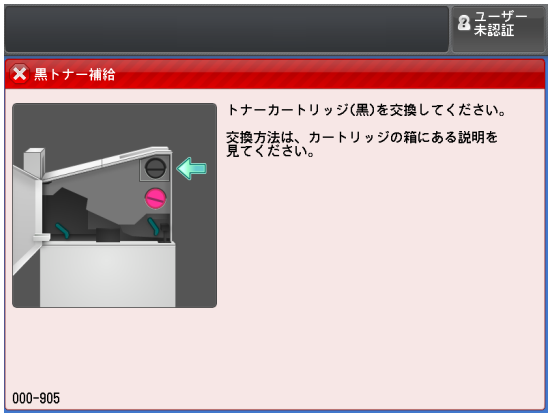
トナーカートリッジ（黒）を交換してください。

補足

- このメッセージが表示されてから、コピー / プリントできる残りページ数は100ページです。

- トナーカートリッジ（黒）を交換してください。

トナーカートリッジ（黒）を交換してください。
このメッセージが表示されると、コピー / プリントできません。

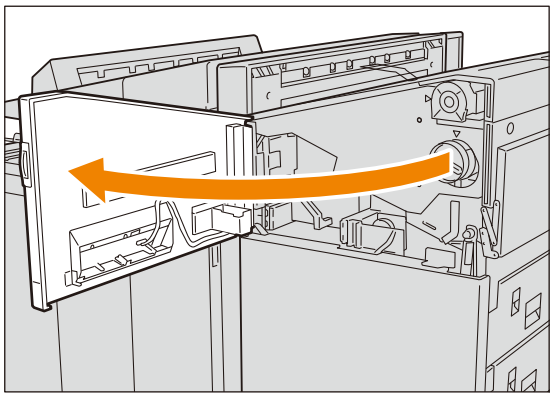


注記

- トナー残量が少なくなってきている場合は、プリント中に機械が停止してメッセージが表示されることがあります。その場合は、トナーを補給すると、コピー /プリントは継続されます。

新しいトナーカートリッジ（黒）を用意してから、次の手順で交換します。

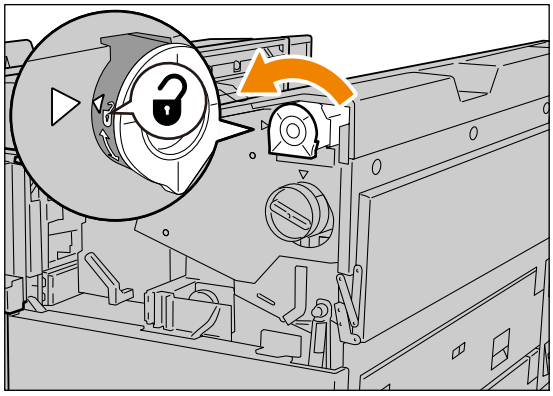
1. 機械が停止していることを確認し、プリンターのフロントドアを開けます。



2. トナーカートリッジ（黒）を、🔒印の位置まで回します。

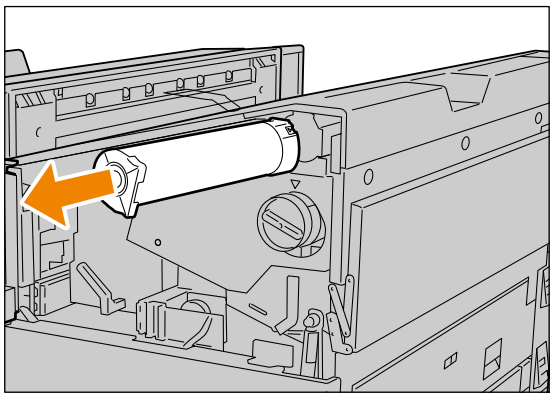
トナーカートリッジ（黒）のロックが外れます。

補足
- 力を入れて回してください。

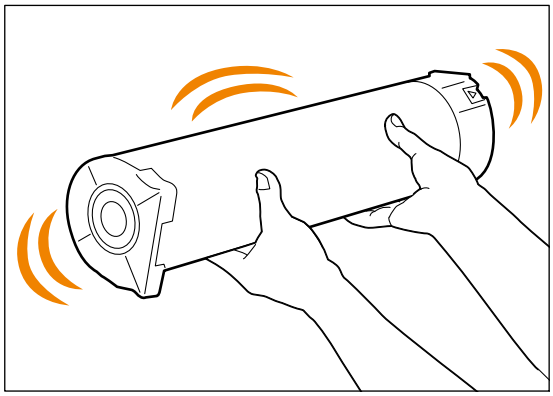


3. トナーカートリッジ（黒）を手前に引き出します。

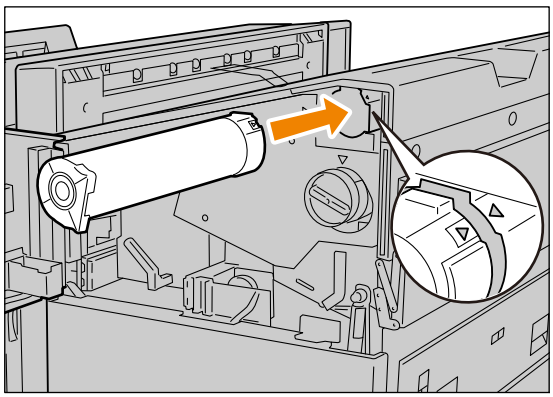
注記
- 使用後のトナーカートリッジの補給口付近には、トナーが付着していることがあります。手や衣服にトナーが付かないように注意してください。
- 使用済みのトナーカートリッジは、弊社または販売店にお渡しください。



4. トナーを均一にするために、新しいトナーカートリッジ（黒）をよく振ります。

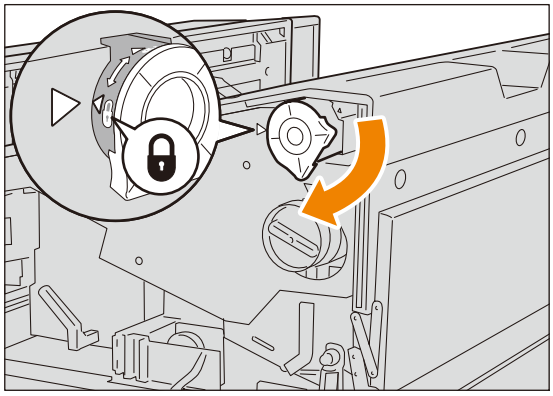


5. トナーカートリッジ（黒）側の印と本機側の印を合わせて、つきあたるまで差し込みます。

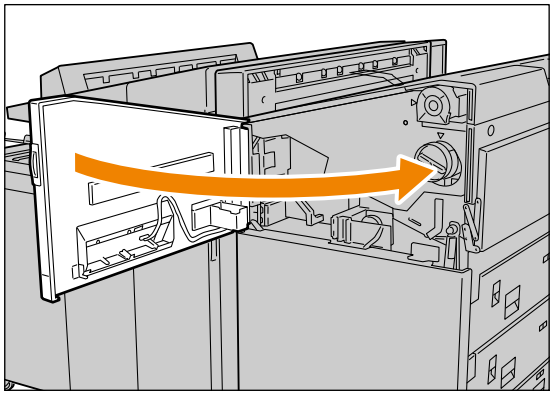


6. トナーカートリッジ（黒）を、印の位置まで回します。

トナーカートリッジ（黒）がロックされます。



7. プリンターのフロントドアを閉じます。

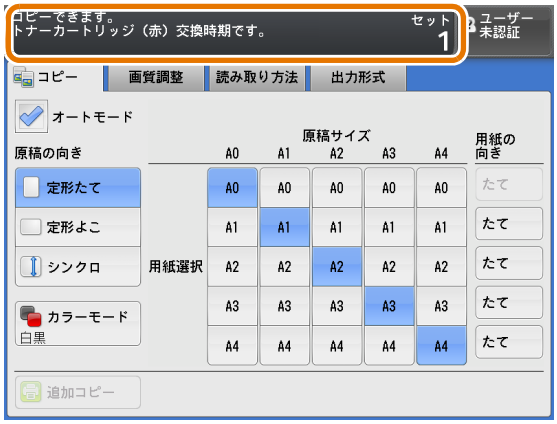


1.9.2 赤トナーを補給する

トナーが少なくなると、次のようなメッセージがタッチパネルディスプレイに表示されます。メッセージに従って、処置してください。

- トナーカートリッジ（赤）交換時期です。

トナーカートリッジ（赤）を交換してください。

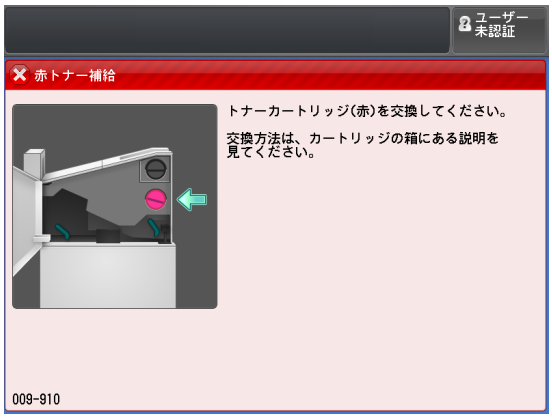


補足

- このメッセージが表示されてから、コピー / プリントできる残りページ数は100ページです。

● トナーカートリッジ（赤）を交換してください。

トナーカートリッジ（赤）を交換してください。
このメッセージが表示されると、コピー / プリントできません。

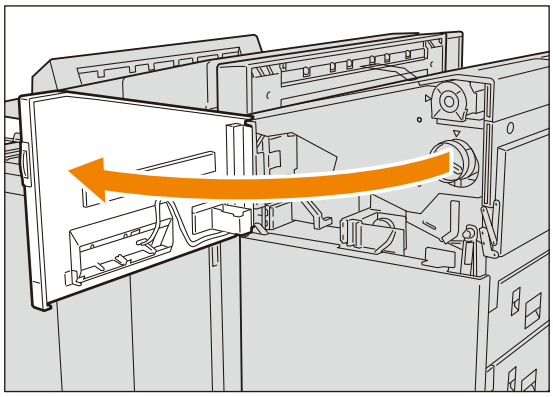


注記

- トナー残量が少なくなってきている場合は、プリント中に機械が停止してメッセージが表示されることがあります。その場合は、トナーを補給すると、コピー /プリントは継続されます。

新しいトナーカートリッジ（赤）を用意してから、次の手順で交換します。

1. 機械が停止していることを確認し、プリンターのフロントドアを開けます。

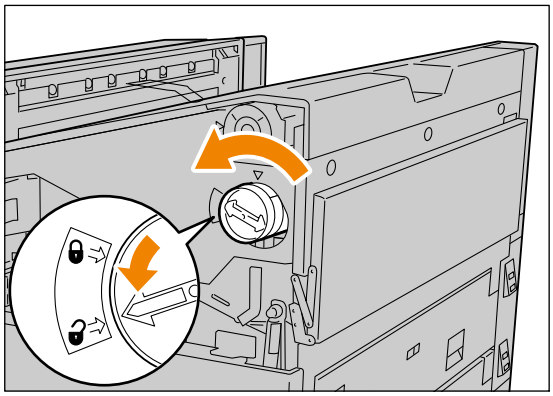


2. トナーカートリッジ（赤）を、🔓印の位置まで回します。

トナーカートリッジ（赤）のロックが外れます。

補足

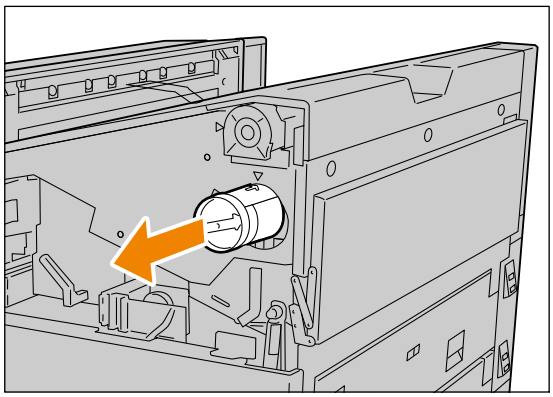
- 力を入れて回してください。



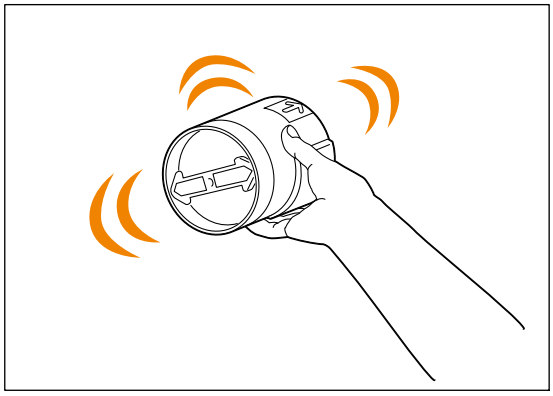
3. トナーカートリッジ（赤）を手前に引き出します。

注記

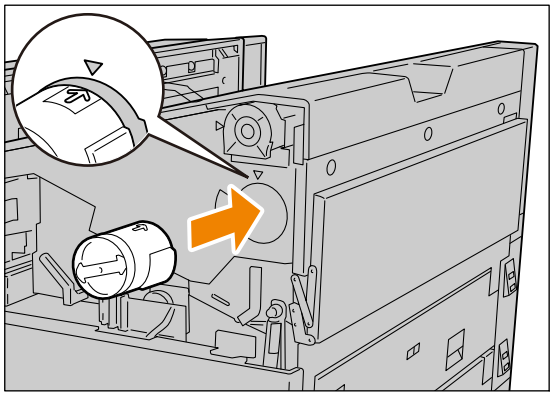
- 使用後のトナーカートリッジの補給口付近には、トナーが付着していることがあります。手や衣服にトナーが付かないように注意してください。
- 使用済みのトナーカートリッジは、弊社または販売店にお渡しください。



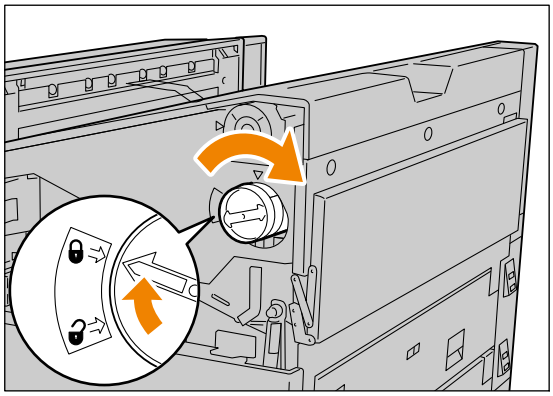
4. トナーを均一にするために、新しいトナーカートリッジ（赤）をよく振ります。



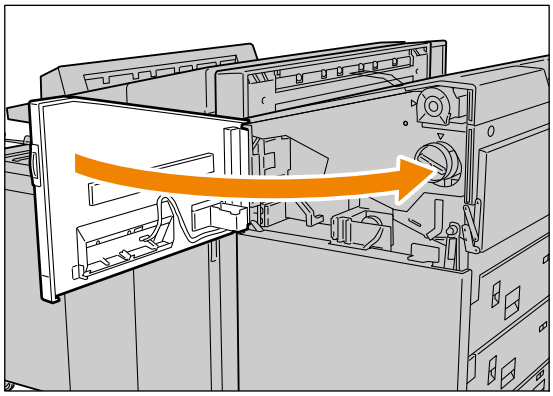
5. トナーカートリッジ（赤）の矢印を上にして、つきあたるまで差し込みます。



6. トナーカートリッジ（赤）を、🔒印の位置まで回します。
トナーカートリッジ（赤）がロックされます。



7. プリンターのフロントドアを閉じます。



1.10　本機を清掃する

ここでは、スキャナーの清掃について説明します。
原稿カバーの裏の反射板や、原稿読み取り部のガラス面が汚れていると、コピーの全体に黒い線や帯などが発生する原因になります。

⚠警告

機械の性能の劣化を防ぎ安全を確保するため、清掃には指定されたものをご使用ください。スプレータイプのクリーナーは、引火や爆発の危険がありますので、絶対に使用しないでください。

⚠注意

- 機械の清掃を行う場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。電源スイッチを切らずに機械の清掃を行うと、感電の原因となるおそれがあります。
- 機械の清掃を行う場合は、機械の電源スイッチおよび配電盤のスイッチを切ってください。電源スイッチを切らずに機械の清掃を行うと、感電の原因となるおそれがあります。

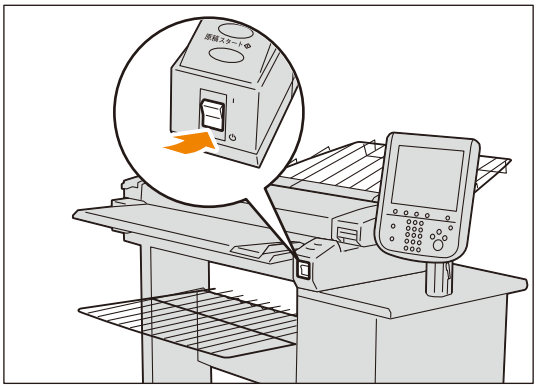
注記

- ベンジン、シンナーなどの揮発性のものを使用したり、殺虫剤をかけたりすると、カバー類の変色、変形、ひび割れの原因になります。
- 汚れが取れにくい場合は、柔らかい布に水、または薄めの中性洗剤を少量含ませ、固く絞って軽くふきます。そのあと、乾いた布でふきます。
- 水または中性洗剤以外の洗浄液は、絶対に使用しないでください。
- 水でぬらしすぎると、機械が故障したりコピーするときに原稿が破れたりするおそれがあるので注意してください。

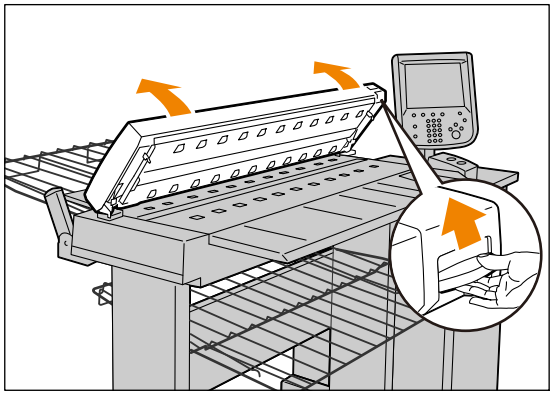
1. スキャナーの主電源スイッチの［⏻］側を押して、電源を切ります。

注記

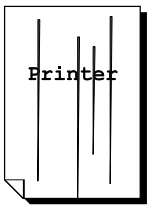
- 本機の電源を切らないで機械を清掃すると、感電の原因になるおそれがあります。



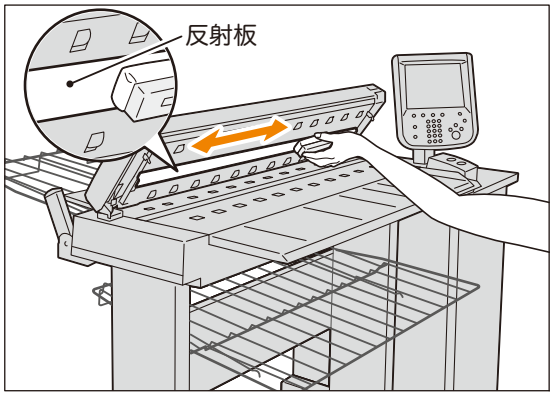
2. 原稿カバーの右端のレバーを上げて、原稿カバーを持ち上げます。



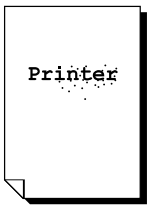
3. 本機に同梱のスキャナー清掃キットを使って、原稿カバーの裏の白い反射板をふきます。



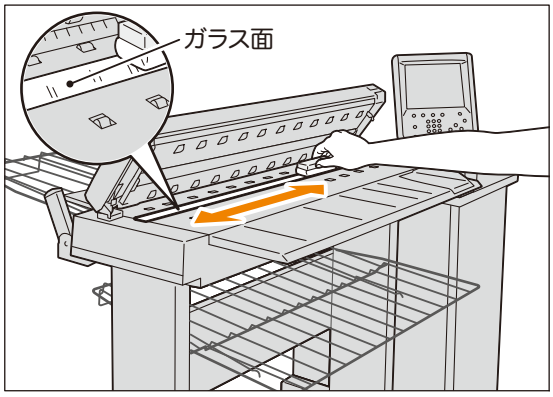
筋が発生したときは反射板をふきます。



4. 原稿読み取り部のガラス面をふきます。

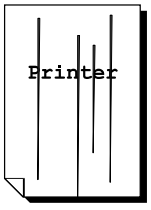


黒点が発生したときはガラス面をふきます。

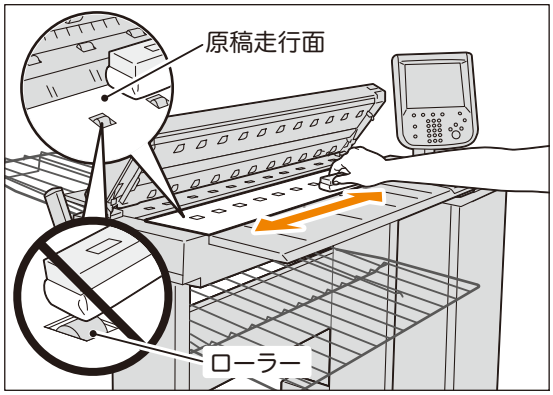


注記
- ガラス面を強く押しすぎると、故障やケガの原因になります。

5. 原稿走行面をふきます。

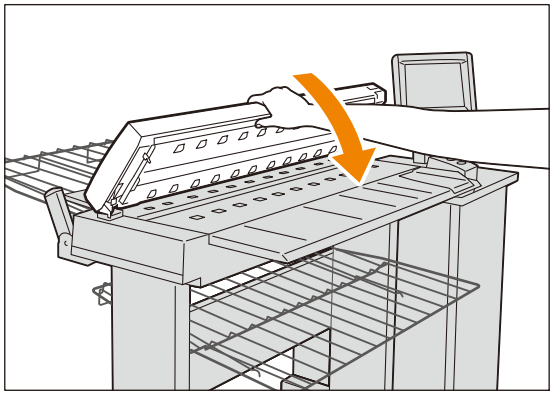


筋が発生したとき、原稿が詰まるときは、原稿走行面をふきます。



注記
- ローラーはふかないでください。ローラーをふくと、油分が付着して原稿走行スリップの原因になります。

6. 原稿カバーを元に戻します。



1.11　機械確認

ここでは、機械確認の機能について説明します。参照先は次のとおりです。

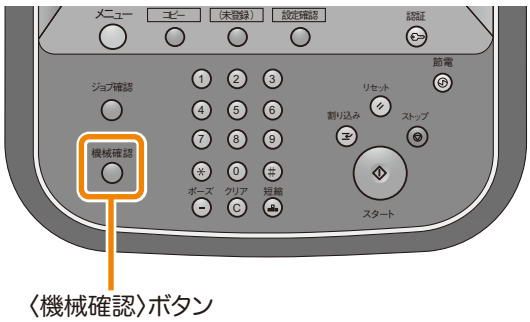
- 機械確認の概要 P.56
- 機械状態/レポート出力 P.57
- 消耗品の確認 P.59

1.11.1　機械確認の概要

機械の状態やプリントページ数を、画面で確認できます。また、登録されているスタンプの一覧をプリントできます。

1. 操作パネルの〈機械確認〉ボタンを押します。

［機械確認］画面では、次のことができます。



〈機械確認〉ボタン

機械状態の確認/レポート出力

本機の構成を確認できます。また、プリンターモードを切り替えたり、登録されているスタンプの一覧をプリントしたりできます。

参照 • 詳細については、「1.11.2 機械状態/レポート出力」（P.57）を参照してください。

消耗品の確認

消耗品の状態を確認できます。

参照 • 詳細については、「1.11.3 消耗品の確認」（P.59）を参照してください。

メーターの確認

メーター 1～3のカウントを表示します。

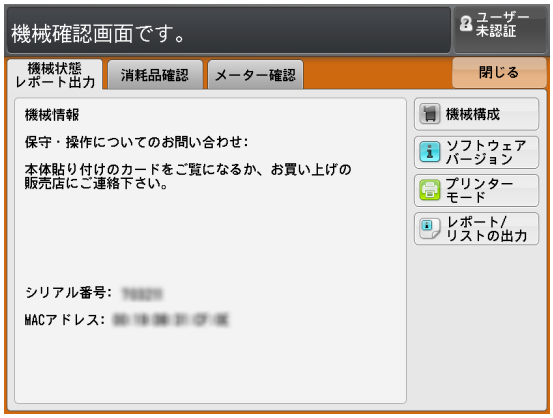
参照 • 詳細については、「1.8 メーターを確認する」（P.44）を参照してください。

1.11.2　機械状態/レポート出力

［機械状態 レポート出力］画面では、本機の構成の確認、プリンターモードの切り替え、レポート/リストの出力ができます。
各機能の詳細と参照先は、次のとおりです。

- 機械情報 P.57
- プリンターモード P.58
- レポート/リストの出力 P.58

1. 操作パネルの〈機械確認〉ボタンを押します。
2. 機械情報を確認できます。



機械情報

機械情報では、シリアル番号、機械構成、ソフトウェアバージョンを確認できます。

1. 機械情報を確認します。

保守・操作についてのお問い合わせ

保守・操作についてのお問い合わせ方法が記載されています。

シリアル番号

本機のシリアル番号を確認できます。

機械構成

［機械構成］を押すと、［機械構成］画面が表示されます。
次の項目を確認できます。

- 機械構成コード
- メモリーサイズ

ソフトウェアバージョン

[ソフトウェアバージョン]を押すと、[ソフトウェアバージョン]画面が表示されます。

次の項目を確認できます。

- Controller ROM
- IOT ROM
- IIT ROM
- Finisher ROM
- Finisher Fold1 ROM
- Finisher Fold2 ROM

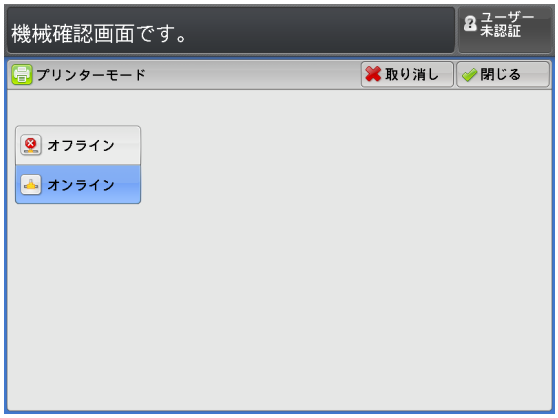
プリンターモード

プリンターのオンライン/オフラインを切り替える方法について説明します。

補足

- 通常、プリンターをオフラインに切り替えるには、プリンター操作パネルの左側にある〈オフライン〉ボタンを押してください。

1. [機械状態 レポート出力]画面で[プリンターモード]を押します。
2. プリンターモードを選択します。



オフライン

コンピューターからのデータが受信できなくなります。受信中のデータまでプリントされ、その後のデータは受信されません。

オンライン

コンピューターからのデータを受信します。

レポート/リストの出力

- スタンプの一覧を出力する

登録されているスタンプの一覧をプリントする方法について説明します。

1. [機械状態 レポート出力]画面で[レポート/リストの出力]を押します。

2. ［スタンプ一覧］を押します。

3. ［スタンプ一覧］を押します。
4. 操作パネルの〈スタート〉ボタンを押します。

   スタンプの一覧がプリントされます。

補足
- スタンプ一覧をプリントするときの給紙ロール / トレイと用紙のカット方法は、設定することができます。「11.3.8 詳細設定」（P.386）を参照してください。

1.11.3 消耗品の確認

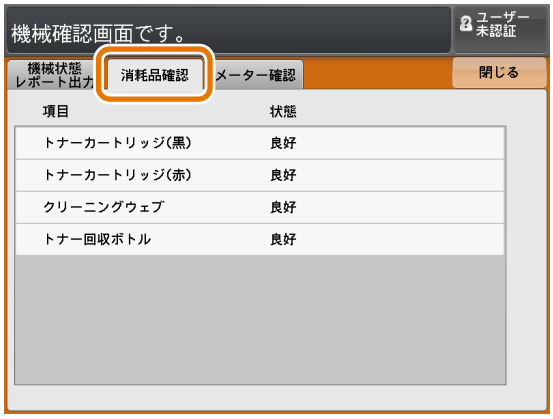
消耗品の状態は、［消耗品確認］画面で確認できます。消耗品の状態は、「良好」、「良好（予備を用意）」、「要交換」などで表示されます。
ここでは、消耗品の状態を確認する手順について説明します。

補足
- クリーニングウェブとトナー回収ボトルの交換は、カストマーエンジニアが行います。

参照
- 消耗品の交換方法については、「1.9 消耗品を交換する」（P.46）を参照してください。

1. 操作パネルの〈機械確認〉ボタンを押します。
2. ［消耗品確認］タブを押して、消耗品の状態を確認します。

   ［消耗品確認］画面では、次の項目を確認できます。
   - トナーカートリッジ（黒）
   - トナーカートリッジ（赤）
   - クリーニングウェブ
   - トナー回収ボトル

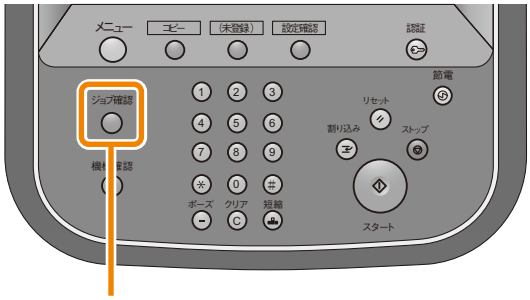


1.12　ジョブ確認

1.12.1　ジョブ確認の概要

ジョブ確認では、実行中や実行待ちのジョブや、完了したジョブなどを確認できます。

1. 〈ジョブ確認〉ボタンを押します。
［ジョブ確認］画面では、次のことができます。



〈ジョブ確認〉ボタン

ジョブの確認

実行中や実行待ちのジョブをリストで確認できます。

参照
- 詳しくは、「1.12.2 実行中/ 実行待ちのジョブを確認する」(P.60) を参照してください。

完了したジョブの状態確認

完了したジョブの状態を表示できます。

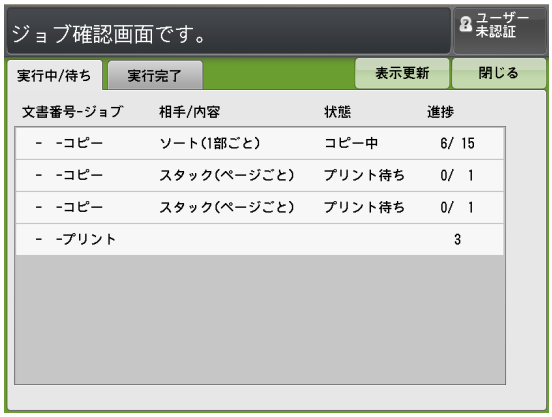
参照
- 詳しくは、「1.12.3 完了したジョブを確認する」(P.61) を参照してください。

1.12.2　実行中/ 実行待ちのジョブを確認する

実行中や実行待ちのジョブを確認する方法について説明します。

1. 操作パネルの〈ジョブ確認〉ボタンを押します。
2. 表示された画面で、実行中や実行待ちのジョブを確認します。

ジョブ	状態	進捗
コピー	コピー中	出力済み枚数/総出力枚数
コピー	プリント待ち	0/出力待ち枚数
プリント	−	出力待ちスプール数



注記
- ArcEPS　を使ってプリントしている場合、ジョブ確認画面の［実行中/待ち］タブの［相手/内容］に［占有モード］と表示されます。この間は、ArcEPS以外のプリントは受信しますが、占有モードを解除するまでプリントされません。

補足
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ［表示更新］を押して、表示を更新できます。
- プリントジョブはリストの最後に表示されます。

3. 確認後、[閉じる] を押します。

1.12.3 完了したジョブを確認する

完了したジョブを確認する方法について説明します。
ジョブが正常に完了したかどうかを確認できます。また、ジョブを選択すると、詳細を表示できます。

1. 操作パネルの〈ジョブ確認〉ボタンを押します。
2. [実行完了] タブを押して、完了したジョブを確認します。

補足
- [▲] を押して前画面、[▼] を押して次画面を表示できます。
- [表示更新] を押して、表示を更新できます。

3. ジョブの詳細を確認する場合は、該当するジョブを選択します。

4. 確認後、[閉じる] を押します。

1.13　ユーザー認証の操作

登録ユーザーを認証するには、本機の操作パネルを操作して認証する方法と、ICカードをICカードリーダーにタッチして認証する方法があります。
操作パネルで認証する場合は、User IDの入力が必要です。また、［認証/セキュリティ設定］の［認証の設定］で、［本体パネルのパスワード使用］を［する］に設定されている場合は、パスワードの入力も必要になります。

注記

- ［仕様設定］>［共通設定］>［システム時計/タイマー設定］の［自動リセット］で、自動リセットが設定されている場合、設定した時間が経過すると、自動的に認証が解除されます。設定については、「自動リセット」（P.378）を参照してください。
- 自動リセットが設定されていない場合、認証解除の操作をしないと、誰でも本機を使用できる状態になります。本機を使用したあとは、必ず、認証を解除してください。
- ダイレクトスキャン中は、ユーザー認証の操作ができません。ダイレクトスキャンについては、「6.6 ダイレクトスキャン」（P.235）を参照してください。

補足

- 認証の設定で利用制限している機能がある場合、認証を解除しても実行中の処理は継続されます。すべてのコピー/スキャン/プリントの出力が完了すると、メニュー画面に戻ります。
- ICカードリーダーを利用するには、オプションが必要です。弊社の営業担当者にお尋ねください。
- IC カードリーダーは、本機の操作パネルでのコピー、スキャン、プリントを制限するための、IC カードを使った認証を行う装置です。利用時の管理/取り扱いについては、ICカードリーダーの取扱説明書を参照してください。

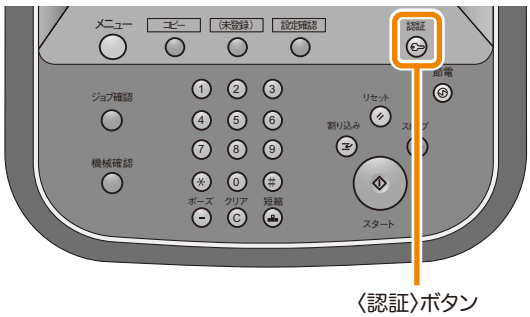
参照

- ［本体パネルのパスワード使用］については、「本体パネルのパスワード使用」（P.427）を参照してください。
- タッチパネルディスプレイからのユーザー登録については、「8.5.3 ユーザーを登録する」（P.265）を参照してください。

1.13.1　操作パネルでUser ID認証/解除する

User ID認証

1. 〈認証〉ボタンを押します。

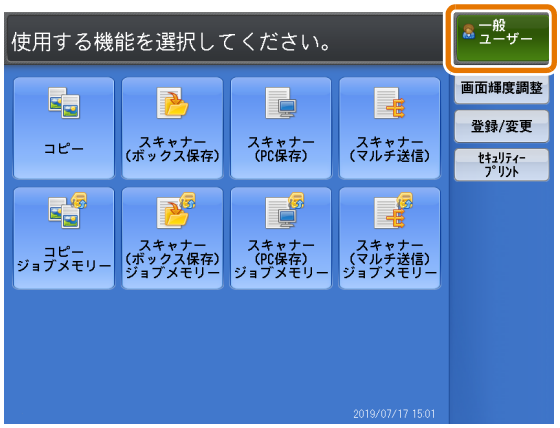


2. 操作パネルの〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、User ID、必要に応じてパスワードを入力し、［確定］を押します。

注記

- 割り込みとユーザー認証は、連動しません。割り込みを解除する前に必ずユーザー認証を終了してください。

ユーザーが認証されると、メニュー画面の右上にユーザー名またはユーザー種別が表示され、操作パネルの〈認証〉ボタンが点灯します。



認証先（レルム名）の選択

外部認証で運用している場合、認証サーバーに Authentication Management を使用しているとき、次の手順で認証先（レルム名）を選択することができます。

補足

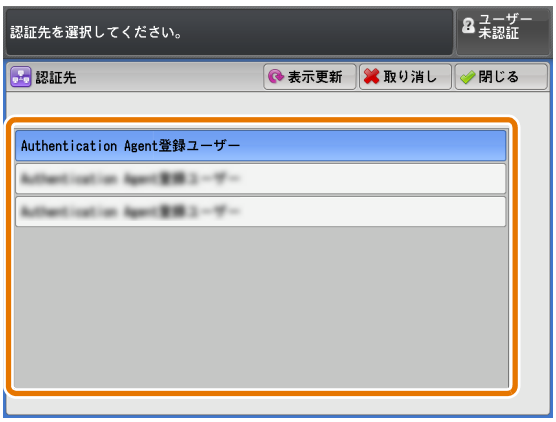
- 「レルム」とは、認証が適用される範囲です。

(1) ［ ］を押します。

補足

- 外部認証で運用している場合に、［ ］が表示されます。

(2) 認証先を選択します。



補足
- [表示更新]を押すと、最新の情報が表示されます。
- [▲]を押して前画面、[▼]を押して次画面が表示できます。

(3) [閉じる]を押します。

認証解除

1. 操作パネルの〈認証〉ボタンを押します。
   ユーザー認証が解除されます。

補足
- ユーザー認証を解除すると、〈認証〉ボタンが消灯します。

1.13.2 ICカードで認証/解除する

ICカード認証

1. ICカードリーダーにICカードをタッチします。
   ユーザーが認証されます。

注記
- ICカードリーダーにICカードを確実にタッチしてください。
- 本機の設定によっては、パスワードの入力が必要な場合があります。パスワードの入力を間違えた場合は、操作パネルの〈認証〉ボタンを押して、いったん認証状態を解除してから、再度ICカードをICカードリーダーにタッチしてください。

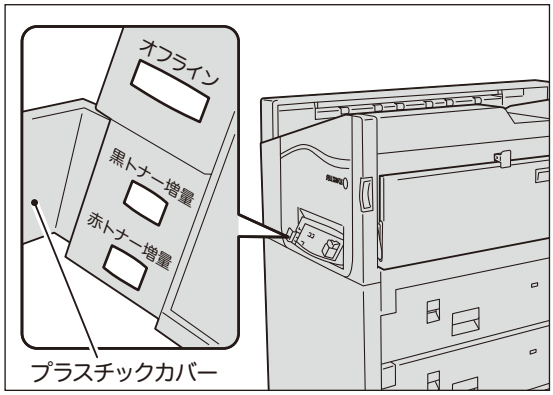
認証解除

1. 操作パネルの〈認証〉ボタンを押します。
   ユーザー認証が解除されます。

1.14　トナー増量ボタンについて

プリンター内部のトナー量を増やすことで、プリント全体の濃度を濃くできます。
黒の濃度と赤の濃度は、別々に濃くできます。

1. プリンター操作パネルの左側にある〈オフライン〉ボタンを押します。
   オフラインランプが点灯します。
2. 〈オフライン〉ボタンの下にあるプラスチックカバーを開きます。
3. 〈黒トナー増量〉ボタン、または〈赤トナー増量〉ボタンを押します。
   ランプが点灯して、選択したトナーが増量されます。



補足
- 1度ボタンを押すと、約40秒間トナーが増量されます。ランプ点灯中に再度〈黒トナー増量〉ボタン、または〈赤トナー増量〉ボタンを押すと、増量を停止します。

4. プラスチックカバーを閉じます。
5. プリンター操作パネルの左側にある〈オフライン〉ボタンを押します。
   オフラインランプが消灯します。

1.15　原稿について

1.15.1　使用できる原稿

次の原稿を使用できます。

原稿サイズ	厚さ
原稿の幅　176～914.4 mm（最大受け入れ幅945 mm） 原稿の長さ　210～15,000 mm	0.05～0.2 mm （後方排出時最大受け入れ厚さ12.7 mm*）

*　厚さが0.2 mmを超え、12.7 mmまでの平面な堅い原稿（スチレンボード、厚紙）を読み込みできます。
ただし、原稿を手で支える必要があります。また、原稿を正確に読み込みできることを保証するものではありません。

1.15.2　ドキュメントキャリア（オプション）を使用する原稿

次の原稿は、ドキュメントキャリアに入れて使用してください。

- 破れ、しわ、穴あき、激しいカールがある原稿
- ホチキスで留めた原稿
- のりや接着テープで貼り合わせた原稿

1.15.3　原稿取り扱い上の注意事項

原稿を取り扱うときは、次のことに注意してください。

- のりや接着テープで貼り合わせた原稿、修正液を使った原稿を使うと、原稿の読み取り部に汚れが付くことがあります。特にスティック状ののりやスプレーのりを使用するときは、注意してください。
  原稿の読み取り部が汚れていると、コピーに黒線が出ることがあります。
- 折りめ、しわ、破れめ、穴あきのない原稿を使用してください。原稿づまり、原稿破れなどの原因になります。
- 丸めてある原稿の場合は、直径40 mm以上のものを使用してください。40 mm未満のときは、先端を平らに伸ばしてください。
- 厚みのある原稿は、手で支えて読み込ませてください。

1.16　用紙について

本機で使用できる用紙について説明します。
適正でない用紙を使用した場合は、紙づまりや印字品質の低下、故障、および装置破損の原因になることがあります。本機の性能を効果的に活用するために、弊社推奨の用紙をご利用いただくことをお勧めします。
なお、推奨の用紙以外を使用するときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

⚠警告

電気を通しやすい紙（折り紙/カーボン紙/導電性コーティングを施された紙など）を使用しないでください。ショートして火災の原因となるおそれがあります。

注記
- 水、雨、蒸気などの水分により、印刷面の画像がはがれることがあります。詳しくは弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

1.16.1　用紙の種類

一般に使用されている用紙（一般紙と呼びます）にコピーやプリントをする場合は、規格に合った用紙を使用してください。より鮮明にコピーやプリントをするためには、弊社推奨紙の使用をお勧めします。

種類	紙質 / 質量	セットできる用紙サイズ	推奨紙		
			用紙名	質量 / 厚さ	サイズ
ロール紙	普通紙 トレーシングペーパー フィルム 52.3～81.4 g/m^2	A0、A1、A2、A3幅 880 mm幅 620（625）mm幅 435（440）mm幅 34"、22"、17"、11" 36"、24"、18"、12" 外径180 mm以下	E紙	64 g/m^2	A0～A3
			GX75	74 g/m^2	
			PF90フィルム	75 μm	
カット紙	普通紙 トレーシングペーパー 52.3～81.4 g/m^2	A3、A4 12"、11"、9"、8.5"	P紙	65 g/m^2	A3/A4
			GX75*1	74 g/m^2	
手差し	普通紙 トレーシングペーパー フィルム 52.3～81.4 g/m^2	A0、A1、A2、A3、A4幅 880 mm幅 620（625）mm幅 435（440）mm幅	P紙	65 g/m^2	A3/A4
			GX75*1	75 g/m^2	A3/A4
			PF90フィルム	75 μm	A1～A4

*1　A3はたて目のみ可

注記
- プリンタードライバーで選択した用紙サイズや用紙種類と異なる用紙でプリントしたり、適応していない用紙をトレイにセットしてプリントしたりすると、紙づまりの原因になります。適正なプリントをするために、正しい用紙サイズ、用紙種類、用紙トレイを選択してください。

1.16.2　紙折りできる用紙

フォルダー（オプション）で、紙折りできる用紙の種類、厚さ、サイズは、次のとおりです。

項目	内容
用紙の種類	普通紙
用紙の質量	64.0～81.4 g/m^2
用紙サイズ	最大幅：914.4 mm（36"） 最小幅：210 mm 最大長：2,500 mm* 最小長：420 mm （ただし、最大折り回数30回まで）

*　2,500 mm以上は、第一折りのみ（ただし、用紙の種類、折り方で異なります。）

1.16.3　使用できない用紙

弊社が推奨していない用紙/トレーシングペーパー/フィルムを使用された場合、故障や用紙づまりの原因になります。本製品には、弊社が推奨する用紙/トレーシングペーパー/フィルムをご使用ください。

- OHPフィルム
- 126 g/m^{2}以下のコート紙
- NK特片面アート（127/157/209 g/m^2）
- アートフラックス（クロス紙）
- カラーコピー用高級和紙
- 色地用布地転写用紙
- スーパートレース55/60
- ハイトレース
- インクジェット専用紙
- ラベル紙
- ケント紙
- カーボン紙
- ゼログラフィックフォトペーパー
- 155℃の熱で変質するインクを使った用紙
- ホチキス、クリップ、リボン、テープなどが付いた用紙
- ざら紙や繊維質の用紙など、表面が滑らかでない用紙
- 貼り合わせた用紙、のりが付いた用紙
- 湿っている用紙、ぬれている用紙
- 電飾フィルム
- デジタルコート紙（光沢タイプ）
- タックフィルム（透明/白色/強粘着白色）
- 装丁紙ソーテル（210 g/m^2）
- 布地転写用紙
- 水転写紙
- スタートレース
- OKトップコート（128 g/m^2）
- 感熱紙/熱転写用紙
- 黒い折り紙
- ケミカル和紙
- 縁取り用紙
- 静電気で密着している用紙
- 表面に特殊コーティングされた用紙
- プリンターやコピー機で一度プリントした用紙
- しわや折れ、破れのある用紙
- 厚すぎる用紙、薄すぎる用紙
- 表面加工したカラー用紙
- 酸性紙を使用した場合は、文字がぼやけることがあります。
  そのときは中性紙に替えてください。

1.16.4　用紙の取り扱いと保管

用紙の取り扱い

折りめ、しわのある用紙やカールした用紙は、使用しないでください。紙づまりの原因になります。

用紙の保管

用紙を保管するときの環境は、湿度40～45 %が理想です。次のことに注意して保管してください。

- 用紙は湿気を嫌います。保管するときは防湿の留意がしてある弊社用紙の包装紙に包み、湿気が少ない場所に保管してください。特にトレーシングペーパーは、ビニール袋や防湿加工袋などに入れ、除湿剤を入れることをお勧めします。
- 機械を長時間お使いにならないときは、用紙を機械から出して保管してください。

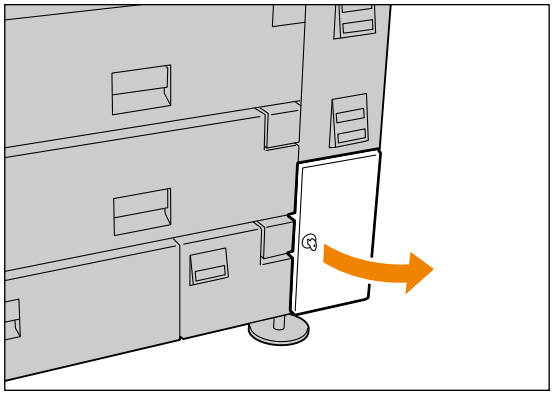
1.17　ペーパーヒーターと用紙加湿器について

梅雨などの湿度が高いときは、ペーパーヒーターを使用します。また、冬場などの乾燥しているときは、用紙加湿器（オプション）を使用します。

補足
- ペーパーヒーターと用紙加湿器の効果は、用紙の種類や質量、プリンターの使用状態によって異なります。
- ペーパーヒーターと用紙加湿器は、電源ブレーカーを入れると、使用できます。

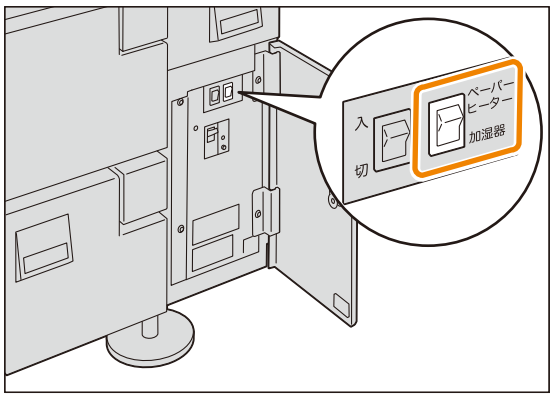
1.17.1　ペーパーヒーター / 用紙加湿器の電源を入れる

1. キーを回してそのまま引き、プリンターのロアードアを開けます。

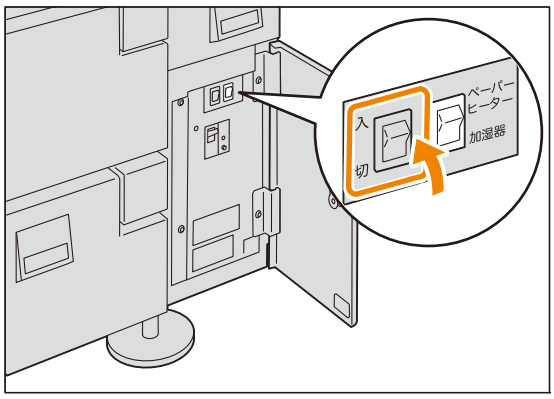


2. 用紙加湿器を装着している場合は、切り替えスイッチで、ペーパーヒーターを使用するか、用紙加湿器を使用するかを選択します。

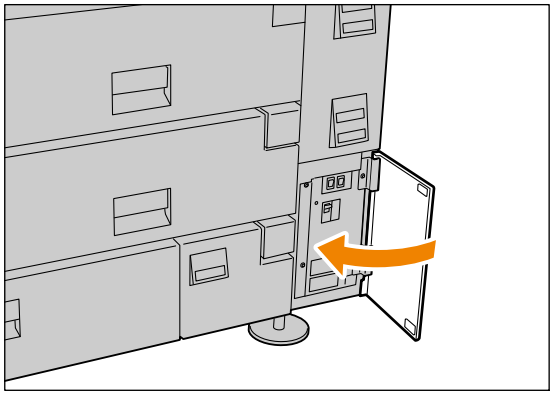
補足
- ペーパーヒーターと用紙加湿器は同時に使用できません。
- 用紙加湿器を装着していない場合、このスイッチはありません。



3. 入/切スイッチを［入］にします。



4. ドアを閉じ、キーを回してドアが開かないようにロックします。

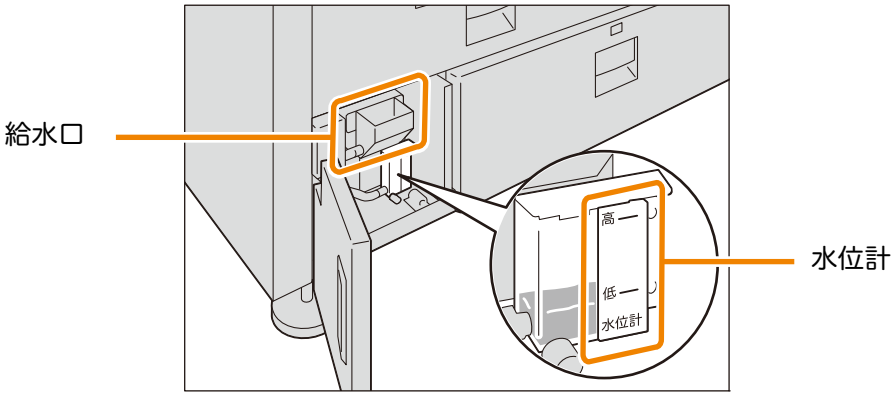


1.17.2　用紙加湿器に給水する

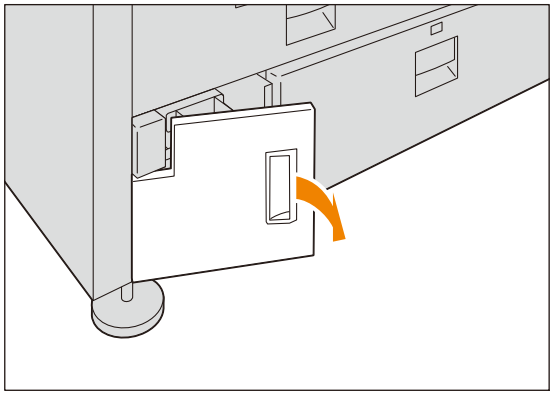
用紙加湿器（オプション）の水は、水位計の目盛りが「低」より下になったら補給します。

補足

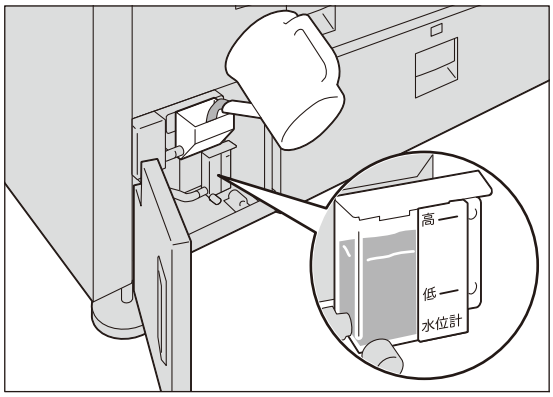
- 給水を促すメッセージは出ません。定期的に水位計を確認してください。
- 用紙加湿器から水を排出する場合は、弊社のカストマーエンジニアまたは販売店にお問い合わせください。



1. 用紙加湿器のドアを開きます。



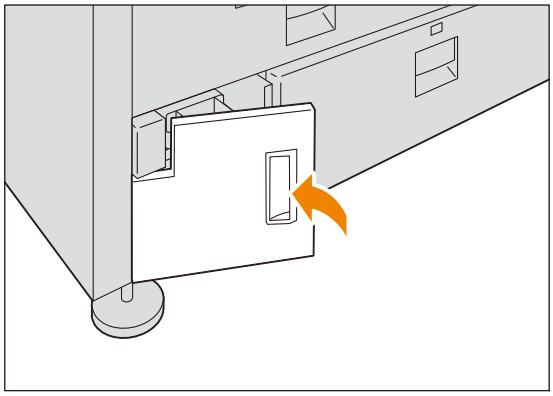
2. じょうごなどの容器を使用して、給水口から水を入れます。



注記
- 水位計の「高」を超えないように給水してください。

補足
- 用紙加湿器の容量は、約1,800mlです。

3. 用紙加湿器のドアを閉じます。



第2章　コピー

コピー機能と［コピー］画面について説明します。

2.1　コピー操作の流れ 74
2.2　コピーを中止する 78
2.3　用紙サイズを指定してコピーする（オートモード） 80
2.4　原稿上の指定した色を赤色でコピーする（赤黒コピー） 82
2.5　原稿上の色を編集する 84
2.6　原稿を最大幅で読み取ってコピーする 86
2.7　手差しで給紙する（手差しコピー） 88
2.8　長尺原稿をコピーする 91
2.9　紙折りしてコピーする 92
2.10　複数枚の原稿をコピーする（1部ごとにソート） 94
2.11　スタンプを付けてコピーする 96
2.12　サンプルコピーをする 98
2.13　追加コピーをする 100
2.14　割り込んでコピーする 102
2.15　［コピー（オートモード）］画面 103
2.16　［コピー（マニュアルモード）］画面 107
2.17　コピー - ［画質調整］画面 114
2.18　コピー - ［読み取り方法］画面 122
2.19　コピー - ［出力形式］画面 130

2.1 コピー操作の流れ

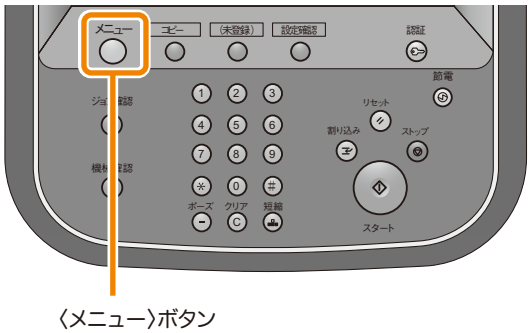
ここでは、基本的なコピー操作の流れについて説明します。参照先は次のとおりです。

- Step1 機能を選択する P.74
- Step2 部数を入力する P.75
- Step3 コピーを開始する P.76

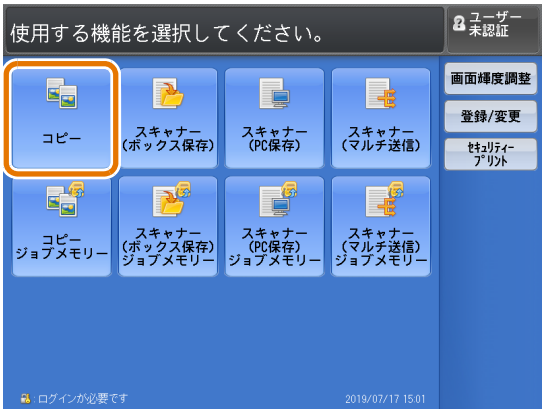
2.1.1 Step1 機能を選択する

［コピー］画面で、設定する機能を選択します。

1. 〈メニュー〉ボタンを押します。

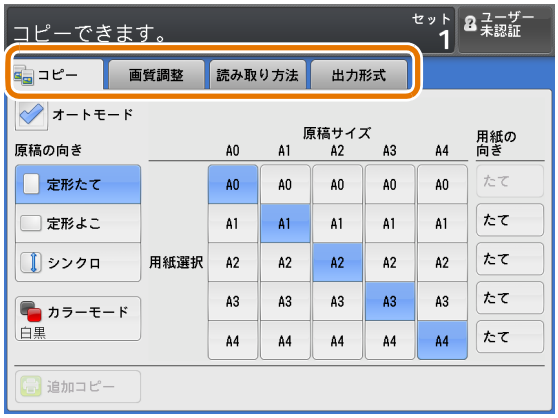


2. ［コピー］を押します。



3. 必要に応じて、各タブから設定する機能を選択します。

各タブの参照先は、次のとおりです。



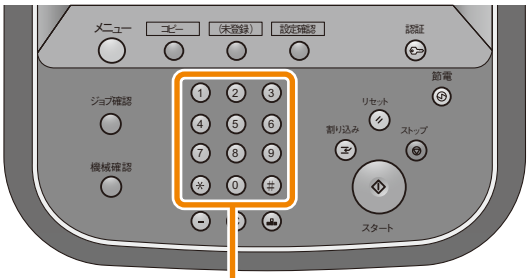
参照

- 「2.15 ［コピー（オートモード）］画面」(P.103)
- 「2.16 ［コピー（マニュアルモード）］画面」(P.107)
- 「2.17 コピー - ［画質調整］画面」(P.114)
- 「2.18 コピー - ［読み取り方法］画面」(P.122)
- 「2.19 コピー - ［出力形式］画面」(P.130)

2.1.2 Step2 部数を入力する

コピー部数を入力する手順について説明します。コピー部数は、99部まで入力できます。

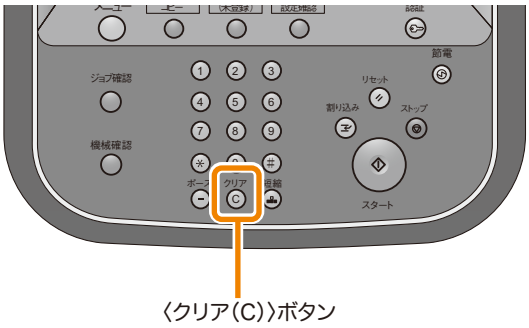
1. 〈数字〉ボタンでコピー部数を入力します。



〈数字〉ボタン

入力した部数がタッチパネルディスプレイの右上に表示されます。

2. 入力を間違えた場合は、〈クリア（C)〉ボタンを押して、入力し直します。



〈クリア(C)〉ボタン

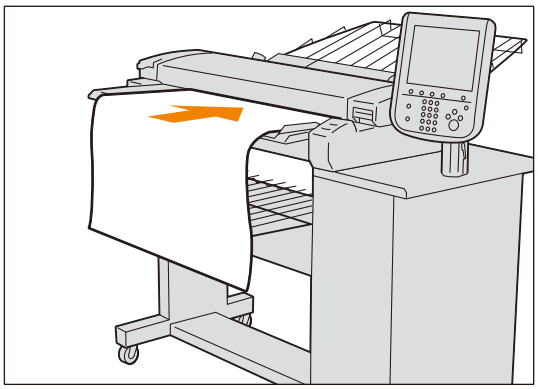
2.1.3　Step3 コピーを開始する

原稿をセットし、コピーを開始する手順について説明します。

注記

- 原稿を読み込み中に、原稿を上から押さえつけたり引っぱったりすると、原稿づまりが発生することがあります。
- 穴あき原稿をセットするときは、穴あき部が後端になるように挿入してください。穴あき部を先端にすると、原稿づまりが発生することがあります。

1. コピーする面を下に向け、原稿ガイドに合わせて奥に突き当たるまで挿入します。

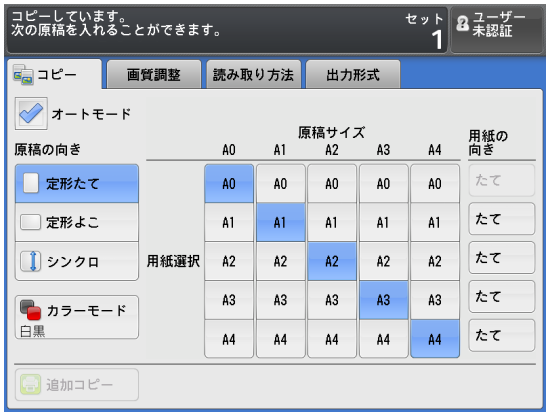


補足

- 原稿ガイドを右にずらすことによって、原稿の読み込み位置をずらすこともできます。
- 厚紙の原稿をコピーする場合は、「厚紙の原稿を読み込む場合」（P.76）を参照してください。

原稿が自動的に引き込まれ、いったん停止します。

その後、原稿の読み込みが自動的にスタートします。



注記

- 原稿が搬送されるまで、手を離さないでください。原稿が長い場合、スキャナーから落ちることがあります。

補足

- 仕様設定で原稿の読み込み開始方法を［マニュアルスタート］に設定している場合は、〈原稿スタート〉ボタンを押します。
  マニュアルスタートの設定方法については、「原稿読み込み開始方法」（P.384）を参照してください。
- 問題が発生すると、タッチパネルディスプレイにエラーメッセージが表示されます。メッセージに従って対処してください。

2. 排出された原稿を取り除きます。

厚紙の原稿を読み込む場合

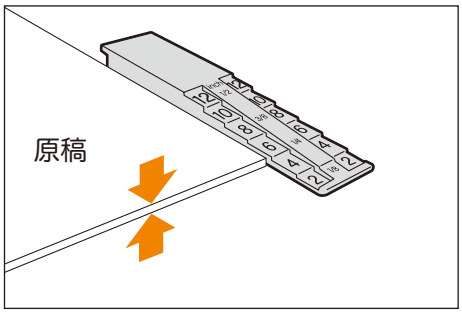
本機では、厚さ12.7 mmまでの原稿を読み込めます。厚紙の原稿を読み込むときは、原稿カバーにある原稿厚調整レバーを調整します。
レバーの位置と対応する原稿の厚さの目安は、次のとおりです。

レバーの位置	原稿の厚さ
1段目（目盛り0 mm）	0～1 mm
2段目（目盛り2 mm）	2 mm±1 mm
3段目（目盛り4 mm）	4 mm±1 mm
4段目（目盛り6 mm）	6 mm±1 mm
5段目（目盛り8 mm）	8 mm±1 mm

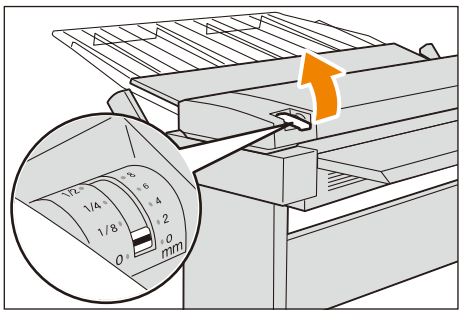
レバーの位置	原稿の厚さ
6段目（目盛り 10 mm）	10 mm±1 mm
7段目（目盛り 12 mm）	12 mm±1 mm

注記
- 厚紙の原稿を読み込むときは、Uターンガイドを押し倒してください。

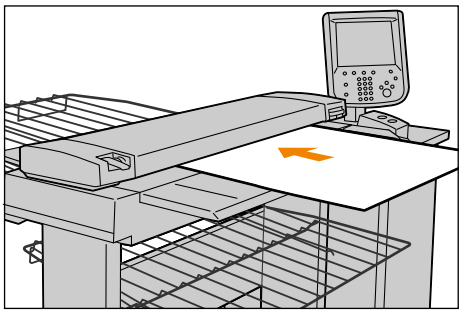
1. 読み込む原稿の厚さを測ります。



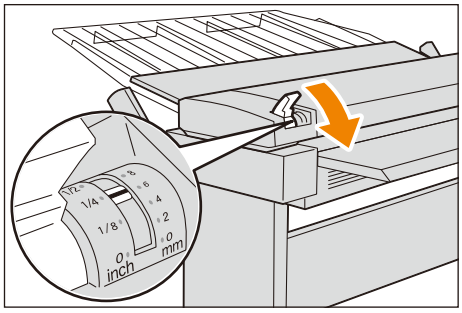
2. 読み込む原稿の厚さに原稿厚調整レバーを動かします。



3. コピーする面を下に向け、原稿ガイドに合わせて奥に突き当たるまで挿入します。
   原稿が自動的に引き込まれ、いったん停止します。
   その後、原稿の読み込みが自動的にスタートします。
4. 排出された原稿を取り除きます。



5. 読み込んだあとに、レバーを元の位置（1段目：目盛り0 mm）に戻します。



2.2 コピーを中止する

原稿の搬送を中止する、またはコピーを中止する手順について説明します。参照先は、次のとおりです。

- 原稿の搬送を中止する.....P.78
- コピーを中止する P.79

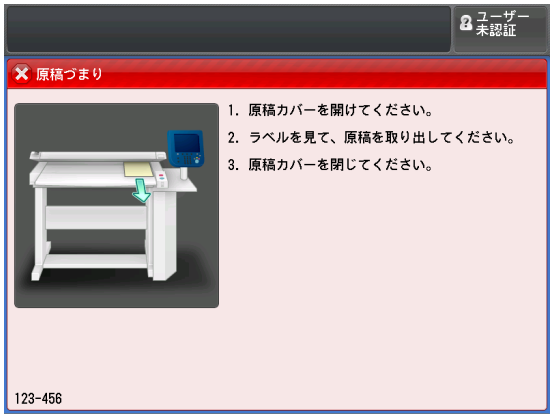
2.2.1 原稿の搬送を中止する

原稿が曲がったり、破れそうなときは、搬送を中止します。

1. 原稿を搬送中に、スキャナーの〈原稿ストップ〉ボタンを押します。

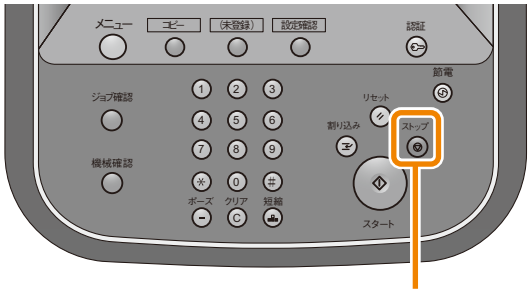
原稿の搬送が停止します。

2. タッチパネルディスプレイに表示されたメッセージに従って、対処してください。



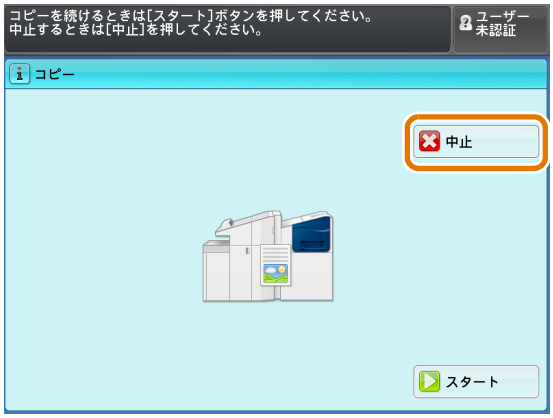
2.2.2 コピーを中止する

1. 操作パネルの〈ストップ〉ボタン、またはタッチパネルディスプレイの［ストップ］を押します。



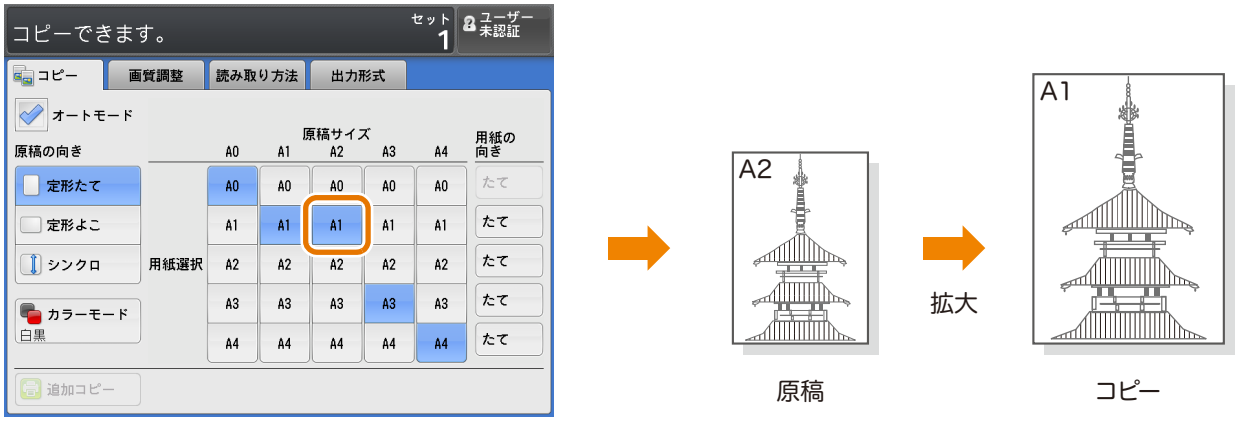
〈ストップ〉ボタン

2. ［中止］を押します。



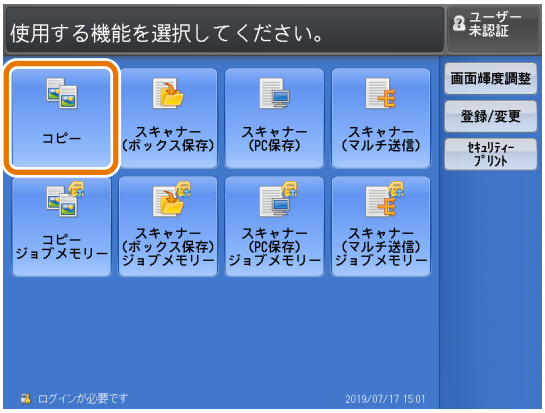
2.3 用紙サイズを指定してコピーする（オートモード）

オートモードは、原稿サイズごとに出力する用紙サイズを対応表（マトリックス）を使ってあらかじめ設定しておくことで、自動的に拡大/縮小してコピーする機能です。本機では、出力する用紙の向きを、用紙サイズごとに設定できます。このことにより、原稿はすべてたて方向に挿入し、折り姿を整えるために、A2サイズだけよこ向きに出力するといった使い方が簡単にできます。
次の例では、A2サイズの原稿はA1サイズに拡大（141.4 %）されます（四角で囲った部分が設定値です）。



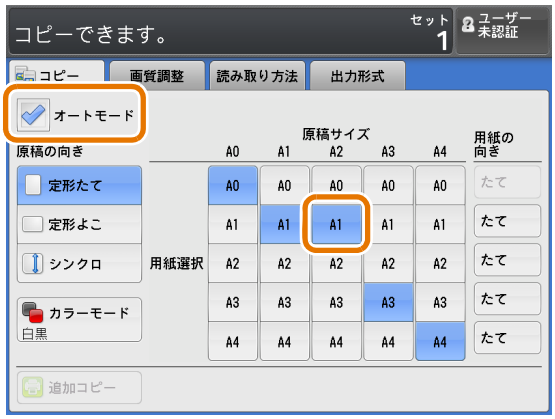
ここでは、A2定形原稿をたて方向に挿入し、A1用紙（A1ロール紙たて向き）に拡大コピーする例を説明します。

1. メニュー画面で［コピー］を押します。



2. ［オートモード］チェックボックスがオンになっていることを確認します。

3. ［原稿サイズ］は［A2］、［用紙選択］は［A1］のマトリックスを押します。



補足
- ［原稿の向き］が［定形たて］で［用紙の向き］が［よこ］の場合など、原稿と用紙の向きが異なる場合は、仕様設定機能の［オートモードの回転方向設定］の設定に従って画像が回転して出力されます。設定方法については、「11.4.5 オートモードの回転方向設定」（P.395）を参照してください。

4. 必要に応じて、そのほかの機能を設定します。

5. 操作パネルの〈数字〉ボタンでコピー部数を入力します。

参照
- 「2.1.2 Step2 部数を入力する」（P.75）

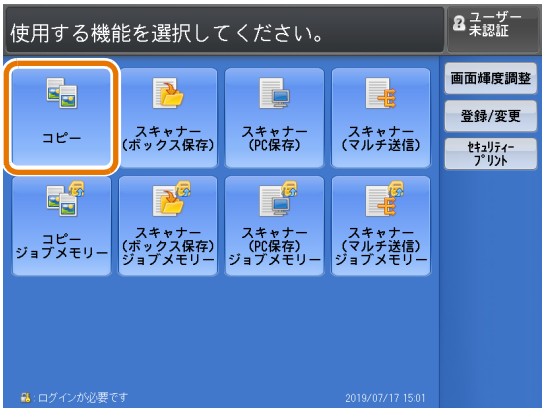
6. 原稿をセットします。

参照
- 「2.1.3 Step3 コピーを開始する」（P.76）

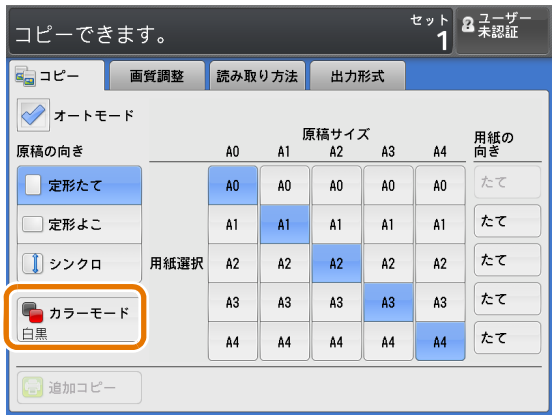
2.4　原稿上の指定した色を赤色でコピーする（赤黒コピー）

指定した色を赤色に置き換えてコピーします。

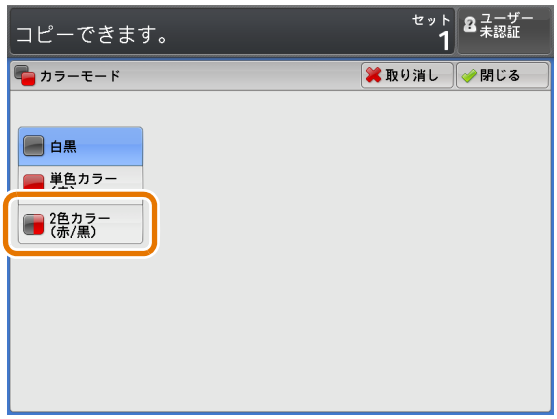
1. メニュー画面で［コピー］を押します。



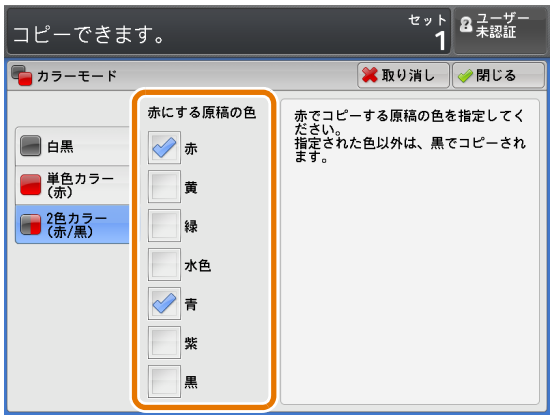
2. ［カラーモード］を押します。



3. ［2色カラー（赤/黒）］を押します。



4. 赤色でコピーする原稿の色を選択します。



補足
- 各色の認識範囲を設定できます。設定方法については、「11.3.4 読み取り色範囲指定」（P.381）を参照してください。

5. 必要に応じて、そのほかの機能を設定します。

6. 操作パネルの〈数字〉ボタンでコピー部数を入力します。

参照
- 「2.1.2 Step2 部数を入力する」（P.75）

7. 原稿をセットします。

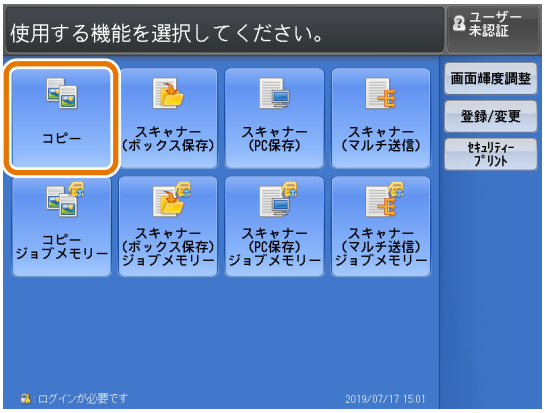
参照
- 「2.1.3 Step3 コピーを開始する」（P.76）

2.5　原稿上の色を編集する

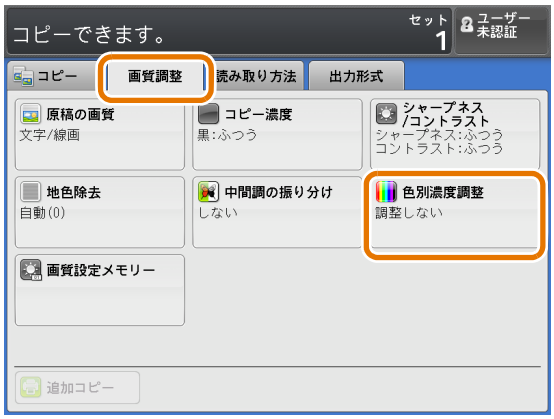
2.5.1　原稿上の指定した色の濃度を変える（色別濃度調整）

カラー原稿をコピーするときに、画像の色別にコピーの濃度を変えることができます。

1. メニュー画面で［コピー］を押します。



2. ［画質調整］タブを押します。
3. ［色別濃度調整］を押します。



4. ［調整する］チェックボックスをオンにします。
5. 各色を調整します。
6. 必要に応じて、そのほかの機能を設定します。
7. 操作パネルの〈数字〉ボタンでコピー部数を入力します。

参照　•「2.1.2 Step2 部数を入力する」（P.75）

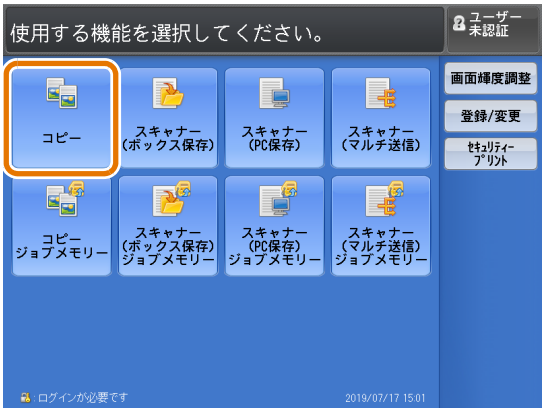
8. 原稿をセットします。

参照　•「2.1.3 Step3 コピーを開始する」（P.76）

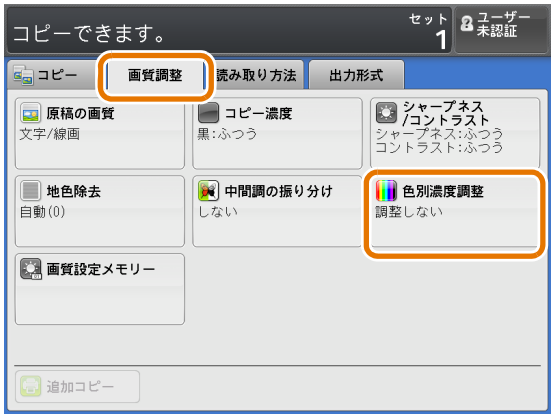
2.5.2　原稿上の指定した色を削除する（色カット）

カラー原稿上の特定の色の画像を削除してコピーできます。

1. メニュー画面で［コピー］を押します。



2. ［画質調整］タブを押します。
3. ［色別濃度調整］を押します。



4. ［調整する］チェックボックスをオンにします。
5. カットしたい色のチェックボックスをオンにします。
6. 必要に応じて、そのほかの機能を設定します。
7. 操作パネルの〈数字〉ボタンでコピー部数を入力します。

参照 •「2.1.2 Step2 部数を入力する」（P.75）

8. 原稿をセットします。

参照 •「2.1.3 Step3 コピーを開始する」（P.76）

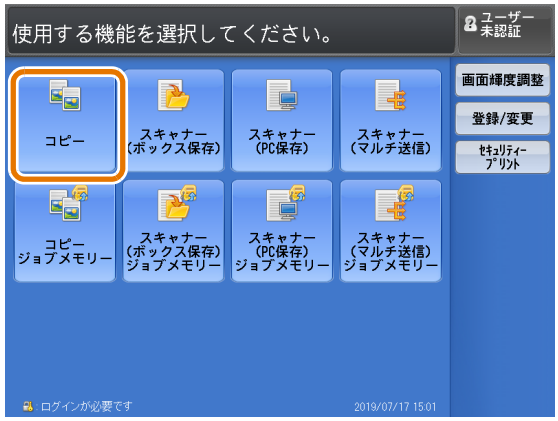
2.6　原稿を最大幅で読み取ってコピーする

［最大幅］を設定すると、最大幅（914.4 mm）で読み取ってコピーします。非定形サイズの原稿を、読み取り幅を気にせず用紙を指定してコピーする場合に便利です。

注記

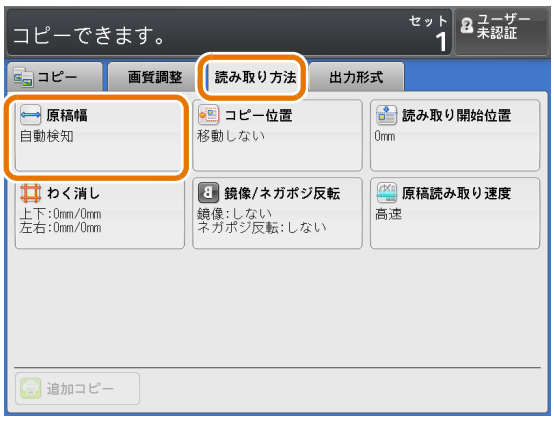
- この機能は、マニュアルモードのときに働く機能です。オートモードでは働きません。
- 原稿を最大幅で読み取ると、次の機能は正しく機能しない場合があります。
  - コピー位置
  - わく消し
  - 鏡像
  - ネガポジ反転

1. メニュー画面で［コピー］を押します。



2. ［オートモード］チェックボックスをオフにします。

3. ［読み取り方法］タブを押します。
4. ［原稿幅］を押します。



5. ［最大幅］を押します。
6. 必要に応じて、そのほかの機能を設定します。
7. 操作パネルの〈数字〉ボタンでコピー部数を入力します。

参照 •「2.1.2 Step2 部数を入力する」(P.75)

8. 原稿をセットします。

参照 •「2.1.3 Step3 コピーを開始する」(P.76)

2.7　手差しで給紙する（手差しコピー）

非定形サイズの用紙や、あまり使わないサイズの用紙は、手差しテーブルからコピーできます。

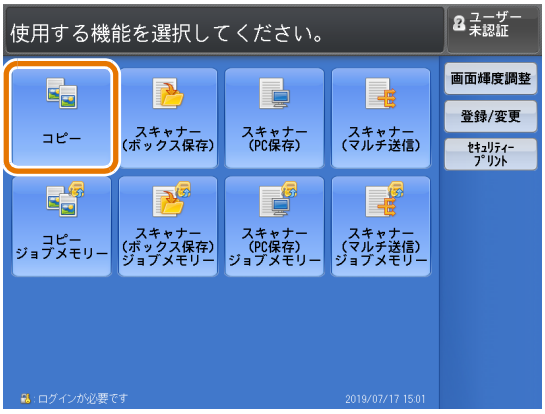
注記

- 指定した用紙と異なるサイズの用紙をセットすると、イメージが欠けたり、余白が付いたりすることがあります。

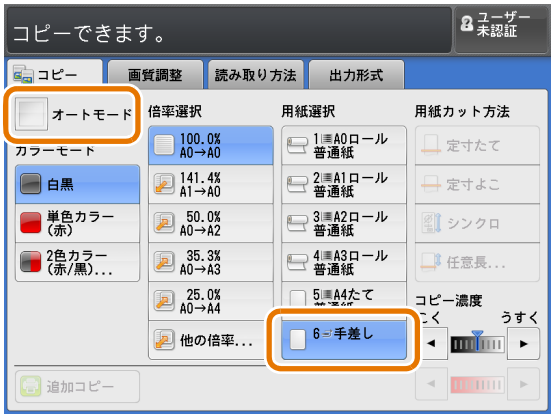
補足

- 手差しコピーをするときは、次の機能は設定できません。
  - コピー位置（センター移動、コーナー移動）
  - 紙折り
  - 仕分け（ソート（1部ごと）、マルチジョブ）
  - 先端後端余白
  - サンプルコピー

1. メニュー画面で［コピー］を押します。



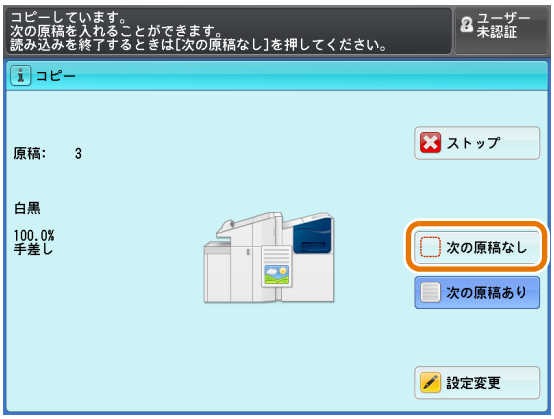
2. ［オートモード］チェックボックスをオフにします。
3. ［手差し］を押します。
4. 必要に応じて、機能を設定します。
5. 原稿をセットします。



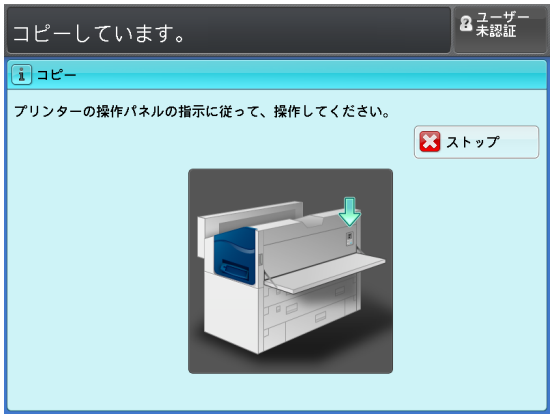
参照

- 「2.1.3 Step3 コピーを開始する」（P.76）

6. すべての原稿を読み終えたら、［次の原稿なし］を押します。

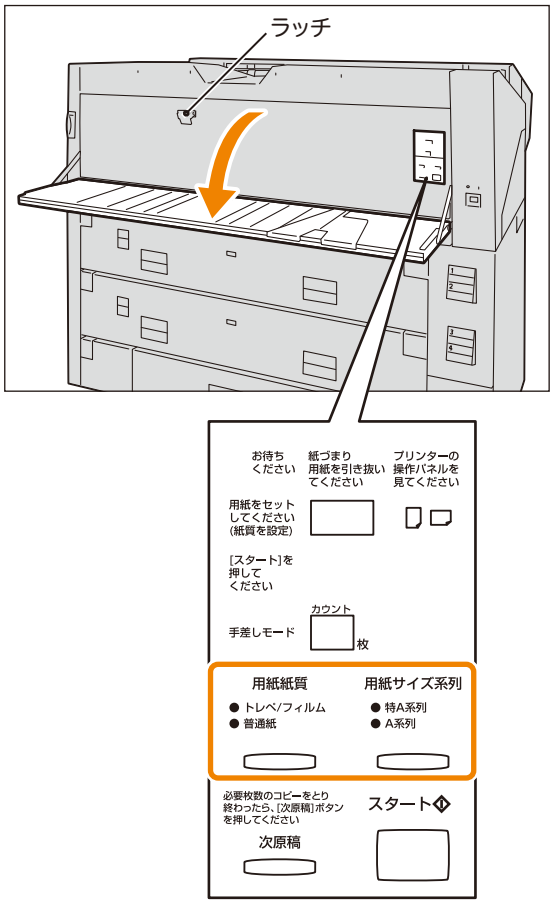


7. 右の画面が表示されたら、プリンターにある操作パネルの指示に従って操作します。

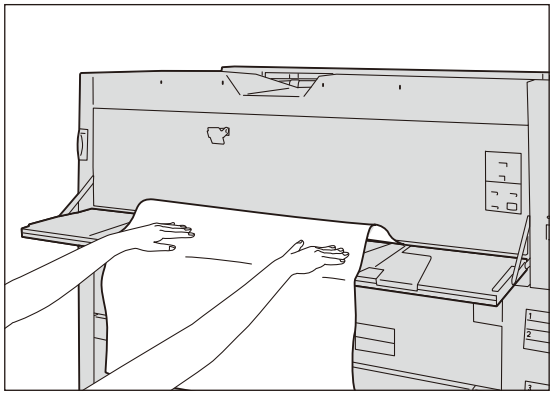


8. ラッチを押しながら手差しテーブルを手前に倒して開けます。

9. 手差しパネルの用紙紙質、用紙サイズ系列のボタンで、セットする用紙の種類を指定します。



10. 用紙の右端をガイドに合わせて、挿入します。
用紙が突き当たって止まったら、さらに用紙を押して3 cm以上のループを作ります。
用紙が自動的に引き込まれ、停止します。



参照
- 用紙のセットの仕方については、「1.7.3 手差しで給紙する」（P.41）を参照してください。

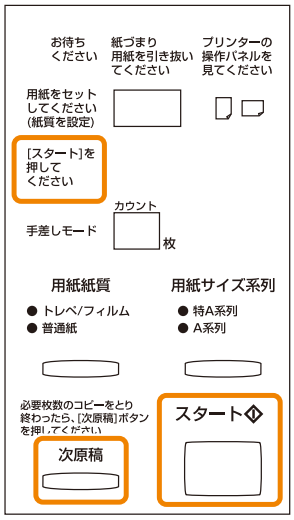
11. 手差しパネルの［スタートを押してください］が点灯したら、〈スタート〉ボタンを押します。
コピーが始まります。

補足
- 複数枚のコピーをとるときは、手順10.と11.を繰り返します。

12. 次の原稿をコピーする場合は、〈次原稿〉ボタンを押します。
2枚めに読み込んだ原稿のコピーを開始します。

13. 手差しコピーを終了するときには、〈次原稿〉ボタンを押します。

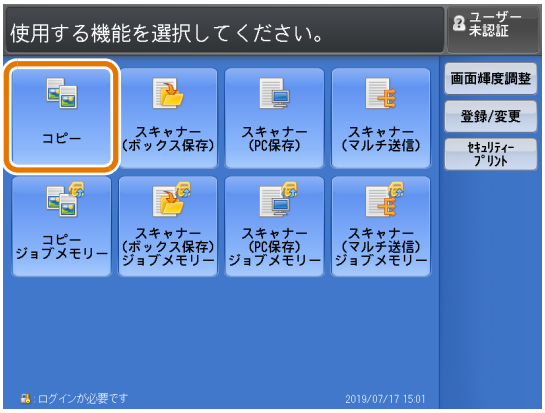
14. コピーが終了したら、手差しテーブルを元に戻します。



2.8 長尺原稿をコピーする

ここでは、A1幅、長さ3,000 mmの原稿を、A1ロール紙に同じ幅と長さでコピーする例を説明します。

1. メニュー画面で［コピー］を押します。



2. ［シンクロ］を押します。
3. ［原稿サイズ］と［用紙選択］は、［A1］のマトリックスが選択されていることを確認します。
4. 必要に応じて、そのほかの機能を設定します。

> **補足**
> - 長尺原稿は原稿の読み込み速度を遅くすると、曲がりにくくすることができます。設定方法については、「2.18.6 原稿読み取り速度（読み取る速度を指定してコピーする）」（P.129）を参照してください。

5. 操作パネルの〈数字〉ボタンでコピー部数を入力します。

> **参照**
> - 「2.1.2 Step2 部数を入力する」（P.75）

6. 原稿をセットします。

> **参照**
> - 「2.1.3 Step3 コピーを開始する」（P.76）

2.9　紙折りしてコピーする

コピーされた用紙を、フォルダー（オプション）でA4サイズに折ることができます。

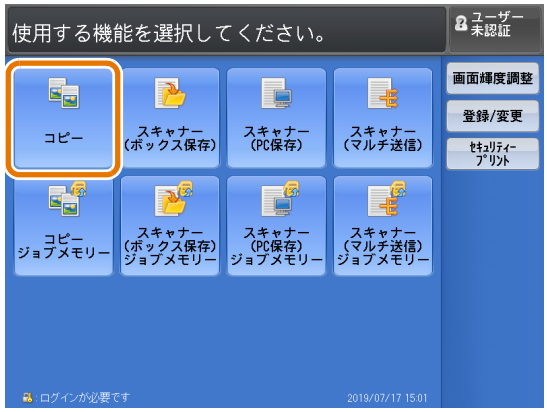
注記

- この機能は、オプションのフォルダーが接続されているときに有効です。
- 次の場合、紙折り指定は無視され、用紙はプリンタートレイから排出されます。
  - 手差しテーブルを使用
  - フィルムを使用
  - トレーシングペーパーを使用
- 原稿の入れ方によっては、意図した折り方にならないことがあるので注意してください。

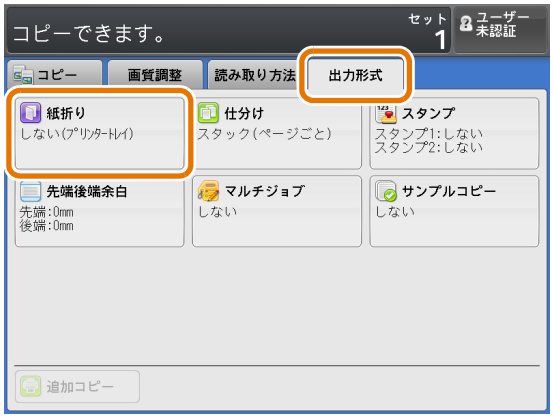
参照

- 紙折りについては、「第9章 紙折り（フォルダー）」（P.285）を参照してください。

1. メニュー画面で［コピー］を押します。

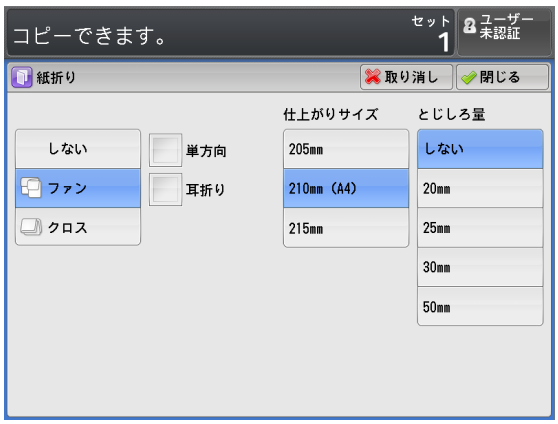


2. ［出力形式］タブを押します。
3. ［紙折り］を押します。



4. 折り方法を選択し、必要に応じて、任意の項目を設定します。

参照 •「2.19.1 紙折り（用紙を折って排出する）」(P.131)



5. 必要に応じて、そのほかの機能を設定します。

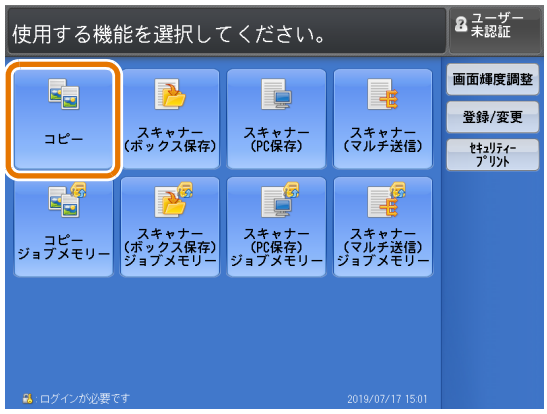
6. 原稿をセットします。

参照 •「2.1.3 Step3 コピーを開始する」(P.76)

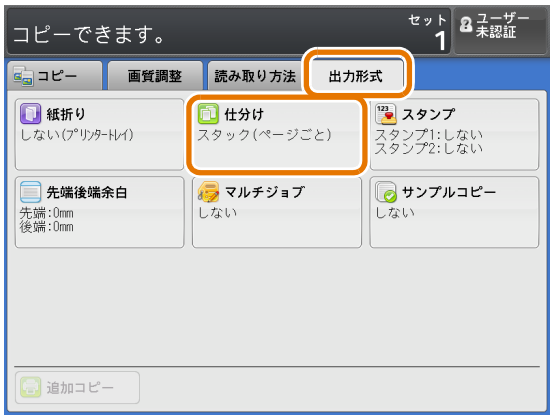
2.10　複数枚の原稿をコピーする（1部ごとにソート）

複数枚の原稿をコピーするときに、1部ごとにソートして出力できます。

1. メニュー画面で［コピー］を押します。



2. ［出力形式］タブを押します。
3. ［仕分け］を押します。



4. ［ソート（1部ごと）］を押します。
5. 任意の項目を設定します。

バナーシート

バナーシートを挿入するか選択します。バナーシートには、部数番号と時刻が印字されます。

排出順

コピー排出順を読み込んだ原稿の順番（正順排出）にするか、読み込んだ原稿の最終原稿から排出（逆順排出）するかを選択します。

参照
- 「2.19.3　仕分け（仕分けを指定して排出する）」（P.133）

6. 必要に応じて、そのほかの機能を設定します。

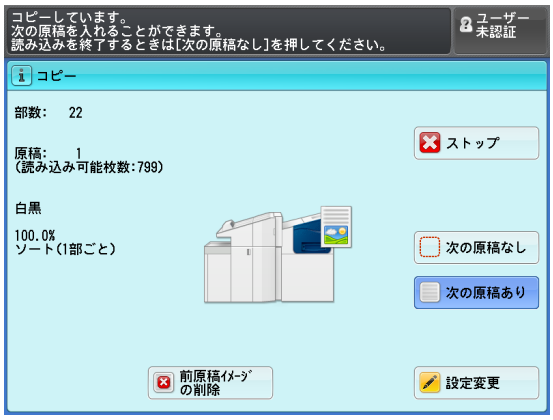
7. 操作パネルの〈数字〉ボタンでコピー部数を入力します。

参照 • 「2.1.2 Step2 部数を入力する」(P.75)

8. 1枚めの原稿をセットします。

読み込みがスタートします。

参照 • 「2.1.3 Step3 コピーを開始する」(P.76)



ストップ

コピーを中止します。

次の原稿なし

すべての原稿を読み終わったら押します。

次の原稿あり

次の原稿があるときに押します。

前原稿イメージの削除

直前に読み込んだ原稿のイメージを削除できます。

設定変更

次の原稿の倍率、画質などの設定、コピーする部数を変更できます。

9. 次の原稿をセットします。

さらに原稿が続くときは、この手順を繰り返します。

10. すべての原稿を読み取ったら、[次の原稿なし]を押します。

2.11　スタンプを付けてコピーする

コピーする用紙に、原稿には記載されていないスタンプ、日付を付けてコピーできます。
スタンプは2つ付けることができます。
スタンプデータは、あらかじめスタンプツールで作成し、本機に転送しておきます。

補足

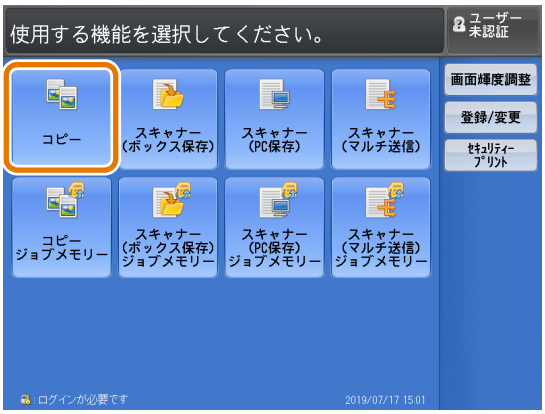
- スタンプ機能を使用するには、DW9098スタンパー（オプション）が必要です。
- 原稿をセットする方向によっては、意図した位置にスタンプが押されないことがあるので、原稿のセット向きに注意して原稿を入れてください。
- CentreWare Internet Servicesでスタンプデータ一覧を確認できます。詳細については、CentreWare Internet Servicesのヘルプを参照してください。
- 登録されているスタンプの一覧をプリントすることができます。操作方法については、「レポート/リストの出力」（P.58）を参照してください。

1. スタンプツールでスタンプデータを作成し、本機に転送します。

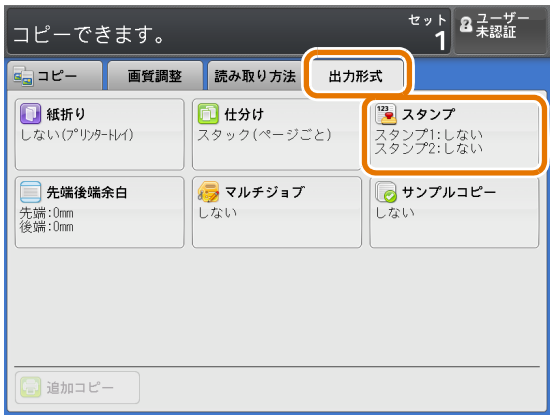
参照

- スタンプデータの作成と、本機への転送方法については、『スタンプツール操作説明書』を参照してください。

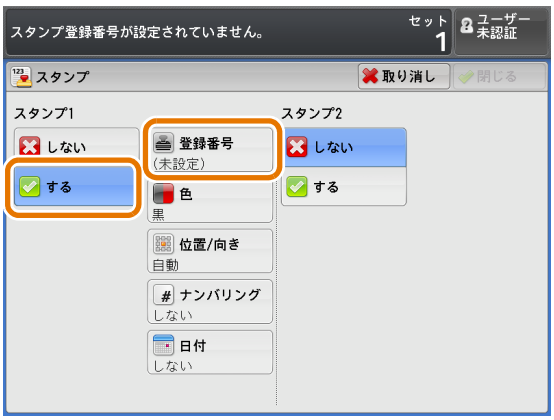
2. メニュー画面で［コピー］を押します。



3. ［出力形式］タブを押します。
4. ［スタンプ］を押します。



5. [スタンプ1]または[スタンプ2]の[する]を押します。
6. [登録番号]を押します。



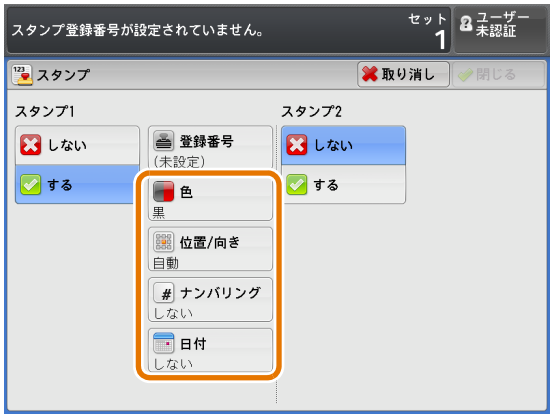
7. スタンプの番号を選択し、[閉じる]を押します。

8. 必要に応じて、任意の項目を設定します。

参照 • 「2.19.4 スタンプ（スタンプ/日付を付けてコピーする）」（P.135）

9. 必要に応じて、そのほかの機能を設定します。
10. スタンプを2つ付ける場合は、手順**5.**～**9.**を繰り返します。
11. 原稿をセットします。

参照 • 「2.1.3 Step3 コピーを開始する」（P.76）



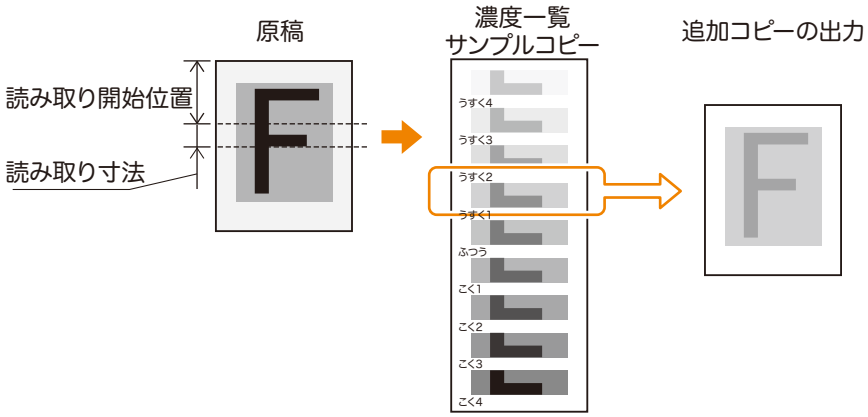
2.12　サンプルコピーをする

最適な状態でコピーするために、原稿の一部分を設定を変えてコピーします。コピーする領域は任意に指定できます。指定した領域に対して、縮小/拡大、コピー濃度、原稿の画質など、各種設定を変えてコピーできます。
コピー濃度は9段階、原稿画質は7種類、地色除去の自動調整は7段階の設定で一覧を出力できます。

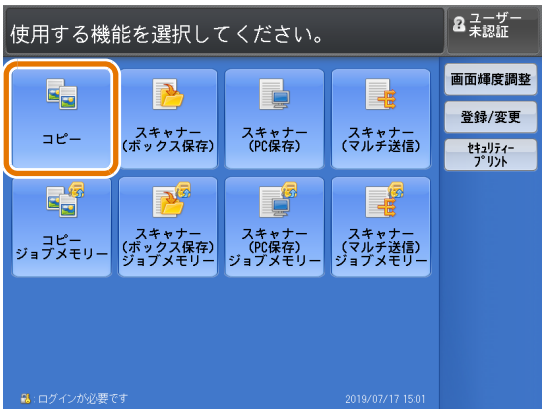
注記

- 次の場合は、サンプルコピーできません。
  - 仕分け機能で［ソート（1部ごと）］または［ソート（配布パターン）］を設定し、次の原稿を［設定変更］しているとき
  - マルチジョブを設定しているとき
  - オートモードでコピーしているとき
  - 手差し給紙でコピーしているとき
  - 追加コピーしているとき
  - 割り込みコピーしているとき
- ［カラーモード］が［2色カラー（赤/黒）］のとき、コピー濃度一覧は出力できません。
- ［原稿の画質］が［印刷写真］または［印画紙写真］のとき、地色除去の自動調整一覧は出力できません。

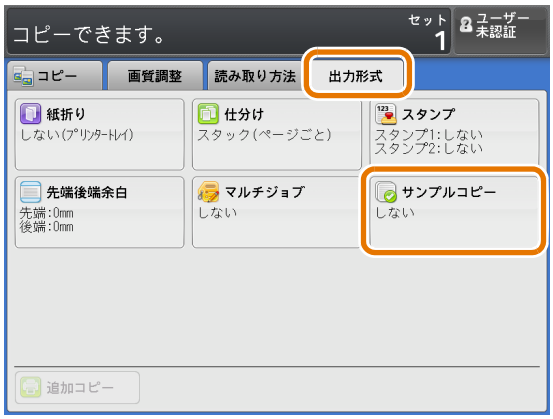
ここでは、サンプルコピーで濃度一覧を出力し、最適な濃度でコピーする例を説明します。



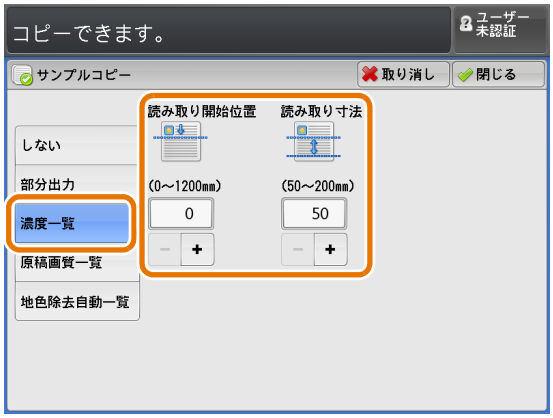
1.　メニュー画面で［コピー］を押します。



2. ［出力形式］タブを押します。
3. ［サンプルコピー］を押します。



4. ［濃度一覧］を押します。
5. 必要に応じて、［読み取り開始位置］と［読み取り寸法］を設定し、［閉じる］を押します。



参照
- 「2.19.7 サンプルコピー（できあがり状態を確認してコピーする）」（P.140）

6. 必要に応じて、そのほかの機能を設定します。
7. 原稿をセットします。

設定した内容でサンプルコピーが出力されます。

補足
- サンプルコピーをやり直す場合は、手順2.～7.を繰り返します。
- サンプルコピーは、1回ごとに設定が解除されます。サンプルコピーをやり直す場合は、もう一度［サンプルコピー］を押します。

参照
- 「2.1.3 Step3 コピーを開始する」（P.76）

8. 最適なコピーが出力されたら、［コピー濃度］の設定を変更します。
9. ［追加コピー］を押して、［スタート］を押します。

設定した内容で、全体のイメージが出力されます。

2.13　追加コピーをする

追加コピー機能を使うと、もう一度原稿を読み込まなくても、直前にコピーした原稿をコピーすることができます。
直前にソート（1部ごと）コピーをした場合は、ソート1セット分が追加コピーされます。

次の操作や状態では、追加コピーは無効になります。

- 操作パネルの〈リセット〉ボタンを押す、または自動リセット状態になる
- 電源を切る、または節電モードになる
- 次の原稿をセットする
- メニュー画面に戻る
- 割り込みコピーをする
- カード（DocuLyzer）を引き抜く

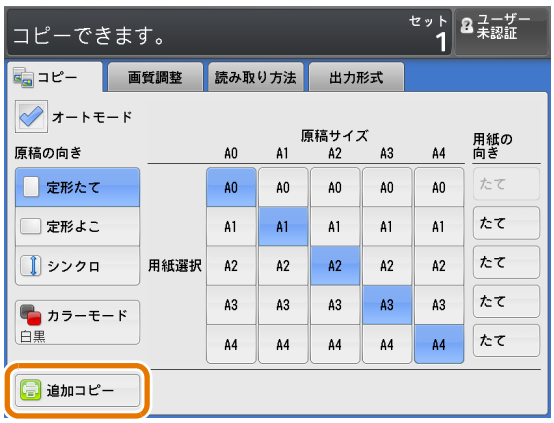
次の場合は、追加コピーができません。

- 原稿づまりなどで直前の画像が残っていない場合
- 仕分け（配布パターン）、マルチジョブコピーをした場合

注記

- 追加コピー中は、次の操作はできません。
  - 操作パネルの登録ボタン（登録されている機能の呼び出し）
  - 割り込みコピー
  - サンプルコピー
  - カラーモードの変更
  - 色別濃度調整
  - 仕分け
  - マルチジョブ
  - コピー濃度（[カラーモード]が[2色カラー（赤/黒）]の場合）

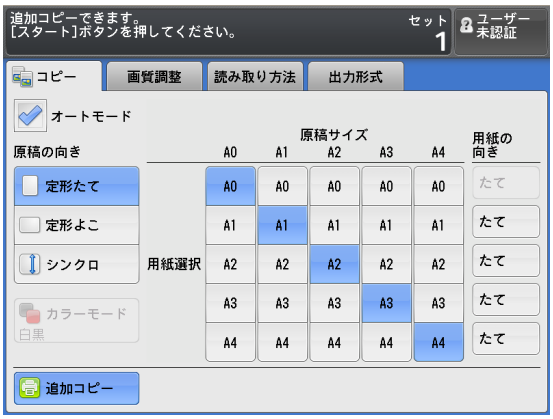
1. コピーしたあと、[追加コピー]を押します。



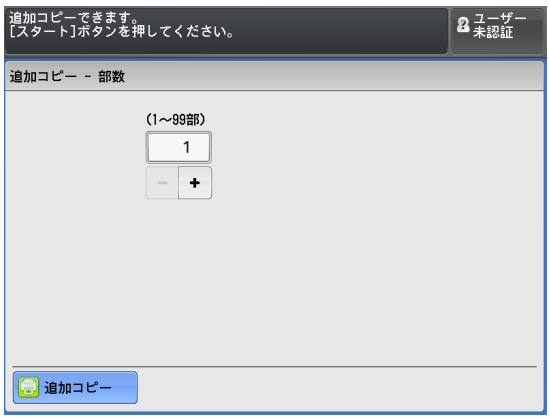
2. 必要に応じて、機能を設定します。

補足

- 操作パネルの〈リセット〉ボタンを押すと、設定内容を直前のコピーの状態に戻します。



- 直前のコピーでソートコピーをした場合は、部数だけが変更できます。



3. 操作パネルの〈数字〉ボタンでコピー部数を入力します。

参照

- 「2.1.2 Step2 部数を入力する」(P.75)

4. 操作パネルの〈スタート〉ボタンを押します。

追加コピーが出力されます。

5. すべての操作が終了したら、もう一度［追加コピー］を押します。

追加コピーモードが解除されます。

2.14　割り込んでコピーする

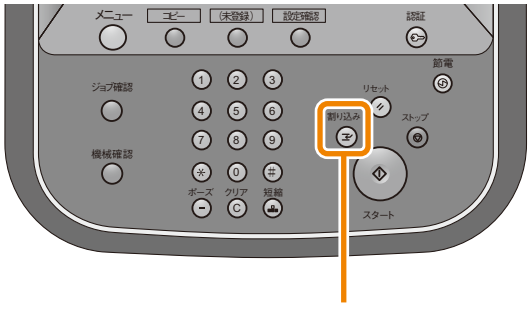
連続したコピーやプリントを一時中断して、急ぎのコピーを取ることができます。中断する前の設定はそのまま保持され、割り込みコピーを解除したときに復元されます。

補足

- 割り込み中は、次の操作はできません。
  - ほかのコピーの割り込み
  - サンプルコピー
  - 追加コピー
  - マルチジョブ、ソート、配布パターン
- サンプルコピー中、またはスキャン中には、割り込みコピーできません。
- 手差しコピーの原稿を読み込み中は、割り込みコピーできません。

1. 〈割り込み〉ボタンを押します。

〈割り込み〉ボタンが点灯し、割り込み可能な状態になったことを示します。



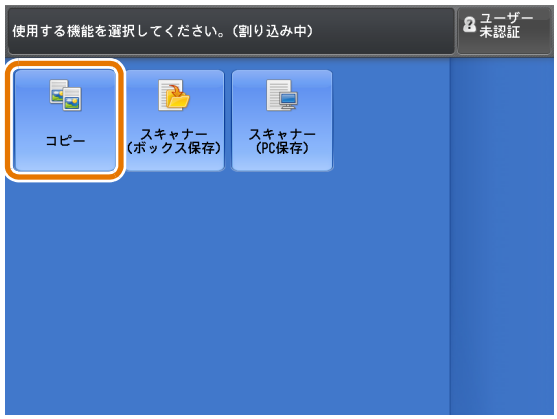
〈割り込み〉ボタン

2. プリント中の場合は、［メニュー］画面が表示されるので、［コピー］を押します。

3. 必要に応じて、機能を設定します。

4. 操作パネルの〈数字〉ボタンでコピー部数を入力します。

参照 •「2.1.2 Step2 部数を入力する」(P.75)



5. 原稿をセットします。

参照 •「2.1.3 Step3 コピーを開始する」(P.76)

6. 割り込みコピーが終了したら、〈割り込み〉ボタンを押します。

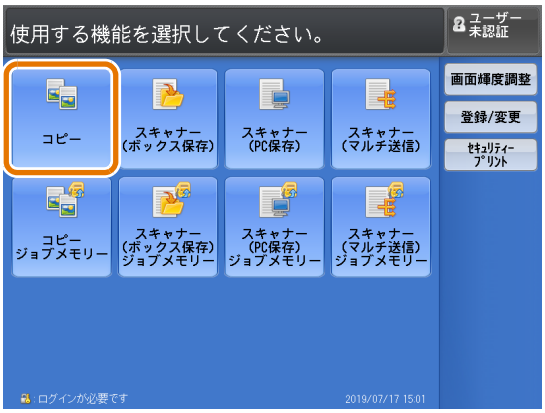
〈割り込み〉ボタンが消灯し、割り込みが解除されたことを示します。
一時中断していたプリント、またはコピーを再開します。

2.15 ［コピー（オートモード）］画面

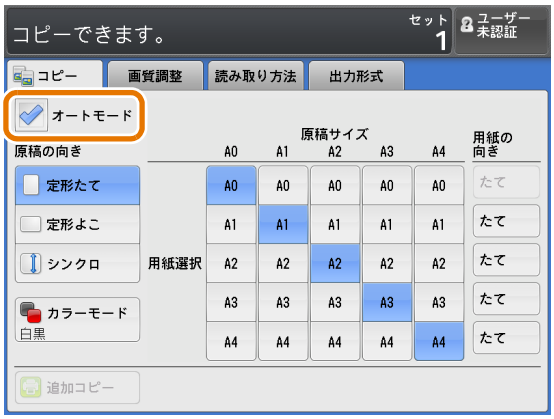
［コピー（オートモード）］画面で設定できる機能について説明します。参照先は、次のとおりです。

- 原稿の向き（原稿を挿入する向きを指定する）.....P.104
- 原稿サイズに対する用紙サイズの対応表（マトリックス）.....P.104
- 用紙の向き（出力する用紙の向きを指定する）.....P.105
- カラーモード（コピーの色を選択する）.....P.106

1. メニュー画面で［コピー］を押します。



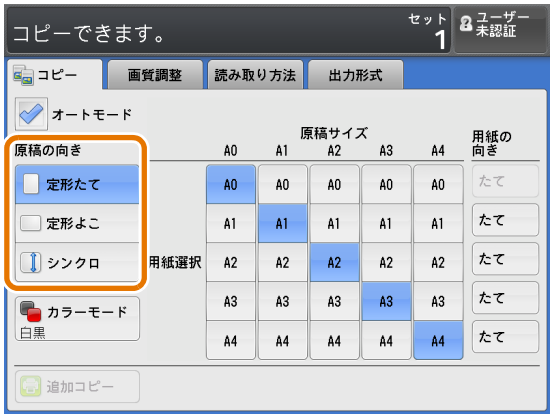
2. ［オートモード］チェックボックスがオンになっていることを確認します。
3. ［コピー（オートモード）］画面で、機能を選択します。



2.15.1　原稿の向き（原稿を挿入する向きを指定する）

原稿をセットする方向を選択します。
原稿の向き（定形たて、定形よこ、シンクロ）ごとに、それぞれの原稿サイズに対する用紙サイズの対応表（マトリックス）を設定できます。

1. 原稿の向きを選択します。



定形たて

定形サイズの原稿をたて方向にセットするときに選択します。

定形よこ

定形サイズの原稿をよこ方向にセットするときに選択します。

シンクロ

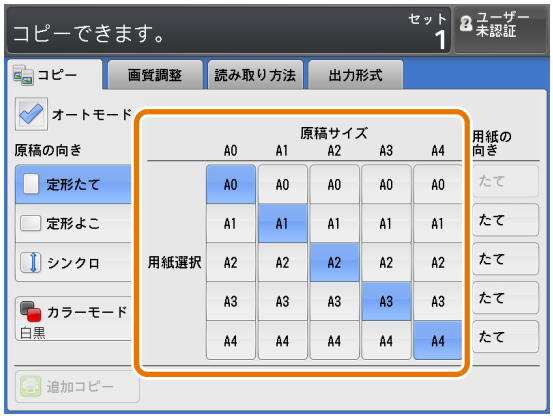
非定形の原稿をセットするときに選択します。

補足
- 画像の回転はしません。

2.15.2　原稿サイズに対する用紙サイズの対応表（マトリックス）

原稿サイズに対する用紙サイズを選択します。
オートモードでは、原稿サイズに対する用紙サイズの対応表（マトリックス）の設定情報を元に、読み込んだ原稿から適切な倍率と用紙トレイを自動的に選択してコピーします。

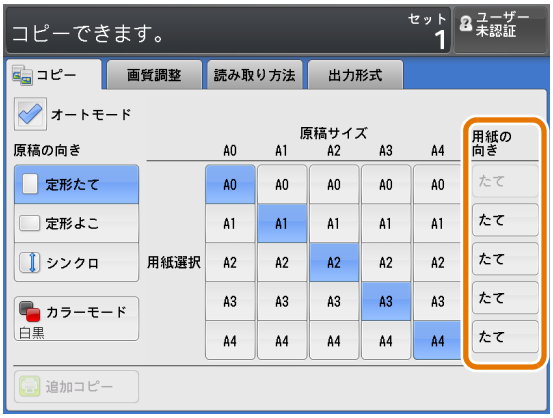
1. 原稿サイズに対する用紙サイズのマトリックスを選択します。



2.15.3　用紙の向き（出力する用紙の向きを指定する）

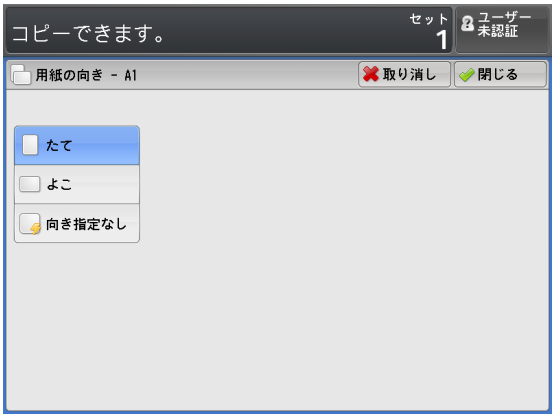
出力する用紙の向きを選択します。

1. 各用紙サイズに対応した［用紙の向き］を押します。



補足
- A0用紙の用紙の向きは［たて］固定です。

2. 用紙の向きを［たて］、［よこ］、［向き指定なし］から選択します。



たて

定形サイズの用紙をたて方向に出力するときに選択します。

よこ

定形サイズの用紙をよこ方向に出力するときに選択します。

向き指定なし

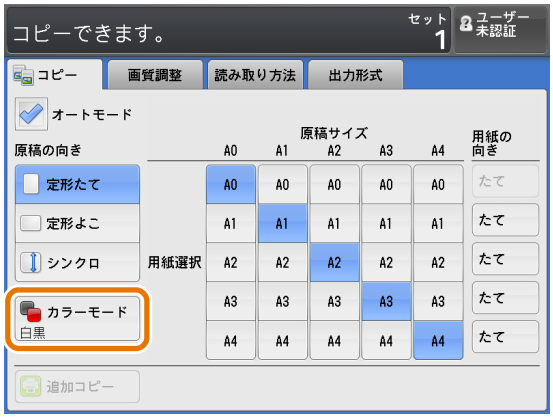
原稿と同じ向きを優先して用紙を出力するときに選択します。

2.15.4　カラーモード（コピーの色を選択する）

コピーをするときのカラーモードを設定します。

注記
- 単色カラー（赤）または2色カラー（赤/黒）でコピーすると、結果として赤色で描画されなくても、メーター2（赤単色と赤黒コピー/プリントの総カウント数）がカウントされます。

1. ［カラーモード］を押します。

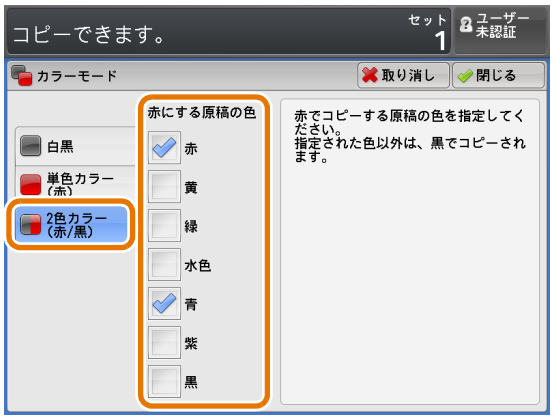


2. カラーモードを選択します。

白黒
白黒でコピーします。

単色カラー（赤）
赤1色でコピーします。

2色カラー（赤/黒）
赤黒2色でコピーします。
選択すると、［カラーモード］画面が表示されます。赤色でコピーする原稿の色を選択します。



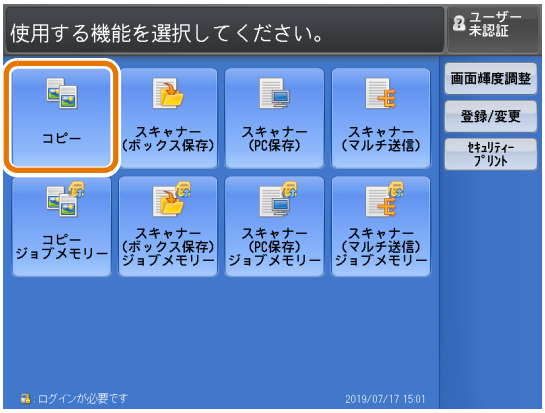
補足
- 各色の認識範囲を設定できます。設定方法については、「11.3.4 読み取り色範囲指定」（P.381）を参照してください。

2.16 ［コピー（マニュアルモード）］画面

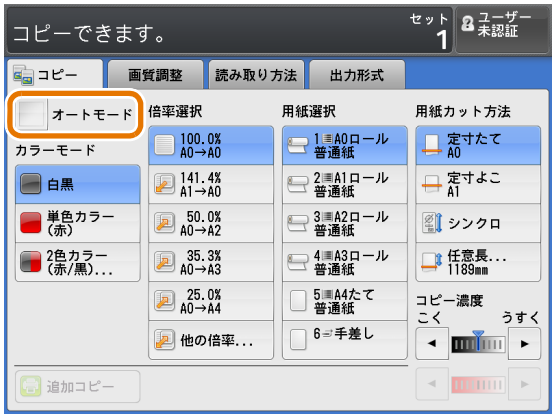
［コピー（マニュアルモード）］画面で設定できる機能について説明します。参照先は、次のとおりです。

- カラーモード（コピーの色を選択する）.....P.108
- 倍率選択（拡大/縮小してコピーする）.....P.108
- 用紙選択（コピーする用紙を選択する）.....P.110
- 用紙カット方法（コピーする用紙のカット方法を選択する）.....P.112
- コピー濃度（コピー濃度を調整する）.....P.113

1. メニュー画面で［コピー］を押します。



2. ［オートモード］チェックボックスをオフにします。
3. ［コピー（マニュアルモード）］画面で、機能を選択します。

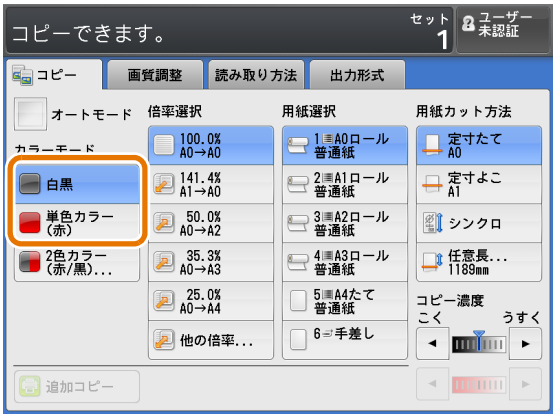


2.16.1　カラーモード（コピーの色を選択する）

コピーをするときのカラーモードを設定します。

注記
- 単色カラー（赤）または2色カラー（赤/黒）でコピーすると、結果として赤色で描画されなくても、メーター2（赤単色と赤黒コピー/プリントの総カウント数）がカウントされます。

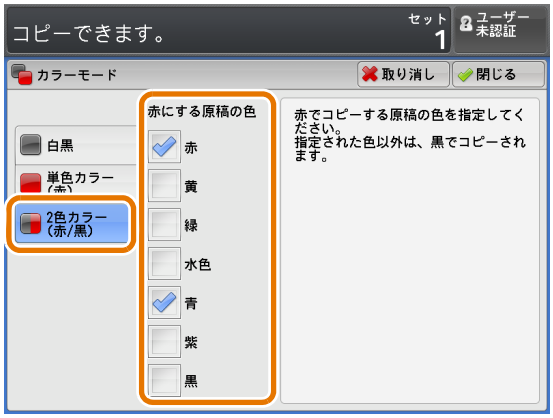
1. カラーモードを選択します。



白黒
白黒でコピーします。

単色カラー（赤）
赤1色でコピーします。

2色カラー（赤/黒）
赤黒2色でコピーします。
選択すると、[カラーモード] 画面が表示されます。赤色でコピーする原稿の色を選択します。

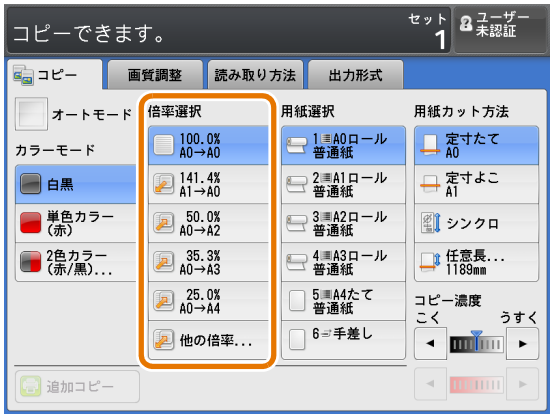


補足
- 各色の認識範囲を設定できます。設定方法については、「11.3.4 読み取り色範囲指定」（P.381）を参照してください。

2.16.2　倍率選択（拡大/縮小してコピーする）

倍率を選択して、拡大や縮小コピーができます。

1. 倍率を選択します。



100.0%
原稿と同じ大きさでコピーします。

倍率（2～5段目）
あらかじめ設定されている倍率から選択します。

補足
- [コピー（マニュアルモード）] 画面に表示される倍率を変更できます。設定方法については、「11.4.1 プリセットボタンの設定」（P.391）を参照してください。

他の倍率...

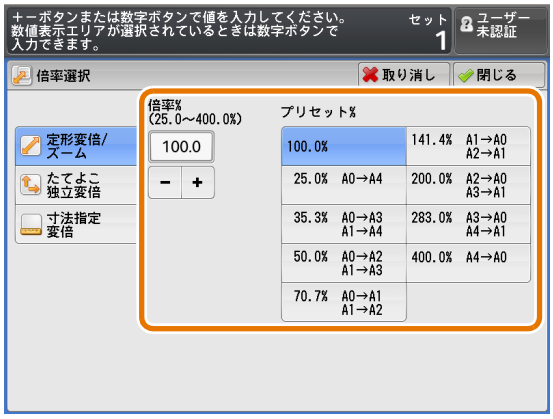
[他の倍率...] を選択すると、[倍率選択] 画面が表示されます。[定形変倍/ズーム]、[たてよこ独立変倍]、[寸法指定変倍] の設定ができます。

参照 • [倍率選択] 画面での設定方法については、「[定形変倍/ズーム] を選択した場合」(P.109)、「[たてよこ独立変倍] を選択した場合」(P.109)、「[寸法指定変倍] を選択した場合」(P.110) を参照してください。

[定形変倍/ズーム] を選択した場合

あらかじめ設定されている定形の倍率から選択したり、倍率を直接入力したりできます。

1. [倍率] を選択するか、数値を入力します。



倍率%

25.0〜400.0 %の範囲で0.1 %単位に設定します。操作パネルの〈数字〉ボタンで数値を入力するか、[+] [−] を押して数値を設定します。100.0 % に設定すると、原稿と同じ大きさで読み取ります。

プリセット%

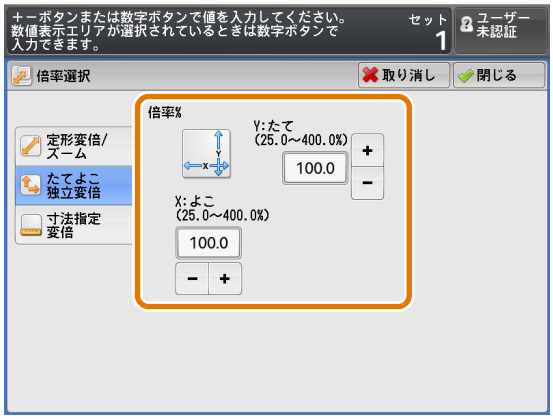
次の中から倍率を選択します。

- 100.0 %
  原稿と同じ大きさでコピーします。
- 定形変倍
  あらかじめ設定されている倍率から選択します。

[たてよこ独立変倍] を選択した場合

たてとよこに、それぞれ異なる倍率を指定して、たて長やよこ長に変形できます。

1. 数値を入力します。



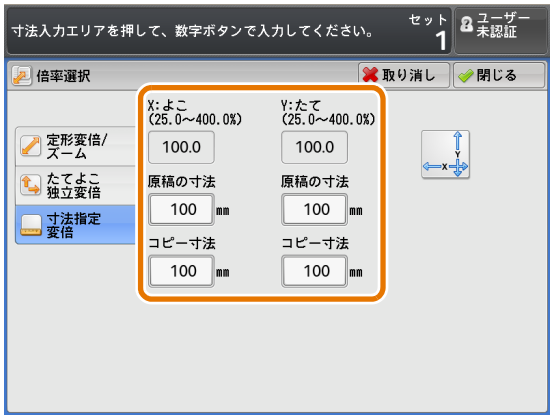
X:よこ　Y:たて

よことたての倍率を25.0〜400.0 %の範囲で0.1 %単位に設定します。操作パネルの〈数字〉ボタンで数値を入力するか、[+] [−] を押して数値を設定します。

［寸法指定変倍］を選択した場合

たてとよこをそれぞれ異なる寸法で指定できます。
原稿のサイズとコピー後のサイズをそれぞれ指定すると、入力されたサイズによって、自動的にたてよこ各方向の倍率が計算されます。計算結果は、25.0～400.0 %の範囲内の倍率で計算されます。

1. ［X：よこ］の［原稿の寸法］を押して、操作パネルの〈数字〉ボタンで原稿のよこの値を入力します。
2. ［X：よこ］の［コピー寸法］を押して、〈数字〉ボタンでコピー後のよこの値を入力します。
3. 同様に、［Y: たて］の［原稿の寸法］、［コピー寸法］を入力します。



X:よこ　Y:たて

［原稿の寸法］、［コピー寸法］の設定によって自動的に計算された倍率結果が表示されます。

原稿の寸法

たてとよこの原稿サイズを1～9999 mmの範囲で1 mm単位に指定します。

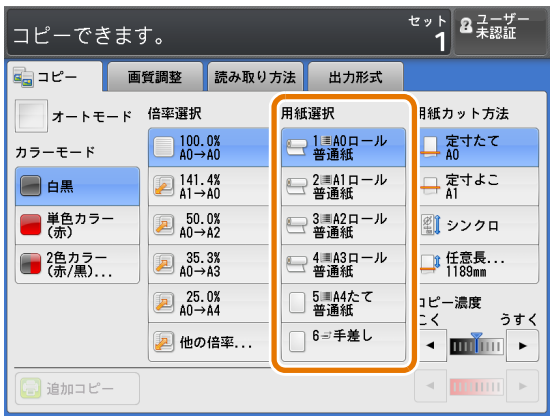
コピー寸法

コピー後のたてとよこのサイズを1～9999 mmの範囲で1 mm単位に指定します。

2.16.3　用紙選択（コピーする用紙を選択する）

コピーする用紙のトレイを選択します。

1. 用紙のサイズや種類を確認し、トレイを選択します。



トレイ（1～5段目）

あらかじめ設定されている用紙トレイから選択します。

手差し

非定形サイズの用紙や、あまり使わないサイズの用紙を手差しテーブルにセットするときに選択します。

補足
- ［手差し］を選択した場合は、フォルダー機能は使用できません。

参照
- 手差しの給紙方法については、「2.7　手差しで給紙する（手差しコピー）」（P.88）を参照してください。

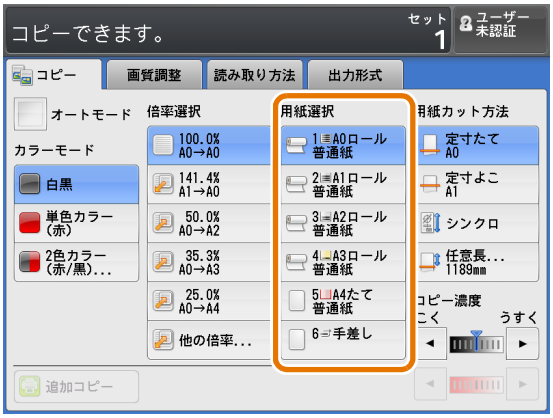
用紙の残量を確認する場合

用紙トレイの選択項目に表示されるアイコンで、用紙の残量を確認できます。

: 用紙が25～100 %セットされていることを表します。

: 用紙の残量が25 %以下で、少なくなっていることを表します。

: 用紙切れ、またはセットされていないことを表します。

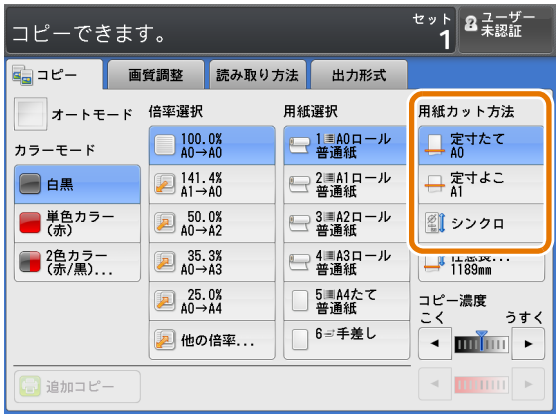


2.16.4　用紙カット方法（コピーする用紙のカット方法を選択する）

ロール紙をカットする方法を選択します。

補足
- 原稿の向きと用紙カット方法が異なる場合、コピー画像が欠ける場合があります。たとえば、A1 定形原稿をよこ方向に挿入し、用紙カット方法を［定寸たて］に設定してA1ロール紙にコピーすると、用紙の下部に余白ができ、画像の左右が欠けます。

1. ロール紙のカット方法を選択します。



定寸たて
ロール紙を定寸たてサイズにカットします。

定寸よこ
ロール紙を定寸よこサイズにカットします。

シンクロ
ロール紙を原稿の長さに合わせてカットします。

任意長
ロール紙を任意に指定した長さにカットします。

210～6,000 mmの範囲で変更できます。指定した長さが原稿長 x コピー倍率よりも小さい場合は、その長さを超える部分はカットされます。大きい場合は、画像の後ろに余白が付きます。

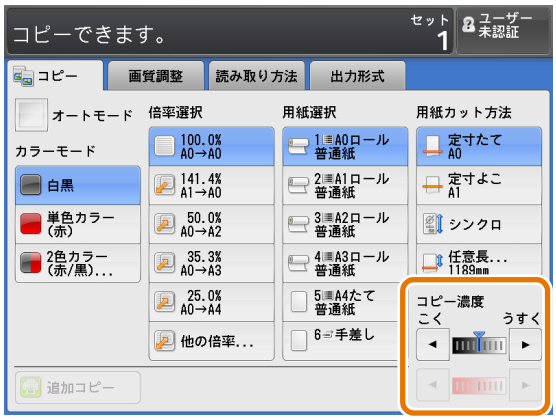
補足
- 用紙サイズごとの［任意長］の初期値を、仕様設定機能で設定できます。設定方法については、「11.4.3 任意長の設定」（P.393）を参照してください。

2.16.5　コピー濃度（コピー濃度を調整する）

コピーの濃度を、9段階で調整できます。[▼]が、左方向に近づくほど色を濃くコピーし、右方向に近づくほど色を薄くコピーします。

補足
- ［カラーモード］で設定した色ごとに、コピー濃度を調整します。
- ［画質調整］画面の［コピー濃度］でも設定できます。

1. ［◀］［▶］で、コピー濃度を調整します。

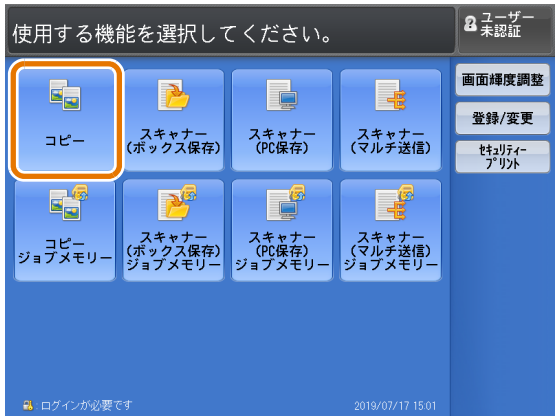


2.17　コピー - ［画質調整］画面

［画質調整］画面で設定できる機能について説明します。参照先は、次のとおりです。

- 原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）.....P.115
- コピー濃度（コピー濃度を調整する）.....P.116
- シャープネス/コントラスト（画像のシャープさ/コントラストを調整する）.....P.117
- 地色除去（原稿の背景にある色を除去する）.....P.118
- 中間調の振り分け（原稿の中間調を振り分ける）.....P.119
- 色別濃度調整（色別に濃度を調整する）.....P.120
- 画質設定メモリー（登録した画質設定を呼び出してコピーする）.....P.121

1. メニュー画面で［コピー］を押します。



2. ［画質調整］画面で、機能を選択します。

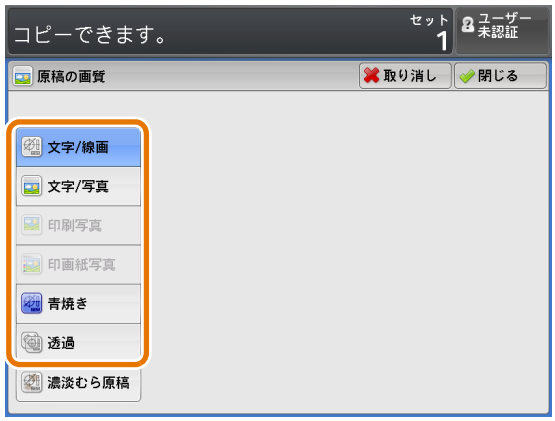
2.17.1　原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）

写真原稿、文字原稿などをコピーする場合は、それぞれの原稿に適した画質でコピーできます。図面などの文字線画で構成されている多くの原稿は、［文字 / 線画］を選択することで、最適の画質でコピーできます。より専門的にコピーしたいときにほかのモードを使用することをお勧めします。

補足　• ［地色除去］で［する（自動）］を選択した場合は、［印刷写真］または［印画紙写真］は設定できません。

1. ［原稿の画質］を押します。

2. 原稿の画質を選択します。



文字/線画

文字をはっきりコピーしたいときに選択します。

グラフ、イラストなどの場合も、はっきりとしたコピーになります。

文字/写真

文字と写真が混在した原稿をコピーするときに選択します。

印刷写真

原稿の写真部分が、パンフレットなど印刷物の場合に選択します。

印画紙写真

写真をコピーするときに選択します。

青焼き

比較的下地の色の濃い青焼き原稿をコピーするときに選択します。

透過

透過原稿をコピーするときに選択します。文字のまわりのにじみを抑えます。

濃淡むら原稿

切り貼りなどで下地の色の濃度が変化している原稿をコピーするときに選択します。
選択すると、[原稿の画質] 画面が表示されます。濃淡むら原稿のむらの大きさを80段階で調整できます。

注記

- 濃淡むら原稿は、文字線画の原稿を対象にしています。ポスターなどの写真原稿には使用しないでください。
- むらの大きさの設定によって効果が変わるため、必ず仕上がり結果を確認してください。

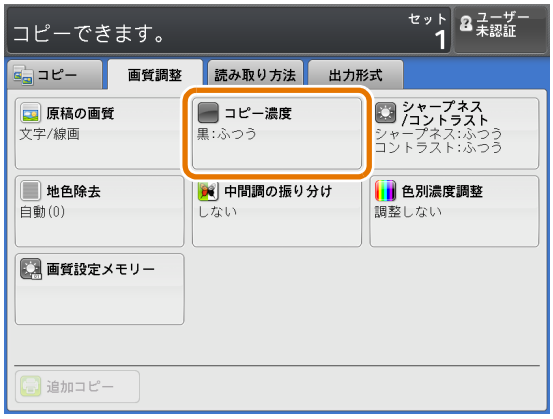
補足

- むらの大きさの初期値を、仕様設定機能で設定できます。設定方法については、「11.4.9 詳細設定」(P.398) を参照してください。

2.17.2 コピー濃度（コピー濃度を調整する）

コピー濃度を調整してコピーできます。

1. [コピー濃度] を押します。



2. コピー濃度を調整します。

[うすく] ～ [こく] の間で、9段階のコピー濃度を、赤と黒それぞれに選択できます。
[こく] に近づくほど色を濃くコピーし、[うすく] に近づくほど色を薄くコピーします。

補足

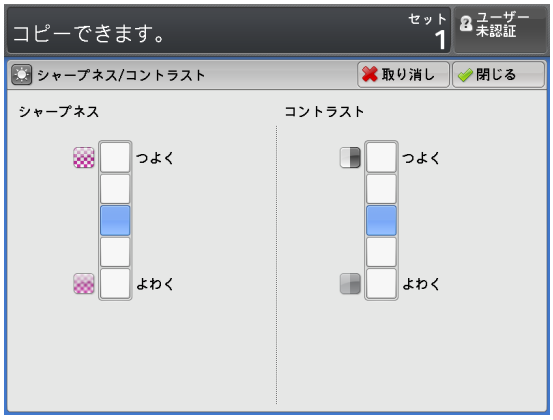
- [カラーモード] で設定した色ごとに、コピー濃度を調整します。
- [コピー（マニュアルモード）] 画面の [コピー濃度] でも設定できます。

2.17.3　シャープネス/コントラスト(画像のシャープさ/コントラストを調整する)

画像のシャープさとコントラストを調整してコピーできます。

1. ［シャープネス/コントラスト］を押します。

2. 任意の項目を調整します。



シャープネス

［つよく］～［よわく］の間で、5段階のシャープネスを選択できます。
［つよく］に近づくほど画像の輪郭が強調されます。［よわく］に近づくほど画像の輪郭をぼかしたようになります。

コントラスト

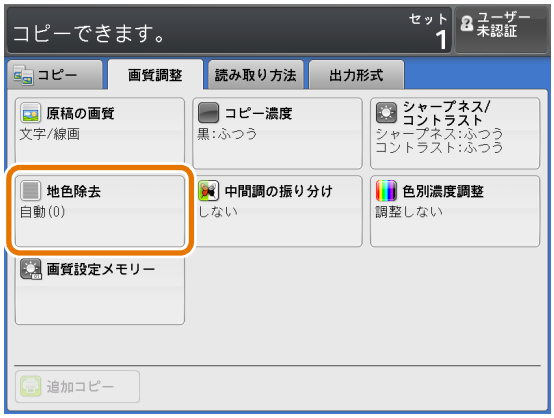
［つよく］～［よわく］の間で、5段階のコントラストを選択できます。
［つよく］に近づくほど明るい部分がより明るくなり、暗い部分がより暗くなり、明暗の差が広がります。［よわく］に近づくほど明るい部分と暗い部分の差がなくなります。

2.17.4　地色除去（原稿の背景にある色を除去する）

青焼き原稿などの下地の色を除去してコピーします。

補足
- ［原稿の画質］で［印刷写真］または［印画紙写真］を選択した場合は、［する（自動）］は設定できません。

1. ［地色除去］を押します。



2. ［しない］、［する（自動）］、［する（手動）］のいずれかを選択します。

しない

原稿の下地の色はそのままでコピーします。

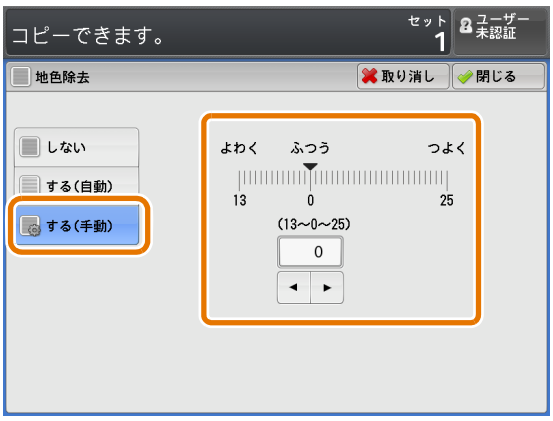
する（自動）

原稿の下地の色を自動的に除いてコピーします。
［よわく］～［つよく］の間で7段階で調整できます。
［つよく］に近づくほど下地の色を消す度合いが多くなり、［よわく］に近づくほど下地の色をそのまま残します。

補足
- ［する（自動）］にして、画像が欠けたり、下地の色が残る場合は、［する（手動）］にしてマニュアル調整をするか、［コピー濃度］を調整してください。

する（手動）

原稿の下地の色を一律に除いてコピーします。
［よわく］～［つよく］の間で39段階で調整できます。



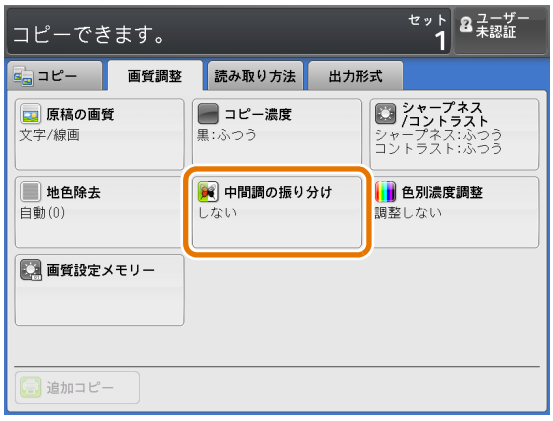
補足

- 次の原稿は、［しない］か［する（手動）］にしてマニュアル調整をしてください。
  - 写真/ポスター原稿/カラー原稿
  - 複雑に入り組んだような原稿
  - ドキュメントキャリアにはさんだ原稿
  - 部分的に下地の色より文字/線の像の方が多いような密度の高い原稿

2.17.5　中間調の振り分け（原稿の中間調を振り分ける）

階調のある原稿に対して、疑似階調で表現するか、2値化に振り分けて表現するかを選択します。
通常は、階調のある原稿を疑似階調で表現しますが、中間調の振り分けで［する］を選択すると、階調を2値化に振り分けて表現します。

1. ［中間調の振り分け］を押します。



2. ［しない］または［する］を選択します。

しない

擬似階調で表現してコピーします。

する

階調を2値化に振り分けてコピーします。
黒か白、または赤か白に振り分けるときのしきい値を設定します。

2.17.6　色別濃度調整（色別に濃度を調整する）

カラー原稿の色別に濃度を調整して、強調や消しこみができます。

1. ［色別濃度調整］を押します。

2. 各色の濃度を調整します。

調整する

色別濃度調整を設定するときに、チェックボックスをオンにします。

赤、黄、緑、水色、青、紫、黒の色別に９段階の濃度を設定できます。

色をカットする

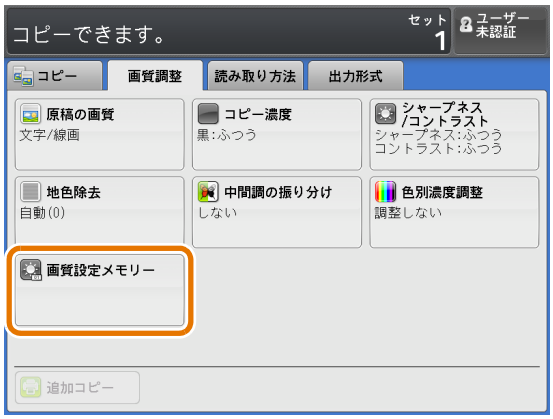
各色のチェックボックスをオンにすると、その色をカットすることができます。

2.17.7　画質設定メモリー（登録した画質設定を呼び出してコピーする）

画質調整用のジョブメモリーです。[カラーモード]、[原稿の画質]、[コピー濃度]、[シャープネス/コントラスト]、[地色除去]、[中間調の振り分け]、[色別濃度調整] の各設定値をメモリーに登録しておき、必要なときに呼び出すことができます。

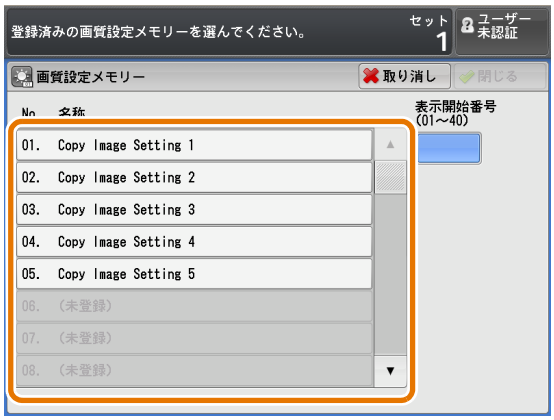
参照
- コピー画質設定メモリーの登録方法については、「5.2 ジョブメモリーの登録/削除/変更」(P.200) を参照してください。

1. [画質設定メモリー] を押します。



2. コピー画質設定メモリー番号を選択します。

補足
- 登録されている番号だけを選択できます。
- [▲] を押して前画面、[▼] を押して次画面を表示できます。
- 任意のコピー画質設定メモリー番号を先頭に表示させたい場合、[表示開始番号] にコピー画質設定メモリー番号を入力してください。

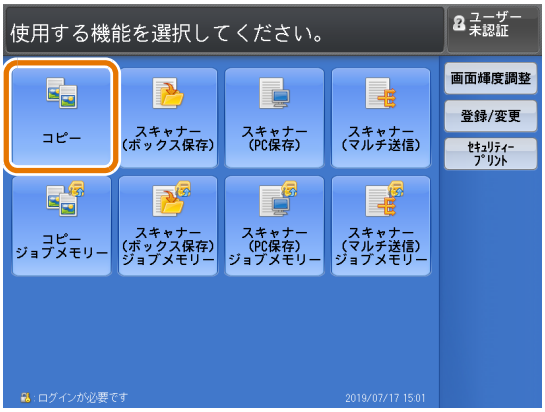


2.18　コピー -［読み取り方法］画面

［読み取り方法］画面で設定できる機能について説明します。参照先は、次のとおりです。

- 原稿幅（原稿を最大幅で読み取ってコピーする）.....P.123
- コピー位置（画像の位置を移動してコピーする）.....P.124
- 読み取り開始位置（原稿の読み取りはじめる位置を設定する）.....P.126
- わく消し（原稿の枠やとじしろの影を消してコピーする）.....P.127
- 鏡像/ネガポジ（画像を反転してコピーする）.....P.128
- 原稿読み取り速度（読み取る速度を指定してコピーする）.....P.129

1. メニュー画面で［コピー］を押します。



2. ［読み取り方法］画面で、機能を選択します。

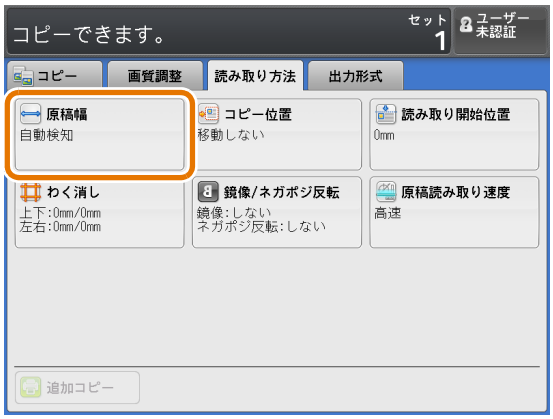
2.18.1　原稿幅（原稿を最大幅で読み取ってコピーする）

原稿を最大幅（914.4 mm）で読み取ります。

注記

- この機能は、マニュアルモードのときに働く機能です。オートモードでは働きません。
- 原稿を最大幅で読み取ると、次の機能は正しく機能しない場合があります。
  - コピー位置
  - わく消し
  - 鏡像
  - ネガポジ反転

1. ［原稿幅］を押します。



2. 任意の項目を選択します。

自動検知

原稿サイズを自動で認識します。

補足

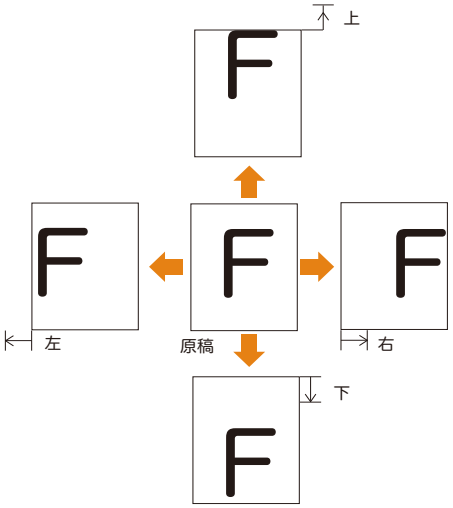
- ［自動検知］のときに検知するサイズ系列は、仕様設定機能で設定します。設定方法については、「原稿サイズ検知切り替え」（P.384）を参照してください。

最大幅

原稿を最大幅（914.4 mm）で読み取ります。

2.18.2　コピー位置（画像の位置を移動してコピーする）

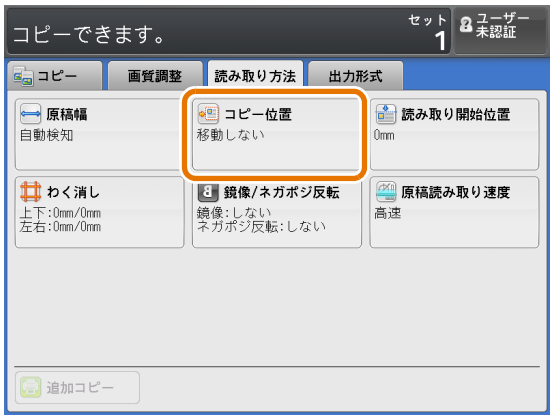
原稿イメージの位置を上下左右へ移動したり、原稿の中心を用紙の中心へ移動してコピーできます。また、上下左右に余白（とじしろ）を付けて、コピーすることもできます。



補足

- イメージの移動量は、用紙に対して設定されます。[倍率選択]で拡大/縮小を設定していても、コピー位置で設定したとおりに出力されます。
- [用紙カット方法]の設定によっては、コピー位置の移動によってはみ出した画像部分はカットされます。
- [先端/後端余白]を設定した場合は、[コピー位置]は設定できません。

1. [コピー位置]を押します。



2. 任意の項目を設定します。

移動しない

原稿イメージの位置を移動しません。

センター移動

原稿の中心が用紙の中心に合うように移動します。

コーナー移動

原稿イメージを用紙の端または各コーナーに移動します。移動する方向は、8種類から選択できます。

移動量調整

移動量を設定できます。最大で上下0～999 mm、左右0～500 mmの範囲で1 mm単位で移動できます。

補足

- 操作パネルの〈数字〉ボタンで数値を入力するか、
[◀][▶]を押して数値を設定してください。

2.18.3　読み取り開始位置（原稿の読み取りはじめる位置を設定する）

原稿を読み取りはじめる位置を設定します。

補足　• ［倍率選択］を設定している場合は、倍率に比例して、読み取り開始位置も拡大/縮小されます。

1. ［読み取り開始位置］を押します。

2. 原稿の先端から999 mmの範囲で1 mm単位で設定します。

2.18.4　わく消し（原稿の枠やとじしろの影を消してコピーする）

縁取りのある原稿をコピーするときに、用紙の周りに黒い影ができることがあります。このような場合に、影を消してコピーできます。

補足

- ［倍率選択］を設定している場合は、倍率に比例して、わく消し量も拡大/縮小されます。
- わく消しの幅を［0mm］に設定しても全面コピーできません。実際にコピーできる領域については、「画像欠け幅」（P.438）を参照してください。

1. ［わく消し］を押します。

2. 任意の項目を選択します。

標準

上下/左右のわく消し量は0 mmに設定されます。

4辺同一

原稿の上下左右の影を消します。わく消しの幅は、0～50 mmの範囲で1 mm単位に指定します。

4辺独立

原稿の上下左右の影を消します。上消し、下消し、左消し、右消しの４種類を、個別に必要な量だけ消すことができます。わく消しの幅は、0～50 mmの範囲で1 mm単位に指定します。

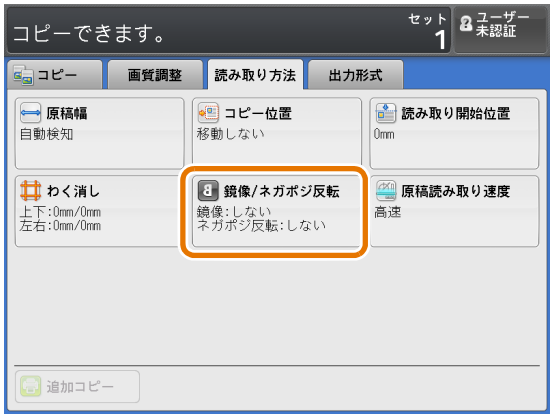
2.18.5　鏡像/ネガポジ（画像を反転してコピーする）

原稿イメージの左右を反転したり、原稿イメージのカラーモードでネガポジを反転させてコピーします。

補足

- 2色カラー(赤/黒)のときは、黒白反転、または赤白反転のどちらかを選択できます。
- ［ネガポジ反転］と［わく消し］を同時に設定したとき、わく消し領域は「白」になります。
- 原稿サイズが出力する用紙サイズよりも小さい場合には余白ができます。

1. ［鏡像/ネガポジ］を押します。



2. 任意の項目を選択します。

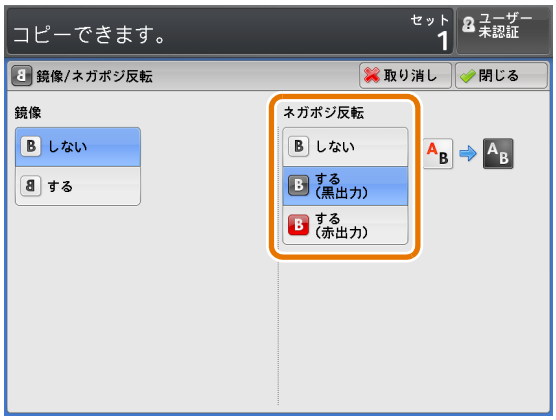
鏡像

原稿イメージの左右を反転させます。

ネガポジ反転

原稿イメージのカラーモードでネガポジを反転させます。

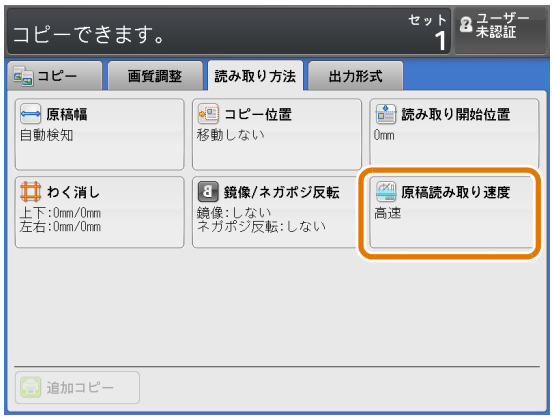
- ［する（黒出力）］
  濃度（明度）を黒白反転します。
- ［する（赤出力）］
  濃度（明度）を赤白反転します。



2.18.6　原稿読み取り速度（読み取る速度を指定してコピーする）

ゆっくり確実に操作するときは、原稿を読み込む速度を調整します。

1. ［原稿読み取り速度］を押します。



2. 原稿読み取り速度を選択します。

高速

通常の速度（152.4 mm/秒）で読み込みます。

中速

原稿の読み込み速度が、高速の1/2になります。

超低速

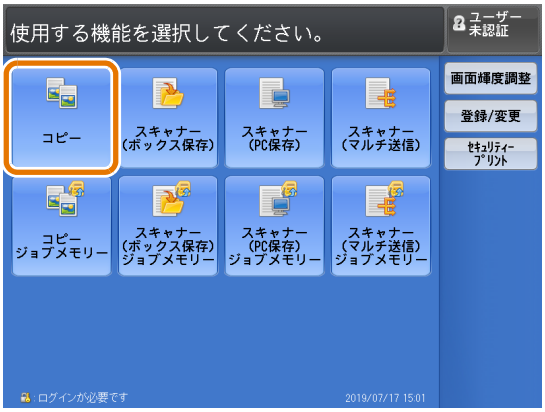
原稿の読み込み速度が、高速の1/6になります。

2.19　コピー - ［出力形式］画面

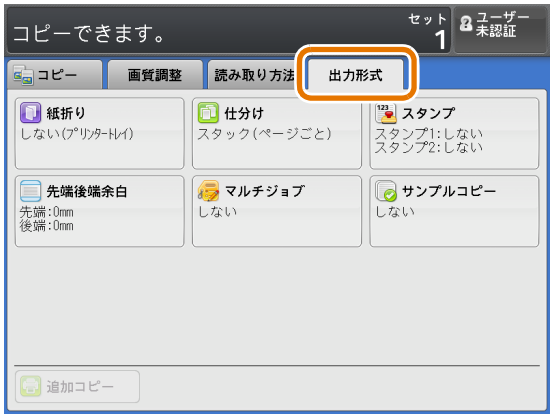
［出力形式］画面で設定できる機能について説明します。参照先は、次のとおりです。

- 紙折り（用紙を折って排出する）.....P.131
- 排出先（用紙の排出先を指定する）.....P.133
- 仕分け（仕分けを指定して排出する）.....P.133
- スタンプ（スタンプ/日付を付けてコピーする）.....P.135
- 先端後端余白（原稿の前後に余白を付けてコピーする）.....P.138
- マルチジョブ（マルチジョブメモリーを適用して仕分け排出する）.....P.139
- サンプルコピー（できあがり状態を確認してコピーする）.....P.140

1. メニュー画面で［コピー］を押します。



2. ［出力形式］画面で、機能を選択します。



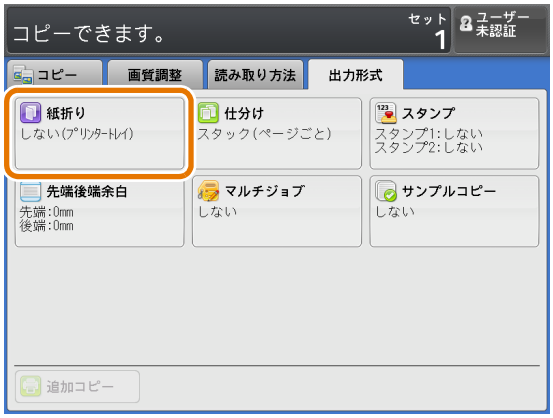
2.19.1　紙折り（用紙を折って排出する）

オプションのフォルダーが接続されているときの紙折り方法を設定します。

補足
- 手差しテーブルを使用する場合は、紙折りができません。
- フィルム、トレーシングペーパーは、紙折りができません。

1. ［紙折り］を押します。

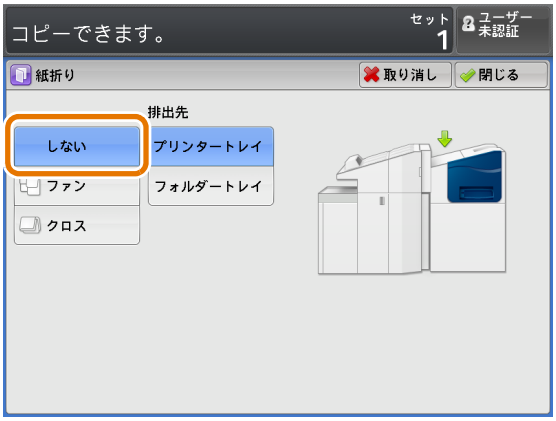
補足
- オプションのフォルダーが接続されている場合に、［紙折り］が表示されます。



2. 任意の項目を選択します。

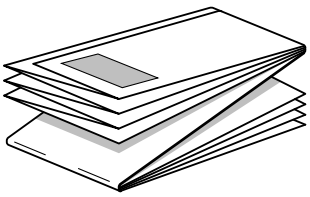
しない

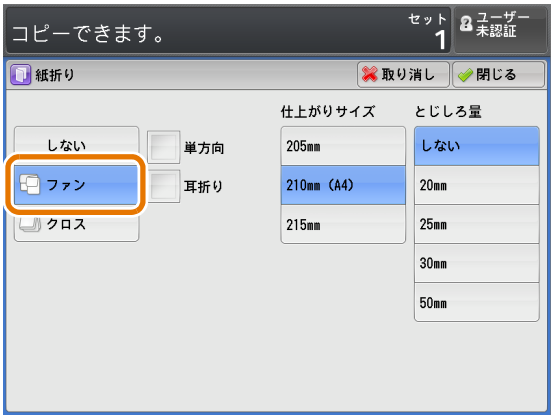
紙折りしないでコピーします。
排出先を［プリンタートレイ］または［フォルダートレイ］のどちらかを選択します。



ファン

仕上がりのサイズが A4（用紙方向がたてのとき：210 mm、用紙方向がよこのとき：297 mm）で、ファイルに綴じたまま、開くことができるように紙折りされます。

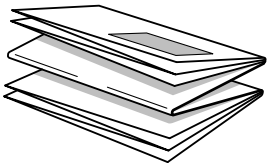


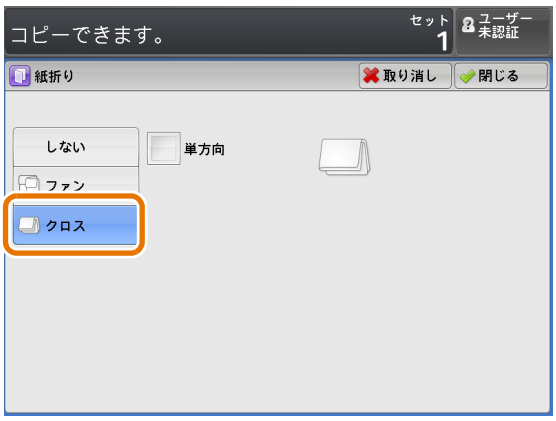


補足
- 長尺コピーの場合は、単方向（ジャバラ折り（第1折り））だけを行います。

クロス

210 mm幅または297 mm幅で均等に紙折りされ、A4サイズ（210 mm×297 mm）の大きさに仕上がります。［単方向］をするかしないかを指定できます。





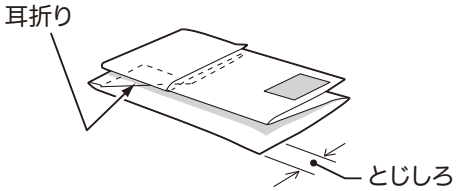
それぞれの折り方によって、次の追加折り、仕上がりサイズ、とじしろが設定できます。

単方向

ジャバラ折り（第1折り）だけをするときに指定します。

耳折り

A2の場合に、とじしろ側（耳側）の上から115×115 mmを折り返します。



仕上がりサイズ

紙折りしたプリントはA4サイズですが、±5 mmで調整できます。

［205mm］、［210mm］、［215mm］から選択します。

補足
- クロスの仕上がりサイズは210 mm固定です。

とじしろ量

ファン折りのときにプリントの左側にとじしろを設定できます。

とじしろ量を［しない］、［20mm］、［25mm］、［30mm］、［50mm］から選択します。

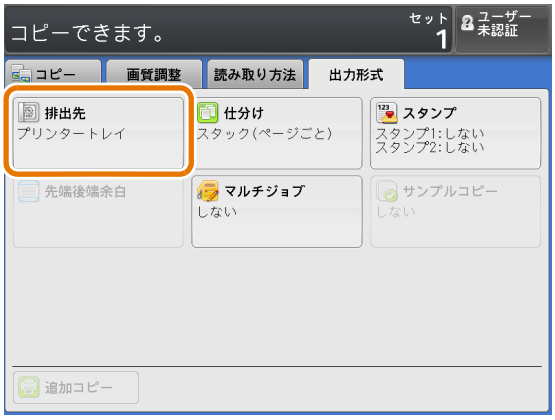
とじしろを設定しない場合は、［しない］を選択してください。

補足
- クロス折りの場合は、［耳折り］、［とじしろ量］は選択できません。

2.19.2　排出先（用紙の排出先を指定する）

オプションのフォルダーが接続されていないときに、用紙の排出先を設定します。

1. ［排出先］を押します。



補足

- オプションのフォルダーが接続されていない場合に、［排出先］が表示されます。

2. 任意の項目を選択します。

プリンタートレイ

プリンタートレイから用紙を排出します。

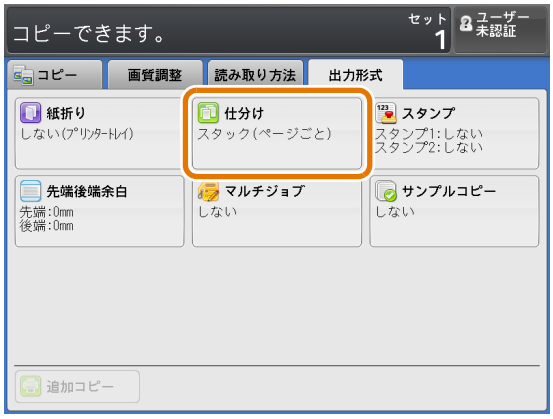
サイド排出口

サイド排出口から用紙を排出します。

2.19.3　仕分け（仕分けを指定して排出する）

コピーの排出方法を設定します。

1. ［仕分け］を押します。



2. 任意の項目を選択します。

スタック（ページごと）

コピーした用紙をページごとにまとめて、指定した部数を排出できます。

ソート（1部ごと）

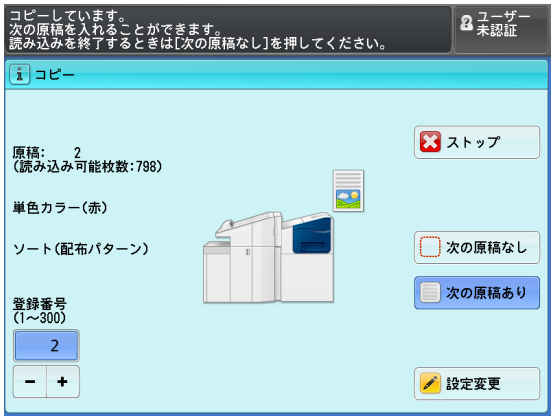
コピーした用紙を1部ごとにまとめて、ページ順に並べて排出できます。

ソート（配布パターン）

あらかじめ登録された配布パターンに応じて、仮想の配布先（ビン）ごとにまとめて、ページ順に並べて排出できます。

コピー時には、この配布パターン番号を原稿をセットするごとに指定します。

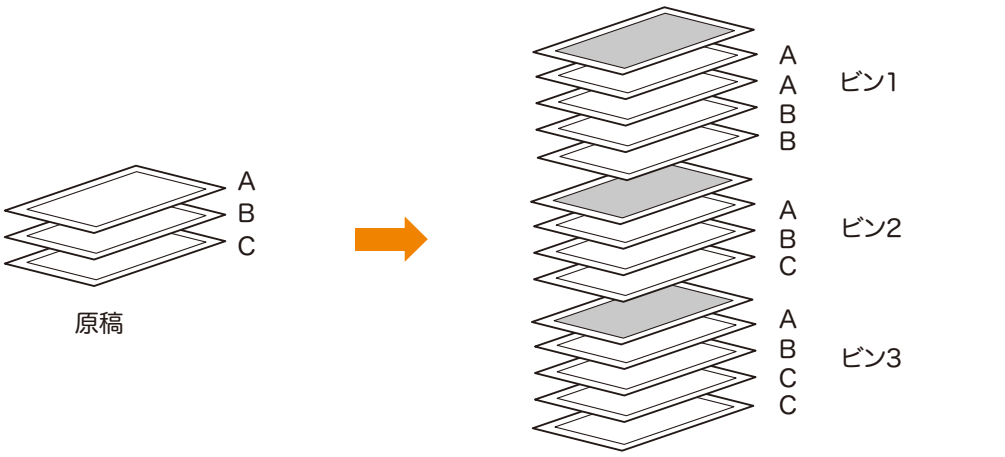
仮想配布数（ビン番号）は最大40、パターン数は最大300登録できます。仕分け出力できる原稿枚数は最大800です。



参照 • 配布パターンの登録については、「7.1.1 配布パターン」（P.239）を参照してください。

たとえば、原稿ABCに対して、それぞれ次の表の配布パターン001、002、003を適用すると、次のように排出されます。

配布パターン番号	仮想の配布先（ビン番号）		
	ビン 1	ビン 2	ビン 3
001	2	1	1
002	2	1	1
003	0	1	2



（網かけはバナーシート）

バナーシート

[ソート（1部ごと）]、[ソート（配布パターン）]を選択したときに、バナーシートを挿入できます。バナーシートには、部数番号と時刻が印字されます。

補足
- バナーシートのトレイと用紙の長さは、設定することができます。「11.4.9　詳細設定」（P.398）を参照してください。

排出順

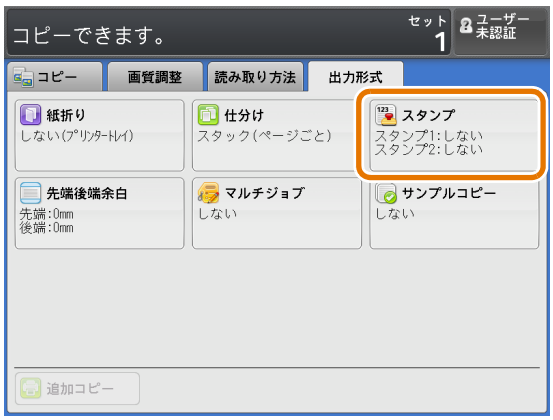
[ソート（1部ごと）]、[ソート（配布パターン）]を選択したときに、コピー排出順を読み込んだ原稿の順番（正順排出）にするか、読み込んだ原稿の最終原稿から排出（逆順排出）するかを選択します。

2.19.4　スタンプ（スタンプ/日付を付けてコピーする）

用紙に、スタンプ、日付を付けてコピーできます。

補足
- スタンプ機能を使用するには、DW9098スタンパー（オプション）が必要です。
- 拡大/縮小の設定をしても、スタンプや文字の大きさは変更されません。

1. ［スタンプ］を押します。



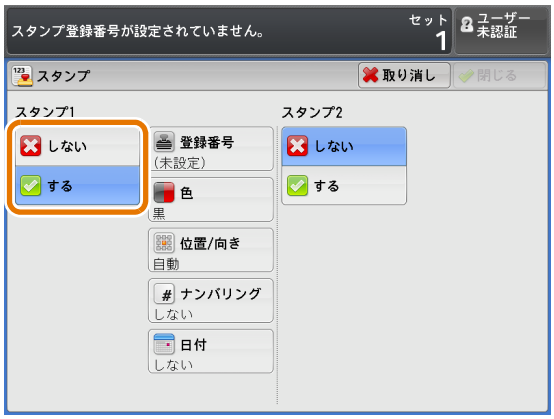
2. 任意の項目を選択します。

しない

スタンプを付けません。

する

スタンプを付けます。



登録番号

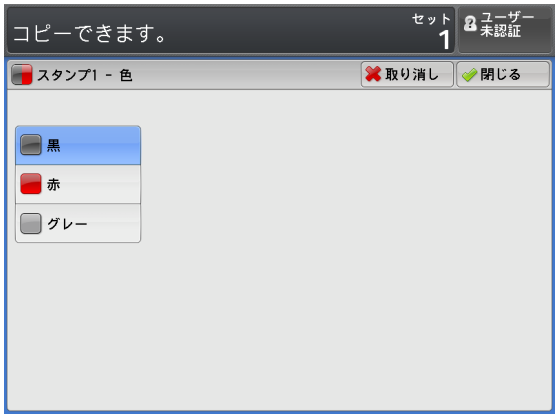
［スタンプ1-登録番号］/［スタンプ2-登録番号］画面が表示されます。

スタンプの番号を選択します。

色

［スタンプ1-色］/［スタンプ2-色］画面が表示されます。

黒、赤、グレーから選択します。



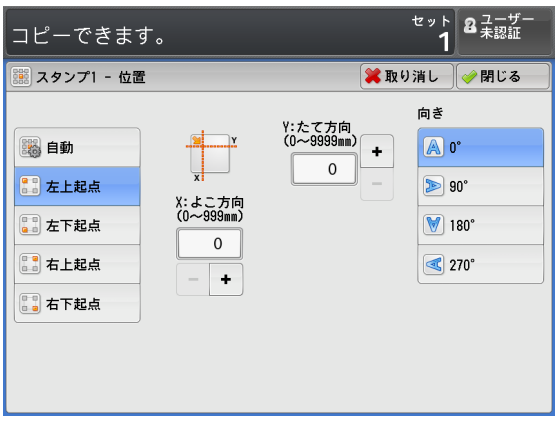
補足

- グレーの濃度を設定できます。詳細については、「11.3.8 詳細設定」（P.386）を参照してください。

位置/向き

［スタンプ 1- 位置］/［スタンプ 2- 位置］画面が表示されます。

［自動］を選択すると、仕様設定機能で設定したスタンプの向きと位置が採用されます。



参照

- 設定方法については、「11.4.8 スタンプ位置自動時の設定」（P.397）を参照してください。

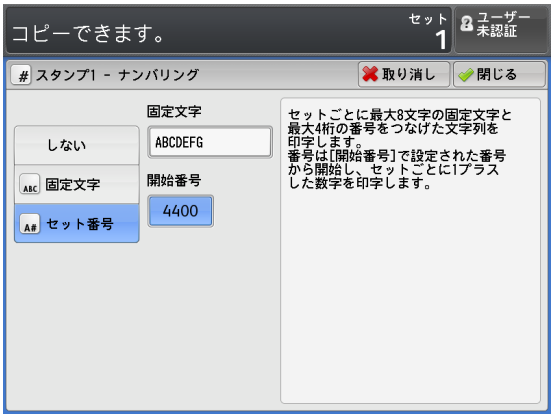
［左上起点］、［左下起点］、［右上起点］、［右下起点］を選択すると、［向き］（0°、90°、180°、270°）、［スタンプの位置］（たて方向：0～9,999 mm、よこ方向：0～999 mm）を設定できます。

ナンバリング

［スタンプ 1- ナンバリング］/［スタンプ 2- ナンバリング］画面が表示されます。

［固定文字］を選択すると、すべてのコピーに同じ英数文字（12桁の任意文字）が印字されます。

［セット番号］を選択すると、固定文字と自動連番を印字します（上位8桁が固定文字、下位4桁が自動連番）。この設定は、仕分けを選択したときにだけ有効です。



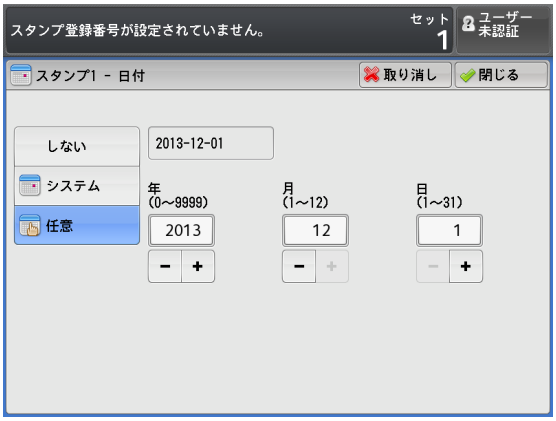
日付

［スタンプ1- 日付］/［スタンプ2- 日付］画面が表示されます。

日付を付けて、コピーできます。

［システム］を選択すると、機械に内蔵されているカレンダーに合わせて日付が設定されます。

［任意］を選択すると、仕様設定機能で設定したスタンプの日付書式で日時を設定できます。



補足

- ナンバリング、日付は、14ポイント、ゴシック体で印字されます。

参照

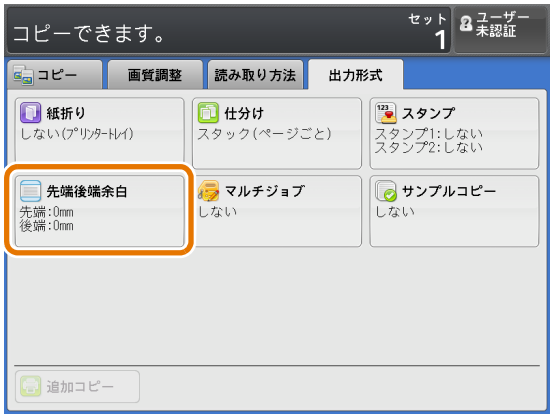
- スタンプの日付書式の設定については、「11.4.7 スタンプ日付書式の設定」（P.396）を参照してください。

2.19.5　先端後端余白（原稿の前後に余白を付けてコピーする）

原稿の前後に余白を付けてコピーします。

注記　• この機能は、［用紙カット方法］が［シンクロ］のときに有効です。

1. ［先端後端余白］を押します。



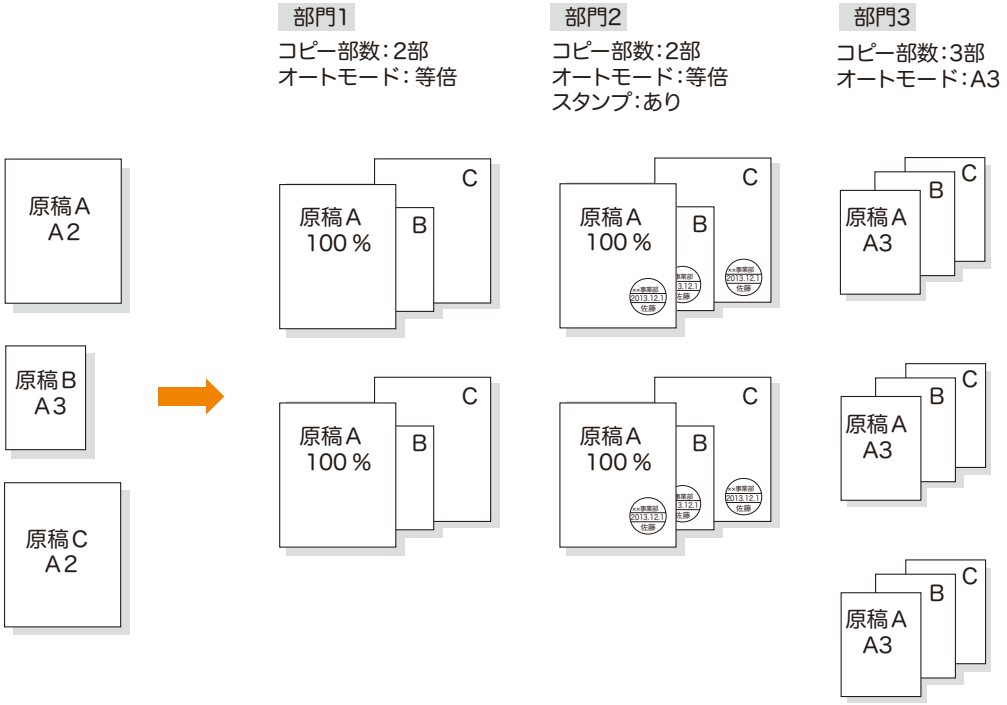
2. 任意の項目を設定します。

先端余白/後端余白

先端、後端の余白は、0～999 mmの範囲で1 mm単位で設定します。

2.19.6　マルチジョブ（マルチジョブメモリーを適用して仕分け排出する）

複数部数をコピーするときに、仮想の配布先（ビン）ごとにジョブメモリーを適用して仕分け出力します。
マルチジョブメモリーには、[コピー部数]、[倍率]、[用紙選択]、[スタンプ]、[紙折り]（紙折りがある場合）、[排出先]（紙折りがない場合）が設定できます。仮想配布数（ビン番号）は20まで登録できます。原稿枚数×選択マルチジョブ数は、最大800です。
マルチジョブには、バナーシートを挿入できます。バナーシートには、部数番号と時刻が印字されます。



補足
- バナーシートのサイズは、仕様設定機能で設定できます。設定方法については、「11.4.9　詳細設定」（P.398）を参照してください。

参照
- ジョブメモリーについては、「第5章 ジョブメモリー」（P.197）を参照してください。

1. ［マルチジョブ］を押します。

2. 任意の項目を選択します。

マルチジョブ

あらかじめ登録されたマルチジョブメモリーが表示されます。

バナーシート

バナーシートには、部数番号と日付が印刷されます。

- [挿入しない]
  バナーシートを挿入しません。
- [挿入する]
  バナーシートを挿入します。

排出順

コピーの排出順を選択します。

- [正順排出]
  読み込んだ原稿の順番に排出します。
- [逆順排出]
  読み込んだ原稿の最終原稿から排出します。

部数変更

[マルチジョブ-部数変更] 画面が表示されます。

登録されたマルチジョブ番号ごとに、コピーする部数を変更/設定します。

2.19.7 サンプルコピー（できあがり状態を確認してコピーする）

最適な状態でコピーするために、原稿の一部分を設定を変えてコピーします。コピーする領域は任意に指定できます。指定した領域に対して、縮小/拡大、コピー濃度、原稿の画質など、各種設定を変えてコピーできます。

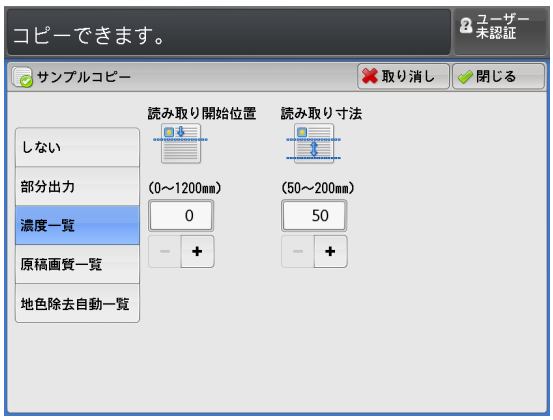
コピー濃度は9段階、原稿画質は7種類、地色除去の自動調整は7段階の設定で一覧を出力できます。

注記

- 次の場合は、サンプルコピーできません。
  - 仕分け機能で［ソート（1部ごと）］または［ソート（配布パターン）］を設定し、次の原稿を［設定変更］しているとき
  - マルチジョブを設定しているとき
  - オートモードでコピーしているとき
  - 手差し給紙でコピーしているとき
  - 追加コピーしているとき
  - 割り込みコピーしているとき
- ［カラーモード］が［2色カラー（赤/黒）］のとき、コピー濃度一覧は出力できません。
- ［原稿の画質］が［印刷写真］または［印画紙写真］のとき、地色除去の自動調整一覧は出力できません。

1. ［サンプルコピー］を押します。

2. 任意の項目を設定します。



しない

サンプルコピーをしません。

部分出力

倍率、原稿の画質などの各種設定を変えてサンプルコピーできます。

濃度一覧

9段階の濃度一覧が出力されます（黒/赤単色のみ）。

原稿画質一覧

7種類の原稿画質一覧が出力されます。

地色除去自動一覧

7段階の地色除去調整レベル一覧が出力されます。

読み取り開始位置

原稿の読み取りを開始する位置を、0～1,200 mmの範囲で設定します。

読み取り寸法

原稿の読み取る領域を、50～200 mmの範囲で設定します。

補足

- ［読み取り開始位置］と［読み取り寸法］の初期値を、仕様設定機能で設定できます。設定方法については、「11.4.9 詳細設定」（P.398）を参照してください。

第3章　スキャン

スキャン機能と［スキャナー］画面について説明します。

3.1　スキャン操作の流れ 144
3.2　スキャンを中止する 149
3.3　フルカラーでスキャンする 151
3.4　原稿上の指定した色を赤色でスキャンする（赤黒スキャン） 152
3.5　プレビューを表示する 153
3.6　スキャンデータを暗号化する 155
3.7　複数枚の原稿を1つのファイルとしてスキャンする 157
3.8　割り込んでスキャンする 159
3.9　［スキャナー（ボックス保存）］画面 160
3.10　［スキャナー（PC保存）］画面 171
3.11　［スキャナー（マルチ送信）］画面 174
3.12　スキャナー -［画質調整］画面 177
3.13　スキャナー -［読み取り方法］画面 184
3.14　スキャナー -［出力形式］画面 191

3.1　スキャン操作の流れ

ここでは、基本的なスキャン操作の流れについて説明します。参照先は次のとおりです。

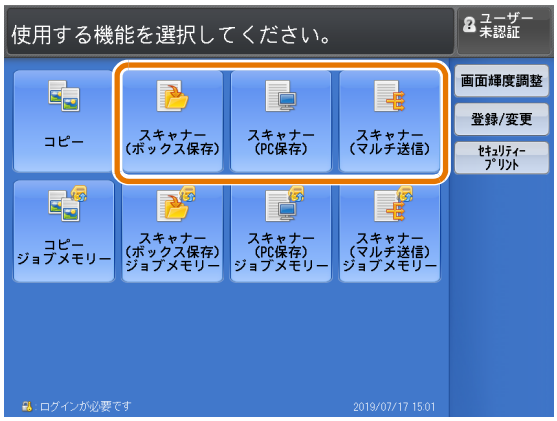
- Step1 機能を選択する P.144
- Step2 スキャンを開始する P.147
- Step3 スキャンデータを取り込む P.148

3.1.1　Step1 機能を選択する

スキャン機能を利用すると、次の機能を利用できます。

- スキャナー（ボックス保存）
- スキャナー（PC保存）
- スキャナー（マルチ送信）

メニュー画面では、[スキャナー（ボックス保存）]、[スキャナー（PC 保存）]、[スキャナー（マルチ送信）]の3つのスキャン機能ボタンが用意されています。それぞれの画面で機能を選択できます。



スキャナー（ボックス保存）

データとして取り込みたい原稿を本機で読み込んで（スキャンして）、本機の親展ボックスに蓄積します。蓄積された文書は、ネットワークに接続しているコンピューターから取り出すことができます。

参照

- スキャナー（ボックス保存）機能を使用するには、あらかじめネットワークの設定が必要です。ネットワークの設定については、「7.3.1 スキャナー（ボックス保存）の設定」（P.249）を参照してください。
- 親展ボックスは、あらかじめ作成しておきます。親展ボックスの作成方法については、「7.1.2 親展ボックス（ボックス保存宛先）」（P.240）を参照してください。

スキャナー（PC保存）

データとして取り込みたい原稿を本機で読み込んで（スキャンして）、ネットワークに接続しているコンピューター（サーバー）に保存します。

参照

- スキャナー（PC保存）機能を使用するには、あらかじめネットワークの設定が必要です。ネットワークの設定については、「7.3.2 スキャナー（PC保存）の設定」（P.250）を参照してください。
- サーバー（PC　保存宛先）は、あらかじめ登録しておきます。サーバーの登録方法については、「7.1.3 サーバー（PC保存宛先）」（P.242）を参照してください。

スキャナー（マルチ送信）

スキャンしたスキャンデータを、登録した宛先グループのコンピューター（サーバー）に保存し、プリンターから印刷します。

参照

- スキャナー（マルチ送信）機能を使用するには、あらかじめネットワークの設定が必要です。ネットワークの設定については「7.3.2 スキャナー（PC保存）の設定」（P.250）を参照してください。
- 宛先グループは、あらかじめ登録しておきます。宛先グループの登録方法については、「7.1.5 マルチ送信宛先（グループ宛先）」（P.245）を参照してください。

● スキャン機能とファイル形式について

スキャン機能	取り込み方法	ファイル形式			
		PDF	XDW	TIFF	JPEG
ボックス保存	TWAIN対応アプリケーション	○*			
	親展ボックスビューワー３	×	×	○	○
	CentreWare Internet Services	○	○	○	○
PC保存	−	○	○	○	○
マルチ送信	−	○	○	○	○

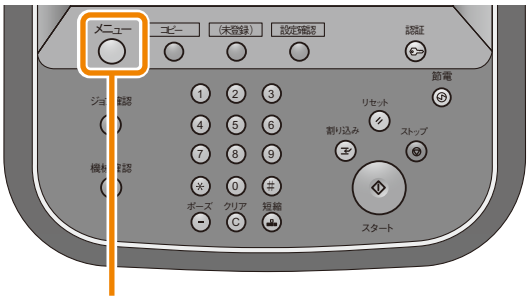
* 親展ボックスから TWAIN 対応アプリケーションを使用してスキャンデータを取り込む場合、ファイル形式は使用するアプリケーションに依存します。

補足

- XDW は、弊社製TWAIN 対応アプリケーションDocuWorksのファイル形式です。スキャンした文書をDocuWorks 7.0以上を使用して、表示や出力ができます。
- 任意でファイル名を指定しない場合、フォルダー名やファイル名は決められたルールに従って自動で付けられます。

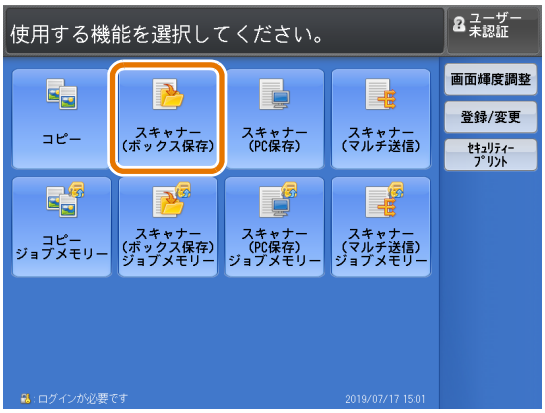
ここでは、［スキャナー（ボックス保存）］を例に説明します。

1. 〈メニュー〉ボタンを押します。



〈メニュー〉ボタン

2. ［スキャナー（ボックス保存）］を押します。



3. 保存する親展ボックスを指定します。

補足

- 登録されている番号だけを選択できます。
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- 任意の親展ボックスを先頭に表示させたい場合、［表示開始番号］に親展ボックスの番号を入力してください。

4. パスワードを入力し、［確定］を押します。

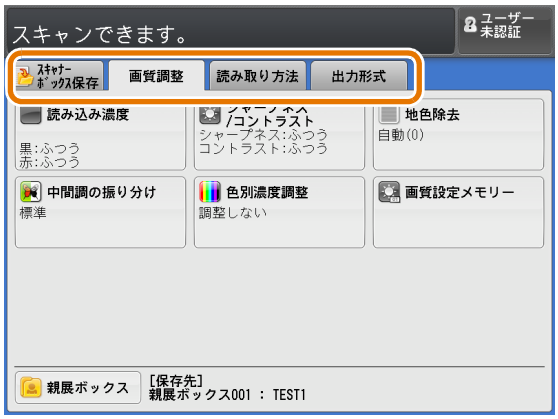
5. ［決定］を押します。

6. 必要に応じて、各タブから設定する機能を選択します。

各タブの参照先は、次のとおりです。

参照

- 「3.9 ［スキャナー（ボックス保存）］画面」(P.160)
- 「3.12 スキャナー-[画質調整]画面」(P.177)
- 「3.13 スキャナー - ［読み取り方法］画面」(P.184)
- 「3.14 スキャナー-[出力形式]画面」(P.191)



ほかのスキャン機能を選択したときは、[スキャナーボックス保存］タブが［スキャナー PC保存］タブ、［スキャナーマルチ送信］タブに変わります。

各タブの参照先は、次のとおりです。

参照

- 「3.10 ［スキャナー（PC保存）］画面」（P.171）
- 「3.11 ［スキャナー（マルチ送信）］画面」（P.174）

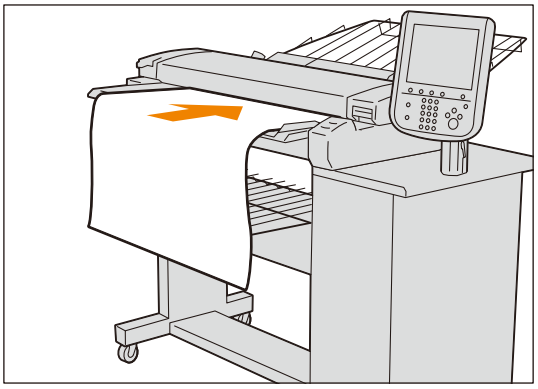
3.1.2 Step2 スキャンを開始する

原稿をセットし、スキャンを開始する手順について説明します。

注記

- 原稿を読み込み中に、原稿を上から押さえつけたり引っぱったりすると、原稿づまりが発生することがあります。
- 穴あき原稿をセットするときは、穴あき部が後端になるように挿入してください。穴あき部を先端にすると、原稿づまりが発生することがあります。
- 手差しプリント中は、スキャンを開始できません。

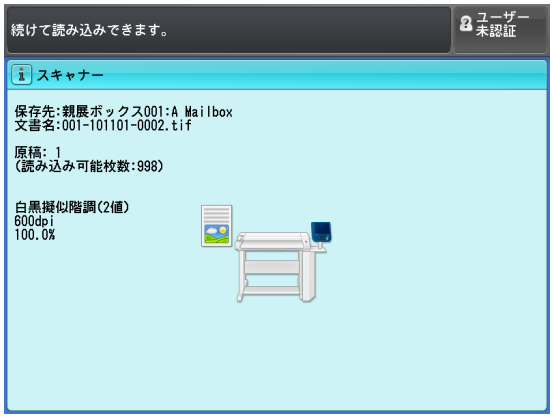
1. スキャンする面を下に向け、原稿ガイドに合わせて奥に突き当たるまで挿入します。



補足

- 原稿ガイドを右にずらすことによって、原稿の読み込み位置をずらすこともできます。
- 厚紙の原稿をスキャンする場合は、「厚紙の原稿を読み込む場合」（P.76）を参照してください。

原稿が自動的に引き込まれ、いったん停止します。
その後、原稿の読み込みが自動的にスタートします。



注記

- 原稿が搬送されるまで、手を離さないでください。原稿が長い場合、スキャナーから落ちることがあります。

補足

- 仕様設定で原稿の読み込み開始方法を［マニュアルスタート］に設定している場合は、〈原稿スタート〉ボタンを押します。
  マニュアルスタートの設定方法については、「原稿読み込み開始方法」（P.384）を参照してください。
- 問題が発生すると、タッチパネルディスプレイにエラーメッセージが表示されます。メッセージに従って対処してください。

2. 排出された原稿を取り除きます。

3.1.3 Step3 スキャンデータを取り込む

本機の親展ボックスに保存されている文書をコンピューターに取り込みます。取り込むには次の 3 つの方法があります。

アプリケーションを使用して取り込む

スキャナードライバー（ネットワーク接続）を使用します。

参照
- 詳細については、「6.5.1 TWAIN対応アプリケーションから取り込む」（P.226）を参照してください。

親展ボックスビューワー 3を使用して取り込む

弊社のアプリケーションソフトの親展ボックスビューワー 3を使用します。

参照
- 詳細については、「6.5.2 親展ボックスビューワー 3から取り込む」（P.229）を参照してください。

CentreWare Internet Servicesを使用して取り込む

CentreWare Internet Servicesを使用します。

参照
- 詳細については、「6.5.3 CentreWare Internet Services を利用して取り込む」（P.233）を参照してください。

3.2　スキャンを中止する

原稿の搬送を中止する、またはスキャンを中止する手順について説明します。参照先は、次のとおりです。

- 原稿の搬送を中止する.....P.149
- スキャンを中止する.....P.150

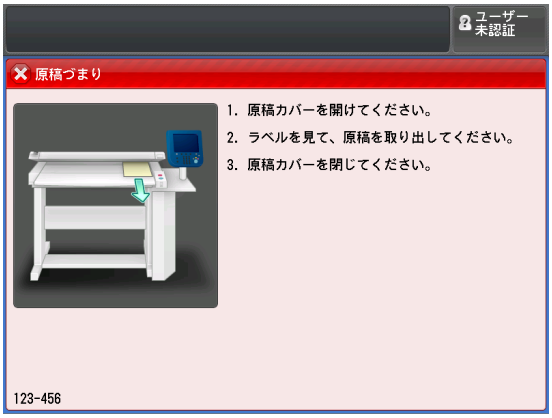
3.2.1　原稿の搬送を中止する

原稿が曲がったり、破れそうなときは、搬送を中止します。

1. 原稿を搬送中に、スキャナーの〈原稿ストップ〉ボタンを押します。

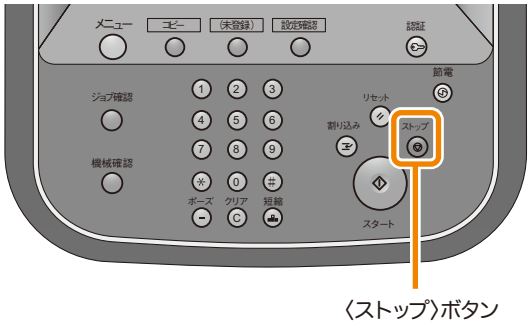
原稿の搬送が停止します。

2. タッチパネルディスプレイに表示されたメッセージに従って、対処してください。



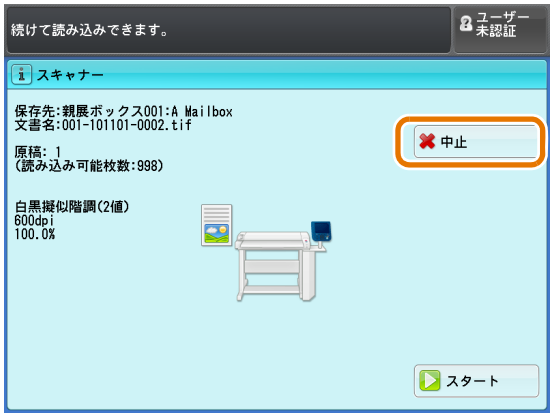
3.2.2　スキャンを中止する

1. 操作パネルの〈ストップ〉ボタン、またはタッチパネルディスプレイの［ストップ］を押します。



〈ストップ〉ボタン

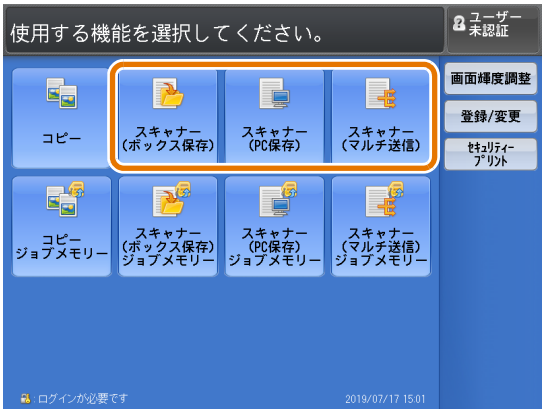
2. ［中止］を押します。



3.3 フルカラーでスキャンする

フルカラーでスキャンします。

1. メニュー画面で［スキャナー（ボックス保存）］、［スキャナー（PC保存）］、［スキャナー（マルチ送信）］のどれかを押し、保存先または宛先を指定します。



参照
- 「3.9 ［スキャナー（ボックス保存）］画面」(P.160)
- 「3.10 ［スキャナー(PC保存)］画面」(P.171)
- 「3.11 ［スキャナー（マルチ送信）］画面」(P.174)

2. ［フルカラー］を押します。
3. 必要に応じて、そのほかの機能を設定します。

補足
- ［読み取り解像度］が400dpi以上の場合、［原稿読み取り速度］の［高速］は設定できません。
- ［原稿の画質］の［青焼き］、［透過］、［濃淡むら原稿］は設定できません。
- ［中間調の振り分け］は設定できません。

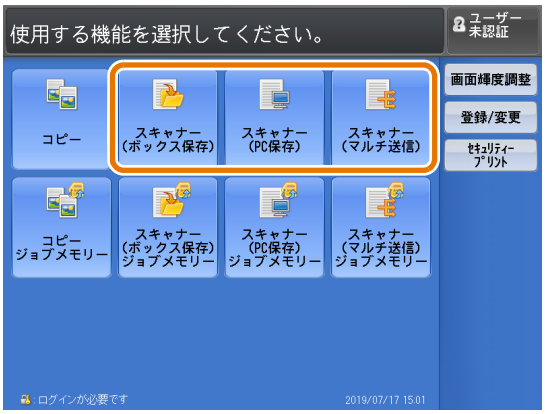
4. 原稿をセットし、スキャンを開始します。

参照
- 「3.1.2 Step2 スキャンを開始する」(P.147)

3.4 原稿上の指定した色を赤色でスキャンする（赤黒スキャン）

指定した色を赤色に置き換えてスキャンします。スキャンしたデータのファイルサイズは、フルカラーでスキャンしたときよりも小さくなります。

1. メニュー画面で［スキャナー（ボックス保存）］、［スキャナー（PC保存）］、［スキャナー（マルチ送信）］のどれかを押し、保存先または宛先を指定します。



参照
- 「3.9 ［スキャナー（ボックス保存）］画面」(P.160)
- 「3.10 ［スキャナー（PC保存）］画面」(P.171)
- 「3.11 ［スキャナー（マルチ送信）］画面」(P.174)

2. ［赤黒（2値）］または［赤黒擬似階調（2値）］を選択します。

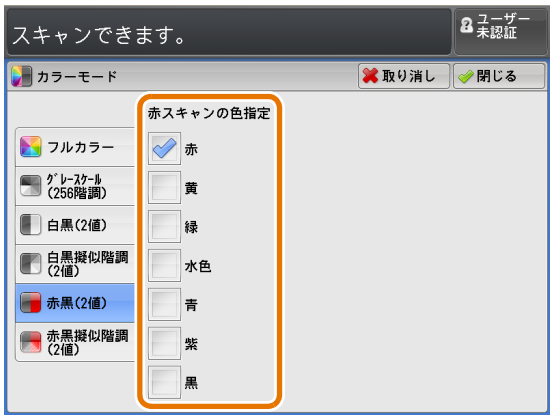
3. 赤色でスキャンする原稿の色を選択します。

補足
- 各色の認識範囲を設定できます。設定方法については、「11.3.4 読み取り色範囲指定」(P.381) を参照してください。

4. 必要に応じて、そのほかの機能を設定します。

5. 原稿をセットしし、スキャンを開始します。

参照
- 「3.1.2 Step2 スキャンを開始する」(P.147)



3.5 プレビューを表示する

スキャンデータを保存する前に、プレビューを表示します。

注記
- 2,772 mmを超える長さの原稿では、プレビューが表示されません。プレビューが表示されなくても、スキャンデータは保存されます。

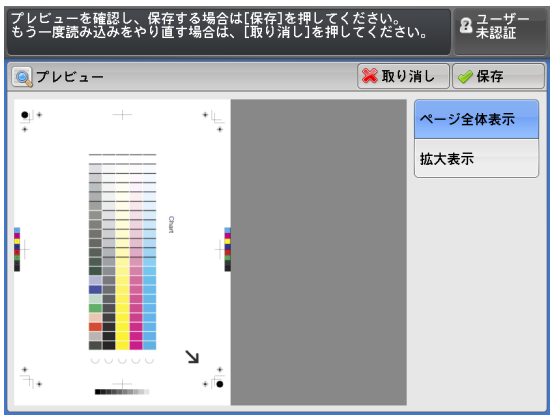
1. メニュー画面で［スキャナー（ボックス保存）］、［スキャナー（PC 保存）］、［スキャナー（マルチ送信）］のいずれかを押し、保存先または宛先を指定します。

参照
- 「3.9 ［スキャナー（ボックス保存）］画面」（P.160）
- 「3.10 ［スキャナー（PC保存）］画面」（P.171）
- 「3.11 ［スキャナー（マルチ送信）］画面」（P.174）

2. ［プレビュー］チェックボックスをオンにします。
3. 必要に応じて、そのほかの機能を設定します。
4. 原稿をセットし、スキャンを開始します。

5. プレビューを確認します。

ページ全体表示
スキャンしたページ全体を表示します。

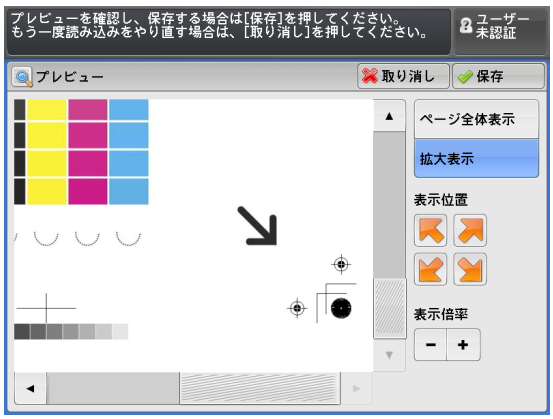


拡大表示

スキャンしたページを拡大表示します。左右または上下のツールバーをドラッグして表示位置を変更します。

［表示位置］の矢印で四隅に移動します。

［表示倍率］の［−］［+］で拡大/縮小します。



6. 保存する場合は［保存］を押します。

もう一度読み込みをやり直す場合は、［取り消し］を押します。

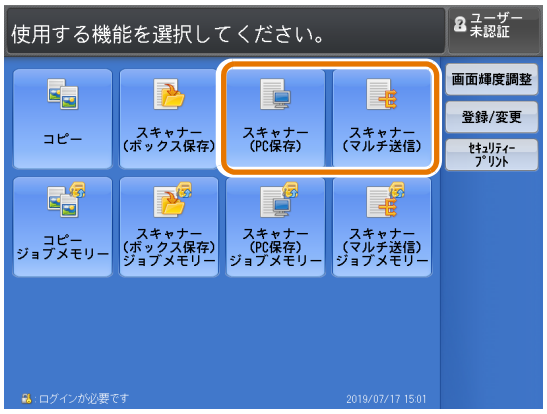
3.6　スキャンデータを暗号化する

PDFファイル形式、またはDocuWorksファイル形式で保存したデータにセキュリティーを設定して、不正なアクセスを防ぎます。

注記

- スキャナー（ボックス保存）では、セキュリティーは設定できません。
- スキャナー（マルチ送信）では、同じ設定値によるパスワード暗号化ファイルが複数の宛先（サーバーのみ）へ転送されます。

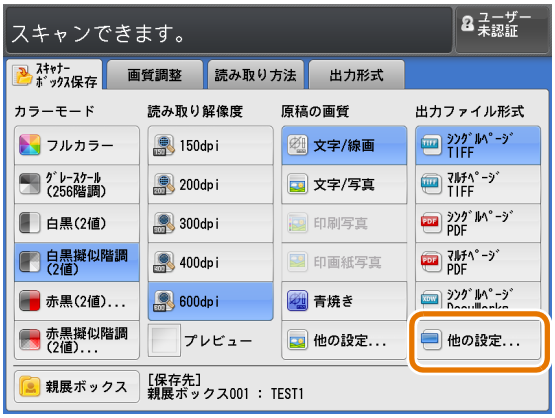
1. メニュー画面で［スキャナー（PC保存）］、または［スキャナー（マルチ送信）］を押し、保存先または宛先を指定します。



参照

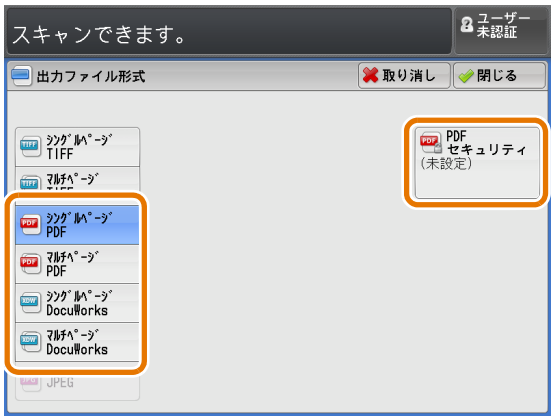
- 「3.10 ［スキャナー（PC保存）］画面」（P.171）
- 「3.11　［スキャナー（マルチ送信）］画面」（P.174）

2. ［他の設定...］を押します。



3. ［シングルページPDF］、［マルチページPDF］、［シングルページ　DocuWorks］、［マルチページDocuWorks］のいずれかを選択します。

4. ［PDFセキュリティ］または［DocuWorksセキュリティ］を押します。



PDFセキュリティ

［出力ファイル形式-PDFセキュリティ］画面が表示されます。

参照

- 「［出力ファイル形式-PDFセキュリティ］画面」（P.168）を参照してください。

DocuWorksセキュリティ

［出力ファイル形式-DocuWorksセキュリティ］画面が表示されます。

参照 •「［出力ファイル形式-DocuWorksセキュリティ］画面」（P.170）を参照してください。

5. 必要に応じて、そのほかの機能を設定します。

6. 原稿をセットし、スキャンを開始します。

参照 •「3.1.2 Step2 スキャンを開始する」（P.147）

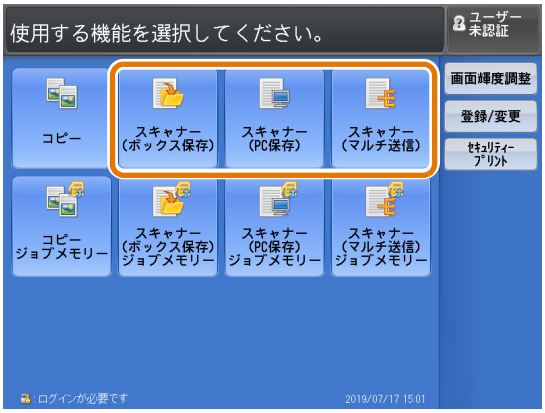
3.7 複数枚の原稿を 1 つのファイルとしてスキャンする

［出力ファイル形式］で［マルチページ TIFF］、［マルチページ PDF］、［マルチページ DocuWorks］を選択すると、複数枚の原稿をまとめて1つのファイルとしてスキャンできます。

補足

- スキャンデータ生成時に一定のファイルサイズを超えた場合は、タッチパネルディスプレイにエラーメッセージが表示されます。メッセージに従って対処してください。ファイルサイズの制限については、「作成されるスキャンデータのファイルサイズについて」(P.451) を参照してください。

1. メニュー画面で［スキャナー（ボックス保存）］、［スキャナー（PC保存）］、［スキャナー（マルチ送信）］のいずれかを押し、保存先または宛先を指定します。

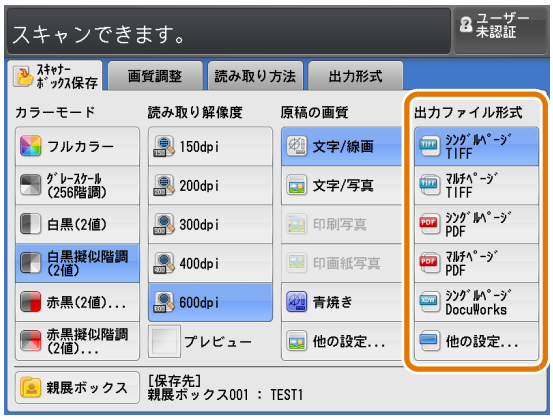


参照

- 「3.9 ［スキャナー（ボックス保存）］画面」(P.160)
- 「3.10 ［スキャナー(PC保存)］画面」(P.171)
- 「3.11 ［スキャナー（マルチ送信）］画面」(P.174)

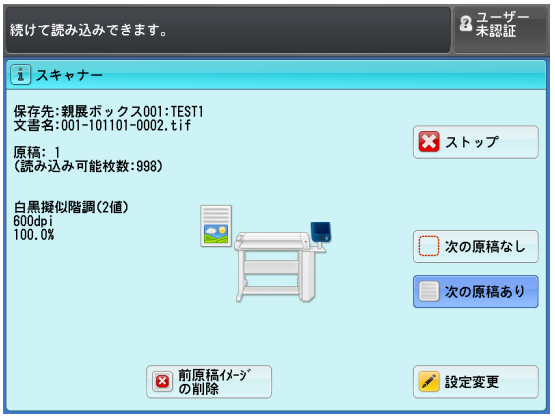
2. ［マルチページTIFF］、［マルチページPDF］、［マルチページDocuWorks］のいずれかを選択します。

3. 必要に応じて、そのほかの機能を設定します。



4. 1枚めの原稿をセットします。

読み込みがスタートします。



参照

- 「3.1.2 Step2 スキャンを開始する」(P.147)

ストップ

スキャンを中止します。

次の原稿なし

すべての原稿を読み終わったら押します。

次の原稿あり

次の原稿があるときに押します。

前原稿イメージの削除

直前に読み込んだ原稿のイメージを削除できます。

設定変更

次の原稿のカラーモード、解像度、画質などの設定を変更できます。

補足

- ［カラーモード］の変更は、［白黒(2値)］⇔［白黒擬似階調(2値)］、または［赤黒(2値)］⇔［赤黒擬似階調(2値)］だけ可能です。

5. 次の原稿をセットします。

   さらに原稿が続くときは、この手順を繰り返します。

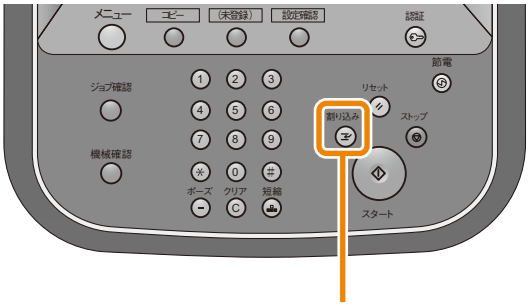
6. すべての原稿を読み取ったら、［次の原稿なし］を押します。

3.8　割り込んでスキャンする

連続したプリントを一時中断して、急ぎのスキャンをすることができます。

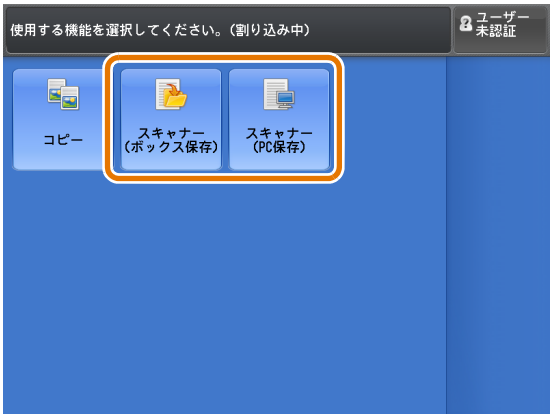
補足
- スキャナー（マルチ送信）は、割り込みスキャンできません。
- コピー中は、割り込みスキャンできません。

1. 〈割り込み〉ボタンを押します。
   〈割り込み〉ボタンが点灯し、割り込み可能な状態になったことを示します。



〈割り込み〉ボタン

2. プリント中の場合は、[メニュー] 画面が表示されるので、[スキャナー（ボックス保存）]、または [スキャナー（PC保存）] を押します。
3. 必要に応じて、機能を設定します。
4. 原稿をセットし、スキャンを開始します。



参照 「3.1.2　Step2　スキャンを開始する」(P.147)

5. 割り込みスキャンが終了したら、〈割り込み〉ボタンを押します。
   〈割り込み〉ボタンが消灯し、割り込みが解除されたことを示します。
   一時中断していたプリントを再開します。

3.9 ［スキャナー（ボックス保存）］画面

［スキャナー（ボックス保存）］画面で、機能を選択する手順について説明します。スキャンした原稿を、本機の親展ボックスに保存できます。

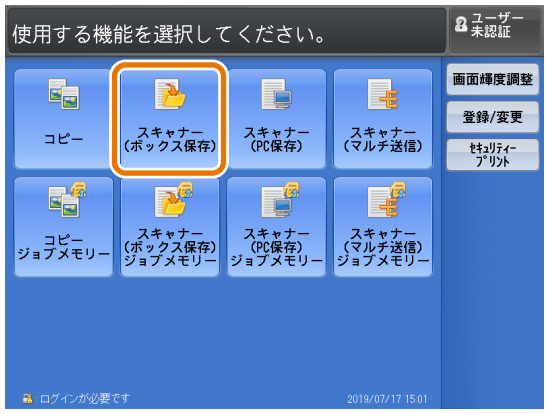
参照

- スキャナー（ボックス保存）機能を使用するには、あらかじめネットワークの設定が必要です。ネットワークの設定については、「7.3.1 スキャナー（ボックス保存）の設定」（P.249）を参照してください。
- 親展ボックスは、あらかじめ作成しておきます。親展ボックスの作成方法については、「7.1.2 親展ボックス（ボックス保存宛先）」（P.240）を参照してください。

ここでは、［スキャナーボックス保存］画面について説明します。参照先は、次のとおりです。

- 親展ボックスの文書を確認/削除する P.161
- カラーモード（スキャンの色を選択する） P.162
- 読み取り解像度（読み取る解像度を指定してスキャンする） P.163
- プレビュー（プレビュー表示を選択する） P.163
- 原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する） P.164
- 出力ファイル形式（スキャンしたデータの種類を選択する） P.166

1. メニュー画面で［スキャナー（ボックス保存）］を押します。



2. 保存する親展ボックスを指定します。

補足

- 登録されている番号だけを選択できます。
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- 任意の親展ボックスを先頭に表示させたい場合、［表示開始番号］に親展ボックスの番号を入力してください。

3. パスワードを入力し、［確定］を押します。
4. ［決定］を押します。

5. ［スキャナーボックス保存］画面で、機能を選択します。

補足
- 保存する親展ボックスを指定し直す場合は、［親展ボックス］を押します。

3.9.1 親展ボックスの文書を確認/削除する

選択した親展ボックスに保存されている文書の内容を確認したり、削除したりできます。

1. ［親展ボックス］を選択します。

2. ［文書確認/削除］を押します。

3. 文書を選択します。

補足
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。

4. 任意の項目を選択します。

全文書選択

親展ボックス内のすべての文書を選択できます。全文書選択した状態で再度選択すると、選択が解除されます。

削除

選択した文書を削除します。

文書確認

選択した文書の内容を確認できます。

3.9.2 カラーモード（スキャンの色を選択する）

原稿を読み取るときのカラーモードを設定します。

1. カラーモードを選択します。

補足

- 標準設定は、［白黒擬似階調（2値）］です。

フルカラー

フルカラーモードで読み取るときに指定します。

補足

- ［読み取り解像度］が 400 dpi 以上の場合、［原稿読み取り速度］の［高速］は設定できません。
- ［原稿の画質］の［青焼き］、［透過］、［濃淡むら原稿］は設定できません。
- ［中間調の振り分け］は設定できません。

グレースケール（256階調）

256 階調のモノクロの画像モードでスキャンするときに指定します。スキャンしたデータのファイルサイズは、白黒（2値）、白黒擬似階調（2値）より大きくなります。

補足

- ［中間調の振り分け］は設定できません。

白黒（2値）

一般の文書や図面原稿などをスキャンするときに指定します。スキャンしたデータのファイルサイズは、白黒擬似階調（2値）、グレースケール（256階調）より小さくなります。

補足

- ［原稿の画質］の［印刷写真］、［印画紙写真］は設定できません。

白黒擬似階調（2値）

ハーフトーンの原稿をスキャンするときに指定します。

補足

- ［中間調の振り分け］は設定できません。

赤黒（2値）

一般の文書や図面原稿などを赤黒スキャンするときに指定します。

赤黒擬似階調（2値）

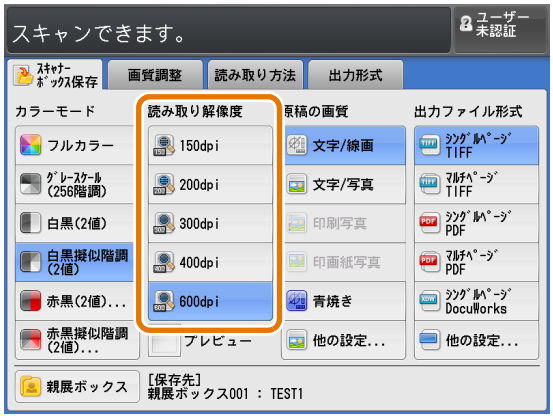
ハーフトーンの原稿を赤黒スキャンするときに指定します。

補足　• ［中間調の振り分け］は設定できません。

3.9.3　読み取り解像度（読み取る解像度を指定してスキャンする）

原稿を読み取るときの解像度を設定できます。
数値が大きくなるほど、細かく読み取られますが、データ量は大きくなります。データ量が大きいと、読み込み、および送信に時間がかかります。

1. 解像度を選択します。



3.9.4　プレビュー（プレビュー表示を選択する）

原稿を読み取る前に、プレビューを表示するかしないかを選択できます。

1. プレビューを表示する、またはしないを選択します。

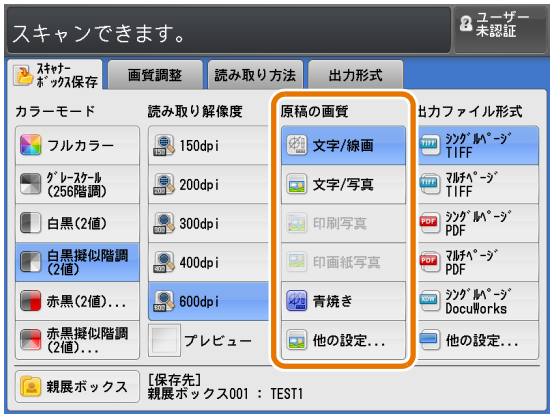
3.9.5　原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）

写真原稿、文字原稿などをスキャンする場合は、それぞれの原稿に応じた画質でスキャンできます。図面などの文字線画で構成されている多くの原稿は、[文字/線画] を選択することで、最適の画質でスキャンできます。より専門的にスキャンしたいときにほかのモードを使用することをお勧めします。

注記

- [カラーモード] の [白黒 (2値)] が設定されている場合は、[印刷写真]、[印画紙写真] は設定できません。また、[フルカラー] が設定されている場合は、[青焼き]、[透過]、[濃淡むら原稿] は設定できません。
- [地色除去] で [する（自動)] を選択した場合は、[印刷写真] または [印画紙写真] は設定できません。

1. 原稿の画質を選択します。



補足

- [スキャナー] 画面に表示される原稿の画質を変更できます。設定方法については、「11.6.1 プリセットボタンの設定」(P.408)を参照してください。

文字/線画

文字をはっきりとスキャンしたいときに選択します。グラフ、イラストなどの場合も、はっきりとスキャンします。

文字/写真

文字と写真が混在した原稿をスキャンするときに選択します。

印刷写真

原稿の写真部分が、パンフレットなど印刷物の場合に選択します。

印画紙写真

写真の切り貼り原稿の場合に選択します。スキャンが青みがかるのを防ぎます。

青焼き

比較的下地の色の濃い青焼き原稿をスキャンするときに選択します。

他の設定...

[原稿の画質] 画面が表示されます。

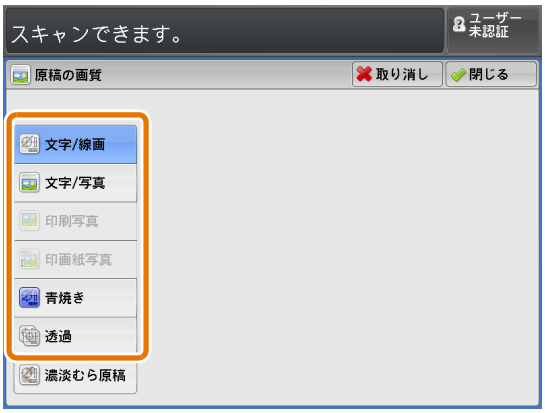
参照

- 「[原稿の画質] 画面」(P.165) を参照してください。

［原稿の画質］画面

そのほかの画質を選択できます。

1. 原稿の画質を選択します。



文字/線画

文字をはっきりとスキャンしたいときに選択します。グラフ、イラストなどの場合も、はっきりとスキャンします。

文字/写真

文字と写真が混在した原稿をスキャンするときに選択します。

印刷写真

原稿の写真部分が、パンフレットなど印刷物の場合に選択します。

印画紙写真

写真の切り貼り原稿の場合に選択します。スキャンが青みがかるのを防ぎます。

青焼き

比較的下地の色の濃い青焼き原稿をスキャンするときに選択します。

透過

透過原稿をスキャンするときに選択します。文字のまわりのにじみを抑えます。

濃淡むら原稿

切り貼りなどで下地の色の濃度が変化している原稿をスキャンするときに選択します。

選択すると、［原稿の画質］画面が表示されます。濃淡むら原稿のむらの大きさを80段階で調整できます。

注記

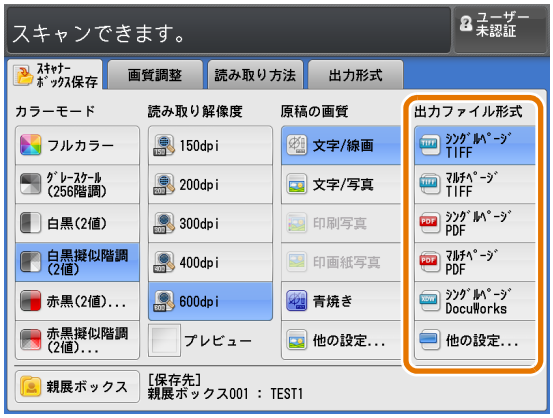
- 濃淡むら原稿は、文字線画の原稿を対象にしています。ポスターなどの写真原稿には使用しないでください。
- むらの大きさの設定によって効果が変わるため、必ず仕上がり結果を確認してください。

3.9.6　出力ファイル形式（スキャンしたデータの種類を選択する）

スキャンしたデータの種類を設定します。

参照
- ファイルサイズやマルチページのページ数制限については、「12.4.3　スキャン機能での注意 / 制限」（P.450）を参照してください。

1. 出力ファイル形式を選択します。



補足
- ［スキャナー］画面に表示される出力ファイル形式を変更できます。設定方法については、「11.6.1 プリセットボタンの設定」（P.408）を参照してください。

シングルページTIFF

1ページずつ1ファイルにして、TIFFファイル形式で保存します。

マルチページTIFF

複数ページを1ファイルにして、TIFFファイル形式で保存します。

シングルページPDF

1ページずつ1ファイルにして、PDFファイル形式で保存します。

マルチページPDF

複数ページを1ファイルにして、PDFファイル形式で保存します。

シングルページDocuWorks

1ページずつ1ファイルにして、XDWファイル形式で保存します。

他の設定...

［出力ファイル形式］画面が表示されます。

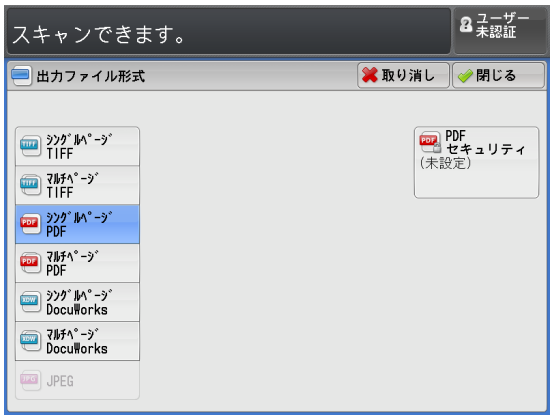
参照
- 「［出力ファイル形式］画面」（P.167）を参照してください。

［出力ファイル形式］画面

そのほかの出力ファイル形式を選択できます。

注記
- スキャナー（ボックス保存）では、セキュリティーは設定できません。
- スキャナー（マルチ送信）では、同じ設定値によるパスワード暗号化ファイルが複数の宛先（サーバーのみ）へ転送されます。

1. 出力ファイル形式を選択します。



シングルページTIFF

1ページずつ1ファイルにして、TIFFファイル形式で保存します。

マルチページTIFF

複数ページを1ファイルにして、TIFFファイル形式で保存します。

シングルページPDF

1ページずつ1ファイルにして、PDFファイル形式で保存します。

マルチページPDF

複数ページを1ファイルにして、PDFファイル形式で保存します。

シングルページDocuWorks

1ページずつ1ファイルにして、XDWファイル形式で保存します。

マルチページDocuWorks

複数ページを1ファイルにして、XDWファイル形式で保存します。

JPEG

JPEGファイル形式で保存します。

補足
- ［カラーモード］が［フルカラー］または［グレースケール（256階調）］の場合に、［JPEG］を指定できます。

PDFセキュリティ

［出力ファイル形式-PDFセキュリティ］画面が表示されます。

補足
- ［シングルページPDF］または［マルチページPDF］を選択すると、［PDFセキュリティ］を指定できます。

参照
- 「［出力ファイル形式-PDFセキュリティ］画面」（P.168）を参照してください。

DocuWorksセキュリティ

［出力ファイル形式-DocuWorksセキュリティ］画面が表示されます。

補足
- ［シングルページDocuWorks］または［マルチページDocuWorks］を選択すると、［DocuWorksセキュリティ］を指定できます。

参照
- 「［出力ファイル形式-DocuWorksセキュリティ］画面」（P.170）を参照してください。

［出力ファイル形式-PDFセキュリティ］画面

PDFファイルに、パスワードによる暗号化や、ファイル操作へのアクセス権を設定できます。

1. 任意の項目を選択します。

設定しない

ファイルの暗号化、およびファイルへのアクセス権を設定しません。

パスワード

パスワードを設定することによって、128-bit AES方式でファイルを暗号化します。

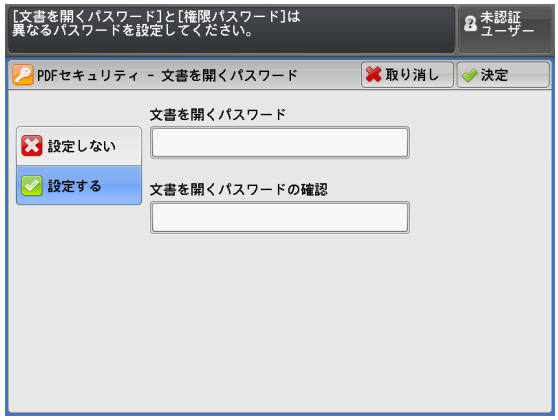
暗号化アルゴリズム

暗号化方式（128-bit AES）が表示されます。この方式で暗号化した場合は、Adobe® Acrobat® 7.0以降のソフトウェアで開けます。

互換のあるバージョン

暗号化するにあたって、互換性のあるAdobe® Acrobat®のバージョンが表示されます。

文書を開くパスワード



［PDFセキュリティ-文書を開くパスワード］画面が表示されます。

［設定する］を選択してパスワードを設定すると、ファイルを開くときにパスワードが必要になります。

パスワードは、32文字以内で入力します。

権限

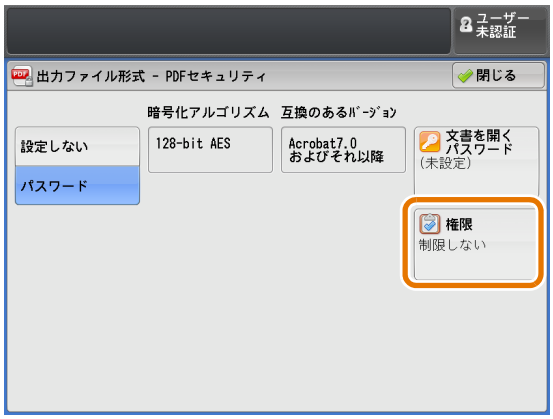
［PDFセキュリティ -権限］画面が表示されます。

参照 • 「［PDFセキュリティ -権限］画面」（P.169）を参照してください。

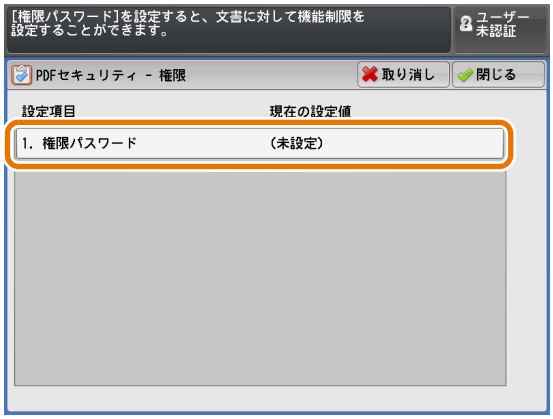
[PDFセキュリティ -権限] 画面

ファイルにアクセス権を設定します。

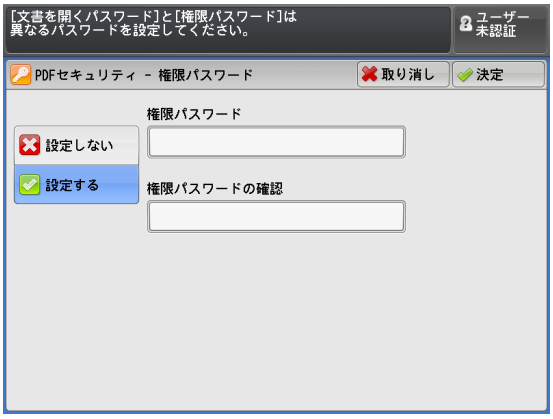
1. [権限] を押します。



2. [権限パスワード] を押します。



3. [設定する] を押します。
4. 権限パスワードを入力し、[決定] を押します。
5. 同様に [権限パスワードの確認] を入力し、[決定] を押します。
6. 任意の項目を選択します。



権限パスワード

[PDFセキュリティ-権限パスワード] 画面が表示されます。

パスワードを設定すると、ファイルにアクセス権を設定でき、アクセス権のない操作やアクセス権の変更に、パスワードの入力が必要になります。

パスワードは、32文字以内で入力します。

印刷を許可

[権限-印刷を許可] 画面が表示されます。

ファイルの印刷を許可するか、許可する場合はどのような解像度で印刷できるのかを設定します。

変更を許可

[権限-変更を許可] 画面が表示されます。

ページ挿入や注釈の追加など、ファイルの内容を変更できるかどうかを設定します。

テキスト、画像、その他のコピーを許可

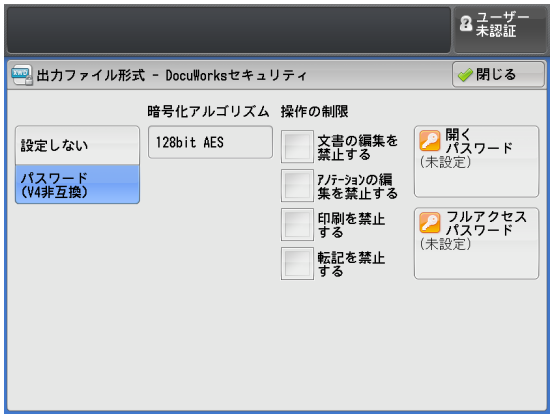
［テキスト、画像、その他のコピーを許可］画面が表示されます。

ファイル内のテキストや画像など、ファイルの内容をコピーできるかどうかを設定します。

［出力ファイル形式-DocuWorksセキュリティ］画面

DocuWorksファイルに、パスワードによる暗号化や、ファイル操作へのアクセス権を設定できます。

1. 任意の項目を選択します。



設定しない

ファイルの暗号化、およびファイルへのアクセス権を設定しません。

パスワード（V4非互換）

パスワードを設定することによって、128-bit AES方式でファイルを暗号化します。

［開くパスワード］を押してパスワードを設定します。

［カラーモード］が［赤黒（2値）］または［赤黒擬似階調（2値）］で、この方式で暗号化した場合は、DocuWorks 5.0以降のソフトウェアで開けます。

［カラーモード］が［赤黒（2値）］または［赤黒擬似階調（2値）］以外で、この方式で暗号化した場合は、DocuWorks 6.0以降のソフトウェアで開くことができます。

暗号化アルゴリズム

暗号化方式（128bit AES）が表示されます。

操作の制限

ファイルに対して、アクセス権を付けたい操作を設定します。

注記
- アクセス権を付ける場合は、［フルアクセスパスワード］も設定してください。［フルアクセスパスワード］を設定しないと、誰にでもアクセス権を変更することができてしまいます。

開くパスワード

［DocuWorksセキュリティ -開くパスワード］画面が表示されます。

［設定する］を選択してパスワードを設定すると、ファイルが暗号化され、ファイルを開くときにパスワードが必要になります。また、［操作の制限］で設定したアクセス権が付きます。

パスワードは、32文字以内で入力します。

注記
- ［開くパスワード］を設定する場合は、［フルアクセスパスワード］も設定してください。［フルアクセスパスワード］を設定しないと、［開くパスワード］の変更が可能になります。

フルアクセスパスワード

［DocuWorksセキュリティ -フルアクセスパスワード］画面が表示されます。

パスワードを設定すると、［操作の制限］で設定したアクセス権を変更する場合に、パスワードが必要になります。

パスワードは、32文字以内で入力します。

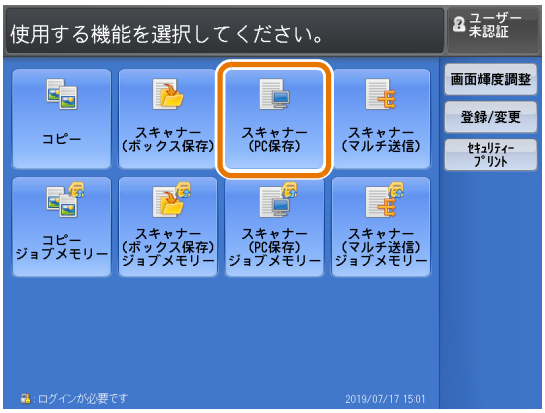
3.10 ［スキャナー（PC保存）］画面

［スキャナー（PC保存）］画面で、機能を選択する手順について説明します。ネットワークに接続しているコンピューター（サーバー）に保存します。

参照

- スキャナー（PC保存）機能を使用するには、あらかじめネットワークの設定が必要です。ネットワークの設定については、「7.3.2 スキャナー（PC保存）の設定」（P.250）を参照してください。
- サーバー（PC　保存宛先）は、あらかじめ登録しておきます。サーバーの登録方法については、「7.1.3 サーバー（PC保存宛先）」（P.242）を参照してください。

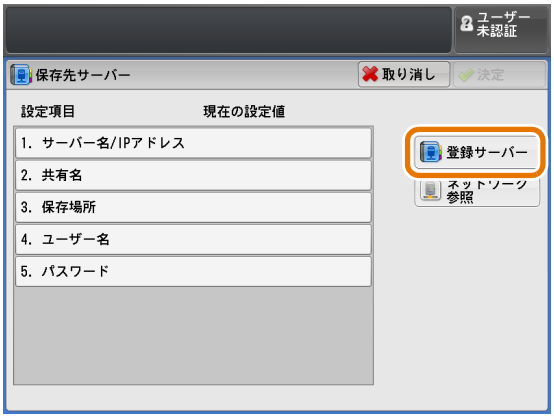
1. メニュー画面で［スキャナー（PC保存）］を押します。



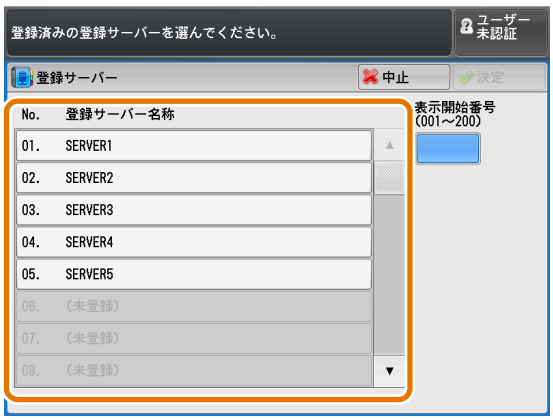
2. スキャンしたファイルの保存先を指定します。

登録されている保存先PCを指定する場合

(1) ［登録サーバー］を押します。



(2) 保存先サーバーを指定します。



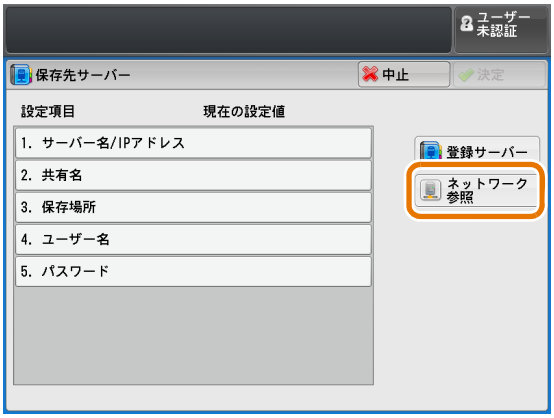
補足
- 登録されている番号だけを選択できます。
- [▲]を押して前画面、[▼]を押して次画面を表示できます。
- 任意の保存先サーバーを先頭に表示させたい場合、[表示開始番号]に保存先サーバー番号を入力してください。

(3) [決定]を押します。

補足
- 送信先との接続が確認されます。
- 送信先と接続できない場合はエラーメッセージが表示されるので、[確認]を押し、設定内容を確認してください。

ネットワークを参照して保存先PCを指定する場合

(1) [ネットワーク参照]を押します。



(2) 保存先となる宛先を選択します。

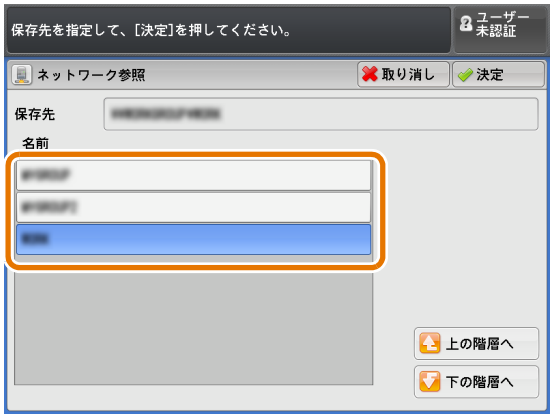
[上の階層へ]、[下の階層へ]を押して階層を変更できます。

保存先

現在の階層構造を確認できます。

上の階層へ

現在の階層の1つ上の階層に移動します。



補足
- このボタンは、上に階層がない場合は選択できません。

下の階層へ

現在の階層の1つ下の階層に移動します。

補足
- このボタンは、フォルダーを選択している場合に使用できます。

(3) [決定]を押します。

3. ［スキャナー PC保存］画面で、機能を選択します。

補足

- 次の機能は、［スキャナー（ボックス保存）］画面での機能と同じです。操作方法については、「3.9 ［スキャナー（ボックス保存）］画面」（P.160）を参照してください。
  - カラーモード
  - 読み取り解像度
  - 原稿の画質
  - 出力ファイル形式
- 保存する PC を指定し直す場合は、［保存先サーバー］を押します。

3.11 ［スキャナー（マルチ送信）］画面

［スキャナー（マルチ送信）］画面で、機能を選択する手順について説明します。スキャンした原稿を、登録した宛先グループのコンピューター（サーバー）に保存し、プリンターから印刷します。

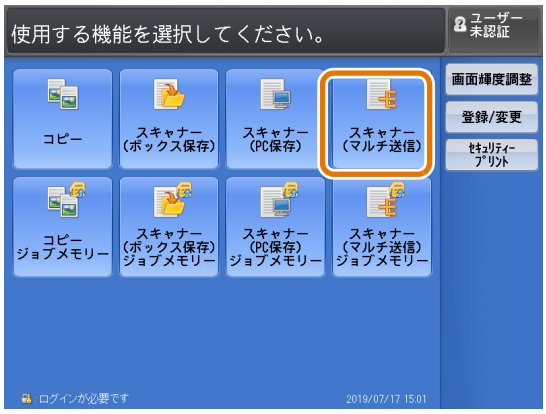
補足

- 宛先にプリンターを指定した場合、設定した出力ファイル形式に関係なく、TIFF ファイルまたは JPEG ファイルをプリンターに転送します。TIFF ファイルまたは JPEG ファイルを選択する方法については、「マルチ送信プリンター転送フォーマット」（P.411）を参照してください。

参照

- スキャナー（マルチ送信）機能を使用するには、あらかじめネットワークの設定が必要です。ネットワークの設定については「7.3.2 スキャナー（PC保存）の設定」（P.250）を参照してください。
- 宛先グループは、あらかじめ登録しておきます。宛先グループの登録方法については、「7.1.5 マルチ送信宛先（グループ宛先）」（P.245）を参照してください。

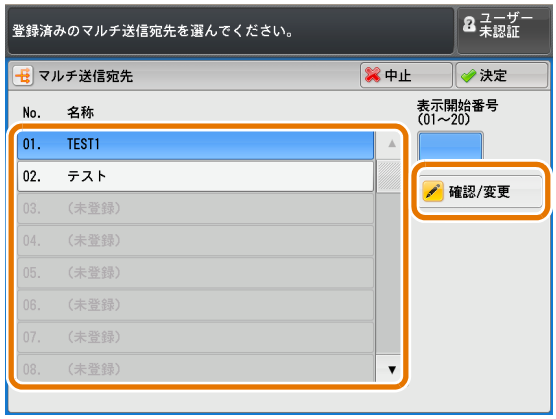
1. メニュー画面で［スキャナー（マルチ送信）］を押します。



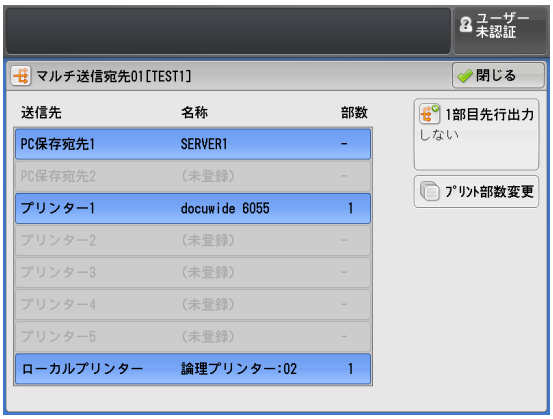
2. マルチ送信宛先のグループを選択して、［確認 / 変更］を押します。

補足

- 登録されている番号だけを選択できます。
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- 任意のグループを先頭に表示させたい場合、［表示開始番号］にグループ番号を入力してください。



3. 任意の項目を選択します。



送信先

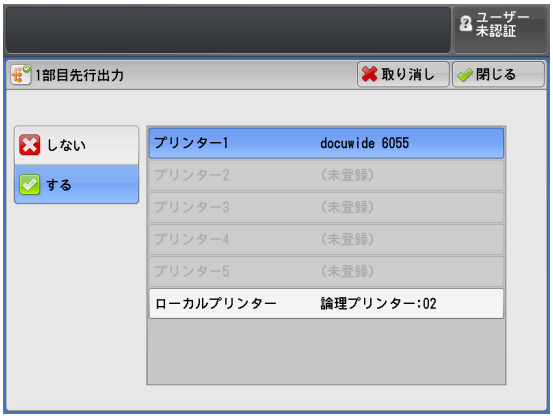
グループの宛先一覧が表示されるので、出力をキャンセルする場合は、該当する宛先を押します。

補足

- 送信先には、サーバー2か所、プリンター5か所、ローカルプリンター（本機）を5か所まで指定できます。

1部目先行出力

送信先にプリンターがある場合、複数枚の原稿をスキャンするときに、1枚の原稿の読み込みが終了するごとにプリントするかどうかを設定します。



補足

- 1部目のプリントに対してだけ有効です。2部目以降は、[次の原稿なし]が押された時点でプリントされます。

- しない
  先行出力しません。
- する
  先行出力します。プリンターは1箇所だけ選択できます。

プリント部数変更

送信先にプリンターがある場合、プリンターごとにプリントする部数を指定できます。
部数を変更するには、数値の入力領域を押して、操作パネルの〈数字〉ボタンで数値を入力するか、[+][−]を押して、プリント部数を入力します。

補足

- プリント部数は、99部まで入力できます。

4. [閉じる]を押します。

5. [決定]を押します。

補足

- 送信先との接続が確認されます。
- 送信先と接続できない場合はエラーメッセージが表示されるので、[確認]を押し、設定内容を確認してください。

6. ［スキャナーマルチ送信］画面で、機能を選択します。

補足

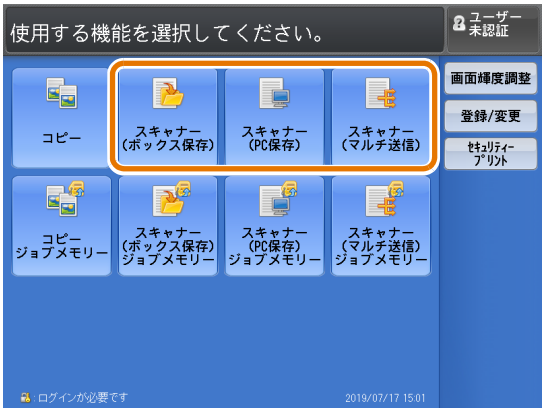
- 次の機能は、［スキャナー（ボックス保存）］画面での機能と同じです。操作方法については、「3.9 ［スキャナー（ボックス保存）］画面」（P.160）を参照してください。
  - カラーモード
  - 読み取り解像度
  - 原稿の画質
  - 出力ファイル形式
- マルチ送信宛先を指定し直す場合は、［マルチ送信宛先］を押します。

3.12　スキャナー -［画質調整］画面

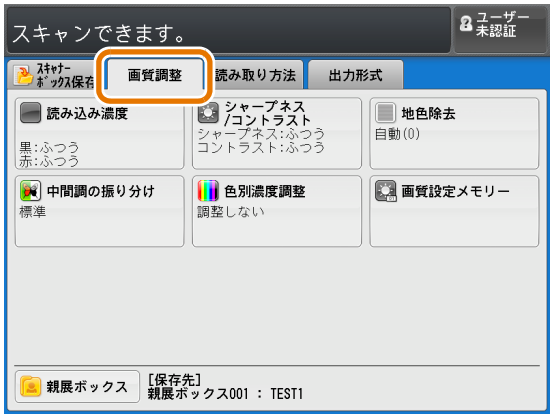
［画質調整］画面で設定できる機能について説明します。参照先は、次のとおりです。

- 読み込み濃度（スキャン濃度を調整する）.....P.178
- シャープネス/コントラスト（画像のシャープさ/コントラストを調整する）.....P.179
- 地色除去（原稿の背景にある色を除去する）.....P.180
- 中間調の振り分け（原稿の中間調を振り分ける）.....P.181
- 色別濃度調整（色別に濃度を調整する）.....P.182
- 画質設定メモリー（登録した画質設定を呼び出してスキャンする）.....P.183

1. メニュー画面で［スキャナー（ボックス保存）］、［スキャナー（PC保存）］、［スキャナー（マルチ送信）］のどれかを押し、保存先または宛先を指定します。



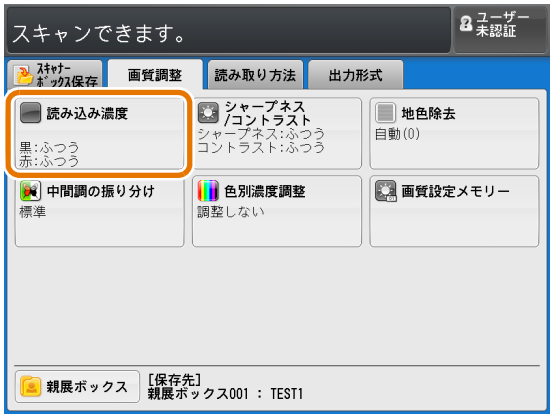
2. ［画質調整］画面で、機能を選択します。



3.12.1　読み込み濃度（スキャン濃度を調整する）

原稿の読み込み濃度を調整してスキャンできます。

1. ［読み込み濃度］を押します。



2. 読み込み濃度を調整します。

［うすく］～［こく］の間で、9 段階の読み込み濃度を、黒と赤それぞれに選択できます。
［こく］に近づくほど色を濃くスキャンし、［うすく］に近づくほど色を薄くスキャンします。

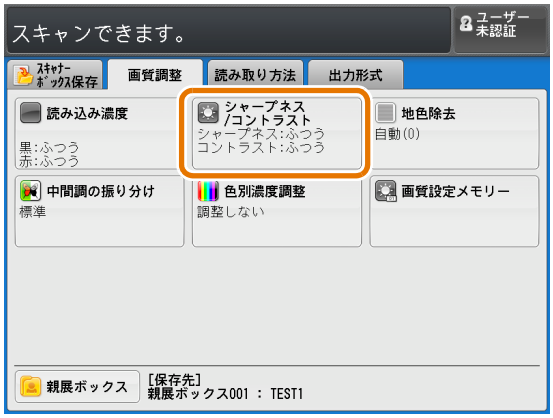
補足

- ［カラーモード］で設定した色ごとに、読み込み濃度を調整します。

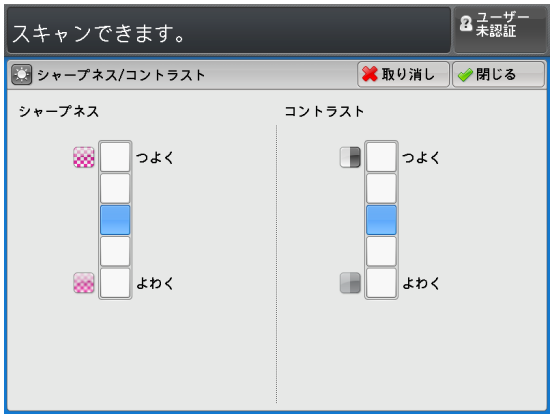
3.12.2　シャープネス/コントラスト(画像のシャープさ/コントラストを調整する)

画像のシャープさとコントラストを調整してスキャンできます。

1. ［シャープネス/コントラスト］を押します。



2. 任意の項目を調整します。



シャープネス

［つよく］～［よわく］の間で、5段階のシャープネスを選択できます。
［つよく］に近づくほど画像の輪郭が強調されます。［よわく］に近づくほど画像の輪郭をぼかしたようになります。

コントラスト

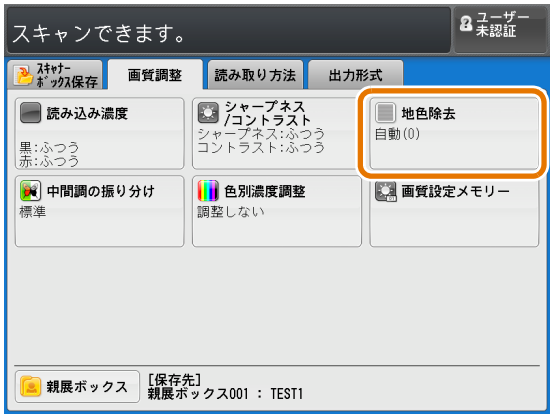
［つよく］～［よわく］の間で、5段階のコントラストを選択できます。
［つよく］に近づくほど明るい部分がより明るくなり、暗い部分がより暗くなり、明暗の差が広がります。［よわく］に近づくほど明るい部分と暗い部分の差がなくなります。

3.12.3　地色除去（原稿の背景にある色を除去する）

青焼き原稿などの下地の色を除去してスキャンします。

補足　• ［原稿の画質］で［印刷写真］または［印画紙写真］を選択した場合は、［する（自動）］は設定できません。

1. ［地色除去］を押します。



2. ［しない］、［する（自動）］、［する（手動）］のいずれかを選択します。

しない

原稿の下地の色はそのままでスキャンします。

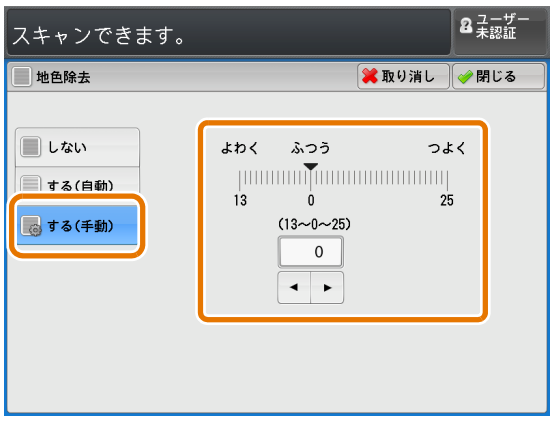
する（自動）

原稿の下地の色を自動的に除いてスキャンします。
［よわく］～［つよく］の間で7段階で調整できます。
［つよく］に近づくほど下地の色を消す度合いが多くなり、［よわく］に近づくほど下地の色をそのまま残します。

補足　• ［する（自動）］にして、画像が欠けたり、下地の色が残る場合は、［する（手動）］にしてマニュアル調整をするか、［読み込み濃度］を調整してください。

する（手動）

原稿の下地の色を一律に除いてスキャンします。
［よわく］～［つよく］の間で39段階で調整できます。



補足

- 次の原稿は、［しない］か［する（手動）］にしてマニュアル調整をしてください。
  - 写真/ポスター原稿/カラー原稿
  - 複雑に入り組んだような原稿
  - ドキュメントキャリアにはさんだ原稿
  - 部分的に下地の色より文字 / 線の像の方が多いような密度の高い原稿

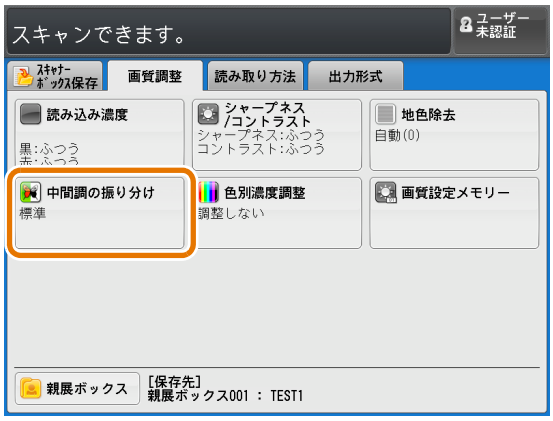
3.12.4　中間調の振り分け（原稿の中間調を振り分ける）

階調のある原稿に対して、疑似階調で表現するか、2値化に振り分けて表現するかを選択します。
通常は、階調のある原稿を疑似階調で表現しますが、中間調の振り分けで［する］を選択すると、階調を2値化に振り分けて表現します。

補足

- ［カラーモード］が、［フルカラー］、［グレースケール（256階調）］、［白黒擬似階調（2値）］、または［赤黒擬似階調（2値）］の場合は、［中間調の振り分け］は設定できません。

1. ［中間調の振り分け］を押します。

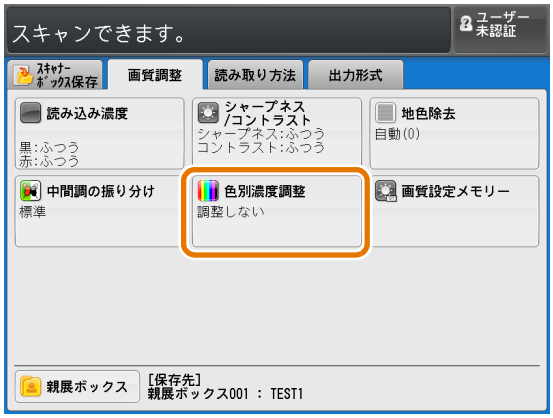


2. 黒か白、または赤か白に振り分けるときのしきい値を設定します。

3.12.5　色別濃度調整（色別に濃度を調整する）

カラー原稿の色別に濃度を調整して、強調や消しこみができます。

1. ［色別濃度調整］を押します。



2. 各色の濃度を調整します。

調整する

色別濃度調整を設定するときに、チェックボックスをオンにします。

赤、黄、緑、水色、青、紫、黒の色別に９段階の濃度を設定できます。

色をカットする

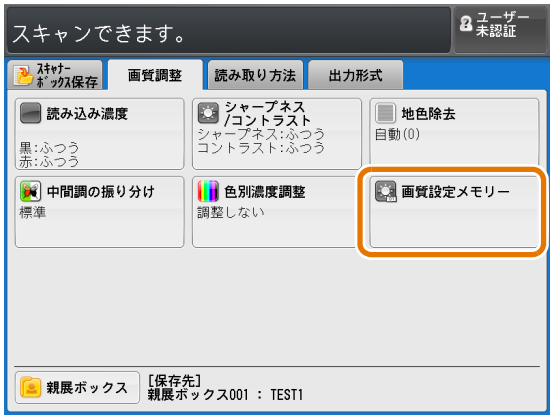
各色のチェックボックスをオンにすると、その色をカットすることができます。

3.12.6　画質設定メモリー（登録した画質設定を呼び出してスキャンする）

画質調整用のジョブメモリーです。[カラーモード]、[原稿の画質]、[読み込み濃度]、[シャープネス/コントラスト]、[地色除去]、[中間調の振り分け]、[色別濃度調整] の各設定値をメモリーに登録しておき、必要なときに呼び出すことができます。

参照
- スキャナー画質設定メモリーの登録方法については、「5.2 ジョブメモリーの登録/削除/変更」（P.200）を参照してください。

1. ［画質設定メモリー］を押します。



2. スキャナー画質設定メモリー番号を選択します。

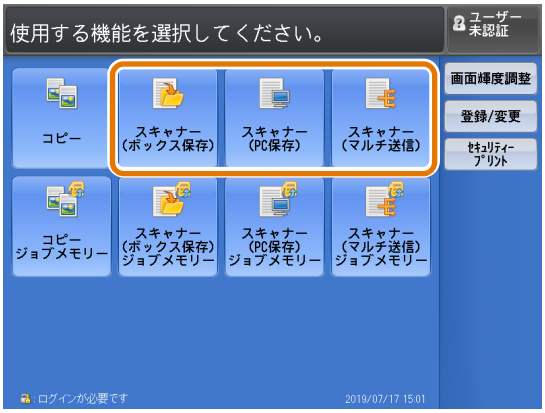
補足
- 登録されている番号だけを選択できます。
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- 任意のスキャナー画質設定メモリーを先頭に表示させたい場合、［表示開始番号］にスキャナー画質設定メモリー番号を入力してください。

3.13　スキャナー -［読み取り方法］画面

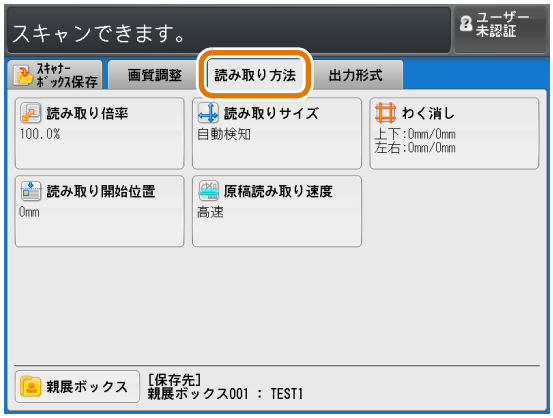
［読み取り方法］画面で設定できる機能について説明します。参照先は、次のとおりです。

- 読み取り倍率（原稿を読み取る倍率を指定してスキャンする）.....P.185
- 読み取りサイズ（原稿の読み取りサイズを指定してスキャンする）.....P.186
- わく消し（原稿の枠やとじしろの影を消してスキャンする）.....P.188
- 読み取り開始位置（原稿の読み取りはじめる位置を設定する）.....P.189
- 原稿読み取り速度（読み取る速度を指定してスキャンする）.....P.190

1. メニュー画面で［スキャナー（ボックス保存）］、［スキャナー（PC保存）］、［スキャナー（マルチ送信）］のどれかを押し、保存先または宛先を指定します。



2. ［読み取り方法］画面で、機能を選択します。



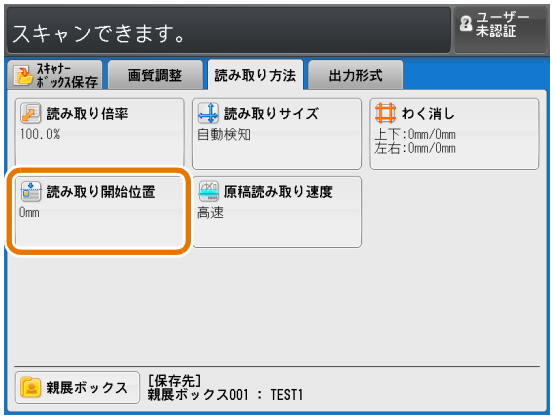
3.13.1　読み取り倍率（原稿を読み取る倍率を指定してスキャンする）

読み取った原稿を指定した倍率に拡大/縮小してスキャンします。

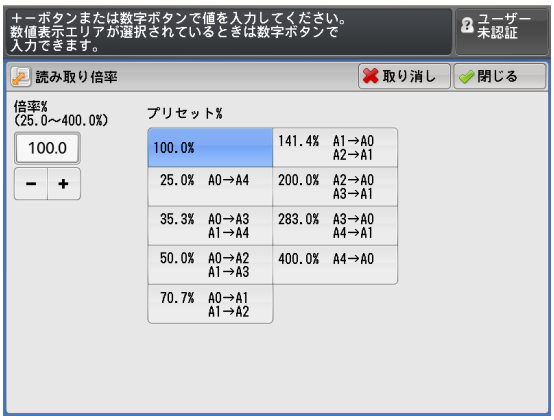
補足

- 原稿全体を正常に読み取りできる最大の倍率は、
「((原稿幅（mm）/25.4）×解像度の値）×（倍率の値/100）≦21600（914.4 mm幅）」です。
たとえば、原稿サイズがA0で解像度が600 dpiの場合、倍率を141.4 %以上に設定すると、画像が欠けます。上限値を超える設定をした場合、上限値を超えた部分の画像が欠けます。
また、設定できる最小の倍率は、「解像度の値×（倍率の値/100）≧150（%）」です。
たとえば、原稿サイズがA0で解像度が150 dpiの場合、倍率を70%以下（A1以下）に設定できません。
設定できない最小の倍率を指定した場合、画面にエラーメッセージが表示されるので、設定を変更してください。

1. ［読み取り倍率］を押します。



2. 任意の項目を選択します。



倍率%

倍率を数値で入力します。倍率は、25.0～400.0 %の範囲で0.1 %単位に指定します。100 %に設定すると、原稿と同じ大きさで読み取ります。

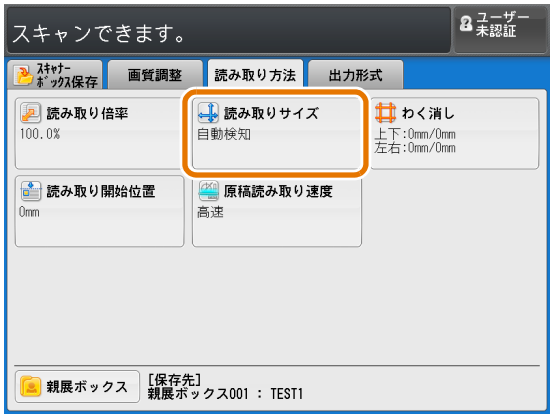
プリセット%

あらかじめ設定されている倍率から選択します。

3.13.2　読み取りサイズ（原稿の読み取りサイズを指定してスキャンする）

原稿の読み取りサイズを指定できます。
セットしている原稿とは異なるサイズで読み取りたい場合に、原稿サイズを指定します。余白を付けたり、余分な部分を削除したりしてスキャンできます。

1. ［読み取りサイズ］を押します。



2. 任意の項目を選択します。

自動検知

原稿サイズを自動で認識します。

補足

- ［自動検知］のときに検知するサイズ系列は、仕様設定機能で設定します。設定方法については、「原稿サイズ検知切り替え」（P.384）を参照してください。

定形サイズ

登録されている定形サイズの中から選択します。

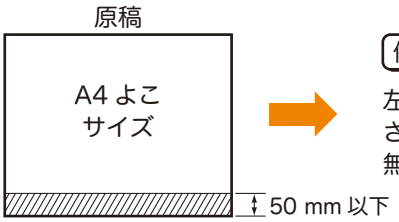
注記

- ［保存/圧縮形式］にXDWまたはPDFを選択した場合は、倍率、解像度の組み合わせによっては、読み取りサイズが変わるか、またはエラーになることがあります。詳細については、「注意/制限事項について」の「12.4.3 スキャン機能での注意/制限」（P.450）参照してください。

［自動検知］、または各定形サイズ指定の場合で、定形サイズよりも長い原稿がセットされたときは、次のように処理されます。

●原稿の長さが、定型よこの短辺の長さ＋50 mm 以下の場合

「定形よこ」と検知され、はみ出した部分は無視されます。

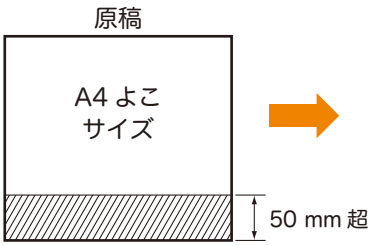


例

左図の原稿では、「A4 よこ」と検知され、はみ出した部分（斜線部）は無視されます。

●原稿の長さが、定型よこの短辺の長さ＋50 mm を超える場合

1 サイズ大きい「定形たて」と検知されます。



例

左図の原稿では、「A3 たて」と検知されます。

●原稿の長さが、定型たての長辺の長さを超える場合

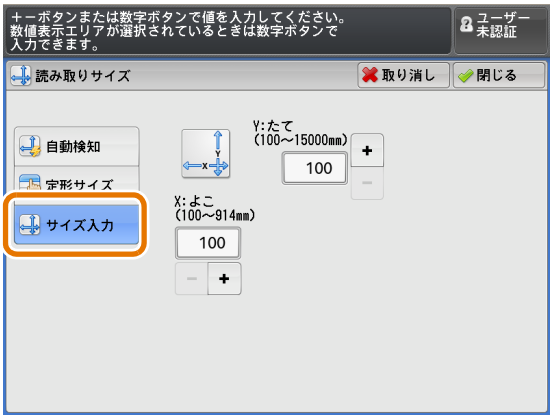
「定形たて」と検知され、はみ出した部分は無視されます。

例

左図の原稿では、「A4 たて」と検知され、はみ出した部分（斜線部）は無視されます。

サイズ入力

セットしている原稿とは異なるサイズでスキャンする場合に、読み取りたいサイズを入力します。サイズは、よこ100～914 mm、たて100～15,000 mmの範囲で1 mm単位に指定します。



3.13.3　わく消し（原稿の枠やとじしろの影を消してスキャンする）

縁取りのある原稿をスキャンするときに、スキャン画像のまわりに黒い影ができることがあります。このような場合に、影を消してスキャンできます。

補足　• ［読み取り倍率］を設定している場合は、倍率に比例して、わく消し量も拡大/縮小されます。

1. ［わく消し］を押します。

2. 任意の項目を選択します。

標準

上下/左右のわく消し量は0 mmに設定されます。

4辺同一

原稿の上下左右の影を消します。わく消しの幅は、0～50 mmの範囲で1 mm単位に指定します。

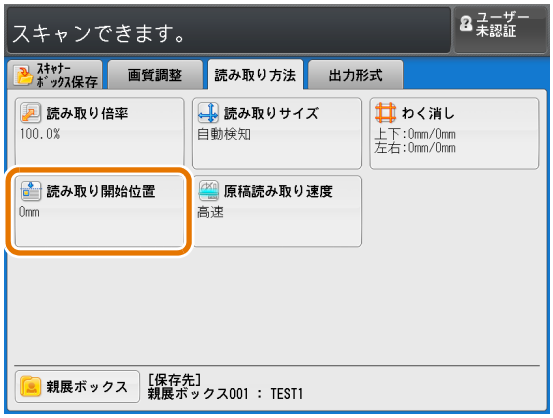
4辺独立

原稿の上下左右の影を消します。上消し、下消し、左消し、右消しの４種類を、個別に必要な量だけ消すことができます。わく消しの幅は、0～50 mmの範囲で1 mm単位に指定します。

3.13.4　読み取り開始位置（原稿の読み取りはじめる位置を設定する）

原稿を読み取りはじめる位置を設定します。

1. ［読み取り開始位置］を押します。

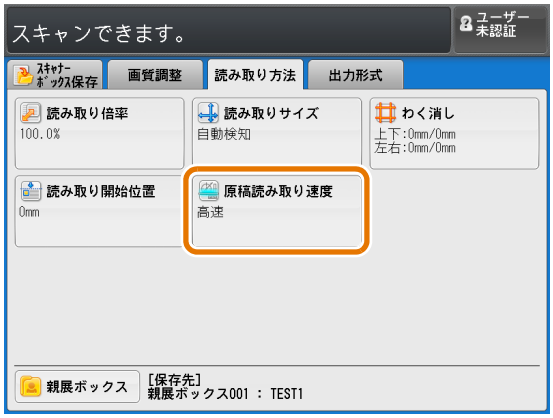


2. 原稿の先端から999 mmの範囲で1 mm単位で設定します。

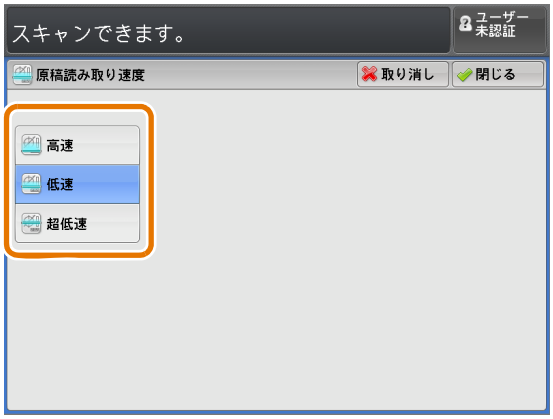
3.13.5　原稿読み取り速度（読み取る速度を指定してスキャンする）

ゆっくり確実に操作するときは、原稿を読み込む速度を調整します。

1. ［原稿読み取り速度］を押します。



2. 任意の項目を選択します。



フルカラー

［カラーモード］が［フルカラー］の場合に、読み込む速度を調整します。

- ［高速］
  原稿を高速（152.4 mm/秒）で読み込みます。
- ［低速］
  原稿の読み込み速度が、高速の1/3になります。
- ［超低速］
  原稿の読み込み速度が、高速の1/6になります。

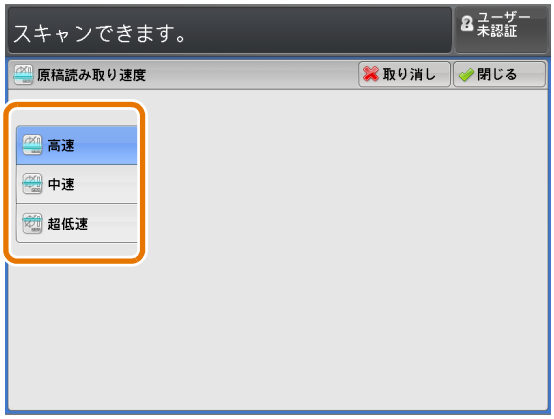
補足

- ［カラーモード］が［フルカラー］で、［読み取り解像度］を400 dpi以上に指定した場合、［高速］の設定は自動的に［低速］に切り替わります。

フルカラー以外

［カラーモード］が［フルカラー］以外の場合に、読み込む速度を調整します。

- ［高速］
  原稿を高速（152.4 mm/秒）で読み込みます。
- ［中速］
  原稿の読み込み速度が、高速の1/2になります。
- ［超低速］
  原稿の読み込み速度が、高速の1/6になります。

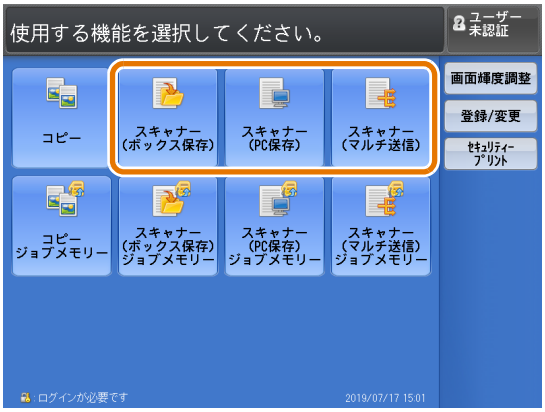


3.14　スキャナー -［出力形式］画面

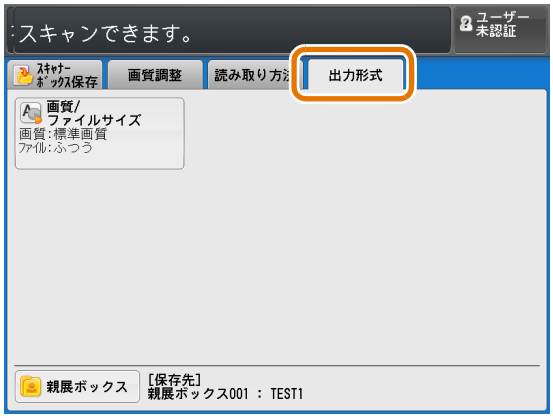
［出力形式］画面で設定できる機能について説明します。参照先は、次のとおりです。

●画質/ファイルサイズ（画像の圧縮率を設定してスキャンする）.....P.192

1. メニュー画面で［スキャナー（ボックス保存）］、［スキャナー（PC保存）］、［スキャナー（マルチ送信）］のどれかを押し、保存先または宛先を指定します。



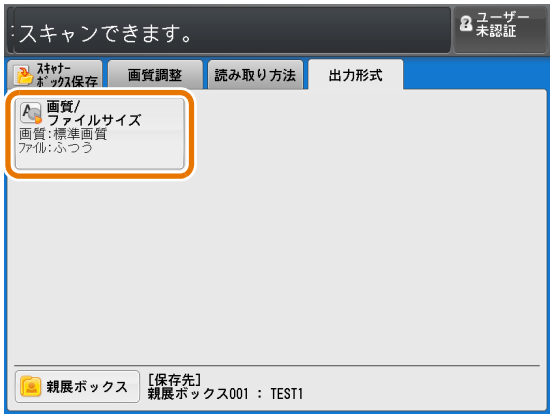
2. ［出力形式］画面で、機能を選択します。



3.14.1　画質/ファイルサイズ（画像の圧縮率を設定してスキャンする）

[カラーモード]が[フルカラー]または[グレースケール(256階調)]の場合に、画像の圧縮率を選択します。

1. [画質/ファイルサイズ]を押します。



2. 任意のボタンを選択します。

低画質

高い圧縮率で保存されます。画質は悪くなりますが、ファイルサイズは小さくなります。

高画質

低い圧縮率で保存されます。画質は良くなりますが、ファイルサイズは大きくなります。

第4章　スキャナー＆コピー

スキャナー＆コピー操作の流れについて説明します。

補足　• スキャナー＆コピーはオプションです。

4.1　スキャナー＆コピー操作の流れ 194

4.1　スキャナー＆コピー操作の流れ

スキャナー＆コピーは、オプションのDW-Scan V Serviceを使って、コピーと同時にスキャンデータとして保存します。
ここでは、スキャナー＆コピー操作の流れについて説明します。

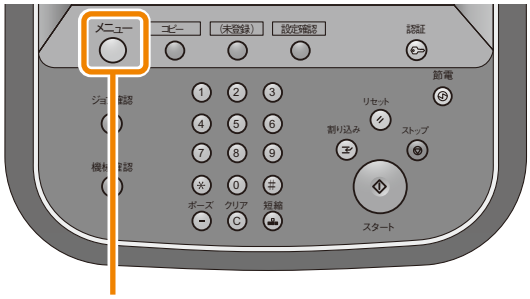
補足
- DW-Scan V Serviceを使用するためには、DW-Scan V Serviceをコンピューターにインストールします。

参照
- DW-Scan V Serviceのインストール方法については、DW-Scan V Serviceのマニュアルを参照してください。

1. DW-Scan V Serviceがインストールされているコンピュータと本機をUSBケーブルで接続します。

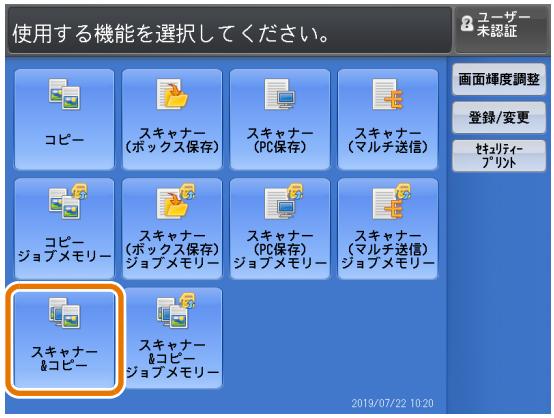
注記
- 弊社が推奨するUSBケーブル（商品コード：EB100282）をお使いください。弊社が推奨していないUSBケーブルを使用された場合、装置本来の品質や性能を発揮できないおそれがあります。

2. 〈メニュー〉ボタンを押します。



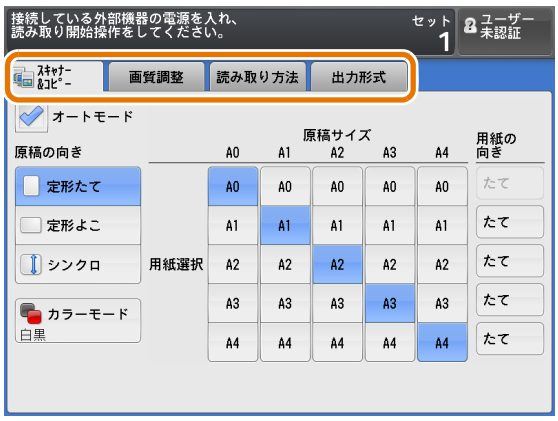
〈メニュー〉ボタン

3. ［スキャナー＆コピー］を押します。



注記
- 工場出荷時の設定では、［スキャナー&コピー］は表示されていません。表示させるには、仕様設定機能で設定します。設定方法については、「メニュー画面の機能配列」(P.380) を参照してください。
  ただし表示させる設定を行っていても、次の場合は［スキャナー＆コピー］を使用できません。
  - ［仕様設定/登録］＞［仕様設定］＞［認証/セキュリティ設定］＞［認証の設定］＞［認証方式の設定］で［本体認証］、または［外部認証］が設定されている
  - 本機にICカードリーダーが接続されている

4. 必要に応じて、各タブから、設定するコピー機能を選択します。



補足
- スキャン画像とコピー出力結果は、一致しないことがあります。
- 自動リセット機能は無効になります。
- スキャナー＆コピーでは、次の機能を使用できません。
  - 仕分け（配布パターン）
  - マルチジョブコピー
  - 追加コピー
  - サンプルコピー

参照
- 各項目設定については、「第2章 コピー」（P.73）を参照してください。
- そのほかの注意/制限事項については、DW-Scan V Serviceのマニュアルを参照してください。

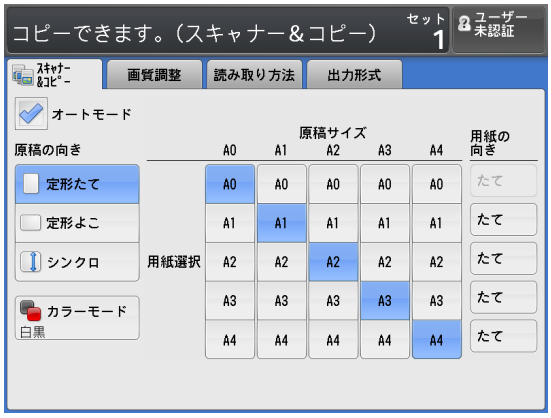
5. DW-Scan V Serviceを起動します。

6. DW-Scan V Serviceの読み取りモードを設定し、［読み取り開始］ボタンを押します。

参照
- DW-Scan V Serviceの操作方法については、DW-Scan V Serviceのマニュアルを参照してください。

7. 原稿をセットします。

スキャナー＆コピーが開始されます。



参照
- 「2.1.3 Step3 コピーを開始する」（P.76）

8. スキャナー＆コピーを終了する場合は、DW-Scan V Serviceの［読み取り中止］ボタンを押します。

メニュー画面に戻ります。

注記
- ほかの機能を使用するには、スキャナー＆コピーを終了する必要があります。

第5章　ジョブメモリー

ジョブメモリーの機能について説明します。

5.1　ジョブメモリーの概要 198
5.2　ジョブメモリーの登録/削除/変更 200
5.3　ジョブメモリーの呼び出し 204

5.1　ジョブメモリーの概要

よく使うコピーやスキャン機能の設定をメモリーに登録しておくと、ボタン1つで呼び出すことができます。
ジョブメモリーには、次の3種類があります。

ジョブメモリー

コピージョブメモリー、スキャナー（ボックス保存）ジョブメモリー、スキャナー（PC 保存）ジョブメモリー、スキャナー（マルチ送信）ジョブメモリー、スキャナー＆コピージョブメモリーがあります。
それぞれ次の個数を登録できます。

- コピージョブメモリー　80個
- スキャナー（ボックス保存）ジョブメモリー　80個
- スキャナー（PC保存）ジョブメモリー　80個
- スキャナー（マルチ送信）ジョブメモリー　80個
- スキャナー＆コピージョブメモリー　40個

コピージョブメモリーには、コピーの各機能タブの各項目、およびコピー部数を登録できます。
スキャナー（ボックス保存）ジョブメモリー、スキャナー（PC 保存）ジョブメモリー、スキャナー（マルチ送信）ジョブメモリーには、スキャンの各機能タブの各項目を登録できます。
スキャナー＆コピージョブメモリーには、スキャナー＆コピーの各機能タブの各項目を登録できます。

画質設定メモリー

コピー画質、スキャン画質調整用のジョブメモリーです。
それぞれ40個まで登録できます。
コピーの場合は、[カラーモード]、[原稿の画質]、[コピー濃度]、[シャープネス/コントラスト]、[地色除去]、[中間調の振り分け]、[色別濃度調整] を登録できます。
スキャンの場合は、[カラーモード]、[原稿の画質]、[読み込み濃度]、[シャープネス/コントラスト]、[地色除去]、[中間調の振り分け]、[色別濃度調整] を登録できます。
スキャナー＆コピーの場合は、コピーの画質設定メモリーを使用できます。

参照
- コピー画質設定メモリーを呼び出す方法については、「2.17.7 画質設定メモリー（登録した画質設定を呼び出してコピーする）」（P.121）を参照してください。
- スキャナー画質設定メモリーを呼び出す方法については、「3.12.6 画質設定メモリー（登録した画質設定を呼び出してスキャンする）」（P.183）を参照してください。

マルチジョブメモリー

複数部数コピーするときに、仮想の配布先ごとにジョブメモリーを適用して仕分け出力できます。この機能をマルチジョブといいます。
マルチジョブメモリーは、コピー専用機能です。20個まで登録できます。
[コピー部数]、[倍率]、[用紙選択]、[スタンプ]、[紙折り]（紙折りがある場合）、[排出先]（紙折りがない場合）を登録できます。

ジョブメモリーの機能と参照先は、次のとおりです。

- ジョブメモリーの登録/削除/変更 P.200
- ジョブメモリーの呼び出し P.204

5.2　ジョブメモリーの登録/削除/変更

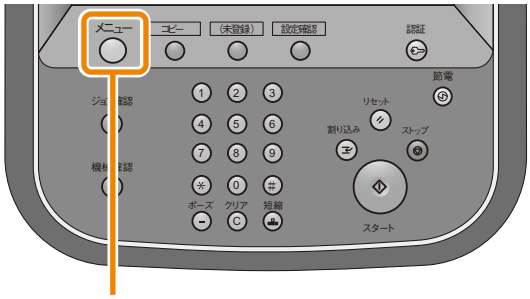
5.2.1　ジョブメモリーを登録する

ジョブメモリーを登録します。ここでは、スキャナー（ボックス保存）でジョブメモリーを登録する方法を例に説明します。

補足

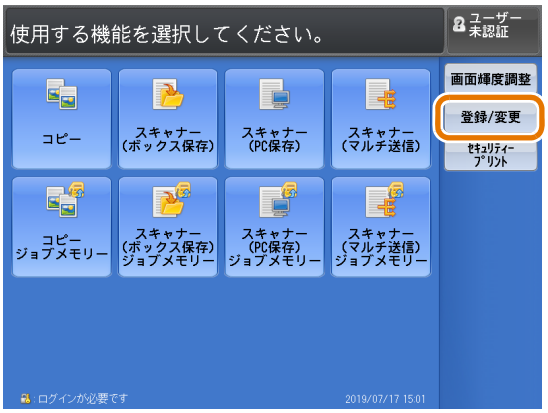
- 次の場合には、ジョブメモリーの登録操作はできません。
  - 操作パネルの〈割り込み〉ボタンが押されたとき
  - 自動リセット機能で初期表示画面に戻ったとき
  - 紙づまりの画面などのメッセージ画面が表示されたとき

1. 〈メニュー〉ボタンを押します。

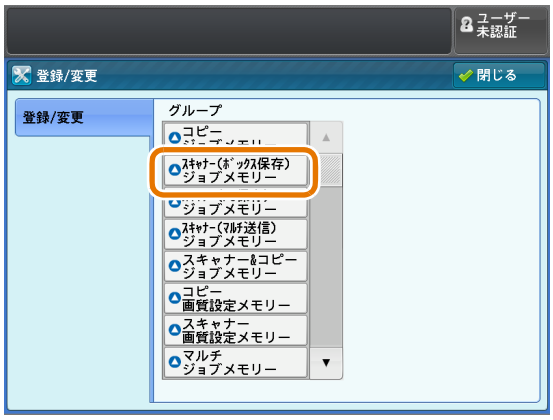


〈メニュー〉ボタン

2. ［登録/変更］を押します。



3. ［スキャナー（ボックス保存）ジョブメモリー］を押します。



4. 登録する番号を選択します。

補足

- [▲]を押して前画面、[▼]を押して次画面を表示できます。
- 任意のジョブメモリー番号を先頭に表示させたい場合、[表示開始番号]にジョブメモリー番号を入力してください。

5. [登録/再登録]を押します。

6. 親展ボックスを選択します。

7. パスワードを入力、[確定]を押します。

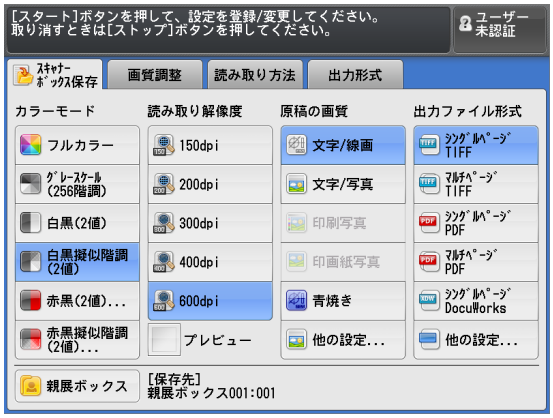
8. [決定]を押します。

9. 登録する機能を設定します。

補足

- 登録を中止する場合は、操作パネルの〈ストップ〉ボタンを押してください。

10. 操作パネルの〈スタート〉ボタンを押します。



補足

- 登録したジョブメモリーに名前を付けないと、「名称未設定」と表示されます。

参照

- 登録したジョブメモリーに名前を付ける方法については、「5.2.3 ジョブメモリーの名称を登録/変更する」(P.203)を参照してください。

5.2.2　ジョブメモリーを削除する

登録されているジョブメモリーを削除する方法について説明します。

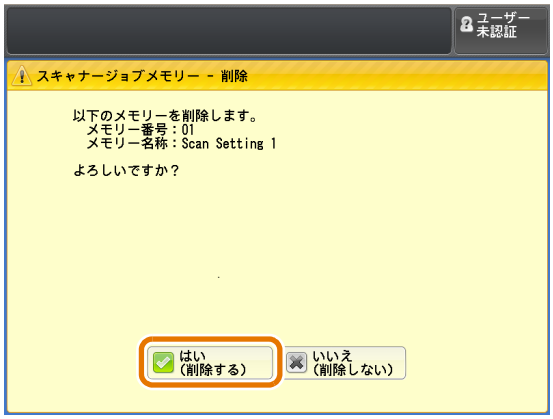
1. 削除する番号を選択します。

補足

- [▲]を押して前画面、[▼]を押して次画面を表示できます。
- 任意のジョブメモリー番号を先頭に表示させたい場合、[表示開始番号]にジョブメモリー番号を入力してください。

2. [削除]を押します。

3. [はい（削除する）]を押します。



はい（削除する）

ジョブメモリーを削除します。

補足

- 削除したジョブメモリーは、元に戻すことはできません。

いいえ（削除しない）

ジョブメモリーの削除を取り消します。

5.2.3　ジョブメモリーの名称を登録/変更する

登録したジョブメモリーの名前を登録/変更する方法について説明します。
ジョブメモリーの名前は、全角で10文字（半角で20文字）以内で入力できます。

参照　• 文字の入力方法については、「1.6 文字の入力方法について」（P.36）を参照してください。

1. 名前を登録または変更する番号を選択します。

   補足　• [▲]を押して前画面、[▼]を押して次画面を表示できます。

2. [名称設定/変更]を押します。

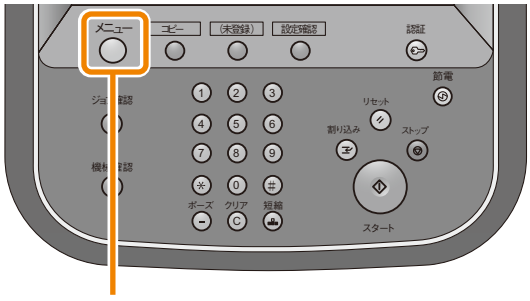
3. 名前を入力し、[決定]を押します。

5.3　ジョブメモリーの呼び出し

登録されたジョブメモリーを選択する手順について説明します。

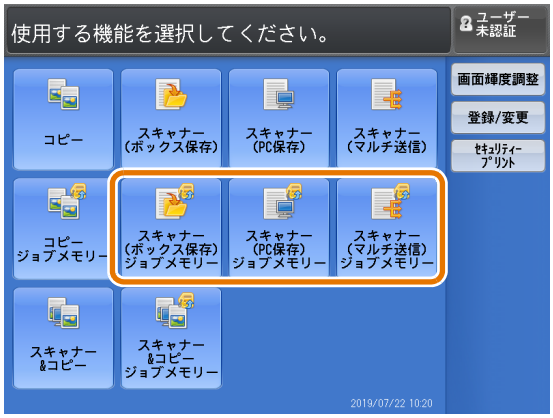
補足　• マルチジョブメモリーは、[コピー -出力形式] 画面の [マルチジョブ] で呼び出します。

1. 〈メニュー〉ボタンを押します。



〈メニュー〉ボタン

2. [コピージョブメモリー]、[スキャナー（ボックス保存）ジョブメモリー]、[スキャナー（PC 保存）ジョブメモリー]、[スキャナー（マルチ送信）ジョブメモリー]、、[スキャナー & コピージョブメモリー] のどれかを押します。



注記　• 工場出荷時の設定では、[スキャナー&コピージョブメモリー] は表示されていません。表示させるには、仕様設定機能で設定します。設定方法については、「メニュー画面の機能配列」（P.380）を参照してください。

3. 呼び出したい機能が登録されている、ジョブメモリーの番号を選択します。

補足　• 登録されている番号だけを選択できます。
• [▲] を押して前画面、[▼] を押して次画面を表示できます。
• 任意のジョブメモリー番号を先頭に表示させたい場合、[表示開始番号] にジョブメモリー番号を入力してください。

4. ジョブメモリーが呼び出されたら、必要に応じて、そのほかの機能を設定します。

補足　• ジョブメモリーが呼び出されたら、メッセージエリアに 7 秒間ジョブメモリー番号が表示されます。

5. 原稿をセットして、コピー、スキャン、またはスキャナー & コピーします。

第6章　コンピューターからの操作

CentreWare Internet Servicesの操作、プリント、スキャンデータの取り込み、ダイレクトスキャン（オプション）など、コンピューターから行う操作について説明しています。

補足
- 各種ドライバーやユーティリティソフトウェアのバージョンアップによって、本書に記載している内容が、お客様がお使いのものと異なる場合があります。

6.1　機能の紹介 206
6.2　CentreWare Internet Services 207
6.3　プリント 212
6.4　親展プリントについて 216
6.5　スキャンデータの取り込み 226
6.6　ダイレクトスキャン 235

6.1 機能の紹介

コンピューターから操作する機能の概要について説明します。

CentreWare Internet Services

CentreWare Internet Servicesを使って、本機の状態やジョブ状態の表示、設定を変更できます。また、親展ボックスに保存されている文書の取り込みもできます。

参照
- 操作方法については、「6.2 CentreWare Internet Services」（P.207）を参照してください。
- 親展ボックスに保存されているスキャンデータの取り込みについては、「6.5.3 CentreWare Internet Servicesを利用して取り込む」（P.233）を参照してください。

プリント

コンピューターから本機にプリントします。

参照
- 操作方法については、「6.3 プリント」（P.212）を参照してください。

スキャンデータの取り込み

本機の親展ボックスに保存されている文書をコンピューターに取り込みます。

参照
- 操作方法については、「6.5 スキャンデータの取り込み」（P.226）を参照してください。

ダイレクトスキャン

オプションのDW-Scan V Serviceを使って、本機とUSB接続したコンピューターに、スキャンデータを直接取り込みます。

参照
- 操作方法については、「6.6 ダイレクトスキャン」（P.235）を参照してください。

6.1.1 最新ソフトウェアの入手方法について

最新のソフトウェアを入手する方法について説明します。
ソフトウェアを入手するためのホームページアドレス（URL）は、次のとおりです。
　http://www.fujixerox.co.jp/download/
なお、通信費用はお客様の負担になりますので、ご了承ください。

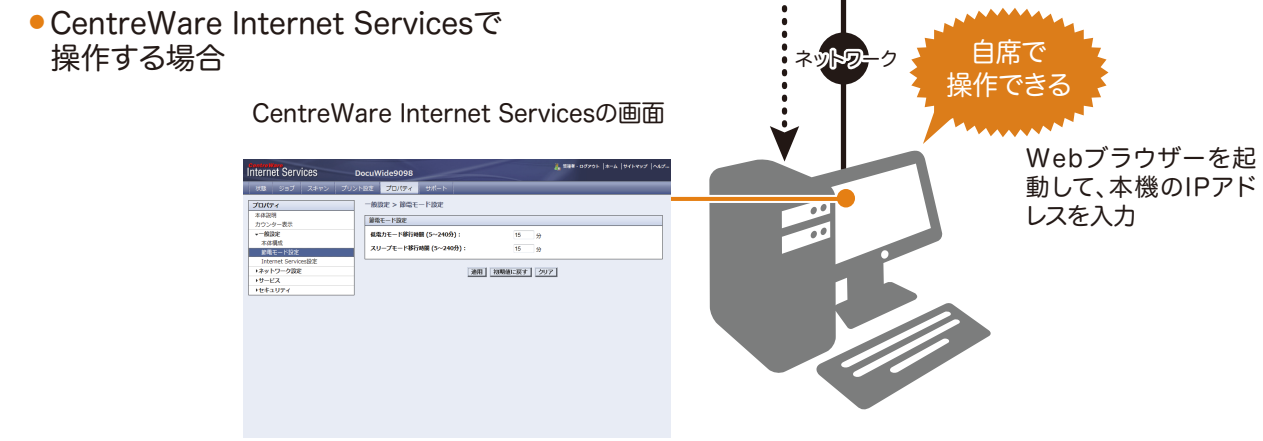
6.2 CentreWare Internet Services

6.2.1 CentreWare Internet Servicesについて

CentreWare Internet Servicesは、TCP/IPネットワーク環境が利用できる場合、お使いのコンピューターからWebブラウザーを介して本機にリモートでアクセスして利用できる機能です。
CentreWare Internet Servicesを利用すると、本機の操作パネルの前まで行かなくても、使用状況を把握したり、本機の機能の設定値をコンピューターから変更できます。
また、親展ボックスに保存されている文書の取り込みもできます。

- 操作パネルで操作する場合

- CentreWare Internet Servicesで操作する場合



6.2.2 CentreWare Internet Servicesを使うための設定

事前準備

CentreWare Internet Servicesを利用するためには、ネットワークプロトコルとしてTCP/IPが利用できるコンピューターが必要です。
CentreWare Internet Servicesは、次のWebブラウザーで動作することを確認しています。

- Microsoft® Internet Explorer® 11
- Microsoft® Internet Explorer® 10
- Microsoft® Internet Explorer® 9
- Microsoft® Internet Explorer® 8

参照
- 設定中にトラブルが発生した場合は、「10.8 CentreWare Internet Servicesのトラブル」(P.316) を参照してください。

Webブラウザーの設定

本サービスを使用する前に、使用するWebブラウザーで次の設定を確認してください。
Internet Explorer 9での設定手順は、次のとおりです。

1. [ツール] メニューから [インターネット オプション...] を選択します。
2. [全般] タブにある、[閲覧の履歴] の [設定] ボタンをクリックします。
3. [インターネット一時ファイルと履歴の設定] ダイアログボックスの [保存しているページの新しいバージョンがあるかどうかの確認:] で、[Web サイトを表示するたびに確認する] または [Internet Explorer を起動するたびに確認する] を選択します。
4. [OK] ボタンをクリックします。

プロキシサーバーとポート番号

本サービスを使用する場合の、プロキシサーバーの設定とポート番号について説明します。

- プロキシサーバー

本サービスを使用する場合には、プロキシサーバーを経由しないで直接接続することをお勧めします。

補足
- プロキシサーバーを経由する場合は、Webブラウザーで本機のIPアドレスを指定すると応答が遅くなり、画面が表示されないことがあります。そのときは、Webブラウザー側で本機のIPアドレスを、プロキシサーバーを経由しない設定にする必要があります。設定方法については、使用しているWebブラウザーのマニュアルを参照してください。

● ポート番号

本サービスのポート番号は、工場出荷時は「80」に設定されています。ポート番号は［プロパティ］>［プロトコル設定］>［HTTP］で変更できます。設定できるポート番号は「1」から「65535」です。
なお、ポート番号を変更した場合には、Web ブラウザーに入力するときに、IP アドレス、またはインターネットアドレスのあとに、「:」に続けてポート番号を指定する必要があります。
たとえば、ポート番号を「8080」にした場合には、次のように指定します。
http://［本機のIP アドレス］:8080/
または
http://［本機のインターネットアドレス］:8080/

補足
- 通信を暗号化している場合、CentreWare Internet Servicesにアクセスするには、Webブラウザーのアドレス欄には「http」ではなく「https」から始まるアドレスを入力してください。

本機側の設定

CentreWare Internet Servicesを使用するための、IPアドレスを設定します。

補足
- すでにIPアドレスが設定されている場合は、この手順は不要です。

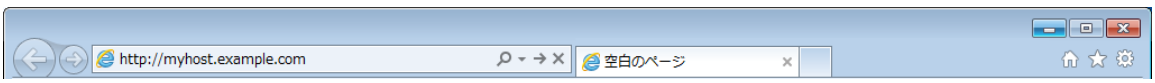
参照
- IPアドレスの設定については、「7.2 IPアドレスの設定」（P.248）を参照してください。

6.2.3 CentreWare Internet Servicesを起動する

コンピューターからCentreWare Internet Servicesに接続します。

1. Webブラウザーを起動します。
2. Webブラウザーのアドレス入力欄に、本機のIPアドレス、またはインターネットアドレスを入力し、〈Enter〉キーを押します。
   - IPアドレスの入力例
     例）http://192.168.0.101

   - インターネットアドレスの入力例（本機のインターネットアドレスが、myhost.example.comの場合）
     例）http://myhost.example.com



補足

- お使いのネットワークがDNS（Domain Name System）を使用していて、DNSのネームサーバーに本機のホスト名が登録されている場合は、ホスト名とドメイン名を組み合わせたインターネットアドレスを使って本機にアクセスできます。ホスト名が「myhost」、ドメイン名が「example.com」の場合、インターネットアドレスは「myhost.example.com」となります。
- 入力するIPアドレス、インターネットアドレスについては、機械管理者に確認してください。
- ポート番号を指定する場合は、IPアドレスまたはインターネットアドレスのあとに「:」を付けて、続けてポート番号を入力してください。
- ［プロパティ］タブにある［セキュリティー］＞［SSL/TLS設定］＞［HTTP-SSL/TLS通信］の［有効］チェックボックスをオンにして、通信を暗号化している場合、CentreWare Internet Services にアクセスするには、Web ブラウザーのアドレス欄には「http」ではなく「https」から始まるアドレスを入力してください。
  IPアドレスの入力例
  例）https://192.168.1.1/
  インターネットアドレスの入力例
  例）https://myhost.example.com/
- 機械管理者の認証に失敗すると、Web ブラウザーの右フレーム内に、次のメッセージが表示されます。
  「認証に失敗しました。」
- 機械管理者の認証に設定回数を超えて失敗すると、Web ブラウザーの右フレーム内に、次のメッセージが表示されます。
  「管理者認証するには、本機の電源を切/入してください。」

参照

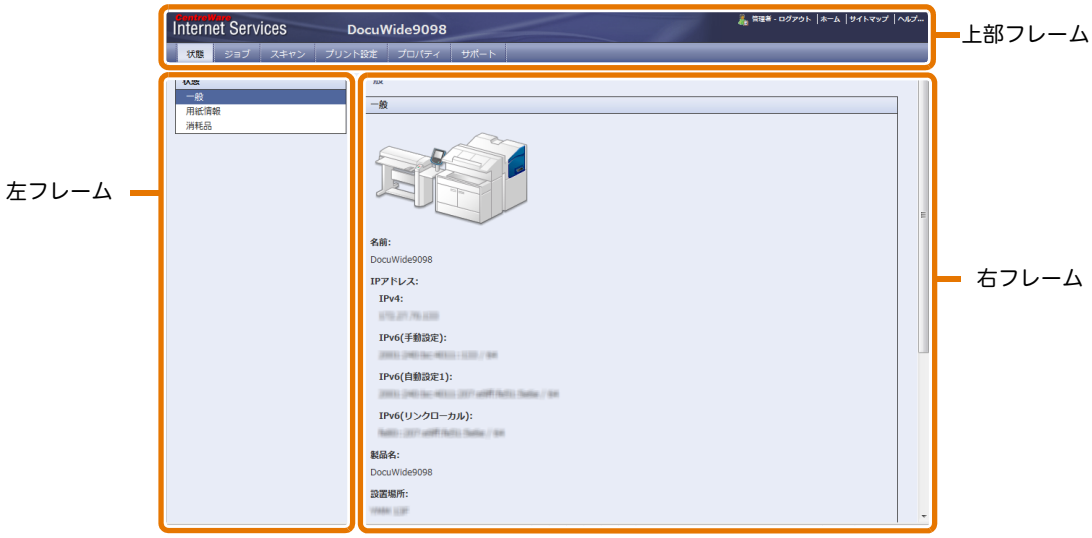
- 設定中にトラブルが発生した場合は、「10.8 CentreWare Internet Servicesのトラブル」(P.316)を参照してください。

6.2.4 CentreWare Internet Servicesの画面構成

CentreWare Internet Servicesの画面は、3つのフレーム（分割された画面）から構成されています。使う機能（状態、ジョブ、スキャン、プリント設定、プロパティ、サポート）に合わせて、各フレームの表示情報が切り替わります。

補足

- 上部フレームの［ヘルプ］をクリックすると、ヘルプが表示され、CentreWare Internet Servicesについての説明を見ることができます。



● 上部フレーム

ウィンドウの上部に表示されるフレームです。ロゴマーク、本機の機種名、ヘルプへのリンク、ユーザー情報、各機能に移動するためのタブ（リンク）が表示されます。

参照
- CentreWare Internet Servicesの各機能については、このフレームの［ヘルプ］をクリックして表示されるヘルプを参照してください。

● 左フレーム

左フレームの表示内容は、各機能を選択するたびに変わります。各機能を選択したときに、左フレームには、設定できる機能、および情報が表示されます。

● 右フレーム

本機の情報および状態、［最新の情報に更新］が表示されます。［最新の情報に更新］をクリックすると、表示情報を更新できます。

CentreWare Internet Servicesで使用できる主な機能は、次のとおりです。

タブ名	主な機能
状態	• 本機の状態の表示 用紙トレイ・排出トレイの状態、およびトナーなど消耗品の状態を表示します。
ジョブ	• ジョブ一覧およびジョブの削除、ジョブ履歴およびエラー履歴の表示
スキャン	• ボックス 親展ボックスを登録または設定します。 親展ボックスに保存された文書をコンピューターに取り込みます。
プリント設定	• 論理プリンターの設定
プロパティ	• 各種設定内容の確認と変更 本機のシステム、インターフェイス、エミュレーションに関する項目などについて、設定内容の確認と変更を行います。
サポート	• サポート情報の表示

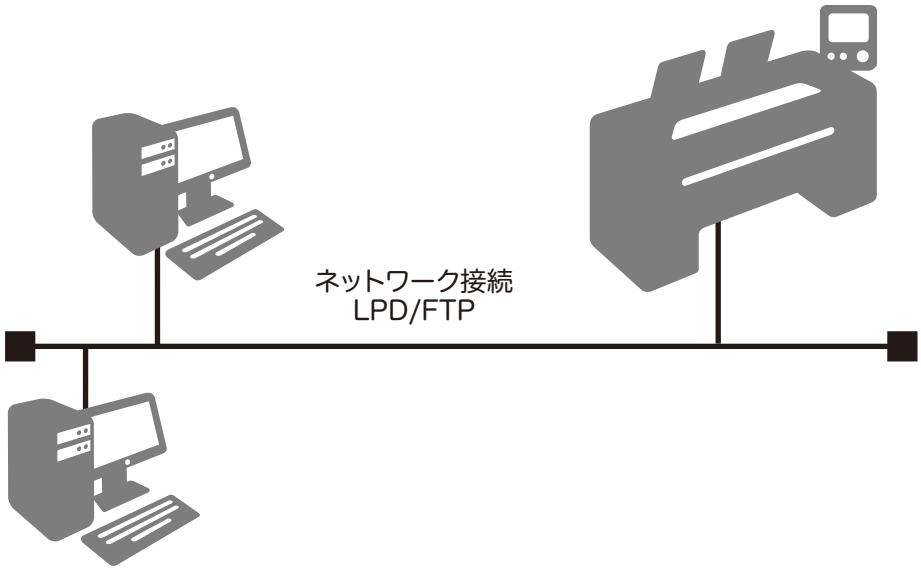
補足
- CentreWare Internet Servicesで設定する項目については、CentreWare Internet Services画面の右上にある［ヘルプ］をクリックして表示される、ヘルプを参照してください。
- 操作パネルを操作中にCentreWare Internet Servicesから設定を変更した場合は、タッチパネルディスプレイ上に変更した設定内容が表示されません。この場合には、本機の電源を切って入れ直したときに、変更した設定内容が表示されます。
- 設定項目の変更時にユーザーIDとパスワードを要求されるものがあります。ユーザーIDは、本機に設定してある、機械管理者のUser IDです。ユーザーID（User ID）の工場出荷時の値は「　　」、パスワードは「　　」です。
  機械管理者のUser IDおよびパスワードの変更方法については、「11.10.1 機械管理者情報の設定」（P.419）を参照してください。

6.3 プリント

コンピューターから操作して、本機でプリントする方法について説明します。

6.3.1 主なプリント機能について

本機は、ネットワークを経由するとネットワークプリンターとして使用できます。
使用するポートは、操作パネルやCentreWare Internet Servicesで［起動］に設定します。



プリンタードライバーを使用したプリント

プリンタードライバーを使ってプリントします。

参照

- プリント機能については、プリンタードライバー画面の［ヘルプ］をクリックして表示されるプリンタードライバーのヘルプを参照してください。プリント方法については、「6.3.4 プリンタードライバーを使用してプリントする」（P.214）を参照してください。

BT-PlotAssistant（オプション）を使用したプリント

BT-PlotAssistantを使うと、本機にプリントできるデータフォーマットであれば、ファイル形式の異なる複数のファイルを一度にプリントできます。

リプロサーバー BT-X（オプション）を使用したプリント

リプロサーバー BT-X は、アプリケーションで設定情報を付加したプリントデータを送ることによって、配布先ごとに部数、拡大/縮小、紙折りなどを設定したプリントを行うことができます。

6.3.2　プリントできるデータフォーマット

コンピューターから本機にプリント指示できるデータフォーマットは、次のとおりです。

データの種類	プリントできるデータフォーマット
HP-GL系	HP-GL、HP-GL/2、HP-RTL
VERSATEC系	VRF、VCGL、FX-MMR
TIFF/JFIF系	TIFF Version 6.0準拠、JFIF Version 1.02準拠
CALS系	CALS Type1
PS/PDF系	PostScript® 3™ Version 3017、PDF Version 1.7

補足　• PS/PDF系は、オプションです。

6.3.3　プリントするための準備をする

ここでは、TCP/IPでプリントするための準備について説明します。設定の流れと参照先は、次のとおりです。

●Step1 事前準備 P.213
●Step2 本機側の設定 P.213
●Step3 コンピューター側の設定 P.214

Step1 事前準備

本機をTCP/IP（LPD）で使用する場合は、次のものが必要です。

- TCP/IPが使用できるネットワーク環境
- メディア（ソフトウェア/製品マニュアル）

Step2 本機側の設定

本機でTCP/IP（LPD）を使用するための、本機側の設定手順について説明します。

補足　• CentreWare Internet Servicesを使用して、設定することもできます。CentreWare Internet Services画面の右上にある［ヘルプ］をクリックして表示される、ヘルプを参照してください。

1. ［仕様設定/登録］画面を表示します。

(1) 操作パネルの〈認証〉ボタンを押します。

(2) 操作パネルの〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者のUser IDを入力し、［決定］を押します。

補足　• User IDの工場出荷時の値は、「　　」です。
• 本機の設定によっては、表示内容が異なることがあります。

(3) メニュー画面で［仕様設定/登録］を押します。

2. LPDポートが、［起動］に設定されていることを確認します。

補足 • LPDポートの設定については、「11.5.1 ポート設定」（P.400）を参照してください。

3. IPアドレスを設定します。

この手順は、すでにIPアドレスが設定されている場合は必要ありません。

参照 • IPアドレスの設定については、「11.5.2 プロトコル設定」（P.401）を参照してください。

4. ［仕様設定/登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。
5. ［閉じる］を押します。

補足 • 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

6. 必要に応じてそのほかのLPDの設定を行ってください。

Step3 コンピューター側の設定

コンピューターからプリントするために、コンピューターにプリンタードライバーや、アプリケーションソフトウェアをインストールします。

参照
- プリンタードライバーのインストール方法については、メディア（ソフトウェア/製品マニュアル）のヘルプを参照してください。
- BT-PlotAssistant（オプション）のインストール方法については、『BT-PlotAssistant ユーザーズガイド』を参照してください。
- リプロサーバー BT-X（オプション）のインストール方法については、『リプロサーバー BT-X 操作説明書』を参照してください。

6.3.4 プリンタードライバーを使用してプリントする

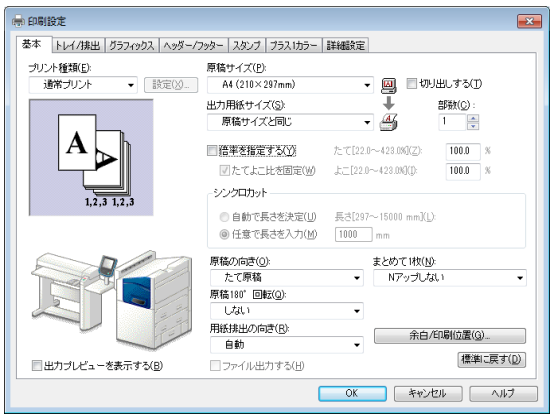
プリンタードライバーを使用したプリントの手順について説明します。
プリントの手順はお使いのアプリケーションソフトウェアによって異なります。詳細は各アプリケーションソフトウェアのマニュアルを参照してください。

参照 • プリント機能については、プリンタードライバー画面の［ヘルプ］をクリックして表示されるプリンタードライバーのヘルプを参照してください。

操作手順

1. アプリケーションソフトウェアの［ファイル］メニューから、［印刷］を選択します。
2. プリンター名を確認し、必要に応じて［プロパティ］をクリックします。

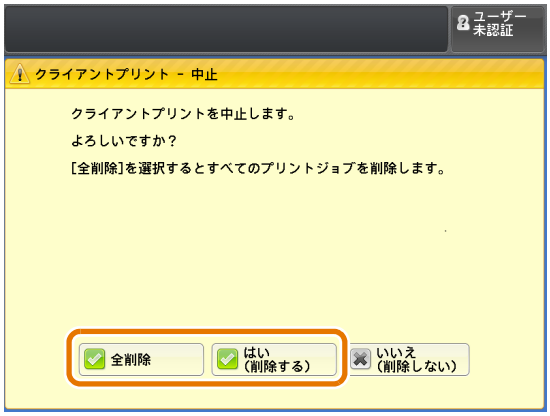
3. 必要に応じて、各項目を設定します。
4. [OK] をクリックします。
5. [印刷] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。



6.3.5 プリントを中止する

プリントを中止する手順について説明します。

1. 操作パネルの〈ストップ〉ボタンを押します。
2. [全削除] または [はい（削除する）] を押します。



全削除

すべてのプリントジョブを削除します。

はい（削除する）

現在のプリントジョブを削除します。

6.4　親展プリントについて

プリントを指示したデータを一時的に本機内に保存し、プリントしたいときに本機側の指示でプリントできます。これを「親展プリント」と呼びます。
ユーザーIDや暗証番号を設定できるので、他人に見られたくない文書や機密文書をプリントするときに便利です。
親展プリントには、認証機能の使用条件によって次の2種類があります。

セキュリティープリント

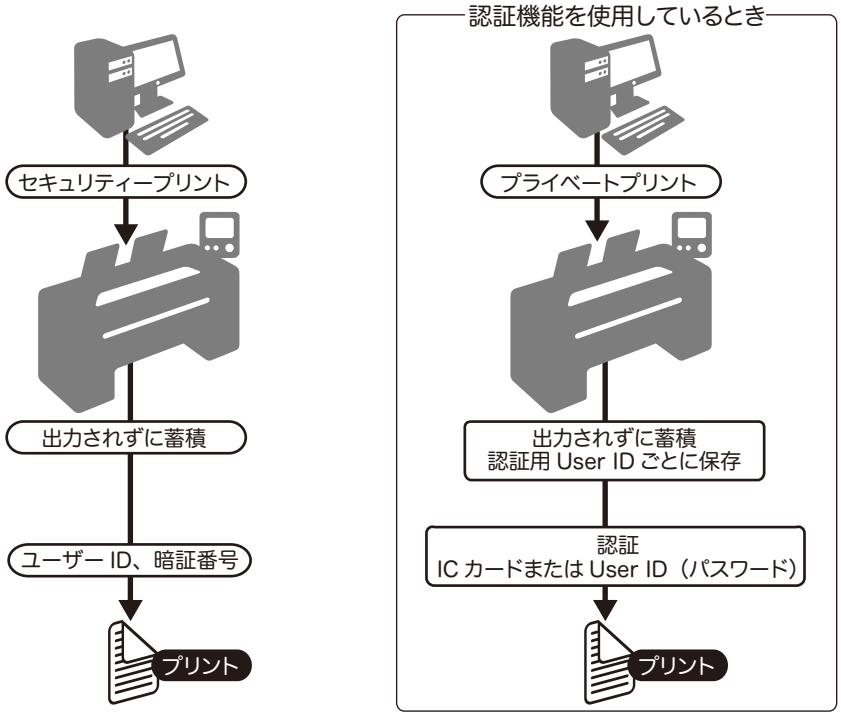
ユーザーIDと暗証番号を設定してプリントを指示したデータを、一時的に本機内に保存し、本機の操作パネルからの指示でプリントする機能です。
データは、本機にセキュリティープリント文書として保存されます。

補足
- 認証機能を使用している場合でも、［プライベートプリントの設定］＞［認証成功のジョブ］で［プリント］に設定しているときは、セキュリティープリントを使用できます。
  設定方法については、「プライベートプリントの設定」（P.428）を参照してください。

プライベートプリント

認証機能を使用している場合だけ、使用できます。
認証の設定でプリントが許可されたユーザーのデータだけを一時的に本機内に保存し、本機の操作パネルからの指示でプリントする機能です。操作パネルからプリント指示するときに、認証が必要です。
データは、本機に、認証用User IDごとにプライベートプリント文書として保存されます。

補足
- ［プライベートプリントの設定］＞［認証成功のジョブ］で［プリント］に設定しているときは、保存されないで通常にプリントされます。
  設定方法については、「プライベートプリントの設定」（P.428）を参照してください。



親展プリントの参照先は、次のとおりです。

- セキュリティープリント P.217
- プライベートプリント P.220

親展プリントは、プリンタードライバー、PostScriptプリンタードライバー、またはBT-PlotAssistant（オプション）を使って指示します。
ここでは、Windowsのワードパッドからセキュリティープリント、およびプライベートプリントを指示する方法を例に説明します。

補足
- PostScriptプリンタードライバーは、本体側にDW9098 PDF/PS-JPN（オプション）が必要です。

参照
- プリントの手順は、お使いのソフトウェアによって異なります。詳細は、各ソフトウェアの説明書を参照してください。

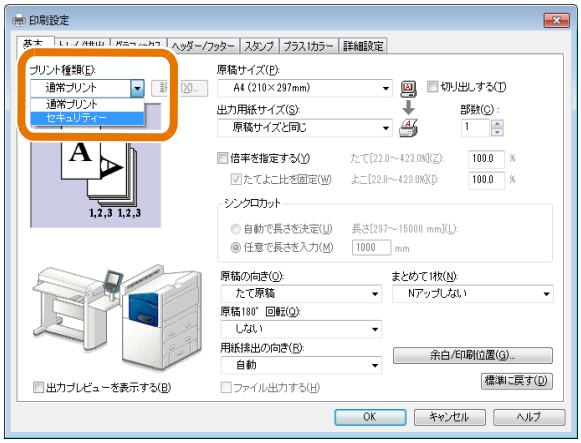
6.4.1 セキュリティープリント

設定の参照先は、次のとおりです。

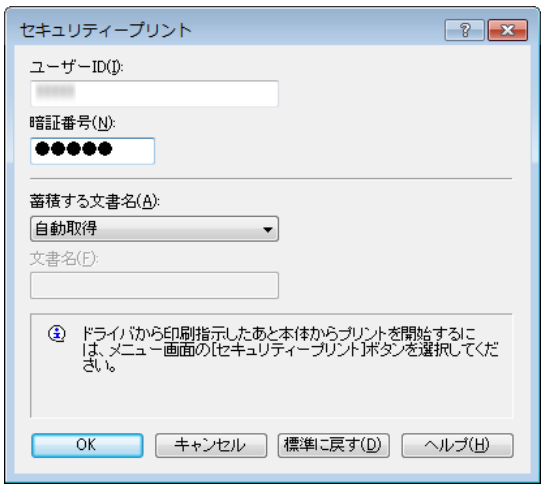
- Step1 プリンタードライバーでセキュリティープリントを指示する.....P.217
- Step2 本機でプリントする.....P.218

Step1 プリンタードライバーでセキュリティープリントを指示する

1. アプリケーションの［ファイル］メニューから、［印刷］を選択します。
2. ［FX DocuWide 9098α］を選択し、［詳細設定］をクリックします。
3. ［基本］タブをクリックします。
4. ［プリント種類］から［セキュリティー］を選択します。
   ［セキュリティープリント］画面が表示されます。



5. ［ユーザー ID］と［暗証番号］を入力します。



補足
- ［ユーザー ID］は半角英数字24文字以内、［暗証番号］は半角数字 4 ～ 12 文字で入力します。

6. ［蓄積する文書名］から［文書名を入力する］または［自動取得］を選択します。

補足
- ［文書名を入力する］を選択した場合は、［文書名］に文書の名前を半角24文字（全角12文字）以内で入力します。

7. ［OK］をクリックします。

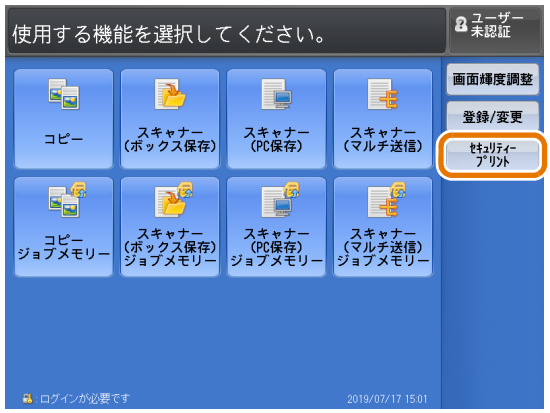
8. 必要に応じて、各項目を設定し、［基本］タブで［OK］をクリックします。

9. ［印刷］ダイアログボックスで、［印刷］をクリックします。

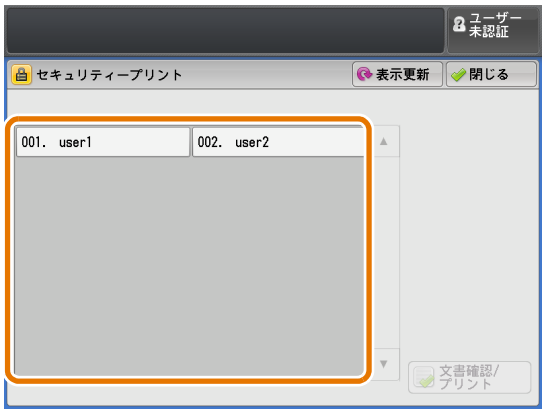
Step2 本機でプリントする

本機に保存された文書を、本機の操作パネルを使ってプリントします。

1. メニュー画面で［セキュリティープリント］を押します。



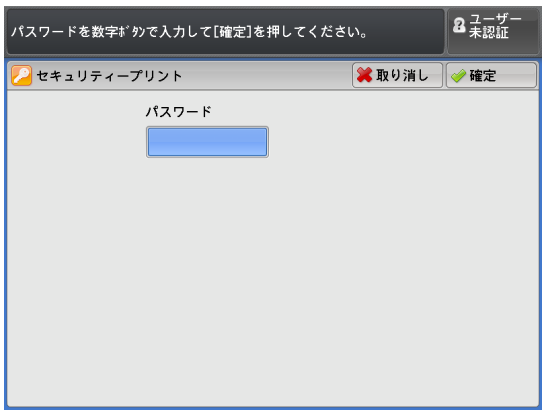
2. セキュリティープリントを指示したときのユーザー IDを選択します。



補足
- ［表示更新］を押すと、最新の情報が表示されます。
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面が表示できます。

3. ［文書確認/プリント］を押します。

4. パスワードを入力し、[確定]を押します。



補足
- パスワードが設定されていない場合、機械管理者モードに入っている場合は、[パスワード]画面は表示されません。

5. プリントする文書を選択します。

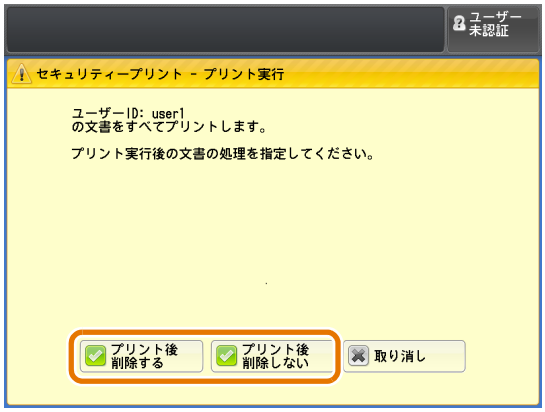
補足
- [表示更新]を押すと、最新の情報が表示されます。
- [▲]を押して前画面、[▼]を押して次画面が表示できます。

全文書選択
すべての文書を選択できます。全文書選択した状態で再度選択すると、選択が解除されます。

削除
選択した文書を削除します。

6. [プリント実行]を押します。

7. プリント実行の確認画面で、[プリント後削除する]または[プリント後削除しない]を押します。



補足
- [取り消し]を押すと、文書のプリントが中止されます(データは消去されません)。
- [仕様設定/登録]>[仕様設定]>[保存文書設定]>[プリント時の確認画面表示]を[しない]に設定している場合は、この画面は表示されません。

プリント後削除する
プリントしたあと、本機に保存されているセキュリティープリント文書が削除されます。

プリント後削除しない
本機に保存されているセキュリティープリント文書は削除されません。

補足
- [仕様設定 / 登録]>[仕様設定]>[保存文書設定]で、本機に保存されているプリント文書を自動的に削除できます。(「11.8 保存文書設定」(P.413))

6.4.2　プライベートプリント

本機にプリント指示したプリントジョブを一時的に本機内に保存し、認証後、本機の操作パネルからプリントジョブを選択して出力する「プライベートプリント」を設定します。
[プライベートプリントに保存]を選択すると、User IDありのジョブはプライベートプリントに保存されます。User IDなしのジョブは、[User IDなしのジョブ]で[プリント]を選択するとプリントされ、[User IDなしのジョブ]で[ジョブを中止]を選択すると削除されます。

User IDありのジョブ	User IDなしのジョブ
プライベートプリントに保存	プリント*1
	削除*2

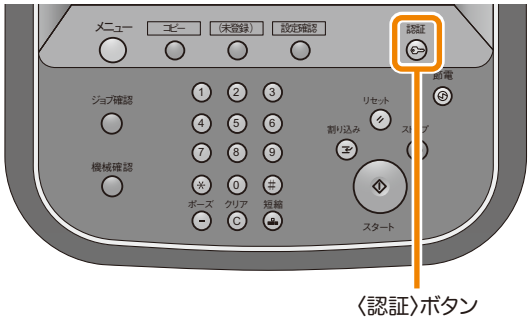
*1　[User IDなしのジョブ]で[プリント]選択時
*2　[User IDなしのジョブ]で[ジョブを中止]選択時

設定の参照先は、次のとおりです。

- Step1 本機でプライベートプリントを設定する.....P.220
- Step2 コンピューターで認証情報を設定する.....P.222
- Step3 プリンタードライバーでプライベートプリントを指示する.....P.223
- Step4 本機でプリントする.....P.224

Step1 本機でプライベートプリントを設定する

1. 〈認証〉ボタンを押します。

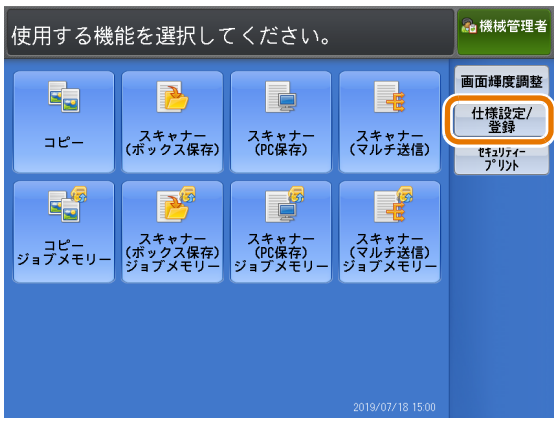


2. [ユーザー種別]で[機械管理者]を押します。

3. 操作パネルの〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者のUser IDを入力し、[確定]を押します。

補足
- User IDの工場出荷時の値は、「　　」です。
- 本機の設定によっては、表示内容が異なることがあります。

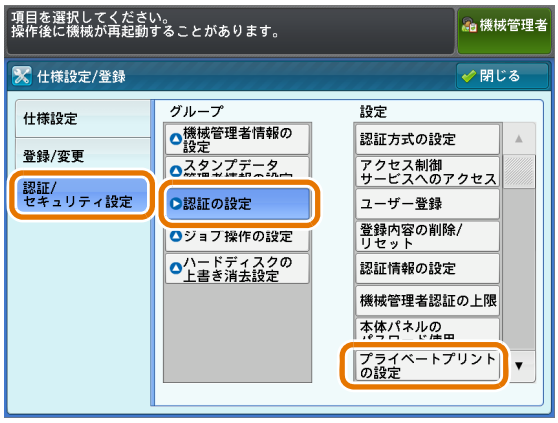
4. メニュー画面で［仕様設定/登録］を押します。



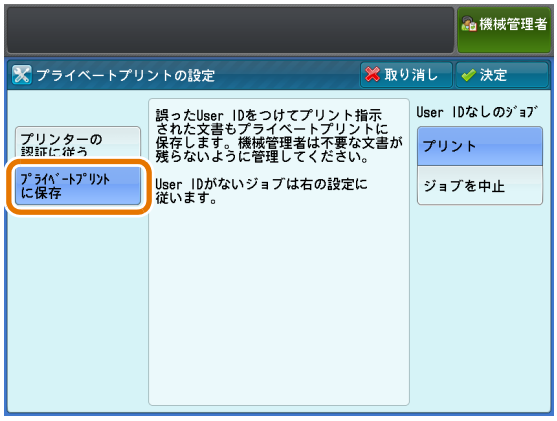
補足

- メニュー画面が表示されていないときは、操作パネルの〈メニュー〉ボタンを押して、表示させてください。

5. ［認証/セキュリティ設定］>［認証の設定］>［プライベートプリントの設定］を押します。



6. ［プライベートプリントに保存］を押します。



注記

- 外部認証時、［プリンターの認証に従う］を選択した場合は、［認証成功のジョブ］、［User IDなしのジョブ］の設定は無視され、すべてのプリントジョブがプリントされます。

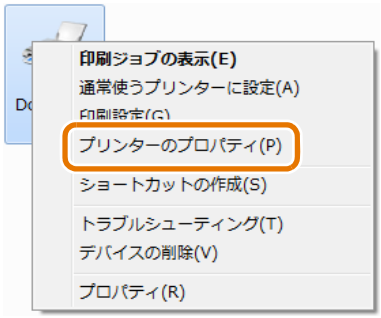
7. ［User IDなしのジョブ］は、［プリント］または［ジョブを中止］を選択します。

8. ［決定］を押します。

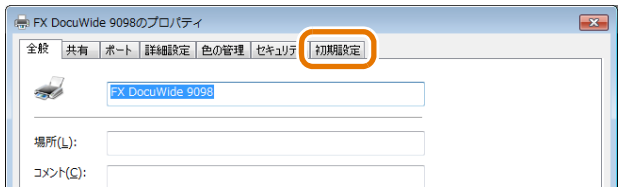
Step2 コンピューターで認証情報を設定する

本機でプライベートプリントを利用するには、コンピューターでプライベートプリントの認証情報を設定します。

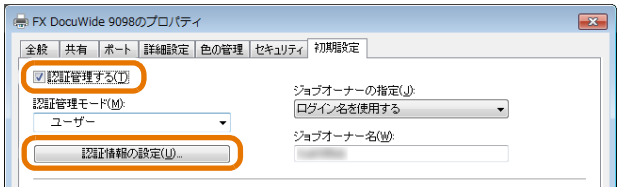
1. プリンターアイコンを右クリックします。
2. 表示されたメニューの［プリンターのプロパティ］を選択します。



3. ［初期設定］タブをクリックします。



4. ［認証管理する］チェックボックスをオンにします。
5. ［認証情報の設定］をクリックします。



6. User IDを指定します。

- Windowsログオン名とUser IDが異なる場合 P.222
- Windowsログオン名とUser IDが一致する場合 P.223

補足
- クライアントPCのWindowsログオン名と、認証サーバー（外部認証時）または本機（本体認証時）に登録されているUser IDが異なる場合と一致する場合で、設定が異なります。

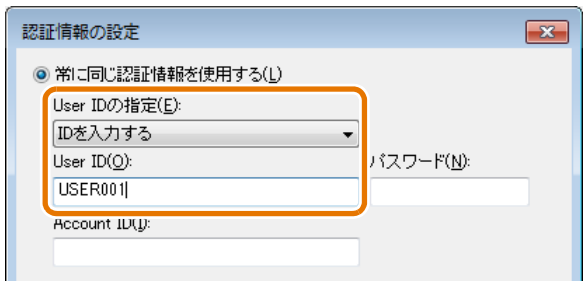
Windowsログオン名とUser IDが異なる場合

クライアントPCのWindowsログオン名と、認証サーバー（外部認証時）または本機（本体認証時）に登録されているUser IDが異なる場合、プリンタードライバーの［User IDの指定］にUser IDを入力します。

たとえば、Windowsログオン名が「PCUser001」、登録されているUser IDが「USER001」の場合、［User IDの指定］に「USER001」と入力します。

(1) ［User IDの指定］の［▼］をクリックし、［IDを入力する］を選択します。

(2) ［User ID］に、に登録されているUser IDを入力します。



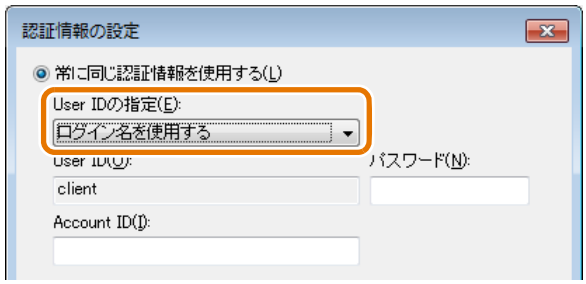
注記
- ICカードリーダーが接続されている場合、本体認証のときは「カードID」を入力しますが、外部認証のときは「カードID」ではなく「User ID」を入力しますのでご注意ください。

Windowsログオン名とUser IDが一致する場合

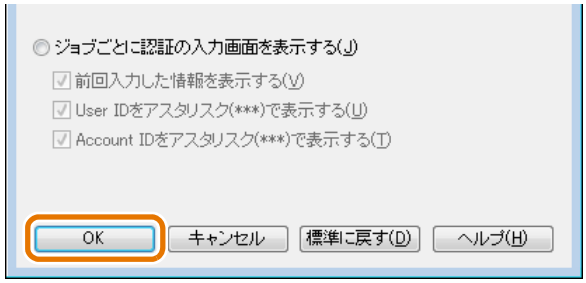
クライアントPCのWindowsログオン名と、認証サーバーに登録されているUser ID（外部認証時）、または本機に登録されているUser ID（本体認証時）が一致する場合、プリンタードライバーの［User IDの指定］に［ログイン名を使用する］を指定します。

たとえば、Windowsログオン名が「USER001」、登録されているUser IDが「USER001」の場合、［User IDの指定］に［ログイン名を使用する］を指定します。

(1) ［User IDの指定］の［▼］をクリックし、［ログイン名を使用する］を選択します。



7. ［OK］をクリックします。



8. プロパティ画面の［OK］をクリックします。

Step3 プリンタードライバーでプライベートプリントを指示する

プライベートプリントは、認証情報を設定したあとにプリンタードライバーを使ってプリントします。

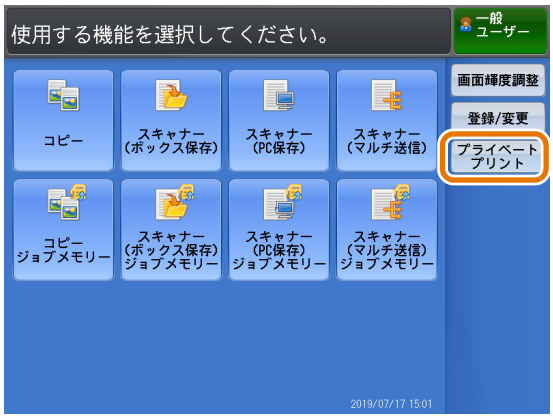
参照
- 「6.3.4 プリンタードライバーを使用してプリントする」（P.214）

Step4 本機でプリントする

1. 操作パネルの〈認証〉ボタンを押します。
2. 操作パネルの〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、ユーザーID、必要に応じてパスワードを入力し、[確定]を押します。

補足
- 認証する場合、パスワードを設定することで、機密性が向上します。
  パスワードの設定：「本体パネルのパスワード使用」(P.427)
- User ID、パスワードについては、機械管理者に確認してください。

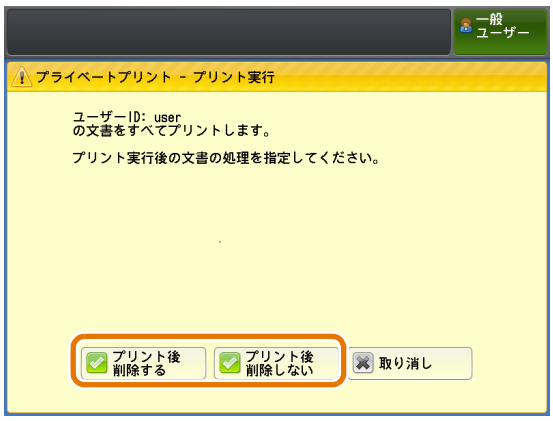
3. メニュー画面で[プライベートプリント]を押します。



4. プリントする文書を選択して、[プリント実行]を押します。

補足
- [表示更新]を押すと、最新の情報が表示されます。
- [▲]を押して前画面、[▼]を押して次画面が表示できます。
- [全文書選択]を押すと、すべての文書を選択できます。全文書選択した状態で再度選択すると、選択が解除されます。
- [削除]を押すと、選択した文書を削除します。

5. プリント実行の確認画面で、[プリント後削除する] または [プリント後削除しない] を押します。



補足
- [取り消し] を押すと、文書のプリントを取り消します。
- [仕様設定/登録] > [仕様設定] > [保存文書設定] > [プリント時の確認画面表示] を [しない] に設定している場合は、この画面は表示されません。

プリント後削除する

プリントしたあと、本機に保存されているプライベートプリント文書が削除されます。

プリント後削除しない

本機に保存されているプライベートプリント文書は削除されません。

補足
- [仕様設定 / 登録] > [仕様設定] > [保存文書設定] で、本機に保存されているプリント文書を自動的に削除できます。(「11.8.1 保存文書設定」(P.413))

6.5 スキャンデータの取り込み

本機の親展ボックスに保存されている文書をコンピューターに取り込むには、次の3つの方法があります。それぞれの手順について説明します。

- TWAIN対応アプリケーションから取り込む P.226
- 親展ボックスビューワー 3から取り込む P.229
- CentreWare Internet Servicesを利用して取り込む P.233

6.5.1 TWAIN対応アプリケーションから取り込む

本機の親展ボックスに蓄積されている文書を、アプリケーションソフトウェアに取り込む方法について説明します。
蓄積文書の取り込みには、スキャナードライバー（ネットワーク接続）を使用します。
スキャナードライバー（ネットワーク接続）は、ネットワークを介して、本機の親展ボックスに蓄積されている文書（スキャンデータ）をコンピューター上のアプリケーションソフトウェアに取り込むためのソフトウェアです。
スキャナードライバー（ネットワーク接続）を使用するためには、スキャナードライバー（ネットワーク接続）をコンピューターにインストールします。

補足

- メディア（ソフトウェア/製品マニュアル）を使って、スキャナードライバー（ネットワーク接続）をインストールします。
- 親展ボックスの文書を取り込むには、ポートの起動など、あらかじめ設定しておく項目があります。設定方法については、「7.3.1 スキャナー（ボックス保存）の設定」（P.249）を参照してください。また、アプリケーション側の操作方法については、各アプリケーションのマニュアルを参照してください。

参照

- スキャナードライバー（ネットワーク接続）のインストール方法については、メディア（ソフトウェア/製品マニュアル）のヘルプを参照してください。
- 表示されるダイアログボックスの項目については、［ヘルプ］をクリックして表示されるスキャナードライバー（ネットワーク接続）のヘルプを参照してください。

1. 文書を取り込むアプリケーションソフトウェアを起動します。

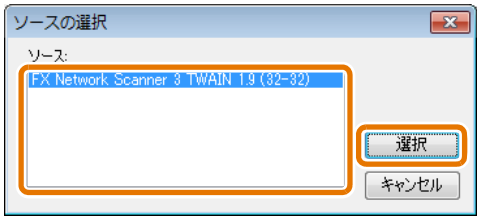
注記

- アプリケーションソフトウェアは、TWAINに対応している必要があります。TWAINとは、スキャナーなどの入力装置向けの規格です。

参照

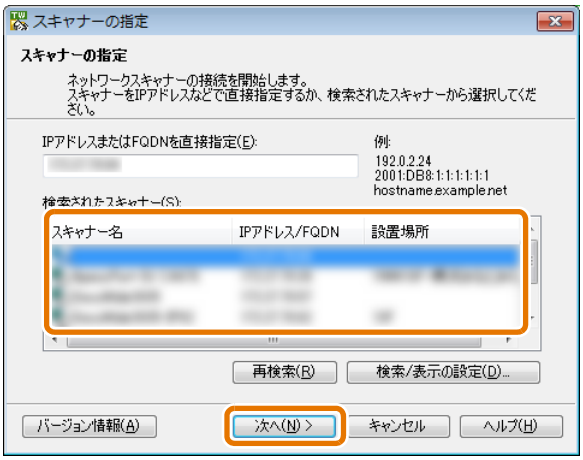
- アプリケーションソフトウェアを使用するときの注意制限事項については、スキャナードライバー（ネットワーク接続）の「Readme」ファイルを参照してください。

2. ［ファイル］メニューから、スキャナー（ソース）を選択するコマンドを選択します。
3. ［FX Network Scanner 3 TWAIN］を選択し、［選択］ボタンをクリックします。

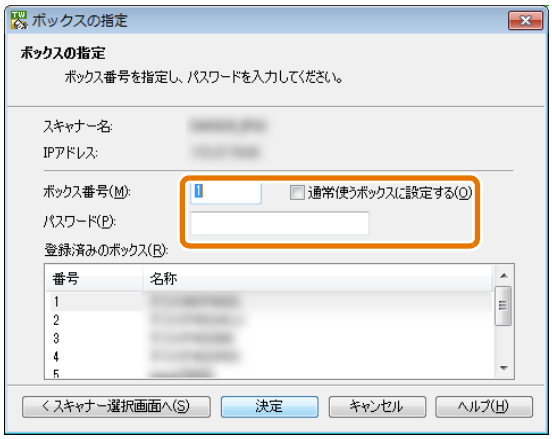


4. ［ファイル］メニューから、スキャナーから画像を取り込むコマンドを選択します。

5. 表示されているリストの中から、接続する本機のスキャナー名をクリックし、［次へ］ボタンをクリックします。



6. ［ボックス番号］に取り込む文書が蓄積されている親展ボックス番号（001 ～ 100 の半角数字）と、［パスワード］にパスワード（4桁以内の半角数字）を入力します。

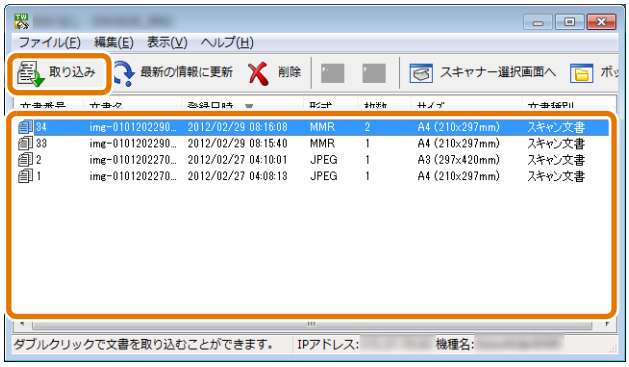


補足

- ［登録済みのボックス］に表示されたボックス番号を選択できます。
- ［スキャナー選択画面へ］ボタンをクリックすると、手順5.の画面に戻り、スキャナーの再選択ができます。

7. ［決定］ボタンをクリックします。

8. リストから取り込む文書を選択し、［取り込み］をクリックします。



補足
- 複数の文書を選択して取り込むことができます。
- ［取り込み］［最新の情報に更新］［削除］は、リスト上で右クリックして表示されるメニューからも選択できます。
- 親展ボックスに蓄積されている文書は、サムネール表示できません。

文書の取り込みが開始すると、親展ボックスからスキャンデータがコンピューターに転送されます。

転送が終了すると、文書がアプリケーションソフトウェアに取り込まれ、親展ボックス内の文書が削除されます。

補足
- ページ単位で取り込みした場合で取り込まれていないページのある文書は、リスト内のその文書の先頭に、取り込み途中を示すアイコンが表示されます。
- アプリケーションソフトウェアによっては、圧縮データの伸長処理を行うので、データの転送に時間がかかることがあります。
- 転送後、親展ボックス内の文書を削除しないように設定できます。設定方法は、「7.1.2 親展ボックス（ボックス保存宛先）」（P.240）を参照してください。

スキャナードライバー（ネットワーク接続）の設定変更

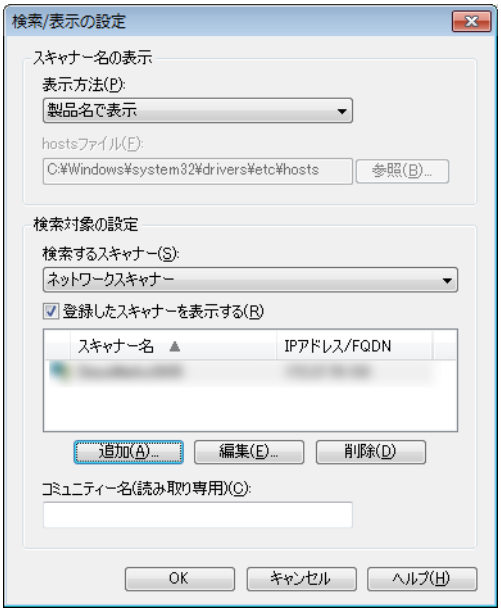
参照
- 表示されるダイアログボックスの項目については、［ヘルプ］をクリックして表示されるスキャナードライバー（ネットワーク接続）のヘルプを参照してください。

● スキャナー名の表示方法を設定する

スキャナーを選択するときに、リストに表示されるスキャナー名の表示方法を変更できます。

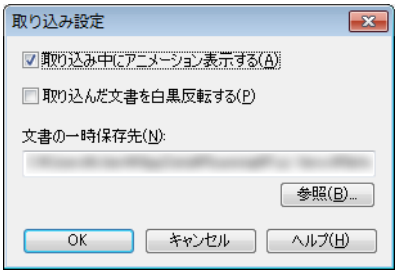
スキャナー名の表示方法は、スキャナーを選択するダイアログボックスで、［検索/表示の設定］ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスで設定します。
［スキャナー名の表示］で［検索するスキャナー］に表示するスキャナー名の表示方法を変更できます。

補足
- ［検索対象の設定］で検索対象とするスキャナーを指定します。
［追加］ボタンをクリックしてスキャナーを登録すると、異なるサブネットワークにあるスキャナーを表示できます。



● スキャンした文書の取り込み方法を設定する

親展ボックスの文書を取り込むときの文書の表示方法や取り込み方法を変更できます。
取り込み方法は、取り込む文書を選択するダイアログボックスで、［ファイル］メニューから［取り込み設定］を選択して表示されるダイアログボックスで設定します。



6.5.2 親展ボックスビューワー 3から取り込む

本機の親展ボックスに蓄積されている文書を、親展ボックスビューワー 3 からコンピューターに取り込む方法について説明します。
親展ボックスビューワー 3 を使用すると、アプリケーションを介さずに、本機の親展ボックスに蓄積されている文書を、コンピューターに取り込めます。
親展ボックスビューワー 3 を使用するためには、スキャナードライバー（ネットワーク接続）をコンピューターにインストールします。

補足

- メディア（ソフトウェア/製品マニュアル）を使って、スキャナードライバー（ネットワーク接続）をインストールします。
- 親展ボックスの文書を取り込むには、ポートの起動など、あらかじめ設定しておく項目があります。設定方法については、「7.3.1 スキャナー（ボックス保存）の設定」(P.249) を参照してください。また、アプリケーション側の操作方法については、各アプリケーションのマニュアルを参照してください。

参照

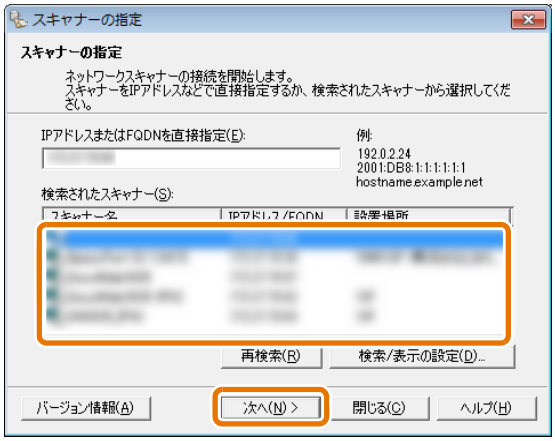
- スキャナードライバー（ネットワーク接続）のインストール方法については、メディア（ソフトウェア/製品マニュアル）のヘルプを参照してください。
- 表示されるダイアログボックスの項目については、［ヘルプ］をクリックして表示される親展ボックスビューワー 3のヘルプを参照してください。

1. ［スタート］メニューをクリックし、［プログラム］＞［Fuji Xerox］＞［ネットワークスキャナ ユーティリティ 3］＞［親展ボックスビューワー 3］の順にクリックします。

補足

- インストール時にディレクトリーを変更した場合は、そのディレクトリーを指定してください。

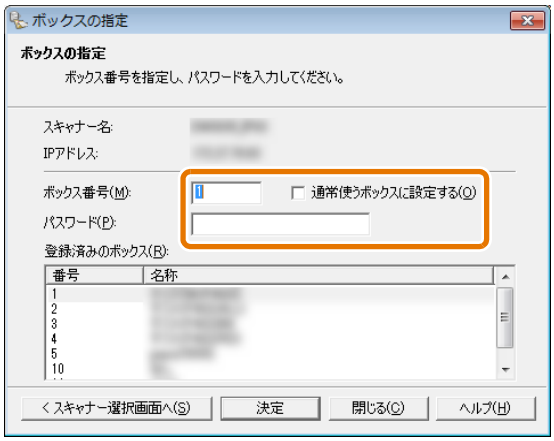
2. 表示されているリストの中から、接続する本機のスキャナー名をクリックし、[次へ] ボタンをクリックします。



補足

- 何も表示されない場合は、[再検索] ボタンをクリックしてください。スキャナーの再検索を行います。
- スキャナー名の表示方法は、[検索/表示の設定] ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスで変更できます。表示方法の変更については、「スキャナー名の表示方法を設定する」(P.231) を参照してください。
- 自動的にスキャナー名が表示されるのは、同一ネットワーク内に本機が接続されている場合だけです。ほかのネットワークにある本機を表示するには、[検索 / 表示の設定] ボタンをクリックして、IPアドレスとスキャナー名を登録してください。スキャナーの登録方法については、「スキャナー名の表示方法を設定する」(P.231) を参照してください。

3. [ボックス番号] に取り込む文書が蓄積されている親展ボックス番号（001 ～ 100 の半角数字）と、[パスワード] にパスワード（4桁以内の半角数字）を入力します。

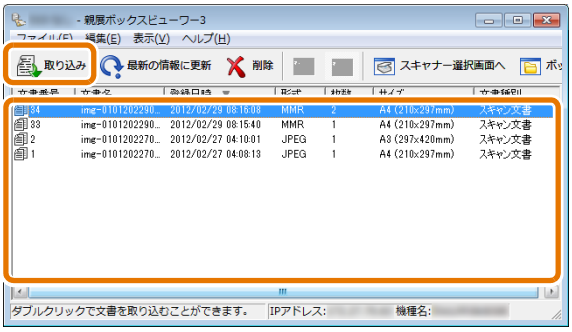


補足

- [登録済みのボックス] に表示された親展ボックス番号を選択できます。
- [スキャナ選択画面へ] ボタンをクリックすると、手順2.の画面に戻り、スキャナーの再選択ができます。

4. [決定] ボタンをクリックします。

5. リストから取り込む文書を選択し、［取り込み］をクリックします。



補足

- 複数の文書を選択して取り込むことができます。
- 取り込み方法の設定で、［文書の保存］が［毎回保存先を指定する］に設定されていると、保存先を設定するダイアログボックスが表示されます。文書の保存先を設定して［OK］ボタンをクリックします。
  取り込み方法の設定については、「スキャンした文書の取り込み方法を設定する」（P.232）を参照してください。
- 親展ボックスに蓄積されている文書は、サムネール表示できません。

6. 文書が取り出され、指定した保存先に保存されます。

補足

- 取り込み方法の設定で、［文書の保存］が［保存先を固定する］に設定されていると、［文書の保存先］で指定されている場所に保存されます。
  取り込み方法の設定については、「スキャンした文書の取り込み方法を設定する」（P.232）を参照してください。

親展ボックスビューワー 3の設定変更

参照

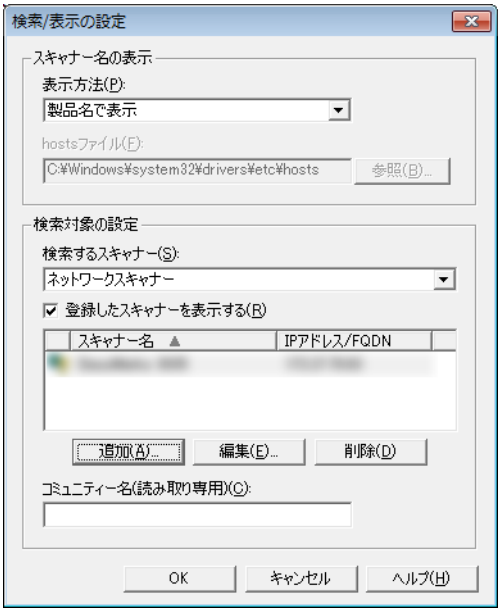
- 表示されるダイアログボックスの項目については、［ヘルプ］ボタンをクリックして表示される親展ボックスビューワー 3のヘルプを参照してください。

● スキャナー名の表示方法を設定する

スキャナーを選択するときに、リストに表示されるスキャナー名の表示方法を変更できます。
スキャナー名の表示方法は、スキャナーを選択するダイアログボックスで、［検索/表示の設定］ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスで設定します。
［スキャナ名の表示］で［検索するスキャナ］に表示するスキャナー名の表示方法を変更できます。
［検索対象の設定］で検索対象とするスキャナーを指定します。

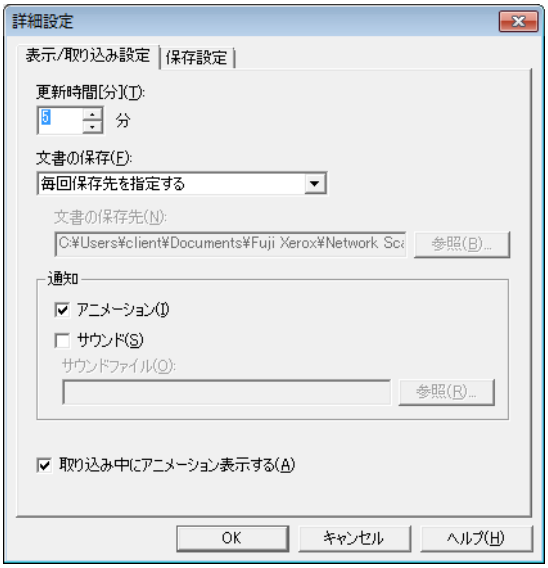
補足

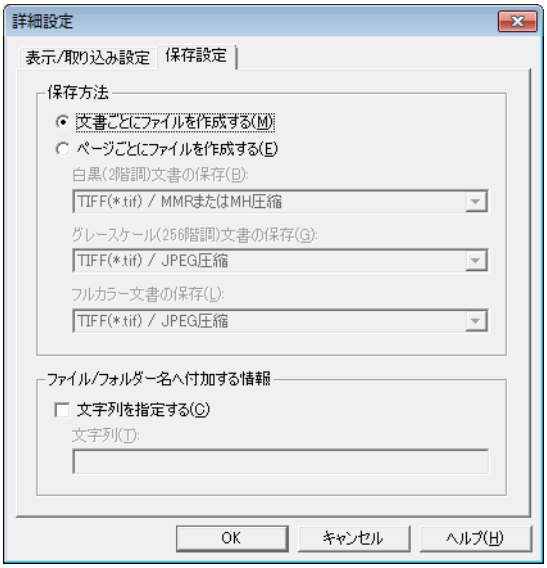
- ［追加］ボタンをクリックしてスキャナーを登録すると、異なるサブネットワークにあるスキャナーを表示できます。



スキャンした文書の取り込み方法を設定する

親展ボックスの文書を取り込むときの文書の表示方法や取り込んだ文書の保存先を変更できます。
取り込み方法は、取り込む文書を選択するダイアログボックスで、［ファイル］メニューから［詳細設定］を選択して表示されるダイアログボックスで設定します。





6.5.3 CentreWare Internet Servicesを利用して取り込む

本機の親展ボックスに蓄積されている文書を、CentreWare Internet Servicesを使用して取り込む方法について説明します。
CentreWare Internet Services は、TCP/IP 環境が利用できる場合、お使いのコンピューターから Web ブラウザーを介して本機にアクセスし、本機の親展ボックスに蓄積されている文書を、コンピューターに取り込むことができます。

補足
- 親展ボックスの設定で、[文書取り出し後の削除] を [削除する] に設定した場合でも、CentreWare Internet Servicesから取り出したときは、文書は削除されません。

参照
- CentreWare Internet Servicesの概要については、「6.2 CentreWare Internet Services」(P.207) を参照してください。
- 操作については、上部フレームの[ヘルプ]ボタンをクリックして表示される、ヘルプを参照してください。

1. コンピューターを起動し、Webブラウザーを起動します。
2. Webブラウザーのアドレス入力欄に、本機のIPアドレス、またはインターネットアドレスを入力し、〈Enter〉キーを押します。

補足
- お使いのネットワークがDNS (Domain Name System) を使用していて、DNSのネームサーバーに本機のホスト名が登録されている場合は、ホスト名とドメイン名を組み合わせたインターネットアドレスを使って本機にアクセスできます。ホスト名が「myhost」、ドメイン名が「example.com」の場合、インターネットアドレスは「myhost.example.com」となります。
- 入力するIPアドレス、インターネットアドレスについては、機械管理者に確認してください。
- ポート番号を指定する場合には、アドレスのあとに、「:」に続けて「8080」のように指定してください。
- 通信を暗号化している場合、CentreWare Internet Services にアクセスするには、Web ブラウザーのアドレス欄には「http」ではなく「https」から始まるアドレスを入力してください。

3. [スキャン] タブの [親展ボックス一覧] をクリックします。

4. 取り込む文書が蓄積されている親展ボックスの [親展ボックスを開く] ボタンをクリックします。

補足
- パスワードを設定している場合は、[パスワード] にパスワード（4 桁以内の半角数字）を入力します。

5. 取り込む文書の［取り出し］ボタンをクリックします。

補足

- 複数の文書を一括で取り出すこともできます。複数の文書を選択し、［一括取り出し］ボタンをクリックしてください。

6. 保存場所を選択し、保存します。

6.6　ダイレクトスキャン

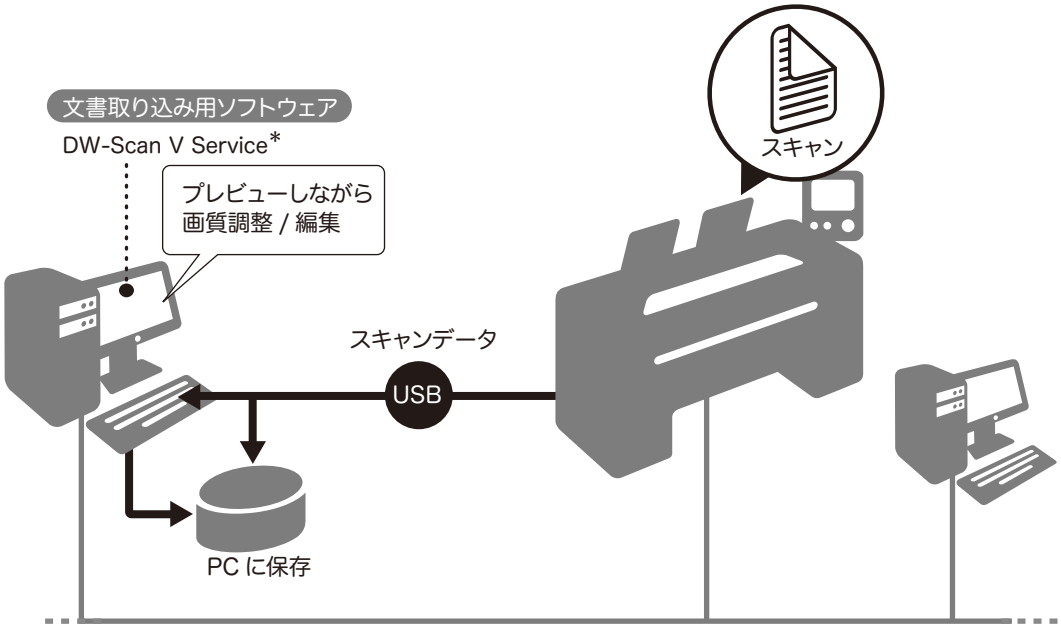
オプションのDW-Scan V Serviceを使うと、本機とUSB接続したコンピューターに、スキャンデータを直接取り込むことができます。この機能を「ダイレクトスキャン」といいます。

注記

- 弊社が推奨するUSBケーブル（USB Cable KIT：商品コード EB100282）をお使いください。弊社が推奨していないUSBケーブルを使用された場合、装置本来の品質や性能を発揮できないおそれがあります。
- ユーザー認証中は、ダイレクトスキャンはできません。

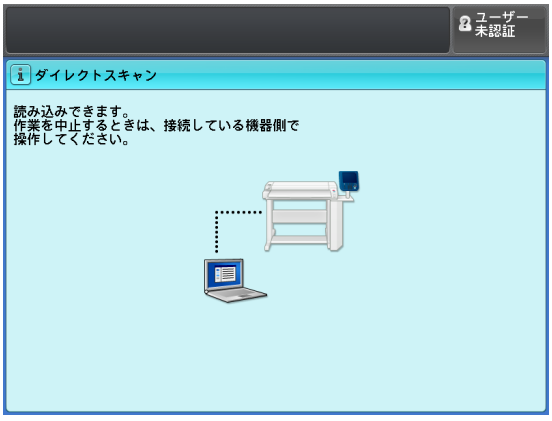
参照

- ダイレクトスキャンの操作方法については、DW-Scan V Serviceのマニュアルを参照してください。



*オプションです。
オプションについては、オプションのマニュアルを参照してください。

ダイレクトスキャン中は、次の画面が表示されます。



補足

- ダイレクトスキャンの操作中でも、次の操作をすることができます。
  - プリント
  - 操作パネルの〈ジョブ確認〉ボタンで［ジョブ確認］画面の表示

第7章　登録/設定

親展ボックス、IPアドレス、宛先などの登録や変更をします。

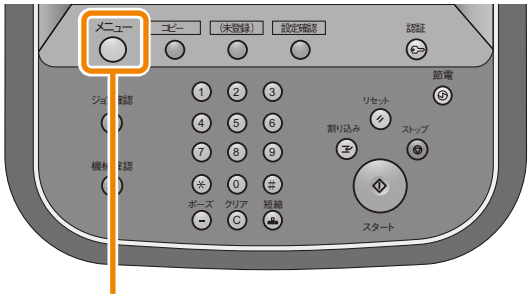
7.1　登録/変更 238
7.2　IPアドレスの設定 248
7.3　スキャン機能の設定 249
7.4　セカンダリーイーサネットの設定 253

7.1　登録/変更

［登録/変更］では、ジョブメモリー、親展ボックス、宛先などの登録や変更ができます。
各設定の詳細と参照先は次のとおりです。

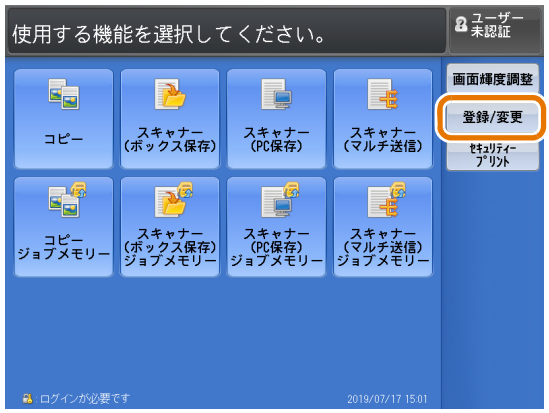
- 配布パターン P.239
- 親展ボックス（ボックス保存宛先） P.240
- サーバー（PC保存宛先） P.242
- プリンター（マルチ送信宛先用） P.244
- マルチ送信宛先（グループ宛先） P.245

1. 〈メニュー〉ボタンを押します。

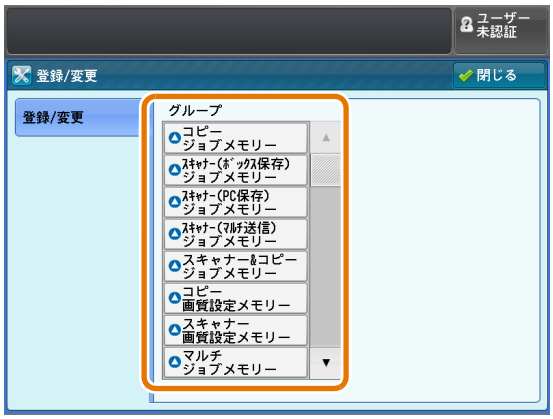


〈メニュー〉ボタン

2. ［登録/変更］を押します。



3. 設定/変更する項目を選択します。

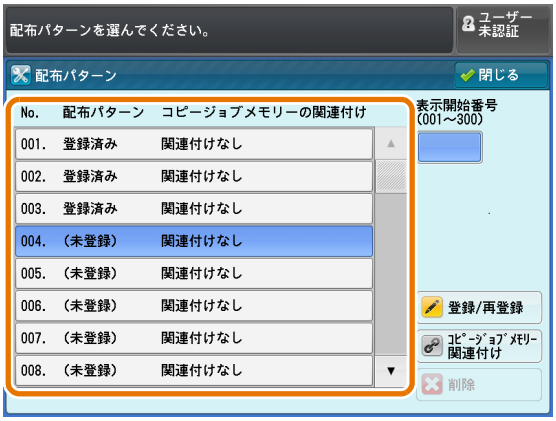


7.1.1 配布パターン

あらかじめ登録された配布パターンに応じて、仮想の配布先（ビン）ごとにまとめて、ページ順に並べて排出する機能を、ソート（配布パターン）といいます。
ソート（配布パターン）で複数枚の原稿をコピーするときは、あらかじめ配布パターンを登録し、配布パターン（番号）を原稿をセットするごとに指定します。
配布パターンは300パターンまで登録できます。

参照 • ソート（配布パターン）でコピーする方法については、「2.19.3 仕分け（仕分けを指定して排出する）」（P.133）を参照してください。

1. ［配布パターン］を押します。
2. 登録する配布パターン番号を選択します。



補足
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面が表示できます。
- 任意の配布パターン番号を先頭に表示させたい場合、［表示開始番号］に配布パターン番号を入力してください。

3. 項目を選択して、設定します。
4. 設定が終わったら、［閉じる］を押します。

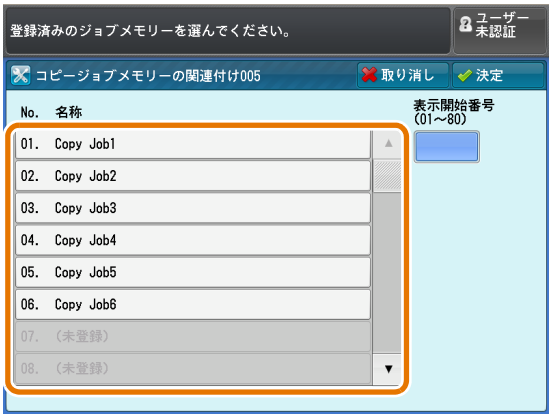
登録/再登録

仮想配布先を選択して、操作パネルの〈数字〉ボタンでコピー枚数を入力します。

補足
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面が表示できます。
- 最大仮想配布先は、40ビンです。
- 配布パターンで設定する最大部数は、99部です。

コピージョブメモリー関連付け

登録済みのコピージョブメモリーと関連付けます。



補足
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面が表示できます。
- 任意のコピージョブメモリー番号を先頭に表示させたい場合、［表示開始番号］にコピージョブメモリー番号を入力してください。

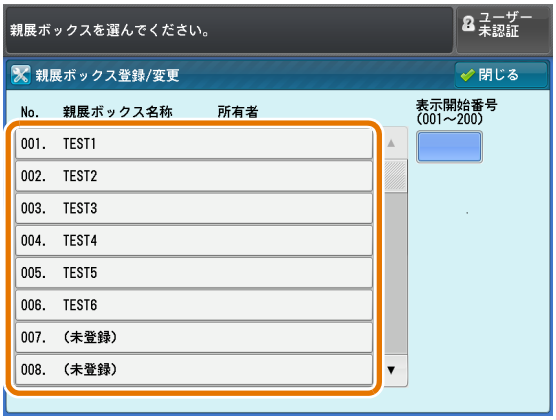
削除

選択した配布パターンを削除します。

7.1.2　親展ボックス（ボックス保存宛先）

親展ボックスとは、本機から読み込んだスキャンデータを本機内に保存することができる機能です。
保存したスキャン文書は、ネットワーク上のコンピューターから取り出すことができます。
親展ボックスは200個まで登録できます。

1. ［親展ボックス（ボックス保存宛先）］を押します。
2. 登録する親展ボックスを選択します。



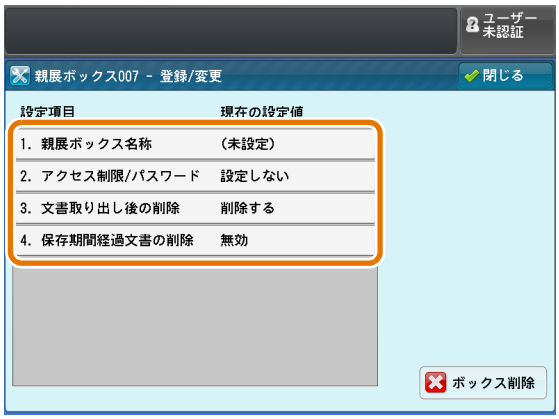
補足
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- 任意の親展ボックス番号を先頭に表示させたい場合、［表示開始番号］に親展ボックス番号を入力してください。

3. 新規にボックスを登録するときは、[アクセス制限/パスワード］画面が表示されます。
項目を設定して［決定］を押します。

補足
- 登録済みのボックスを選択するとパスワードを入力する画面が表示されます。その場合は、パスワードを入力し、［確定］を押してください。

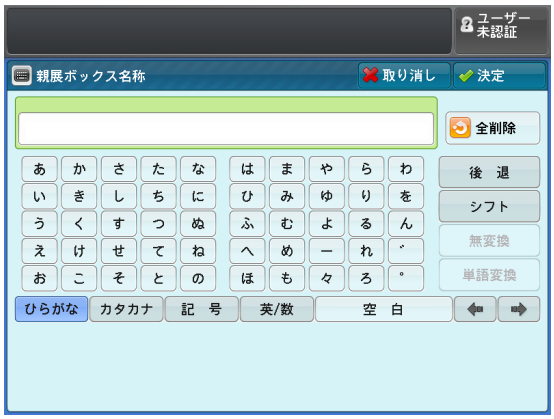
参照
- アクセス制限については、「アクセス制限/パスワード」（P.241）を参照してください。

4. 項目を選択して、設定します。



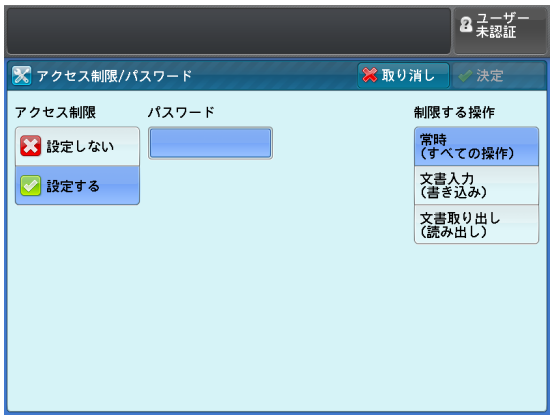
親展ボックス名称

親展ボックスの名前を設定します。
タッチパネルディスプレイに表示されるキーボードと操作パネルの〈数字〉ボタンを使って、全角で 10 文字（半角で20文字）まで入力できます。



参照
- 文字の入力方法については、「1.6 文字の入力方法について」（P.36）を参照してください。

アクセス制限/パスワード



特定のユーザーだけに操作を許可するために、アクセスの制限を設定できます。

● アクセス制限

アクセス制限を設定するかどうかを設定します。

● パスワード

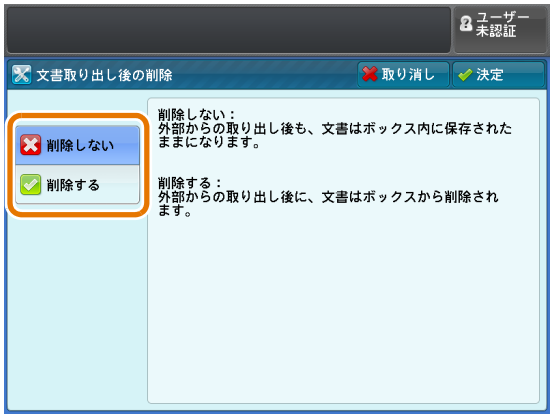
アクセス制限を設定する場合は、0～9の数字で4桁のパスワードを設定します。

● 制限する操作

制限する操作を設定します。

- 常時（すべての操作）
  親展ボックスを選択したり、親展ボックスの文書を取り出すときに、パスワードの入力が必要になります。
- 文書入力（書き込み）
  親展ボックスを選択するときに、パスワードの入力が必要になります。
- 文書取り出し（読み出し）
  親展ボックスの文書を取り出すときに、パスワードの入力が必要になります。

文書取り出し後の削除



親展ボックスに保存されている文書をプリントしたときや、外部からの取り出し操作後に、文書を削除するかどうかを設定します。

● 削除しない

文書を保存しておきます。

● 削除する

文書を取り出したあと、自動的に文書を削除します。

補足

- ［削除する］に設定した場合でも、CentreWare Internet Services から取り出したときは、文書は削除されません。

保存期間経過文書の削除

選択している親展ボックス内に蓄積されている文書を、保存期間経過後の指定された時刻に削除する動作を有効にするかどうかを設定します。

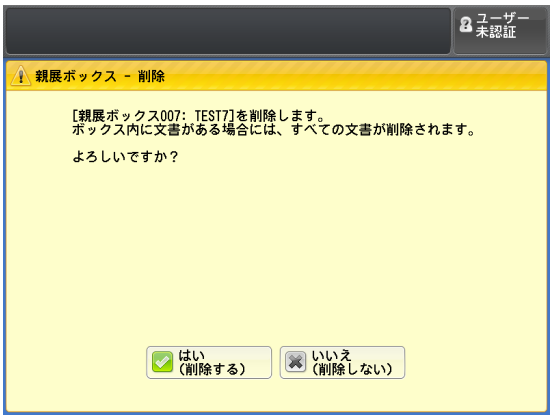
- 無効
  指定されている保存期間を経過しても文書は削除されません。

- 有効
  保存期間経過後の指定された時刻を過ぎると文書を削除します。ただし、保存期間が指定されていない場合は、[有効]を設定しても文書は削除されません。文書の保存期間を指定してください。

参照 • 文書の保存期間の設定方法については、「11.8.1 保存文書設定」(P.413) を参照してください。

[ボックス削除] ボタンを選択した場合

選択されている親展ボックスを削除します。
親展ボックス内に文書がある場合は、すべての文書が削除されます。



注記 • 削除した文書は、元に戻せません。

5. 設定が終わったら、[閉じる] を押します。

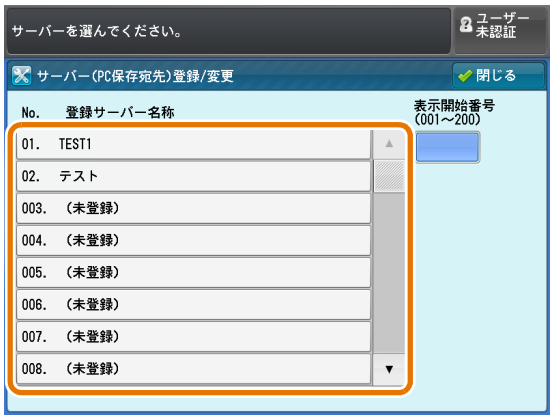
7.1.3 サーバー (PC保存宛先)

よく使用するコンピューターを宛先として登録できます。登録できる宛先の種類は、サーバー (SMB) です。宛先は、200か所まで登録できます。

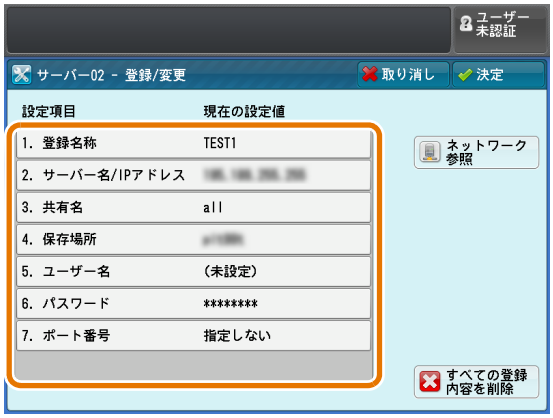
1. [サーバー (PC保存宛先)] を押します。

2. 登録するサーバー番号を選択します。

補足 • [▲] を押して前画面、[▼] を押して次画面を表示できます。
• 任意のサーバー番号を先頭に表示させたい場合、[表示開始番号] にサーバー番号を入力してください。



3. 項目を選択して、設定します。



登録名称

宛先名を、全角で18文字（半角で36文字）以内で入力します。

参照
- 文字の入力方法については、「1.6 文字の入力方法について」（P.36）を参照してください。

サーバー名/IPアドレス

転送先のサーバー名またはIPアドレスを入力します。

共有名

SMBフォルダーに設定されている共有名を入力します。

保存場所

文書を保存するためのディレクトリーをUNC形式で入力します。

- 例）指定したボリュームのaaaディレクトリーにある、bbbディレクトリーに保存する場合
  aaa￥bbb

ユーザー名

転送先のサーバーからユーザー名の入力を求められる場合は、ユーザー名を設定します。

- アクティブディレクトリーの場合
  ユーザー名@ドメイン名（ユーザー名：32文字まで、ドメイン名：64文字まで）
  入力例：user1@example.com（user1:ユーザー名、example.com：ドメイン名）
- Windows NTドメインの場合
  ドメイン名￥ユーザー名（ドメイン名：64文字まで、ユーザー名：32文字まで）
  入力例：example￥user1（example：ドメイン名、user1:ユーザー名）
- ワークグループの場合
  ローカルユーザー（32文字まで）
  入力例：Test-User

パスワード

転送先のサーバーからパスワードの入力を求められる場合は、パスワードを設定しておきます。

パスワードは、32文字まで入力できます。

ポート番号

転送先のポート番号を指定します。1～65,535の範囲で入力します。

指定しない場合は、[指定しない]を選択します。

[登録サーバー]を押した場合

表示された登録されているサーバーから保存先を指定します。

[ネットワーク参照]ボタンを選択した場合

保存先のサーバー名やフォルダーなどの階層構造が表示され、階層を順番にたどりながら保存先を指定できます。

参照
- 保存先の指定方法については、「ネットワークを参照して保存先PCを指定する場合」（P.172）を参照してください。

[すべての登録内容を削除]ボタンを選択した場合

選択されている宛先の登録内容を削除します。宛先の登録内容を削除する場合は、[はい（削除する）]を選択してください。

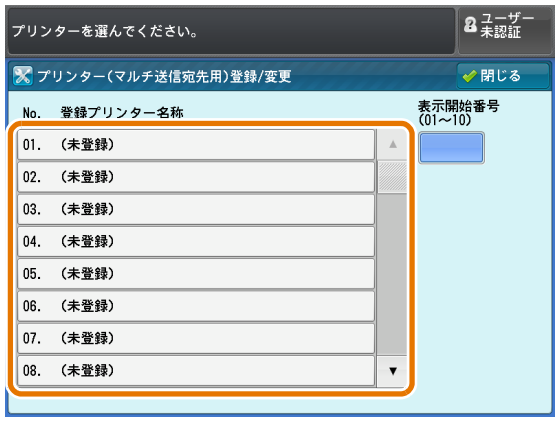
注記 • 削除した設定内容は、元に戻すことはできません。

4. 設定が終わったら、[決定]を押します。

7.1.4 プリンター（マルチ送信宛先用）

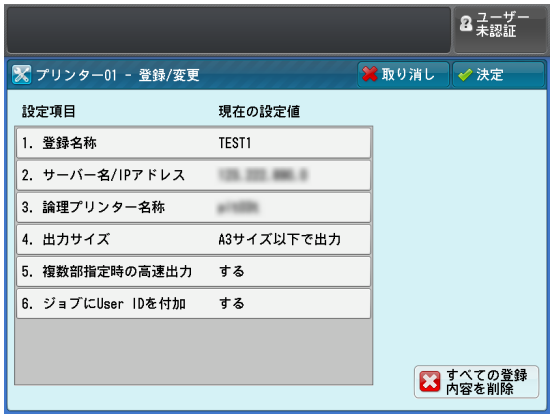
よく使用する相手の宛先を、宛先に登録できます。登録できる宛先の種類は、プリンターです。
宛先は、10か所まで登録できます。

1. [プリンター（マルチ送信宛先用)]を押します。
2. 登録するプリンター番号を選択します。



補足 • [▲]を押して前画面、[▼]を押して次画面を表示できます。
• 任意のプリンター番号を先頭に表示させたい場合、[表示開始番号]にプリンター番号を入力してください。

3. 項目を選択して、設定します。



登録名称

宛先名を、全角で18文字（半角で36文字）以内で入力します。

参照 • 文字の入力方法については、「1.6 文字の入力方法について」(P.36)を参照してください。

サーバー名/IPアドレス

転送先のホスト名、ドメイン名、またはIPアドレスを入力します。

論理プリンター名称

論理プリンター名を入力します。

- DocuWideシリーズの場合
  plt**t（**：00～99の数字）
  入力例：plt03t
- ApeosPort/DocuCentre/DocuPrintシリーズの場合
  TIFF**（**：01～20の数字）
  入力例：TIFF03

出力サイズ

DocuWideシリーズ以外のプリンターに出力する場合に、出力可能サイズを設定します。

- 等倍
  等倍で出力します。
- A3サイズ以下で出力
  A3サイズ以上はA3サイズに縮小して出力します。
- A4サイズ以下で出力
  A4サイズ以上はA4サイズに縮小して出力します。

補足
- 出力可能サイズがA3のプリンターは、［A3サイズ以下で出力］を選択してください。

複数部指定時の高速出力

複数部数を指定したときに高速に出力するかどうかを設定します。

- しない
  部数分プリントデータを転送するので、出力部数に応じてプリントに時間がかかります。
- する
  部数コマンドによって処理するので、出力部数が増えても高速にプリントできます。

注記
- ［する］の場合、部数コマンドを受け付けることができないプリンターでは、正常にプリントできません。対象のプリンターについては、弊社営業担当者にお尋ねください。
- DocuWide　シリーズ以外のプリンターで、排出先や、紙折り、パンチ、ステープルのフィニッシャーの機能を設定した論理プリンターを指定される場合は、［しない］に設定してください。［する］の場合、設定が正しく機能しないことがあります。

ジョブにUser IDを付加

ジョブにユーザー IDを付与するかどうかを設定します。

- しない
  ユーザー IDを付与しません。
- する
  ユーザー IDを付与します。

［すべての登録内容を削除］ボタンを選択した場合

選択されている宛先の登録内容を削除します。宛先の登録内容を削除する場合は、［はい（削除する）］を選択してください。

注記
- 削除した設定内容は、元に戻すことはできません。

4. 設定が終わったら、［決定］を押します。

7.1.5　マルチ送信宛先（グループ宛先）

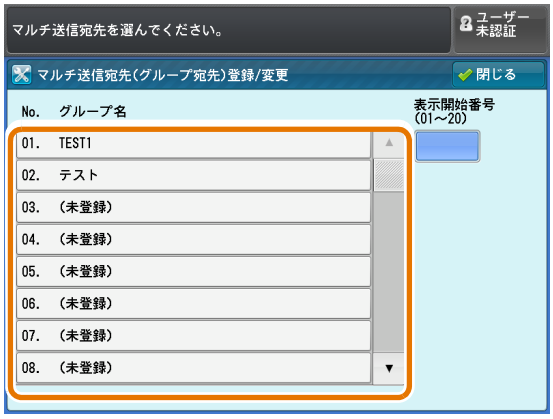
同報送信する宛先をまとめて宛先グループとして登録できます。1 グループに、グループ名、サーバー 2 か所、プリンター5か所、ローカルプリンター（本機）5か所を登録できます。登録できるグループ数は、20です。なお、宛先グループに登録する宛先は、あらかじめ登録しておく必要があります。

補足
- 宛先グループに、宛先グループは登録できません。
- スキャナー（PC 保存）機能を使用するには、あらかじめネットワークの設定が必要です。ネットワークの設定については、「7.3.2 スキャナー（PC保存）の設定」（P.250）を参照してください。

- サーバーとプリンターは、あらかじめ登録しておきます。サーバー、プリンターの登録方法については、「7.1.3 サーバー（PC保存宛先）」(P.242)、「7.1.4 プリンター（マルチ送信宛先用）」(P.244）を参照してください。

1. ［マルチ送信宛先（グループ宛先）］を押します。

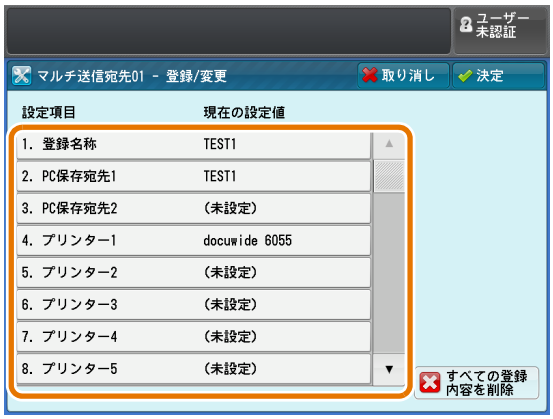
2. 登録するグループ番号を選択します。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- 任意のグループ番号を先頭に表示させたい場合、［表示開始番号］にグループ番号を入力してください。

3. 項目を選択して、設定します。



補足

- 1グループに、グループ名（登録名称）、サーバー（PC保存宛先）2か所、プリンター5か所、ローカルプリンター（本機）5か所を登録できます。

登録名称

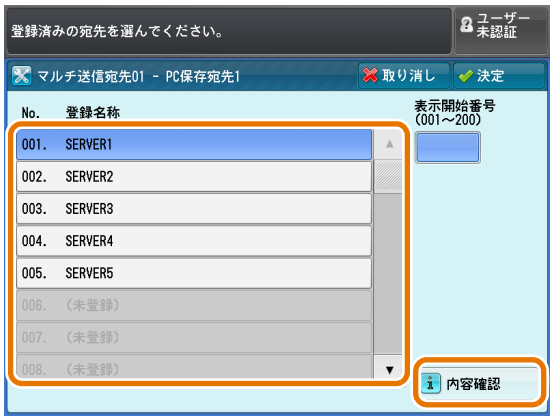
グループ名を、全角で18文字（半角で36文字）以内で入力します。

参照

- 文字の入力方法については、「1.6 文字の入力方法について」(P.36）を参照してください。

PC保存宛先1、2

サーバーを選択します。

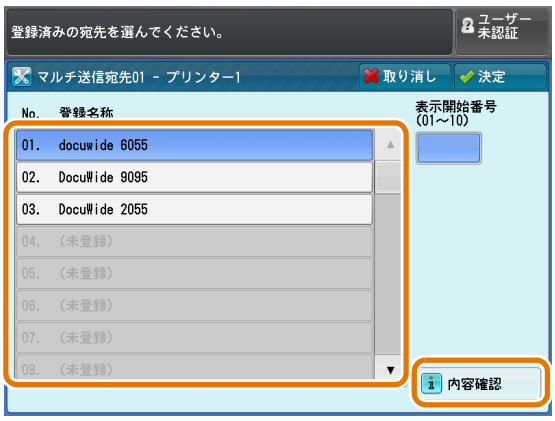


補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- 任意のサーバー番号を先頭に表示させたい場合、［表示開始番号］にサーバー番号を入力してください。
- サーバーの登録内容を確認するには、確認するサーバーを選択して、［内容確認］を押します。
- 同じグループ内でサーバーの重複登録はできません。

プリンター 1～5

プリンターを選択します。



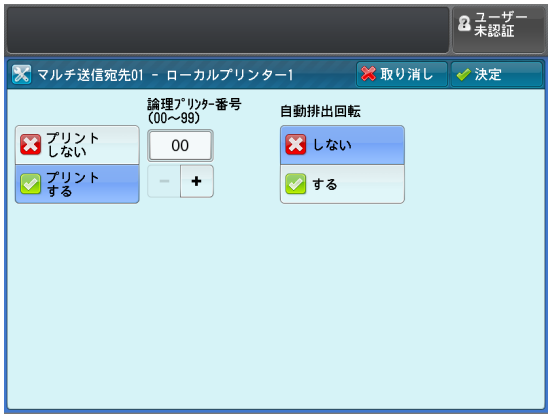
補足

- [▲]を押して前画面、[▼]を押して次画面を表示できます。
- 任意のプリンター番号を先頭に表示させたい場合、[表示開始番号]にプリンター番号を入力してください。
- プリンターの登録内容を確認するには、確認するプリンターを選択して、[内容確認]を押します。
- 同じグループ内でプリンターの重複登録はできません。

ローカルプリンター 1～5

ローカルプリンター（本機）から文書をプリントするかどうかを設定します。

- プリントしない
  プリントしません。
- プリントする
  プリントします。
  論理プリンター番号を指定し、[自動排出回転]で部毎に回転するかしないかを選択します。



補足

- [自動排出回転]は、標準フォルダーを接続している場合に表示されます。

PC保存宛先内容確認

PCの保存先の設定を確認します。

プリンター内容確認

プリンターの設定を確認します。

[すべての登録内容を削除]ボタンを選択した場合

選択されているグループの登録内容を削除します。グループの登録内容を削除する場合は、[はい（削除する）]を選択してください。

注記

- 削除した設定内容は、元に戻すことはできません。

4. 設定が終わったら、[決定]を押します。

7.2 IPアドレスの設定

ここでは、ネットワークサービスを使用するための、IPアドレスの設定手順について説明します。

1. ［仕様設定/登録］画面を表示します。

(1) 操作パネルの〈認証〉ボタンを押します。

(2) 操作パネルの〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者のUser IDを入力し、［確定］を押します。

補足
- User IDの工場出荷時の値は、「　　」です。
- 本機の設定によっては、表示内容が異なることがあります。

(3) メニュー画面で［仕様設定/登録］を押します。

2. ［プロトコル設定］の［TCP/IP-IP アドレス］を設定します。

(1) ［仕様設定/登録］画面で、［ネットワーク設定］を押します。

(2) ［プロトコル設定］を押します。

(3) ［IPv4 - IPアドレス］を押します。

(4) 〈数字〉ボタンでIPアドレスを指定します。

(5) ［仕様設定/登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

参照
- IPv6のIPアドレスの設定については、「11.5.2 プロトコル設定」（P.401）を参照してください。

3. ［仕様設定/登録］画面の［閉じる］を押します。

7.3　スキャン機能の設定

ここでは、本機でスキャンを使ったサービスを利用するための設定方法について説明します。

7.3.1　スキャナー（ボックス保存）の設定

ここでは、スキャナー（ボックス保存）について説明します。設置の流れと参照先は、次のとおりです。

- Step1 TCP/IPの設定 P.249
- Step2 親展ボックスの登録 P.249
- Step3 コンピューター側の設定 P.249

Step1 TCP/IPの設定

弊社製のスキャナードライバー（ネットワーク接続）を使用する場合、IPアドレスを設定します。

補足
- すでにIPアドレスが設定されている場合は、この手順は不要です。

参照
- IPアドレスの設定については、「7.2 IPアドレスの設定」（P.248）を参照してください。

Step2 親展ボックスの登録

スキャンデータを保存する親展ボックスを登録します。

参照
- 親展ボックスを登録する手順については、「7.1.2 親展ボックス（ボックス保存宛先）」（P.240）を参照してください。

Step3 コンピューター側の設定

スキャナードライバー（ネットワーク接続）を使用する場合は、スキャナードライバー（ネットワーク接続）をコンピューターにインストールします。

参照
- スキャナードライバー（ネットワーク接続）は、メディア（ソフトウェア/製品マニュアル）に入っています。インストール手順については、メディア（ソフトウェア/製品マニュアル）のヘルプを参照してください。
- スキャナードライバー（ネットワーク接続）を使用する場合は、「第 6 章　コンピューターからの操作」（P.205）を参照してください。

7.3.2　スキャナー（PC保存）の設定

ここでは、スキャナー（PC保存）の設定について説明します。設定の流れと参照先は、次のとおりです。

- Step1 事前準備 P.250
- Step2 TCP/IPの設定 P.250
- Step3 コンピューター側の設定 P.251

Step1 事前準備

本機でスキャナー（PC保存）機能を使用するには、あらかじめ共有フォルダー機能が利用できる、次のOSのコンピューターが必要です。

- Windows® 10（32ビット）
- Windows® 10（64ビット）
- Windows® 8.1（32ビット）
- Windows® 8.1（64ビット）
- Windows® 8（32ビット）
- Windows® 8（64ビット）
- Windows® 7（32ビット）
- Windows® 7（64ビット）
- Windows® Vista®（32ビット）
- Windows Server® 2019 （64ビット）
- Windows Server® 2016 （64ビット）
- Windows Server® 2012 R2（64ビット）
- Windows Server® 2012（64ビット）
- Windows Server® 2008 R2（64ビット）
- Windows Server® 2008（32ビット）

Step2 TCP/IPの設定

スキャナー（PC保存）を使用するために、IPアドレスを設定します。

補足
- すでにIPアドレスが設定されている場合は、この手順は不要です。

参照
- IPアドレスの設定については、「7.2 IPアドレスの設定」（P.248）を参照してください。

Step3 コンピューター側の設定

コンピューターに転送先のフォルダーを作成し、共有フォルダーとして設定します。設定した共有フォルダーには、書き込み権限を設定します。

- 共有フォルダーの設定

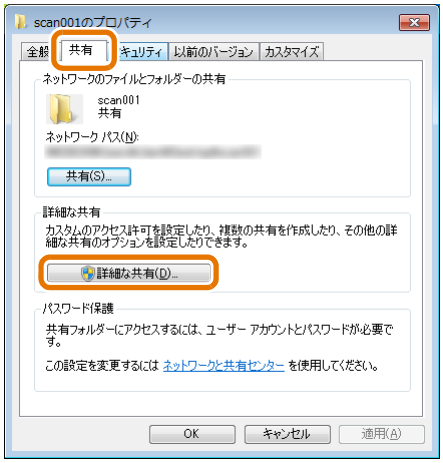
1. コンピューターの任意の場所に、共有したいフォルダーを作成します。

補足
- 作成したフォルダーは、スキャンしたファイルを格納するために利用します。名前は半角英数字（「scan001」など）で付けてください

2. フォルダーを右クリックし、［プロパティ］を選択します。

3. ［共有］タブをクリックします。

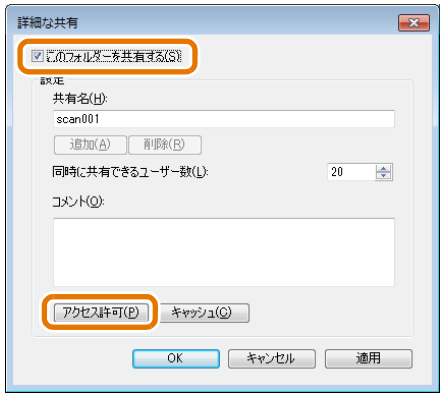
4. ［詳細な共有］をクリックします。



5. ［このフォルダーを共有する］チェックボックスをオンにします。

補足
- ［共有名］に表示されるフォルダー名が、手順1で作成したフォルダー名と同じであることを確認してください。

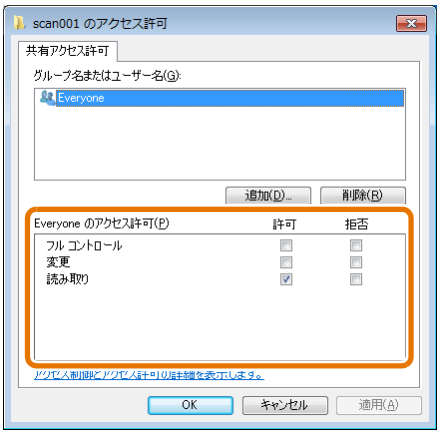
6. ［アクセス許可］をクリックします。



7. 適切なアクセス許可を設定します。

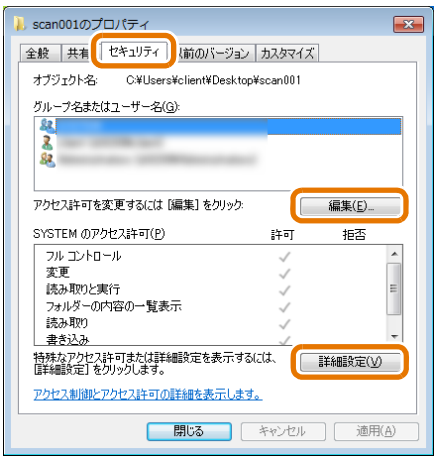
補足
- お客様が運用しているセキュリティーのルールに従って設定してください。

8. ［OK］をクリックします。



9. ［セキュリティ］タブをクリックします。

10. ［編集］または［詳細設定］をクリックして、適切なアクセス許可を設定します。



補足
- お客様が運用しているセキュリティーのルールに従って設定してください。

11. ［閉じる］をクリックします。

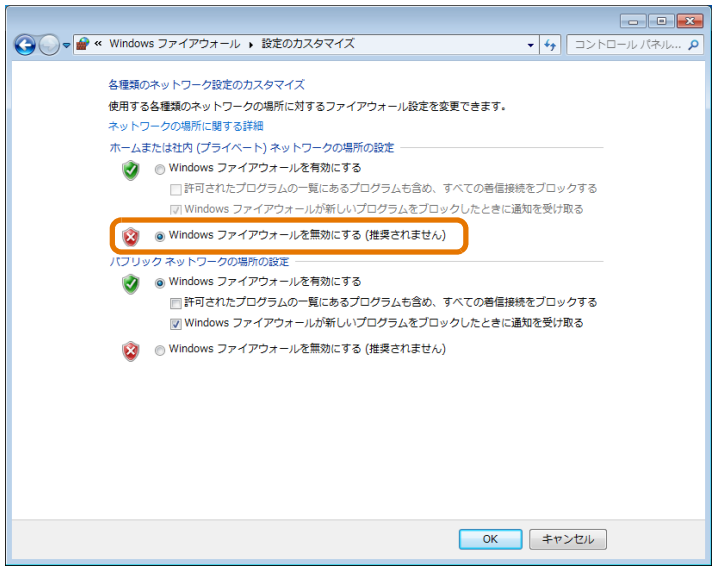
- Windowsファイアウォールの設定

1. コントロールパネルを表示し、［システムとセキュリティ］＞［Windows ファイアウォール］の順に選択します。

2. ［Windows ファイアウォールの有効化または無効化］をクリックします。

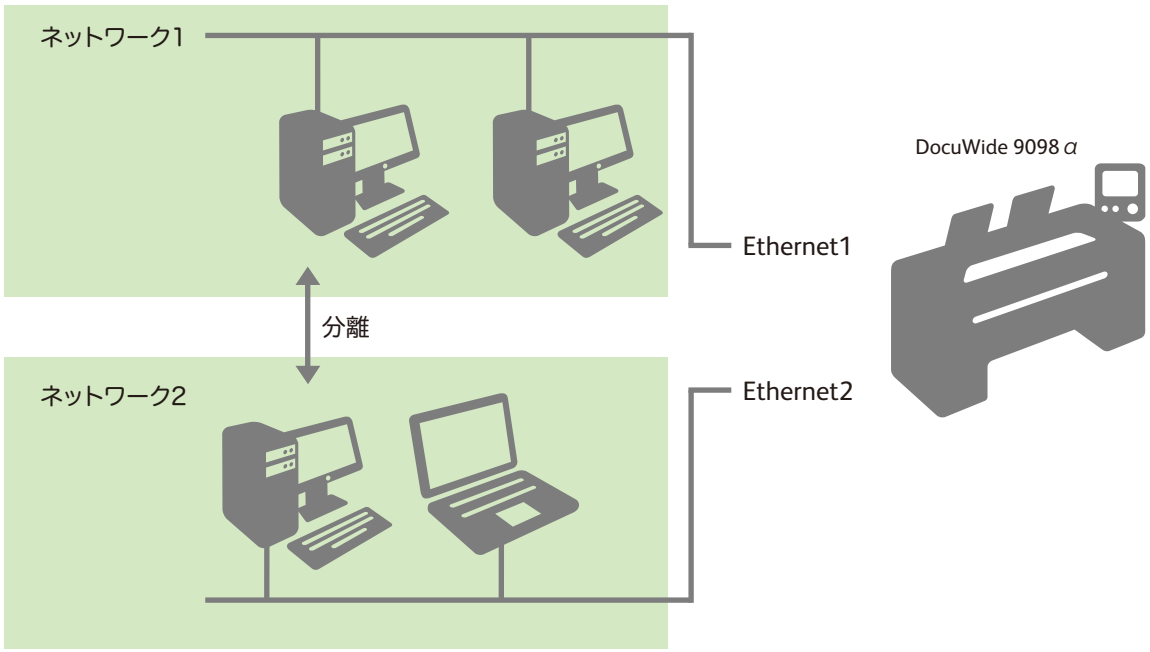
3. ［ホームまたは社内(プライベート)ネットワークの場所の設定］にある［Windows ファイアウォールを無効にする(推奨されません)］をクリックします。

4. ［OK］をクリックします。



7.4　セカンダリーイーサネットの設定

セカンダリーイーサネット機能を使用すると、分離した 2 系統のネットワーク環境においてプリントすることができます。Ethernet1 と Ethernet2 との間にはコネクションがないので、セキュリティーを保てます。



セカンダリーイーサネット機能では、次のクライアントソフトウェアが使用できます。

- DocuWide Plot ドライバー
- PostScript（PS）ドライバー
- MacPPD
- BT-PlotAssistant

補足
- セカンダリーイーサネット機能は、プリント用途のみになります。
- セカンダリーイーサネットの設定は、CentreWare Internet Services から行います。ただし、セカンダリーイーサネット側から CentreWare Internet Services には接続できません。

セカンダリーイーサネット機能での注意 / 制限

- セカンダリーイーサネット側からのプリントジョブでは、節電状態から復帰しません。
- 次のクライアントソフトウェアは使用できません。
  - リプロサーバ BT-X
  - ネットワークスキャナーユーティリティ 3
  - DocuWide Plot ドライバーのインストーラー
  - スタンプツール
  - ApeosWare Management Suite
  - ArcEPS

第8章　認証

認証機能について説明しています。

注記　• ダイレクトスキャン中は、ユーザー認証の操作ができません。

補足　• ICカード認証機能はオプションです。

8.1　認証機能の概要 256
8.2　認証機能 257
8.3　認証機能を使ったサービスの利用制限 259
8.4　親展ボックスの認証について 260
8.5　本体認証で運用する 263
8.6　外部認証で運用する 273

8.1 認証機能の概要

認証機能の概要について説明します。

ユーザーの種類

ユーザーの種類には、機械管理者、認証ユーザー、認証未登録ユーザー、一般ユーザーなどがあります。

参照 • 詳細については、「8.2.1 認証で管理するユーザーについて」（P.257）を参照してください。

認証の種類

認証の種類には、本機に登録されたユーザー情報を使用する「本体認証」、外部のサーバーに登録されたユーザー情報を使用する「外部認証」があります。

補足 • 外部のサーバーには、LDAP、またはAuthentication Managemetが使用できます。

参照 • 詳細については、「8.2.2 認証の種類について」（P.258）を参照してください。

サービスごとの利用制限

コピー、スキャナー、プリンターなどの機能ごとに、利用を制限するかどうかを設定できます。

参照 • 詳細については、「アクセス制御サービスへのアクセス」（P.423）を参照してください。

ユーザーごとの利用制限

ユーザーごとに、サービスの利用制限が設定できます。

参照 • 詳細については、「8.3 認証機能を使ったサービスの利用制限」（P.259）を参照してください。

ユーザーごとに、親展ボックスの作成、編集、利用を制限できます。

参照 • 詳細については、「8.4 親展ボックスの認証について」（P.260）を参照してください。

8.2 認証機能

本機で使用できる認証機能について説明します。

- 認証で管理するユーザーについて P.257
- 認証の種類について P.258

8.2.1 認証で管理するユーザーについて

本機の認証機能で管理するユーザーについて説明します。
本機では、ユーザーを次の4種類で、本機に対する操作を制限できます。

- 機械管理者
  使用環境に合わせてシステムの設定値を登録/変更できるユーザーです。
  機械管理者は、機械管理者IDという特殊な定義のUser IDを使用します。
  機械管理者モードへ入るには、認証画面に表示されるUser ID欄に、登録されている機械管理者IDを入力します。
- 認証ユーザー
  本機または外部のサーバーに、ユーザー登録されているユーザーです。
  認証ユーザーは、利用が制限されているサービスを利用する場合には、認証画面でUser IDやパスワードを入力します。
- また、認証ユーザーのUser IDに、使用目的に応じてサブユーザーを関連づけできます。ひとつのUser IDには、最大10個のSub User IDを関連づけできます。

補足
- サブユーザー機能を利用するには、別途アプリケーションが必要です。詳細については、弊社の営業担当者にお尋ねください。

- 認証未登録ユーザー
  登録されていないユーザーです。
  認証未登録ユーザーは、利用が制限されているサービスを利用できません。
- 一般ユーザー
  本機の認証機能を使用しないときの一般的なユーザーです。

8.2.2　認証の種類について

本機で利用できる認証の種類について説明します。
本機では、次の認証方法があります。

User ID認証

User ID認証では、本機の操作パネルからUser ID、パスワードなどを入力して認証します。
本機または外部のサーバーに登録されているユーザー情報を利用して、認証を行います。
ユーザー情報の登録方法によって、次の2種類があります。

- 本体認証
  本体認証は、本機に登録したユーザー情報を使用して認証管理を行います。
  コンピューターから直接送信されたプリントデータは、あらかじめクライアント側のドライバーで設定した認証情報と、本機側に登録されている認証情報を照合することによって認証され、本機で受信できます。
  プリンタードライバーの設定については、ヘルプを参照してください。
- 外部認証
  外部の認証サーバーに対して認証を行います。本機にユーザー情報は登録しません。
  外部認証は、外部の認証サーバー（Active Directory（LDAP接続）、またはAuthentication Managementサーバーが使用できます）で管理されているユーザー情報を使用して、認証をします。

注記

- 本体認証から外部認証に変更する場合、または外部認証から本体認証に変更する場合、本機に登録されたユーザー情報、および個人の親展ボックスは削除されます。
- 外部認証サーバーに登録するUser IDは半角32文字以内、パスワードは半角128文字以内で設定してください。

補足

- Active Directoryは、Windows Server 2003、Windows Server 2008、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2、Windows Server 2016、、Windows Server 2019に対応しています。
- 外部認証を行うと、ユーザー情報が本機に保存され、外部認証時に外部認証サーバーが起動していなくても、本機に保存されたユーザー情報を利用してユーザーを認証し、本機を使用できます。設定方法については、「8.6.3 外部認証情報の本体保存機能を設定する」（P.275）を参照してください。

ICカード認証

オプションのICカードリーダーを利用して認証を行います。
ICカードに登録されているカードIDを、本機または外部の認証サーバーにあらかじめ登録しておき、該当するICカードを使用することで、認証を行います。

注記

- 本機にICカードリーダーが接続されていると、スキャナー＆コピーは使用できません。

補足

- オプションの IC カードリーダーを接続する場合、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご相談ください。また、利用時の管理/取り扱いについては、ICカードリーダーの取扱説明書を参照してください。
- ICカード認証とUser ID認証は併用できます。
- ICカードリーダーで使用するカードには、あらかじめカードIDが登録されています。
- 外部認証の場合は、カードIDを本機に登録する必要はありません。

8.3 認証機能を使ったサービスの利用制限

認証機能を利用し、本機で利用が制限できる機能について説明します。
制限できる機能は、本機の利用形態によって異なります。

注記
- スキャナー＆コピーは利用制限できません。
  ［認証方式の設定］で［本体認証］または［外部認証］が設定されていると、メニュー画面に［スキャナー＆コピー］は表示されず、使用できません。

補足
- 認証機能利用時の親展ボックスの制限は、「8.4 親展ボックスの認証について」（P.260）を参照してください。

参照
- ［認証方式の設定］については、「認証方式の設定」（P.422）を参照してください。

［認証方式の設定］が［本体認証］のとき

対象サービス	認証 *3	ユーザーごとの利用制限 *2
	User ID	
コピー	○	○
プリント	○	○
スキャン	○	○

○：できる

*1　対象サービスを利用するために、認証が必要かどうかを示しています。「○」は、認証が必要な場合です。

*2　ユーザーごとに、利用できる機能を制限できます。詳細については、「ユーザー登録」（P.424）を参照してください。

［認証方式の設定］が［外部認証］のとき

対象サービス	認証 *1	ユーザーごとの利用制限 *2
	User ID	
コピー	○	○
プリント	×	○*3
スキャン	○	○

○：できる　×：できない

*1　対象サービスを利用するために、認証が必要かどうかを示しています。「○」は、認証が必要な場合です。

*2　認証システムとしてAuthentication Managementを利用している場合は、機能別に利用を制限できます。
Authentication Managementについては、ソフトウェアに付属のマニュアルを参照してください。

*3　外部認証の場合、プリントを制限することができません。プリントを制限する場合は、プライベートプリントを使用してください。

8.4　親展ボックスの認証について

認証機能を利用した場合の、親展ボックスの制限について説明します。

- 概要 P.260
- 認証機能を利用していない場合 P.261
- 認証機能を利用している場合 P.262

8.4.1　概要

本機で利用できる親展ボックスは、次の3種類です。

- 一般共有ボックス
  認証機能を利用していないときに、一般ユーザーが作成した親展ボックスです。
- 管理者共有ボックス
  機械管理者が作成した親展ボックスです。
  管理者共有ボックスを作成するには、操作パネルの〈認証〉ボタンを押して、機械管理者として本機を操作する必要があります。
- 個人ボックス
  認証機能を利用しているときに、認証ユーザーが作成した親展ボックスです。

認証機能を利用するかどうかで、次の表のとおり、作成または利用できる親展ボックスの種類が異なります。

親展ボックスの種類	認証機能を利用していない場合			認証機能を利用している場合		
	作成	編集・削除	利用 *1	作成	編集・削除	利用 *1
一般共有ボックス	○	○	○	×	△	△
管理者共有ボックス	△	△	○	△	△	○
個人ボックス	×	×	△	○	○	○

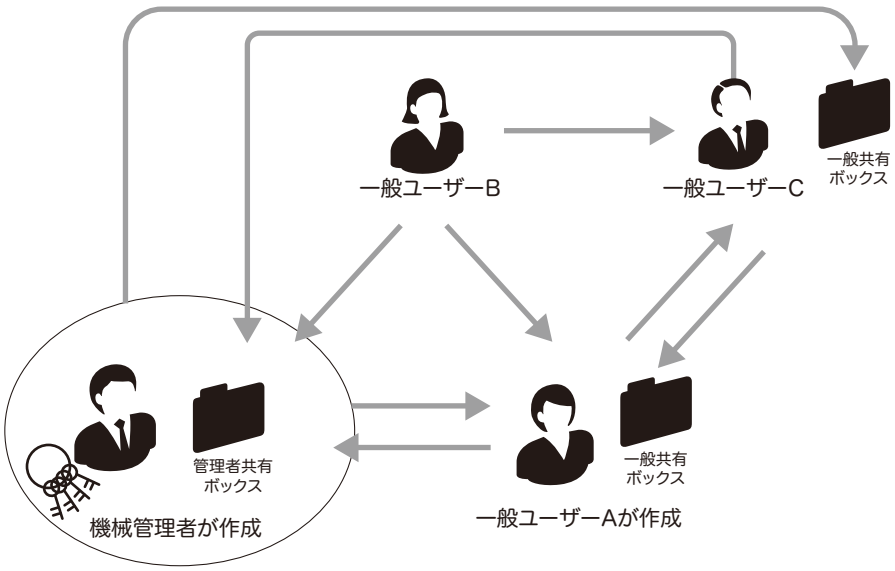
○：できる　×：できない　△：機械管理者ができる

*1　表示、文書表示、文書の削除、文書登録、文書出力

8.4.2　認証機能を利用していない場合

認証機能を利用していない場合、親展ボックスの扱いは次のようになります。

- 一般共有ボックス
  本機を利用するすべてのユーザーが、この親展ボックスを共有利用および設定変更できます。
- 管理者共有ボックス
  本機を利用するすべてのユーザーが、この親展ボックスを共有利用できます。
  設定変更できるのは、機械管理者だけです。
- 個人ボックス
  機械管理者だけが操作できます。



認証機能を利用していない場合の、利用ユーザーごとの親展ボックスとの関係は、次のとおりです。

親展ボックスの操作	一般ユーザー			機械管理者		
	一般共有ボックス	管理者共有ボックス	個人ボックス	一般共有ボックス	管理者共有ボックス	個人ボックス
作成･登録	○	×	×	×	○	×
表示	○	○	×	○	○	○
削除	○	×	×	○	○	○
設定変更	○	×	×	○	○	○
文書の表示	○	○	×	○	○	○
文書の削除	○	○	×	○	○	○
文書の登録	○	○	×	○	○	○
文書の取り出し	○	○	×	○	○	○

○：できる　×：できない

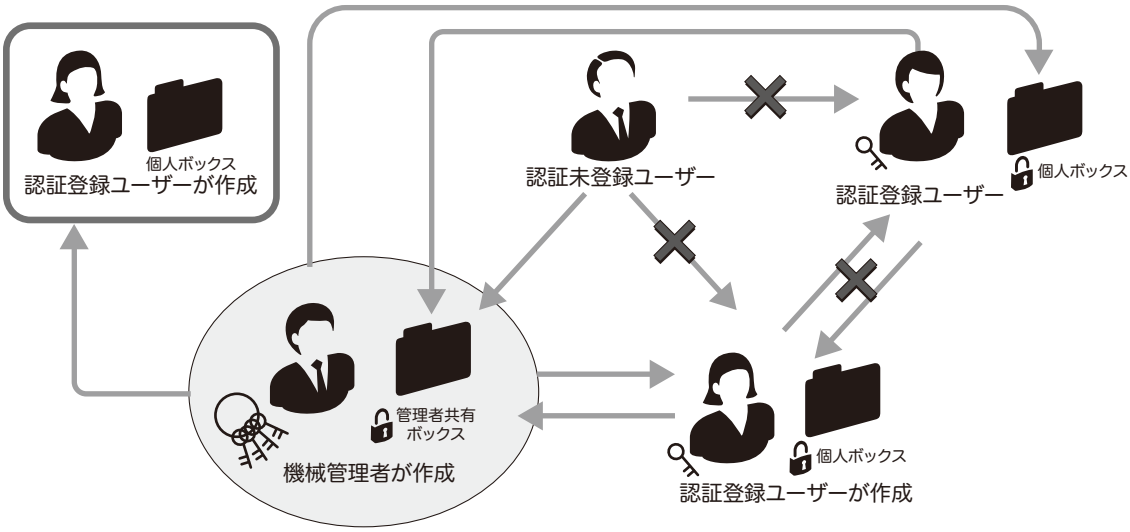
補足

- 認証機能を利用する設定から、認証機能を利用しない設定に変更した場合、一般ユーザーは認証ユーザーが作成した個人ボックスを利用できません。
  個人ボックスはすべて削除し、新しく一般共有ボックスを作成して利用してください。

8.4.3　認証機能を利用している場合

認証機能を利用している場合、親展ボックスの扱いは次のようになります。

- 一般共有ボックス
  機械管理者だけが操作できます。
- 管理者共有ボックス
  本機を利用するすべての認証ユーザーが、この親展ボックスを共有利用できます。
  設定変更できるのは、機械管理者だけです。
- 個人ボックス
  この親展ボックスを作成した認証ユーザーと機械管理者だけが利用できます。



認証機能を利用している場合の、利用ユーザーごとの親展ボックスとの関係は、次のとおりです。

親展ボックスの操作	認証未登録ユーザー（一般ユーザー）			認証ユーザー			機械管理者		
	一般共有ボックス	管理者共有ボックス	個人ボックス	一般共有ボックス	管理者共有ボックス	個人ボックス（作成者 / 非作成者）	一般共有ボックス	管理者共有ボックス	個人ボックス
作成･登録	×	×	×	×	×	○/×	×	○	×
表示	×	○	×	×	○	○/×	○	○	○
削除	×	×	×	×	×	○/×	○	○	○
設定変更	×	×	×	×	×	○/×	○	○	○
文書の表示	×	○	×	×	○	○/×	○	○	○
文書の削除	×	○	×	×	○	○/×	○	○	○
文書の登録	×	○	×	×	○	○/×	○	○	○
文書の取り出し	×	○	×	×	○	○/×	○	○	○

○：できる　×：できない

補足

- 認証機能を利用しない設定から、認証機能を利用する設定に変更した場合、認証未登録ユーザーと認証ユーザーは一般共有ボックスを利用できません。
  一般共有ボックスはすべて削除し、新しく個人ボックスを作成して利用してください。

8.5　本体認証で運用する

本機を本体認証で運用するための設定について説明します。
操作の流れと参照先は、次のとおりです。

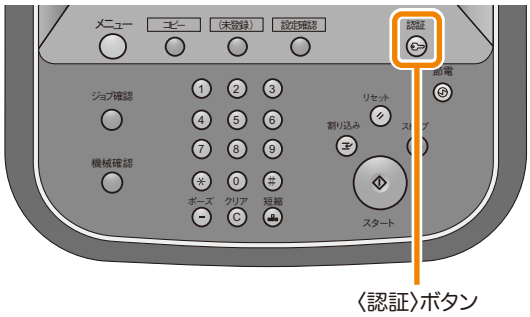
- 認証方式を「本体認証」に設定する.....P.263
- アクセス制限を設定する.....P.265
- ユーザーを登録する.....P.265
- ユーザーを一括登録する.....P.266

8.5.1　認証方式を「本体認証」に設定する

本機を本体認証で運用するには、認証方式を「本体認証」に設定します。

注記
- 外部認証から本体認証に変更する場合、本機に登録されたユーザー情報、および個人の親展ボックスが削除されます。

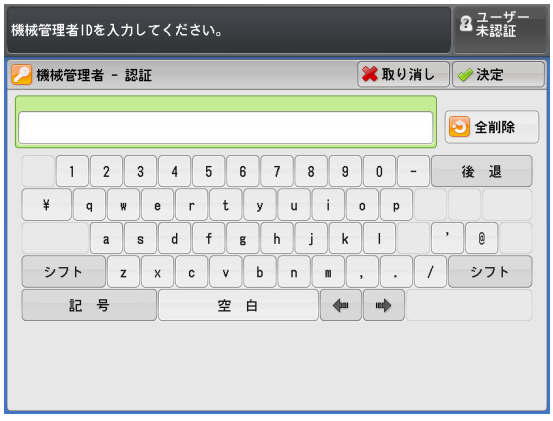
1. 〈認証〉ボタンを押します。



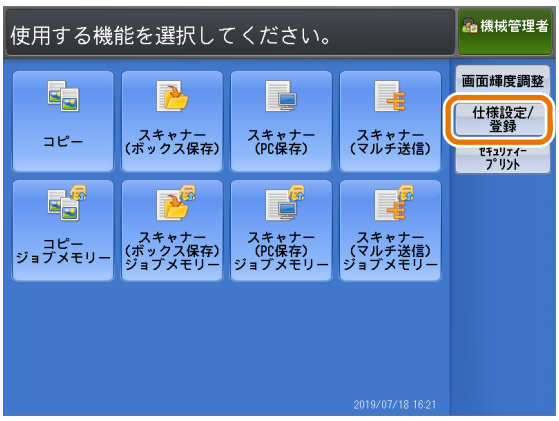
〈認証〉ボタン

2. 操作パネルの〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者のUser IDを入力し、[確定]を押します。

補足
- User IDの工場出荷時の値は、「　　」です。



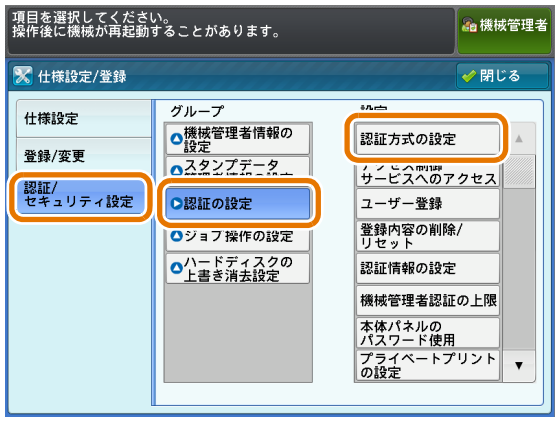
3. メニュー画面で［仕様設定/登録］を押します。



補足

- メニュー画面が表示されていないときは、操作パネルの〈メニュー〉ボタンを押して、表示させてください。

4. ［認証 / セキュリティ設定］>［認証の設定］>［認証方式の設定］を押します。



5. ［本体認証］を押します。

参照

- 詳細については、「認証方式の設定」(P.422)を参照してください。

6. ［決定］を押します。

8.5.2　アクセス制限を設定する

利用を制限する操作を設定します。

1. ［認証/セキュリティ設定］＞［認証の設定］＞［アクセス制御サービスへのアクセス］を押します。
2. 必要に応じて項目を設定し、［閉じる］を押します。

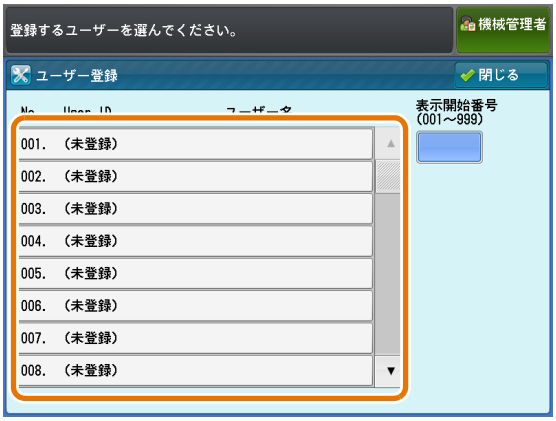
参照 • 詳細については、「アクセス制御サービスへのアクセス」（P.423）を参照してください。

8.5.3　ユーザーを登録する

ユーザーを登録します。
ユーザーデータは、999件まで登録できます。

1. ［認証/セキュリティ設定］＞［認証の設定］＞［ユーザー登録］を押します。
2. 登録するユーザー番号を選択します。

補足 • ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
• 任意のユーザー番号を先頭に表示させたい場合、［表示開始番号］にユーザー番号を入力してください。



3. 項目を選択して、設定します。

参照 • 詳細については、「ユーザー登録」（P.424）を参照してください。

4. 設定が終わったら、［閉じる］を押します。

8.5.4　ユーザーを一括登録する

CentreWare Internet Servicesを使って、本機に登録されている認証ユーザー情報をCSV（カンマ区切り）形式のファイルとして取り出します。取り出したCSVファイルを編集して認証ユーザーの追加/変更/削除を行い、CentreWare Internet Servicesを使って本機に一括で登録します。
設定の流れと参照先は、次のとおりです。

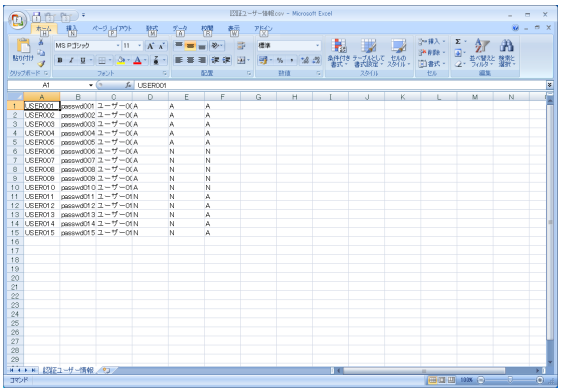
- CSVファイルの書式 P.266
- Step1 認証ユーザー情報を取り出す P.267
- Step2 認証ユーザー情報を編集する P.269
- Step3 認証ユーザー情報を登録する P.271

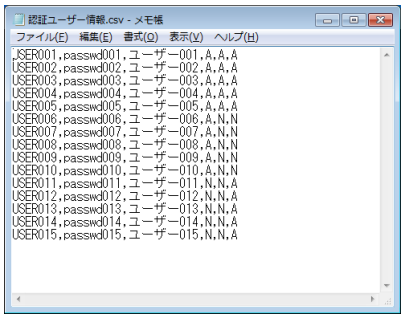
注記
- CSV ファイルによる認証ユーザーの一括登録を行うと、すでに本機に登録されている全認証ユーザー情報が削除されたあと、CSVファイルの認証ユーザー情報が登録されますので、ご注意ください。

CSVファイルの書式

CSVファイルの書式は、次のとおりです。

注記
- CSVファイルで使える区切り文字は「,（カンマ）」だけです。「Tab（タブ）」は使えません。





カラム	項目	説明
1	User ID	本機を利用するためのUser IDです。 ICカード認証時は、このUser IDと、ICカードリーダーから読み取ったカードIDとが照合されます。 半角で32文字まで入力できます。 **注記** • User IDには次の文字は使えません。 " + ; < > ? [ ] ' { | } ただし、「,（カンマ）」を使う場合は、カンマの前後を「"（ダブルクォーテーション）」で囲ってください。
2	パスワード	パスワードを設定します。 半角で4～12文字まで入力できます。
3	ユーザー名	User IDを設定します。 半角で32文字（全角で16文字）まで入力できます。
4	コピー利用制限	[制限しない]または[コピー禁止]を選択します。 制限しない：「A」または「a」を半角で入力します。 コピー禁止：「N」または「n」を半角で入力します。

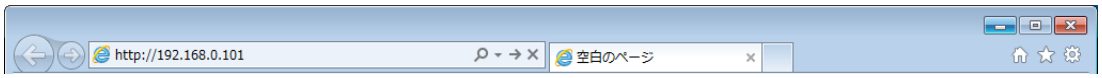
カラム	項目	説明
5	プリンター利用制限	［制限しない］または［プリンター禁止］を選択します。 制限しない：「A」または「a」を半角で入力します。 プリンター禁止：「N」または「n」を半角で入力します。
6	スキャナー利用制限	［制限しない］または［スキャナー禁止］を選択します。 制限しない：「A」または「a」を半角で入力します。 スキャナー禁止：「N」または「n」を半角で入力します。

Step1 認証ユーザー情報を取り出す

CentreWare Internet Servicesを使って、本機に登録されている認証ユーザー情報をCSVファイルとして取り出します。

補足
- 認証ユーザー情報のうち、パスワードは取り出すことができません。

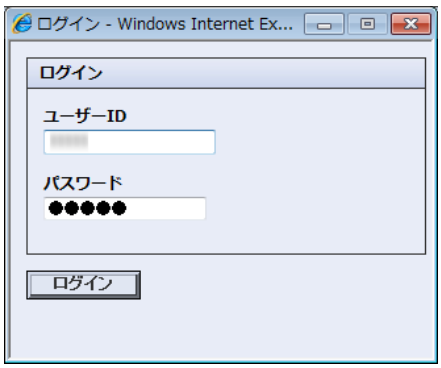
1. Webブラウザーを起動します。
2. Webブラウザーのアドレス入力欄に、本機のIPアドレス、またはインターネットアドレスを入力し、〈Enter〉キーを押します。
   - IPアドレスの入力例
     例）http://192.168.0.101



   - インターネットアドレスの入力例（本機のインターネットアドレスが、myhost.example.comの場合）
     例）http://myhost.example.com

3. ［ユーザーID］と［パスワード］を入力し、［ログイン］をクリックします。

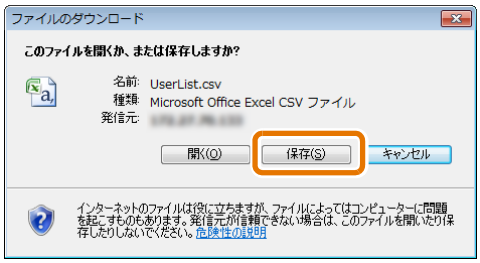
補足
- ユーザーIDの工場出荷時の値は「　　」、パスワードの工場出荷時の値は「　　」です。



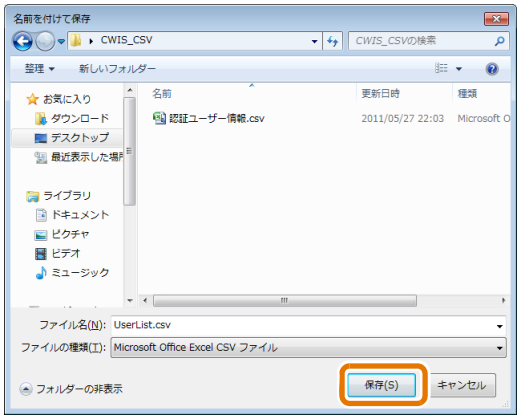
4. ［サポート］＞［各種設定の管理］＞［ユーザー一括管理］の順に選択します。

5. ［CSVフォーマットで取り出す］をクリックします。

6. ［保存］をクリックします。



7. 保存場所を選択したあと、ファイル名を入力し、［保存］をクリックします。

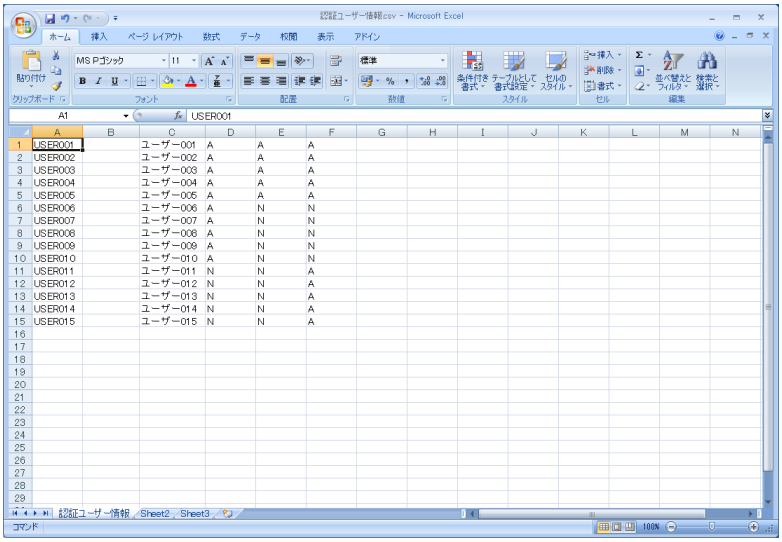


認証ユーザー情報のCSVファイルが保存されます。

Step2 認証ユーザー情報を編集する

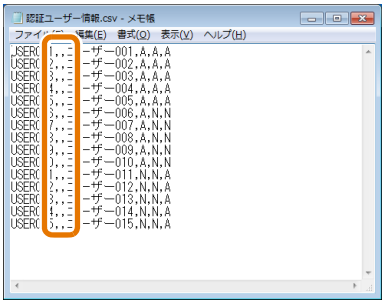
Microsoft® Excel®やテキストエディターを使って、本機から取り出した認証ユーザー情報のCSVファイルを編集し、認証ユーザーを追加/変更/削除します。

1. Microsoft Excelやテキストエディターを使って、取り出した認証ユーザー情報のCSVファイルを開きます。

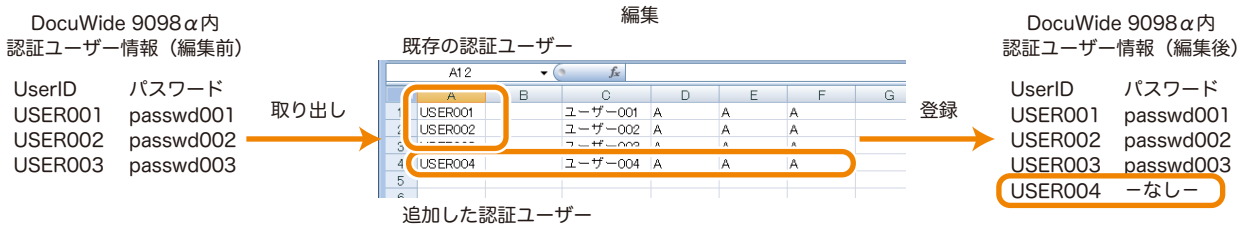


補足

- 認証ユーザー情報のうちパスワードは取り出すことができないので、Microsoft ExcelでCSVファイルを開くと第2カラム「パスワード」は空欄になります。(テキストエディターで開いた場合は、第2カラムには区切り文字の「,(カンマ)」が2つ連続します。)



- パスワードが空欄の認証ユーザーは、次のように登録されます。
  - 既存の認証ユーザー
    現在のパスワードがそのまま登録されます。(パスワードは変更されません)
  - 追加した認証ユーザー
    パスワードなしの認証ユーザーが登録されます。

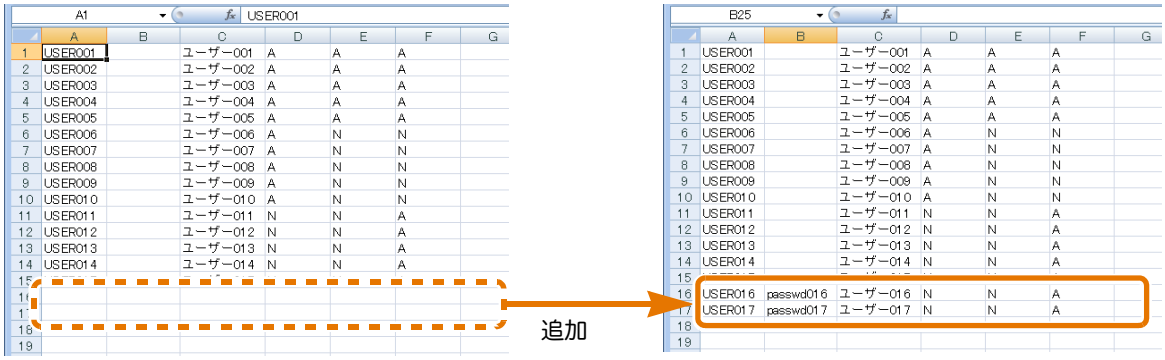


2. 認証ユーザー情報を編集します。

- 認証ユーザーの追加 P.270
- 認証ユーザーの変更 P.270
- 認証ユーザーの削除 P.270

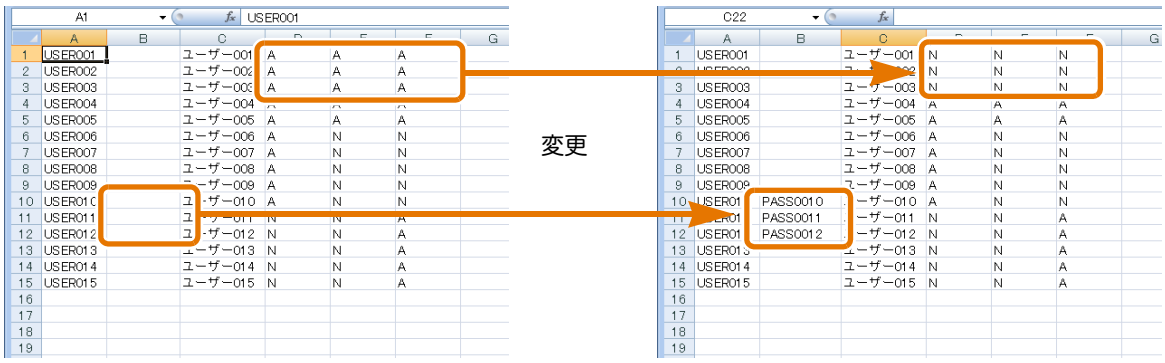
認証ユーザーの追加

(1) 登録済み認証ユーザー情報の下に、新しい認証ユーザー情報を追加します。



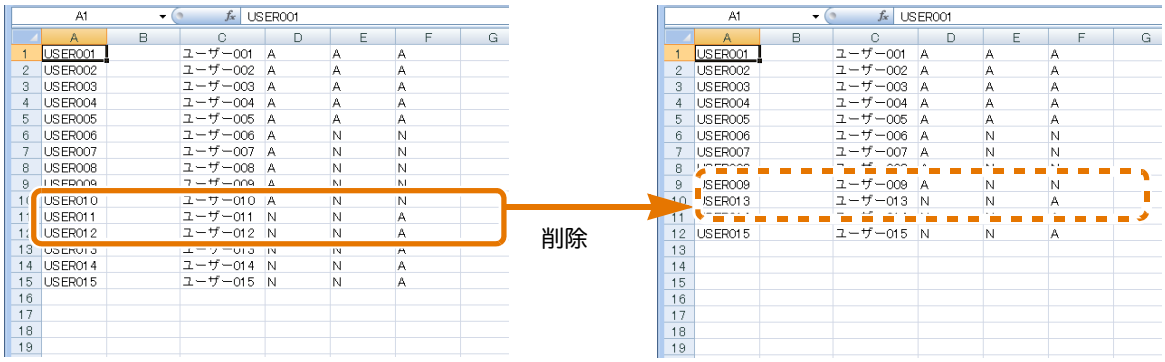
認証ユーザーの変更

(1) 変更箇所を修正して上書きします。



認証ユーザーの削除

(1) 削除する認証ユーザー情報の行を削除します。



3. 編集したCSVファイルを上書き保存します。

ユーザー登録用CSVファイルが保存されます。

Step3 認証ユーザー情報を登録する

CentreWare Internet Servicesを使って、認証ユーザー情報を編集したCSVファイルを本機に登録します。

注記
- 本機で作業していないときにCSVファイルの登録を行ってください。

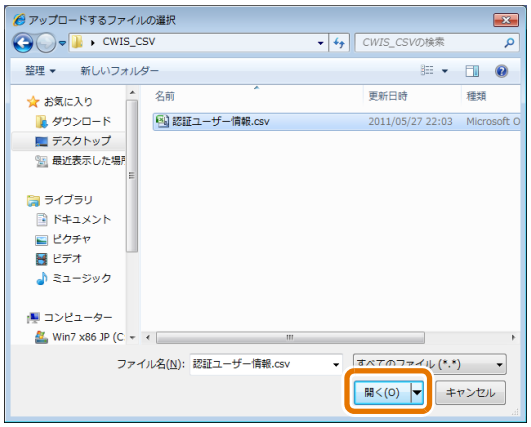
補足
- 認証ユーザー情報を登録したあと、本機を再起動する必要があります。

1. CentreWare Internet Servicesにログインします。

   参照
   - ログイン方法については、「Step1 認証ユーザー情報を取り出す」（P.267）の手順1.～3.を参照してください。

2. ［サポート］＞［各種設定の管理］＞［ユーザー一括管理］の順に選択します。
3. ［参照］をクリックします。

4. 認証ユーザー情報を編集したCSVファイルを選択し、［開く］をクリックします。



5. ［CSVフォーマットで登録する］をクリックします。

認証ユーザー登録が完了すると、「設定を更新しました。」のメッセージが表示されます。

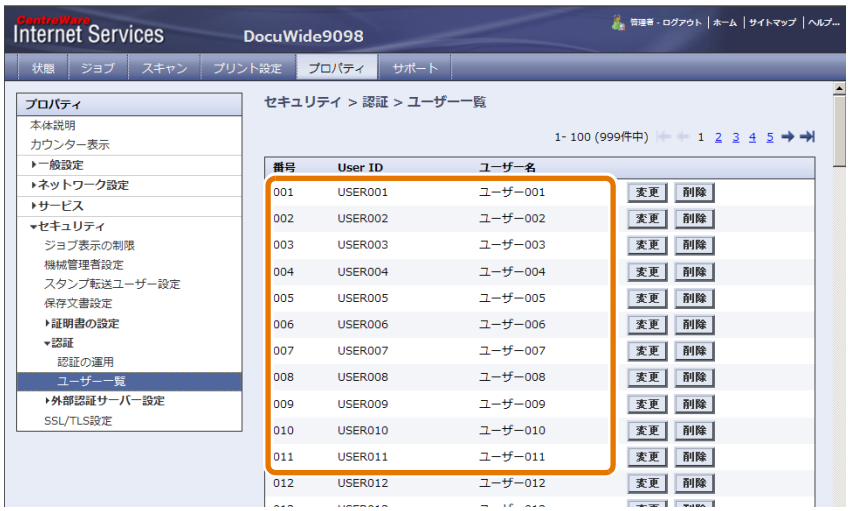
6. ［再起動］を押して、本機を再起動します。

7. 登録した認証ユーザー情報を確認するには、CentreWare Internet Servicesにログインし、［プロパティ］＞［セキュリティ］＞［認証］＞［ユーザー一覧］の順に選択します。

8. ユーザー一覧に、編集した認証ユーザー情報が表示されていることを確認します。

補足

- CentreWare Internet Servicesを使って、本機に登録した認証ユーザー情報を変更することができます。操作方法については、CentreWare Internet Servicesのヘルプを参照してください。



8.6 外部認証で運用する

本機を外部認証で運用するための設定について説明します。
操作の流れと参照先は、次のとおりです。

- 認証方式を「外部認証」に設定する.....P.273
- アクセス制限を設定する.....P.275
- 外部認証情報の本体保存機能を設定する.....P.275
- 認証サーバーを設定する.....P.276

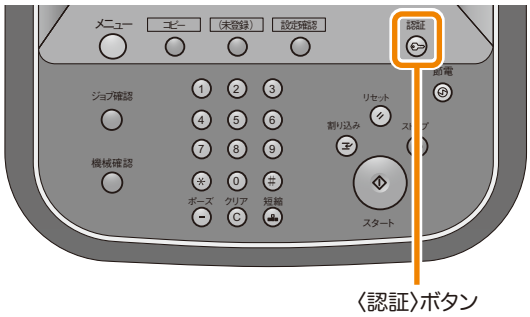
8.6.1 認証方式を「外部認証」に設定する

本機を外部認証で運用するには、認証方式を「外部認証」に設定します。

注記

- 本体認証から外部認証に変更する場合、本機に登録されたユーザー情報、および個人の親展ボックスは削除されます。

1. 〈認証〉ボタンを押します。



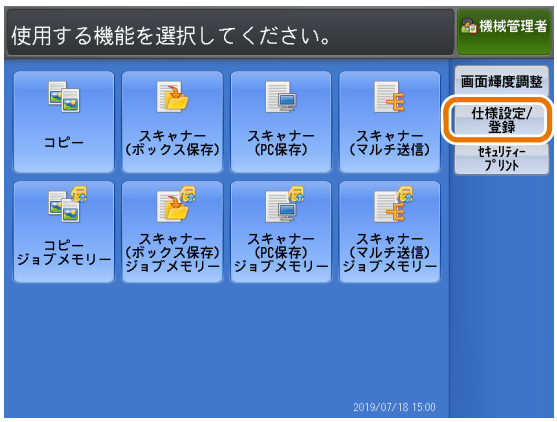
〈認証〉ボタン

2. 操作パネルの〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者のUser IDを入力し、[確定]を押します。

補足

- User IDの工場出荷時の値は、「　　」です。

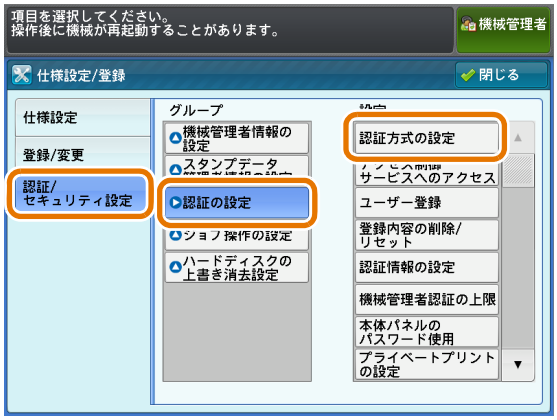
3. メニュー画面で［仕様設定/登録］を押します。



補足

- メニュー画面が表示されていないときは、操作パネルの〈メニュー〉ボタンを押して、表示させてください。

4. ［認証/セキュリティ設定］＞［認証の設定］＞［認証方式の設定］を押します。

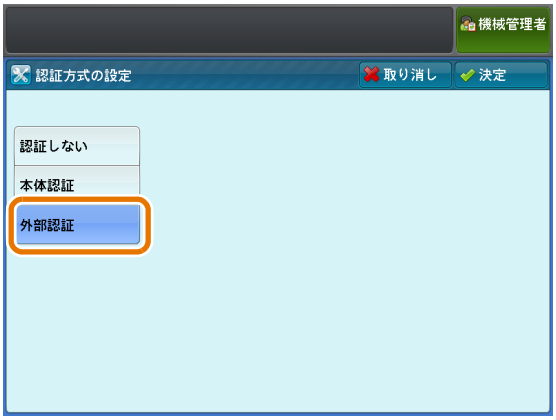


5. ［外部認証］を押します。

参照

- 詳細については、「認証方式の設定」(P.422)を参照してください。

6. ［決定］を押します。



8.6.2　アクセス制限を設定する

利用を制限する操作を設定します。

1. ［認証/セキュリティ設定］＞［認証の設定］＞［アクセス制御サービスへのアクセス］を押します。
2. 必要に応じて項目を設定し、［閉じる］を押します。

参照
- 詳細については、「アクセス制御サービスへのアクセス」（P.423）を参照してください。

8.6.3　外部認証情報の本体保存機能を設定する

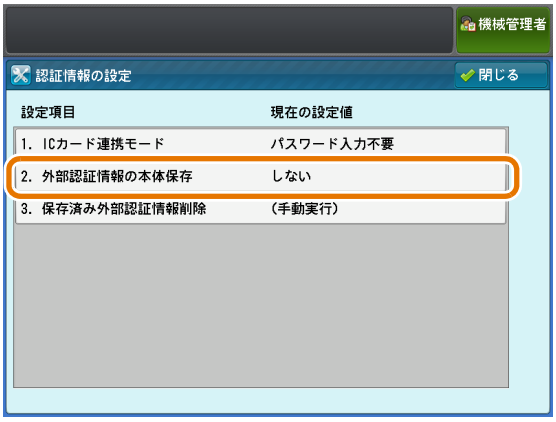
外部認証に使用したユーザー情報を本体に保存できます。

1. ［認証/セキュリティ設定］＞［認証の設定］＞［認証情報の設定］＞［外部認証情報の本体保存］を押します。
2. 外部認証情報の本体保存機能を無効にする場合は［しない］、有効にする場合は［する］を選択します。

補足
- 外部認証に使用したユーザー情報を本体に保存させたくない場合は、［しない］を選択してください。

参照
- 詳細については、「外部認証情報の本体保存」（P.426）を参照してください。

3. ［決定］を押します。



本体に保存されている外部認証情報を削除する

本体に保存されている外部認証のユーザー情報を削除できます。

1. ［認証 / セキュリティ設定］＞［認証の設定］＞［認証情報の設定］＞［保存済み外部認証情報削除］を押します。
2. ［手動実行］を選択します。

8.6.4　認証サーバーを設定する

CentreWare Internet Servicesを使って、認証サーバーを設定します。

補足
- 認証サーバーを設定したあと、本機を再起動する必要があります。

利用する認証サーバーによって、設定項目が異なります。
設定の参照先は、次のとおりです。

- Active Directoryの設定 P.276
- Authentication Managementの設定 P.280

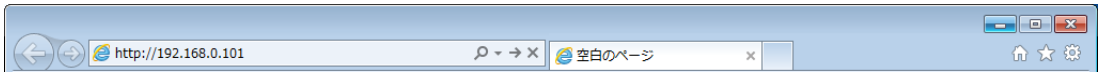
Active Directoryの設定

認証サーバー（Active Directory）の設定項目について説明します。

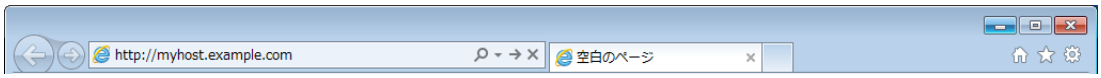
補足
- Active Directoryを認証サーバーとするときの認証方式は、LDAP認証を使用します。

参照
- CentreWare Internet Servicesの設定項目については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

1. Webブラウザーを起動します。
2. Webブラウザーのアドレス入力欄に、本機のIPアドレス、またはインターネットアドレスを入力し、〈Enter〉キーを押します。
   - IPアドレスの入力例
     例）http://192.168.0.101

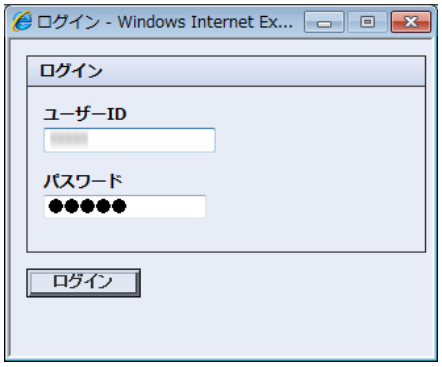


   - インターネットアドレスの入力例（本機のインターネットアドレスが、myhost.example.comの場合）
     例）http://myhost.example.com



3. ［ユーザー ID］と［パスワード］を入力し、［ログイン］をクリックします。

補足 • ユーザー ID の工場出荷時の値は「　　」、パスワードの工場出荷時の値は「　　」です。



4. 認証サーバーを設定します。

設定の参照先は、次のとおりです。

- 認証の運用 P.277
- 認証システム P.278
- LDAPサーバー /ディレクトリサービス設定 P.278
- LDAP認証 P.279
- フィルター設定 P.279
- SSL/TLS設定 P.280

認証の運用

(1) ［プロパティ］>［セキュリティ］>［認証］>［認証の運用］の順に選択します。

(2) ［認証方式の設定］で［外部認証］を設定します。

(3) 枠内のその他の各項目を設定します。

(4) ［適用］をクリックします。

認証システム

(1) ［プロパティ］>［セキュリティ］>［外部認証サーバー設定］>［認証システム］の順に選択します。

(2) ［認証システム設定］で［LDAP］を設定します。

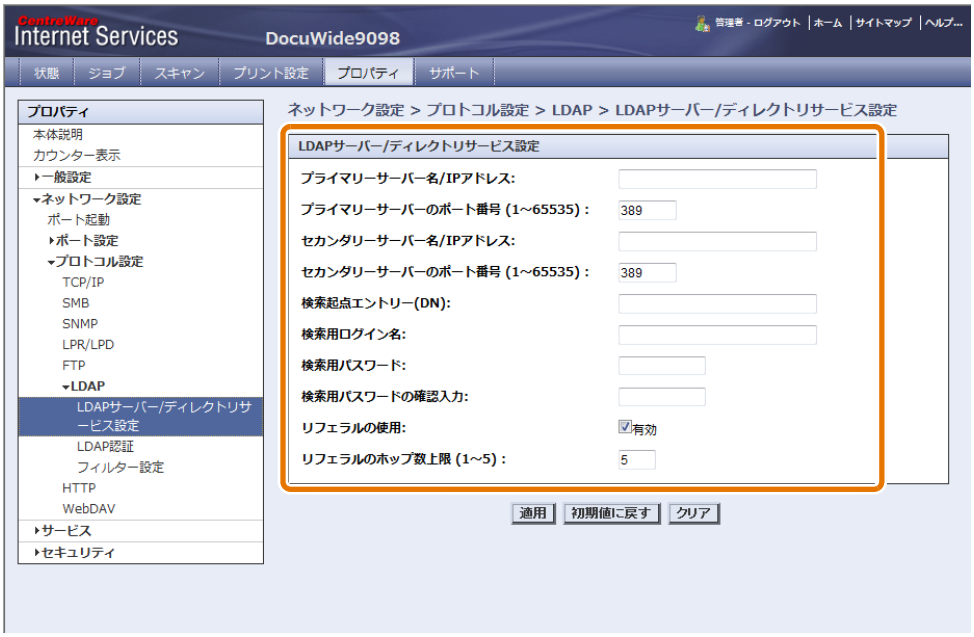
(3) 枠内のその他の各項目を設定します。

(4) ［適用］をクリックします。

LDAPサーバー /ディレクトリサービス設定

(1) ［プロパティ］>［ネットワーク設定］>［プロトコル設定］>［LDAP］>［LDAPサーバー / ディレクトリサービス設定］の順に選択します。

(2) 枠内の各項目を設定します。



(3) ［適用］をクリックします。

LDAP認証

(1) ［プロパティ］>［ネットワーク設定］>［プロトコル設定］>［LDAP］>［LDAP認証］の順に選択します。

(2) 各項目を設定します。

(3) ［適用］をクリックします。

フィルター設定

(1) ［プロパティ］>［ネットワーク設定］>［プロトコル設定］>［LDAP］>［フィルター設定］の順に選択します。

(2) ［ユーザー ID用クエリフィルター］を設定します。

(3) ［適用］をクリックします。

SSL/TLS設定

(1) ［プロパティ］＞［セキュリティ］＞［SSL/TLS設定］の順に選択します。

(2) ［LDAP-SSL/TLS通信］を設定します。

(3) ［適用］をクリックします。

5. 本機を再起動します。

Authentication Managementの設定

認証サーバー（Authentication Management）の設定項目について説明します。

本機での設定以外に、Authentication Managementでの設定も必要です。
設定の参照先は、次のとおりです。

- Authentication Management側の設定 P.280
- 本機側の設定 P.283

Authentication Management側の設定

Authentication Managementの設定の流れについて説明します。

参照

- 設定の詳細については、『ApeosWare Management Suite 管理者ガイド Identity Mnagement・共通設定・Device Management編』を参照してください。

1. ApeosWare Management Suiteにログインします。

2. ApeosWare Managementを設定します。

設定の流れと参照先は、次のとおりです。

- Step1 機器の情報を機器グループに設定する P.281
- Step2 ユーザーを追加する P.281
- Step3 サブユーザーを追加する P.281
- Step4 機器グループにユーザーを追加する P.282
- Step5 機器に情報を反映する P.282

Step1 機器の情報を機器グループに設定する

DocuWide 9098α を機器グループに追加します。

(1) メニューを、[管理サービス] > [機器/ユーザー] > [機器の一覧] の順に選択します。

(2) [機器グループ] ポートレットから、目的の機器グループをクリックします。

(3) [機器の追加] をクリックします。

(4) [IP アドレス/ホスト名を直接指定して追加する] を選択し、[次へ] をクリックします。

(5) [基本情報] タブで、[IP アドレス/ホスト名] に、DocuWide 9098α の IP アドレス、またはホスト名を入力します。

(6) [機器名] に、Device Management の内部で使用する機器の名前を入力します。
機器の名前（機器設定用）を入力する場合は、[機器から取得する] のチェックマークを外して入力します。

(7) 必要に応じて、そのほかの項目を設定します。

(8) [追加] をクリックします。

機器グループにDocuWide 9098α が追加されます。

Step2 ユーザーを追加する

外部認証するユーザーを追加します。

(1) メニューを、[管理サービス] > [Identity Management] > [ユーザー / グループの一覧] の順に選択します。

(2) [ユーザーグループ] ポートレットから、[local] をクリックします。

(3) [ユーザーの追加] をクリックします。

(4) [基本情報] タブで、[ユーザー ID]、[ユーザー名]、[カード ID]、[パスワード] および [パスワードの確認] を入力します。

(5) 必要に応じて、そのほかの項目を設定します。

(6) [OK] をクリックします。

ユーザーが追加されます。

Step3 サブユーザーを追加する

サブユーザー IDの運用を行う場合、ユーザーにサブユーザーを追加します。

補足
- ユーザーにサブユーザーを1件以上指定すると、そのユーザーがメインユーザーになります。

(1) メニューを、[管理サービス] > [Identity Management] > [ユーザー / グループの一覧] の順に選択します。

(2) [ユーザーグループ] ポートレットから、[local] をクリックします。

(3) サブユーザーを追加するユーザーのチェックボックスをオンにして、[編集] をクリックします。

(4) ［詳細情報］タブをクリックします。

(5) ［サブユーザーの指定］をクリックします。

(6) ［ユーザー一覧から追加］をクリックします。

(7) 必要に応じて、［検索対象］、［検索条件］、および［キーワード］を入力し、［検索］をクリックします。

(8) 追加するユーザーのチェックボックスをオンにして、［OK］をクリックします。

(9) 必要に応じて、そのほかの項目を設定します。

(10) ［ユーザーの編集］ページで、［OK］をクリックします。

ユーザーにサブユーザーが追加されます。

Step4 機器グループにユーザーを追加する

機器グループに外部認証するユーザーを追加します。

(1) メニューを、［管理サービス］＞［機器/ユーザー］＞［機器の一覧］の順に選択します。

(2) ［機器グループ］ポートレットから、DocuWide 9098α が含まれている機器グループをクリックします。

(3) ［ユーザー /利用権限］をクリックします。

(4) ［追加］をクリックします。

(5) 「Step2 ユーザーを追加する」（P.281）で追加したユーザーを検索します。
必要に応じて、［検索対象］、［検索条件］、および［キーワード］を入力し、［検索］をクリックします。

(6) 見つかったユーザーのチェックボックスをオンにして、［次へ］をクリックします。

(7) ［ユーザー /グループの追加（利用権限の設定）］ページで、必要に応じて、項目を設定します。

(8) ［完了］をクリックします。

機器グループにユーザーが追加されます。

Step5 機器に情報を反映する

設定した情報をDocuWide 9098α に反映します。

(1) メニューを、［管理サービス］＞［機器/ユーザー］＞［機器の一覧］の順に選択します。

(2) ［機器グループ］ポートレットから、DocuWide 9098α が含まれている機器グループをクリックします。

(3) DocuWide 9098α が含まれている機器グループのチェックボックスをオンにして、［機器に反映］をクリックします。

(4) 設定情報を反映する方法を選択し、［次へ］をクリックします。

(5) ［機器に反映］をクリックします。

DocuWide 9098α への情報の反映が開始されます。

本機側の設定

参照 • CentreWare Internet Servicesの設定項目については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

1. CentreWare Internet Servicesにログインします。

参照 • ログイン方法については、「Active Directoryの設定」(P.276)の手順**1.**～**3.**を参照してください。

2. 認証サーバーを設定します。

設定の参照先は、次のとおりです。

●認証の運用 P.283

●認証システム P.284

認証の運用

(1) ［プロパティ］>［セキュリティ］>［認証］>［認証の運用］の順に選択します。

(2) ［外部認証情報の本体保存］を設定します。

(3) ［適用］をクリックします。

認証システム

(1) [プロパティ]＞[セキュリティ]＞[外部認証サーバー設定]＞[認証システム]の順に選択します。

(2) 枠内の各項目を設定します。

(3) [適用]をクリックします。

3. 本機を再起動します。

第9章　紙折り（フォルダー）

紙折り機能について説明します。

補足　• フォルダーはオプションです。

9.1　紙折りでできること 286
9.2　紙折りの調整 289
9.3　第一折り/第二折りの調整 294
9.4　後端ずれ調整 296
9.5　全体折り調整 297
9.6　片側全体折り調整 298

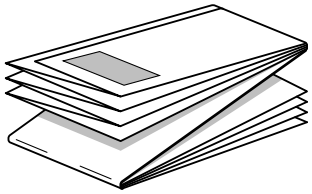
9.1　紙折りでできること

紙折りには、ファン折りとクロス折りがあります。
紙折りの回数は、用紙サイズと用紙方向で異なります。

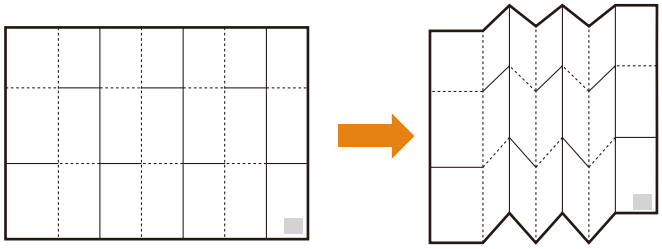
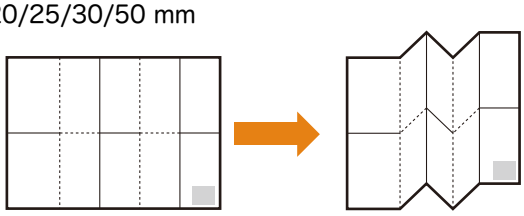
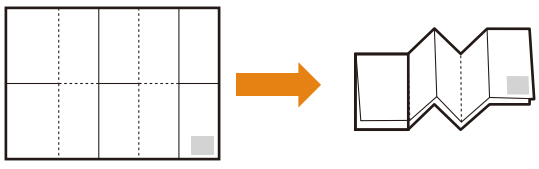
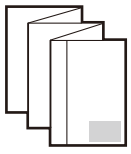
参照　• 紙折りできる用紙については、「1.16.2 紙折りできる用紙」（P.68）を参照してください。

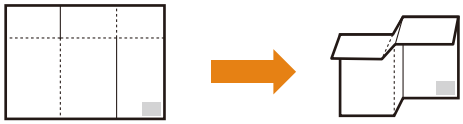
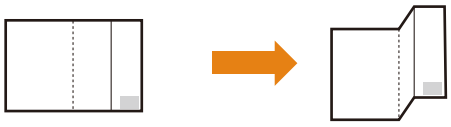
9.1.1　ファン折りとは

ファン折りでは、折り幅がA4サイズ（用紙方向がたてのとき：210 mm、用紙方向がよこのとき：297 mm）に仕上がるように紙折りされます。
ファン折りを指示すると、用紙サイズと用紙の方向によって紙折りの長さや回数が算出され、次の表のように仕上がります。



補足　• ファン折りにはとじしろを付けることができます。とじしろを付けた場合は、2 回め以降の折りの長さが自動的に調整されます。とじしろの設定は、管理設定で行います。詳細については、「11.4.6 紙折りの設定」（P.395）を参照してください。

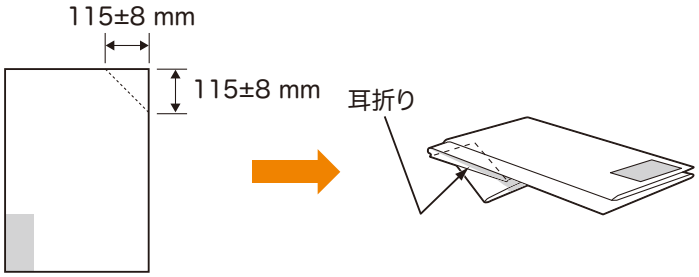
用紙サイズ	用紙方向	紙折りのしかた	完成形
A0	たて	とじしろ寸法 0/20/25/30/50 mm 	
A1	たて	とじしろ寸法 0/20/25/30/50 mm 	
	よこ	とじしろ寸法 0/20/25/30/50 mm 	

用紙サイズ	用紙方向	紙折りのしかた	完成形
A2	たて	とじしろ寸法 0/18 mm 	
	よこ （7090タイプ）	とじしろ寸法 0/18 mm 	
	よこ （3090タイプ）	とじしろ寸法 0/18 mm 	
A3	たて よこ	とじしろ寸法 0/105 mm（固定） 	

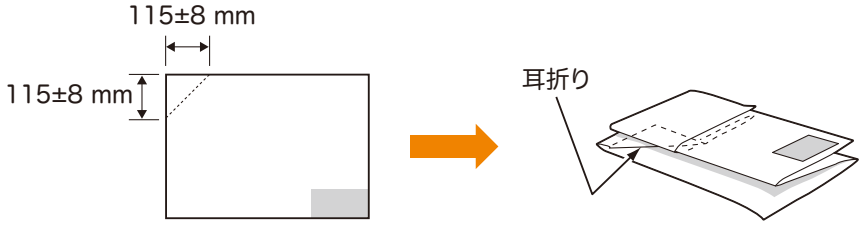
耳折り

A2たて/A2よこ（7090タイプ）のファン折りだけが耳折りを選択できます。
耳折りの形状、寸法は、次のとおりです。

- A2たての場合

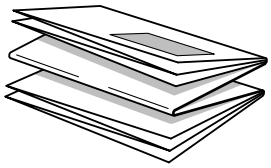


- A2よこの場合

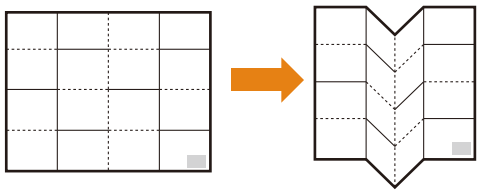
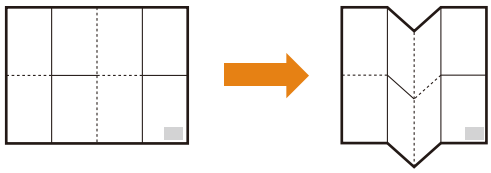
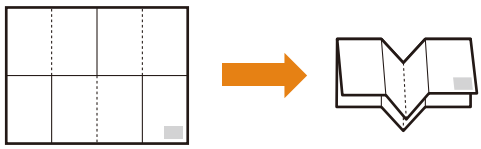
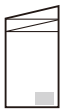
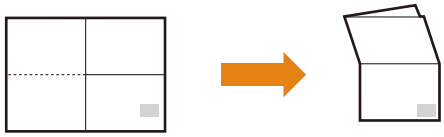
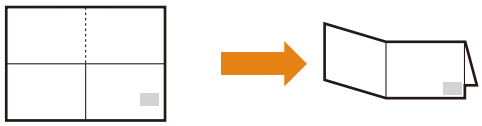


9.1.2　クロス折りとは

クロス折りでは、すべての片がA4サイズ（210 mmまたは297 mm）に仕上がるように紙折りされます。
クロス折りを指示すると、用紙サイズと用紙の方向によって紙折りの長さや回数が算出され、次の表のように仕上がります。



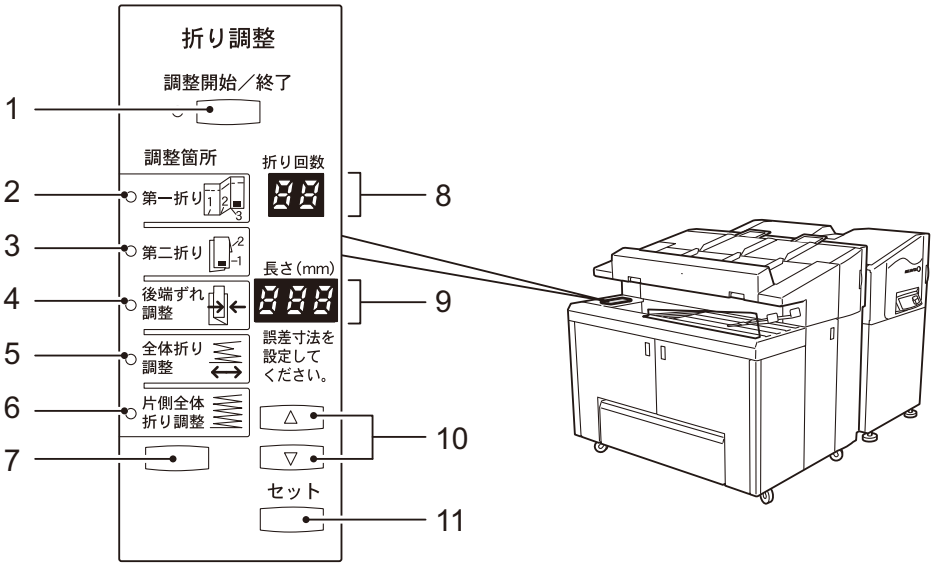
補足　• クロス折りにとじしろを付けることはできません。

用紙サイズ	用紙方向	紙折りのしかた	完成形
A0	たて		
A1	たて		
	よこ		
A2	たて		
	よこ		
A3	たて よこ		

9.2 紙折りの調整

9.2.1 フォルダー操作パネルの名称と働き

紙折りの調整は、フォルダー操作パネルで行います。



番号	名　　称	働　　き
1	〈調整開始/終了〉ボタン	紙折りの調整を始めるときに押します。調整が終ったら、再度押します。
2	［第一折り］ランプ	第一折りの調整中に点灯します。
3	［第二折り］ランプ	第二折りの調整中に点灯します。
4	［後端ずれ調整］ランプ	後端ずれ調整をしているときに点灯します。
5	［全体折り調整］ランプ	全体折り調整をしているときに点灯します。
6	［片側全体折り調整］ランプ	片側全体折り調整をしているときに点灯します。
7	〈調整箇所〉ボタン	〈調整箇所〉ボタンを押して、折り調整の箇所を選択します。
8	［折り回数］カウンター	何回めの折りであるかを表示します。折り回数は指定でません。 第一折りでは［01］～［29］を表示します。 （用紙のサイズと向きで異なります。） 第二折りでは［01］～［04］を表示します。 後端ずれ調整と全体折り調整では表示しません。 片側全体折り調整では「［」、「］」を表示します。
9	［長さ（mm）］カウンター	入力した調整値が表示されます。
10	〈△〉〈▽〉ボタン	折り位置の選択、および折り回数を設定します。
11	〈セット〉ボタン	調整値の登録が完了します。

9.2.2　紙折りの調整とは

折り幅は、原稿サイズ、紙送り方向、折り方によって自動的に決まります。
折り幅がずれているときには、調整値を設定し、折り幅を補正します。
調整できる折り幅は、次のとおりです。

調整項目	内　容
第一折り	折り幅を±30 mmの範囲（1 mm単位）で調整できます。
第二折り	折り幅を±30 mmの範囲（1 mm単位）で調整できます。
後端ずれ調整	ファン折りの場合に、後端ずれを±30 mmの範囲（1 mm単位）で調整できます。
全体折り調整	折り上がった全体の幅を、±30 mmの範囲（1 mm単位）で調整できます。
片側全体折り調整	折り上がった全体の幅を、折り回数が奇数回、偶数回ごとに、±30 mmの範囲（1 mm単位）で調整できます。

紙折りの調整をする場合は、事前に用紙を1枚折り、調整値を調べて調整シートに記入しておくと便利です。
折りの調整をするときは、折り調整シートをコピーして調整値を記入して使用してください。

- 折り調整シート（例）

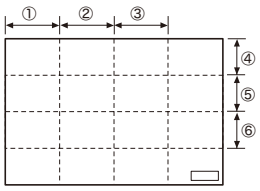
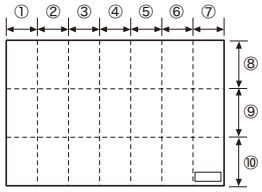
調整項目	［折り回数］*	調整値	調整できる範囲（1 mm 単位）
第一折り1回め	01	+　−	±30 mm
第一折り2回め	02	+　−	
第一折り3回め	03	+　−	
第一折り4回め	04	+　−	
第一折り5回め	05	+　−	
第一折り6回め	06	+　−	
第一折り7回め	07	+　−	
第一折り8回め	08	+　−	
・ ・ ・			
第一折り30回め	−	+　−	
第二折り1回め	01	+　−	
第二折り2回め	02	+　−	
第二折り3回め	03	+　−	
第二折り4回め	04	+　−	
後端ずれ調整	01	+　−	±30 mm
全体折り調整	01	+　−	±30 mm
片側全体折り調整（奇数回折り）	01	+　−	±30 mm
片側全体折り調整（偶数回折り）	01	+　−	±30 mm

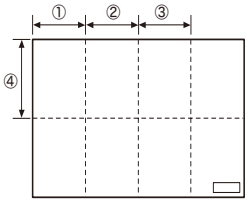
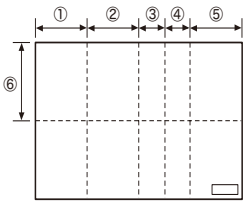
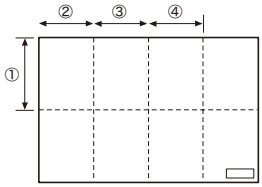
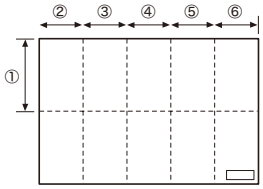
*　フォルダー操作パネルの［折り回数］カウンターに表示される値です。何回めの折りかを表示しています。

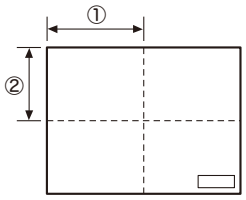
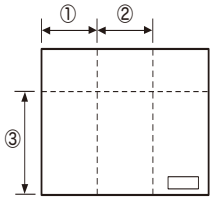
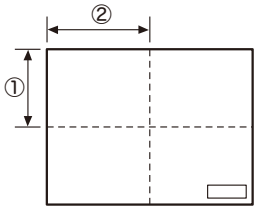
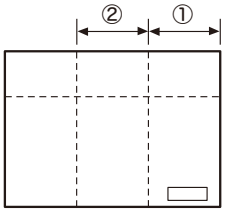
補足 • 折れた幅が短ければ、調整値は＋の数値になります。折れた幅が長ければ、－の数値になります。

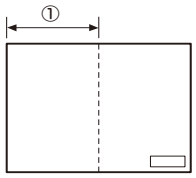
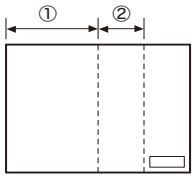
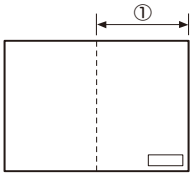
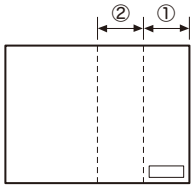
● サイズ別調整値の求め方

測定する箇所と調整値の求め方は、原稿サイズ、紙送り方向、折り方によって異なります。次の表を参照して、調整値を折り調整シートに記入してください。
調整値の求め方は、基準値から実際に折れた幅を引いた値になります。
基準値－実際に折れた幅＝調整値

サイズ	たて	
A0		
折り回数	クロス折り	ファン折り
第一折り 1回め	①の値 297 mm	①の値 210 mm
第一折り 2回め	②の値 297 mm	②の値 210 mm－とじしろ量
第一折り 3回め	③の値 297 mm	③の値 210 mm－とじしろ量
第一折り 4回め	－	④の値 210 mm－とじしろ量
第一折り 5回め*2	－	⑤の値 (1189 mm－①②③④⑦の基準値*1の和 －後端ずれ調整値)÷2
第一折り 6回め*2	－	⑥の値 (1189 mm－①②③④⑦の基準値*1の和 －後端ずれ調整値)÷2
第二折り 1回め	④の値 210 mm	⑧の値 297 mm
第二折り 2回め	⑤の値 210 mm	⑨の値 297 mm
第二折り 3回め	⑥の値 210 mm	－

サイズ	たて		よこ	
A1				
折り回数	クロス折り	ファン折り	クロス折り	ファン折り
第一折り 1回め	①の値 210 mm	①の値 210 mm	①の値 297 mm	①の値 297 mm
第一折り 2回め	②の値 210 mm	②の値 210 mm－とじしろ量	－	－
第一折り 3回め*3	③の値 210 mm	③の値 (841 mm－①②⑤の基準値*1の和－後端ずれ調整値)÷2	－	－
第一折り 4回め*3	－	④の値 (841 mm－①②⑤の基準値*1の和－後端ずれ調整値)÷2	－	－
第二折り 1回め	④の値 297 mm	⑥の値 297 mm	②の値 210 mm	②の値 210 mm
第二折り 2回め	－	－	③の値 210 mm	③の値 210 mm－とじしろ量
第二折り 3回め*4	－	－	④の値 210 mm	④の値 (841 mm－②③⑥の基準値*1の和－後端ずれ調整値)÷2
第二折り 4回め*4	－	－	－	⑤の値 (841 mm－②③⑥の基準値*1の和－後端ずれ調整値)÷2

サイズ	たて		よこ	
A2				
折り回数	クロス折り	ファン折り	クロス折り	ファン折り
第一折り 1回め	①の値 297 mm	①の値 210 mm	①の値 210 mm	–
第一折り 2回め	–	②の値 192 mm＋後端ずれ調整値÷2	–	–
第二折り 1回め	②の値 210 mm	③の値 297 mm	②の値 297 mm	①の値 210 mm
第二折り 2回め	–	–	–	②の値 192 mm

サイズ	たて		よこ	
A3				
折り回数	クロス折り	ファン折り	クロス折り	ファン折り
第一折り 1回め	①の値 210 mm	①の値 210 mm＋後端ずれ調整値÷2	–	–
第一折り 2回め	–	②の値 105 mm＋後端ずれ調整値÷2	–	–
第二折り 1回め	–	–	①の値 210 mm	①の値 210 mm
第二折り 2回め	–	–	–	②の値 105 mm

*1　（210 mm－とじしろ量）

*2　A0たてファン折りの第一折り5回め、6回めは、用紙の全長1189 mmから①、②、③、④、⑦の基準値（210 mmからとじしろ量を差し引いた値）の和と後端ずれの調整値を差し引いた残りの長さの1/2が基準値になります。

*3　A1たてファン折りの第一折り3回め、4回目は、用紙の全長841 mmから①、②、⑤の基準値（210 mmからとじしろ量を差し引いた値）の和と後端ずれの調整値を差し引いた残りの長さの1/2が基準値になります。

*4　A1よこファン折りの第二折り3回め、4回目は、用紙の全長841 mmから②、③、⑥の基準値（210 mmからとじしろ量を差し引いた値）の和と後端ずれの調整値を差し引いた残りの長さの1/2が基準値になります。

9.3　第一折り/第二折りの調整

記入した折り調整シートをもとに、調整値を設定します。

9.3.1　Step1 折り幅を設定する

1. 調整値を設定しないで紙折りをし、折り幅を測ります。
2. 調整値を折り調整シートに記入します。
3. フォルダー操作パネルの〈調整開始／終了〉ボタンを押します。

9.3.2　Step2 第一折りの調整値を設定する

1. 〈調整箇所〉ボタンを押して、第一折りを選択します。
   ［第一折り］のランプが点灯します。
   ［折り回数］カウンターに［01］が表示されます。
2. 〈セット〉ボタンを押します。
   ［長さ（mm）］カウンターが点滅します。
3. シートに記入した［第一折り１回め］の調整値を入力します。
   入力は〈△〉ボタンと〈▽〉ボタンを使います。
   〈△〉ボタンを押すと数値が大きくなります。
   〈▽〉ボタンを押すと数値が小さくなります。
4. 〈セット〉ボタンを押します。
   ［折り回数］カウンターの表示が点滅します。
5. 〈△〉ボタンを押し、［折り回数］カウンターを［02］にします。
6. 〈セット〉ボタンを押します。
   ［長さ（mm）］カウンターが点滅します。
7. 〈△〉ボタンと〈▽〉ボタンを使って、シートに記入した［第一折り２回め］の調整値を入力します。
8. 〈セット〉ボタンを押します。
   ［折り回数］カウンターの表示が点滅します。
9. 同様に、第一折りの回数だけ繰り返します。

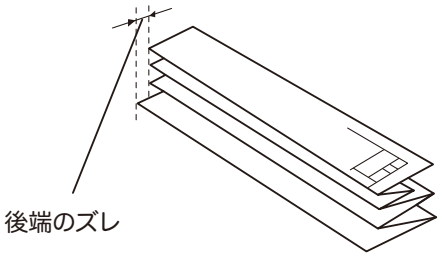
9.3.3　Step3 第二折りの調整値を設定する

1. 〈調整箇所〉ボタンを押して、第二折りを選択します。
   ［第二折り］ランプが点灯し、［折り回数］カウンターに［01］が表示されます。
2. 〈セット〉ボタンを押します。
   ［長さ（mm)］カウンターが点滅します。
3. 〈△〉ボタンと〈▽〉ボタンを使って、シートに記入した［第二折り１回め］の調整値を入力します。
4. 〈セット〉ボタンを押します。
   ［折り回数］カウンターの表示が点滅します。
5. 〈△〉ボタンを押し、［折り回数］カウンターを［02］にします。
6. 〈セット〉ボタンを押します。
   ［長さ（mm)］カウンターが点滅します。
7. 〈△〉ボタンと〈▽〉ボタンを使って、シートに記入した［第二折り２回め］の調整値を入力します。
8. 〈セット〉ボタンを押します。
   ［折り回数］カウンターの表示が点滅します。
9. 同様に、第二折りの回数だけ繰り返します
10. 〈調整開始／終了〉ボタンを押します。
    調整値が登録されます。

9.4 後端ずれ調整

後端ずれ調整とは、ファン折りのときに折り幅に関係なく、後端のずれを調整することです。調整範囲は±30 mmです。
紙折りの調整を正しく行ったときは、後端ずれ調整の必要はありません。

補足
- クロス折りは、後端ずれ調整ができません。



9.4.1 Step1 後端ずれを確認する

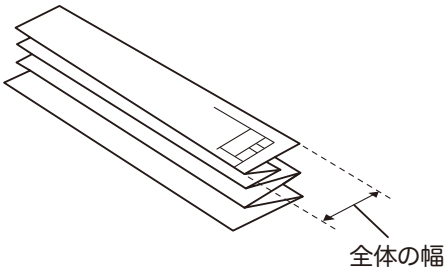
1. 調整値を設定しないで紙折りをし、用紙の後端のずれている寸法を測ります。
2. 調整値をシートの［後端ずれ調整］に記入します。

9.4.2 Step2 調整値を設定する

1. フォルダー操作パネルの〈調整開始／終了〉ボタンを押します。
2. 〈調整箇所〉ボタンを押して、後端ずれ調整を選択します。
   ［後端ずれ調整］ランプが点灯します。
3. 〈セット〉ボタンを押します。
   ［長さ（mm）］カウンターが点滅します。
4. 〈△〉ボタンと〈▽〉ボタンを使って、シートに記入した［後端ずれ調整］の調整値を入力します。
5. 〈セット〉ボタンを押します。
6. 〈調整開始／終了〉ボタンを押します。
   調整が完了します。

9.5　全体折り調整

各折りの全体の幅を±30 mmの範囲（1 mm単位）で調整できます。



9.5.1　Step1 折り幅を確認する

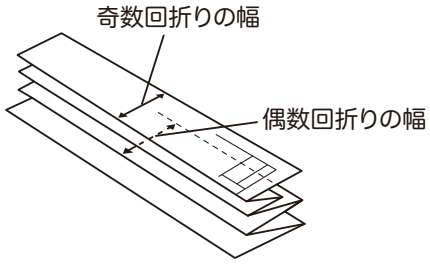
1. 調整値を設定しないで紙折りをし、用紙の全体の折り幅を測ります。
2. 全体の折り幅と210 mmまたは297 mmとの差を調整シートの［全体折り調整］に記入します。

9.5.2　Step2 調整値を設定する

1. フォルダー操作パネルの〈調整開始／終了〉ボタンを押します。
2. 〈調整箇所〉ボタンを押して、全体折り調整調整を選択します。
   ［全体折り調整］ランプが点灯します。
3. 〈セット〉ボタンを押します。
   ［長さ（mm）］カウンターが点滅します。
4. 〈△〉ボタンと〈▽〉ボタンを使って、シートに記入した［全体折り調整］の調整値を入力します。
5. 〈セット〉ボタンを押します。
6. 〈調整開始／終了〉ボタンを押します。
   調整が完了します。

9.6　片側全体折り調整

各折りの全体の幅を、奇数回折り、偶数回折りごとに±30 mmの範囲（1 mm単位）で調整できます。



9.6.1　Step1 折り幅を確認する

1. 調整値を設定しないで紙折りをし、用紙の奇数回折り、偶数回折りの幅をそれぞれを測ります。
2. 調整値を調整シートの［片側全体折り調整（奇数回折り）］、および［片側全体折り調整（偶数回折り）］に記入します。

9.6.2　Step2 調整値を設定する

1. フォルダー操作パネルの〈調整開始／終了〉ボタンを押します。
2. 〈調整箇所〉ボタンを押して、片側全体折り調整を選択します。
   ［片側全体折り調整］ランプが点灯します。
3. 〈セット〉ボタンを押します。
   ［長さ（mm）］カウンターが点滅し、［折り回数］カウンターに「 [」が表示されます。

   補足　• ［折り回数/向き］に、奇数折りの場合は「 [」が、偶数折りの場合は「] 」が表示されます。

4. 〈△〉ボタンと〈▽〉ボタンを使って、シートに記入した［片側全体折り調整（奇数回折り）］の調整値を入力します。
5. 〈セット〉ボタンを押します。
6. 〈△〉ボタンを押し、［折り回数］カウンターに「] 」を表示します。
7. 〈セット〉ボタンを押します。
8. 〈△〉ボタンと〈▽〉ボタンを使って、シートに記入した［片側全体折り調整（偶数回折り）］の調整値を入力します。
9. 〈セット〉ボタンを押します。

10. 〈調整開始／終了〉ボタンを押します。

調整が完了します。

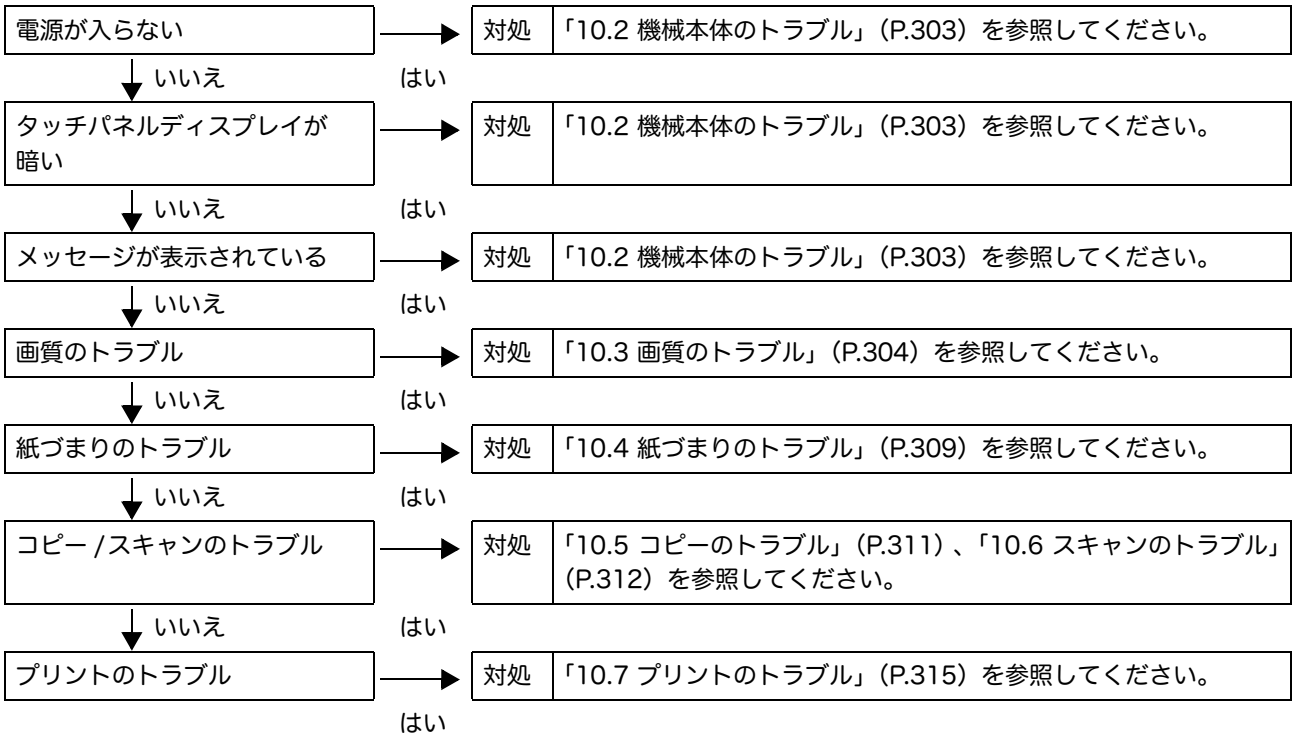
第10章 トラブル対処/こんなときには

本機にトラブルが発生した場合の対処方法について説明します。

10.1 トラブルと思ったら 302
10.2 機械本体のトラブル 303
10.3 画質のトラブル 304
10.4 紙づまりのトラブル 309
10.5 コピーのトラブル 311
10.6 スキャンのトラブル 312
10.7 プリントのトラブル 315
10.8 CentreWare Internet Servicesのトラブル 316
10.9 エラーメッセージ 317
10.10 用紙が詰まった場合 321
10.11 原稿が詰まった場合 353
10.12 こんなときには 355

10.1　トラブルと思ったら

ここでは、本機にトラブルが発生した場合の対処方法について説明します。
トラブルが発生した場合は、次の流れに従って、対処してください。



なお、上記のトラブル対処に従って対処しても正常に作動しないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
EPシステムを利用している場合に、機械の点検や修理が必要になったときに、機械から弊社のカストマーコンタクトセンターに連絡します。連絡を受けると、必要に応じて、カストマーエンジニアが訪問します。点検/修理の依頼は、機械管理者が操作してください。

参照

- 点検/修理の依頼の操作方法については、「11.11 点検/修理依頼」（P.433）を参照してください。EPシステムについては、EPシステムについてP.435を参照してください。

10.2　機械本体のトラブル

故障かなと思う前に、もう一度、本機の状態を確認してください。

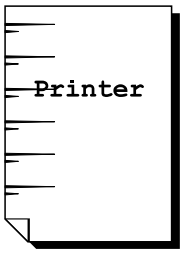
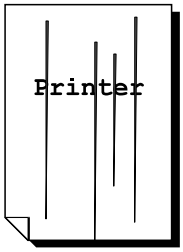
症　状	原　因	処　置
電源が入らない	プリンター、スキャナーの電源が切れていませんか？	プリンター、スキャナーの電源を入れてください。 参照 •「1.2 電源について」（P.25）を参照してください。
タッチパネルディスプレイが暗い	操作パネルの〈節電〉ボタンが点灯していませんか？	節電状態に入っています。操作パネルの〈節電〉ボタンを押して、節電状態を解除してください。 参照 •「1.3 節電機能について」（P.27）を参照してください。
メッセージが表示されている	紙づまりが発生していませんか？	参照 •「10.10 用紙が詰まった場合」（P.321）を参照してください。
	原稿づまりが発生していませんか？	参照 •「10.11 原稿が詰まった場合」（P.353）を参照してください。
	「お待ちください」と表示されていますか？	5 分待っても表示が消えない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

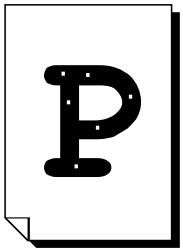
10.3　画質のトラブル

コピー/スキャン/プリント結果の画質が悪い場合は、次の表から最も近いと思われる症状を選び、処置してください。
該当する処置をしても画質が改善されない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

症　状	原　因	処　置
コピー/スキャン画像が汚れている	原稿の読み取り部が汚れていませんか？	原稿の読み取り部を清掃してください。 参照 •「1.10　本機を清掃する」(P.53) を参照してください。
	原稿がカラーペーパー、ザラ紙、青焼きなどではありませんか？	コピー濃度、原稿の画質、または下地の色を調整してコピーしてください。 参照 • コピーの場合は、「2.17.1　原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）」(P.115)、「2.17.2　コピー濃度（コピー濃度を調整する）」(P.116)、「2.17.4　地色除去（原稿の背景にある色を除去する）」(P.118) を参照してください。 • スキャンの場合は、「3.9.5　原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）」(P.164)、「3.12.1　読み込み濃度（スキャン濃度を調整する）」(P.178)、「3.12.3　地色除去（原稿の背景にある色を除去する）」(P.180) を参照してください。
コピー/スキャン画像に黒すじが入る	原稿の読み取り部が汚れていませんか？	原稿の読み取り部を清掃してください。 参照 •「1.10　本機を清掃する」(P.53) を参照してください。
コピー/スキャン画像が濃すぎる	コピー濃度/読み込み濃度が［こく］に設定されていませんか？	コピー濃度/読み込み濃度を調整してください。 参照 • コピーの場合は、「2.17.2　コピー濃度（コピー濃度を調整する）」(P.116) を参照してください。 • スキャンの場合は、「3.12.1　読み込み濃度（スキャン濃度を調整する）」(P.178) を参照してください。

症　状	原　因	処　置
コピー / スキャン画像 / プリントが薄すぎる	原稿の濃度が薄くありませんか？	コピー濃度 / 読み込み濃度を調整してください。 参照 • コピーの場合は、「2.17.2 コピー濃度（コピー濃度を調整する）」（P.116）を参照してください。 • スキャンの場合は、「3.12.1 読み込み濃度（スキャン濃度を調整する）」（P.178）を参照してください。
	コピー濃度 / 読み込み濃度が［うすく］に設定されていませんか？	
	原稿の画質設定は適切ですか？	原稿の画質を設定し直してください。 参照 • コピーの場合は、「2.17.1 原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）」（P.115）を参照してください。 • スキャンの場合は、「3.9.5 原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）」（P.164）を参照してください。
	トナー補給のメッセージが表示されていませんか？	トナーを補給してください。 参照 • 「1.9 消耗品を交換する」（P.46）を参照してください。
	トナー濃度が適切ですか？	トナー濃度を調整してください。 参照 • 「1.14 トナー増量ボタンについて」（P.65）を参照してください。
コピー / スキャン画像 / プリントがずれたり、曲がって写る	原稿がずれていませんか？	原稿を正しくセットしてください。 参照 • コピーの場合は、「2.1.3 Step3 コピーを開始する」（P.76）を参照してください。 • スキャンの場合は、「3.1.2 Step2 スキャンを開始する」（P.147）を参照してください。
	原稿ガイドがずれていませんか？	原稿ガイドを正しくセットしてください。 参照 • コピーの場合は、「2.1.3 Step3 コピーを開始する」（P.76）を参照してください。 • スキャンの場合は、「3.1.2 Step2 スキャンを開始する」（P.147）を参照してください。
	用紙が用紙トレイに正しくセットされていますか？	用紙を正しくセットしてください。 参照 • 「1.7.2 カット紙を補給 / 交換する」（P.40）を参照してください。
	用紙トレイが確実にセットされていますか？	用紙トレイを確実に奥まで押し込んで、正しくセットしてください。 参照 • 「1.7.2 カット紙を補給 / 交換する」（P.40）を参照してください。
	ロールがロール紙トレイに正しくセットされていますか？	シャフトの用紙サイズ表示の位置を確認してセットしてください。 参照 • 「1.7.1 ロール紙を交換 / カットする」（P.37）を参照してください。

症　状	原　因	処　置
コピー / プリントが部分的に写らない (かすれる、不鮮明) 	用紙が湿気を含んでいませんか？	用紙が湿気を含んでいると、コピーが部分的に写らなかったり、不鮮明になります。未開封の用紙と交換してください。 参照 •「1.7 用紙を補給/交換する」(P.37) を参照してください。
		ペーパーヒーターと用紙加湿器をご確認ください。 参照 •「1.17 ペーパーヒーターと用紙加湿器について」(P.70) を参照してください。
	折りめやしわが入った用紙がトレイに入っていませんか？	不良用紙を取り除くか、未開封の用紙と交換してください。 参照 •「1.7 用紙を補給/交換する」(P.37) を参照してください。
	本機の印字可能領域を超えていませんか？	ドキュメントの印字可能領域を小さくしてください。 参照 •「12.1 主な仕様」(P.438) の「画像欠け幅」を参照してください。
等間隔に汚れが起きる 	用紙搬送路に汚れが付着していませんか？	数枚コピーしてください。
	本機内部が汚れていませんか？	弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
黒点がコピー / プリントされる 	本機内部が汚れていませんか？	弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
黒線がコピー / プリントされる 	原稿の読み取り部が汚れていませんか？	原稿の読み取り部を清掃してください。 参照 •「1.10 本機を清掃する」(P.53) を参照してください。
	原稿の走行面が汚れていませんか？	原稿の走行面をふいてください。 参照 •「1.10 本機を清掃する」(P.53) を参照してください。
	本機内部が汚れていませんか？	弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

症　状	原　因	処　置
黒くぬりつぶされた部分に白点が現れる 	適切な用紙を使用していますか？	適切な用紙をセットしてください。 参照 •「1.16　用紙について」(P.67) を参照してください。
	本機内部が汚れていませんか？	弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
指でこするとかすれる トナーが定着しない 用紙がトナーで汚れる 	用紙が湿気を含んでいませんか？	新しい用紙と交換してください。 参照 •「1.7 用紙を補給/交換する」(P.37) を参照してください。
		ペーパーヒーターと用紙加湿器をご確認ください。 参照 •「1.17 ペーパーヒーターと用紙加湿器について」(P.70) を参照してください。
	適切な用紙を使用していますか？	適切な用紙をセットしてください。 参照 •「1.16　用紙について」(P.67) を参照してください。
	用紙の設定は適切ですか？	適切な用紙を設定してください。 参照 •「1.7 用紙を補給/交換する」(P.37) を参照してください。
用紙全体が黒くコピー/プリントされる	高圧電源の故障が考えられます。	弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
何もコピー/プリントされない	コピーの場合は、原稿をセットする面が逆になっていませんか？	コピーする面を下に向けて、原稿をセットしてください。
	高圧電源の故障が考えられます。	弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

症　状	原　因	処　置
コピー / スキャン画像が欠ける	原稿がずれていませんか？	原稿を正しくセットしてください。 参照 • コピーの場合は、「2.1.3 Step3 コピーを開始する」（P.76）を参照してください。 • スキャンの場合は、「3.1.2 Step2 スキャンを開始する」（P.147）を参照してください。
	用紙が用紙トレイに正しくセットされていますか？	用紙を正しくセットしてください。 参照 • 「1.7 用紙を補給/交換する」(P.37) を参照してください。
	倍率選択、用紙選択、コピー位置、わく消し、読み取り開始位置調整などのコピー機能の設定は正しいですか？	正しく設定し直してください。 参照 • 「2.16.2 倍率選択（拡大 / 縮小してコピーする）」（P.108）、「2.19 コピー - [出力形式] 画面」（P.130）を参照してください。
	倍率選択、読み取りサイズ、わく消し、読み取り開始位置調整などのスキャン機能の設定は正しいですか？	正しく設定し直してください。 参照 • 「3.13.1 読み取り倍率（原稿を読み取る倍率を指定してスキャンする）」（P.185）、「3.13 スキャナー - [読み取り方法] 画面」（P.184）を参照してください。
コピー / スキャン画像に影が出る	原稿が貼り合わせ原稿や折り込みの原稿ではありませんか？ 透過度の高い原稿ではありませんか？	コピー濃度 / 読み込み濃度および原稿の画質で調整してください。 参照 • コピーの場合は、「2.17.2 コピー濃度（コピー濃度を調整する）」（P.116）、「2.17.1 原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）」（P.115）を参照してください。 • スキャンの場合は、「3.12.1 読み込み濃度（スキャン濃度を調整する）」（P.178）、「3.9.5 原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）」（P.164）を参照してください。
用紙の端にあるイメージが欠ける	本機の印字可能領域を超えていませんか？	ドキュメントの印字可能領域を小さくしてください。 参照 • 「12.1 主な仕様」（P.438）の「画像欠け幅」を参照してください。
スキャナーで取り込んだ画像イメージが粗い	解像度の設定が低くありませんか？	解像度を高く設定してください。 参照 • 「3.9.3 読み取り解像度（読み取る解像度を指定してスキャンする）」（P.163）を参照してください。
	カラーモードの設定は正しいですか？	適切なカラーモードを設定してください。 参照 • 「3.9.2 カラーモード（スキャンの色を選択する）」（P.162）を参照してください。

10.4　紙づまりのトラブル

ここでは、紙づまりの原因と対処方法について説明します。
詰まった原稿を取り除く方法については、「10.11 原稿が詰まった場合」(P.353)、詰まった用紙を取り除く方法については、「10.10 用紙が詰まった場合」(P.321) を参照してください。

症　状	原　因	処　置
原稿がたびたびつまる	適切な原稿を使用していますか？	適切な原稿を正しくセットしてください。 参照 • コピーの場合は、「2.1.3 Step3 コピーを開始する」(P.76) を参照してください。 • スキャンの場合は、「3.1.2 Step2 スキャンを開始する」(P.147) を参照してください。
	原稿が小さくありませんか？	セットできる原稿の最小サイズは幅176 mm、長さ210 mmです。 参照 • 「1.15.1 使用できる原稿」(P.66) を参照してください。

症　状	原　因	処　置
紙づまり、紙しわがたびたび発生する	適切な用紙を使用していますか？	適切な用紙を正しくセットしてください。 参照 •「1.16　用紙について」(P.67) を参照してください。
	用紙が用紙トレイに正しくセットされていますか？	用紙を正しくセットしてください。 参照 •「1.7.2 カット紙を補給/交換する」(P.40) を参照してください。
	用紙トレイが確実にセットされていますか？	用紙トレイを確実に奥まで押し込んで正しくセットしてください。 参照 •「1.7.2 カット紙を補給/交換する」(P.40) を参照してください。
	用紙が湿気を含んでいませんか？	未開封の用紙と交換してください。 参照 •「1.7 用紙を補給/交換する」(P.37) を参照してください。
		ペーパーヒーターと用紙加湿器をご確認ください。 参照 •「1.17 ペーパーヒーターと用紙加湿器について」(P.70) を参照してください。
	セットしている用紙と用紙設定の設定内容は正しいですか？	セットしている用紙に合わせて、正しく用紙のサイズ系列と用紙種類/厚さを設定してください。 参照 •「1.7 用紙を補給/交換する」(P.37) を参照してください。
	機械の内部に詰まった用紙や紙片が残っていたり、異物が入っていませんか？	機械を開けるか、用紙トレイを引き出して、紙片や異物を取り除いてください。 参照 •「10.10 用紙が詰まった場合」(P.321)、「1.7 用紙を補給/交換する」(P.37) を参照してください。

10.5　コピーのトラブル

コピー機能利用時のトラブル対処方法について説明します。

症　状	原　因	処　置
原稿が送り込まれない	原稿が小さくありませんか？	セットできる原稿の最小サイズは幅176 mm、長さ210 mmです。 参照 •「1.15.1 使用できる原稿」(P.66) を参照してください。
	原稿厚調整レバーの設定は正しいですか？	原稿の厚さに合ったレバーの位置に設定してください。 参照 •「厚紙の原稿を読み込む場合」(P.76) を参照してください。
手差しテーブルにセットした用紙にずれてコピーされる	手差しテーブルにセットする用紙の位置がずれていませんか？	用紙を正しい位置にセットしてください。 参照 •「1.7.3 手差しで給紙する」(P.41) を参照してください。
コピーした原稿の端が折れる	原稿がカールしていませんか？	原稿のカールを直してから、セットしてください。
希望のサイズにコピーされない	原稿サイズ系列の設定は正しいですか？	原稿サイズに合った原稿サイズ系列に設定してください。 参照 •「原稿サイズ検知切り替え」(P.384) を参照してください。
	用紙サイズ系列の設定は正しいですか？	用紙サイズに合った用紙サイズ系列に設定してください。 参照 •「1.7 用紙を補給/交換する」(P.37) を参照してください。
	原稿がずれていませんか？	原稿を正しくセットしてください。 参照 •「2.1.3 Step3 コピーを開始する」(P.76) を参照してください。
	原稿ガイドがずれていませんか？	原稿ガイドを正しくセットしてください。 参照 •「2.1.3 Step3 コピーを開始する」(P.76) を参照してください。
	原稿が折れ曲がっていませんか？	原稿を伸ばして正しくセットし直してください。 参照 •「2.1.3 Step3 コピーを開始する」(P.76) を参照してください。

10.6　スキャンのトラブル

スキャン機能利用時のトラブル対処方法について説明します。

10.6.1　本機でスキャンできない

本機でスキャンできない場合の処置方法について説明します。

症　状	原　因	処　置
原稿が送り込まれない	原稿が小さくありませんか？	セットできる原稿の最小サイズは幅176 mm、長さ210 mmです。 参照 •「1.15.1 使用できる原稿」(P.66) を参照してください。
	原稿厚調整レバーの設定は正しいですか？	原稿の厚さに合ったレバーの位置に設定してください。 参照 •「厚紙の原稿を読み込む場合」(P.76) を参照してください。
スキャンした原稿の端が折れる	原稿がカールしていませんか？	原稿のカールを直してから、セットしてください。
希望のサイズにスキャンされない	原稿サイズ系列の設定は正しいですか？	原稿サイズに合った原稿サイズ系列に設定してください。 参照 •「原稿サイズ検知切り替え」(P.384) を参照してください。
	原稿がずれていませんか？	原稿を正しくセットしてください。 参照 •「3.1.2 Step2 スキャンを開始する」(P.147) を参照してください。
	原稿ガイドがずれていませんか？	原稿ガイドを正しくセットしてください。 参照 • スキャンの場合は、「3.1.2 Step2 スキャンを開始する」(P.147) を参照してください。
	原稿が折れ曲がっていませんか？	原稿を伸ばして正しくセットし直してください。 参照 • スキャンの場合は、「3.1.2 Step2 スキャンを開始する」(P.147) を参照してください。
スキャンデータを保存できない	本機のハードディスクがいっぱいになっていませんか？	スキャンデータの保存中に、本機のハードディスクがいっぱいになった場合は、メッセージが表示されて処理が中止されます。 参照 •「10.9 エラーメッセージ」(P.317) を参照してください。

10.6.2　スキャンデータをコンピューターに取り込めない

スキャンデータを、コンピューターに取り込めない場合の処置方法について説明します

症状	原因	処置
スキャナーが見つからない	本機の電源が切れていませんか？	本機の電源を入れてください。
	コンピューターのネットワークケーブルが外れていませんか？	コンピューターのネットワークケーブルをつなげてください。
	コンピューターと本機の間のネットワークが正常ですか？	ネットワーク管理者に相談してください。
PC から親展ボックスのデータにアクセスできない	ネットワークの設定は正しいですか？	IP アドレスが正しく設定されているかどうかを確認してください。 参照 •「11.5.2 プロトコル設定」（P.401）を参照してください。
	DNSサーバーの電源が切れていませんか？	DNSサーバーの電源を確認してください。
親展ボックスが開かない	親展ボックスを登録していますか？	親展ボックスを登録してください。 参照 •「7.1.2 親展ボックス（ボックス保存宛先）」（P.240）を参照してください。
	親展ボックスのパスワードを忘れていませんか？	パスワードは再設定できません。再度親展ボックスを登録してください。 参照 •「7.1.2 親展ボックス（ボックス保存宛先）」（P.240）を参照してください。
取り込み中に動作が止まってしまう	ファイルサイズが大きくありませんか？	解像度を低く設定して、再度読み込んでください。 参照 •「3.9.3 読み取り解像度（読み取る解像度を指定してスキャンする）」（P.163）を参照してください。

10.6.3　スキャンデータをネットワーク転送（SMB/LPR）できない

スキャンデータを、ネットワーク転送できない場合の処置方法について説明します。

症状	原因	処置
ネットワーク転送できない	サーバーは正しく入力されていますか？	サーバーの入力を確認してください。
	保存場所は正しく入力されていますか？	保存場所の入力を確認してください。
	共有名は正しく入力されていますか？	共有名の入力を確認してください。
	SMB（UNC表記）を選択した場合、保存先は正しく入力されていますか？	保存先の入力を確認してください。
	ログイン名は正しく入力されていますか？	ログイン名の入力を確認してください。
	パスワードは正しく入力されていますか？	パスワードの入力を確認してください。
	パスワードを設定しないユーザーで、SMB転送しようとしていますか？	次の方法でネットワークへのアクセス設定を変更します。 1.Windowsを起動し、[コントロールパネル] > [管理ツール] を選択し、[ローカル セキュリティ ポリシー] を選択する。 2. [セキュリティの設定] > [ローカルポリシー] から [セキュリティ オプション] を選択する。 3. [アカウント ：ローカルアカウントの空のパスワードをコンソールログオンのみに制限する] を [無効] に設定する。
	ファイアウォールの設定で通信を遮断していませんか？	ファイアウォールの設定を確認してください。 参照 •「Windows　　ファイアウォールの設定」（P.252）を参照してください。
	SMB 転送に指定した DFS の名前空間が 4 つ以上のルートで構成されていませんか？	3つ以下のルートで構成されたDFS名前空間を指定してください。

10.7　プリントのトラブル

プリント機能利用時のトラブル対処方法について説明します。

症　状	原　因	処　置
プリントできない	本機の電源が切れていませんか？	本機の電源を入れてください。
	コンピューターのネットワークケーブルが外れていませんか？	コンピューターのネットワークケーブルをつなげてください。
	本機のネットワークケーブルが外れていませんか？	本機のネットワークケーブルをつなげてください。
	プリンターモードがオフラインになっていませんか？	プリンター操作パネルの左側にある〈オフライン〉ボタンを確認してください。
		［プリンターモード］を確認してください。［オフライン］になっていたら、［オンライン］を選択してください。 参照 •「プリンターモード」（P.58）を参照してください。
	本機でエラーが発生していませんか？	エラーの内容を確認して対処してください。
	IP アドレス / サブネットマスクが正しく設定されていますか？	正しいIPアドレス/サブネットマスクを設定してください。 参照 •「11.9 プリンター設定」（P.415）を参照してください。
	コンピューターと本機の間のネットワークが正常ですか？	ネットワーク管理者に相談してください。
	ポートが起動していますか？	利用しているポートを起動してください。
	本機が複数のコンピューターと接続していませんか？	しばらく待ってから、再度プリントしてください。
	用紙が入っていますか？	用紙を補給してください。
	指定した用紙サイズの用紙はありますか？	指定した用紙サイズの用紙をセットしてください。 参照 •「1.7 用紙を補給/交換する」（P.37）を参照してください。
	割り込みが行われていませんか？	割り込み操作を解除してください。
	コピー、スキャナー（マルチ送信）またはスキャナー & コピーが行われていませんか？	コピー、スキャナー（マルチ送信）またはスキャナー＆コピー中は、プリントできません。
	Arc 占有モードになっていませんか？	占有モードの間は、ArcEPS以外のプリントは受信しますが、占有モードを解除するまでプリントされません。 占有モードはジョブ確認画面で確認できます。 参照 •「1.12　ジョブ確認」（P.60）を参照してください。

10.8 CentreWare Internet Servicesのトラブル

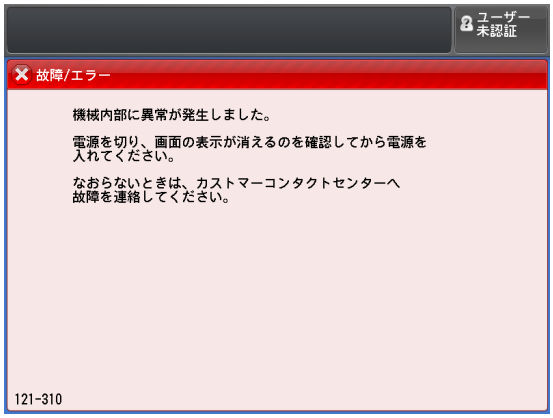
CentreWare Internet Services使用時にトラブルが発生した場合の、症状と処置は次のとおりです。

症　状	原　因	処　置
CentreWare Internet Services に接続できない。	本機は、正常に作動していますか？	本機の電源が入っているかを確認してください。
	インターネットアドレスは正しく入力されていますか？	インターネットアドレスをもう一度確認してください。接続できない場合は、IP アドレスを入力して接続してください。
	プロキシサーバーを使っていますか？	プロキシサーバーによっては、接続できない場合があります。プロキシサーバーを使わないで、Webブラウザーの設定を「プロキシサーバーを使用しない」にするか、使用するアドレスを「プロキシサーバーを使用しない」に設定してください。
［更新］ボタンが機能しない。 左フレームのメニューを選択しても、右フレームが更新できない。	指定されている Web ブラウザーを使っていますか？	「6.2.2 CentreWare Internet Services を使うための設定」(P.208) を参照して、使っている Web ブラウザーが対象となっているかどうかを確認してください。
画面の表示が崩れる。	Web ブラウザーのウィンドウサイズが小さくないですか？	Webブラウザーのウィンドウサイズを変更してください。
最新の情報が表示されない。	表示を更新していますか？	Webブラウザーの表示を最新の情報に更新してください。
文字が正しく表示されない。	Webブラウザーのエンコード設定は正しいですか？	Web ブラウザーのエンコードを UTF-8 に設定してください。
［新しい設定を適用する］ボタンを押しても反映されない。	入力した値は正しいですか？	入力できる値以外を入力した場合は、自動的に制限値内に変更されます。
	本機の操作パネルで操作中、または操作後ではありませんか？	自動リセット機能が設定されている場合、設定時間が経過するまで、CentreWare Internet Services での設定は適用されません。しばらくお待ちください。
［新しい設定を適用する］ボタンを押すと、Webブラウザーに［無効なまたは認識されない応答をサーバーが返しました］や［データがありません］などのメッセージが表示される。	パスワードは正しいですか？	パスワードの確認入力の内容が一致していません。正しいパスワードを入力してください。
	本機は、正常に作動していますか？	本機を再起動してください。
漢字を入力できない。	入力項目は正しいですか？	「＊」で表示される項目に漢字は入力できません。
ジョブを削除できない。	機械が内部処理を行っています。	しばらく待ってから［最新の情報に更新］ボタンを押してください。

10.9　エラーメッセージ

エラーメッセージが表示された場合の処置について説明します。

注記
- エラーの内容によって、表示されるメッセージは異なることがあります。



エラーメッセージ	原因	処置
機械内部に異常が発生しました。 電源を切り、画面の表示が消えるのを確認してから電源を入れてください。 なおらないときは、カストマーコンタクトセンターへ故障を連絡してください。 116-360	[データ変換エラー] スキャンデータの変換処理に失敗した	• 主電源スイッチを切り、操作パネルの主電源ランプが消灯してから、再度、主電源スイッチを入れてください。 再度スキャンを実行して、同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店に連絡してください。
機械内部に異常が発生しました。 電源を切り、画面の表示が消えるのを確認してから電源を入れてください。 なおらないときは、カストマーコンタクトセンターへ故障を連絡してください。 XXX-XXX	機械内部にエラーが発生した	• 主電源スイッチを切り、操作パネルの主電源ランプが消灯してから、再度、主電源スイッチを入れてください。 再び同じメッセージが表示された場合は、「XXX-XXX」の表示内容を書き写してください。 そのあと、主電源スイッチを切り、操作パネルの主電源ランプが消灯してから、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーメッセージ	原因	処置
読み取りサイズが大きすぎます。 読み込みできません。 [確認] を押してください。 今読み込んだ原稿イメージはメモリーから削除されます。	[規定データ量をオーバー①] スキャンの累積データ量が規定量を超えた 規定量： • TIFF/PDF/JPEG時は2 GB、DocuWorks時は1 GB • 赤黒 TIFF 時については、「作成される赤黒 TIFF ファイルについて」（P.451）を参照	• [確認] を押して読み込み待ちの画面に戻り、[次の原稿なし] を押して読み取りを終了してください。 メッセージ表示直前までのスキャンデータを保存します。
	[データの保存領域不足] スキャンデータを保存する HDD の空き容量が足りない 空き容量： • スキャン（ボックス保存）の場合、親展ボックス領域（12 GB） • スキャン（PC 保存）/ スキャン（マルチ送信）の場合、テンポラリ領域（40 GB）	• スキャン（ボックス保存）の場合、親展ボックス内の不要なデータを削除して、空き容量を増やしてください。 • スキャン（PC保存）/スキャン（マルチ送信）の場合、処理中のジョブが終了するまでお待ちください。
	[規定データ量をオーバー②] 読み込んだ原稿が長さの最大値を超えた 例： • 15 m以上をスキャン	• [確認] を押して、読み取りをキャンセルしてください。 再度、原稿を読み込む場合、最大値以下の原稿をスキャンするか、「読み取りサイズ」を「サイズ入力」へ設定して、サイズを入力してからスキャンしてください。
一度に読み込める原稿枚数を超えました。 [次の原稿なし] ボタンを押してください。	1 ジョブで連続して読み込んだ原稿が 999 枚を超えた	• [次の原稿なし] を押して、読み取りを終了してください。 メッセージ表示直前までのスキャンデータを保存します。
スキャンデータサイズが、制限を超えたためファイルを作成できません。 再度、ファイルを作成するときは設定を変更して [スタート] ボタンを押してください。 スキャンを中止するときは [中止] ボタンを押してください。	[規定データ量をオーバー③ (再設定読み込みが可能な場合)] スキャンのデータ量が規定量を超えた → 直前に読み込んだ原稿が、制限（幅 / 長さ・データ量）を超えた	• 解像度を低くする / 縮小する / 画質を低くするなど、制限内に収まるように設定を変更して、[スタート] を押してください。 原稿を再読み込みすることなく、変更した設定でデータを再作成します。

エラーメッセージ	原因	処置
出力ファイル形式の制限を超えたためファイルを作成できません。 [確認]を押してく下さい。 いま読み込んだ原稿イメージはメモリーから削除されます。	[規定データ量をオーバー④] スキャンの幅・長さが、指定したファイル形式における制限の最大値を超えている → 直前に読み込んだ原稿が、各ファイル形式の制限（幅/長さの最大値）を超えた 例： • PDFセキュリティで、5,078 mm以上をスキャン	• [確認]を押して読み込み待ちの画面に戻り、[次の原稿なし]を押して読み取りを終了してください。 メッセージ表示直前までのスキャンデータを保存します。
親展ボックスが一杯です。 親展ボックスから文書を取り出してください。	スキャン（ボックス保存）にて、1枚目の原稿搬送前に2 MBの空き容量がない	• 親展ボックス内の不要なデータを削除して、空き容量を増やしてください。
メモリーがいっぱいです。	スキャン（PC保存）/スキャン（マルチ送信）にて、1枚目の原稿搬送前に2 MBの空き容量がない	• 処理中のジョブが終了して空き容量が確保されるまで、しばらくお待ちください。
以下の送信先には接続できません。 サーバー名/ IPアドレス　： 共有名　： 保存場所　：	スキャン（PC保存）の保存先サーバーの設定において、接続確認時にエラーを検出した • サーバー名などの指定が間違っている • サーバーの電源が切れている • サーバー名などの名前解決ができない • ユーザー名やパスワードが間違っている • フォルダー名が間違っている/存在しない • フォルダーが共有設定されていない • LAN に障害がある （ケーブル抜けやケーブル接触不良含む） • サーバーが、14バイトを超える名前のワークグループに属している	• 左記のような原因を取り除いて、もう一度スキャンを行ってください。
以下の送信先には接続できません。 PC保存宛先1 xxx PC保存宛先2 xxx プリンター 1 xxx … プリンター 5 xxx これらの宛先は送信できません。 設定を変更してください。	スキャン（マルチ送信）のマルチ送信宛先の設定において、接続確認時にエラーを検出した • サーバー名などの指定が間違っている • サーバーやプリンターの電源が切れている • サーバー名などの名前解決ができない • ユーザー名やパスワードが間違っている • フォルダー名が間違っている/存在しない • フォルダーが共有設定されていない • 論理プリンター名が間違っている • LAN に障害がある （ケーブル抜けやケーブル接触不良含む） • サーバーが、14バイトを超える名前のワークグループに属している	• 左記のような原因を取り除いて、もう一度スキャンを行ってください。 • 接続エラーと表示された送信先を、マルチ送信宛先の対象から外してください。

状態	原因	処置
エラーメッセージは表示されていないが、保存先にスキャンデータが転送されない 操作パネルの〈ジョブ確認〉ボタンにて、スキャン（PC保存）やスキャン（マルチ送信）が「異常終了」の場合	スキャン（PC保存）/スキャン（マルチ送信）において、送信時にエラーが発生した • 保存先の書き込み権限がない • 保存先のディスク容量が足りない • 保存先のディスクの書き込みに失敗 • そのほか、送信時に障害があった（ケーブル抜けやケーブル接触不良を含む LAN 障害や、ディスクエラーなど）	• 左記のような原因を取り除いて、もう一度スキャンを行ってください。

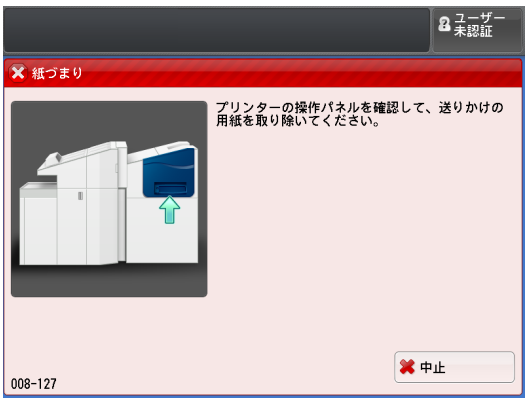
10.10 用紙が詰まった場合

用紙が詰まると、機械が停止し、タッチパネルディスプレイに紙づまりのエラーメッセージが表示され、プリンター操作パネルの各番号が点灯します。表示されたメッセージに従って、詰まっている用紙を取り除いてください。

注記

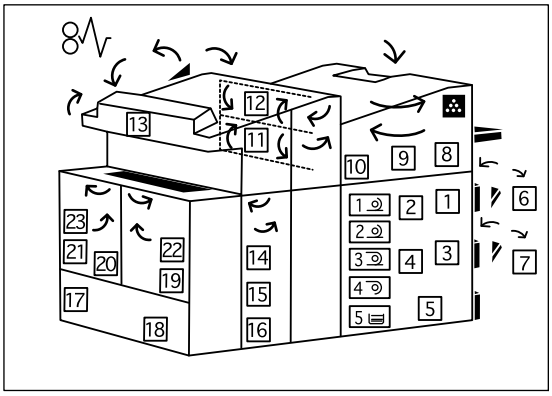
- フォルダー（オプション）に紙づまりが発生しても、スキャナーは原稿の読み取りを続行します。フォルダーに紙づまりが発生したときは、スキャナーに次の原稿を入れないでください。

タッチパネルディスプレイ

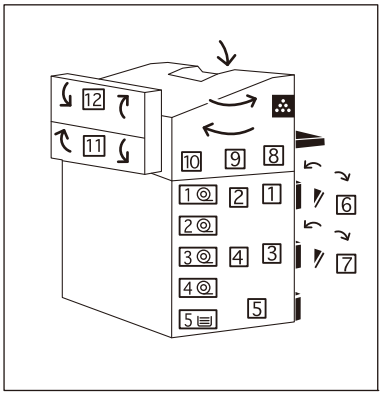


プリンター操作パネル

フォルダー（オプション）が接続されている場合



プリンターだけの場合



プリンター操作パネルの各番号が点灯したときの処置箇所は次のとおりです。

点灯番号	場所	参照ページ
[1]	ロール紙トレイ１　手前のロール	P.323
[2]	ロール紙トレイ１　奥のロール	
[3]	ロール紙トレイ２　手前のロール	
[4]	ロール紙トレイ２　奥のロール	
[5]	用紙トレイ	P.325
[6]	用紙搬送部	P.326
[7]	用紙搬送部	

点灯番号	場所	参照ページ
[8]	現像部（手差しテーブル）	P.327
[9]	現像部（ドラム下）	P.327
[10]	定着部	P.330
[11]	プリンター出口	P.332 P.333
[12]	接続部（フォルダー接続部）	P.333
[13]	フォルダー上部	P.335

点灯番号	場所	参照ページ
[14]	ファン折り部	P.336
[15]	ファン折り部～第一折り部	
[16]	第一折り部	
[17]	搬送部	P.341
[18]	第二折り部	P.343

点灯番号	場所	参照ページ
[19]	調整部	P.345
[20]	調整部	
[21]	調整部	
[22]	調整部	
[23]	調整部	P.347

フォルダー（オプション）が接続されている場合は［1］～［23］が点灯します。
プリンターだけの場合は、［1］～［11］が点灯します。
用紙は破れないように、ゆっくり取り除いてください。取り出す途中で紙が破れたときも紙片を機械の中に残さないで、すべて取り除いてください。
処置を終了しても紙づまりのエラーメッセージが表示されるときは、ほかの箇所でも用紙がつまっています。メッセージに従って処置してください。
紙づまりの処置が終了すると、自動的に、用紙が詰まる前の状態からプリントが再開されます。

⚠注意

- 機械内部に詰まった用紙や紙片は無理に取り除かないでください。
  特に、定着部やローラー部に用紙が巻き付いているときは無理に取らないでください。ケガややけどの原因となるおそれがあります。ただちに電源スイッチを切り、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
- 機械に貼ってあるラベルの警告や説明には必ず従ってください。
  特に「高温注意」「高圧注意」のラベルが貼ってある箇所には、絶対に触れないでください。やけどや感電の原因となるおそれがあります。

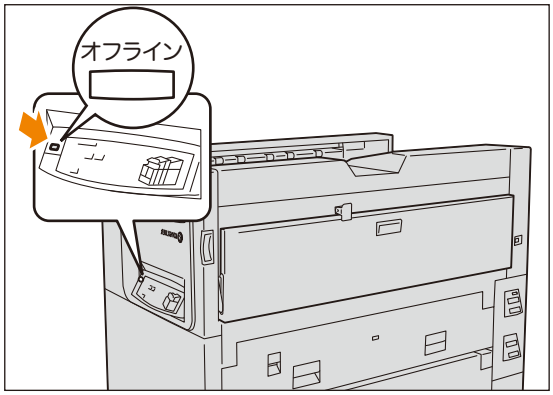
注記

- 紙づまりが発生したとき、紙づまり位置を確認しないで用紙トレイを引き出すと、用紙が破れて機械の中に紙片が残ってしまうことがあります。故障の原因になるので、紙づまりの位置を確認してから、処置をしてください。
- 紙片が本機内に残っていると、紙づまりの表示は消えません。
- 紙づまりの処置をするときは、本機の電源を入れたままの状態にしておいてください。電源を切ると、本機のメモリー上に蓄えられた情報が消去されます。
- 本機内部の部品には触れないでください。印字不良の原因になります。

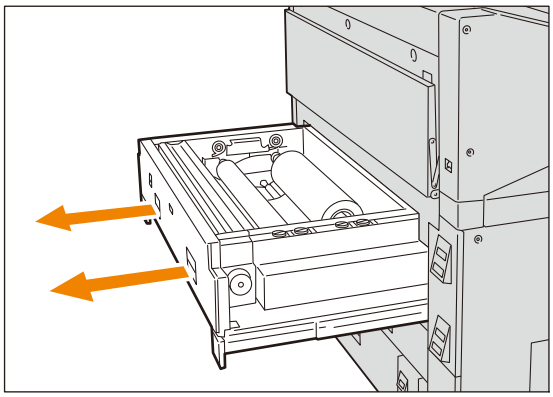
10.10.1　ロール紙トレイでの紙づまり（[1] ～ [4] が点灯したとき）

[1] ～ [4] が点灯している場合は、ロール紙のミスセットまたは送り出し不良が発生しています。ロール紙トレイで発生した紙づまりの処置方法について説明します。
ここでは、[1] が点灯したときの処置方法について説明します。

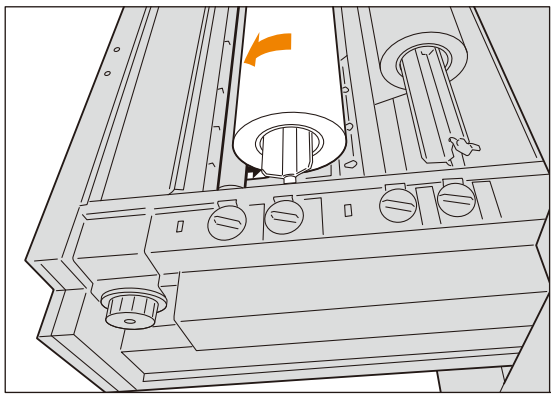
1. プリンター操作パネルの左側にある〈オフライン〉ボタンを押します。



2. 両手でロール紙トレイを引き出します。

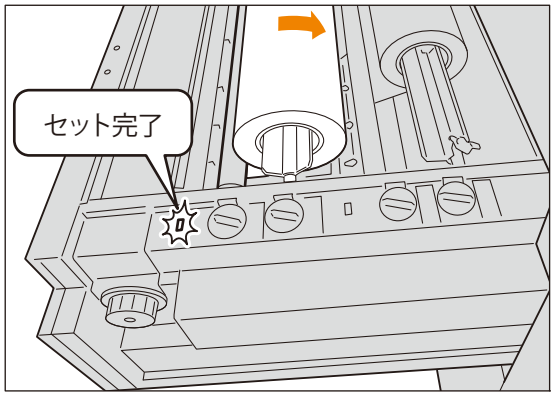


3. ロール紙を巻き戻します。



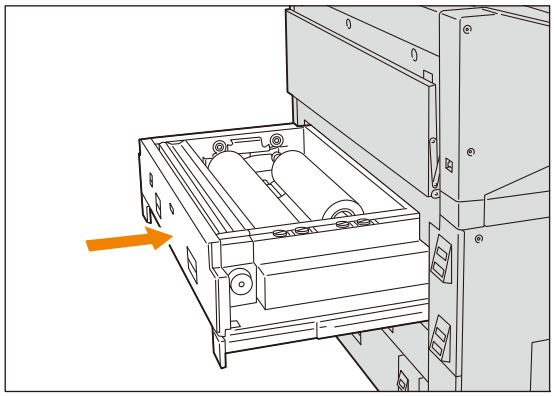
4. ロール紙を回して、ロール紙の先端をローラーの下に挿入します。

正しくセットされると、「ピッ」という音がして、右側の［セット完了］ランプが緑色に点灯します。「ピーピー」と鳴ったら、用紙を少し巻き戻してください。



注記
- 用紙の先端などが傷んでいて、ロール紙がうまく引き込まれない場合は、用紙の先端をカットしてからセットしてください。

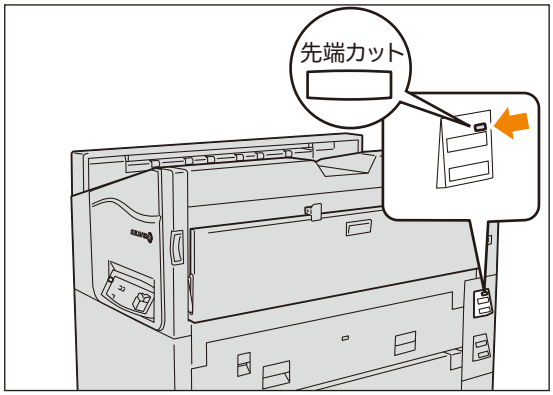
5. ロール紙トレイを静かに押し込みます。



補足
- いちばん奥まで確実に押し込んでください。

6. 該当するロールの〈先端カット〉ボタンを押します。

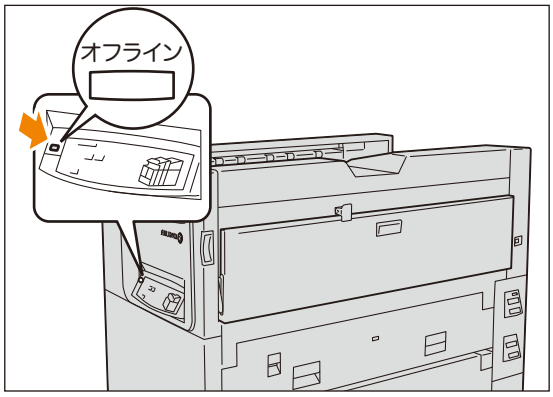
用紙の先端がカットされます。



補足
- 〈先端カット〉ボタンを押すと、用紙が 210 mmの長さでカットされます。
- 〈先端カット〉ボタンは、3回まで続けて押すことができます。3回続けて押すと、用紙の先端が3回カットされます。

7. 再度、〈オフライン〉ボタンを押します。

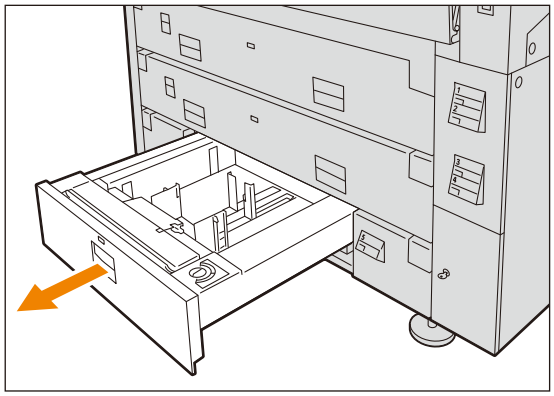
［プリントできます］が表示されることを確認してください。



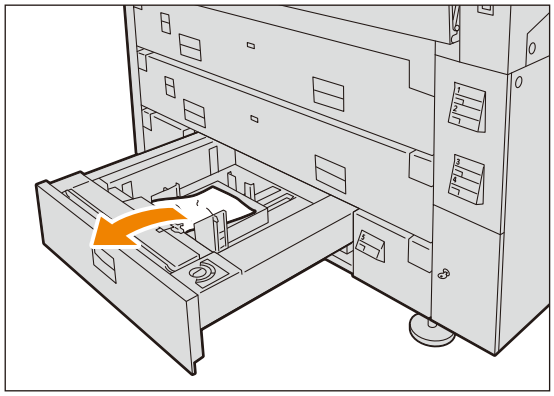
10.10.2　用紙トレイでの紙づまり（[5] が点灯したとき）

[5] が点灯している場合は、用紙トレイで紙づまりが発生しています。
用紙トレイで発生した紙づまりの処置方法について説明します。

1. 用紙トレイを引き出します。



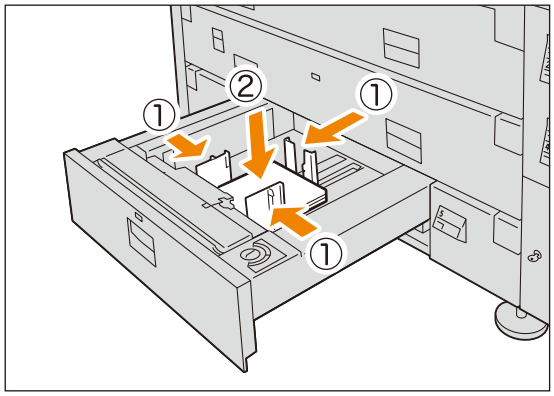
2. 詰まった用紙を取り除きます。



3. ペーパーガイドの位置を確認します（①）。

4. 用紙をそろえて、セットし直します（②）。

5. 用紙トレイを静かに押し込みます。



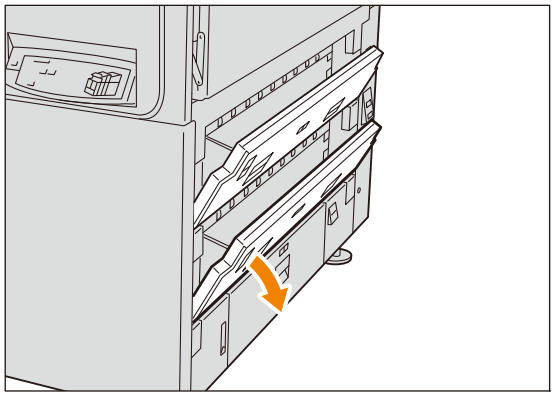
10.10.3　用紙トレイでの紙づまり（[6]、[7] が点灯したとき）

[6] または [7] が点灯している場合は、給紙部から現像部の途中で紙づまりが発生しています。
給紙部から現像部の途中で発生した紙づまりの処置方法について説明します。

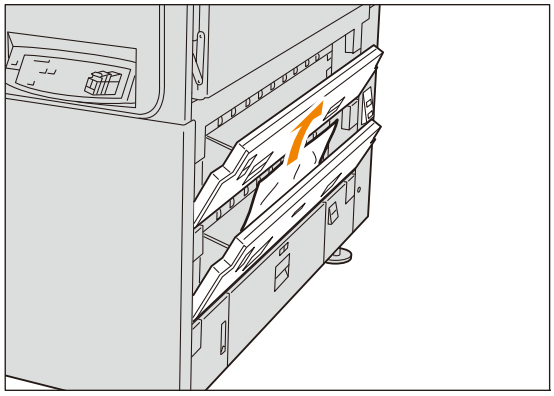
1. ロール紙トレイのカバーを開けます。

[6] が点灯している場合は、ロール1トレイのカバーを開けます。

[7] が点灯している場合は、ロール2トレイのカバーを開けます。

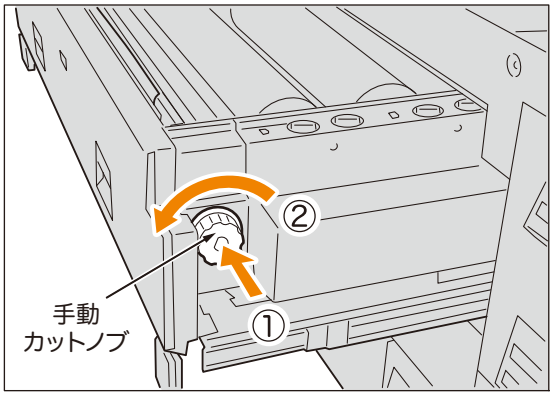


2. 詰まった用紙を取り除きます。



用紙が切れていない場合

ロール紙トレイを開け、手動カットノブを一度押し（①）、反時計回りに止まるまで回します（②）。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

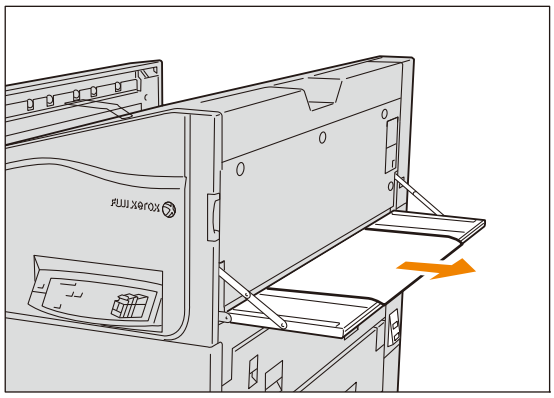
3. ロール紙トレイのカバーを閉じます。

補足
- ドアが閉じていないと、紙づまりの表示が消えません。

10.10.4　手差しテーブルでの紙づまり（[8]が点灯したとき）

手差しテーブルで発生した紙づまりの処置方法について説明します。

1. 用紙を手前に引いて、用紙を取り除きます。



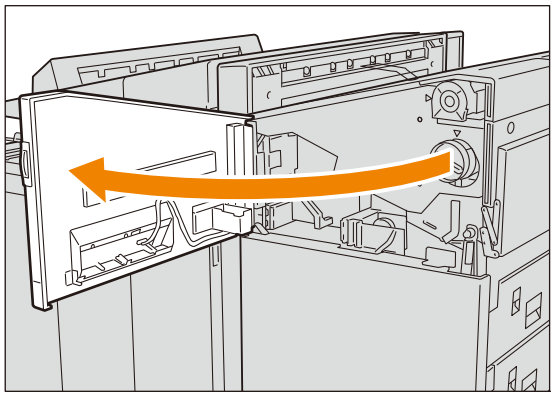
参照

- 用紙が見えないときは、「10.10.5　上部ユニットでの紙づまり（[9]が点灯したとき）」（P.327）を参照してください。

10.10.5　上部ユニットでの紙づまり（[9]が点灯したとき）

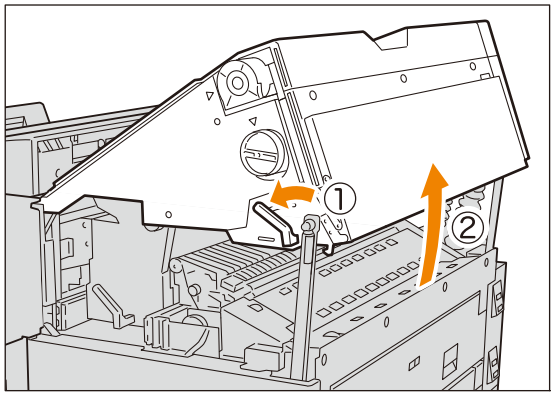
上部ユニットの内部で発生した紙づまりの処置方法について説明します。

1. プリンターのフロントドアを開けます。

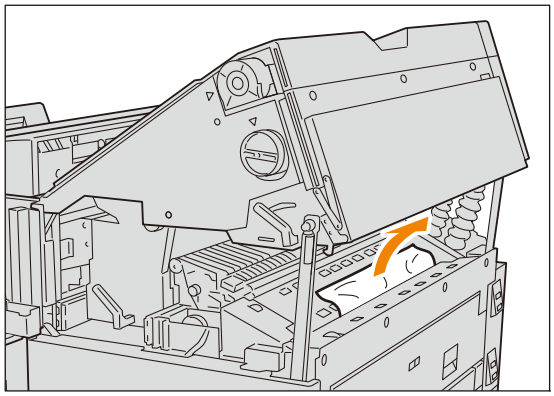


2. レバーを左に回して、プリンター上部を開けます（①）。

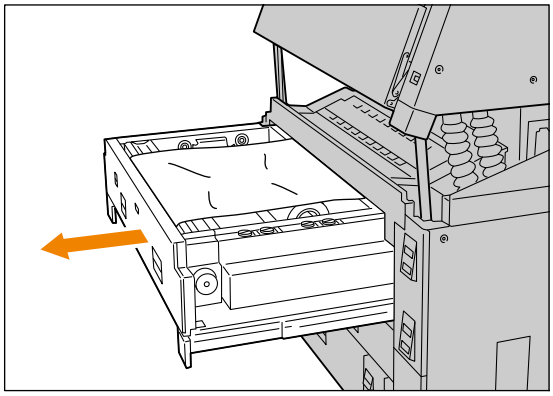
3. プリンター上部をストッパーがかかるまで持ち上げます（②）。



4. 詰まっている用紙を取り除きます。
用紙が取り除けた場合は、手順**9.**に進んでください。
用紙がカットされていない場合は、手順**5.**に進んでください。

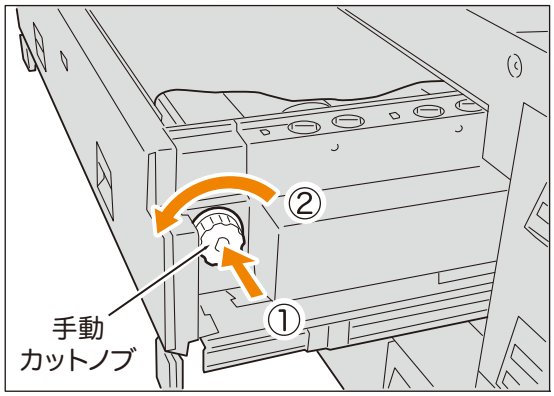


5. [使用中] ランプが点灯しているロール紙トレイを引き出します。

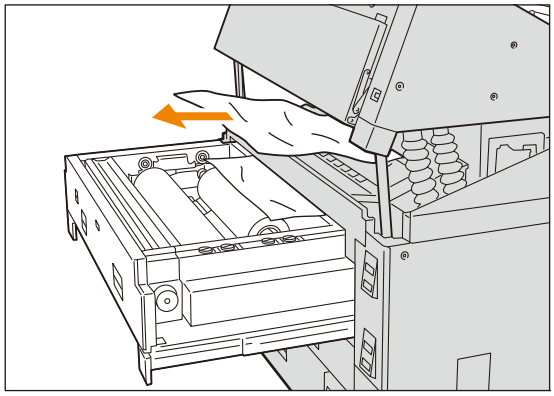


6. ロール紙トレイを開け、手動カットノブを一度押し(①)、反時計回りに止まるまで回します（②)。
用紙が手動でカットされます。

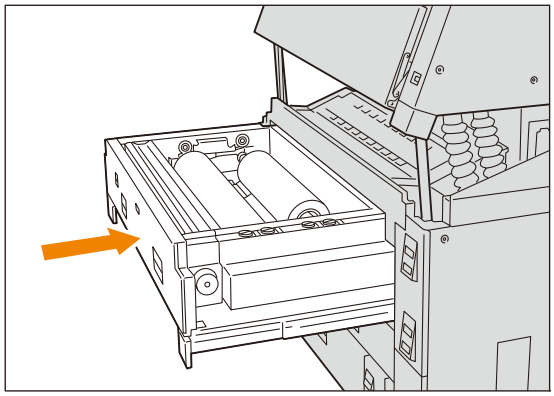
補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。



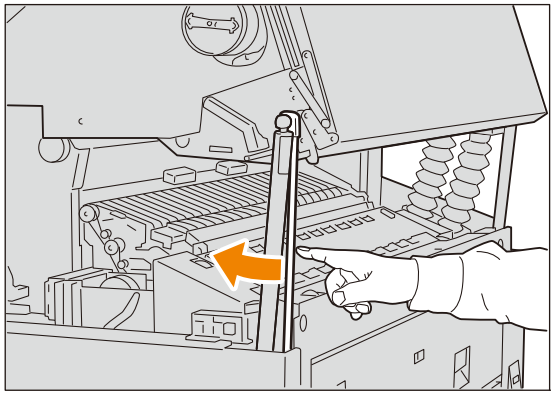
7. 詰まった用紙を取り除きます。



8. ロール紙トレイのカバーを閉じ、ロール紙トレイを静かに押し込みます。

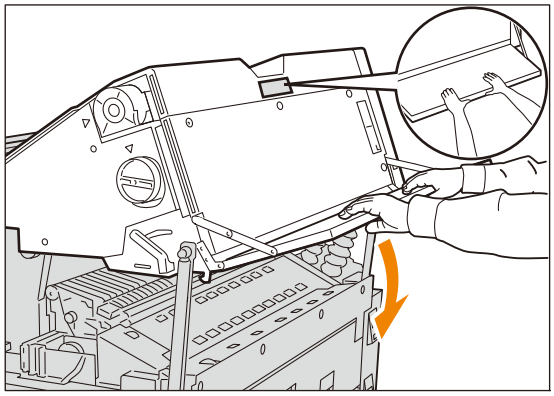


9. ストッパーを押して、ストッパーを解除の位置にします。



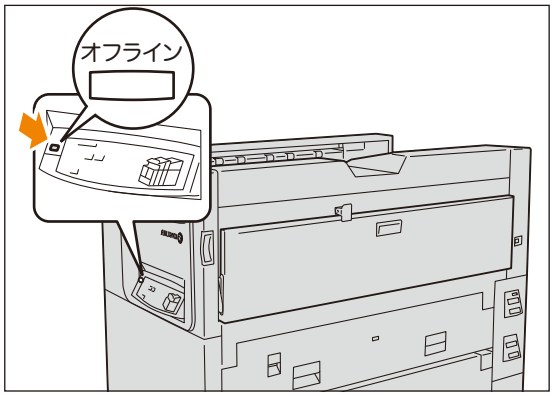
10. 手差しテーブルを開けます。
ラベルに記載されている手差しテーブルの指示された場所を両手で押して、プリンター上部を閉じます。

11. プリンターのフロントドアを閉じます。



ロール紙トレイで手動カットをした場合

12. プリンター操作パネルの左側にある〈オフライン〉ボタンを押します。

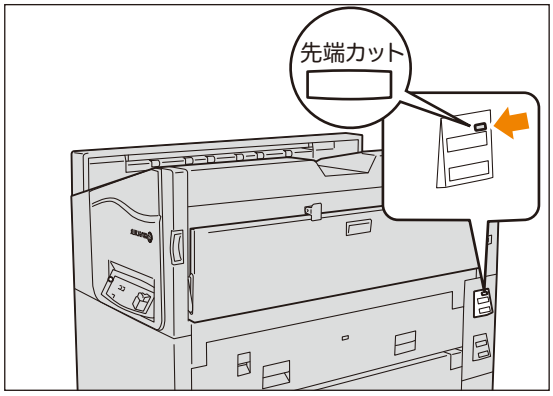


13. 該当するロールの〈先端カット〉ボタンを押します。

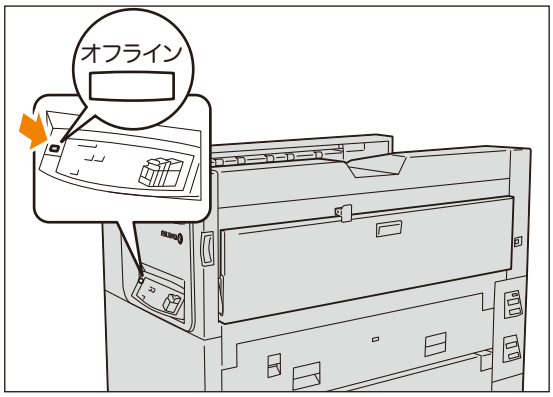
用紙の先端がカットされます。

補足

- 〈先端カット〉ボタンを押すと、用紙が 210 mmの長さでカットされます。
- 〈先端カット〉ボタンは、3回まで続けて押すことができます。3回続けて押すと、用紙の先端が3回カットされます。



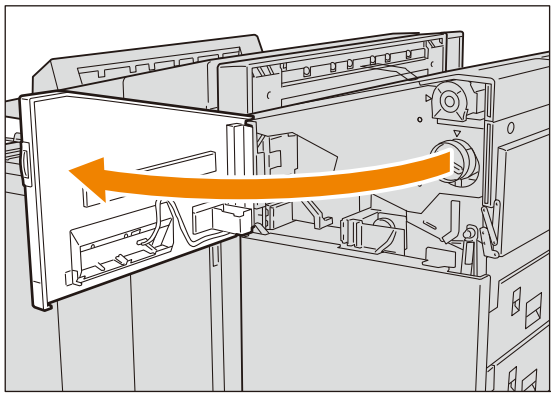
14. 再度、〈オフライン〉ボタンを押します。



10.10.6 定着部での紙づまり（[10] が点灯したとき）

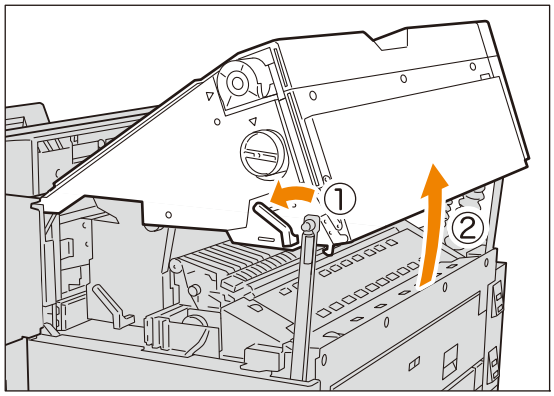
定着部で発生した紙づまりの処置方法について説明します。
はじめに、「10.10.5 上部ユニットでの紙づまり（[9] が点灯したとき）」（P.327）および「10.10.7 プリンター排出口での紙づまり（[11] が点灯したとき）」（P.332）を参照して紙づまりを処置してください。どちらの方法でも処置できない場合はこの手順を行ってください。

1. プリンターのフロントドアを開けます。

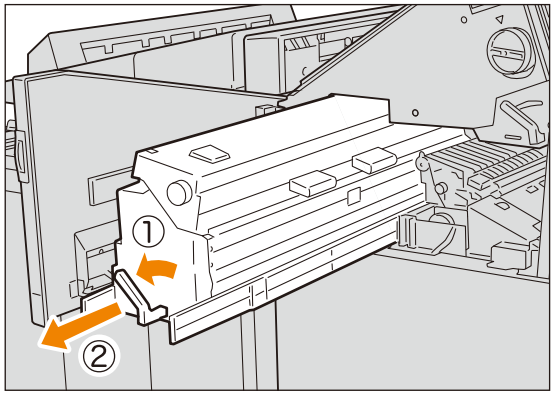


2. レバーを左に回して、プリンター上部を開けます（①）。

3. プリンター上部をストッパーがかかるまで持ち上げます（②）。



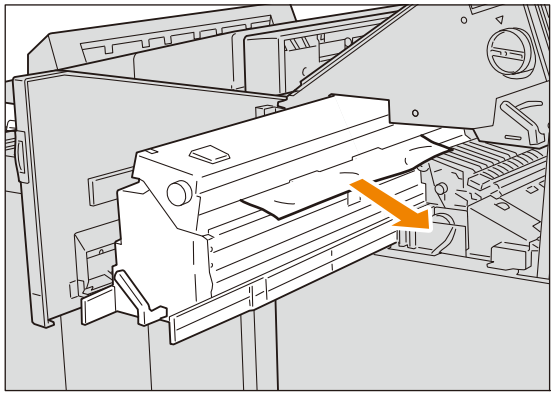
4. 定着部のハンドルを横に倒し（①）、定着部を引き出します（②）。



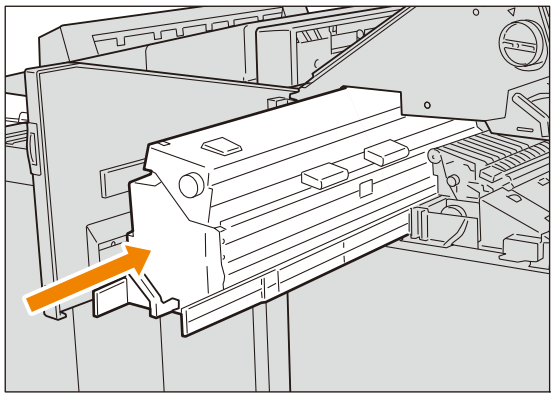
注記

- 警告および注意ラベルの貼り付け位置を確認のうえ、操作してください。
  詳細については、『かんたんガイド』の「警告および注意ラベルの貼り付け位置」を参照してください。

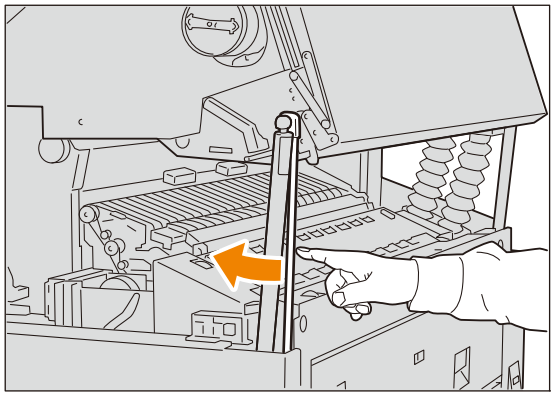
5. 詰まっている用紙を取り除きます。



6. 定着部を戻します。



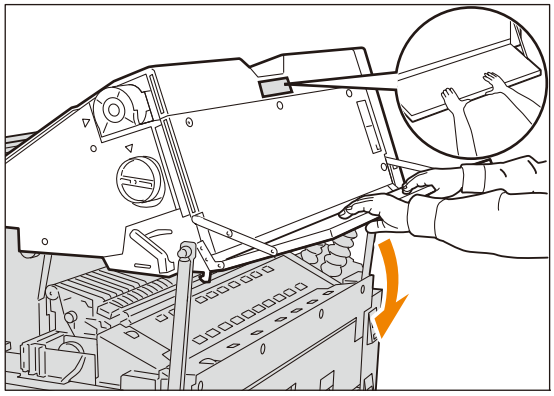
7. ストッパーを押して、ストッパーを解除の位置にします。



8. 手差しテーブルを開けます。
ラベルに記載されている手差しテーブルの指示された場所を両手で押して、プリンター上部を閉じます。

9. プリンターのフロントドアを閉じます。

10. 手差しテーブルを元に戻します。



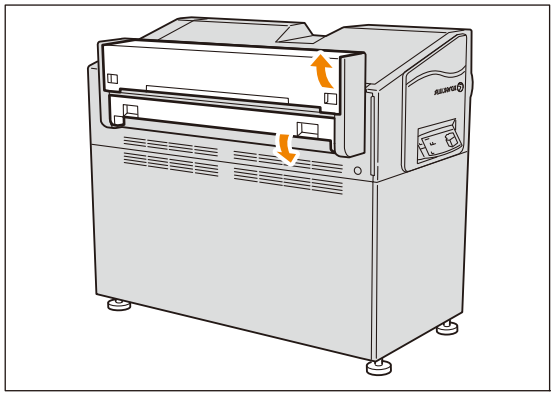
10.10.7 プリンター排出口での紙づまり（[11]が点灯したとき）

プリンター排出口で発生した紙づまりの処置方法について説明します。

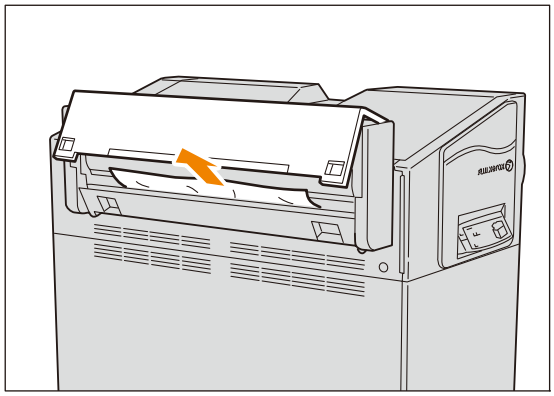
1. プリンターのレフトドア（上下）を開けます。

注記

- 警告および注意ラベルの貼り付け位置を確認のうえ、操作してください。
詳細については、『かんたんガイド』の「警告および注意ラベルの貼り付け位置」を参照してください。

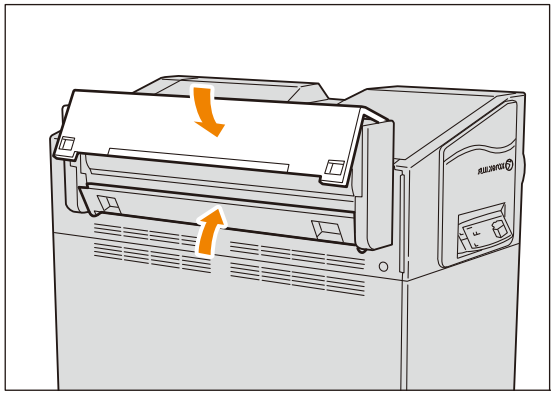


2. 用紙を取り除きます。
用紙を破らないように取り除いてください。



3. プリンターのレフトドア（上下）を閉じます。

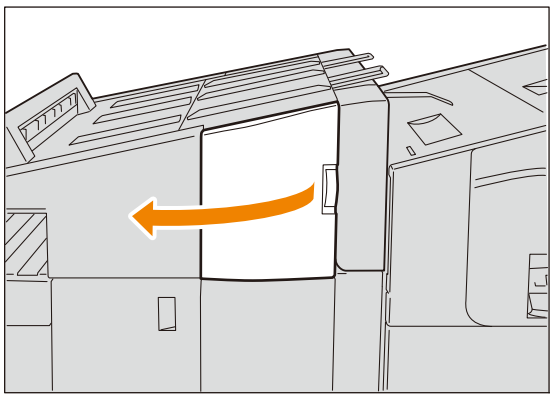
補足
- ドアが閉じていないと、紙づまりの表示が消えません。



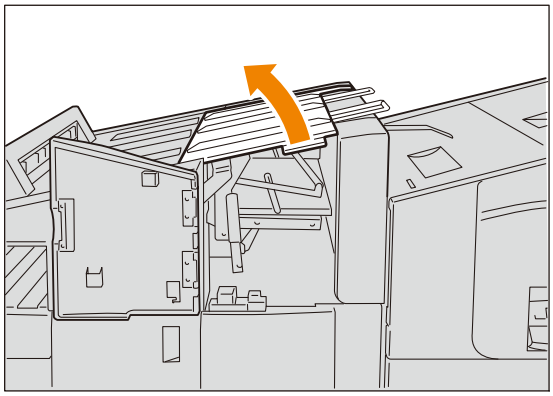
10.10.8 プリンターとフォルダーの接続部での紙づまり（[11]、[12] が点灯したとき）

プリンターとフォルダーの接続部で発生した紙づまりの処置方法について説明します。

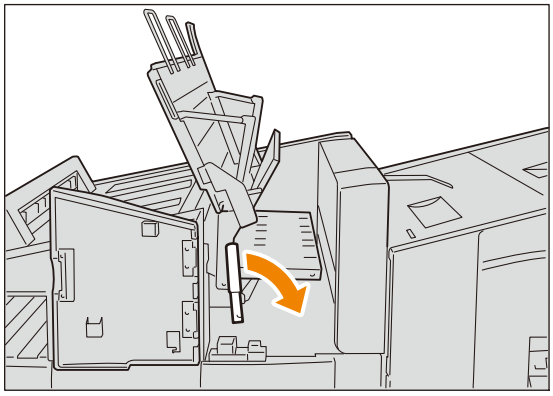
1. 接続部の上部ドアを開けます。



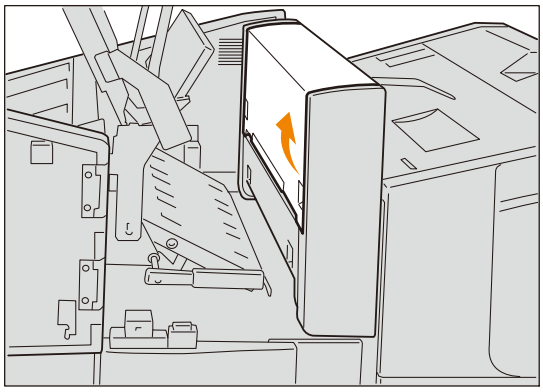
2. 接続部の上部カバーを開けます。
詰まった用紙があれば取り除きます。

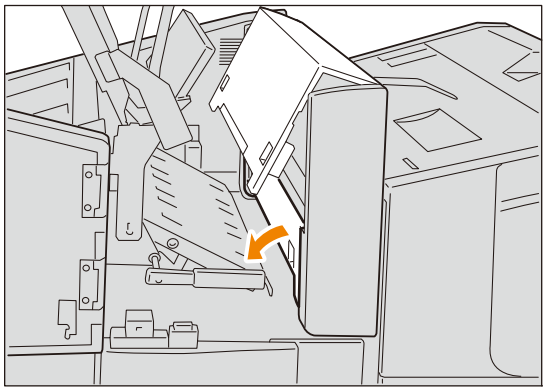


3. レバーを右に倒し、内部カバーを開けます。



4. プリンターのレフトドア（上下）を開けます。





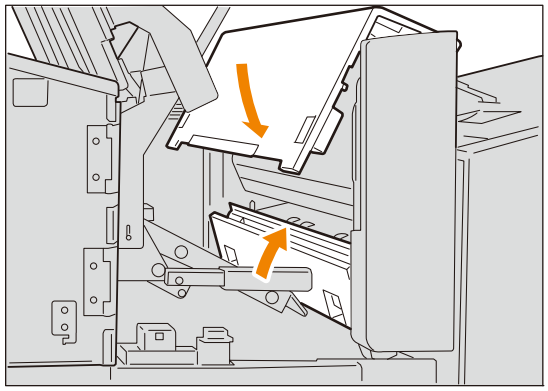
注記

- 警告および注意ラベルの貼り付け位置を確認のうえ、操作してください。
詳細については、『かんたんガイド』の「警告および注意ラベルの貼り付け位置」を参照してください。

5. 用紙を取り除きます。
用紙を破らないように取り除いてください。

6. プリンターのレフトドア（上下）を閉じます。

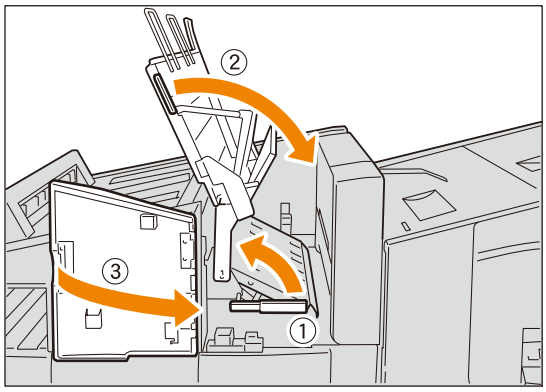
補足
- ドアが閉じていないと、紙づまりの表示が消えません。



7. レバーを左に上げて内部カバーを閉じます。(①)

8. 接続部の上部カバーを閉じます。(②)

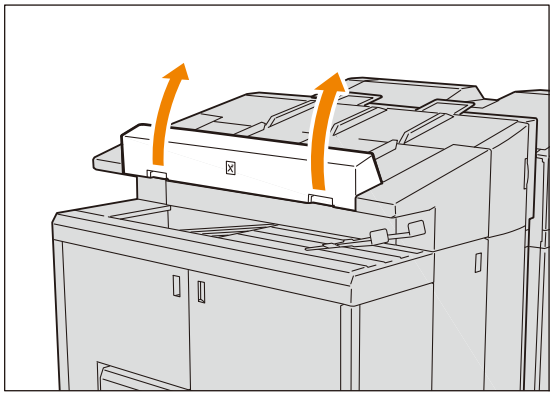
9. 接続部の上部ドアを閉じます。(③)



10.10.9　フォルダートレイでの紙づまり（[13] が点灯したとき）

フォルダートレイで発生した紙づまりの処置方法について説明します。

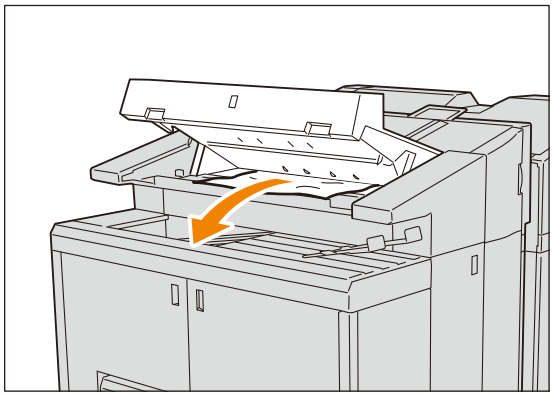
1. 両側のレバーを引いてフォルダートレイを開けます。



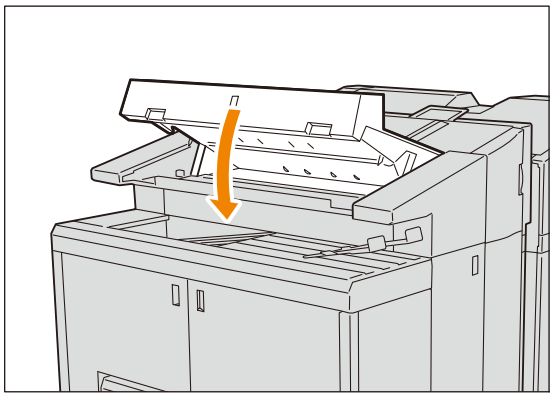
2. 用紙を取り除きます。

参照

- 用紙がないときは、「10.10.10 ファン折り部、または第一折り部での紙づまり（[14]～[16]が点灯したとき）」（P.336）を参照してください。

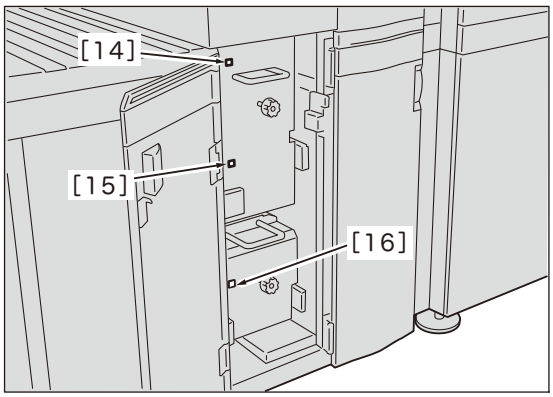


3. フォルダートレイを閉じます。



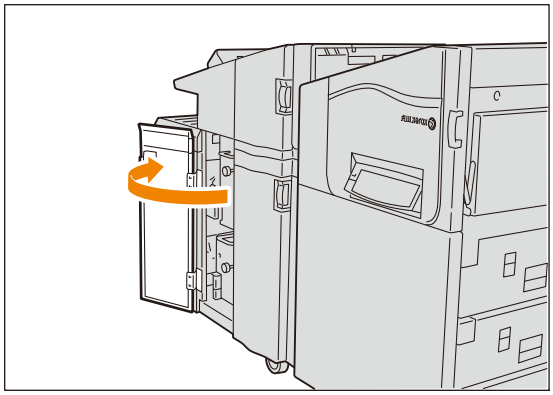
10.10.10 ファン折り部、または第一折り部での紙づまり（[14]～[16]が点灯したとき）

ファン折り部、または第一折り部で発生した紙づまりの処置方法について説明します。
折り部はセンタードア内にあります。
[14]が点灯しているときは、ファン折り部の入り口とフォルダートレイの間に紙があります。
[15]が点灯しているときは、ファン折り部と第一折り部の間に紙があります。
[16]が点灯しているときは、第一折り部と搬送部の間に紙があります。
フォルダーのセンタードアを開けて、ランプ[14]～[16]が点灯しているかどうかを確認してください。



［14］、［15］が点灯したとき

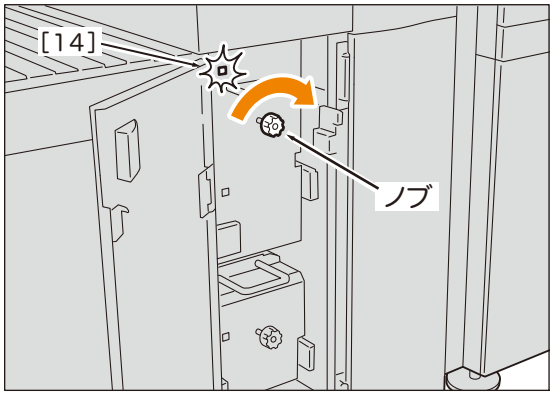
1. フォルダーのセンタードアを開けます。



2. ランプ［14］［15］のどちらかが点灯しているときは、次の処置をします。
ランプ［14］［15］が点灯していないときは、手順**3.**に進みます。

ランプ［14］が点灯しているとき

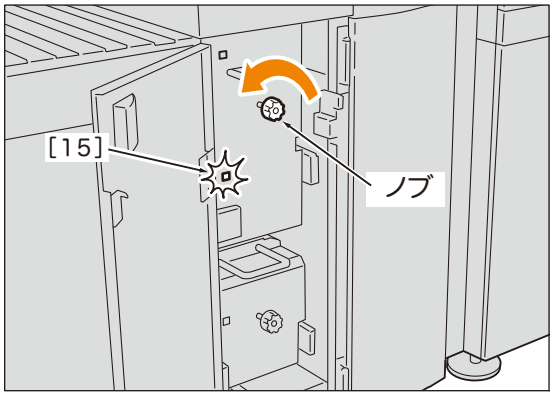
ランプ［14］が消えるまでノブを右に回します。ノブを右に回すと用紙が下に送られ、ファン折り部に入りきるとランプ［14］が消えます。



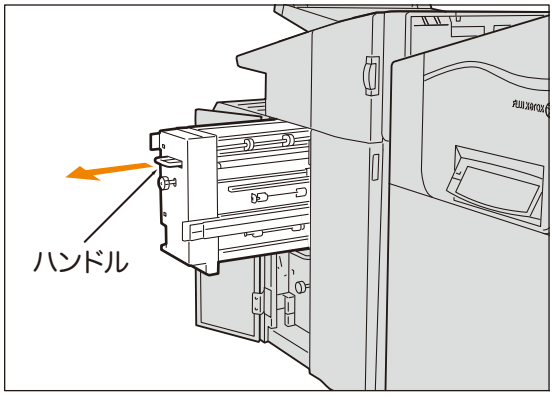
ランプ［15］が点灯しているとき

ランプ［15］が消えるまでノブを左側に回します。ノブを左に回すと用紙は上に送られ、ファン折り部に入りきるとランプ［15］が消えます。

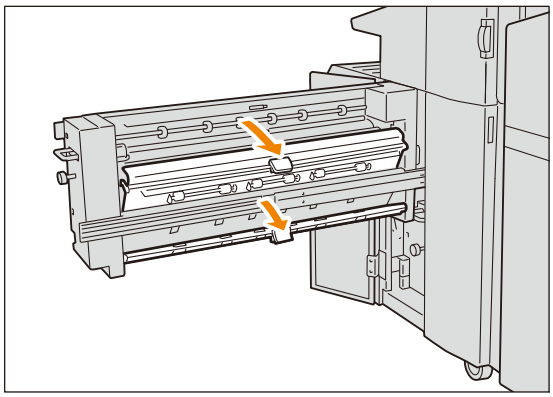
ランプ［15］が消えないときは、「［16］が点灯したとき」（P.339）を参照してください。



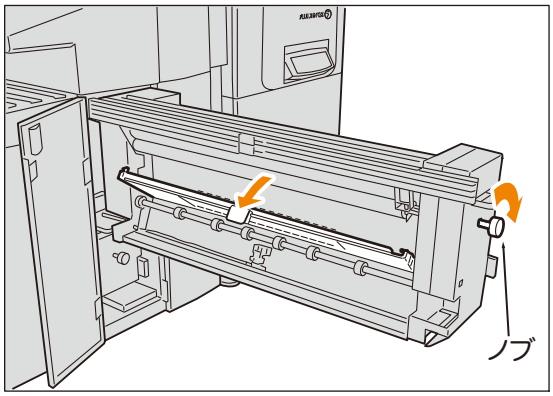
3. ハンドルを持ち、ファン折り部を引き出します。



4. 左右の内部カバーを開いて、用紙を取り除きます。

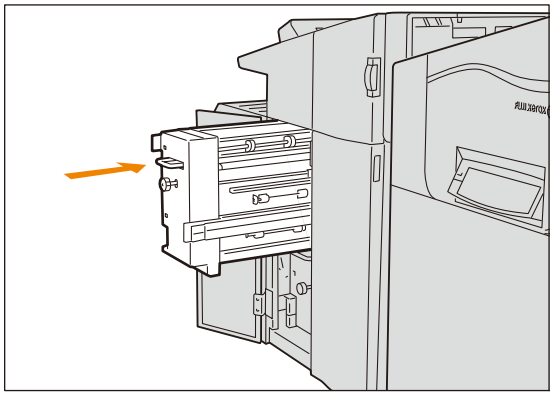


用紙を取り出せないときは、ノブを右に回し、用紙を外に出します。

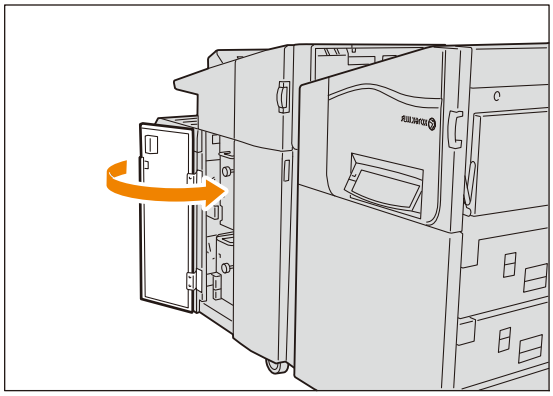


5. 左右の内部カバーを閉じます。

6. ファン折り部を奥まで押し込みます。

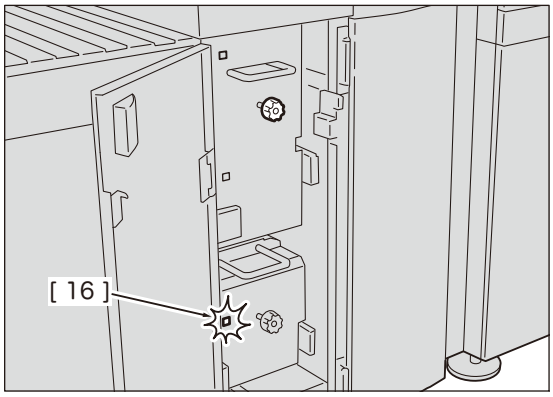


7. フォルダーのセンタードアを閉じます。



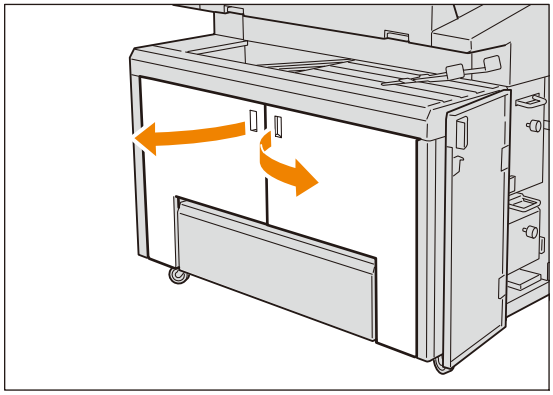
[16] が点灯したとき

フォルダーのセンタードアを開けて、ランプ［16］が点灯しているかどうか確認します。
ランプ［16］が点灯しているときは、「ランプ［16］が点灯しているとき」（P.339）の手順**1.**に進みます。
ランプ［16］が点灯していないときは、「ランプ［16］が点灯していないとき」（P.341）の手順**1.**に進みます。

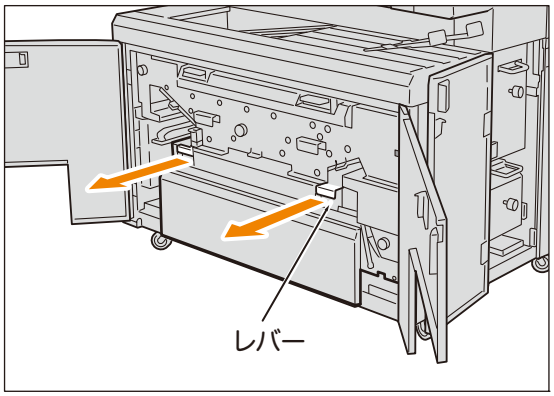


- ランプ［16］が点灯しているとき

1. フォルダーのフロントドアを開けます。

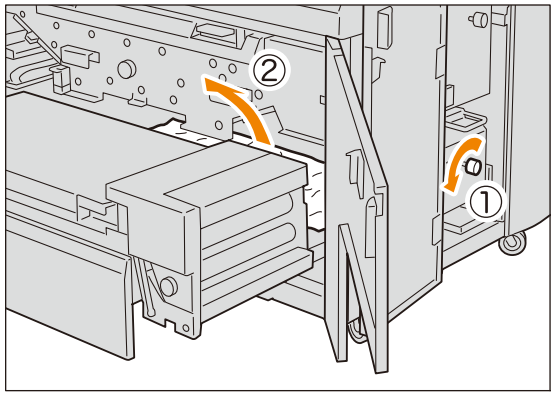


2. 両手でレバーを引いて搬送部を引き出します。

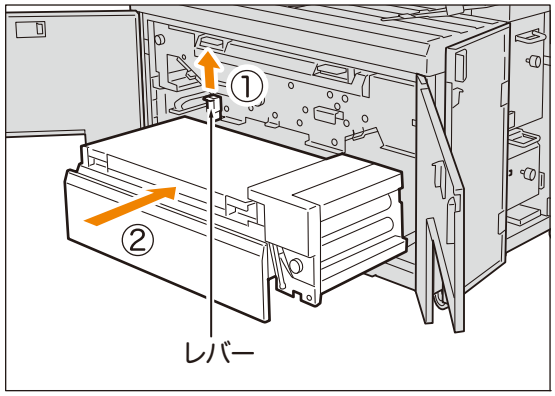


3. 第一折り部のノブをランプ［16］が消えるまで左に回します（①）。

4. 搬送部の奥に用紙が排出されるので、用紙を取り除きます（②）。

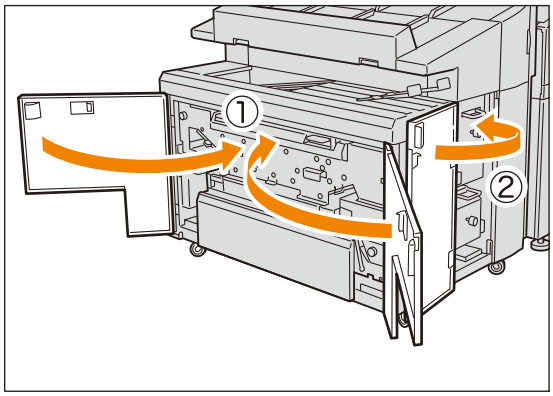


5. レバーを上げながら（①）、搬送部を奥まで押し込みます（②）。



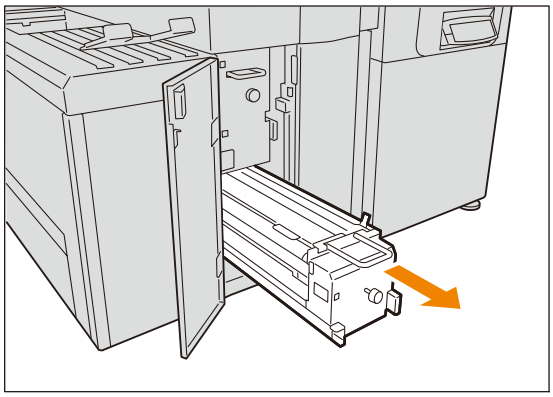
6. フォルダーのフロントドアを閉じます（①）。

7. フォルダーのセンタードアを閉じます（②）。

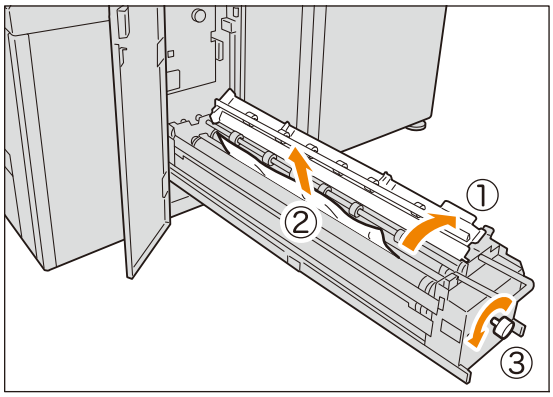


● ランプ［16］が点灯していないとき

1. ハンドルを持ち、第一折り部を引き出します。



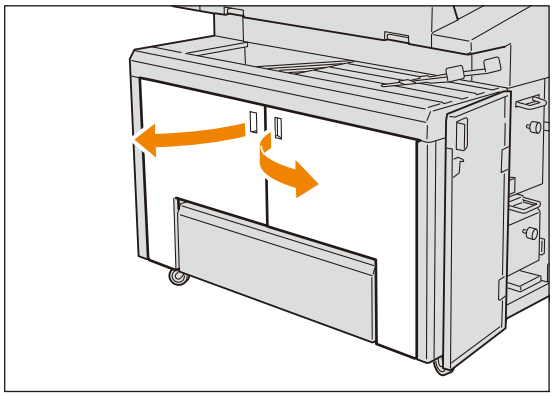
2. 内部カバーを開け（①）、用紙を取り除きます（②）。
用紙を破らないように取り除いてください。
3. 用紙を取り出しづらいときは、ノブを左に回して、用紙を第一折り部から排出します（③）。
4. 用紙が除去できたら内部カバーを閉じます。
5. 第一折り部を奥まで押し込みます。
6. フォルダーのセンタードアを閉じます。



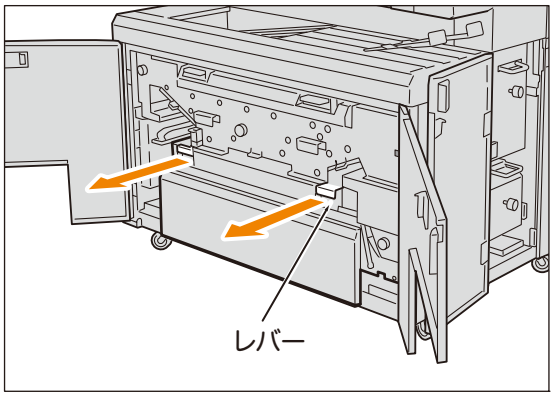
10.10.11 搬送部での紙づまり（［17］が点灯したとき）

搬送部で発生した紙づまりの処置方法について説明します。

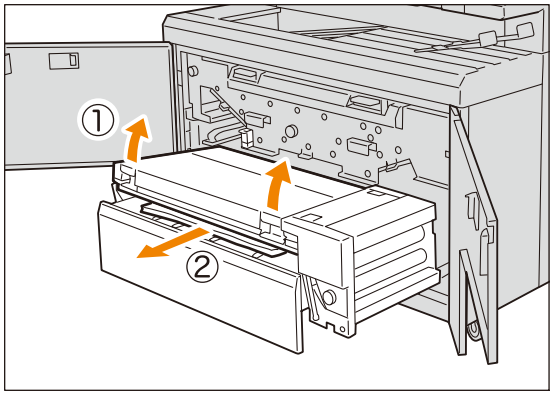
1. フォルダーのフロントドアを開けます。



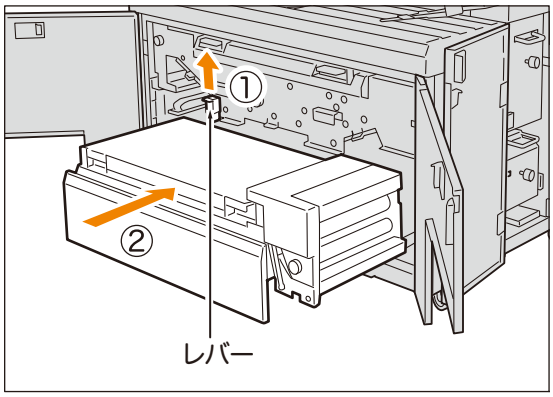
2. 両手でレバーを引いて搬送部を引き出します。



3. 両手で内部カバーを開け（①）、用紙を取り除きます（②）。



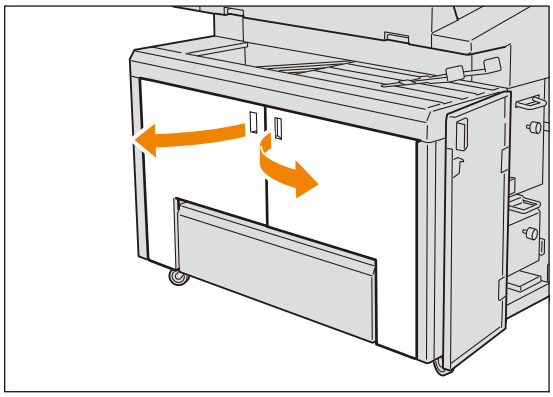
4. 内部カバーを一度上にあげてから閉じます。
5. レバーを上げながら（①）、搬送部を奥まで押し込みます（②）。
6. フォルダーのフロントドアを閉じます。



10.10.12 第二折り部での紙づまり（[18] が点灯したとき）

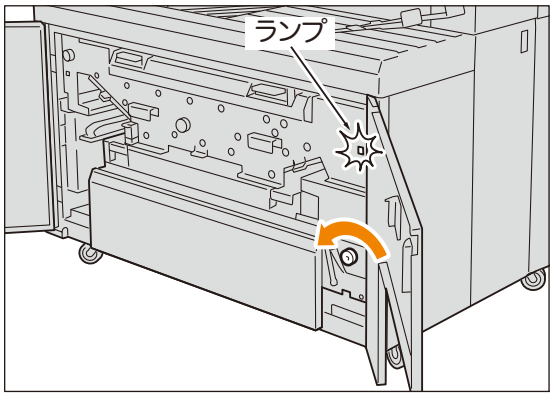
第二折り部で発生した紙づまりの処置方法について説明します。
[18] が点灯しているときは、第二折り部と搬送部との間に用紙があります。

1. フォルダーのフロントドアを開けます。
2. フロントドア内のランプが点灯しているかどうか確認します。
   ランプが点灯しているときは、手順 **3.** ～ **4.** を行ってください。
   ランプが点灯していないときは、手順 **5.** ～ **10.** を行ってください。



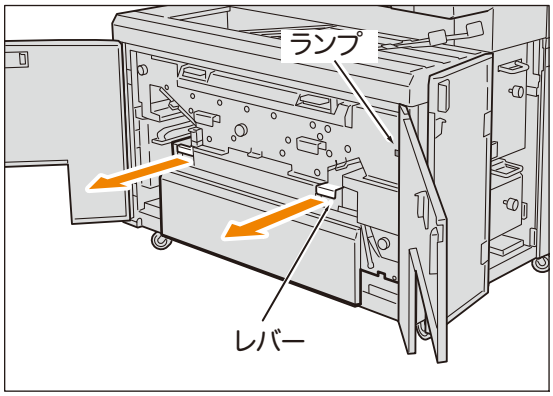
ランプが点灯しているとき

3. 第二折り部のノブをランプが消えるまで左に回します。
4. ランプが消えたら、「10.10.13 調整部での紙づまり（[19] ～ [22] が点灯したとき）」（P.345）を参照してください。

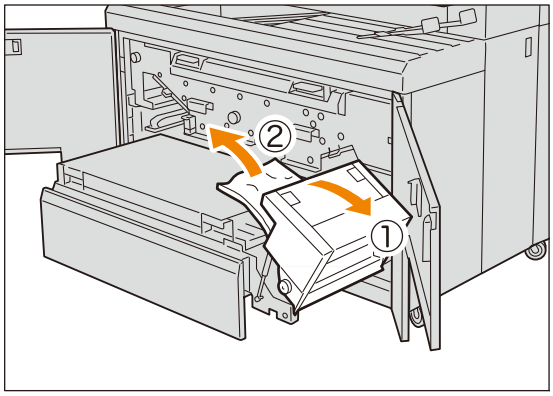


ランプが点灯していないとき

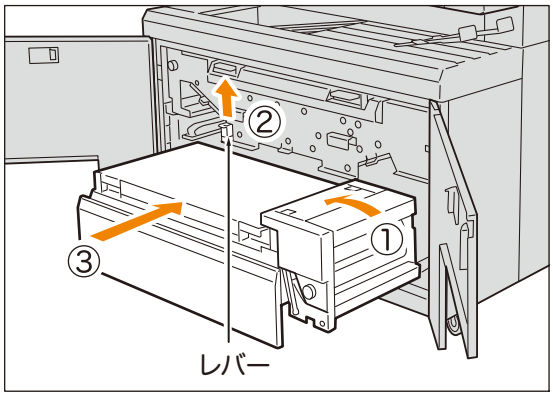
5. 両手でレバーを引いて搬送部を引き出します。



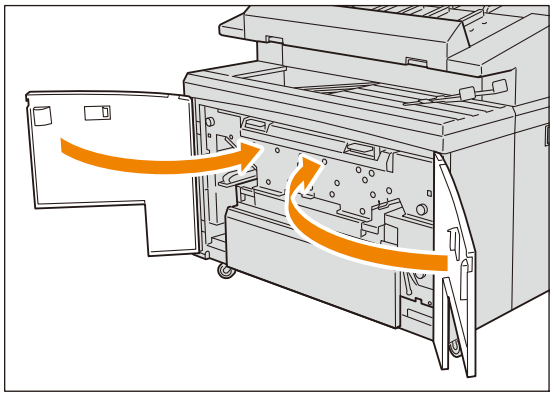
6. 18番の内部カバーを開けます（①）。
7. 用紙を取り除きます（②）。



8. 内部カバーを閉じます（①）。
9. レバーを上げながら（②）、搬送部を奥まで押し込みます（③）。



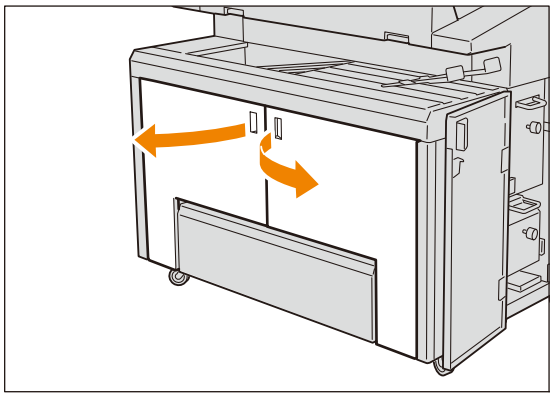
10. フォルダーのフロントドアを閉じます。



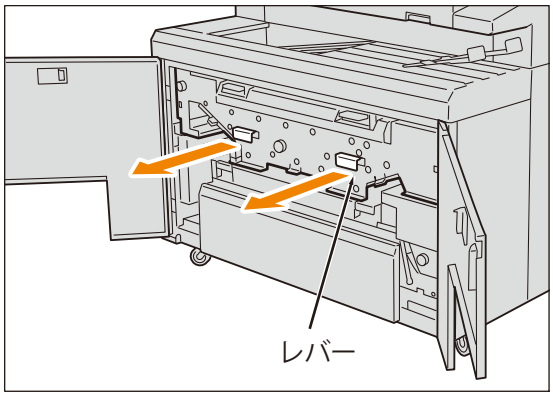
10.10.13 調整部での紙づまり（[19] ～ [22] が点灯したとき）

調整部で発生した紙づまりの処置方法について説明します。

1. フォルダーのフロントドアを開けます。



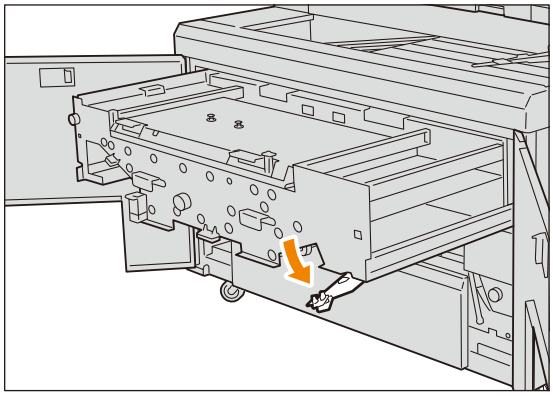
2. 両手でレバーを引いて調整部を引き出します。



3. 点灯した番号と同じ番号の内部カバーを開けます。

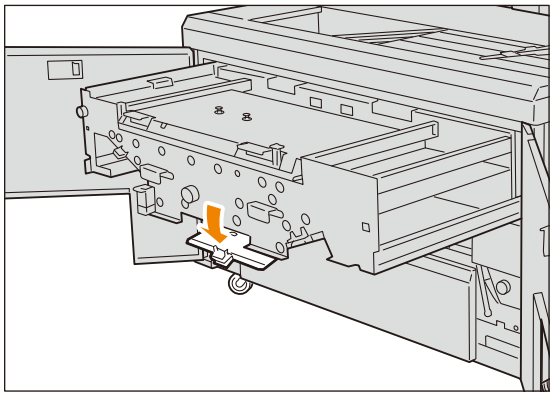
[19] が点灯しているとき

19番の内部カバーを開けます。



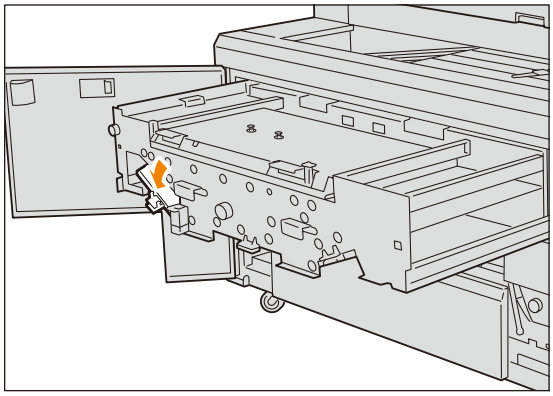
[20] が点灯しているとき

20番の内部カバーを開けます。



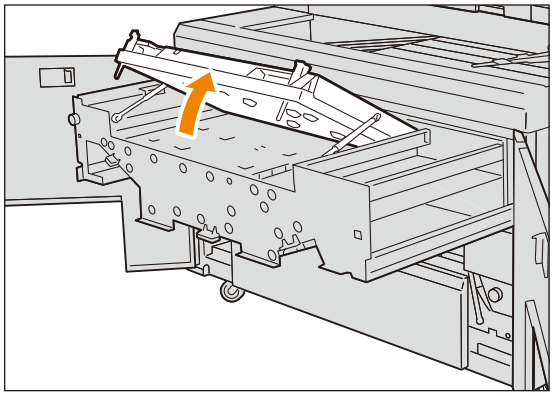
[21] が点灯しているとき

21番の内部カバーを開けます。



[22] が点灯しているとき

22番の内部カバーを開けます。

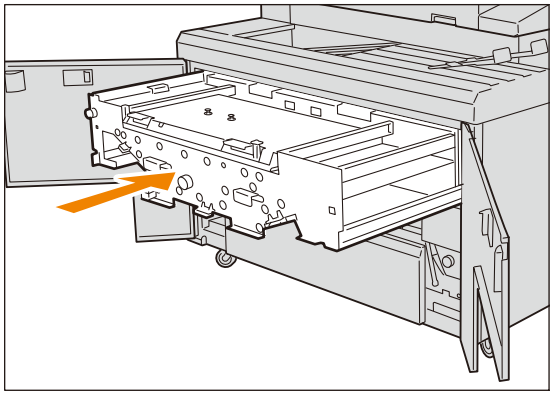


注記

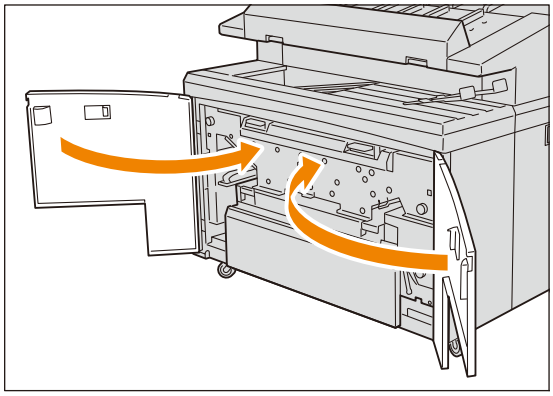
- 警告および注意ラベルの貼り付け位置を確認のうえ、操作してください。
  詳細については、『かんたんガイド』の「警告および注意ラベルの貼り付け位置」を参照してください。
- 内部カバーを開けたときは、カバーを手でささえて、用紙を取り除きます。

4. 用紙を取り除きます。

5. 内部カバーを閉じ、調整部を奥まで押し込みます。



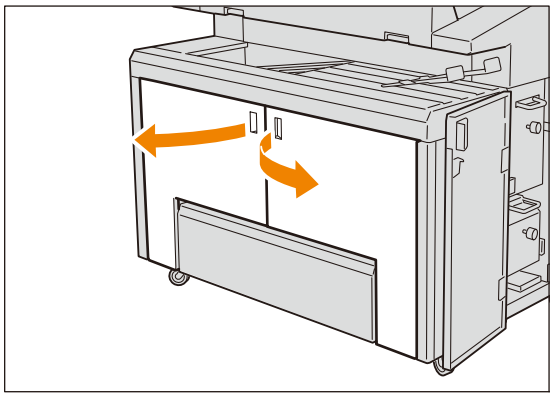
6. フォルダーのフロントドアを閉じます。



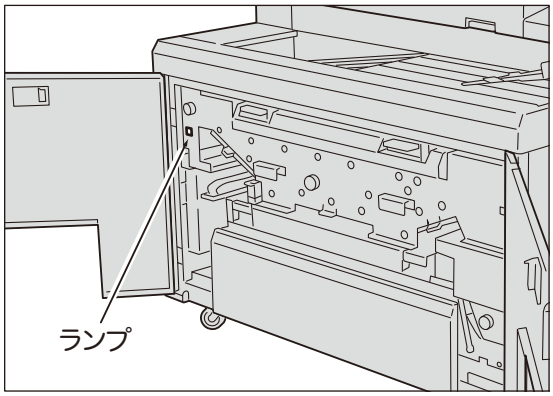
10.10.14 フォルダーの排出部での紙づまり（[23] が点灯したとき）

フォルダーの排出部で発生した紙づまりの処置方法について説明します。

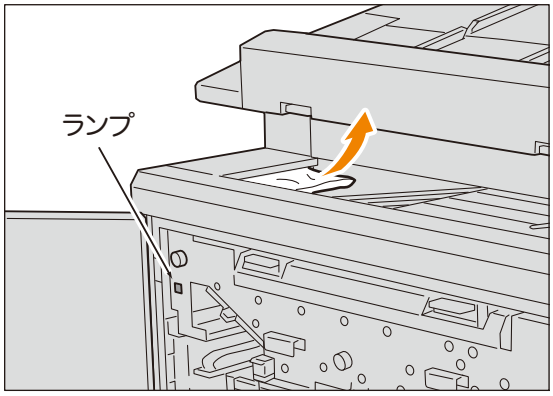
1. フォルダーのフロントドアを開けます。



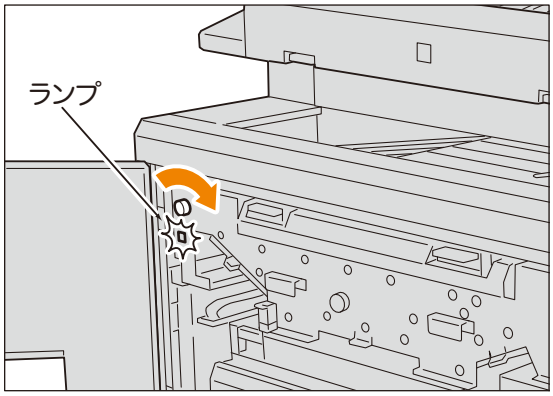
2. フロントドア内のランプが点灯しているかどうかを確認します。
ランプが点灯しているときは、手順**4.**に進んでください。



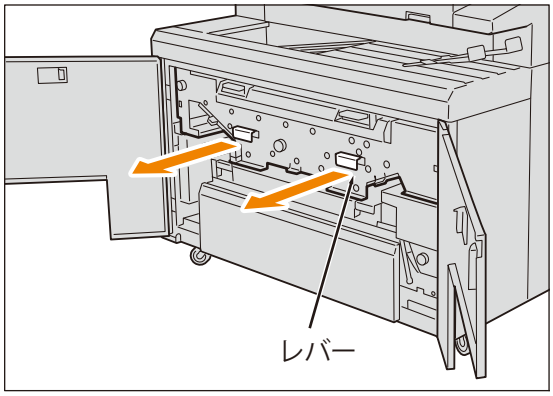
3. フォルダーの排出部に紙が見えているときは、用紙を引き抜き、取り除きます。
用紙が取り除けないときは、手順**4.**に進んでください。



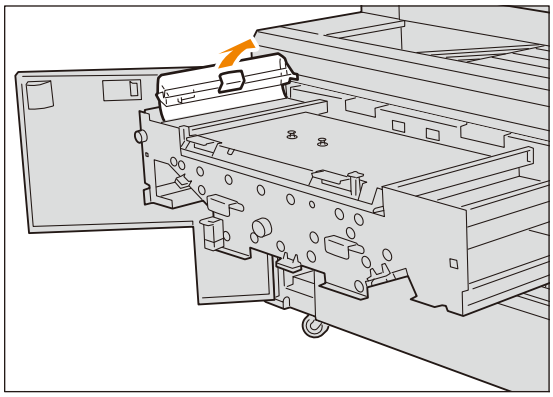
4. ノブを右側にランプが消えるまで回します。



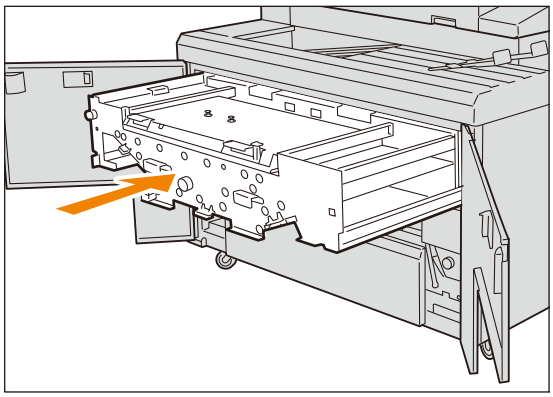
5. 両手でレバーを引き、調整部を引き出します。



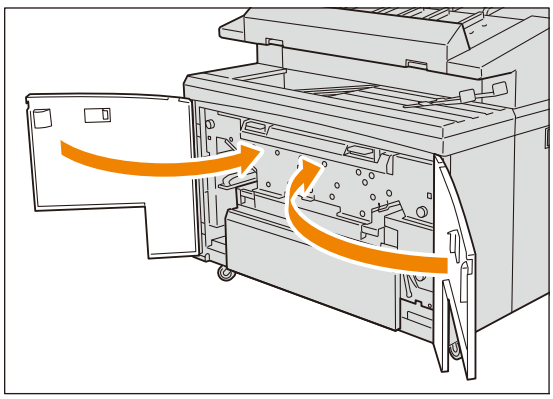
6. 内部カバーを開け、用紙を取り除きます。



7. 内部カバーを閉じ、調整部を奥まで押し込みます。



8. フォルダーのフロントドアを閉じます。



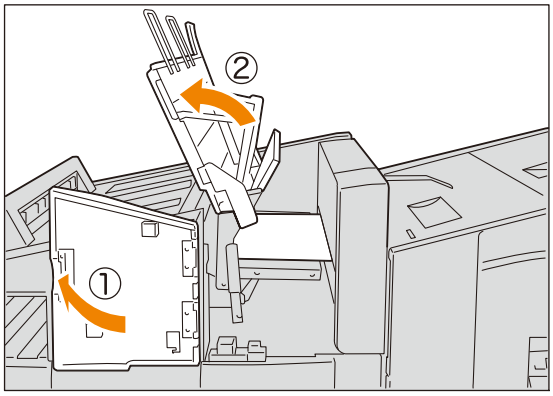
10.10.15 プリンター接続部とファン折り部以降にまたがった紙づまり（[J11]、[J13] および [J14] 以降が同時に点灯したとき）

プリンターのパネルで［J11］、［J13］および［J14］以降が複数同時に点灯しているときは、複数の箇所にまたがった紙づまりが発生しています。

1. 接続部の上部ドアを開けます（①）。

2. 接続部の上部カバーを開けます（②）。

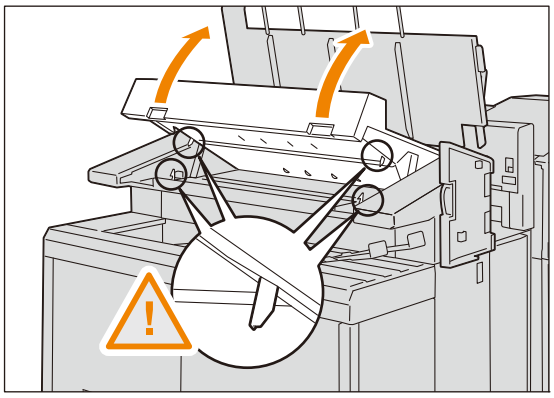
用紙がプリンターとフォルダーの接続部にまたがっていることを確認します。



3. 両側のレバーを引いてフォルダートレイを開けます。

注記

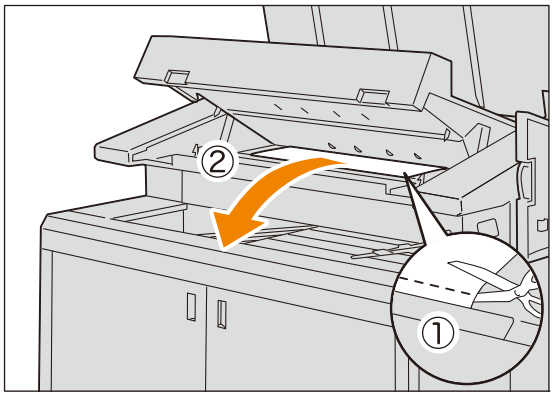
- フォルダートレイを開けたときに、フォルダートレイの留め具が露出しています。用紙をカットするときには、留め具にご注意ください。



4. はさみなどで、カット位置に合わせて用紙をカットします（①）。

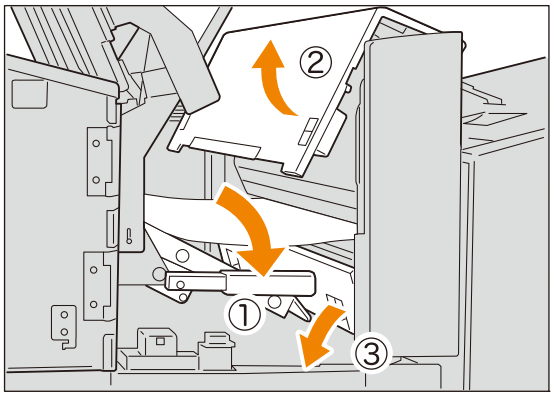
5. カットした用紙を取り除きます（②）。

用紙を破らないように取り除いてください。
プリンター側の用紙が取り除けた場合は、手順 **13.** に進みます。



6. レバーを右に倒し、内部カバーを開けます（①）。

7. プリンターのレフトドア（上下）を開けます（②）（③）。

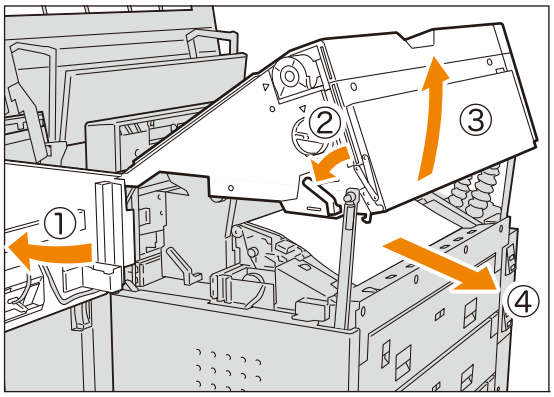


注記
- 警告および注意ラベルの貼り付け位置を確認のうえ、操作してください。
詳細については、『かんたんガイド』の「警告および注意ラベルの貼り付け位置」を参照してください。

8. プリンターのフロントドアを開けます（①）。

9. レバーを左に回して、プリンター上部を開けます（②）。

10. プリンター上部をストッパーがかかるまで持ち上げます（③）。



補足
- ロール紙トレイで用紙がカットされていない場合は、用紙をカットしてください。

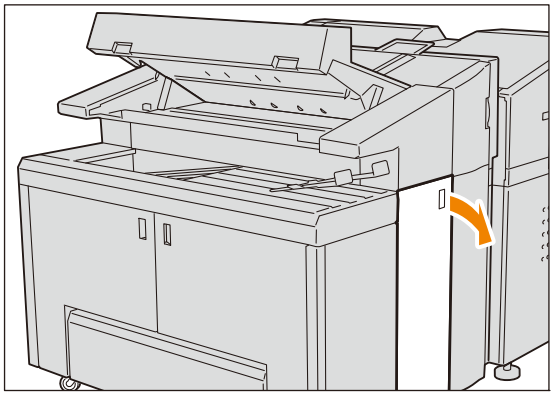
11. 用紙を取り除きます（④）。
用紙を破らないように取り除いてください。

補足
- プリンター本体側から用紙が取り除けない場合は、フォルダートレイ側から取り除いてください。そのとき、プリンター本体は開けておいてください。

12. プリンター上部、フロントドア、レフトドア（上下）、フォルダーの内部カバー、接続部の上部カバー、上部ドアを順に閉めます。

補足
- フォルダートレイは開けたままにしてください。

13. フォルダーのセンタードアを開けます。



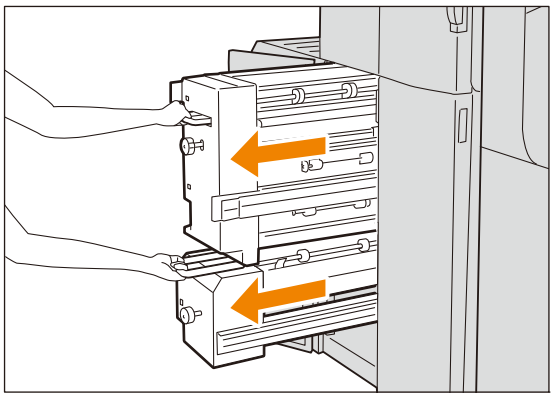
14. ファン折り部の［J14］ランプが点灯している場合、ランプが消えるまでノブを右に回して用紙を引き込みます。

補足

- ノブが空回りする場合は、フォルダートレイ側の用紙を引いて、用紙のゆるみをなくしてください。

15. 第一折り部の［J16］ランプが点灯している場合、ランプが消えるまでノブを右へ回します。

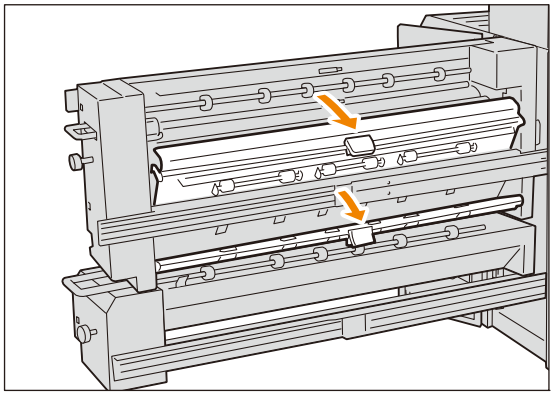
16. ハンドルを持ち、ファン折り部と第一折り部を同時に引き出します。



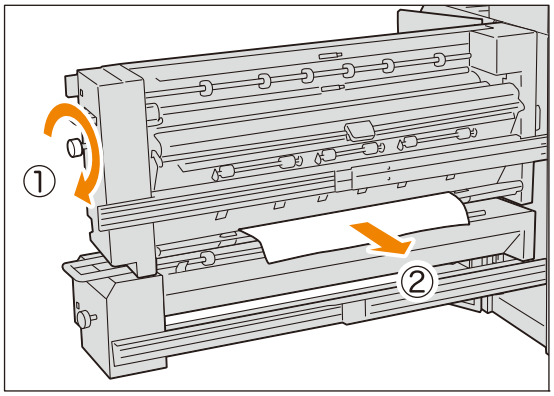
注記

- ファン折り部と第一折り部にまたがっている用紙が破けるので、別々に引き出さないでください。

17. ファン折り部の内部カバー（2箇所）を開きます。

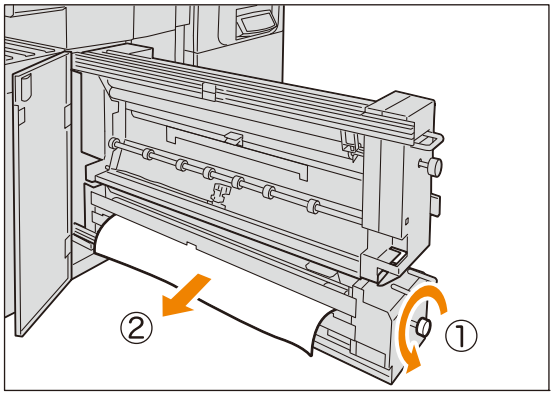


18. ファン折り部のノブを右に回し（①）、用紙を外に出します（②）。



補足
- 用紙が外にでなかったり、ノブが固くて回らない場合、一番上のカバー内から用紙を引っ張りながら、ノブを左に回します。その後、引っ張り出した用紙を伸ばしながら、ノブを右に回して用紙を外に出します。

19. 第一折り部のノブを左へ回し（①）、用紙を取り除きます（②）。



補足
- 取り除いた用紙に、欠けている箇所がある場合、ファン折り部、第一折り部の内部、接続部の出口付近などで用紙片が残っているかを確認してください。残っていた場合は、用紙片を取り除いてください。

20. ファン折り部の内部カバー（2箇所）を閉じます。

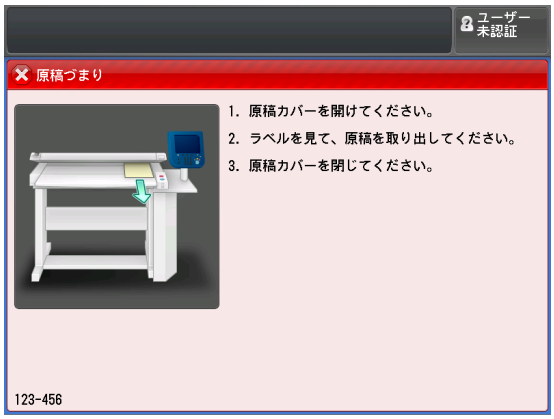
21. ファン折り部と第一折り部を、奥まで押し込みます。

補足
- ファン折り部と第一折り部を同時に押し込む必要はありません。

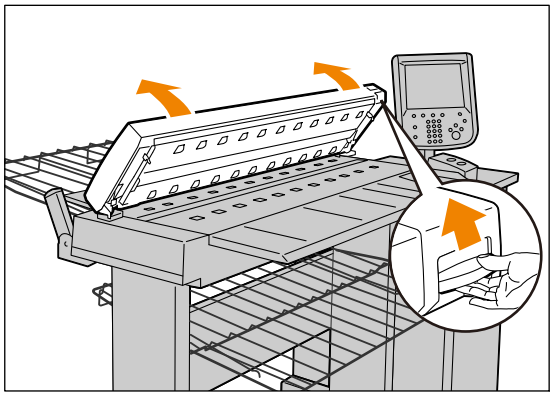
22. フォルダーのセンタードアとフォルダートレイを閉じます。

10.11 原稿が詰まった場合

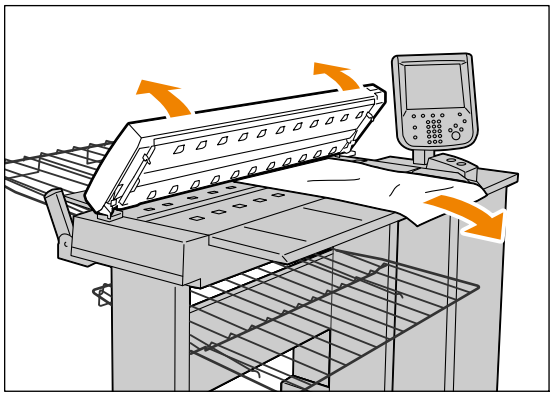
原稿テーブルで原稿が詰まると、機械が停止し、タッチパネルディスプレイにエラーメッセージが表示されます。表示されたメッセージに従って、原稿づまりの処置をしたあと原稿をセットし直します。



1. 原稿カバーの右端のレバーを上げて、原稿カバーを持ち上げます。

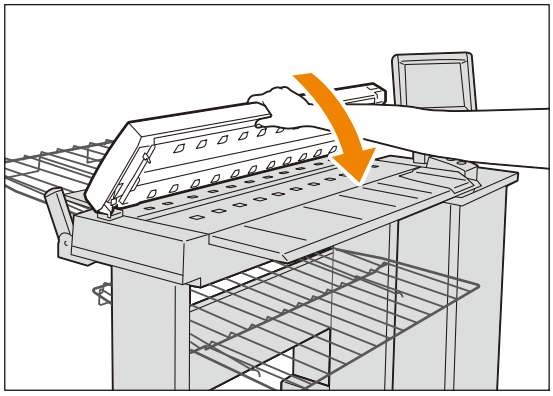


2. 原稿を手前に引いて取り除きます。



3. 原稿カバーを元に戻します。

4. 原稿に、破れ、しわ、折れがないことを確認し、タッチパネルディスプレイに表示されているメッセージに従って、原稿をもう一度セットします。



10.12 こんなときには

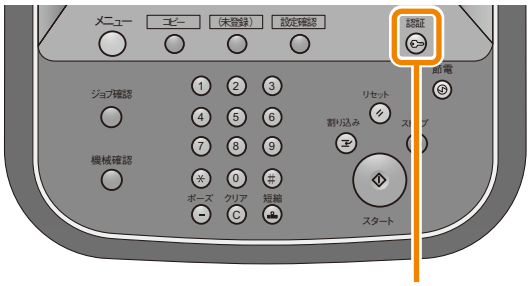
参照先は次のとおりです。

- 自動リセットの時間を長くしたい P.355
- 節電に入るまでの時間を長くしたい（節電モード移行時間を変更する） P.357
- 初期表示画面を変更したい P.358
- 1ボタンで所望の画面に行きたい（〈登録ボタン〉へ登録する） P.359
- マニュアルモードを初期画面にしたい P.360
- スキャンデータの出力ファイル形式の初期設定を変えたい P.361
- グレースタンプの濃度を変えたい P.362
- 赤黒コピー時に黒線を細くしたい P.363
- 自動的に用紙を切り替えたくない P.364
- 本機を使用しないときの消費電力を節約したい P.365

10.12.1 自動リセットの時間を長くしたい

自動リセットの時間を長くする場合は、次の設定をします。

1. 〈認証〉ボタンを押します。

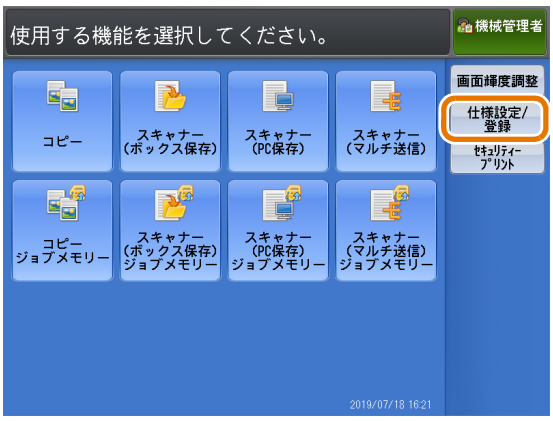


2. 操作パネルの〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者のUser IDを入入し、[決定]を押します。

補足

- User IDの工場出荷時の値は、「　　」です。
- 本機の設定によっては、表示内容が異なることがあります。

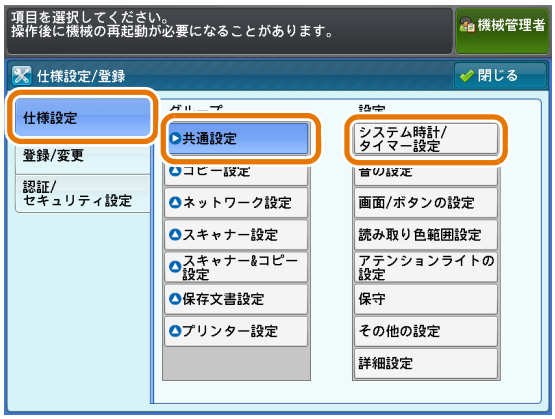
3. メニュー画面で［仕様設定/登録］を押します。



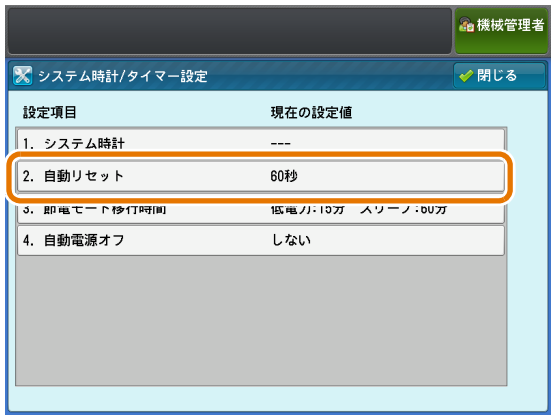
補足

- メニュー画面が表示されていないときは、操作パネルの〈メニュー〉ボタンを押して、表示してください。

4. ［仕様設定］＞［共通設定］＞［システム時計 / タイマー設定］を押します。



5. ［自動リセット］を押します。

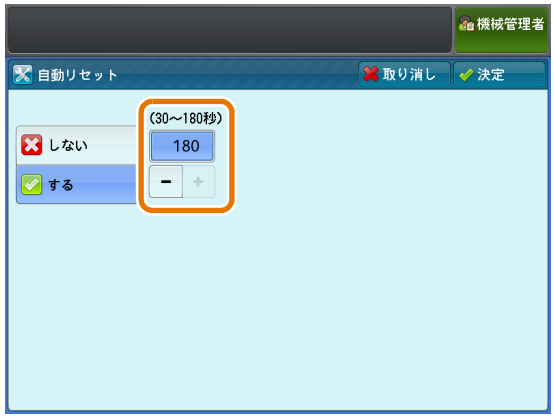


6. 自動リセットの移行時間を、操作パネルの〈数字〉ボタンで数値を入力するか、［+］［−］を押して、1秒単位で設定します。

7. ［決定］を押します。

8. ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

9. ［閉じる］を押します。



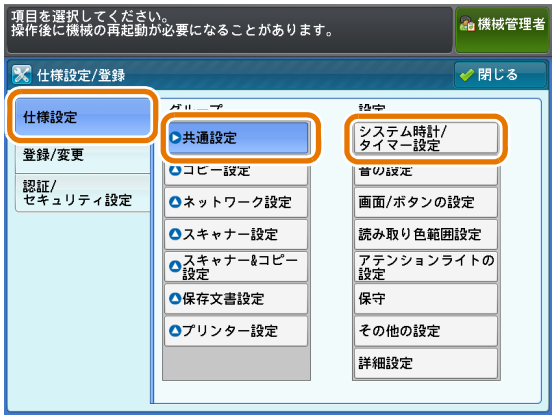
10.12.2　節電に入るまでの時間を長くしたい（節電モード移行時間を変更する）

節電機能を設定する手順について説明します。
節電機能を利用するには、低電力モードに移行するまでの時間と、スリープモードに移行するまでの時間の両方を設定します。

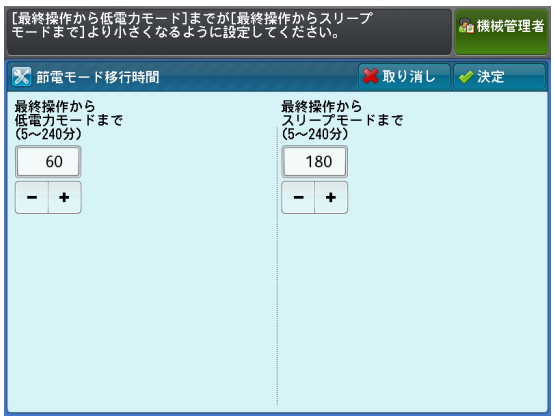
補足
- 低電力モードまでの時間とスリープモードまでの時間は5～240分の間で、それぞれ1分単位で指定できます。

1. 操作パネルの〈認証〉ボタンを押します。
2. 操作パネルの〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者のUser IDを入力し、[決定]を押します。

   補足
   - User IDの工場出荷時の値は、「　　」です。
   - 本機の設定によっては、表示内容が異なることがあります。
3. メニュー画面で[仕様設定/登録]を押します。
4. [仕様設定]＞[共通設定]＞[システム時計 / タイマー設定]を押します。
5. [節電モード移行時間]を選択し、[確認/変更]を押します。



6. 節電モードの移行時間を、操作パネルの〈数字〉ボタンで数値を入力するか、[+][−]を押して、1分単位で設定します。



最終操作から低電力モードまで

最終操作から低電力モードに移行するまでの時間を設定します。

最終操作からスリープモードまで

最終操作からスリープモードに移行するまでの時間を設定します。

補足
- [最終操作からスリープモードまで]の時間は、[最終操作から低電力モードまで]の時間より大きくなるように設定してください。

7. [決定]を押します。
8. [仕様設定/登録]画面が表示されるまで、[閉じる]を押します。
9. [閉じる]を押します。

10.12.3　初期表示画面を変更したい

電源を入れたときや節電状態を解除したとき、自動リセット機能が働いたときに、表示する画面を変更できます。

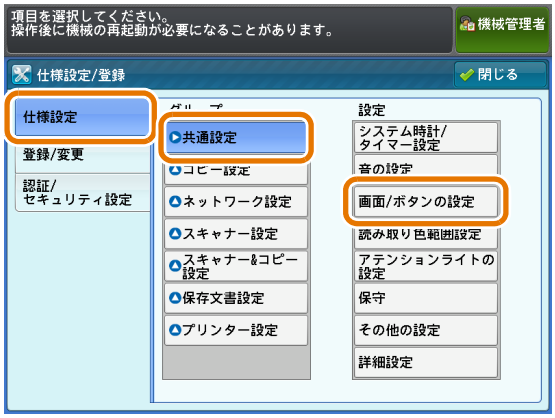
補足

- ［自動リセット後の画面］で［初期表示画面］を選択すると、自動リセット機能が働いたときに初期表示画面が表示されます。選択方法については、「自動リセット後の画面」（P.380）を参照してください。
- ユーザーによって、制限されている機能が初期表示画面に設定されている場合は、メニュー画面が表示されます。

1. 操作パネルの〈認証〉ボタンを押します。
2. 操作パネルの〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者のUser IDを入力し、［決定］を押します。

   補足

   - User IDの工場出荷時の値は、「　　」です。
   - 本機の設定によっては、表示内容が異なることがあります。
3. メニュー画面で［仕様設定/登録］を押します。
4. ［仕様設定］＞［共通設定］＞［画面/ボタンの設定］を押します。

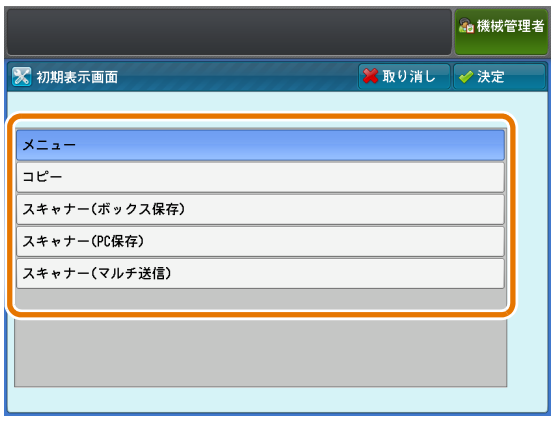


5. ［初期表示画面］を押します。

6. 初期表示する画面を選択します。

補足
- ［スキャナー & コピー］は、初期表示画面に設定できません。

7. ［決定］を押します。



10.12.4 1ボタンで所望の画面に行きたい（〈登録ボタン〉へ登録する）

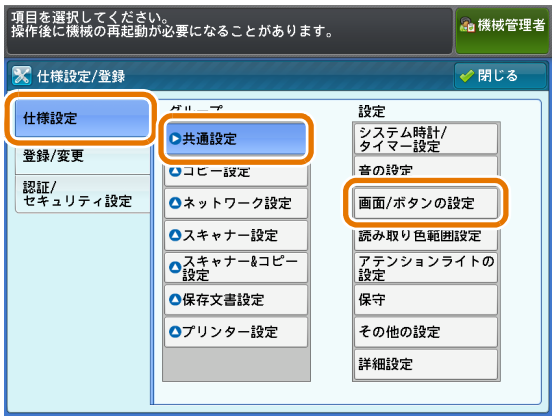
操作パネルの登録1～3ボタンに、機能を割り当てることができます。
登録ボタンに機能を登録しておくと、機能を切り替えるときに、メニュー画面に戻らなくても、直接機能の画面を表示できます。機能を割り当てない場合は、［(未設定)］を選択します。
ここでは、登録2ボタンに［スキャナー（ボックス保存)］を割り当てる場合を例に説明します。

補足
- 登録内容を変更したときは、本機に同梱の「操作パネル　機能名称貼り替えラベル」を貼ってください。ラベルにない機能を登録した場合は、未記入のラベルに油性ペンで機能を記入してご利用ください。なお、ラベルには、本機に搭載されていない機能やオプションで提供される機能も含まれています。
- ［スキャナー &コピー］は登録できません。

1. 操作パネルの〈認証〉ボタンを押します。
2. 操作パネルの〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者のUser IDを入力し、［決定］を押します。

補足
- User IDの工場出荷時の値は、「　　」です。
- 本機の設定によっては、表示内容が異なることがあります。

3. メニュー画面で［仕様設定/登録］を押します。
4. ［仕様設定］＞［共通設定］＞［画面/ボタンの設定］を押します。



5. ［登録2ボタン］を押します。

6. ［スキャナー（ボックス保存）］を押します。
7. ［決定］を押します。

10.12.5　マニュアルモードを初期画面にしたい

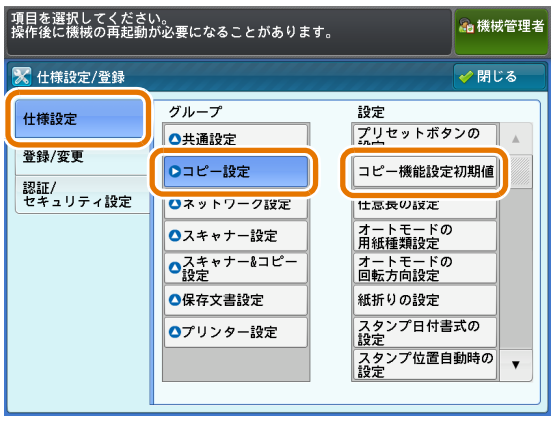
コピーのマニュアルモードを初期画面にする場合は、次の設定を行います。

1. 操作パネルの〈認証〉ボタンを押します。
2. 操作パネルの〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［決定］を押します。

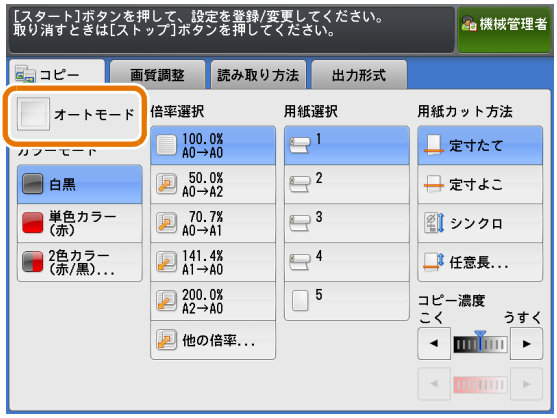
補足
- User IDの工場出荷時の値は、「　　」です。
- 本機の設定によっては、表示内容が異なることがあります。

3. メニュー画面で［仕様設定/登録］を押します。

4. ［仕様設定］＞［コピー設定］＞［コピー機能設定初期値］を押します。



5. ［オートモード］チェックボックスをオフにして、操作パネルの〈スタート〉ボタンを押します。



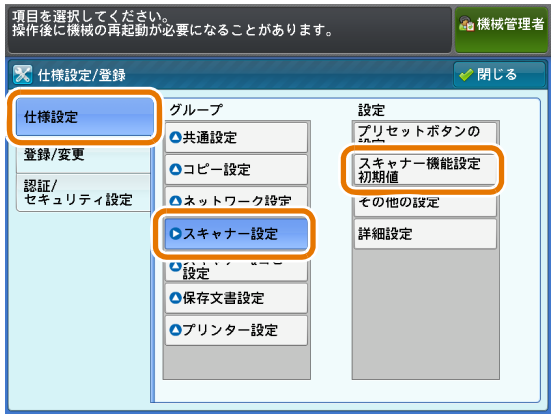
10.12.6　スキャンデータの出力ファイル形式の初期設定を変えたい

スキャンデータの出力ファイル形式の初期設定を変更する場合、次の設定をします。

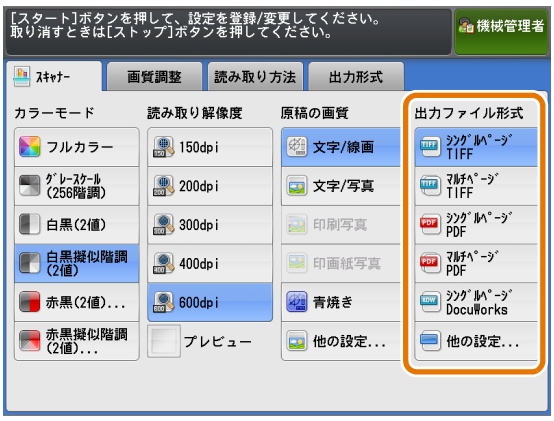
1. 操作パネルの〈認証〉ボタンを押します。
2. 操作パネルの〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［決定］を押します。

補足
- User IDの工場出荷時の値は、「　　」です。
- 本機の設定によっては、表示内容が異なることがあります。

3. メニュー画面で［仕様設定/登録］を押します。
4. ［仕様設定］＞［スキャナー設定］＞［スキャナー機能設定初期値］を押します。



5. ［出力ファイル形式］でファイル形式を設定して、操作パネルの〈スタート〉ボタンを押します。



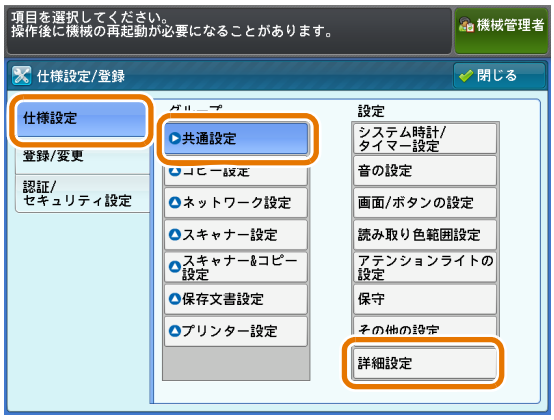
10.12.7　グレースタンプの濃度を変えたい

グレーのスタンプの濃度を変える場合は、次の設定をします。

1. 操作パネルの〈認証〉ボタンを押します。
2. 操作パネルの〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者のUser IDを入力し、［決定］を押します。

補足
- User IDの工場出荷時の値は、「　　」です。
- 本機の設定によっては、表示内容が異なることがあります。

3. メニュー画面で［仕様設定/登録］を押します。
4. ［仕様設定］>［共通設定］>［詳細設定］を押します。



5. ［項目番号］をに「34」を入力して、［確認/変更］を押します。
6. ［変更値］に0～4を入力します。

補足
- 変更値の内容は、次のとおりです。
  - 0：うすい
  - 1：普通（初期値）
  - 2：ややこい
  - 3：こいめ
  - 4：こい

7. ［確認/変更］を押します。

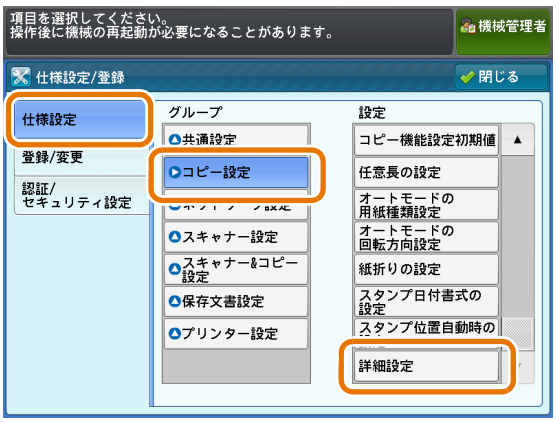
10.12.8　赤黒コピー時に黒線を細くしたい

装置の状態によっては、赤黒コピー時に黒線が太くなる場合があります。ここでは、黒線を細くする方法について説明します。

1. 操作パネルの〈認証〉ボタンを押します。
2. 操作パネルの〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者のUser IDを入力し、[決定]を押します。

   補足
   - User IDの工場出荷時の値は、「　　」です。
   - 本機の設定によっては、表示内容が異なることがあります。

3. メニュー画面で[仕様設定/登録]を押します。
4. [仕様設定]>[コピー設定]>[詳細設定]を押します。

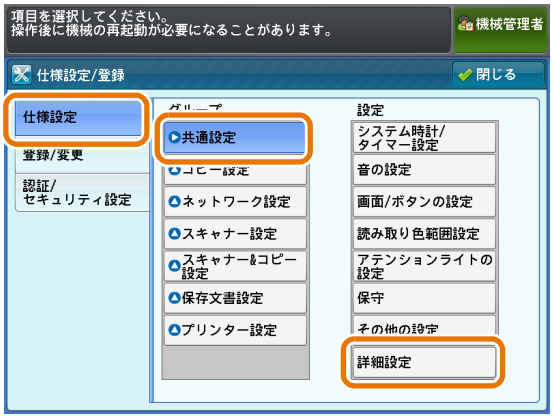


5. [項目番号]に「61」を入力して、[確認/変更]を押します。
6. [変更値]に「1」を入力します。

   補足
   - 変更値の内容は、次のとおりです。
     - 0：機能OFF（初期値）
     - 1：機能ON

7. [確認/変更]を押します。
8. [閉じる]を押します。

9. [共通設定]>[詳細設定]を押します。



10. [項目番号] をに「64」を入力して、[確認/変更] を押します。

11. [変更値] に、黒細線化のレベル0～2を入力します。

補足
- 変更値の内容は、次のとおりです。
  - 0：弱
  - 1：中（初期値）
  - 2：強

12. [確認/変更] を押します。

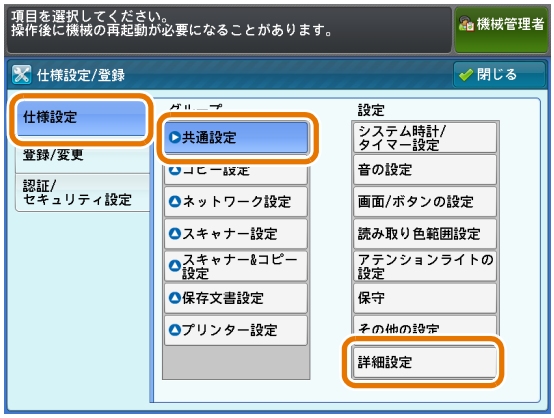
10.12.9 自動的に用紙を切り替えたくない

カット紙が用紙切れしても自動的にロール紙に切り替えたくない場合や、ロール紙が用紙切れしても自動的にカット紙に切り替えたくない場合は、次の設定をします。

1. 操作パネルの〈認証〉ボタンを押します。
2. 操作パネルの〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、[決定] を押します。

補足
- User IDの工場出荷時の値は、「　　」です。
- 本機の設定によっては、表示内容が異なることがあります。

3. メニュー画面で [仕様設定/登録] を押します。
4. [仕様設定] > [共通設定] > [詳細設定] を押します。



カット紙が用紙切れしても自動的にロール紙に切り替えたくない場合

5. [項目番号] に「30」を入力して、[確認/変更] を押します。
6. [変更値] に「0」を入力します。

ロール紙が用紙切れしても自動的にカット紙に切り替えたくない場合

7. ［項目番号］に「31」を入力して、［確認/変更］を押します。
8. ［変更値］に「0」を入力します。
9. ［確認/変更］を押します。

10.12.10 本機を使用しないときの消費電力を節約したい

本機は主電源スイッチを切った状態でも、スキャナー（100 V電源）は4.5 W以下、プリンター（200 V電源）は19 W以下の電力を消費しています。この消費電力を回避（または節約）するには、次の手順でスキャナーとプリンターの電源ブレーカーを「切」にします。

注記
- 電源ブレーカーの切/入は、必ず次の手順で行ってください。

電源ブレーカーを切る

1. スキャナーの主電源スイッチを切ります。
2. 操作パネルの［主電源］ランプが消灯していることを確認してから、プリンターの電源スイッチを切ります。
3. プリンターの電源ブレーカーを切ります。
4. スキャナーの電源ブレーカーを切ります。

電源ブレーカーを入れる

1. プリンターの電源ブレーカーを入れます。
2. プリンターの電源スイッチを入れます。
3. スキャナーの電源ブレーカーを入れます。
4. スキャナーの主電源スイッチを入れます。

第11章 仕様設定

本機の各機能には、工場出荷時の値が設定されていますが、使用環境に合わせて設定値を変更できます。設定値の変更は、機械管理者モードに入って、[仕様設定/登録]画面で行います。
この章では、機械管理者を対象に、設定値を変更できる機能と設定手順について説明します。

11.1 仕様設定の流れ 368
11.2 仕様設定メニュー一覧 373
11.3 共通設定 377
11.4 コピー設定 390
11.5 ネットワーク設定 399
11.6 スキャナー設定 408
11.7 スキャナー &コピー設定 412
11.8 保存文書設定 413
11.9 プリンター設定 415
11.10 認証/セキュリティ設定 419
11.11 点検/修理依頼 433

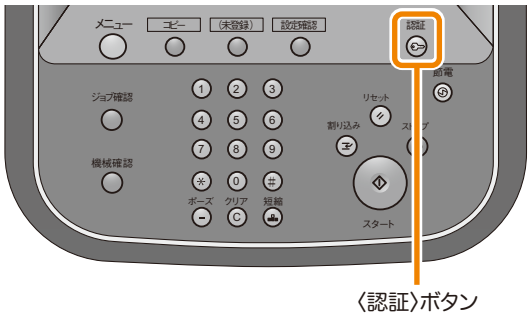
11.1　仕様設定の流れ

仕様を設定/変更するには、機械管理者モードに入る必要があります。
ここでは、仕様設定の基本的な操作について説明します。仕様設定の流れと参照先は、次のとおりです。

- Step1 機械管理者モードに入る P.368
- Step2 機械管理者のUser ID、パスワードを入力する P.368
- Step3 ［仕様設定/登録］を選択する P.369
- Step4 ［仕様設定/登録］画面から項目を選択する P.370
- Step5 機能を設定する P.371
- Step6 機械管理者モードを終了する P.372

11.1.1　Step1 機械管理者モードに入る

1. 〈認証〉ボタンを押します。



11.1.2　Step2 機械管理者のUser ID、パスワードを入力する

機械管理者モードに入るために、機械管理者のUser IDを入力します。また、［認証/セキュリティ設定］>［認証の設定］>［本体パネルのパスワード使用］で、［本体パネルのパスワード使用］を［する］に設定している場合は、パスワードの入力が必要です。
機械管理者のUser IDおよびパスワードは、本機を設置したあと、すぐに変更することをお勧めします。

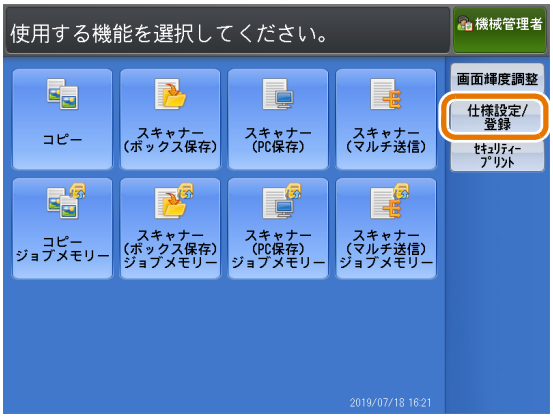
参照 • 変更方法については、「11.10.1 機械管理者情報の設定」（P.419）を参照してください。

1. 操作パネルの〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者のUser IDを入力し、[決定]を押します。

補足
- User IDの工場出荷時の値は、「　　」です。
- 本機の設定によっては、表示内容が異なることがあります。
- 機械管理者モードに入ると、〈認証〉ボタンは点灯します。

11.1.3 Step3 [仕様設定/登録]を選択する

1. メニュー画面で[仕様設定/登録]を押します。



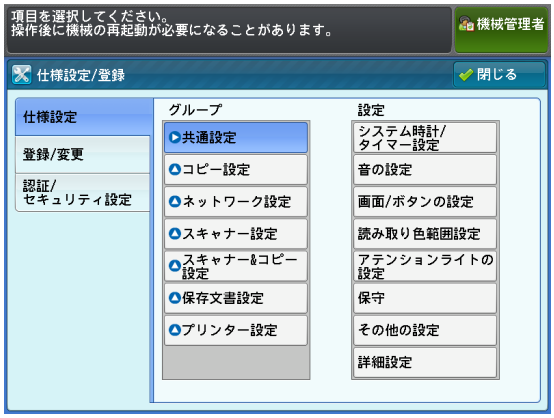
補足
- メニュー画面が表示されていないときは、操作パネルの〈メニュー〉ボタンを押して、表示させてください。

11.1.4　Step4 ［仕様設定/登録］画面から項目を選択する

［仕様設定/登録］画面で、設定する項目を選択します。

参照 • ［仕様設定/登録］画面で設定できる項目については、「11.2 仕様設定メニュー一覧」（P.373）を参照してください。

1. 設定するタブを選択します。



仕様設定

各機能の初期値などを設定/変更できます。

- 共通設定

機械本体の共通機能に関した項目を設定します。

参照 • 詳細については、「11.3　共通設定」（P.377）を参照してください。

- コピー設定

コピー機能の初期値、コピー時の動作、ボタンの表示方法などの設定ができます。

参照 • 詳細については、「11.4 コピー設定」（P.390）を参照してください。

- ネットワーク設定

ポートやプロトコルなどの設定ができます。

参照 • 詳細については、「11.5 ネットワーク設定」（P.399）を参照してください。

- スキャナー設定

スキャン機能の初期値、スキャン時の動作などの設定ができます。

参照 • 詳細については、「11.6 スキャナー設定」（P.408）を参照してください。

- スキャナー ＆コピー設定

スキャナー ＆コピー機能の初期値を設定できます。

参照 • 詳細については、「11.6 スキャナー設定」（P.408）を参照してください。

● 保存文書設定

親展ボックスに保存されている文書の削除方法の設定ができます。

参照 • 詳細については、「11.8 保存文書設定」（P.413）を参照してください。

● プリンター設定

プリント時の動作の設定ができます。

参照 • 詳細については、「11.9 プリンター設定」（P.415）を参照してください。

登録/変更

ジョブメモリー、親展ボックス、宛先などの登録や変更ができます。

参照 • 詳細については、「第7章 登録/設定」（P.237）を参照してください。

認証/セキュリティ設定

機械管理者情報、スタンプデータ管理者情報、認証方法などの設定ができます。

参照 • 詳細については、「11.10 認証/セキュリティ設定」（P.419）を参照してください。

11.1.5 Step5 機能を設定する

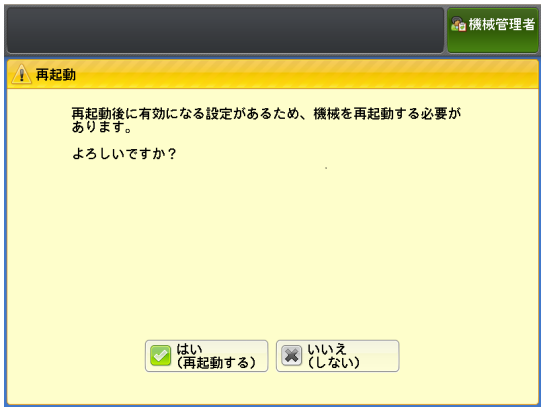
1. 任意の機能を選択します。

   補足 • 必要に応じて、[▲]、[▼]を押してください。

2. 設定する項目を選択します。
3. 機能を設定したら、[決定]を押します。

4. メニュー画面に戻るまで、［閉じる］を押します。

補足
- 設定を有効にするための再起動が必要な場合は、［仕様設定/登録］画面で［閉じる］を押すと、［再起動］画面が表示されます。



11.1.6 Step6 機械管理者モードを終了する

1. 操作パネルの〈認証〉ボタンを押します。

補足
- 機械管理者モードを終了すると、〈認証〉ボタンは消灯します。

11.2　仕様設定メニュー一覧

次の表は、設定できる項目の一覧です。表示される項目は、機械の構成によって異なります。

共通設定		
	「11.3.1 システム時計 / タイマー設定」(P.378)	• 「システム時計」(P.378) • 「自動リセット」(P.378) • 「節電モード移行時間」(P.378)
	「11.3.2 音の設定」(P.379)	
	「11.3.3 画面/ボタンの設定」(P.380)	• 「初期表示画面」(P.380) • 「自動リセット後の画面」(P.380) • 「登録1～3ボタン」(P.380) • 「メニュー画面の機能配列」(P.380) • 「メニュー画面の補助機能配列」(P.381)
	「11.3.4 読み取り色範囲指定」(P.381)	
	「11.3.5 アテンションライトの設定」(P.382)	• 「ライトの点灯」(P.382) • 「ブザーの鳴動」(P.382)
	「11.3.6 保守」(P.383)	• 「点検/修理依頼」(P.383) • 「EP通信確認」(P.383) • 「データの一括削除」(P.383) • 「ソフトウェアオプションの設定」(P.383)
	「11.3.7 その他の設定」(P.384)	• 「原稿読み込み開始方法」(P.384) • 「原稿サイズ検知切り替え」(P.384) • 「データの暗号化」(P.385) • 「ソフトウェアダウンロード」(P.386) • 「宛先表登録/変更の制限」(P.386) • 「ジョブログ収集時のスタンプ色優先度」(P.386)
	「11.3.8 詳細設定」(P.386)	
コピー設定		
	「11.4.1 プリセットボタンの設定」(P.391)	• 「倍率ボタン2～5段目」(P.391)
	「11.4.2 コピー機能設定初期値」(P.391)	
	「11.4.3 任意長の設定」(P.393)	
	「11.4.4 オートモードの用紙種類設定」(P.394)	
	「11.4.5 オートモードの回転方向設定」(P.395)	
	「11.4.6 紙折りの設定」(P.395)	• 「自動排出回転」(P.395)

	「11.4.7 スタンプ日付書式の設定」(P.396)	• 「SOAP」(P.401) • 「年」(P.396) • 「月」(P.396) • 「頭文字」(P.396) • 「区切り文字」(P.396)
	「11.4.8 スタンプ位置自動時の設定」(P.397)	
	「11.4.9 詳細設定」(P.398)	
ネットワーク設定		
	「11.5.1 ポート設定」(P.400)	• 「LPD」(P.400) • 「SMB」(P.400) • 「SNMP」(P.400) • 「FTP」(P.400) • 「インターネットサービス(HTTP)」(P.401) • 「SOAP」(P.401) • 「WebDAV」(P.401)
	「11.5.2 プロトコル設定」(P.401)	• 「Ethernet設定」(P.401) • 「TCP/IP - IP動作モード」(P.402) • 「IPv4 - IPアドレス」(P.402) • 「IPv4 - サブネットマスク」(P.402) • 「IPv4 - ゲートウェイアドレス」(P.402) • 「IPv6 - アドレスの手動設定」(P.402) • 「IPv6 - 手動設定IPアドレス」(P.402) • 「IPv6 - 手動IPアドレスプレフィクス」(P.403) • 「IPv6 - 手動設定ゲートウェイ」(P.403) • 「IPv6 - 自動設定アドレス」(P.403)
	「11.5.3 EP プロキシサーバー設定」(P.403)	• 「プロキシサーバーの使用」(P.403) • 「HTTPSプロシキサーバー - サーバー名」(P.403) • 「HTTPSプロシキサーバー - ポート番号」(P.403) • 「HTTPSプロシキサーバー - 認証」(P.403) • 「HTTPSプロシキサーバー - ログイン名」(P.404) • 「HTTPSプロシキサーバー - パスワード」(P.404)
	「11.5.4 外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定」(P.404)	• 「認証システムの設定」(P.404) • 「LDAP　サーバー /　ディレクトリサービス設定」(P.405)
	「11.5.5 SSL/TLS設定」(P.406)	• 「本体の証明書」(P.407) • 「HTTP-SSL/TLS通信」(P.407) • 「HTTP-SSL/TLS通信ポート番号」(P.407)
	「11.5.6 詳細設定」(P.407)	

スキャナー設定		
	「11.6.1 プリセットボタンの設定」(P.408)	• 「原稿の画質ボタン1～5段目」(P.408) • 「出力ファイル形式ボタン1～5段目」(P.409)
	「11.6.2 スキャナー機能設定初期値」(P.409)	
	「11.6.3 その他の設定」(P.411)	• 「TIFFの形式」(P.411) • 「マルチ送信プリンター転送フォーマット」(P.411)
	「11.6.4 詳細設定」(P.411)	
スキャナー＆コピー設定		
	「11.7.1 スキャナー＆コピー機能設定初期値」(P.412)	
保存文書設定		
	「11.8.1 保存文書設定」(P.413)	• 「文書の保存期間」(P.413) • 「蓄積プリントの削除」(P.414) • 「プリント時の確認画面の表示」(P.414)
プリンター設定		
	「11.9.1 ジョブリカバリー方法」(P.415)	
	「11.9.2 その他の設定」(P.416)	• 「VPI- 破線分割」(P.416) • 「VPI- シンボル設定」(P.416) • 「VPI- フォント番号設定」(P.416) • 「VPI- フォント番号優先」(P.416) • 「TIFF- 拡縮時の設定」(P.416) • 「HPGL- 円弧描画」(P.416) • 「HPGL- 破線描画」(P.416) • 「ラベルオフセット」(P.417) • 「位置合わせマークの描画位置」(P.417) • 「長辺判定」(P.417) • 「長辺判定-A0～A4」(P.417) • 「ディザパターン設定」(P.417) • 「細線黒ソリッド描画」(P.417)
	「11.9.3 詳細設定」(P.418)	
認証/セキュリティ設定		
	「11.10.1 機械管理者情報の設定」(P.419)	• 「機械管理者ID」(P.419) • 「機械管理者パスワード」(P.420)
	「11.10.2 スタンプデータ管理者情報の設定」(P.421)	• 「スタンプデータ管理者ID」(P.421) • 「スタンプデータ管理者パスワード」(P.421)

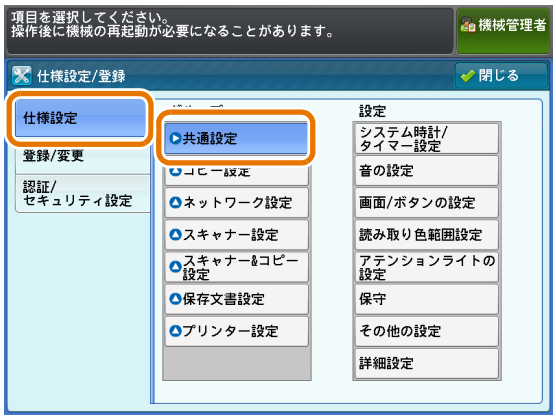
「11.10.3 認証の設定」(P.422)	• 「認証方式の設定」(P.422) • 「アクセス制御サービスへのアクセス」(P.423) • 「ユーザー登録」(P.424) • 「登録内容の削除/リセット」(P.425) • 「認証情報の設定」(P.426) • 「機械管理者認証の上限」(P.426) • 「本体パネルのパスワード使用」(P.427) • 「プライベートプリントの設定」(P.428) • 「詳細設定」(P.429)
「11.10.4 ジョブの操作の設定」(P.429)	• 「実行完了ジョブの表示設定」(P.429)
「11.10.5 ハードディスクの上書き消去設定」(P.431)	• 「上書き回数の設定」(P.431)

11.3　共通設定

［共通設定］では、機械本体の共通機能に関連した項目を設定します。各項目の詳細と参照先は次のとおりです。

- システム時計/タイマー設定 P.378
- 音の設定 P.379
- 画面/ボタンの設定 P.380
- 読み取り色範囲指定 P.381
- アテンションライトの設定 P.382
- 保守 P.383
- その他の設定 P.384
- 詳細設定 P.386

1. ［仕様設定/登録］画面で、［仕様設定］＞［共通設定］を押します。



参照

- ［仕様設定/登録］画面を表示する方法については、「11.1 仕様設定の流れ」（P.368）を参照してください。

2. 設定/変更する項目を選択します。

11.3.1　システム時計/タイマー設定

時刻をセットしたり、節電やリセットなどの機能が働くまでの時間（タイマー）を設定します。

1. ［システム時計/タイマー設定］を押します。
2. 必要に応じて項目を設定し、［閉じる］を押します。

システム時計

本機のシステム時計の日付と時刻を指定します。ここで指定された日付と時刻が、リストやレポートにプリントされます。
［年］、［月］、［日］、［時］、［分］を指定します。
［日付の形式］から［年/月/日］、［月/日/年］、［日/月/年］のいずれかを選択すると、［年］、［月］、［日］の順番が変更できます。

自動リセット

何も操作をしない状態で一定の時間が経過したとき、自動的にリセットされる時間を指定します。
［する］を選択した場合は、30～180秒の範囲で1秒単位で設定します。
指定しない場合は、［しない］を選択してください。
工場出荷時の値は、［60］秒です。

節電モード移行時間

節電モードには、「低電力モード」と「スリープモード」があり、設定時間が経過すると次のように移行し、消費電力を下げます。
「本機を最後に操作（最終操作）」→「低電力モード」→「スリープモード」

補足
- 低電力モードおよびスリープモードに移行しないように設定することはできません。

最終操作から低電力モードまで

最終操作から低電力モードに移行するまでの時間を、5～240分の範囲で1分単位で設定します。
工場出荷時の値は、［15］分です。

最終操作からスリープモードまで

最終操作からスリープモードに移行するまでの時間を5～240分の範囲で1分単位で設定します。
工場出荷時の値は、［60］分です。

補足
- ［最終操作からスリープモードまで］の時間は、［最終操作から低電力モードまで］の時間より大きくなるように指定してください。

11.3.2　音の設定

操作の確認音や機械の異常などを知らせる音を、鳴らすかどうかを設定します。
工場出荷時の値は、各項目ともに［中］です。

1. ［音の設定］を押します。
2. 必要に応じて項目を設定し、［閉じる］を押します。

設定項目	説　明	設定できる値
正常入力音	操作パネルに表示されているボタンを正しく選択したときに鳴る音量を設定します。	なし、小、中、大
異常入力音	選択できないボタンを選択したときや、エラーが発生している状態で操作をしたときに鳴る音量を設定します。	なし、小、中、大
基点音	トグル動作するボタン（繰り返し押すことで設定を切り替えることができるボタン）を押したときに鳴る音量を設定します。 また、割り込みと追加コピーが解除されたときにも鳴ります。	なし、小、中、大
準備完了音	電源を入れたときなど、機械がコピーやプリントできる状態になったときに鳴る音量を設定します。	なし、小、中、大
正常終了音	ジョブが正常に終了したときに鳴る音量を設定します。 対象ジョブを選択できます。	なし、小、中、大
異常終了音	ジョブが異常終了したときに鳴る音量を設定します。 対象ジョブを選択できます。	なし、小、中、大
自動リセット事前通知音	自動リセットの5秒前に鳴る音量を設定します。	なし、小、中、大
用紙切れ警告音	用紙トレイの用紙切れによって、ジョブが異常状態のまま保留になったときに鳴る音量を設定します。	なし、小、中、大
トナー残量警告音	トナーカートリッジが交換時期になったときに鳴る音量を設定します。	なし、小、中、大
原稿挿入音	原稿をセットしたときに鳴る音量を設定します。	なし、小、中、大

11.3.3　画面/ボタンの設定

電源を入れたときに表示する画面を設定したり、操作パネルの登録1～3ボタンに機能を登録します。

1. ［画面/ボタンの設定］を押します。
2. 必要に応じて項目を設定し、［閉じる］を押します。

初期表示画面

電源を入れたときや節電状態を解除したとき、自動リセット機能が働いたときに、表示する画面を設定します。
［メニュー］、［コピー］、［スキャナー（ボックス保存）］、［スキャナー（PC 保存）］、［スキャナー（マルチ保存）］から選択します。
工場出荷時の値は、［メニュー］です。

補足
- ［自動リセット後の画面］で［初期表示画面］を選択すると、自動リセット機能が働いたときに初期表示画面が表示されます。選択方法については、「自動リセット後の画面」（P.380）を参照してください。
- ［スキャナー＆コピー］は、初期表示画面に設定できません。

自動リセット後の画面

自動リセット後の画面を設定します。
［操作中の機能画面］または［初期表示画面］を選択します。
工場出荷時の値は、［操作中の機能画面］です。

登録1～3ボタン

操作パネルの登録1～3ボタンに、機能を登録することができます。
［コピー］、［スキャナー（ボックス保存）］、［スキャナー（PC保存）］、［スキャナー（マルチ送信）］、［コピージョブメモリー］、［スキャナー（ボックス保存）ジョブメモリー］、［スキャナー（PC保存）ジョブメモリー］、［スキャナー（マルチ送信）ジョブメモリー］から選択します。
機能を登録しない場合は、［(未設定)］を選択してください。
工場出荷時の値は、登録1ボタン［コピー］、登録2ボタン［(未設定)］、登録3ボタン［(未設定)］です。

補足
- すべての登録ボタンに同じ機能を登録することもできます。
- ［スキャナー＆コピー］は登録できません。

メニュー画面の機能配列

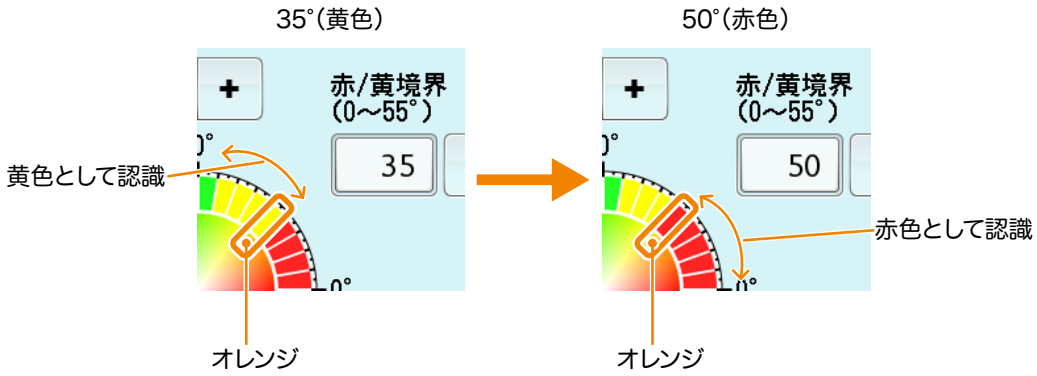
メニュー画面の機能ボタンの表示や表示順を変更できます。
［コピー］、［スキャナー（ボックス保存）］、［スキャナー（PC保存）］、［スキャナー（マルチ送信）］、［スキャナー＆コピー］、［コピージョブメモリー］、［スキャナー（ボックス保存）ジョブメモリー］、［スキャナー（PC 保存）ジョブメモリー］、［スキャナー（マルチ送信）ジョブメモリー］、［スキャナー＆コピージョブメモリー］から選択して設定します。
表示させない場合は、［(未設定)］を選択してください。

メニュー画面の補助機能配列

メニュー画面の機能補助ボタンの表示や表示順を変更できます。
［画面輝度調整］、［登録/変更］、［セキュリティプリント］から選択して設定します。
表示させない場合は、［(未設定)］を選択してください。

11.3.4　読み取り色範囲指定

色相環の度数を設定します。
各色の境界にある色を、どちらの色として認識するかを設定します。
たとえば、［赤/黄境界］が［35］に設定されている場合、下記のイラストの黄色と赤の中間にあるオレンジは黄色として認識されますが、［50］に設定すると、赤色として認識されます。



設定した読み取り色の範囲は、［カラーモード］や［色別濃度調整］で使用されます。
工場出荷時の値は、次のとおりです。

- 赤/黄境界：35
- 黄/緑境界：75
- 緑/水色境界：165
- 水色/青境界：225
- 青/紫境界：275
- 紫/赤境界：295

1. ［読み取り色範囲指定］を押します。
2. ［+］［−］を押して、数値を設定します。
3. ［決定］を押します。

11.3.5　アテンションライトの設定

アテンションライト（オプション）を装着している場合に、紙づまりや用紙切れなどの異常発生時にライトを点灯するかどうか、ブザーを鳴らすかどうかを設定します。

1. ［アテンションライトの設定］を押します。

補足
- オプションのアテンションライトが装着されている場合に、［アテンションライトの設定］が表示されます。

2. 必要に応じて項目を設定し、［閉じる］を押します。

ライトの点灯

異常発生時にアテンションライトを点灯するかどうかを設定します。［する］または［しない］を選択します。
工場出荷時の値は、［する］です。

ブザーの鳴動

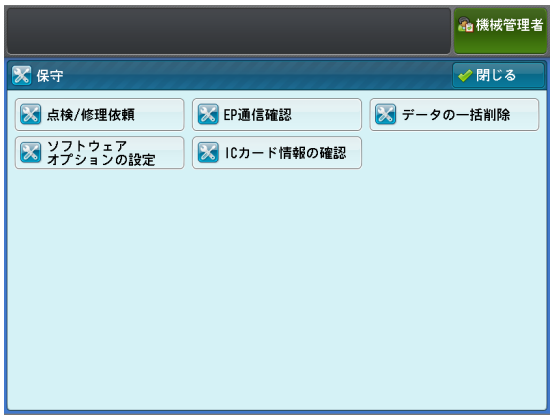
異常発生時にブザーを鳴らすかどうかを設定します。
［する］を選択した場合は、鳴動時間を［10秒］、［30秒］、［60秒］、［120秒］、［180秒］、［無制限］から選択します。ブザーを鳴らさない場合は、［しない］を選択してください。
工場出荷時の値は、［しない］です。

補足
- ［無制限］を選択すると、障害が対処されるまでブザーが鳴り続けます。

11.3.6　保守

点検/修理の依頼やデータの一括削除ができます。

1. ［保守］を押します。
2. 必要に応じて項目を設定し、［閉じる］を押します。



点検/修理依頼

補足
- この機能は、EPnet-BOX type W2を接続しEPシステムを利用している場合に表示されます。

参照
- 「11.11.1 点検 / 修理依頼」（P.433）を参照してください。

EP通信確認

本機能は、使用しないでください。
この機能は、カストマーエンジニアがEPシステムとの接続ができているかを確認するためのものです。

データの一括削除

本機能は、使用しないでください。
この機能は、弊社が本機を回収するときに、お客様の機密情報の漏えいを防ぐためのものです。データの一括削除を実行すると、本機に登録/設定したデータがすべて削除されます。

ソフトウェアオプションの設定

本機能は、使用しないでください。
この機能は、カストマーエンジニアが設定します。

ICカード情報の確認

ICカード情報が確認できます。

1. ICカードリーダーの上にICカードを置きます。
2. ［ICカード情報の確認］を押します。

11.3.7　その他の設定

1. ［その他の設定］を押します。
2. 必要に応じて項目を設定し、［閉じる］を押します。

原稿読み込み開始方法

原稿をセットしたあと、自動で読み込みを開始するか、スキャナーの〈原稿スタート〉ボタンで開始するかを設定します。
［自動スタート］または［マニュアルスタート］を選択します。工場出荷時の値は、［自動スタート］です。

補足　• コピー、スキャン、スキャナー＆コピーに対して有効です。

自動スタート

原稿をセットすると、自動的に読み込みを開始します。

マニュアルスタート

スキャナーの〈原稿スタート〉ボタンを押すと、原稿の読み込みを開始します。

原稿サイズ検知切り替え

定形サイズの原稿を自動的に検知するときの、原稿サイズを設定します。
［JIS系列］、［ISO系列］、［inch系列］から選択します。
工場出荷時の値は、［JIS系列］です。

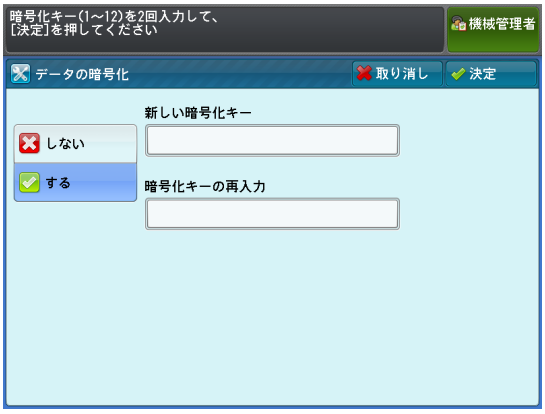
また、必要に応じて、特A系(A1)、特A系(A2)を設定します。
工場出荷時の値は、特A系（A1）が［620mm］、特A系（A2）が［440mm］です。

設定項目	原稿サイズ系列		表示される原稿の幅方向サイズ
JIS系列	A系		A0、A1、A2、A3、A4
	JIS B系		B1、B2、B3、B4、B5
	特A系	A0	880 mm、860 mm
		A1	625 mmまたは620 mmを選択
		A2	440 mmまたは435 mmを選択
ISO系列	A系		A0、A1、A2、A3、A4
	ISO B系		B1、B2、B3、B4、B5
	特A系	A0	880 mm、860 mm
		A1	625 mmまたは620 mmを選択
		A2	440 mmまたは435 mmを選択

設定項目	原稿サイズ系列	表示される原稿の幅方向サイズ
inch系列	Arch-1系	36"、24"、18"、12"、9"
	Arch-2系	30"、21"、15"、10.5"
	ANSI系	34"、22"、17"、11"、8.5"

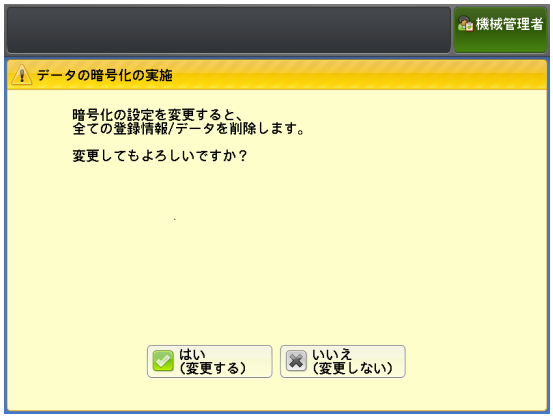
データの暗号化

本機のハードディスクに記録されるデータを暗号化するかどうかを設定します。
データの暗号化を設定すると、コピー、スキャン、プリントの処理で、ハードディスクにデータを書き込むときに自動的に暗号化されます。機能ごとに暗号化をするかしないかを設定することはできません。暗号化することにより、ハードディスクを取り出して、直接ハードディスク内の保存データを取り出す不正アクセスを防ぎます。
[する] を選択した場合は、[新しい暗号化キー]、[暗号化キーの再入力] を選択して、1～12桁までの暗号化キーを入力します。
データを暗号化しない場合は、[しない] を選択してください。工場出荷時の値は、[しない] です。



補足
- この機能を利用するにはオプションが必要になります。詳細については、弊社の営業担当者にお尋ねください。

[する] を選択して [決定] を押すと、[データの暗号化の実施] 画面が表示されます。
[はい（変更する）] または [いいえ（変更しない）] を選択します。



● データ暗号化機能の利用開始と設定変更について

データの暗号化の設定 / 解除、および暗号化キーを変更した場合、本機を再起動する必要があります。対応する記憶領域（ハードディスク）は、再起動時に初期化されます。このとき、切り替え前のデータは削除されます。
記憶領域には、次のようなデータが保存されます。

- スプールされているプリントデータ
- 親展ボックス内のスキャンデータ
- 宛先表のデータ

注記
- データの暗号化機能の利用開始と設定変更は、必ず、必要な設定や文書を保存してから行ってください（宛先表は、CentreWare Internet Servicesから取得してください）。
- 現在接続されているハードディスクが、暗号化の設定と一致しない場合は、エラーとなります。エラーメッセージと処置については、「10.9 エラーメッセージ」（P.317）を参照してください。
- カストマーエンジニアでも暗号化キーの参照や復元はできません。暗号化キーの内容を忘れないようにしてください。

補足
- データの暗号化の設定が完了するまで時間がかかります。

- データの暗号化の設定でエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。画面の指示に従って、本機を再起動してください。
- 次回起動時は、データの暗号化［しない］の設定で本機が起動します。
- データの暗号化の設定中は、コピー、スキャン、プリントなどの操作ができません。

ソフトウェアダウンロード

この機能は、カストマーエンジニアが設定します。弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

宛先表登録/変更の制限

［スキャン（PC 保存）］、［スキャン（マルチ送信）］時に使用する宛先の登録 / 変更を制限するかどうかを設定します。
［しない］または［する］を選択します。工場出荷時の値は、［しない］です。

補足
- ［する］に設定すると、機械管理者以外は宛先を登録/変更できません。

ジョブログ収集時のスタンプ色優先度

スタンプは、1 ページに付き 2 つまで押すことができますが、ApeosWare Log Management（JobLog Analyzer）で集計できるスタンプは1ページに付き1つです。
1ページに異なる色のスタンプを押した場合、どの色を集計するかを設定します。
［黒］、［赤］、［グレー］それぞれに1～3番目までの優先順位を設定できます。
工場出荷時の値は、次のとおりです。

- ［黒］：［1番目］
- ［赤］：［2番目］
- ［グレー］：［3番目］

11.3.8　詳細設定

1. ［詳細設定］を押します。
2. ［項目番号］を入力して、［確認/変更］を押します。

   参照
   - 項目番号については、「項目番号：共通設定」（P.387）を参照してください。
3. ［変更値］を入力します。
4. ［確認/変更］を押します。

項目番号：共通設定

項目番号	説　明	変更値	工場出荷時の値
3	原稿サイズの定形 / 非定形を判断するためのプラス方向のマージンを設定します。 5 mmに設定した場合は、定形サイズの数値より 5 mm 長いサイズまでを定形サイズとして判断します。	0～20（mm）	5（mm）
4	原稿サイズの定形 / 非定形を判断するためのマイナス方向のマージンを設定します。 5 mmに設定した場合は、定形サイズの数値より 5 mm 短いサイズまでを定形サイズとして判断します。	0～20（mm）	5（mm）
5	用紙カット方法：[シンクロ] によるコピーや、読み取りサイズ：[自動検知] によるスキャンを指定したときの読み取り保証の長さを設定します。	0～15（m） （0または実装メモリー以上の値を設定した場合は、コピー出力が終了するまで次の原稿の読み込みは行われない）	7（m）
8	スタンプ一覧をプリントするときに、給紙するロール/トレイを設定します。	1：ロール1 2：ロール2 3：ロール3 4：ロール4 5：トレイ5	5：トレイ5
9	スタンプ一覧をプリントするときの、用紙カット方法を設定します。	1：定寸たて 2：定寸よこ 3：シンクロ	1：定寸たて
12	プロットモードへ移行する時間を設定します。	3～60（秒）	30（秒）
14	追加コピー機能を使用するかどうかを設定します。	0：使用しない 1：使用する	1：使用する
30	トレイからロールへの自動用紙切り替えをするかどうかを設定します。	0：自動用紙切り替えをしない 1：自動用紙切り替えをする	1:自動用紙切り替えをする
31	ロールからトレイへの自動用紙切り替えをするかどうかを設定します。	0：自動用紙切り替えをしない 1：自動用紙切り替えをする	1:自動用紙切り替えをする
32	給紙装置の優先順位を設定します。	0：ロール優先 1：トレイ優先	1：トレイ優先
33	シンクロカットを指定したとき、原稿の読み込み終了後にコピーを出力するかどうかを設定します。	0:読み込み処理と平行して出力 1：読み込み終了後出力	1：読み込み終了後出力
34	グレースタンプの濃度を設定します。	0：うすい 1：普通 2：ややこい 3：こいめ 4：こい	1：普通
40	原稿サイズを自動判断するとき、非定形サイズの原稿を直近の定形サイズと判断するかどうか設定します。	1：コピー時に実施 3：コピー /スキャン時に実施	1：コピー時に実施

項目番号	説　明	変更値	工場出荷時の値
	原稿サイズを自動判断するとき、検知対象とするかどうかサイズ系列ごとに設定します。 41-47をすべて「0」に設定した場合、コピーは最大幅、スキャンは自動検知で動作します。		
41	JIS/ISO A系	0：検知対象としない 1：コピー時に検知対象とする 2：スキャン時に検知対象とする 3：コピー/スキャン時ともに検知対象とする	3：コピー/スキャン時ともに検知対象とする
42	JIS B系		3：コピー/スキャン時ともに検知対象とする
43	ISO B系		3：コピー/スキャン時ともに検知対象とする
44	特A系		3：コピー/スキャン時ともに検知対象とする
45	Arch-1系		3：コピー/スキャン時ともに検知対象とする
46	Arch-2系		3：コピー/スキャン時ともに検知対象とする
47	ANSI系		3：コピー/スキャン時ともに検知対象とする
50	コピー時の横線を強調します。	0：標準 1：横線強調	0：標準
51	プロット時の横線を強調します。	0：標準 1：横線強調	0：標準
	［原稿の画質］ごとに、線を強調するかどうかを設定します。		
53	文字/線画	0：しない 1：線強調	0：しない
54	文字/写真		0：しない
55	印刷写真		0：しない
56	印画紙写真		0：しない
57	青焼き		0：しない
58	透過		0：しない
59	濃淡むら原稿		0：しない
	濃度補正レベルの初期値を設定します。*		
60	黒	99以下：薄く 100：調整なし 101以上：濃く	100
61	赤		150
	シャープネス補正レベルの初期値を設定します。*		
62	黒	0：弱く 1：やや弱く 2：普通 3：やや強く 4：強く	2
63	赤		2
64	赤黒出力時の黒細線化のレベルを設定します。	0：弱 1：中 2：強	1：中

項目番号	説　明	変更値	工場出荷時の値
65	読み取りの無彩色のレベルを調整します。	0～254（値が小さいほど、薄い濃度の色判定を行う）	5
	ゴミ筋軽減の機能を設定します。		
66	フルカラー以外	0：しない 1：弱 2：強 3：強＋ 4：強＋＋	0：しない
67	フルカラー		0：しない

*　この機能を有効にするには、［仕様設定］＞［コピー設定］＞［詳細設定］の［項目番号：60］を［1：ON］または［2：自動切換え］に設定してください。設定方法については、「11.4.9 詳細設定」（P.398）を参照してください。

11.4　コピー設定

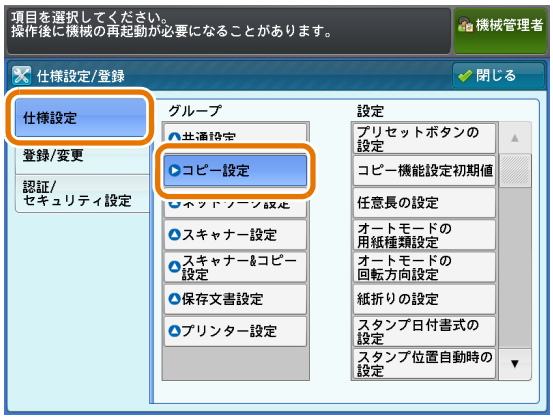
［コピー設定］では、コピー機能に関する仕様の設定をします。

- プリセットボタンの設定 P.391
- コピー機能設定初期値 P.391
- 任意長の設定 P.393
- オートモードの用紙種類設定 P.394
- オートモードの回転方向設定 P.395
- 紙折りの設定 P.395
- スタンプ日付書式の設定 P.396
- スタンプ位置自動時の設定 P.397
- 詳細設定 P.398

1. ［仕様設定/登録］画面で、［仕様設定］＞［コピー設定］を押します。

参照
- ［仕様設定/登録］画面を表示する方法については、「11.1 仕様設定の流れ」（P.368）を参照してください。

2. 設定/変更する項目を選択します。



11.4.1　プリセットボタンの設定

［コピー（マニュアルモード）］画面に表示される倍率を変更します。

1. ［プリセットボタンの設定］を押します。
2. 必要に応じて項目を設定し、［閉じる］を押します。

倍率ボタン2～5段目

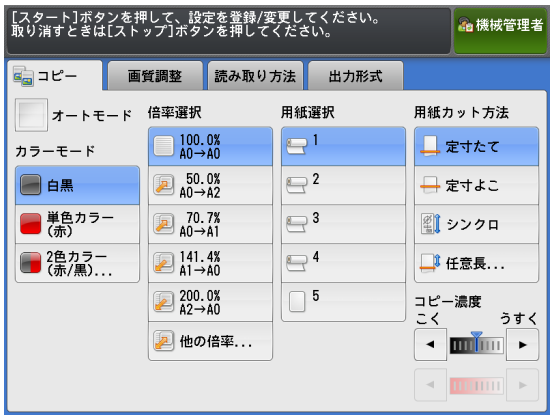
［コピー（マニュアルモード）］画面の［倍率選択］の2～5段めに表示される倍率を設定します。
［25.0%］、［35.3%］、［50.0%］、［70.7%］、［141.4%］、［200.0%］、［283.0%］、［400.0%］から選択します。
工場出荷時の値は、次のとおりです。

- 倍率ボタン2段目：50.0 %
- 倍率ボタン3段目：70.7 %
- 倍率ボタン4段目：141.4 %
- 倍率ボタン5段目：200.0 %

11.4.2　コピー機能設定初期値

コピー機能の初期値を設定します。電源を入れたときや節電状態を解除したとき、［リセット］を押したとき、自動リセット機能が働いたときに、ここで設定されている初期値の状態に戻ります。
よく使う機能や値を初期値に設定しておくと、コピーのたびに設定する操作が省けます。

1. ［コピー機能設定初期値］を押します。
2. 設定/変更する項目を押します。
3. 設定値を選択して、操作パネルの〈スタート〉ボタンを押します。



設定項目	説　明	工場出荷時の値
オートモード	[コピー]画面にある、[オートモード]の初期値を設定します。	オートモード
原稿の向き	[コピー（オードモード）]画面にある、[原稿の向き]を設定します。	定形たて
用紙の向き	[コピー（オードモード）]画面にある、[用紙の向き]を設定します。	たて
カラーモード	[コピー]画面にある、[カラーモード]の初期値を設定します。	白黒
倍率選択	[コピー（マニュアルモード）]画面にある、[倍率選択]の初期値を設定します。	100.0 %
用紙選択	[コピー（マニュアルモード）]画面にある、[用紙選択]の初期値を設定します。	ロール1
用紙カット方法	[コピー（マニュアルモード）]画面にある、[用紙カット方法]の初期値を設定します。	定寸たて
原稿の画質	[画質調整]画面にある、[原稿の画質]の初期値を設定します。	文字/線画
コピー濃度	[画質調整]画面にある、[濃度]の初期値を設定します。	黒：ふつう 赤：ふつう
シャープネス/コントラスト	[画質調整]画面にある、[シャープネス/コントラスト]の初期値を設定します。	シャープネス：ふつう コントラスト：ふつう
地色除去	[画質調整]画面にある、[地色除去]の初期値を設定します。	自動（0）
中間調の振り分け	[画質調整]画面にある、[中間調の振り分け]の初期値を設定します。	しない
色別濃度調整	[画質調整]画面にある、[色別濃度調整]を選択時の初期値を設定します。	調整しない
原稿幅	[読み取り方法]画面にある、[原稿幅]の初期値を設定します。	自動検知
コピー位置	[読み取り方法]画面にある、[コピー位置]の初期値を設定します。	移動しない
読み取り開始位置	[読み取り方法]画面にある、[読み取り開始位置]の初期値を設定します。	0 mm
わく消し	[読み取り方法]画面にある、[わく消し]の初期値を設定します。	標準
鏡像/ネガポジ	[読み取り方法]画面にある、[鏡像/ネガポジ]の初期値を設定します。	鏡像：しない ネガポジ：しない
原稿読み取り速度	[読み取り方法]画面にある、[原稿読み取り速度]の初期値を設定します。	高速
紙折り	[出力形式]画面にある、[紙折り]の初期値を設定します。	紙折り：しない 排出先：プリンタートレイ 単方向：しない 耳折り：しない 仕上がりサイズ：210mm とじしろ量：しない
仕分け	[出力形式]画面にある、[仕分け]の初期値を設定します。	スタック（ページごと）

設定項目	説　明	工場出荷時の値
スタンプ	［出力形式］画面にある、［スタンプ］の初期値を設定します。	スタンプ1：しない スタンプ2：しない 登録番号：未設定 色：黒 位置/向き：自動 ナンバリング：しない 日付：しない
先端後端余白	［出力形式］画面にある、［先端後端余白］の初期値を設定します。	先端：0 mm 後端：0 mm

*　マルチジョブ、サンプルコピーを初期値として設定することはできません。

11.4.3　任意長の設定

コピーの［用紙のカット方法］設定画面で［任意長］を指定したときの、任意長の初期値を設定します。
この設定は、用紙サイズごとに、210～6,000 mmの範囲で設定します。
工場出荷時の値は、次のとおりです。

系列	設定項目	工場出荷時の値
A系列	A0幅（841 mm）	1189 mm
	A1幅（594 mm）	841 mm
	A2幅（420 mm）	594 mm
	A3幅（297 mm）	420 mm
特A系列	880 mm幅	1230 mm
	625 mm幅	880 mm
	620 mm幅	871 mm
	440 mm幅	625 mm
	435 mm幅	620 mm
Arch系列	36 inch幅	1219 mm
	30 inch幅	1066 mm
	24 inch幅	914 mm
	18 inch幅	610 mm
	12 inch幅	457 mm
ANSI系列	34 inch幅	1118 mm
	22 inch幅	864 mm
	17 inch幅	559 mm
	11 inch幅	432 mm

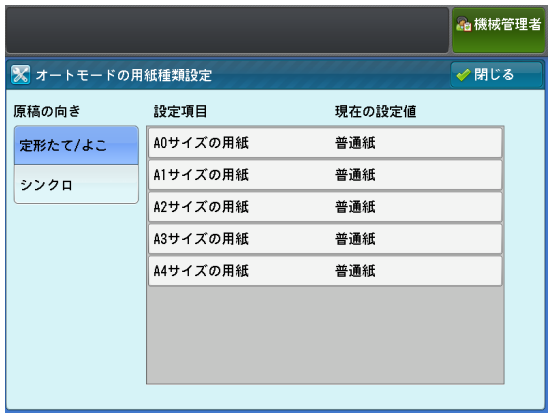
1. ［任意長の設定］を押します。
2. 設定する用紙サイズを押します。
3. 任意長を、操作パネルの〈数字〉ボタンで数値を入力するか、［+］［−］を押して設定します。
4. ［閉じる］を押します。

11.4.4　オートモードの用紙種類設定

オートモードでコピーする場合に、原稿の向きに対する用紙の種類を設定します。
工場出荷時の値は、各サイズともに［普通紙］です。

操作手順

1. ［オートモードの用紙種類設定］を押します。
2. 原稿の向きを選択します。
3. 設定する用紙サイズを押します。



4. 用紙の種類を［普通紙］、［トレペ］、［フィルム］、［指定なし］から選択します。

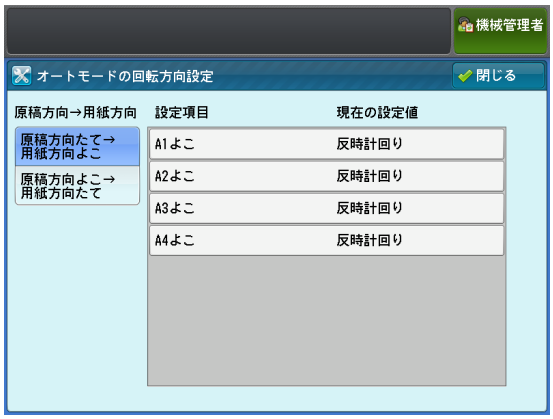
補足
- ［指定なし］以外を指定した場合は、指定した種類の用紙がトレイにセットされていないと、用紙切れのエラーになります。

5. ［決定］を押します。

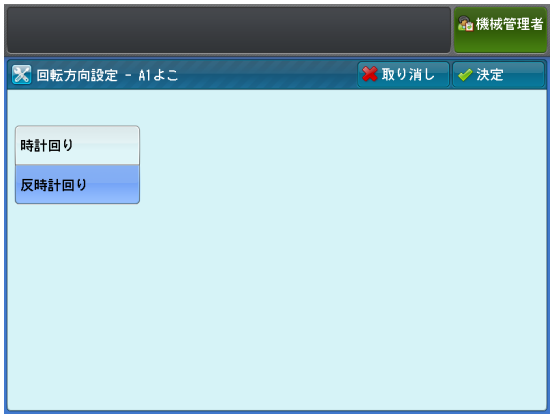
11.4.5　オートモードの回転方向設定

原稿の画像を90度回転すると出力できる場合に、原稿読み取り後に画像を回転する方向（時計回り、反時計回り）を設定します。工場出荷時の値は、［反時計回り］です。

1. ［オートモードの回転方向設定］を押します。
2. ［原稿方向たて→用紙方向よこ］または［原稿方向よこ→用紙方向たて］を選択します。



3. ［時計回り］または［反時計回り］を選択します。
4. ［決定］を押します。



11.4.6　紙折りの設定

フォルダー（オプション）を接続しているときに、各紙折り種類を設定します。

1. ［紙折りの設定］を押します。
2. 必要に応じて項目を設定し、［閉じる］を押します。

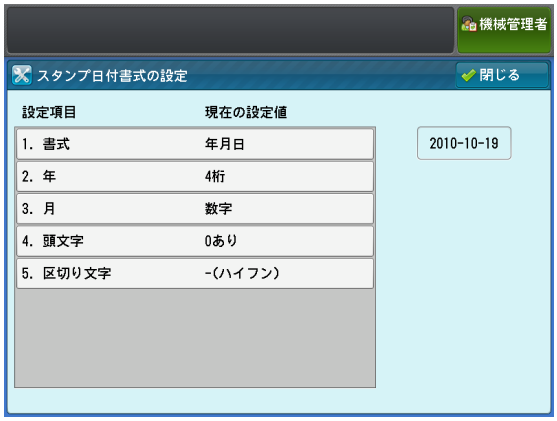
自動排出回転

［ソート（1部ごと）］を設定したときに、部数ごとに出力を90度回転できます。
［しない］または［する］を選択します。工場出荷時の値は、［しない］です。

11.4.7　スタンプ日付書式の設定

スタンプの日付の書式を設定します。

1. ［スタンプ日付書式の設定］を押します。
2. 必要に応じて項目を設定し、［閉じる］を押します。



書式

［年月日］、［月日年］、［日月年］から選択します。工場出荷時の値は、［年月日］です。

年

［4桁］、［2桁］、［'2桁］から選択します。工場出荷時の値は、［4桁］です。

月

［数字］または［英語］を選択します。工場出荷時の値は、［数字］です。

頭文字

［0 あり］または［0 なし］を選択します。工場出荷時の値は、［0あり］です。

区切り文字

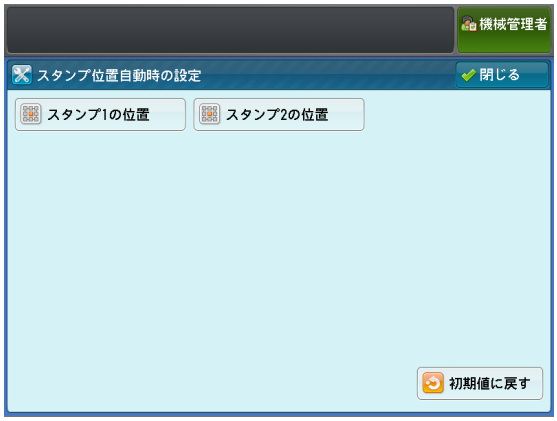
［-（ハイフン）］、［/（スラッシュ）］、［.（ピリオド）］、［,（カンマ）］から選択します。
工場出荷時の値は、［-（ハイフン）］です。

11.4.8　スタンプ位置自動時の設定

スタンプを付けてコピーする場合、スタンプの位置を用紙サイズ別に設定します。

補足
- この設定は、［スタンプの向き］を除いて、プリント時のスタンプ位置にも適用されます。プリント時のスタンプの向きについては、CentreWare Internet Servicesで［プロパティ］＞［サービス］＞［プリント］＞［スタンプ位置自動時の設定］の［スタンプの向き］を設定してください。

1. ［スタンプ位置自動時の設定］を押します。
2. ［スタンプ1の位置］または［スタンプ2の位置］を押します。



補足
- ［初期値に戻す］を押すと、すべてのスタンプの位置を工場出荷時の設定に戻します。

3. 設定する用紙サイズ系列を選択します。
4. 用紙サイズと向きを選択します。

5. スタンプの位置を設定します。

補足
- ［初期値に戻す］を押すと、設定した値を工場出荷時の値に戻します。

左上起点

用紙の上端左側を原点として、たて方向0～9,999 mm、よこ方向0～999 mmの範囲で指定できます。

左下起点

用紙の下端左側を原点として、たて方向とよこ方向の数値を指定できます。

右上起点

用紙の上端右側を原点として、たて方向とよこ方向の数値を指定できます。

右下起点

用紙の下端右側を原点として、たて方向とよこ方向の数値を指定できます。

6. スタンプの向きを設定します。

7. ［決定］を押します。

11.4.9　詳細設定

1. ［詳細設定］を押します。
2. ［項目番号］を入力して、［確認/変更］を押します。

参照 • 項目番号については、「項目番号：コピー設定」（P.398）を参照してください。

3. ［変更値］を入力します。
4. ［確認/変更］を押します。

項目番号：コピー設定

項目番号	項　目	変更値	工場出荷時の値
30	バナーシートのトレイを設定します。	1：ロール1 2：ロール2 3：ロール3 4：ロール4 5：トレイ5	5：トレイ5
31	バナーシート用紙の長さを設定します。	210～2500（mm）	210（mm）
60	出力画像補正を設定します。	0：OFF 1：ON 2：自動切り替え*	2：自動切り替え
61	赤黒出力時の黒を細線化します。	0：OFF 1：ON	0：OFF
70	［濃淡むら原稿］のむらの大きさの初期値を設定します。	1～80	20
80	［サンプルコピー］の［読み取り開始位置］の初期値を設定します。	0～1200（mm）	0
81	［サンプルコピー］の［読み取り寸法］の初期値を設定します。	50～200（mm）	50

*　［2：自動切り替え］の場合、画質調整により、自動で［0：OFF］/［1：ON］を切り替えます。
-原稿の画質→印画紙写真：［0：OFF］
-中間調の振り分け→する：［0：OFF］
-上記以外：［1：ON］

11.5　ネットワーク設定

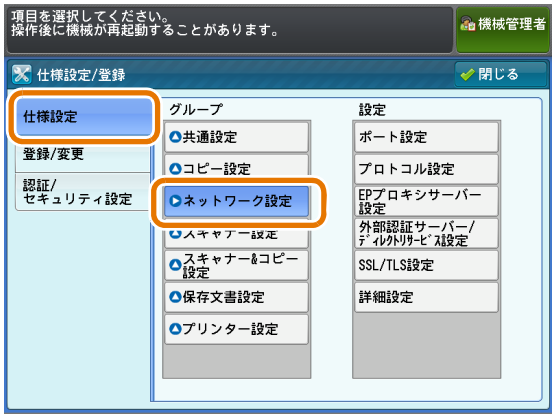
［ネットワーク設定］では、ネットワークに関する仕様を設定します。

参照
- ネットワーク設定については、「7.2 IPアドレスの設定」（P.248）も参照してください。
- CentreWare　Internet　Services を使うと、さらに詳細な設定ができます。CentreWare　Internet Services画面の右上にある［ヘルプ］をクリックして表示される、ヘルプを参照してください。

各設定の詳細と参照先は次のとおりです。

- ポート設定 P.400
- プロトコル設定 P.401
- EPプロキシサーバー設定 P.403
- 外部認証サーバー /ディレクトリサービス設定 P.404
- SSL/TLS設定 P.406
- 詳細設定 P.407

1. ［仕様設定/登録］画面で、［仕様設定］>［ネットワーク設定］を押します。



参照
- ［仕様設定/登録］画面を表示する方法については、「11.1 仕様設定の流れ」（P.368）を参照してください。

2. 設定/変更する項目を選択します。

11.5.1　ポート設定

ポートの起動を設定します。各アプリケーションや機能で使用するポートは次のとおりです。

アプリケーション / 機能	ポート						
	LPD	SMB	SNMP	FTP	HTTP	SOAP	WebDAV
BT-PlotAssistant	−	−	−	○	−	−	−
リプロサーバBT-X	−	−	−	○	−	−	−
スタンプツール	−	−	○	○	−	−	−
プリンター標準(TIFF)ドライバー	○	−	○	−	−	−	−
プリンター（PS）ドライバー							
スキャナードライバー（ネットワーク接続）*	−	−	○	−	−	○	○
ドキュメントモニター	−	−	○	−	−	−	−
DW-Scan V（プリント出力時）	○	−	−	−	−	−	−
スキャナー（PC保存）※マルチ送信でのPC保存も含む	−	○	−	−	−	−	−
CentreWare Internet Services	−	−	−	−	○	−	−
ApeosWare Management Suite	−	−	○	−	−	○	−

*　ネットワークスキャナ ユーティリティ 3、親展ボックスビューワー 3

工場出荷時の値は、各ポートともに［起動］です。

1. ［ポート設定］を押します。
2. 必要に応じて項目を設定し、［閉じる］を押します。

LPD

LPRを使用するときは、［起動］に設定します。

SMB

SMBを使用するときは、［起動］に設定します。

SNMP

SNMPを使用するときは、［起動］に設定します。

FTP

FTPを使用するときは、［起動］に設定します。

インターネットサービス（HTTP）

HTTPを使用するときは、ポート番号を指定し［起動］に設定します。
ポート番号の工場出荷時の値は、［80］です。

SOAP

SOAPを使用するときは、［起動］に設定します。

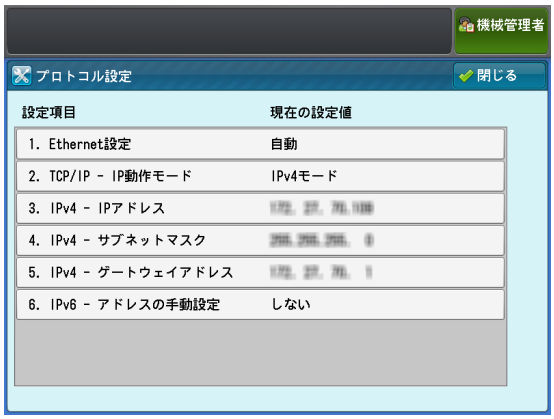
WebDAV

WebDAVを使用するときは、［起動］に設定します。

11.5.2　プロトコル設定

通信に必要な条件を設定します。［プロトコル設定］では、次の項目を設定できます。

1. ［プロトコル設定］を押します。
2. 必要に応じて項目を設定し、［閉じる］を押します。



Ethernet設定

Ethernetの通信速度の種類を、次の項目から設定します。

自動

Ethernetの通信速度が自動的に検知されます。

1000BASE - T

1000BASE - Tに固定して使用する場合に選択します。

100BASE - TX（全二重）

100BASE - TX（全二重）に固定して使用する場合に選択します。

100BASE - TX（半二重）

100BASE - TX（半二重）に固定して使用する場合に選択します。

10BASE - T（全二重）

10BASE - T（全二重）に固定して使用する場合に選択します。

10BASE - T（半二重）

10BASE - T（半二重）に固定して使用する場合に選択します。

TCP/IP - IP動作モード

TCP/IPのインターネットプロトコルの種類を、次の項目から設定します。
工場出荷時の値は、［IPv4モード］です。

IPv4モード

IPv4のインターネットプロトコルに固定して使用する場合に選択します。

IPv6モード

IPv6のインターネットプロトコルに固定して使用する場合に選択します。

デュアルスタック

IPv4、IPv6の両方のインターネットプロトコルを使用する場合に選択します。

IPv4 - IPアドレス

IPアドレスを設定します。
xxx.xxx.xxx.xxxの形式で入力します。xxxは0～255の間の数値です。ただし、最初のxxxには127と224～255の間の数値は使用できません。
工場出荷時の値は、［192.168.150.150］です。

IPv4 - サブネットマスク

サブネットマスクを設定します。
xxx.xxx.xxx.xxxの形式で入力します。xxxは0～255の間の数値です。
工場出荷時の値は、［255.255.255.0］です。

IPv4 - ゲートウェイアドレス

ゲートウェイアドレスを設定します。
xxx.xxx.xxx.xxxの形式で入力します。xxxは0～255の間の数値です。ただし、最初のxxxには127と224～255の間の数値は使用できません
工場出荷時の値は、［0.0.0.0］です。

IPv6 - アドレスの手動設定

IPアドレスを手動で設定します。
IPアドレスおよび手動設定ゲートウェイを直接入力する場合は、［する］を選択します。
工場出荷時の値は、［しない］です。

IPv6 - 手動設定IPアドレス

IPアドレスを設定します。
IPアドレスをxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxxの形式で入力します。xxxxは16進数です。

補足
- ［IPv6-アドレスの手動設定］を［する］に設定した場合だけ入力します。

IPv6 - 手動IPアドレスプレフィクス

IPアドレスプレフィクスを0～128の範囲で設定します。
工場出荷時の値は、[64]です。

補足 • [IPv6-アドレスの手動設定]を[する]に設定した場合だけ入力します。

IPv6 - 手動設定ゲートウェイ

ゲートウェイアドレスを設定します。
ゲートウェイアドレスをxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxxの形式で入力します。xxxxは16進数です。

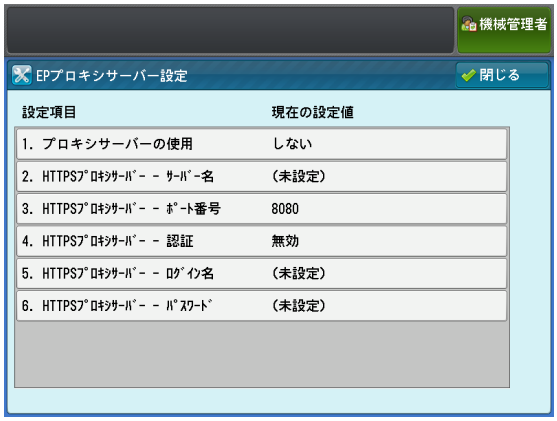
補足 • [IPv6-アドレスの手動設定]を[する]に設定した場合だけ入力します。

IPv6 - 自動設定アドレス

自動で設定されたリンクローカルアドレス、IPv6アドレス、ゲートウェイアドレスが表示されます。

11.5.3 EPプロキシサーバー設定

1. [EPプロキシサーバー設定]を押します。
2. 必要に応じて項目を設定し、[閉じる]を押します。



プロキシサーバーの使用

プロキシサーバーを使用するかしないかを設定します。
工場出荷時の値は[しない]です。

HTTPSプロシキサーバー - サーバー名

プロキシサーバーのサーバー名を、255文字まで設定できます。

HTTPSプロシキサーバー - ポート番号

プロキシサーバーのポート番号を、1～65535の範囲で指定します。
工場出荷時の値は[8080]です。

HTTPSプロシキサーバー - 認証

プロキシサーバーの認証を有効にするかどうかを設定します。
工場出荷時の値は[無効]です。

HTTPSプロシキサーバー - ログイン名

プロキシサーバーにログインするときのログイン名を、31文字まで設定します。

HTTPSプロシキサーバー - パスワード

プロキシサーバーにログインするときのパスワードを、31文字まで設定します。

11.5.4　外部認証サーバー /ディレクトリサービス設定

1. ［外部認証サーバー /ディレクトリサービス設定］を押します。
2. 必要に応じて項目を設定し、［閉じる］を押します。

認証システムの設定

認証するためのシステムを設定します。

認証システム

認証するためのシステムを［Authetication Agent］、または［LDAP］から選択できます。

LDAPによる認証を使用する場合は、［LDAP］を選択します。

工場出荷時の値は、［Authetication Agent］です。

認証応答待ち時間の上限

認証の応答の待ち時間の上限を、1～75秒の範囲で1秒単位で設定します。

工場出荷時の値は、［5］秒です。

ユーザー情報検索時間の上限

ユーザー情報の検索の待ち時間の上限を、1～120秒の範囲で1秒単位で設定します。

工場出荷時の値は、［30］秒です。

LDAPサーバー /ディレクトリサービス設定

LDAPを設定します。

プライマリーサーバー - 名前/アドレス

プライマリーサーバーのサーバー名またはIPアドレスを指定します。

プライマリーサーバー - ポート番号

プライマリーサーバーのポート番号を、1～65535の範囲で指定します。

工場出荷時の値は、[389]です。

セカンダリーサーバー - 名前/アドレス

セカンダリーサーバーのサーバー名またはIPアドレスを指定します。

セカンダリーサーバー - ポート番号

セカンダリーサーバーのポート番号を、1～65535の範囲で指定します。

工場出荷時の値は、[389]です。

認証方式

LDAP認証の認証方式を、[直接認証]または[ユーザー属性認証]から選択できます。

- 直接認証
  入力したUser IDとパスワードで、LDAPサーバーに認証を行います。
- ユーザー属性認証
  入力したUser ID欄の情報は、[入力ユーザー名の属性]に設定された属性の値として、LDAPサーバーで検索するために使用されます。見つかったユーザーの、[認証用ユーザー名の属性]に設定された属性の値は、本機でのジョブのUser ID、および親展ボックスの所有者として使用されます。

工場出荷時の値は、[直接認証]です。

入力ユーザー名の属性

LDAP 認証の認証方式が[ユーザー属性認証]の場合に、操作パネルからユーザー名として入力する値に対応した、LDAPサーバーに登録されているUserAttribute情報の属性を設定します。たとえば、メールアドレスを入力させる場合は「mail」を設定します。32文字まで入力できます。

工場出荷時の値は、[mail]です。

認証用ユーザー名の属性

LDAPサーバーに登録されているUserAttribute情報の中から実際に本機でのジョブのUser ID、および親展ボックスの所有者として使用する属性を入力します。32文字まで入力できます。

工場出荷時の値は、[sAMAccountName]です。

ユーザー名追加文字列の使用

操作パネルから認証情報を入力するときに、[ユーザー名の追加文字列]で入力した情報を自動で付加するかどうかを設定します。

工場出荷時の値は、[使用しない]です。

ユーザー名の追加文字列

ユーザー名追加文字列を使用する場合に、追加する文字列を設定します。64文字まで入力できます。[ユーザー名追加文字列の使用]で[使用する]を設定した場合にその固定文字列を入力します。例）[入力ユーザー名の属性]に「mail」を設定し、その対象ユーザーの登録情報が「mail@myhost.example.com」だった場合、通常は「mail@myhost.example.com」と入力する必要があります。しかし、[ユーザー名追加文字列の使用]を[使用する]に設定し、[ユーザー名の追加文字列]で「@myhost.example.com」と指定すれば、操作パネルから入力するデータは「mail」だけで後ろの「@myhost.example.com」は本機が付加するので、入力の手間を簡略化できます。

ICカード認証に使用する属性

ICカードを使用してLDAP認証する場合に、カードIDの検索属性を設定します。半角32文字以内で設定します。

ネットワーク用ユーザー ID属性

ICカードを使用してLDAP認証する場合に、ICカードのカードIDで検索するユーザー名の属性を設定します。取得したユーザー名は、本機でのジョブの User ID、および親展ボックスの所有者として使用されます。半角英数字32文字以内で設定します。

工場出荷時の値は、[sAMAccountName]です。

検索用ログイン名

サーバーにアクセスするときのユーザー名を設定します。ディレクトリーサービスの認証が必要なときだけ設定してください。ユーザー名を設定する場合は、255文字まで入力できます。

検索用パスワード

[検索用ログイン名]で指定したユーザーのログインパスワードを設定します。半角英数字で 32 文字まで入力できます。

検索起点エントリー (DN)

検索の起点となる文字列を、255文字まで入力できます。

リフェラルの使用

接続した LDAP サーバーから、別の LDAP サーバーへの接続を指示された場合に、指示されたサーバーに再接続するかどうかを設定します。

工場出荷時の値は、[使用しない]です。

リフェラルのホップ数上限

リフェラル機能を使用する場合に、接続するサーバーの切り替えを何回まで許可するかを、1～5回の範囲で設定します。

工場出荷時の値は、[5]回です。

11.5.5 SSL/TLS設定

SSL/TLS通信に必要な条件を設定します。[SSL/TLS 設定]では、次の項目を設定できます。

1. [SSL/TLS設定]を押します。
2. 必要に応じて項目を設定し、[閉じる]を押します。

本体の証明書

本機に格納されている証明書の発行先一覧が表示されます。SSL/TLS通信に使用する証明書を選択します。

補足
- 証明書は、あらかじめCentreWare Internet Servicesから設定しておく必要があります。設定方法については、CentreWare Internet Servicesのヘルプを参照してください。

HTTP-SSL/TLS通信

HTTP-SSL/TLS通信を有効にするかどうかを設定します。
［有効］または［無効］を選択します。工場出荷時の値は、［無効］です。

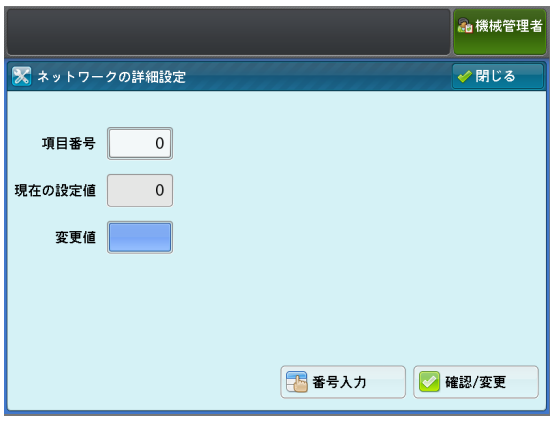
HTTP-SSL/TLS通信ポート番号

HTTP-SSL/TLS通信で使用するポート番号を入力します。
工場出荷時の値は、［443］です。

11.5.6　詳細設定

1. ［詳細設定］を押します。
2. ［項目番号］を入力して、［確認/変更］を押します。

   参照
   - 項目番号については、「項目番号：ネットワーク設定」（P.407）を参照してください。
3. ［変更値］を入力します。
4. ［確認/変更］を押します。



項目番号：ネットワーク設定

項目番号	項　目	変更値	工場出荷時の値
0	Active Directory の無効ユーザー判定を設定します。	0：判定しない 1：判定する	0：判定しない

11.6　スキャナー設定

スキャン機能に関する仕様の設定をします。

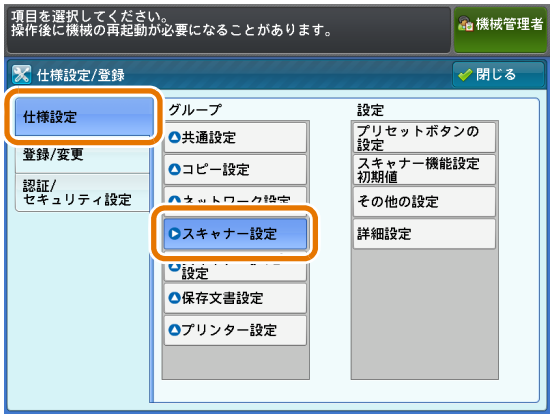
- プリセットボタンの設定 P.408
- スキャナー機能設定初期値 P.409
- その他の設定 P.411
- 詳細設定 P.411

1. ［仕様設定/登録］画面で、［仕様設定］>［スキャナー設定］を押します。

参照

- ［仕様設定/登録］画面を表示する方法については、「11.1 仕様設定の流れ」（P.368）を参照してください。

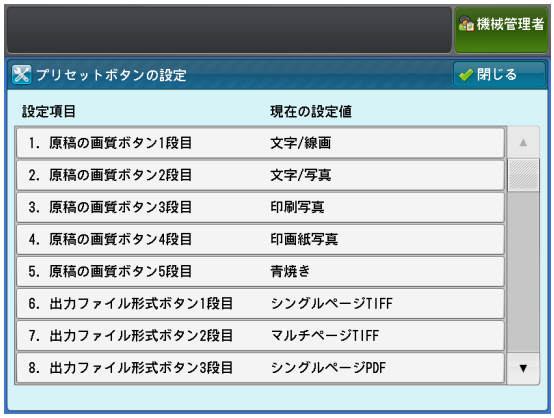
2. 設定/変更する項目を選択します。



11.6.1　プリセットボタンの設定

［スキャナー］画面に表示される原稿の画質、出力ファイル形式を変更します。

1. ［プリセットボタンの設定］を押します。
2. 必要に応じて項目を設定し、［閉じる］を押します。



原稿の画質ボタン1～5段目

［スキャナー］画面の［原稿の画質］の1～5段めに表示される原稿の画質を設定します。
［文字/線画］、［文字/写真］、［印刷写真］、［印画紙写真］、［青焼き］、［透過］から選択します。
工場出荷時の値は、次のとおりです。

- 原稿の画質ボタン1段目：文字/線画
- 原稿の画質ボタン2段目：文字/写真
- 原稿の画質ボタン3段目：印刷写真
- 原稿の画質ボタン4段目：印画紙写真
- 原稿の画質ボタン5段目：青焼き

出力ファイル形式ボタン1～5段目

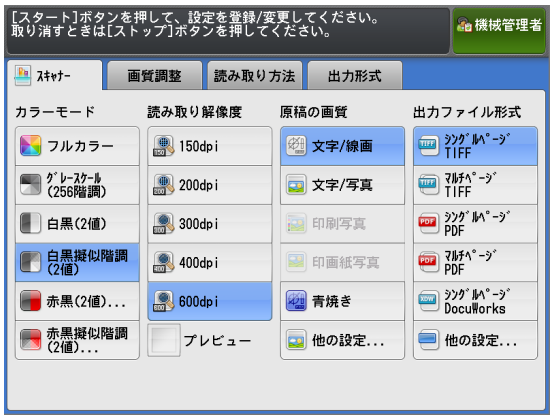
［スキャナー］画面の［出力ファイル形式］の1～5 段めに表示される出力ファイル形式を設定します。［シングルページ TIFF］、［マルチページ TIFF］、［シングルページ PDF］、［マルチページ PDF］、［シングルページDocuWorks］、［マルチページDocuWorks］、［JPEG］から選択します。
工場出荷時の値は、次のとおりです。

- 出力ファイル形式ボタン1段目：シングルページTIFF
- 出力ファイル形式ボタン2段目：マルチページTIFF
- 出力ファイル形式ボタン3段目：シングルページPDF
- 出力ファイル形式ボタン4段目：マルチページPDF
- 出力ファイル形式ボタン5段目：シングルページDocuWorks

11.6.2　スキャナー機能設定初期値

スキャン機能の初期値を設定します。電源を入れたときや節電状態を解除したとき、［リセット］を押したとき、自動リセット機能が働いたときに、ここで設定されている初期値の状態に戻ります。
よく使う機能や値を初期値に設定しておくと、スキャンのたびに設定する操作が省けます。

1. ［スキャナー機能設定初期値］を押します。
2. 設定/変更する項目を押します。
3. 設定値を設定して、操作パネルの〈スタート〉ボタンを押します。



設定項目	説　明	工場出荷時の値
カラーモード	［スキャナー］画面にある、［カラーモード］の初期値を設定します。	白黒擬似階調（2値）
読み取り解像度	［スキャナー］画面にある、［読み取り解像度］の初期値を設定します。	600 dpi
プレビュー	［スキャナー］画面にある、［プレビュー］の初期値を設定します。	オフ（プレビューを表示しない）
原稿の画質	［画質調整］画面にある、［原稿の画質］の初期値を設定します。	文字/線画
出力ファイル形式	［画質調整］画面にある、［出力ファイル形式］の初期値を設定します。	シングルページTIFF
読み込み濃度	［画質調整］画面にある、［読み込み濃度］の初期値を設定します。	黒：ふつう 赤：ふつう
シャープネス/ コントラスト	［画質調整］画面にある、［シャープネス/コントラスト］の初期値を設定します。	シャープネス：ふつう コントラスト：ふつう
地色除去	［画質調整］画面にある、［地色除去］の初期値を設定します。	自動（0）
中間調の振り分け	［画質調整］画面にある、［中間調の振り分け］の初期値を設定します。	標準
色別濃度調整	［画質調整］画面にある、［色別濃度調整］の初期値を設定します。	調整しない
読み取り倍率	［読み取り方法］画面にある、［読み取り倍率］の初期値を設定します。	100.0 %
読み取りサイズ	［読み取り方法］画面にある、［読み取りサイズ］の初期値を設定します。	自動検知
わく消し	［読み取り方法］画面にある、［わく消し］の初期値を設定します。	標準
読み取り開始位置	［読み取り方法］画面にある、［読み取り開始位置］の初期値を設定します。	0 mm
原稿読み取り速度	［読み取り方法］画面にある、［原稿読み取り速度］の初期値を設定します。	フルカラー以外：高速 フルカラー：低速
画質/ファイルサイズ	［出力形式］画面にある、［画質/ファイルサイズ］の初期値を設定します。	画質：標準画質 ファイル：ふつう

11.6.3　その他の設定

1. ［その他の設定］を押します。
2. 必要に応じて項目を設定し、［閉じる］を押します。

TIFFの形式

［スキャナー］画面の［出力ファイル形式］の、TIFF（JPEG圧縮）の形式を設定します。
読み込むソフトウェアに応じて［TIFF V6］または［TTN2］を選択します。工場出荷時の値は、［TIFF V6］です。

マルチ送信プリンター転送フォーマット

［スキャナー（マルチ送信）］画面で［カラーモード］が［フルカラー］または［グレースケール（256階調）］の場合に、宛先にプリンターを指定したときの出力ファイル形式を設定します。
［TIFF］または［JPEG］を選択します。工場出荷時の値は、［TIFF］です。

11.6.4　詳細設定

1. ［詳細設定］を押します。
2. ［項目番号］を入力して、［確認/変更］を押します。

参照 • 項目番号については、「項目番号：スキャナー設定」（P.411）を参照してください。

3. ［変更値］を入力します。
4. ［確認/変更］を押します。

項目番号：スキャナー設定

項目番号	項　目	変更値	工場出荷時の値
0	スキャナー（PC保存）文書、スキャナー（マルチ送信）文書のファイル名へのUser ID付加を設定します。	0：付加しない 1：付加する	0：付加しない
70	［濃淡むら原稿］のむらの大きさの初期値を設定します。	1～80	20

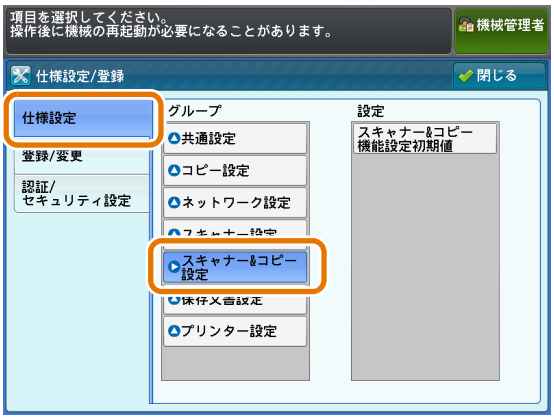
11.7　スキャナー＆コピー設定

スキャナー＆コピーに関する設定をします。

1. ［仕様設定/登録］画面で、［仕様設定］>［スキャナー＆コピー設定］を押します。

   参照 • ［仕様設定/登録］画面を表示する方法については、「11.1 仕様設定の流れ」（P.368）を参照してください。

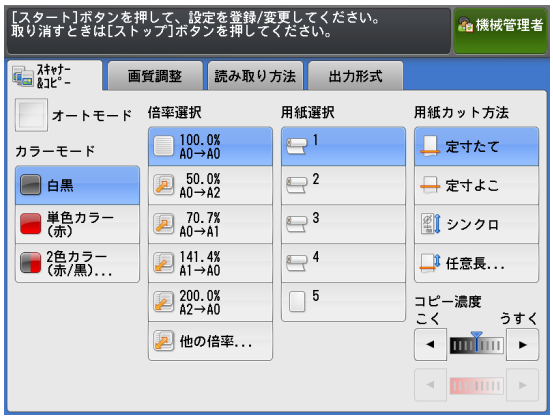
2. 設定/変更する項目を選択します。



11.7.1　スキャナー＆コピー機能設定初期値

スキャナー＆コピー機能の初期設定については、「11.4.2 コピー機能設定初期値」（P.391）を参照してください。

1. ［スキャナー＆コピー機能設定初期値］を押します。
2. 設定/変更する項目を押します。
3. 設定値を設定して、操作パネルの〈スタート〉ボタンを押します。



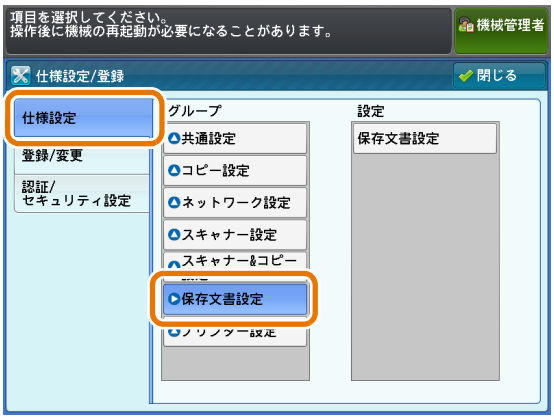
11.8　保存文書設定

［保存文書設定］では、本機の文書保存機能に関する仕様を設定します。
各項目の詳細と参照先は次のとおりです。

1. ［仕様設定 / 登録］画面で、［仕様設定］>［保存文書設定］を押します。

参照
- ［仕様設定/登録］画面を表示する方法については、「11.1 仕様設定の流れ」（P.368）を参照してください。

2. 設定/変更する項目を選択します。



11.8.1　保存文書設定

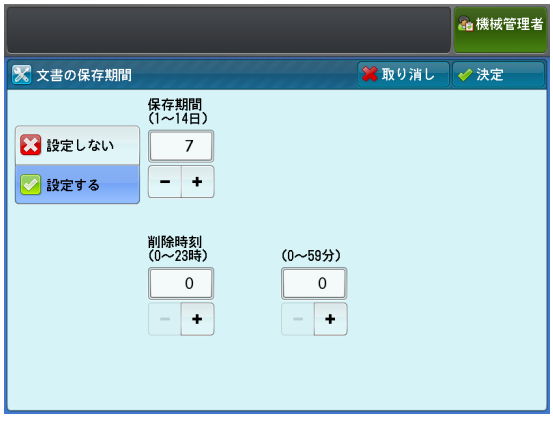
文書の保存期間や、蓄積プリント文書の削除について設定します。

1. ［保存文書設定］を押します。
2. 必要に応じて項目を設定し、［閉じる］を押します。

文書の保存期間

文書の保存期間を設定します。自動的に削除する場合は、削除する日（経過日数）と時刻を設定できます。この設定は、各保存文書に共通の設定となります。
工場出荷時の値は、［設定しない］です。

補足
- CentreWare Internet Services から設定することもできます。設定方法については、CentreWare Internet Servicesのヘルプを参照してください。



設定しない

文書の保存期間を設定しないため、保存されている文書は自動的に削除されることはありません。

設定する

文書の保存期間を設定します。[保存期間]、[削除時刻] で設定した時刻になると、文書は自動的に削除されます。

補足

- 保存期間を経過しても、削除時刻に本機の電源が入っていない場合、文書は削除されません。次に本機の電源を入れたときに削除されます。
  また、削除時刻にスリープモードに移行している場合も、文書は削除されません。
  次の日の削除時刻に、スリープモードに移行していなければ削除されます。
- 自動削除を設定する場合は、文書を削除する動作を有効に設定してください。詳細については、「保存期間経過文書の削除」(P.241) を参照してください。

- 保存期間
  文書の保存期間を、1～14日の範囲で指定します。
- 削除時刻
  保存期間が過ぎた文書の削除する時刻を、0～23時、00～59分の範囲で指定します。

蓄積プリントの削除

保存期間経過後の蓄積プリント文書を削除するかどうかを設定します。
工場出荷時の値は、[無効] です。

有効

保存期間経過後の指定された時刻に、文書は削除されます。

注記

- 保存期間が設定されていない場合は、[有効] に設定しても文書は削除されません。

無効

指定されている保存期間を経過しても、文書は削除されません。

プリント時の確認画面の表示

蓄積プリント文書をプリントするときに、プリント後の文書削除に関する確認画面を表示するかどうかを設定します。工場出荷時の値は、[する] です。

しない

プリント後に文書は自動的に削除されます。

する

確認画面が表示されます。プリント後の文書を削除するかどうかを選択できます。

11.9　プリンター設定

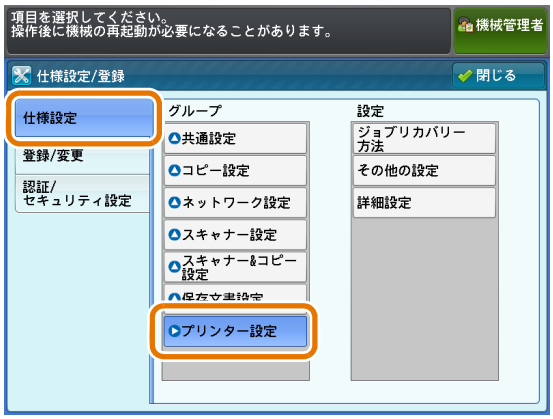
プリントに関する設定をします。

- ジョブリカバリー方法.....P.415
- その他の設定.....P.416
- 詳細設定.....P.418

1. ［仕様設定/登録］画面で、［仕様設定］>［プリンター設定］を押します。

参照　• ［仕様設定/登録］画面を表示する方法については、「11.1 仕様設定の流れ」（P.368）を参照してください。

2. 設定/変更する項目を選択します。

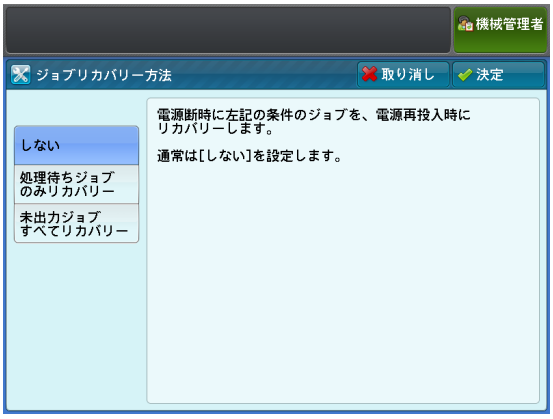


11.9.1　ジョブリカバリー方法

電源を切ったときに未完了のプリントジョブを、次に電源を入れたときにもう一度プリントするかどうかを設定します。
工場出荷時の値は、［しない］です。

操作手順

1. ［ジョブリカバリー方法］を押します。
2. 必要に応じて、項目を設定します。



しない

電源を切ったときに出力されなかったプリントジョブは、すべてキャンセルされます。

処理待ちジョブのみリカバリー

電源を切ったときに、スプールが完了していたジョブだけをもう一度プリントします。

未出力ジョブすべてリカバリー

電源を切ったときに、出力されなかったジョブをすべてもう一度プリントします。

3. ［決定］を押します。

11.9.2　その他の設定

データフォーマットごとに、描画処理の詳細を設定します。
通常は、工場出荷時の値を設定します。

1. ［その他の設定］を押します。
2. 必要に応じて項目を設定し、［閉じる］を押します。

VPI- 破線分割

破線分割の処理を設定します。
［RASTERIZER］または［PARSER］を選択します。工場出荷時の値は、［RASTERIZER］です。

VPI- シンボル設定

［モード1］または［モード2］を選択します。工場出荷時の値は、［モード1］です。

VPI- フォント番号設定

データ内に指定されたフォントを使用するか、指定したフォントを強制的に使用するかを設定します。
［0］～［41(No)］から選択します。工場出荷時の値は、［0］です。

VPI- フォント番号優先

データの中のフォント番号を使用するかどうかを設定します。
［ジョブ］または［コントローラ］を選択します。工場出荷時の値は、［ジョブ］です。

TIFF- 拡縮時の設定

拡大縮小時のモードを指定します。
［PHOTO］または［LINE］を選択します。工場出荷時の値は、［PHOTO］です。

HPGL- 円弧描画

円弧の描画方法を設定します。
［分解能コマンドを使用する］または［分解能コマンドを無視する］を選択します。工場出荷時の値は、［分解能コマンドを無視する］です。

HPGL- 破線描画

破線の描画方法を設定します。
［NORMAL］または［EXTEND］を選択します。工場出荷時の値は、［NORMAL］です。

ラベルオフセット

ラベル描画の描画位置を用紙の角からのX、Y方向の距離で指定します。
［0］～［100(mm)］から選択します。工場出荷時の値は、X：［5］、Y：［3］です。

位置合わせマークの描画位置

位置合わせマークの描画位置のオフセットとオーバーラップを指定します。
オフセットは［0］～［100(mm)］、オーバーラップは［0］～［400(mm)］から選択します。工場出荷時の値は、オフセット：［3］、オーバーラップ：［0］です。

長辺判定

長辺判定をするかどうかを設定します。
［する］または［しない］を選択します。工場出荷時の値は、［しない］です。

長辺判定-A0～A4

入力データの長辺側の許容範囲を、各定形サイズの長辺から選択します。
通常は、それぞれA0→A1、A1→A2、A2→A3、A3→A4、A4→A4のように設定します。

ディザパターン設定

ディザパターンと濃度の組み合わせを選択します。
［パターン１（うすく・ふつう・こく）］、［パターン２（うすく・ふつう・こく）］、［パターン３（うすく・ふつう・こく）］から選択します。工場出荷時の値は、［パターン１（ふつう）］です。

細線黒ソリッド描画

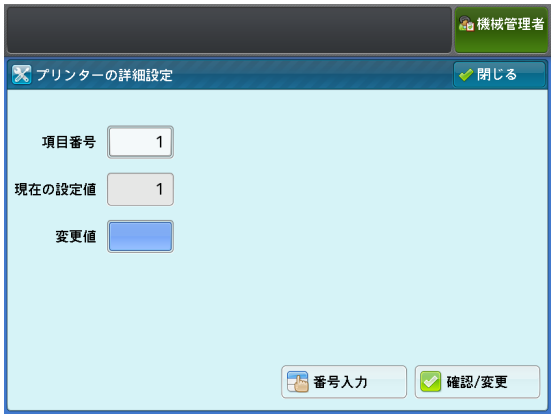
指定した線幅以下の細い線を、ディザを使わず黒色で描画するかどうかを設定します。
［しない］または［する（1～511 pixel）］を選択します。工場出荷時の値は、［しない］です。

11.9.3　詳細設定

1. ［詳細設定］を押します。
2. ［項目番号］を入力して、［確認/変更］を押します。

参照 • 項目番号については、「項目番号：プリンター設定」（P.418）を参照してください。

3. ［変更値］を入力します。
4. ［確認/変更］を押します。



項目番号：プリンター設定

項目番号	項　目	変更値	工場出荷時の値
1	ジョブ途中で用紙がなくなった場合に、用紙の出力する向きを切り替えて出力するかどうかを設定します。	0：切り替えを行わない 1：切り替えを行う	1：切り替えを行う
3	ジョブログのパスの表示を設定します。	0：表示しない 1：表示する	1：表示する

11.10 認証/セキュリティ設定

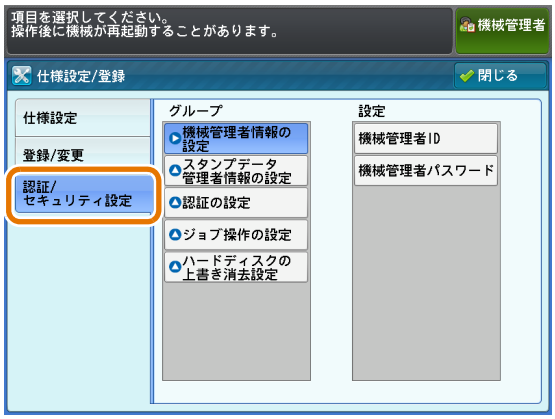
[認証/セキュリティ設定]では、本機のセキュリティーの設定ができます。
各設定の詳細と参照先は次のとおりです。

- 機械管理者情報の設定 P.419
- スタンプデータ管理者情報の設定 P.421
- 認証の設定 P.422
- ジョブの操作の設定 P.429
- ハードディスクの上書き消去設定 P.431

1. [仕様設定/登録]画面で、[認証/セキュリティ設定]を押します。

参照
- [仕様設定/登録]画面を表示する方法については、「11.1 仕様設定の流れ」(P.368)を参照してください。

2. 設定/変更する項目を選択します。



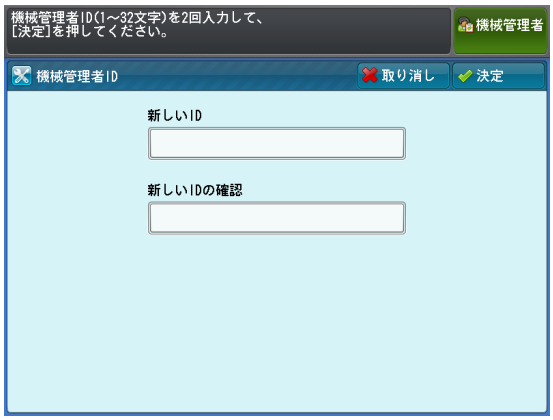
11.10.1 機械管理者情報の設定

[機械管理者情報の設定]では、機械管理者ID、およびパスワードを設定します。
設定変更の抑止やセキュリティー確保のために、機械管理者ID、およびパスワードの設定をお勧めします。

機械管理者ID

機械管理者のUser IDを設定します。半角1～32文字まで入力できます。
工場出荷時の値は、「　　」です。

1. ［機械管理者情報の設定］＞［機械管理者 ID］を押します。
2. ［新しいID］を選択します。
3. 表示されたキーボードを使って、32 文字以内で機械管理者IDを入力し、［決定］を押します。
4. ［新しいIDの確認］を選択し、同じ機械管理者IDを入力し、［決定］を押します。
5. ［決定］を押します。
6. 確認画面が表示されたら、［はい（変更する）］を押します。



機械管理者パスワード

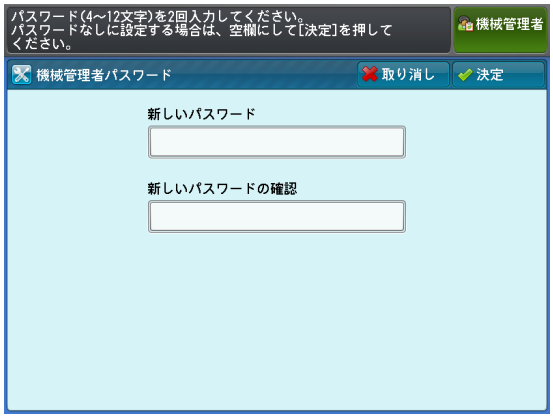
機械管理者のパスワードを設定します。
セキュリティーを強化するためにも、パスワードの設定をお勧めします。
工場出荷時の値は、「　　」です。

機械管理者モードに入るときに機械管理者パスワードの入力を必要とするには、［認証 / セキュリティ設定］＞［認証の設定］で、［本体パネルのパスワード使用］を［する］に設定します。
パスワードは、機械管理者のUser IDを設定してから、4～12文字の範囲で指定します。

補足
- 機械管理者パスワードは、CentreWare Internet Services から設定を変更するときにも使用します。

参照
- 本体パネルのパスワード使用については、「本体パネルのパスワード使用」（P.427）を参照してください。

1. ［機械管理者情報の設定］＞［機械管理者パスワード］を押します。
2. ［新しいパスワード］を選択します。
3. 表示されたキーボードを使って、4～12文字以内で機械管理者パスワードを入力し、［決定］を押します。
4. ［新しいパスワードの確認］を選択し、同じ機械管理者パスワードを入力し、［決定］を押します。
5. ［決定］を押します。
6. 確認画面が表示されたら、［はい（変更する）］を押します。



11.10.2　スタンプデータ管理者情報の設定

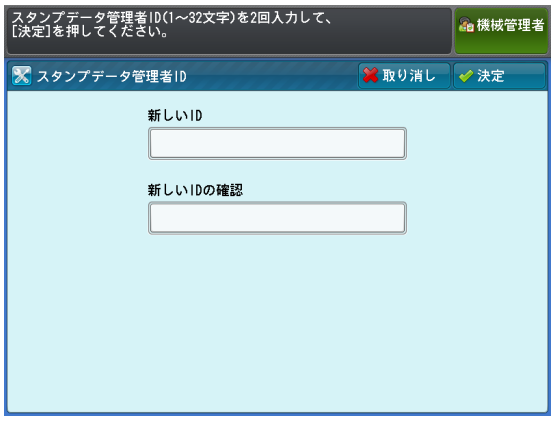
スタンプデータ管理者とは、ネットワーク上のコンピューターから、本機にスタンプデータを登録できるユーザーです。
［スタンプデータ管理者情報の設定］では、スタンプデータ管理者のID、およびパスワードを設定します。
設定変更の防止やセキュリティー保持のために、スタンプデータ管理者ID、およびパスワードを工場出荷時の値から変更することをお勧めします。

補足
- CentreWare　Internet　Services から設定することもできます。設定方法については、CentreWare Internet Servicesのヘルプを参照してください。

スタンプデータ管理者ID

スタンプデータ管理者のUser IDを設定します。半角1～32文字まで入力できます。
工場出荷時の値は、「stamp」です。

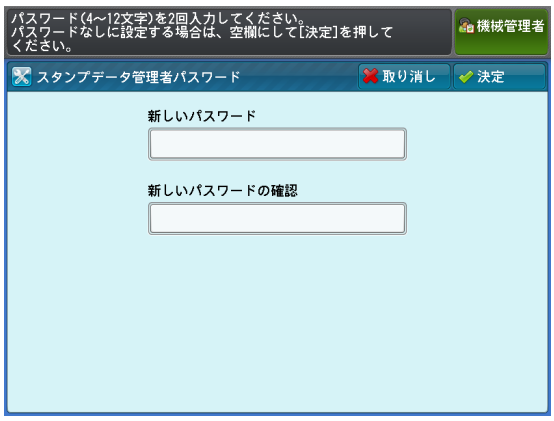
1. ［スタンプデータ管理者情報の設定］>［スタンプデータ管理者ID］を押します。
2. ［新しいID］を選択します。
3. 表示されたキーボードを使って、32 文字以内でスタンプデータ管理者IDを入力し、［決定］を押します。
4. ［新しいIDの確認］を選択し、同じスタンプデータ管理者IDを入力し、［決定］を押します。
5. ［決定］を押します。
6. 確認画面が表示されたら、［はい（変更する）］を押します。



スタンプデータ管理者パスワード

スタンプデータ管理者のパスワードを指定します。
セキュリティーを強化するためにも、パスワードの設定をお勧めします。
パスワードは、スタンプデータ管理者のUser IDを設定してから、4～12文字の範囲で指定します。
工場出荷時の値は、「stamp」です。

1. ［スタンプデータ管理者情報の設定］>［スタンプデータ管理者パスワード］を押します。
2. ［新しいパスワード］を選択します。
3. 表示されたキーボードを使って、4～12文字以内でスタンプデータ管理者パスワードを入力し、［決定］を押します。



補足
- パスワードなしに設定する場合は、空欄にして［決定］を押してください。

4. ［新しいパスワードの確認］を選択し、同じスタンプデータ管理者パスワードを入力し、［決定］を押します。
5. ［決定］を押します。
6. 確認画面が表示されたら、［はい（変更する）］を押します。

11.10.3　認証の設定

［認証の設定］では、認証機能の運用に関する設定を行います。

認証方式の設定

認証方式を設定します。

- 認証しない
  認証機能を利用しません。
- 本体認証
  本機に登録されたユーザー情報を、認証に使用します。
- 外部認証
  外部認証サーバーに登録されたユーザー情報を、認証に使用します。

工場出荷時の値は［認証しない］です。

1. ［認証の設定］>［認証方式の設定］を押します。
2. ［認証しない］、［本体認証］、［外部認証］から選択します。
3. ［決定］を押します。

アクセス制御サービスへのアクセス

利用を制限する操作を設定します。
利用制限した場合の、機能の利用方法は次のとおりです。

設定値	IC カードなし	IC カードあり（User ID 認証と併用）	
		IC カード使用	操作パネル使用
制限する	操作パネルで認証ユーザーのUser IDを入力	ICカードリーダーに認証ユーザーのICカードをタッチ	操作パネルで認証ユーザーのUser IDを入力
制限しない	誰でも利用可能	ICカードリーダーにICカード*をタッチ	

* カードの所有者は、認証ユーザー /認証未登録ユーザーを問わない

1. ［認証の設定］>［アクセス制御サービスへのアクセス］を押します。
2. 必要に応じて項目を設定し、［閉じる］を押します。

コピー

コピー機能を制限するかどうかを設定します。
［制限しない］または［制限する］を選択します。
工場出荷時の値は、［制限する］です。

スキャナー（ボックス保存）

スキャナー（ボックス保存）機能を制限するかどうかを設定します。
［制限しない］または［制限する］を選択します。
工場出荷時の値は、［制限する］です。

スキャナー（PC保存）

スキャナー（PC保存）機能を制限するかどうかを設定します。
［制限しない］または［制限する］を選択します。
工場出荷時の値は、［制限する］です。

スキャナー（マルチ送信）

スキャナー（マルチ送信）機能を制限するかどうかを設定します。
［制限しない］または［制限する］を選択します。
工場出荷時の値は、［制限する］です。

プリンター

プリンター機能を制限するかどうかを設定します。
［制限しない］または［制限する］を選択します。
工場出荷時の値は、［制限する］です。

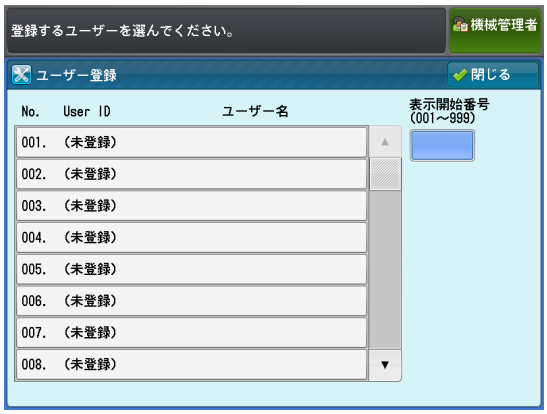
ユーザー登録

認証機能を有効にした場合、登録したユーザーの認証を行うために、User ID、およびユーザー名を登録します。
ユーザーデータは、本体認証を使用する場合、999件まで登録できます。

注記
- ユーザー登録は、「認証方式の設定」（P.422）で、使用する認証モードを設定してから行ってください。

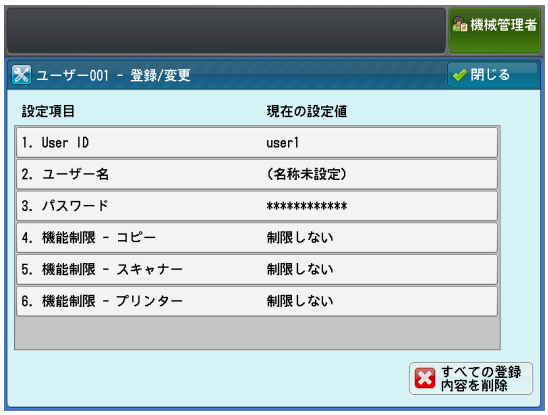
補足
- 機能制限の［コピー禁止］または［プリンター禁止］が設定されている場合でも、スキャナー（マルチ送信）が使用できるときは、プリンターまたはローカルプリンターからプリント出力することができます。

1. ［認証の設定］＞［ユーザー登録］を押します。
2. 登録するユーザー番号を選択します。



補足
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- 任意のユーザー番号を先頭に表示させたい場合、［表示開始番号］にユーザー番号を入力してください。

3. 項目を選択して、設定します。
4. 設定が終わったら、［閉じる］を押します。



User ID

本機を利用するためのUser IDを入力します。
半角32文字まで入力できます。

ユーザー名

ユーザー名を設定します。
- 操作パネルからの設定：半角32文字（全角16文字）まで入力できます。

参照
- 文字の入力方法については、「1.6 文字の入力方法について」（P.36）を参照してください。

パスワード

パスワードを設定します。セキュリティーを強化するためにも、パスワードの設定をお勧めします。パスワードは、4～12文字の範囲で設定できます。

補足
- パスワードは、［本体パネルのパスワード使用］が［する］に設定されている場合、認証するときに必要になります。

機能制限 - コピー

［制限しない］または［コピー禁止］を選択します。
- ［制限しない］：コピー機能の制限はしません。
- ［コピー禁止］：コピー機能の使用を禁止します。

工場出荷時の値は、［制限しない］です。

機能制限-スキャナー

［制限しない］または［スキャナー禁止］を選択します。

- ［制限しない］：スキャナー機能の制限はしません。
- ［スキャナー禁止］：スキャナー機能の使用を禁止します。

工場出荷時の値は、［制限しない］です。

機能制限-プリンター

［制限しない］または［プリンター禁止］を選択します。

- ［制限しない］：プリント機能の制限はしません。
- ［プリンター禁止］：プリント機能の使用を禁止します。

工場出荷時の値は、［制限しない］です。

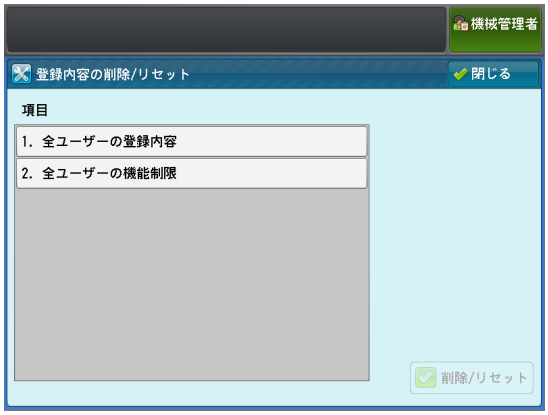
すべての登録内容を削除

登録したUser ID、ユーザー名を削除します。また、削除するユーザーに関するユーザー情報や親展ボックス（文書を含む）も削除されます。

登録内容の削除/リセット

全登録ユーザーに対して、一括で登録内容を削除したり、リセットしたりできます。

1. ［認証の設定］>［登録内容の削除/リセット］を押します。
2. 削除する項目を選択し、［削除/リセット］を押します。



全ユーザーの登録内容

ユーザーごとに登録している設定内容をすべて削除します。

注記

- ユーザーが作成した親展ボックスおよび親展ボックス内の文書も削除されます。大量の文書が親展ボックス内に残っている場合などは、削除に時間がかかることがあります。

全ユーザーの機能制限

ユーザーごとに登録している機能制限をすべて［制限しない］にリセットします。

認証情報の設定

1. ［認証の設定］＞［認証情報の設定］を押します。

補足
- オプションの IC カードリーダーが接続されている場合に、［認証情報の設定］が表示されます。

2. 必要に応じて項目を設定し、［閉じる］を押します。

ICカード連携モード

ICカード認証時に、パスワードの入力を要求するかどうかを設定します。

工場出荷時の値は、［パスワード入力不要］です。

外部認証情報の本体保存

外部認証に使用したユーザー情報を本機に保存するかどうかを設定します。

工場出荷時の値は、［しない］です。

補足
- ユーザー情報が保存されるのは、IC カード認証の場合だけです。操作パネル認証時のユーザー情報は保存されません。

保存済み外部認証情報削除

本機に保存している外部認証情報を削除します。

補足
- 認証方式の設定によって、表示される項目が以下のように異なります。

		認証方式の設定		
		認証しない	本体認証	外部認証
認証情報の設定	ICカード連携モード	○	○	△*1
	外部認証情報の本体保存	×	×	△*2
	保存済み外部認証情報削除	×	×	△*2

*1 ［外部認証情報の本体保存］が［する］のときは、［ICカード連携モード］が表示されません。

*2 ［ICカード連携モード］が［パスワード入力必要］のときは、［外部認証情報の本体保存］と［保存済み外部認証情報削除］が表示されません。

機械管理者認証の上限

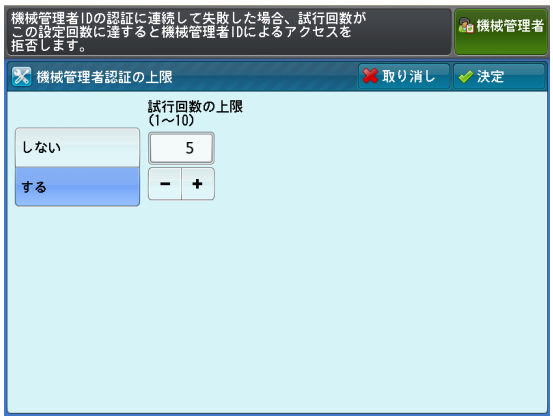
機械管理者のなりすましによる不正な設定が行われないようするための機能です。機械管理者IDの認証に連続して失敗した場合にアクセスを拒否するように、その失敗回数を設定できます。

回数は、1～10回の範囲で指定できます。

工場出荷時の値は、［5］回です。

補足
- 本機を再起動すると、失敗した回数はリセットされます。
- アクセス拒否状態を解除するときは、本機を再起動してください。

1. ［認証の設定］>［機械管理者認証の上限］を押します。
2. ［する］を押します。
3. 上限の回数を、操作パネルの〈数字〉ボタンで数値を入力するか、［+］［−］を押して設定します。
4. ［決定］を押します。
5. 確認画面が表示されたら、［はい（変更する）］を押します。



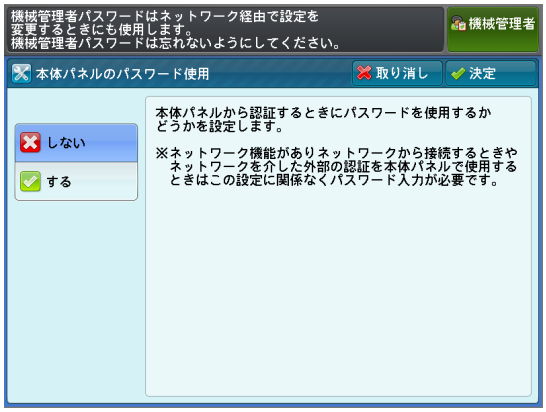
本体パネルのパスワード使用

認証機能を使用している場合、ユーザーが本機を操作するときの認証時に、パスワードを入力するかどうかを設定します。また、認証機能を使用していない場合でも、機械管理者モードに入るときにパスワードを入力するかどうかを設定できます。
セキュリティーを強化するためにも、パスワードの設定をお勧めします。
［する］を選択すると、「機械管理者パスワード」（P.420）、および「ユーザー登録」（P.424）の［パスワード］の設定が有効になります。
［しない］を選択すると、上記の設定でパスワードが指定されていてもパスワードの入力は要求されません。
工場出荷時の値は、［しない］です。

注記
- CentreWare Internet Services などの外部からのアクセス時には、パスワードの使用の有無にかかわらず、常にパスワードの入力が必要です。

補足
- 機械管理者パスワードは、CentreWare Internet Servicesから設定を変更するときにも使用します。

1. ［認証の設定］>［本体パネルのパスワード使用］を押します。
2. ［しない］または［する］を選択します。
3. ［決定］を押します。



プライベートプリントの設定

受信したプリントジョブを、どのように扱うかを設定します。

注記
- 外部認証時、[プリントの認証に従う] を選択した場合は、[認証成功のジョブ]、[User IDなしのジョブ] の設定は無視され、すべてのプリントジョブがプリントされます。

補足
- プライベートプリントを使用しない設定にした場合、[メニュー] 画面に [プライベートプリント] は表示されずに、[セキュリティープリント] が表示されます。

1. [認証の設定] > [プライベートプリントの設定] を押します。
2. 各項目を設定します。
3. [決定] を押します。

プリントの認証に従う

受信したジョブに対する動作を設定します。

工場出荷時の値は、[プリントの認証に従う] です。

プライベートプリントに保存

受信したジョブをプライベートプリントに保存します。

認証成功のジョブ

認証に成功したジョブに対する動作を設定します。

補足
- [プライベートプリントに保存する] に設定すると、プリンタードライバーで、セキュリティープリントを指示しても無視されます。
- プリントジョブをプライベートプリントに保存する場合は、User IDは半角32文字以内で設定してください。プリンタードライバーで設定したUser IDが半角32文字を超えている場合、プリントジョブは中止され、プライベートプリントには保存されません。

- プリント
  受信したジョブをすべてプリントします。クライアント側でプリントするときの設定によって、セキュリティープリントに保存されるか通常にプリントされます。
- プライベートプリントに保存
  受信したジョブをプライベートプリントに保存します。

工場出荷時の値は、[プリント] です。

User IDなしのジョブ

認証用User IDが付加されていないジョブに対する動作を設定します。

補足
- CentreWare Internet Servicesから設定することもできます。
  設定方法については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

- プリント
  認証属性を持たないジョブをすべてプリントします。
- ジョブを中止
  認証属性を持たないジョブをすべて削除します。

工場出荷時の値は、[ジョブを中止] です。

詳細設定

1. ［認証の設定］＞［詳細設定］を押します。
2. ［項目番号］を入力して、［確認/変更］を押します。

参照
- 項目番号については、「項目番号：認証 / セキュリティ設定」（P.429）を参照してください。

3. ［変更値］を入力します。
4. ［確認/変更］を押します。

項目番号：認証/セキュリティ設定

項目番号	項　目	変更値	工場出荷時の値
0	LPR/FTPから取得したUser IDによるプリント動作を設定します。	0：機能なし 1：キャンセル 2：プリント 3：プライベートプリントへ保存	0：機能なし
1	User IDの表示において、入力IDではなく取得した関連IDを使用するか設定します。	0：入力IDを使用する 1：関連IDを使用する	1：関連IDを使用する

11.10.4　ジョブの操作の設定

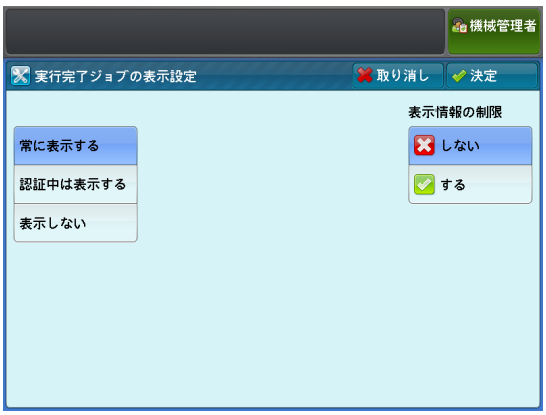
実行完了ジョブの表示設定

実行完了ジョブの表示制限を設定します。
ジョブ履歴の表示/非表示、一部情報の表示制限ができます。

補足
- CentreWare Internet Servicesから設定することもできます。
  設定方法については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

1. ［ジョブの操作の設定］＞［実行完了ジョブの表示設定］を押します。

2. 各項目を設定し、[決定]を押します。



常に表示する

実行完了ジョブを常に表示します。
工場出荷時の値は、[常に表示する]です。

認証中は表示する

認証機能を使用している場合、実行完了ジョブを表示します。

表示しない

実行完了ジョブを表示しません。
[表示対象ジョブ]、[表示情報の制限]は[実行完了ジョブの表示設定]の設定に依存していて、実行完了ジョブの表示内容もそれぞれの設定状態で変化します。設定の組み合わせとジョブの表示内容は、次の表のとおりです。[表示情報の制限]の工場出荷時の値は、[しない]です。

補足
- 機械管理者は、表示情報の制限を受けません。

- 認証機能を使用していないとき

設定項目			ジョブ表示内容			
実行完了ジョブの表示設定	表示対象のジョブ	表示情報の制限	機械管理者	未認証のユーザー	認証ユーザー	
					自分のジョブ	他人のジョブ
常に表示する	ー	しない	すべて表示	すべて表示	ー	ー
		する		一部情報を「*****」で表示		
認証中は表示する	ー	ー		非表示		
表示しない						

すべて表示: すべてのジョブ履歴、すべての項目を表示します。
一部情報を「*****」で表示: ジョブ名、排出先の情報を「*****」で表示します。
非表示: ジョブ履歴を表示しません。

• 認証機能を使用しているとき

設定項目			ジョブ表示内容			
実行完了ジョブの表示設定	表示対象のジョブ	表示情報の制限	機械管理者	未認証のユーザー	認証ユーザー	
					自分のジョブ	他人のジョブ
常に表示する	ー	しない	すべて表示	すべて表示	すべて表示	すべて表示
		する		一部情報を「*****」で表示	すべて表示	一部情報を「*****」で表示
認証中は表示する	すべて	しない		非表示	すべて表示	すべて表示
		する		非表示	すべて表示	一部情報を「*****」で表示
	認証ユーザーのジョブのみ	ー		非表示	すべて表示	非表示
表示しない	ー	ー		非表示	非表示	非表示

すべて表示: すべてのジョブ履歴、すべての項目を表示します。
一部情報を「*****」で表示: ジョブ名、排出先の情報を「*****」で表示します。
非表示: ジョブ履歴を表示しません。

11.10.5 ハードディスクの上書き消去設定

ハードディスクの上書き消去をするかどうかを設定します。
コピー、スキャン、プリントの処理が終了すると、各処理で使用したハードディスクの領域からデータを削除したあと、それらの情報が記録されていた領域に情報を持たないデータで自動的に上書きします。そうすることによって、ハードディスクに記録されていたデータの不正な取り出し/復元を防ぎます。コピー原稿など、システムが一時的に保存したデータにも対応します。

補足
- この機能を利用するにはオプションが必要になります。詳細については、弊社の営業担当者にお尋ねください。

上書き回数の設定

上書きする回数を、1回または3回から選択できます。
工場出荷時の値は、[しない]です。

注記
- 上書き処理中に本機の電源を切った場合、未終了のファイルがハードディスク上に残る場合があります。また、上書き処理未終了のファイルがハードディスク上に残った状態で、電源を入れた場合、上書き消去処理を再開します。
- 1回の上書きでデータは消去されますが、3回の上書き消去により、削除したデータを読み取られる可能性はより低くなります。ただし、時間がかかります。
- 上書き処理中は、通常操作の処理速度が低下することがあります。

1. ［ハードディスクの上書き消去設定］>［上書き回数の設定］を押します。
2. ハードディスクの上書きの回数を［しない］、［1回］、［3回］から選択します。
3. ［決定］を押します。

● データセキュリティキットを利用する上での前提条件について

機械管理者は、次の事項を遵守してください。

- ハードディスクの削除済みデータ、および保存データを保全するため、次の設定が必要です。
  -ハードディスクの上書き消去設定の上書き回数の設定：［1回］または［3回］
- 機械管理者のパスワードは、工場出荷時の値（「　　」）から変更してください。
  変更後のパスワードは、7文字以上（最長12文字）にしてください。パスワードは、容易に推測できる値に設定したり、機械管理者以外の目に触れる場所に格納したりしないでください。

注記

- 機械管理者のUser IDとパスワードは、絶対に忘れないでください。故障時に設定の復旧ができなくなります。

- ［本体パネルのパスワード使用］を［する］に設定してください。
- ［機械管理者認証の上限］は、5回に設定してください。
- 上記の各設定項目で、上記以外の設定を行った場合は、ハードディスクのセキュリティーを保つことができなくなりますので、ご注意ください。

参照

- データの暗号化の設定については、「データの暗号化」（P.385）を参照してください。
- 本体パネルのパスワード使用の設定については、「本体パネルのパスワード使用」（P.427）を参照してください。
- 機械管理者のUser IDの設定については、「機械管理者ID」（P.419）を参照してください。

組織の責任者（本製品を利用・運用する組織の責任者）は、次の事項を遵守してください。

- 機器管理者の適切な人選を行うと共に、管理や教育を実施してください。
- 本機の電源を切る前に、実行中の処理がないことを確認し、実行中の処理がある場合は、その処理の終了後に電源を切るように、利用者に対して教育を実施してください。
- データセキュリティキットは、利用済み文書データの再生を困難とするものです。
- ハードディスクの親展ボックスなどに保存される文書を保護するものではないことにご注意ください。
- データセキュリティキットが搭載された本機を設置する内部ネットワークに、盗聴を防止する機器を設置し、盗聴されないように適切にネットワーク設定を行ってください。
- 外部ネットワークから、本機を設置する内部ネットワークへのアクセスを遮断するため、ファイアウォールなどの機器を設置してください。
- パスワードと暗号化キーは次のルールに従って設定してください。
  - 容易に推測可能な文字列を使用しない
  - 英数文字を混在させて使用する

11.11 点検/修理依頼

11.11.1 点検/修理依頼

EP（エレクトロニック・パートナーシップ）システムを利用している場合、機械の点検や修理が必要になったときに、本機が弊社のカストマーコンタクトセンターに連絡します。連絡を受けると、必要に応じて、カストマーエンジニアが訪問します。

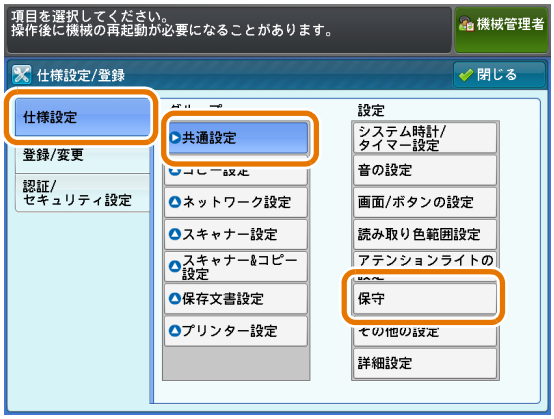
補足

- ［点検/修理依頼］は、EPnet-BOX type W2、またはEPnet-BOX type Lを接続しEPシステムを利用している場合に表示されます。
- EPシステムとは、本機と弊社のEP運用センターをインターネットまたは公衆回線で結ぶことで、機械のさまざまな管理業務を自動化するシステムです。
- EP システムは、一部の地域で利用できない場合があります。適用については、担当の営業または販売店にお問い合わせください。
- EPシステムを使用していない場合の点検/修理の依頼は、巻末の「「困った！」が解決しないときは」の連絡先を参照してください。

参照

- EPシステムについては、「11.11.2 EPシステムについて」（P.435）を参照してください。

1. ［仕様設定/登録］画面で、［仕様設定］>［共通設定］>［保守］を押します。



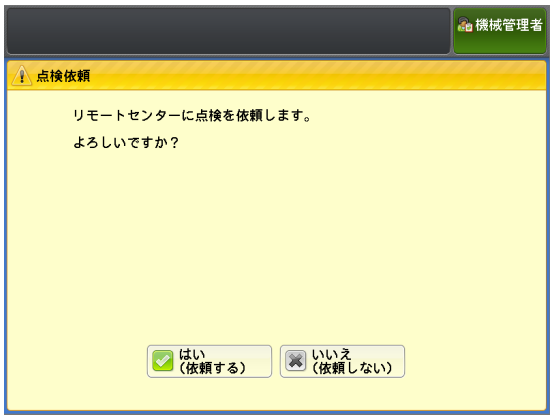
参照

- ［仕様設定/登録］画面を表示する方法については、「11.1 仕様設定の流れ」（P.368）を参照してください。

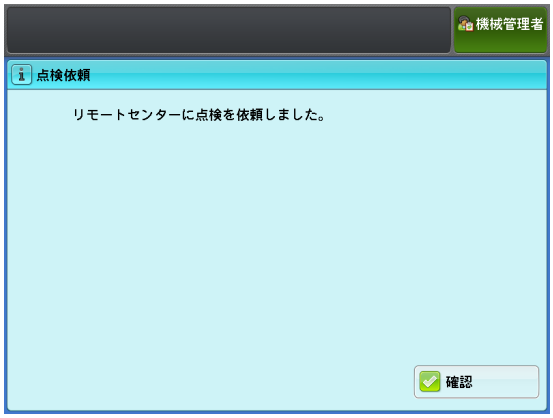
2. ［点検/修理依頼］を押します。

3. ［点検依頼］または［修理依頼］を選択します。
4. ［実行］を押します。

5. ［はい（依頼する）］を選択します。



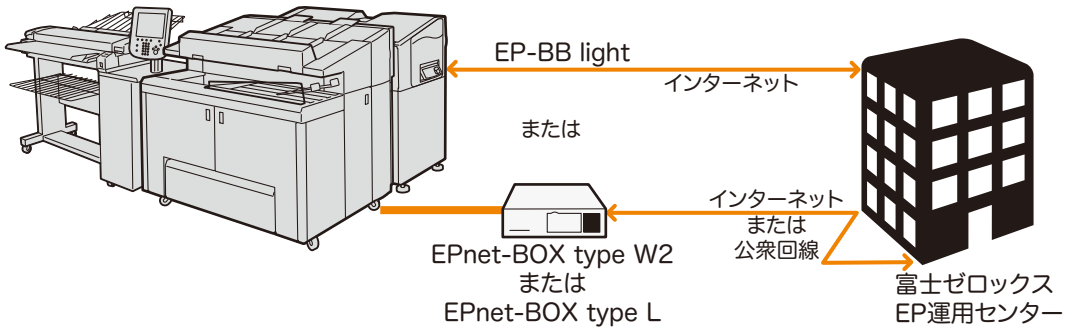
6. ［確認］を押します。



11.11.2 EPシステムについて

EP（エレクトロニック・パートナーシップ）とは、本機と弊社の EP 運用センターをインターネットまたは公衆回線で結ぶことで、機械の管理業務を自動化するシステムです。
本機でEPシステムを使用する場合の操作について説明しています。

補足
- EPシステムのサービスは、機械の電源が切られている状態ではご利用できません。
- EP システムは、一部の地域でご利用できない場合があります。適用については、営業担当者、または販売店にお問い合わせください。



EPシステムで利用できるサービスは、次のとおりです。

● メーターカウントの自動検針

毎月、設定した日時に、メーターのカウントを機械が自動的に弊社に通知します。

● 機械の点検/修理依頼

補足
- EPnet-BOX type W2、またはEPnet-BOX type Lを接続しEPシステムを利用している場合、点検／修理の依頼が行えます。

機械の点検や修理が必要になった場合に、点検/修理の依頼を行うと、機械から弊社のカストマーコンタクトセンターに点検/修理依頼の連絡をします。連絡を受けると、必要に応じてカストマーエンジニアが訪問します。この操作は、機械を管理する機械担当者が行ってください。

参照
- 点検/修理の依頼方法については、「11.11.1 点検/修理依頼」（P.433）を参照してください。

第12章 付録

本機の主な仕様、オプション製品一覧、保守サービス、注意/制限事項について説明します。

12.1　主な仕様 438
12.2　オプション製品一覧 445
12.3　保守サービスについて 447
12.4　注意/制限事項について 448

12.1　主な仕様

DocuWide 9098α の主な仕様を記載します。製品の仕様、および外観は、改良のため予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

基本機能

項目		内容
形式		コンソールタイプ*1
書き込み解像度		600×600 dpi
連続プリント速度*2	A0	タテ：9枚/分
	A1	ヨコ：17枚/分、タテ：13枚/分
	A2	ヨコ：22枚/分、タテ：17枚/分
	A3	ヨコ：29枚/分、タテ：22枚/分
	A4	ヨコ：37枚/分、タテ：29枚/分
給紙方式/給紙容量		ロール給紙2段×2本＋カット紙トレイ1段（1,000枚*3）、手差し給紙（1枚送り）
用紙サイズ	ロール給紙	ロール紙 A0、A1、A2、A3、特 A0（880 mm）、特 A1（620 mm / 625 mm）、特 A2（435 mm / 440 mm）、 36”、34”、24”、22”、18”、17”、12”、11” 幅：279.4～914 mm 外径：180 mm以下*4
	トレイ	カット紙 A3、A4、12”、11”、9”、8.5”
	手差し給紙	カット紙 A0、A1、A2、A3、A4、特 A0（880 mm）、特 A1（620 mm / 625 mm）、特 A2（435 mm / 440 mm）、 幅：210～880 mm 長さ：210～6,000 mm 補足 • 特 A1（625 mm）や特 A2（440 mm）サイズの設定については、機械設置時にカストマーエンジニアが行います。
ロール紙のカット方法		定寸カット、シンクロカット、任意長カット
用紙種類/用紙坪量*5	用紙種類	普通紙、トレーシングペーパー、フィルム カット紙のフィルムは手差しのみ
	用紙坪量	普通紙52.3～81.4 g/m^2、トレーシングペーパー55～85 g/m^2、フィルム75 μm
画像欠け幅		ロール紙：先端8 mm、後端8 mm、左/右8 mm カット紙：先端5 mm、後端5 mm、左/右5 mm
ウォームアップ・タイム		300秒以下（室温22 ℃、湿度55 %）
電源		スキャナー：AC100 V±10 %、3A、50/60 Hz共用（単独電源） プリンター：AC200 V±10 %、30A、50/60 Hz共用（単独電源）

項目	内容
最大消費電力	スキャナー：0.15 kW、プリンター：5.8 kW スリープモード時 スキャナー：10.0 W、プリンター：22.0 W 低電力モード時 スキャナー：90 W、プリンター：250 W
大きさ	スキャナー：幅1,575×奥行1,290×高さ1,340 mm プリンター：幅1,615×奥行940×高さ1,370 mm フォルダー接続時（オプション）：幅1,615×奥行2,040×高さ1,380 mm
質量	スキャナー：138 kg プリンター：810 kg
機械占有寸法	幅4,715×奥行3,715 mm フォルダー接続時（オプション）：幅5,390×奥行5,155 mm

*1　スキャナー、プリンター分離型

*2　画質調整のため速度が低下することがあります。用紙種類によっては生産性が落ちることがあります。

*3　弊社P紙（64 g/m^2）

*4　弊社E紙（64 g/m^2）200 mロール紙1本相当。

*5　弊社推奨紙の使用をお勧めします。使用条件によっては、正しく印刷されない場合があります。

コピー機能

項目		内容
原稿台方式		原稿移動式
原稿サイズ*1		最大幅：914.4 mm、最小幅：176 mm 最大長：15,000 mm、最小長：210 mm
原稿の厚さ		前方排出時（Uターンガイド取り付け時）：0.05～0.2 mm 後方排出時：0.05～12.7 mm*2
原稿種類		文字/線画、文字/写真、印刷写真、印画紙写真、青焼き、透過、濃淡むら原稿
読み取り解像度		600×600 dpi
複写サイズ		幅：210～914.4 mm（手差し給紙では210～880 mm）、長さ：210～6,000 mm
連続複写枚数		99枚
ファーストコピー・タイム		22.0秒（A0サイズ、倍率100 %、上段ロール1使用時）
複写倍率	等倍	1:1±0.4 %（室温22 ℃、湿度55 %、定型サイズを超える場合は除く）
	固定倍率	25 %、35 %、50 %、70 %、141 %、200 %
	任意倍率	25～400 %（0.1 %きざみ）
出力色		黒単色/赤黒色/赤単色
メモリー容量		標準：4GB

項目	内容
コピーおよび原稿入力機能	手差しコピー、追加コピー、割り込みコピー オートモード（原稿の向き/自動用紙選択/自動倍率選択）、マニュアルモード、カラーモード、倍率選択、用紙選択、カット方法、原稿の画質、コピー濃度、シャープネス、コントラスト、地色除去、中間調の振り分け、色別濃度調整、画質設定メモリー、原稿幅、コピー位置、読み取り開始位置、わく消し、鏡像、ネガポジ反転、原稿読み取り速度、紙折り*3、排出先*4、仕分け（スタック/ソート/配布パターン）、スタンプ*5（黒/赤/グレー）、先端後端余白、マルチジョブ、サンプルコピー

*1　読み取り最大長は、読み取り条件により変わります。

*2　厚さが0.2 mmを超え、12.7 mmまでの平面な堅い原稿（スチレンボード、厚紙）を読み込むことができます。ただし、原稿を手で支える必要があります。また、原稿を正確に読み込みできることを保証するものではありません。

*3　フォルダー（オプション）装着時

*4　フォルダー（オプション）未装着時

*5　オプション

プリント機能

項目		内容
プリントサイズ		コピー機能の複写サイズに準ずる
連続プリント枚数		99枚*1
ファーストプリント・タイム		22秒（A0、1.28 MBデータ、上段ロール1使用時）
倍率精度		100±0.4 %（室温22 ℃、湿度55 %環境、定型サイズを超える場合は除く）
出力色		黒単色/赤黒色/赤単色
ページ記述言語		オプション：Adobe® PostScript® 3™
対応プロトコル		TCP/IP（LPR、FTP）
対応OS*2		Windows® 10（32ビット） Windows® 10（64ビット） Windows® 8.1（32ビット） Windows® 8.1（64ビット） Windows® 8（32ビット） Windows® 8（64ビット） Windows® 7（32ビット） Windows® 7（64ビット） Windows Vista®（32ビット） Windows Vista®（64ビット） Windows Server® 2019 （64ビット） Windows Server® 2016 （64ビット） Windows Server® 2012 R2（64ビット） Windows Server® 2012（64ビット） Windows Server® 2008 R2（64ビット） Windows Server® 2008（32ビット） Windows Server® 2008（64ビット）
データフォーマット	標準	HP-GL系：HP-GL、HP-GL/2、HP-RTL（HP Designjet 1050c準拠） VERSATEC系：VRF、VCGL、FX-MMR その他：TIFF、JFIF（JPEG）、CALS
	オプション	Adobe® PostScript® 3™、PDF

項目	内容
インターフェイス	Ethernet 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T

*1　画像安定化処理のため、機械の動作を一時的に中断することがあります。

*2　最新の対応OSについては、弊社公式サイトをご覧ください。

スキャン機能

項目		内容
形式		カラースキャナー
読み取りサイズ*1		幅：176～914.4 mm、長さ：210～15,000 mm 補足　• 最大長については、「スキャン最大長について（解像度600 dpiの場合）」（P.450）を参照してください。
読み取り解像度		600×600 dpi、400×400 dpi、300×300 dpi、200×200 dpi、150×150 dpi
読み取り階調		フルカラー、グレースケール（256階調）、白黒（2値）、白黒擬似階調（2値）、赤黒（2値）、赤黒擬似階調（2値）
読み取りモード		文字/線画、文字/写真、印刷写真、印画紙写真、青焼き、透過、濃淡むら原稿
原稿読み取り速度		フルカラー 高速：152.4 mm/秒（解像度300 dpi以下）、低速：50.8 mm/秒、超低速：25.4 mm/秒 フルカラー以外 高速：152.4 mm/秒、中速：76.2 mm/秒、超低速：25.4 mm/秒
インターフェイス		Ethernet 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T
ボックス保存	対応プロトコル	TCP/IP（HTTP）
	出力フォーマット	フルカラー/グレースケール（256階調）：TIFF/PDF/JPEG/DocuWorks文書*2 白黒（2値/白黒擬似階調（2値）：TIFF/PDF/DocuWorks文書*2 赤黒（2値/赤黒擬似階調（2値）：TIFF/PDF/DocuWorks文書*2
	ドライバー	TWAINインターフェイス対応*3
	ドライバー対応OS*4	Windows® 10（32ビット） Windows® 10（64ビット） Windows® 8.1（32ビット） Windows® 8.1（64ビット） Windows® 8（32ビット） Windows® 8（64ビット） Windows® 7（32ビット） Windows® 7（64ビット） Windows Vista®（32ビット） Windows Vista®（64ビット） Windows Server® 2019（64ビット） Windows Server® 2016（64ビット） Windows Server® 2012 R2（64ビット） Windows Server® 2012（64ビット） Windows Server® 2008 R2（64ビット） Windows Server® 2008（32ビット） Windows Server® 2008（64ビット）

項目		内容
PC保存	対応プロトコル	TCP/IP（SMB）
	対応OS*4	Windows® 10（32ビット） Windows® 10（64ビット） Windows® 8.1（32ビット） Windows® 8.1（64ビット） Windows® 8（32ビット） Windows® 8（64ビット） Windows® 7（32ビット） Windows® 7（64ビット） Windows Vista®（32ビット） Windows Server® 2019（64ビット） Windows Server® 2016（64ビット） Windows Server® 2012 R2（64ビット） Windows Server® 2012（64ビット） Windows Server® 2008 R2（64ビット） Windows Server® 2008（32ビット）
	出力フォーマット	フルカラー/グレースケール（256階調）：TIFF/PDF/JPEG/DocuWorks文書*2 白黒（2値）/白黒擬似階調（2値）：TIFF/PDF/DocuWorks文書*2 赤黒（2値）/赤黒擬似階調（2値）：TIFF/PDF/DocuWorks文書*2
プリンター転送	インターフェイス	Ethernet 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T
	対応プロトコル	TCP/IP（LPR）
ダイレクトスキャン*5	インターフェイス	USB 2.0

*1　連携するソフトウェアにより最大長が制限される場合があります。

*2　1辺が500 mmを超える場合、DocuWorks 7.0以降で表示できます。

*3　ファイル形式は使用するアプリケーションに依存します。

*4　最新の対応OSについては、弊社公式サイトをご覧ください。

*5　ダイレクトスキャンの場合、出力フォーマット/圧縮形式は連携するアプリケーションにより異なります。

フォルダー（オプション）

項目		内容
紙折り	ファン折り	用紙サイズ：A0、A1、A2、A3、A4、特A0（880 mm）、特A1（620 mm）、特A2（440 mm） 用紙坪量：64～81.4 g/m^2
	クロス折り	用紙サイズ：A0、A1、A2、A3、A4、特A0（880 mm）、特A1（620 mm）、特A2（440 mm） 用紙坪量：64～81.4 g/m^2
折り上げサイズ		A4サイズもしくはジャバラ折り
その他の機能		ベルトスタッカー付属 A2サイズファン折りの場合、耳折り可能
電源		プリンターより供給
大きさ		幅1,555×奥行1,215×高さ1,380 mm
質量		524 kg

コピー倍率一覧表

- A系列の定形倍率

原稿	コピー				
	A4	A3	A2	A1	A0
A4	100.0 %	141.4 %	200.0 %	283.0 %	400.0 %
A3	70.7 %	100.0 %	141.4 %	200.0 %	283.0 %
A2	50.0 %	70.7 %	100.0 %	141.4 %	200.0 %
A1	35.3 %	50.0 %	70.7 %	100.0 %	141.4 %
A0	25.0 %	35.3 %	50.0 %	70.7 %	100.0 %

定形サイズ

定形サイズは、次のとおりです。

定形サイズ	幅（mm）	長さ（mm）	サイズ系列
JIS/ISO A0	841	1189	A系列
JIS/ISO A1	594	841	A系列
JIS/ISO A2	420	594	A系列
JIS/ISO A3	297	420	A系列、特A系列
JIS/ISO A4	210	297	A系列、特A系列
JIS B1*	728	1030	JIS B系列
JIS B2*	515	728	JIS B系列
JIS B3*	364	515	JIS B系列
JIS B4*	257	364	JIS B系列
JIS B5*	182	257	JIS B系列
ISO B1*	707	1000	ISO B系列
ISO B2*	500	707	ISO B系列
ISO B3*	353	500	ISO B系列
ISO B4*	250	353	ISO B系列
ISO B5*	176	250	ISO B系列
ANSI E (34x44")	863.6	1117.6	ANSI系列
ANSI D (22x34")	558.8	863.6	ANSI系列
ANSI C (17x22")	431.8	558.8	ANSI系列
ANSI B (11x17")	279.4	431.8	ANSI系列
ANSI A (8.5x11")	215.9	279.4	ANSI系列
Architectural E (36x48")	914.4	1219.2	Arch系列
Architectural D (24x36")	609.6	914.4	Arch系列

定形サイズ	幅（mm）	長さ（mm）	サイズ系列
Architectural C (18x24")	457.2	609.6	Arch系列
Architectural B (12x18")	304.8	457.2	Arch系列
Architectural A (9x12")	228.6	304.8	Arch系列
880x1230 mm	880	1230	特A系列
625x880 mm	625	880	特A系列
620x871 mm	620	871	特A系列
440x625 mm	440	625	特A系列
435x620 mm	435	620	特A系列
312x440 mm	312	440	特A系列
310x435 mm	310	435	特A系列

*　JIS B系列、ISO B系列はスキャンのときだけです。

12.2　オプション製品一覧

主なオプション製品は次のとおりです。お買い求めは、販売店にご連絡ください。

商品名	説　明
BrainTech8090Folder	出力した用紙を紙折します。
BT8090Roll Holder	ロール紙交換用のシャフトです。
アテンションライトキット	紙づまりや用紙切れなどを知らせるライトです。
BT8090アテンションライト取付けキット	アテンションライトを取り付けるキットです。
BT8090カシツキ	冬場などの乾燥しているときに用紙加湿器を使用します。
DW9098追加延長ケーブル	スキャナーとプリンターを接続する延長ケーブルです。
DW9098スタンパー	スタンプを利用するためのキットです。
長尺原稿ホルダー	長尺原稿をスキャナーにセットするときに使用するホルダーです。
DW9098 PDF/PS-JPN	PDF/PostScriptフォーマットデータを出力するためのキットです。
DW9098データセキュリティ	ハードディスクに書き込まれたデータのセキュリティーを強化するためのキットです。
原稿ストックトレイ	原稿を一時的に置くトレイです。
Uターンガイド	原稿を後方に排出しないで手前に戻すときに使用します。
Scan Counter KIT	リセットができる原稿枚数カウンターです。
DW9098ユーザーズガイド	本書の印刷マニュアルです。
USB Cable KIT	ダイレクトスキャン機能使用時に、本機とコンピューターとを接続するUSBケーブルです。
用紙収容エクステンション	用紙の大きさに応じて使用する延長トレイです。
BT-PlotAssistant	コンピューターからプリントデータを直接転送し、出力するためのツールです。 部数や縮小・拡大の指示をしたり、本機の状態や設定を確認したりすることもできます。
BT-X Repro Server	アプリケーションで設定情報を付加したプリントデータを送ることによって、配布先ごとに部数、拡大/縮小、紙折りなどを設定した複雑なプリントを行うことができるサーバーソフトウェアです。
DW-Scan V Service	本機とUSB接続されたコンピューターから、スキャンデータを取り込むためのソフトウェアです。
DW-Scan V CSV連携KIT	CSV 形式で作成されたのスキャンの指示ファイルを、DW-Scan V Serviceに登録するためのソフトウェアです。
EPnet-BOX	機械の点検や修理が必要になった場合に、機械から弊社の EP センターに自動通知するサービスを提供します。
ICカードリーダー B	ICカード認証するときに使用します。
ICカードリーダー D	ICカード認証するときに使用します。
IC Card Gate 3 / IC Card Gate 3 for HID Prox	ICカード認証するときに使用します。

商品名	説　明
Adaptor-BOX	EPnet-BOXとIC Card Gateを設置するときに使用するアダプターです。

主な関連ソフトウェアは次のとおりです。

商品名	説　明
プリンター標準（TIFF）ドライバー（DocuWideプロットドライバー）	Windows コンピューターから本機にプリントするためのドライバーです。
プリンター（PS）ドライバー	DW9098 PDF/PS-JPN がある本機にプリントするためのドライバーです。
スキャナードライバー（ネットワーク接続）*	本機で読み込んだ文書をコンピューター上の TWAIN 対応ソフトウェアで取り込むためのドライバーです。
スタンプツール	［スタンプ作成ツール］でコンピューター上でスタンプ画像を作成し、作成した画像を［スタンプ転送ツール］でプリンターへネットワーク経由で転送するツールです。

*　ネットワークスキャナ ユーティリティ 3、親展ボックスビューワー 3

補足

- 関連ソフトウェアは、同梱のメディア（ソフトウェア/製品マニュアル）からインストールできます。
- 最新のソフトウェアを入手するためのホームページアドレス（URL）は、次のとおりです。
  http://www.fujixerox.co.jp/download/
  なお、通信費用はお客様の負担になりますので、ご了承ください。

12.3　保守サービスについて

本機を安心してお使いいただくために、トータルサービス契約とスポット保守サービス方式の 2 種類の保守サービス方式があります。

12.3.1　トータルサービス契約

コピー /プリントの枚数に応じて、所定のコピー /プリント料金をいただくメーター料金制によって、以下のサービスをお引き受けする契約です。

- 機械の修理と点検、ドラムの交換

機械が故障した場合は、お客様の要請によってカストマーエンジニアが訪問し、修理します。また、必要に応じて故障箇所以外の点検・調整や、ドラムの交換を実施します。

- 定期的な消耗品の配送

機械を正常な状態で使用していただくために必要なトナーカートリッジなどの消耗品（用紙は除く）を、定期的にお届けします。
ただし、地域により、または一部の消耗品については、定期配送を行わない場合があります。
詳細は営業担当者へお問い合わせください。

- 部品の交換

修理や点検で部品の交換が必要な場合に交換します。

12.3.2　スポット保守サービス

保守サービスおよび消耗品類の供給を、お客様の要請のつど、弊社営業時間内に有料でお引き受けする方法です。

12.3.3　補修用性能部品の保有期間について

弊社は機械の補修用性能部品（機械の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後 7 年間保有しています。

12.4　注意/制限事項について

ここでは、本機を使用するうえでの注意、および制限について説明します。

12.4.1　本機使用上の注意/制限

本機の設置/移動について

- 本機を移動する場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。
- 本機が作動しているとき、本機に衝撃を与えないでください。
- 本機外部にあるファンの吸排出口の近くには物を置かないでください。

機械操作上の注意点

- 電源を入れた直後に切らないでください。ハードディスクやメモリーが破損したり、故障の原因になることがあります。
- 画像不良の原因になるため、プリンターの上部ユニットを10分以上、開放したままにしないでください。

電源を切るときの注意点

- 主電源スイッチを入れてから画面が表示されるまで、電源を切らないでください。
- 操作パネルで操作できなくなったり、エラー画面を閉じられなくなった場合は、主電源スイッチを切ってください。
- 電源を切ったあと、再度電源を入れる場合は、操作パネルの主電源ランプが消灯しているか確認してから電源を入れてください。

12.4.2　コピー機能での注意/制限

オートモードの用紙選択の制限

オートモードの用紙選択は、原稿の向きによって、次のような制限があります。

用紙系列	原稿の向き	制限
A系列	定形たて	制限はありません。
	定形よこ	原稿サイズ：A0は選択できません。 用紙選択：A0は選択できません。
	シンクロ	用紙選択：A4は選択できません。

左側へのコピー位置の制限

左側へのコピー位置を指定した場合、実際には次の量で移動します。(単位：mm)
ただし、プリンターの状態や用紙のセットの状態によって、異なる結果になることもあります。

指定量	実際の移動量	指定量	実際の移動量	指定量	実際の移動量
0	0	17	16	34	33
1	0	18	17	35	34
2	1	19	18	36	35
3	2	20	19	37	36
4	3	21	20	38	37
5	4	22	21	39	38
6	5	23	22	40	39
7	6	24	23	41	40
8	7	25	24	42	41
9	8	26	25	43	42
10	9	27	26	44	43
11	10	28	27	45	44
12	11	29	28	46	45
13	12	30	29	47	46
14	13	31	30	48	47
15	14	32	31	49	48
16	15	33	32	50	49

右側へのコピー位置の制限

右側へのコピー位置を指定した場合、実際には次の量で移動します。(単位：mm)
ただし、プリンターの状態や用紙のセットの状態によって、異なる結果になることもあります。

指定量	実際の移動量	指定量	実際の移動量	指定量	実際の移動量
0	0	17	17	34	35
1	1	18	18	35	35
2	2	19	18	36	36
3	4	20	20	37	37
4	4	21	21	38	39
5	5	22	23	39	39
6	6	23	23	40	40
7	8	24	24	41	41
8	8	25	25	42	41
9	9	26	27	43	43
10	10	27	27	44	44
11	12	28	28	45	46
12	12	29	29	46	46
13	13	30	31	47	47
14	14	31	31	48	48
15	16	32	32	49	50
16	16	33	33	50	50

12.4.3　スキャン機能での注意/制限

スキャン最大長について（解像度600 dpiの場合）

出力ファイル形式	カラーモード			
	フルカラー	グレースケール (256 階調)	白黒（2 値）/ 白黒擬似階調（2 値）	赤黒（2 値）/ 赤黒擬似階調（2 値）
TIFF	2,772 mm	2,772 mm	15,000 mm	3,156 mm
PDF	2,772 mm	2,772 mm	15,000 mm	15,000 mm
PDF セキュリティ	2,772 mm	2,772 mm	5,077 mm	5,077 mm
DocuWorks	2,772 mm	2,772 mm	2,774 mm	2,772 mm
JPEG	2,772 mm	2,772 mm	-	-

作成されるスキャンデータのファイルサイズについて

スキャンデータ生成時に1ファイルが以下のサイズを超えた場合は、タッチパネルディスプレイにエラーメッセージが表示されます。直前まで読み込んだ蓄積原稿でマルチページファイルを保存するか、すべてキャンセルするかを選択します。

出力ファイル形式	カラーモード			
	フルカラー	グレースケール (256 階調)	白黒（2 値）/ 白黒擬似階調（2 値）	赤黒（2 値）/ 赤黒擬似階調（2 値）
TIFF	2 GB	2 GB	2 GB	2 GB
PDF	2 GB	2 GB	2 GB	2 GB
DocuWorks	1 GB*	1 GB*	1 GB*	1 GB*
JPEG	2 GB	2 GB	-	-

* シングルページDocuWorksの場合は250 MBです。

作成される赤黒TIFFファイルについて

［赤黒（2 値）］または［赤黒疑似階調（2 値）］を指定してスキャンすると、出力ファイル形式でPDF、DocuWorks、JPEGなどTIFF以外のフォーマットを指定していても、次の場合に内部でフルカラーのTIFFファイルが生成されます。そのため、読み取り最大長や、マルチページTIFFのページ数制限が適用されます。
-保存先が親展ボックスの場合
-スキャナー（マルチ送信）で宛先に［プリンター］が指定されている場合

- 読み取り最大長

原稿幅	読み取り解像度	読み取り最大長
36"	150 dpi	15,000 mm
	200 dpi	15,000 mm
	300 dpi	12,626 mm
	400 dpi	7,098 mm
	600 dpi	3,156 mm
A0	150 dpi	15,000 mm
	200 dpi	15,000 mm
	300 dpi	13,728 mm
	400 dpi	7,722 mm
	600 dpi	3,432 mm

● マルチページTIFFのページ数制限

原稿サイズ	読み取り解像度				
	150 dpi	200 dpi	300 dpi	400 dpi	600 dpi
A4	740ページ	416ページ	185ページ	104ページ	46ページ
A3	370ページ	208ページ	92ページ	52ページ	23ページ
A2	185ページ	104ページ	46ページ	26ページ	11ページ
A1	92ページ	52ページ	23ページ	12ページ	5ページ
A0	46ページ	26ページ	11ページ	6ページ	2ページ

作成されるDocuWorks文書のサイズについて

［出力ファイル形式］で［シングルページDocuWorks］または［マルチページDocuWorks］を選択した場合は、原稿サイズによって作成されるDocuWorks文書のサイズが異なります。

原稿サイズ	作成される DocuWork 文書
1辺が2,400 mmに収まるサイズ	原稿サイズと同じ*1
1辺が2,400 mmを超えるサイズ	1辺が2,400 mmに収まるサイズ*2 *3

*1　1辺が500 mmを超える場合、DocuWorks 7.0以降で表示できます。

*2　DocuWorks文書は解像度を高めて保存するため、画像の品質は劣化しません。
DocuWorksDesk/Viewer 7.xから印刷する場合は、印刷画面上で「印刷用紙の大きさに合わせて拡大/縮小」を選択することで、任意のサイズにプリントできます。たとえば、印刷用紙サイズに次の「元のサイズ」情報のサイズを指定することで、原稿と同じサイズでプリントできます。
DocuWorksDesk上で対象の文書を選択（クリック）すると、画面左下に元のサイズ情報が表示されます。（例：「元のサイズ420×3,000 mm」）

*3　たとえば、420×3,000 mmの原稿の場合は、336×2,400 mmのDocuWorks文書を作成します。

付録 12

スキャナー（ボックス保存）について

- 親展ボックスのスキャンデータ最大保存容量は約12 GBです。
- お使いのアプリケーションによっては、コンピューターからの取り出しに失敗して、文書を消失してしまうことがあります。スキャンに関する注意制限の詳細については、弊社ダウンロードサイトのネットワークスキャナ ユーティリティ 3のページに記載している「注意制限事項」を参照してください。
- ネットワークスキャナードライバーのスキャンデーター覧の画面では、非定形文書の［サイズ］項目が空白になります。
- 複数のコンピューターから同時に、同じ親展ボックス内の同じ文書を取り出すことはできません。

スキャナー（マルチ送信）について

● 論理プリンターについて

論理プリンター個別の設定は、CentreWare Internet Services上で行います。
本機からは設定および確認はできません。

参照　• CentreWare Internet Servicesについては、CentreWare Internet Servicesのヘルプを参照してください。

ローカルプリントを［する］とした場合の、論理プリンターの描画色の設定機能について

- ［赤黒（2値）］、または［赤黒疑似階調（2値）］を指定してスキャンした場合
  CentreWare Internet Servicesで［プリント設定］＞［VERSATEC］フォーマットの論理プリンターの編集＞［出力設定］＞［描画色の指定］＞［描画色の指定］の［有効］チェックボックスをオンにしてプリントした場合、プリント結果が白黒に見えても赤を含むプリントとして処理されることがあります。確実に白黒でプリントしたい場合は、［描画色の指定］の［有効］チェックボックスをオフにしてください。
- ［フルカラー］、［グレースケール（256階調）］、［白黒（2値）］、［白黒疑似階調（2値）］を指定してスキャンした場合
  CentreWare Internet Servicesで［プリント設定］＞［TIFF/JPEG］フォーマットの論理プリンターの編集＞［出力設定］＞［描画色の指定］＞［カラーマップの編集］で、カラーマップの各色に対応した色を赤に設定した場合、プリント結果が白黒に見えても赤を含むプリントとして処理されることがあります。確実に白黒でプリントしたい場合は、［出力設定］＞［描画色の指定］＞［カラーモード］を［ソリッド（黒）］に設定するか、［カラーマップの編集］でカラーマップ8色すべてを、黒または白に設定してください。
- 白黒に見えても赤を含むプリントとして処理される例として、次のような場合があります。
  -赤で描画される点と黒/白のオブジェクトが重なっている場合
  -設定した印刷用紙の領域外に赤で描画される点がある場合
  -微小な赤点が描画されている場合

プリントについて

- DocuWideシリーズ以外のプリンターで、存在しない論理プリンター（番号、名前）を指定した場合、出力結果はプリンターの仕様に従います。
- DocuWideシリーズ以外のプリンターの場合、部数はスキャンのプリント設定画面での設定と、出力するプリンターが持つ論理プリンターの設定の両方の影響を受けることがあります。
- スキャナー（マルチ送信）で、［赤黒（2値）］または［赤黒疑似階調（2値）］のスキャンデータをプリンター（DocuWide 9098α）に転送して赤黒で出力する場合、CentreWare Internet Servicesで［プリント設定］＞［TIFF/JPEG］フォーマットの論理プリンターの編集＞［出力設定］＞［描画色の指定］を選択し、［カラーモード］と［カラーマップ］を設定して赤を描画するようにしてください。
- スキャナー（マルチ送信）で、［赤黒（2値）］または［赤黒疑似階調（2値）］のスキャンデータを赤黒でローカルプリントする場合、CentreWare Internet Servicesで［プリント設定］＞［VERSATEC］フォーマットの論理プリンターの編集＞［出力設定］＞［描画色の指定］＞［描画色の指定］の［有効］チェックボックスをオンにしてください。

IPv6接続におけるスキャンデータ送信について

TCP/IP IP動作モード	接続先	スキャナー（PC保存）/スキャナー（マルチ送信）		
		ネットワーク参照	サーバー保存	プリンター送信
IPv6モード	同一サブネット	×	△*3	○
	異なるサブネット	×	△*3	○
デュアルスタック	同一サブネット	○*1	△*3	○
	異なるサブネット	△*2	△*3	○

*1　IPv4環境で動作。

*2　IPv4環境で動作するネットワーク内にドメインコントローラが設置されている場合は可能。

*3　Windows Vista以降、Windows Server 2008以降で可能。

12.4.4　スキャナー＆コピー機能での注意/制限

スキャナー＆コピーの動作について

- プリントジョブの処理中は、スキャナー＆コピーはできません。
- 処理中のコピーデータがある場合は、[スキャナー＆コピー] 画面からメニュー画面に移行できません。コピーやスタンプの処理が終了してから移行してください。
- スキャナー＆コピーで、縮小を指定してプリントすると、処理時間が長くなることがあります。

不正な処理を行ってDW-Scan V Serviceが強制終了した場合

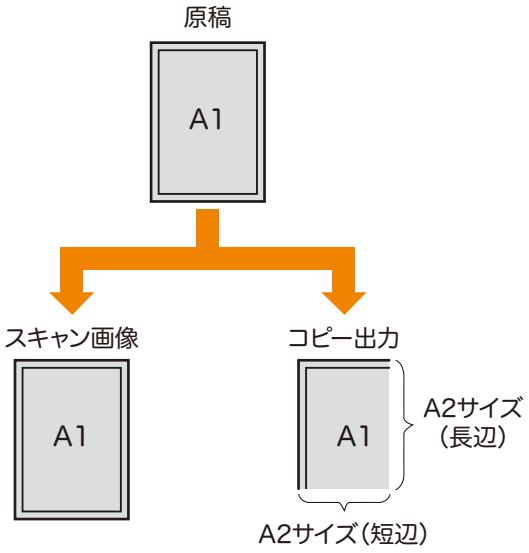
- DW-Scan V Serviceと本機を接続しているときに不正な処理を行って強制終了した場合、パネル操作でメニュー画面に戻ることができなくなります。DW-Scan V Serviceを再起動してもう一度読み取りを開始するか、本機を再起動してください。DW-Scan V Service から再接続する場合、1 度目は DW-Scan V Serviceにエラーが発生しますが、2度目は正常に読み取りを開始できます。

原稿サイズと用紙サイズが異なる場合

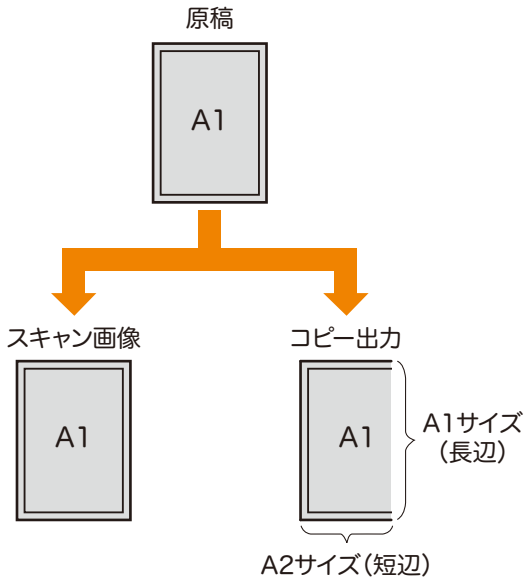
原稿サイズと用紙サイズが異なる場合は、スキャン画像とコピー出力結果が一致しないことがあります。

- 用紙サイズが原稿サイズよりも小さい場合

A1定形たて原稿を、「A2ロール/定寸たて」に指定してスキャナー＆コピーする場合

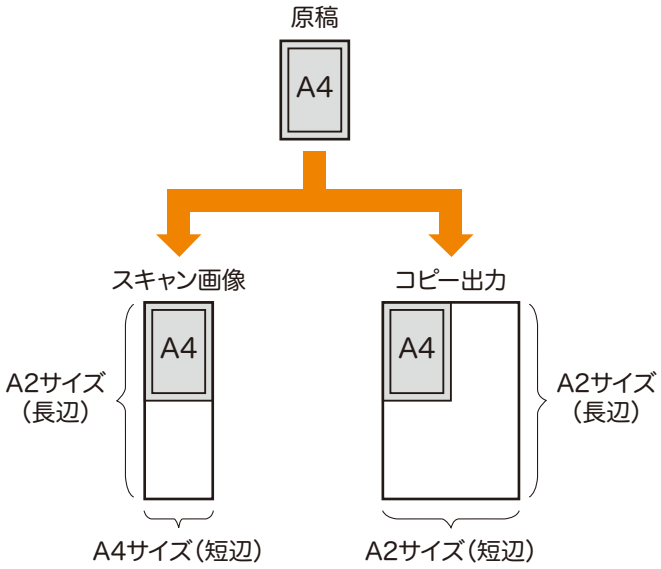


A1定形たて原稿を、「A2ロール/シンクロ」に指定してスキャナー＆コピーする場合

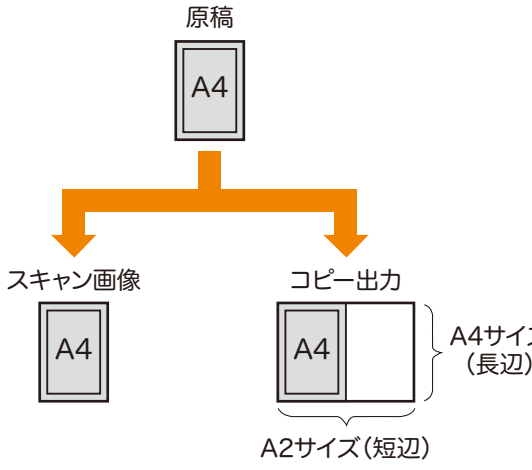


- 用紙サイズが原稿サイズよりも大きい場合

A4定形たて原稿を、「A2ロール/定寸たて」に指定してスキャナー＆コピーする場合



A4定形たて原稿を、「A2ロール/シンクロ」に指定してスキャナー＆コピーする場合



スキャン画像の余白について

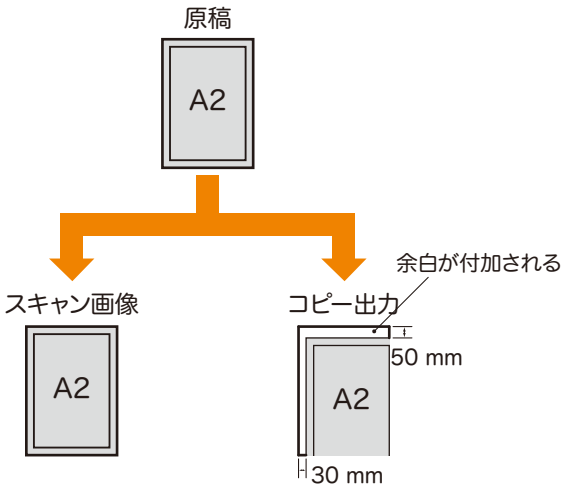
- コピー設定の［コピー位置］で［上方向］を設定した場合は、または［読み取り開始位置］で［下方向］を設定した場合は、スキャン画像の下に余白が付きます。

スキャン画像とコピー出力について

- コピー機能によって出力を加工する場合は、コピー出力にだけ反映され、スキャン画像には反映されないものがあります。
  スキャン画像に反映されないものは、次のとおりです。
  - コピー位置（上下、左右、センター移動）
  - わく消し
  - 読み取り開始位置
  - カット方法をシンクロ指定時の先後端余白
  - スタンプ

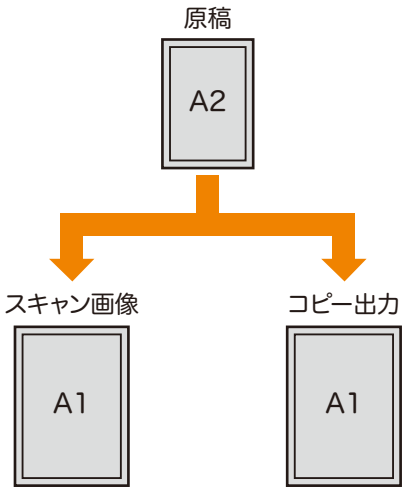
補足

- コピー位置調整を行い、A2定形たて原稿を、下方向に50 mm、右方向に30 mm移動した場合



- 画像の画質および拡大縮小などの画像処理に関する設定は、スキャン画像とコピー出力ともに反映されます。スキャン画像とコピー出力ともに反映されるものは、次のとおりです。
  - 縮小/拡大、たてよこ独立変倍
  - 鏡像
  - ネガポジ反転
  - 地色除去
  - 中間調の振り分け
  - 原稿の画質

補足　• A2定形たて原稿を141%拡大し、A1ロールに出力する場合



12.4.5　プリント機能での注意/制限

参照　• プリント機能での注意/制限は、CentreWare Internet Servicesのヘルプも参照してください。

コピー/スキャン操作中のプリントについて

スキャナー（ボックス保存）とスキャナー（PC保存）の場合、スキャン操作中でもプリントすることができます。
コピーまたはスキャナー（マルチ送信）の場合は、コピー/スキャン操作の終了後に次のタイミングでプリントが開始されます。

- 何も操作しない場合

モード確保時間（30秒固定）経過後、仕様設定機能で設定した［プロットモード移行時間］を過ぎた時点で、プリントが開始されます。
［プロットモード移行時間］の工場出荷時の値は30秒ですので、コピー/スキャン操作の終了後、1分（モード確保時間（30秒）＋プロットモード移行時間（30秒））経過するとプリントが開始されます。

- モード確保時間（30秒）中に操作パネルの〈メニュー〉ボタンを押した場合

モード確保時間（30 秒固定）はキャンセルされ、〈メニュー〉ボタンを押してから、仕様設定機能で設定した［プロットモード移行時間］を過ぎた時点で、プリントが開始されます。
たとえば、コピー/スキャン操作が終了してから 10 秒後に〈メニュー〉ボタンを押した場合、40 秒（〈メニュー〉ボタンを押すまでの時間（10秒）＋プロットモード移行時間（30秒：工場出荷時））経過するとプリントが開始されます。

参照　• ［プロットモード移行時間］の設定方法については、「11.3.8 詳細設定」（P.386）を参照してください。

スキャナー＆コピー操作中のプリントについて

スキャナー＆コピーの設定中または実行中は、ネットワークプリントジョブはキューイングされるだけでプリントされません。スキャナー＆コピーを終了してメニュー画面へ戻ってから、仕様設定機能で設定した［プロットモード移行時間］を過ぎた時点で、プリントが開始されます。

参照 • ［プロットモード移行時間］の設定方法については、「11.3.8 詳細設定」（P.386）を参照してください。

ArcEPSを使用したプリントについて

ArcEPSを使ってプリントしている場合、ジョブ確認画面の［実行中/待ち］タブの［相手/内容］に［占有モード］と表示されます。この間は、ArcEPS 以外のプリントは受信しますが、占有モードを解除するまでプリントされません。

12.4.6　IPv6 接続の注意 / 制限

- マルチプレフィックス環境（IPv6 グローバルアドレスを複数扱う環境）では、本機から外部ネットワークへの送信に失敗する可能性があります。
- マルチプレフィックス環境（IPv6 グローバルアドレスを複数扱う環境）では、登録されていないアドレスで通信されることがあります。
- 自動設定するIPv6 アドレス（IPv6 自動設定アドレス、IPv6 DNS サーバーアドレス）には、取得したIPv6 アドレスが運用上使用できないアドレスが設定されることがあります。
  運用上使用できない IPv6 アドレスとは、サイトローカルアドレス（fec0::）や文書作成用アドレス空間（2001:db8::/32）のアドレスのことです。
- IP 動作モードがデュアルスタックで、IPv4/IPv6 ともにDNS 情報が設定されていて、FQDN で指定されている装置と通信するとき、本機の起動直後には、IPv4 のDNS 情報が使用されることがあります。
- 本機のIP アドレスとして表示されるアドレスが変わることがあります。
  たとえば、デュアルスタックモードでIPv4 アドレスとIPv6 アドレスのどちらか一方が表示されない、IPv6 アドレスの内容が変わるなどです。
- WINS はIPv6 ネットワークでは通信できません。
- 本機で「IPv6 有効」かつ「IPv4 無効」が設定されている場合、スキャナー（PC 保存）の SMB 転送のネットワーク参照機能による格納先指定が使用できません。
- IPv4環境ではブロードキャストを使用したルータ超え検索ができますが、IPv6環境ではブロードキャスト検索はできません。また、ルータを超えた検索には対応していないので、マルチキャストに応答するのはローカルリンク内でのマルチキャスト（FF02::1）だけです。
- DNSサーバーが存在しないIPv6ネットワーク環境では、スキャナー（PC保存）の保存先サーバーにサーバー名を指定すると、スキャンしたデータの送信に失敗します。

12.4.7　その他の注意/制限

フォルダー（オプション）使用時について

● 紙折りしたあと、折り部または折り部の近くではがれたトナーが印刷面に付着する場合があります。

線のゆらぎについて

● 機構上、用紙幅方向の直線での一部で、ゆらぎが発生する場合があります。

さくいん

記号・英数

CentreWare Internet Services 207, 233
画面構成 210
起動する 209
使うための設定 208
CentreWare Internet Servicesのトラブル 316
DocuWorksセキュリティ 156
EPシステム 433, 435
ICカード認証/解除 64
IPアドレス 248
IPv4 - アドレス設定（仕様設定） 402
IPv6 - アドレス設定（仕様設定） 402
PDFセキュリティ 155
SSL/TLS設定（ネットワーク設定） 406
TWAIN対応アプリケーション 226
USBコネクター 21
User ID認証/解除 62
Uターンガイド 21

あ

赤黒コピー 82
赤黒スキャン 152
赤トナーを補給する 50
アテンションライトの設定（共通設定） 382
暗号化（スキャン） 153

い

色別濃度調整（コピー） 84, 120
色別濃度調整（スキャン） 182
インターフェイスカバー 21

え

エラーメッセージ 317
エラーランプ 29

お

オートモードの回転方向設定（コピー設定） 395
オートモードの用紙種類設定（コピー設定） 394
音の設定（共通設定） 379
オプションインターフェイス コネクター 21
オプション製品 445
折り幅の設定 294

か

解像度（スキャン） 163
各部の名称と働き 20
画質/ファイルサイズ 192
画質設定メモリー（コピー） 121, 198
画質設定メモリー（スキャン） 183, 198
画質のトラブル 304
画像欠け幅 438
片側全体折り 298
折り幅を確認する 298
調整値を設定する 298
カット紙の補給/交換 40
下部ドア 24
紙折り 286
紙折り（コピー） 92, 131
紙折り（フォルダー） 285, 289
紙折りの設定（コピー設定） 395
紙折りの調整 290
紙づまり
上部ユニットでの紙づまり 327
第二折り部での紙づまり 343
調整部での紙づまり 345
定着部での紙づまり 330
手差しテーブルでの紙づまり 327
搬送部での紙づまり 341
ファン折り部または第一折り部での紙づまり 336
フォルダートレイでの紙づまり 335
フォルダーの排出部での紙づまり 347
プリンター接続部とファン折り部以降にまたがった紙づまり 349
プリンターとフォルダーの接続部での紙づまり 333
プリンター排出口での紙づまり 332
用紙が詰まった場合 321
用紙トレイでの紙づまり 325, 326
ロール紙トレイでの紙づまり 323
紙づまりのトラブル 309
画面の明るさを調整する 35
画面の表示 31
画面/ボタンの設定（共通設定） 380
自動リセット後の画面 380
初期表示画面 380
登録1～3ボタン 380
カラーモード（スキャン） 162
カラーモード（コピー） 106, 108

き

機械確認 56
機械管理者情報の設定
(認証/セキュリティ設定) 419
　機械管理者ID 419
　機械管理者パスワード 420
機械管理者モード 368, 372
機械状態/レポート出力 57
機械確認ボタン 30
機械本体のトラブル 303
機能ボタン 32
鏡像 128
共通設定 377

く

クリア（C）ボタン 30
クロス折り 288
黒トナーを補給する 48

け

原稿厚調整レバー 21
原稿ガイド 21
原稿が詰まった場合 353
原稿カバー 21
原稿後方収容トレイ 21
原稿上の指定した色を変える 84
〈原稿スタート〉ボタン 22
原稿ストックトレイ 22
〈原稿ストップ〉ボタン 21
原稿テーブル 21
原稿取り扱い上の注意事項 66
原稿について 66
原稿の搬送を中止する 78
原稿の画質（スキャン） 164
原稿の画質（コピー） 115
原稿幅 86, 123
原稿枚数カウンター 21
原稿読み取り速度（コピー） 129
原稿読み取り速度（スキャン） 190

こ

後端ずれ 296
　確認する 296
　調整値を設定する 296
コピー 73
コピー（オートモード） 103
コピー（マニュアルモード） 107
コピー位置 124
コピー -［画質調整］ 114
コピー機能での注意/制限 449
　オートモードの用紙サイズの制限 449
　右側へのコピー位置の制限 450
　左側へのコピー位置の制限 449
コピー機能の初期設定（コピー設定） 391
コピー -［出力形式］ 130
コピーする用紙を選択する 110
コピー設定 390
コピー操作の流れ 74
コピー濃度 116
コピーのトラブル 311
コピー -［読み取り方法］ 122
コピーを中止する 78, 79
コントラスト（コピー） 117
コントラスト（スキャン） 179

さ

サーバー（PC保存宛先） 242
サンプルコピー 98, 140

し

地色除去（コピー） 118
地色除去（スキャン） 180
システム時計/タイマー設定（共通設定） 378
　システム時計 378
　自動リセット 378
　節電モード移行時間 378
実行完了ジョブの表示設定
(認証/セキュリティ設定) 429
シャープネス（コピー） 117
シャープネス（スキャン） 179
出力ファイル形式 166
　DocuWorksセキュリティ 170
　PDFセキュリティ 168
　PDFセキュリティ -権限 169
主電源スイッチ 22
主電源ランプ 29

仕様 438
コピー機能 439
コピー倍率一覧表 443
スキャン機能 441
定形サイズ 443
フォルダー（オプション） 442
プリント機能 440
詳細設定（共通設定） 386
詳細設定（コピー設定） 398
詳細設定（スキャナー設定） 411
詳細設定（プリンター設定） 418
仕様設定 368
使用できる原稿 66
上部カバー 24
上部ドア 24
上部ドア1 24
消耗品 46
消耗品の確認 59
消耗品を交換する 46
ジョブ確認ボタン 30
ジョブメモリー 198
ジョブメモリーの名称を登録する 203
ジョブメモリーの名称を変更する 203
ジョブメモリーを削除する 202
ジョブメモリーを登録する 200
ジョブメモリーを呼び出す 204
ジョブリカバリー方法（プリンター設定） 415
仕分け（コピー） 94, 133
親展プリント 216
セキュリティープリント 216
プライベートプリント 216
親展ボックス
文書を確認/削除 161
親展ボックスビューワー3 229
親展ボックス（ボックス保存宛先） 240

す

数字ボタン 30
スキャナー（PC保存） 144, 171
スキャナー（ボックス保存） 144, 160
スキャナー（マルチ送信） 145, 174
スキャナー（PC保存）の設定 250
スキャナー＆コピー 194
スキャナー -［画質調整］ 177
スキャナー＆コピー機能での注意/制限 454
原稿サイズと用紙サイズが異なる場合 454
スキャナー＆コピーの動作 454
スキャン画像とコピー出力 456
スキャン画像の余白 456
不正な処理を行ってDW-Scan V Serviceが
強制終了した場合 454
スキャナー＆コピー機能の初期値設定
（スキャナー＆コピー設定） 412
スキャナー＆コピー設定 412
スキャナー -［出力形式］ 191
スキャナー設定 408
スキャナーのトラブル 312
スキャンデータをコンピューターに
取り込めない 313
スキャンデータをネットワーク転送できない 314
本機でスキャンできない 312
スキャナー（ボックス保存）の設定 249
スキャナー -［読み取り方法］ 184
スキャン 144
スキャン機能での注意/制限 450
作成されるDocuWorks文書のサイズ 452
作成される赤黒TIFFファイル 451
作成されるスキャンデータのファイルサイズ 451
スキャナー（ボックス保存） 452
スキャナー（マルチ送信） 452
スキャン最大長 450
スキャン機能の初期設定（スキャナー設定） 409
スキャン機能の設定 249
スキャンデータ 226
スキャンを中止する 149
スタートボタン 30
スタイラスペン 21
スタイラスペンホルダー 21
スタッカー 24
スタンプ位置自動時の設定（コピー設定） 397
スタンプ（コピー） 135
スタンプデータ管理者情報の設定
（認証/セキュリティ設定） 421
スタンプデータ管理者ID 421
スタンプデータ管理者パスワード 421
スタンプ日付書式の設定（コピー設定） 396
スタンプを付けてコピー 96
ストッパー 24
ストップボタン 30
スリープモード 27

せ

清掃 53
セキュリティープリント 216
節電機能 27
節電状態にする 27
節電状態を解除する 28
節電ボタン 30
センタードア 24
全体折り 297
　折り幅を確認する 297
　調整値を設定する 297
先端後端余白 138

そ

ソート 94
操作パネル 21, 29
その他の設定（共通設定） 384
　宛先表登録/変更の制限 386
　原稿サイズ検知切り替え 384
　原稿読み込み開始方法 384
　ソフトウェアダウンロード 386
　データの暗号化 385
その他の設定（スキャナー設定） 411
　TIFFの形式 411
　マルチ送信プリンター転送フォーマット 411
その他の設定（プリンター設定） 416

た

第一折りの調整 294
第一折りの調整値を設定する 294
第二折りの調整 294
第二折りの調整値を設定する 295
ダイレクトスキャン 235
タッチパネルディスプレイ 29

ち

注意/制限事項 448
　機械操作上の注意点 448
　電源を切るときの注意点 448
　本機の設置/移動について 448
中間調の振り分け（コピー） 119
中間調の振り分け（スキャン） 181
調整値 290

つ

追加コピー 100

て

データフォーマット 213
データランプ 29
低電力モード 27
手差し給紙方法 41
手差しコピー 88
手差しテーブル 22
点検/修理依頼 433
電源スイッチ（プリンター） 22
電源ブレーカー（スキャナー） 21
電源ブレーカー（プリンター） 23
電源を入れる 25
電源を切る 26

と

登録1ボタン 30
登録2ボタン 30
登録3ボタン 30
ドキュメントキャリア（オプション）を
使用する原稿 66
トナー増量ボタン 65
トラブル 302
　CentreWare Internet Services 316
　画質 304
　紙づまり 309
　機械本体 303
　コピー 311
　スキャナー 312
　プリンター 315
トラブル対処 301
トレイ操作パネル 23

に

任意長の設定（コピー設定） 393
認証 256
　ICカード認証/解除 64
　User ID認証/解除 62
　外部認証の運用 273
　認証システムの設定（仕様設定） 404
　認証の設定（仕様設定） 422
　本体認証の運用 263
認証/セキュリティ設定 419
認証の設定（認証/セキュリティ設定） 422
　機械管理者認証の上限 426
認証ボタン 30

ね

ネガポジ 128
ネットワーク設定 399

は

ハードディスクの上書き消去設定
(認証/セキュリティ設定) 431
　上書き回数の設定 431
排出口（フォルダー） 24
排出口（プリンター） 23
配布パターン 239
倍率選択（コピー） 108

ふ

ファン折り 286
フォルダー操作パネル 24
フォルダー操作パネルの名称と働き 289
フォルダートレイ 24
複数枚の原稿を1つのファイルとして
スキャンする 157
プライベートプリント 216
ブラウザー 208
プリセットボタンの設定（コピー設定） 391
プリセットボタンの設定（スキャナー設定） 408
プリンター設定 415
プリンター操作パネル 23
プリンタードライバーを使用してプリントする 214
プリントトレイ 22
プリンターのトラブル 315
プリンター（マルチ送信宛先用） 244
プリント 212
　準備 213
　データフォーマット 213
プリント機能 212
プリント機能での注意/制限 457
　コピー/スキャン操作中のプリント 457
　スキャナー＆コピー操作中のプリント 458
プリントを中止する 215
フルカラースキャン 151
プレビュー 153
プロキシサーバー 208
プロトコル設定（ネットワーク設定） 401
フロントドア 23, 24

へ

ペーパーヒーター 70
　電源を入れる 70

ほ

ポート設定（ネットワーク設定） 400
ポート番号 209
保守（共通設定） 383
　ソフトウェアオプションの設定 383
　データの一括削除 383
保守サービス 447
補助機能ボタン 34
保存文書設定 413
ボタンの表示 31
本機使用上の注意/制限 448
本機を清掃する 53

ま

マルチジョブメモリー 198
マルチジョブメモリー（コピー） 139
マルチ送信宛先（グループ宛先） 245

み

耳折り 287

め

メーター確認 44
メッセージエリア 32
メニュー画面 32
メニューボタン 30

も

文字の入力方法 36

よ

用紙加湿器 23, 70
　給水する 71
　電源を入れる 70
用紙カット方法（コピー） 112
用紙が詰まった場合 321
用紙サイズを指定して
コピーする（オートモード） 80
用紙選択（コピー） 110
用紙トレイ 23

用紙について 67
紙折りできる用紙 68
使用できない用紙 68
用紙の種類 67
用紙の取り扱いと保管 69
用紙の補給/交換 37
読み込み濃度 178
読み取り色範囲指定（共通設定） 381
読み取り開始位置（コピー） 126
読み取り開始位置（スキャン） 189
読み取りサイズ（スキャン） 186
読み取り倍率（スキャン） 185

り

リセットボタン 30

ろ

ロール紙トレイ（下段） 23
ロール紙トレイ（上段） 23
ロール紙の交換/カット 37
ロアードア 23

わ

わく消し（コピー） 127
わく消し（スキャン） 188
割り込み（コピー） 102
割り込み（スキャン） 159
割り込みボタン 30

困った！が解決しないときは

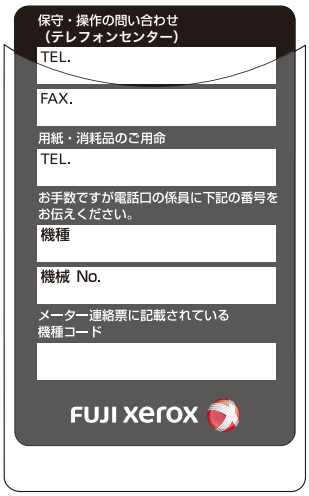
保守・操作・修理（内容・期間・費用など）のお問い合わせ、消耗品のご注文は、カストマーコンタクトセンター、または販売店にご連絡ください。

電話番号は、プリンター本体に貼付のカードやシールに書かれています。

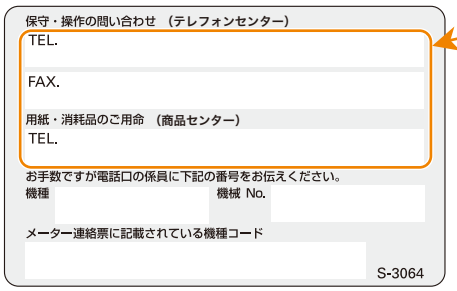
受付時間　土曜、日曜、祝日を除く **9時 ～ 17時30分**（一部の地域では異なります）

電話番号　プリンター本体の **貼付カード** をご確認ください。

カードの例 ❶



ここに書いてあります



電話番号

カードの例 ❷

- カードは、名刺くらいの大きさです。
- 色やイメージが、イラストと異なる場合もあります。
- 問い合わせ先がわからない場合は、お客様相談センターで電話番号を確認してください。

- 本機を廃棄する場合は、弊社の営業担当者にご連絡ください。

ご意見やご相談の受付窓口

お客様相談センター　電話：0120-27-4100（通話料無料）
FAX：0120-05-5035（通話料無料）

- フリーダイヤルは、海外からはご利用いただけません。また、一部のIP電話からはつながらない場合があります。

土、日、祝日および弊社指定休業日を除く　9時～12時、13時～17時
お話の内容を正確に把握するため、また後に対応状況を確認するため、通話を録音させていただくことがあります。

商品全般に関する情報

公式サイト　URL http://www.fujixerox.co.jp/

- 商品全般に関する情報、最新ソフトウェアなどを提供しています。

DocuWide 9098α ユーザーズガイド

著作者 － 富士ゼロックス株式会社
発行者 － 富士ゼロックス株式会社

発行年月－　2019年9月　第1版
ME8769J1-1